社会資本に関するインターネット調査 2021

報告書＜参考資料＞

2021 年 11 月

（一財）国土技術研究センター

国土政策研究所

目　次

調査概要等……2
調査分析の視点……5
調査票……6
調査結果のポイント……27

全体分析／属性分析……29
1．社会・生活の動向に関する意識・態度……30
2．社会・生活の動向に対する重要度……45
3．社会・生活空間、国土に関する評価……63
4．社会資本具体分野別の充足度評価、推進意向……77
5．社会資本の状況に関する全体評価……114
6．社会資本の維持管理・更新に関する認知・理解・評価……119
7．社会資本整備のあり方、保全・整備の進め方に関する評価……129
8．アメリカやヨーロッパ諸国での道路等のインフラ投資を増大させる動きに関する認知……165
9．災害が発生し易い日本の過酷な自然条件、それに伴う施設整備費用増加に関する認知……170
10．国家予算　費目別　今後の増減評価……175
11．あなたの住む地域と日本の将来（予測となるべき姿）……178

相関分析……203

将来に関する自由記述設問の分析……248

属性（フェイスシート）……262

社会資本に関するインターネット調査 2021 調査概要等

1. 調査概要

(1)調査の目的

近年の社会情勢の変化を踏まえ、国民の社会資本に対する認識、理解、評価の実態とその理由を明らかにするために JICE が土木学会と連携し、社会資本に関するインターネット調査を実施する。また、2017 年度に実施した同じ主旨の調査との比較や分析も実施し、近年の社会情勢の変化によるインフラに関する国民意識の変化なども把握する。更には、社会資本の保全・整備を進めるにあたっての論点・留意点を明確にし、社会資本に関する認知・関心を高め、健全な議論の契機となることを期待する。

(2)調査対象者 ： 全国 18 歳～79 歳男女

(3)サンプル数 ： 3,000 人

(4)調査期間 ： 2021 年 4 月 27 日（火）～5 月 6 日（木）
※前回調査は 2017.4.29～5.10 に実施、（２）、（３）、（５）は今回と同様

(5)調査方法 ： 登録モニターによるインターネット調査

(6)調査項目

１．社会・生活の動向に関する意識・態度
２．社会・生活に関する考え方
３．社会・生活空間、国土に関する評価／重要度
４．社会資本具体分野別の充足度評価、推進意向
５．社会資本の状況に関する全体評価
６．社会資本の維持管理・更新に関する認知・理解・評価
７．社会資本整備のあり方、保全・整備の進め方に関する評価等
８．国家予算　費目別　今後の増減評価
９．日本とあなたの住む地域の将来（予測となるべき姿）
１０.属性（フェイスシート）

(7)実施体制

設問・分析等に関する助言を頂くため、以下メンバーによる有識者委員会を設置。

石田　東生　一般財団法人　国土技術研究センター　国土政策研究所　所長
大原　美保　国立研究開発法人　土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター主任研究員
川﨑　茂信　一般財団法人　国土技術研究センター　理事
神田　佑亮　呉工業高等専門学校　環境都市工学分野　教授
谷口　博昭　公益社団法人　土木学会　会長
塚田　幸広　公益社団法人　土木学会　専務理事
松永　康男　一般財団法人　みなと総合研究財団　専務理事
湧川　勝己　東京建設コンサルタント　河川計画本部　技師長

2. 調査の特徴

- 全国 3,000 サンプル、各都道府県の人口割合を踏まえたサンプル割付、性・年齢はブロック内で均等割付。
- 3,000 と多数のサンプルを確保したため、ブロック別、都市規模別、性、年齢別などの集計・分析が可能。
- 社会資本についてだけでなく、その評価の背景となる社会・生活の動向に関する意識・価値観及び日本、居住地域の将来(なりそうな姿、なるべき姿)について質問したため、それらと社会資本の関係の分析が可能。
- 2017 年にも同様の調査を実施。前回調査と今回調査の結果を比較することにより、国民意識の変化の把握が可能。

3. 公表状況等

今回の調査の公表状況等は以下の通り。

(1) 報告書等を JICE の HP(https://www.jice.or.jp/labs/infra_internet_survey_2021)に掲載。

(2) 研究者・研究機関等が新たに分析等を実施できる形で調査結果のアンケート回答のローデータも公表(上記 HP に掲載)。

(3) 今後、JICE では上記ローデータ等を活用した、今後の社会資本のあり方に関する懸賞論文を実施する予定(募集開始 ： 令和4年3月頃を予定)。

(4) 本調査は土木学会と連携して実施しており、調査の結果は、土木学会で今後行われる「コロナ後の”土木”のビッグピクチャー」に関する検討でも活用される予定。

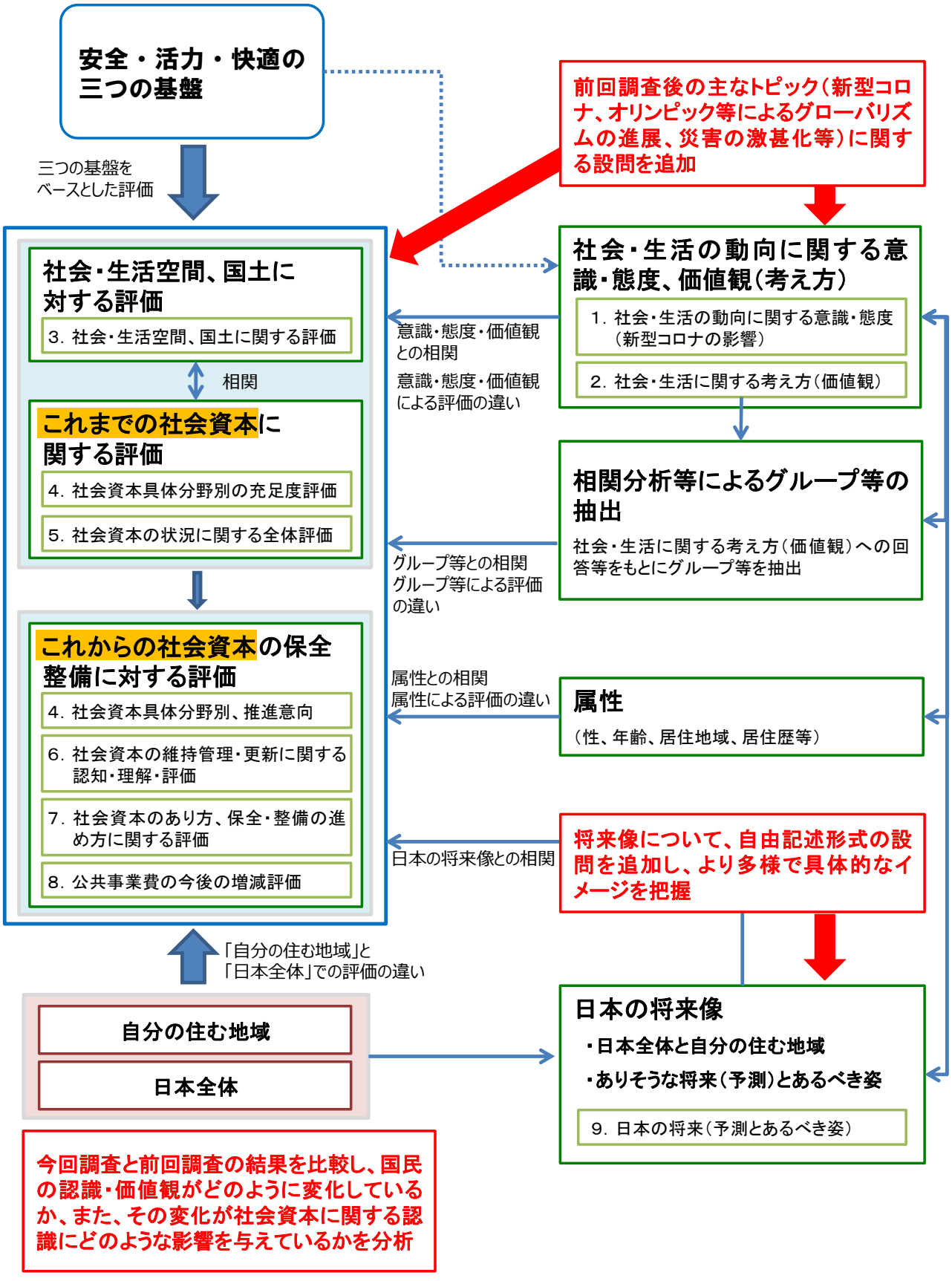
割付

データ出所：人口推計2019年

	人口総数（単位：千人）	人口比率	人口比によるサンプル仮設定数	男女×10歳階級年齢　別　サンプル設定数　（均等割付）										地域ﾌﾞﾛｯｸサンプル設定数
				男性20代	男性30代	男性40代	男性50代	男性60代	女性20代	女性30代	女性40代	女性50代	女性60代	
全　国	126,167	100.0	3000	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	3000
北海道ブロック			125	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	120
北海道	5,250	4.2	125	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	
東北ブロック			206	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	210
青森県	1,246	1.0	30	1	6	2	5	4	2	1	2	3	2	
岩手県	1,227	1.0	29	2	0	4	3	1	2	4	2	4	2	
宮城県	2,306	1.8	55	7	7	7	5	8	9	6	8	7	6	
秋田県	966	0.8	23	1	1	3	2	5	3	4	4	0	2	
山形県	1,078	0.9	26	5	5	0	2	3	2	2	1	2	1	
福島県	1,846	1.5	44	5	2	5	4	0	3	4	4	5	8	
関東ブロック			1101	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	1070
茨城県	2,860	2.3	68	3	2	1	3	3	6	6	5	6	3	
栃木県	1,934	1.5	46	2	0	4	2	3	3	1	3	2	3	
群馬県	1,942	1.5	46	3	4	1	1	4	7	4	4	2	0	
埼玉県	7,350	5.8	175	13	16	11	18	21	17	18	13	15	18	
千葉県	6,259	5.0	149	16	15	21	15	12	11	11	10	16	13	
東京都	13,921	11.0	331	41	44	39	45	31	38	42	49	43	42	
神奈川県	9,198	7.3	219	24	20	22	20	29	21	18	21	19	24	
山梨県	811	0.6	19	1	1	2	1	0	2	3	0	0	1	
長野県	2,049	1.6	49	4	5	6	2	4	2	4	2	4	3	
北陸ブロック			105	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	120
新潟県	2,223	1.8	53	7	6	4	7	8	6	6	6	5	7	
富山県	1,044	0.8	25	1	3	5	1	2	2	3	2	2	1	
石川県	1,138	0.9	27	4	3	3	4	2	4	3	4	5	4	
中部ブロック			356	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	360
岐阜県	1,987	1.6	47	4	1	8	8	3	3	5	5	3	4	
静岡県	3,644	2.9	87	4	13	5	7	6	7	4	3	9	11	
愛知県	7,552	6.0	180	23	20	21	20	20	22	23	22	24	19	
三重県	1,781	1.4	42	5	2	2	1	7	4	4	6	0	2	
近畿ブロック			506	51	51	51	51	51	51	51	51	51	51	510
滋賀県	1,414	1.1	34	4	0	3	1	1	2	2	5	2	2	
京都府	2,583	2.0	61	12	3	9	7	5	4	3	4	5	6	
大阪府	8,809	7.0	209	22	23	26	23	22	26	26	19	25	23	
兵庫県	5,466	4.3	130	6	15	10	15	14	12	14	14	13	13	
奈良県	1,330	1.1	32	5	4	2	3	6	2	2	6	4	2	
和歌山県	925	0.7	22	2	3	1	2	1	2	4	0	1	1	
福井県	768	0.6	18	0	3	0	0	2	3	0	3	1	4	
中国ブロック			173	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	180
鳥取県	556	0.4	13	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	
島根県	674	0.5	16	3	3	0	3	2	2	2	0	1	0	
岡山県	1,890	1.5	45	5	4	5	7	4	4	9	2	4	7	
広島県	2,804	2.2	67	7	5	8	5	10	9	3	11	8	7	
山口県	1,358	1.1	32	2	5	3	2	1	2	3	4	4	3	
四国ブロック			88	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	100
徳島県	728	0.6	17	2	5	2	1	0	4	0	2	2	3	
香川県	956	0.8	23	3	3	2	6	2	1	6	2	1	4	
愛媛県	1,339	1.1	32	5	2	4	1	5	3	3	5	6	2	
高知県	698	0.6	17	0	0	2	2	3	2	1	1	1	1	
九州ブロック			304	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	300
福岡県	5,104	4.0	121	13	17	12	16	16	14	16	16	17	15	
佐賀県	815	0.6	19	2	2	3	1	3	3	3	1	0	1	
長崎県	1,327	1.1	32	5	2	5	4	4	2	2	2	3	1	
熊本県	1,748	1.4	42	3	3	2	1	2	6	1	5	2	6	
大分県	1,135	0.9	27	2	1	3	2	3	2	3	2	5	3	
宮崎県	1,073	0.9	26	0	1	0	1	2	1	3	0	2	1	
鹿児島県	1,602	1.3	38	5	4	5	5	0	2	2	4	1	3	
沖縄ブロック			35	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	30
沖縄県	1,453	1.2	35	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	

調査・分析の視点

赤字：2021 調査での追加事項



社会資本に関するインターネット調査 2021　調査票

調査ご協力のお願い

私たちの生活にとって、河川の堤防、道路や橋梁、鉄道、水道などのインフラ（社会資本）は、極めて重要な役割を果たしています。

本調査は、このインフラ（社会資本）の保全整備について、みなさまの意見、評価を伺うために行われるものです。調査結果は、これからのインフラ（社会資本）の保全整備のあり方を考える研究に用いるとともに、今後の政策提言の基礎データとして活用します。個人情報が公開されることはございませんので、ご協力をいただけますようお願いいたします。

国土技術研究センター

1. 社会・生活の動向に関する意識・態度

■社会・生活に対する不安についてお伺いします。

Q1.

Q1-1.各々の項目について「自分自身や家族の周りや地域のこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。（それぞれひとつだけ）

Q1-2.各々の項目について「日本全体や社会のこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。（それぞれひとつだけ）

※先ほどは「自分・家族・地域」について伺いました。今度は「日本全体や社会のこと」についてお答えください。

	自分自身（家族）の周りのこととして起こる不安					日本全体、社会のこととして起こる不安				
	1. 非常に不安を感じる	2. 不安を感じる	3. どちらともいえない	4. 不安は感じない	5. 全く不安は感じない	1. 非常に不安を感じる	2. 不安を感じる	3. どちらともいえない	4. 不安は感じない	5. 全く不安は感じない
●安全・安心										
ア） 気候変動等に伴い、水害・台風などの災害の規模が大きくなり、頻度が増える	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
イ） 南海トラフ、首都圏直下型などの大地震が起こる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ウ） 世界の食料事情が厳しくなり、食料の供給・安全性に不安が生じる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
エ） 世界のエネルギー事情が厳しくなり、エネルギー供給に不安が生じる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
オ） 温暖化、酸性雨などの地球温暖化問題が進行する	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
カ） テロ、戦争が発生する	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
キ） 治安が悪化し、犯罪が増加する	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ク） 原発事故、放射性物質による汚染が広がる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ケ） 交通事故、飛行機事故に遭う	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
コ） 新型コロナウイルスなどの感染症により、社会・経済・生活活動が停滞、破綻する	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
●活力・交流										
サ） 世界の経済状況が悪化する	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
シ） 日本の経済成長、景気が悪化する	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ス） 日本社会での経済等の格差が拡大する	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
セ） 人口減少・少子化・高齢化が進行する	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ソ） 地域間格差が拡大（東京一極集中、地方の疲弊）する	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
タ） 地域間や都市間の移動・交流を支える公共交通がなくなる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
チ） 効率性、採算性のよいインフラ（社会資本）しか維持されなくなる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
●心豊かな暮らし										
ツ） 自然・景観が損なわれる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
テ） 子育て、教育などの環境が悪くなる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ト） 空き家が増えるなどで生活環境が悪化する	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ナ） 買物や通勤・通学などの地域内の日常的な移動・交流を支える公共交通がなくなる	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ニ） 伝統ある地域文化が衰退する	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
ヌ） 地域社会（コミュニティ）が衰退する	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

Q2. 安全で活力ある快適な暮らしをする上で、あなたは次の各項目について重要だと思いますか。(それぞれひとつだけ)

	1. 非常に重要	2. 重要	3. 重要度は低い	4. わからない
●安全・安心				
ア) 気候変動等に伴い、規模が大きくなり頻度の増えた水害・台風などの災害から護られること	1	2	3	4
イ) 南海トラフ、首都圏直下型などの大地震から護られること	1	2	3	4
ウ) エネルギーが安定的に供給されること	1	2	3	4
エ) 地球温暖化が進まないようにすること	1	2	3	4
オ) 食品の供給や安全性を確保すること	1	2	3	4
カ) テロ、戦争が起きないようにすること	1	2	3	4
キ) 治安を維持し、犯罪を防ぐこと	1	2	3	4
ク) 原発事故等を起こさないようにすること	1	2	3	4
ケ) 交通事故、飛行機事故を防ぐこと	1	2	3	4
●活力・交流				
コ) 強い国際競争力が保持されること	1	2	3	4
サ) 活力ある日本の経済が保持されること	1	2	3	4
シ) 活力ある地域の社会が保持されること	1	2	3	4
ス) 技術革新の進展、技術革新の展開がなされること	1	2	3	4
セ) 観光振興がなされ、他地域や外国から多くの人が訪れること	1	2	3	4
ソ) 地域間や都市間を円滑に人や物が移動できること	1	2	3	4
タ) もっと便利で効率的に情報交換(入手)ができるための情報基盤(通信ネットワークやコンテンツなど)が整備されること	1	2	3	4
チ) 雇用が維持され、収入が確保されること	1	2	3	4
ツ) インフラ(社会資本)の保全により、経済や社会の効率・活力を高めること	1	2	3	4
テ) 外国人観光客・労働者の増加などに伴うグローバル化に対応すること	1	2	3	4
●心豊かな暮らし				
ト) 家族が心豊かに快適に暮らせること	1	2	3	4
ナ) 自分や家族が健康であること	1	2	3	4
ニ) 自分や家族の仕事が充実していること	1	2	3	4
ヌ) 生活に必要な収入が確保されること	1	2	3	4
ネ) 医療・福祉体制が充実していること	1	2	3	4
ノ) 子育てや教育の環境が充実していること	1	2	3	4
ハ) 相互に助け合う地域社会が維持されること	1	2	3	4
ヒ) 快適で美しい街並みや居住環境が保持、形成されること	1	2	3	4
フ) 資源・エネルギーの再利用や CO_2 の削減等がなされ脱炭素社会が構築されること	1	2	3	4
ヘ) 人と自然が共生する生活を送れること	1	2	3	4
ホ) 地域の人々が快適で便利な社会生活を送れること	1	2	3	4

2. 社会・生活に関する考え方等

■社会・生活に関する考え方等についてお伺いします。

Q3.　あなたご自身は、社会・生活において、どのような考えをお持ちですか。（それぞれひとつだけ）

	1 非常にそう思う	2 そう思う	3 どちらともいえない	4 そう思わない	5 全くそう思わない
(1)環境意識・自然意識					
ア） 地球環境に優しい生活をしたい	1	2	3	4	5
(2)仕事と暮らし					
イ） 厳しい仕事でも高収入であれば良い	1	2	3	4	5
ウ） 仕事に打ち込み、会社で出世することは良いことだ	1	2	3	4	5
エ） 仕事よりも友人、家族等を大切にする暮らしにしたい	1	2	3	4	5
(3)居住地意向					
オ） 利便性の高い都市部、都市中心部で暮らしたい	1	2	3	4	5
カ） 地方部や田舎で、自然・景観に恵まれた暮らしをしたい	1	2	3	4	5
(4)社会参加・参画意向					
キ） 地域の活動には積極的に参加したい	1	2	3	4	5
ク） 政治、社会の動向に関心が高い方だ	1	2	3	4	5
ケ） ボランティア活動など、社会に貢献する活動に取り組みたい	1	2	3	4	5
コ） 隣人との付き合いは大事にしていくべきだ	1	2	3	4	5
(5)負担／公私の役割					
サ） 安心・安定した生活、社会のため税金などの公的負担をするのは当然だ	1	2	3	4	5
シ） 自分の望む公的サービスをより充実させるためならば、税金・料金などの負担を増やしてもよい	1	2	3	4	5
ス） 年金・医療制度をきちんと運営し、必要であればもっと負担をしてもよい	1	2	3	4	5
セ） 自分の生活は個々が守るべきで、できるだけ国など「公」は介入すべきでない	1	2	3	4	5
(6)効率・公平・格差					
ソ） 今の世の中は効率が重視され過ぎて、公平性が損なわれ、格差が拡大している	1	2	3	4	5
タ） 質の高い暮らしを確保するためにも、もっと効率を上げる必要がある	1	2	3	4	5
(7)家族・子育て					
チ） 男性が家事や育児に今より積極的に参加できるようにするなど、女性がもっと社会進出、社会参加できる仕組みを作るべきだ	1	2	3	4	5
(8)収入予測					
ツ） 今後、自分や家族の収入は増えていく	1	2	3	4	5
(9)安全・安心					
テ） 安全・安心は全ての基盤なので、他のことより重視すべきだ	1	2	3	4	5
ト） 地域の防災訓練等があればできるだけ参加すべきだ	1	2	3	4	5
(10)技術革新、便利な生活					
ナ） ITなど新たな技術で生活や社会が便利になるのは良いことだ	1	2	3	4	5
ニ） 新たな技術や製品に追いついていけないことがあるのが心配だ	1	2	3	4	5

Q3-1.新型コロナウイルス感染症の発生を受けて、あなたご自身にどのような変化がありましたか？（該当するものすべて選択ください）

1. テレワーク等の普及により、通勤時間が減るなどし、余暇の過ごし方が充実した
2. 仕事が減り（もしくは失業し）、生活が苦しくなった
3. 旅行、外食、買い物などで外出する機会が減った
4. 家族とのコミュニケーションが増え、繋がりが強まった
5. 友人や知人などとのコミュニケーションが減り、繋がりが弱まった
6. 対面での会合・コミュニケーションや外出が減少し、学習や情報を得る機会が減った
7. 自分・家族・知人の健康や医療体制に対する不安が強くなった
8. 感染症等を含めた自然災害等のリスクを軽減するため、生活拠点を都市部以外としたいと考えるようになった
9. 変化がない
10. その他（　　）

3. 社会・生活空間、国土に関する評価

■地域・日本の社会や国土に対する捉え方についてお伺いします。

Q4. 自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土が形成されていると思いますか。（○は一つずつ）

【あなたの生活する地域・空間では】

1. 非常にそうなっている	3. どちらともいえない	4. あまりそうなっていない
2. まあそうなっている		5. そうなっていない

【日本全体では】

1. 非常にそうなっている	3. どちらともいえない	4. あまりそうなっていない
2. まあそうなっている		5. そうなっていない

Q4-1. 将来的に、自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。（○は一つ）

1. 非常に重要	3. どちらともいえない	4. 重要度は低い
2. 重要		5. 全く重要ではない

Q5. 人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土が形成されていると思いますか。（○は一つずつ）

【あなたの生活する地域・空間では】

1. 非常にそうなっている	3. どちらともいえない	4. あまりそうなっていない
2. まあそうなっている		5. そうなっていない

【日本全体では】

1. 非常にそうなっている	3. どちらともいえない	4. あまりそうなっていない
2. まあそうなっている		5. そうなっていない

Q5-1. 将来的に、人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。（○は一つ）

1. 非常に重要	3. どちらともいえない	4. 重要度は低い
2. 重要		5. 全く重要ではない

Q6. 心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土が形成されていると思いますか。（〇は一つずつ）

【あなたの生活する地域・空間では】

1. 非常にそうなっている	3. どちらともいえない	4. あまりそうなっていない
2. まあそうなっている		5. そうなっていない

【日本全体では】

1. 非常にそうなっている	3. どちらともいえない	4. あまりそうなっていない
2. まあそうなっている		5. そうなっていない

Q6-1. 将来的に、心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。（〇は一つ）

1. 非常に重要	3. どちらともいえない	4. 重要度は低い
2. 重要		5. 全く重要ではない

4. 社会資本具体分野別の充足度評価、推進意向

■地域・日本のインフラ（社会資本）についてお伺いします。

Q7.　Q7-1.「あなたの住む地域」について、次のインフラ（社会資本）は充足していると思いますか。（それぞれひとつだけ）

※「あなたの住む地域」に該当しないと思われる場合は「どちらとも言えない」を選択ください。

Q7-2.「日本全体」について、次のインフラ（社会資本）は充足していると思いますか。（それぞれひとつだけ）

※先ほどは「あなたの住む地域」について伺いました。今度は「日本全体」についてお答えください。

	あなたの住む地域						日本全体					
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
	非常に充足している	充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	ほとんど充足していない	わからない	非常に充足している	充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	ほとんど充足していない	わからない
①安全・安心												
ア）水害などを防ぐ河川の施設	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
イ）海岸浸食や高潮を防ぐ海岸施設	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
ウ）震災時の緊急輸送となる「命の道」としての高速道路や幹線道路	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
エ）浸水や地震、火災等の災害への配慮がなされた安全性の高い街	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
オ）災害、避難に関する情報などを効率的に収集・活用できる環境の整備（通信ネットワークやコンテンツの整備など）	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
カ）安全が確保された通学路、安全が確保された歩道	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
②活力・交流												
キ）都道府県を越えた人の移動や物流を支える広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
ク）道路交通の円滑化、効率化を実施するETCなどの設備	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
ケ）都道府県を越えた人の移動や物流を支える広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
コ）都市機能を高める（移動時間の短縮や避難・復旧を迅速化する）環状道路や放射状の道路	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
サ）グローバル化に対応した国際ハブ空港	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
シ）日本内外の遠隔地との交流を実現する空港・港湾	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
ス）グローバル化に対応した効率的な国際物流ネットワークを形成する港湾（大水深コンテナターミナルの整備など）	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
セ）人の移動や交流を支える交通機関の連携した総合的な交通ネットワーク	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
ソ）日常生活や経済活動を支える物流網	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
タ）都市間や地域間の交流を促す情報（観光や交流イベントに関する情報など）を効率的に収集・活用できる環境の整備（通信ネットワークやコンテンツの整備など）	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
チ）中心市街地を活性化する都市整備	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6

③心豊かな暮らし												
ツ) 日常の移動を支える地域の道路	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
テ) 日常の移動を支える地域の交通機関(鉄道、バス)	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
ト) 公園・緑地、スポーツレクレーション施設	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
ナ) 医療、福祉、子育て、教育文化施設	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
ニ) 安全でおいしい水を供給する上水道	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
ヌ) 下水道などの汚水処理施設	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
ネ) 恵まれた自然景観	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
ノ) 脱炭素社会※1を実現するための社会基盤	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
ハ) 質の高い居住・生活空間	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
ヒ) 生活を快適にする道路利用(規制緩和等によるカフェでの利用など)や景観を良くするための無電柱化	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
フ) 快適な生活のために必要な情報(交通渋滞や公共サービスに関する情報など)を効率的に収集・活用できる環境の整備(通信ネットワークやコンテンツの整備など)	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6

※1：脱炭素社会（カーボンニュートラル）とは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量から、森林などによる吸収量を差し引いてゼロを達成する社会のこと。脱炭素社会実現のための施策の例として、再生可能エネルギーの活用、電動自動車への転換などがあげられる。

Q7-3.「あなたの住む地域」について、インフラ（社会資本）のそれぞれについてどの程度充足・整備していくべきと思いますか。（それぞれひとつだけ）

※「あなたの住む地域」に該当しないと思われる場合は「どちらとも言えない」を選択ください。

Q7-4.「日本全体」について、インフラ（社会資本）のそれぞれについてどの程度充足・整備していくべきと思いますか。（それぞれひとつだけ）

	あなたの住む地域			日本全体		
	1. 特に早急に充足していくべき	2. 他とのバランスを見ながら計画的に充足すべき	3. 現状で十分	1. 特に早急に充足していくべき	2. 他とのバランスを見ながら計画的に充足すべき	3. 現状で十分
ア） 水害などを防ぐ河川の施設	1	2	3	1	2	3
イ） 海岸浸食や高潮を防ぐ海岸施設	1	2	3	1	2	3
ウ） 震災時の緊急輸送となる「命の道」としての高速道路や幹線道路	1	2	3	1	2	3
エ） 浸水や地震、火災等の災害への配慮がなされた安全性の高い街	1	2	3	1	2	3
オ） 災害、避難に関する情報などを効率的に収集・活用できる環境の整備（通信ネットワークやコンテンツの整備など）	1	2	3	1	2	3
カ） 安全が確保された通学路、安全が確保された歩道	1	2	3	1	2	3
キ） 都道府県を越えた人の移動や物流を支える広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路	1	2	3	1	2	3
ク） 道路交通の円滑化、効率化を実施する ETC などの設備	1	2	3	1	2	3
ケ） 都道府県を越えた人の移動や物流を支える広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道	1	2	3	1	2	3
コ） 都市機能を高める（移動時間の短縮や避難・復旧を迅速化する）環状道路や放射状の道路	1	2	3	1	2	3
サ） グローバル化に対応した国際ハブ空港	1	2	3	1	2	3
シ） 日本内外の遠隔地との交流を実現する空港・港湾	1	2	3	1	2	3
ス） グローバル化に対応した効率的な国際物流ネットワークを形成する港湾（大水深コンテナターミナルの整備など）	1	2	3	1	2	3
セ） 人の移動や交流を支える交通機関が連携した総合的な交通ネットワーク	1	2	3	1	2	3
ソ） 日常生活や経済活動を支える物流網	1	2	3	1	2	3
タ） 都市間や地域間の交流を促す情報（観光や交流イベントに関する情報など）を効率的に収集・活用できる環境の整備（通信ネットワークやコンテンツの整備など）	1	2	3	1	2	3
チ） 中心市街地を活性化する都市整備	1	2	3	1	2	3
ツ） 日常の移動を支える地域の道路	1	2	3	1	2	3
テ） 日常の移動を支える地域の交通機関（鉄道、バス）	1	2	3	1	2	3
ト） 公園・緑地、スポーツレクレーション施設	1	2	3	1	2	3
ナ） 医療、福祉、子育て、教育文化施設	1	2	3	1	2	3
ニ） 安全でおいしい水を供給する上水道	1	2	3	1	2	3
ヌ） 下水道などの汚水処理施設	1	2	3	1	2	3
ネ） 恵まれた自然景観	1	2	3	1	2	3

ノ） 脱炭素社会※1を実現するための社会基盤	1	2	3	1	2	3
ハ） 質の高い居住・生活空間	1	2	3	1	2	3
ヒ） 生活を快適にする道路利用（規制緩和等によるカフェでの利用など）や景観を良くするための無電柱化	1	2	3	1	2	3
フ） 快適な生活のために必要な情報（交通渋滞や公共サービスに関する情報など）を効率的に収集・活用できる環境の整備（通信ネットワークやコンテンツの整備など）	1	2	3	1	2	3

※1：脱炭素社会（カーボンニュートラル）とは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量から、森林などによる吸収量を差し引いてゼロを達成する社会のこと。脱炭素社会実現のための施策の例として、再生可能エネルギーの活用、電動自動車への転換などがあげられる。

5. 社会資本の状況に関する全体評価

■地域・日本のインフラ（社会資本）全体についてお伺いします。

Q8.　これまで、個別のインフラ（社会資本）についてあなたのご意見を伺ってきましたが、あなたはこういったインフラ（社会資本）が、全体としてどの程度充足していると考えますか。（それぞれひとつだけ）

【1. あなたの住む地域では】

1. 非常に充足している	3. どちらともいえない	4. あまり充足していない
2. かなり充足している		5. ほとんど充足していない

【2. 日本全体では】

1. 非常に充足している	3. どちらともいえない	4. あまり充足していない
2. かなり充足している		5. ほとんど充足していない

6. 社会資本の維持管理・更新に関する認知・理解・評価

■インフラ（社会資本）の維持管理・更新についてお伺いします。

Q9.　今後、戦後の急成長期以降に急速に蓄積してきた膨大なインフラ（社会資本）が耐用年数を迎え、**増加する維持管理・更新費用への対応が大きな課題**となることをあなたはご存じですか。

1. 非常によく知っている	2. 一応知っている	3. あまり知らない	4. ほとんど知らない

Q10.　増加する維持管理コストへの対応として、**新たなインフラ（社会資本）を整備するより、維持管理・更新に重点を移すべき**だとの意見がありますが、あなたはどう思われますか。

1. 非常にそう思う	3. どちらともいえない	4. そう思わない
2. そう思う		5. 全くそう思わない

Q11.　インフラ（社会資本）の老朽化が急速に進行するため、全てのインフラ（社会資本）を維持するのは不可能で、残すものと残さないものを分け、早めの対応をすることが必要だとの意見がありますが、あなたはどう思われますか。

1. 非常にそう思う	3. どちらともいえない	4. そう思わない
2. そう思う		5. 全くそう思わない

Q12.　インフラ（社会資本）の老朽化に的確に対応していくためには、**住民などが積極的にインフラ（社会資本）の点検や清掃に加わるなど住民の協力も必要**だとの意見がありますが、あなたはどう思われますか。

1. 非常にそう思う	3. どちらともいえない	4. そう思わない
2. そう思う		5. 全くそう思わない

7. 社会資本整備のあり方、保全・整備の進め方に関する評価

■インフラ(社会資本)整備のあり方、保全・整備の進め方についてお伺いします。

Q13. 気候変動による災害の頻度の増加、巨大地震発生の可能性の増大などに対応するため、**安全・安心を高める社会資本整備を重点的に進めるべき**だとの意見がありますが、あなたはどう思われますか。

1. 非常にそう思う	3. どちらともいえない	4. そう思わない
2. そう思う		5. 全くそう思わない

Q14. 東日本大震災などで、国土の脆弱(ぜいじゃく)性が明らかになった日本にとって、災害や事故などにより致命的な被害を負わない強さと、速やかに回復するしなやかさをもつため、**国土を強靭(きょうじん)化することは重要**だとの意見がありますが、あなたはどう思われますか。

1. 非常にそう思う	3. どちらともいえない	4. そう思わない
2. そう思う		5. 全くそう思わない

Q15. 自然災害などは、予想以上の規模で発生したり、短い時間で続けて起こるなど不確実性があります。そのため、**インフラ(社会資本)の強度や機能などに余裕を持たせ、安全度を高めるべき**との意見がありますが、あなたはどう思われますか。

1. 非常にそう思う	3. どちらともいえない	4. そう思わない
2. そう思う		5. 全くそう思わない

Q16. 災害に備えるためには、インフラの整備(ハード対策)も重要ですが、**防災訓練やハザードマップの理解・活用などのソフト対策も重要**との意見がありますが、あなたはどう思われますか。

1. そう思うし、自らも取り組んでいる	3. どちらともいえない
2. そう思うが、自らは取り組めていない	4. そう思わない

Q17. 日本の経済活力を維持、成長を促進するため、移動時間の短縮、輸送費の低下、企業立地や設備投資の誘発など、**生産拡大効果のある社会資本整備を重点的に進めるべき**だとの意見がありますが、あなたはどう思われますか。

1. 非常にそう思う	3. どちらともいえない	4. そう思わない
2. そう思う		5. 全くそう思わない

Q18. 災害からの復旧・復興にあたり、**専門的知識・技能を持った国の職員を迅速に派遣する体制(ex.「TEC フォース(緊急災害対策派遣隊)」)を強化することが必要**だとの意見がありますが、あなたはどう思われますか。

1. 非常にそう思う	3. どちらともいえない	4. そう思わない
2. そう思う		5. 全くそう思わない

Q19. 人口密度が高いほど効率化により都市施設の維持管理費が少なくなるので、**住む人や都市施設を集め、人口密度の高いコンパクトな市街地を形成し、それらを道路や公共交通などのネットワークで結びつけて、地方の成長を促し、人口減少を克服することを進めるべき**だとの意見がありますが、あなたはどう思われますか。

1. 非常にそう思う	3. どちらともいえない	4. そう思わない
2. そう思う		5. 全くそう思わない

Q20. 感染症等も含めた自然災害等に対するリスクを減らすため、また、地方の文化・風土・伝統などの多様性を保持するため、**人口や機能を分散させた国土づくりを行うべき**との意見がありますが、あなたはどう思われますか。

1. 非常にそう思う	3. どちらともいえない	4. そう思わない
2. そう思う		5. 全くそう思わない

Q21. これからのインフラ（社会資本）の保全整備にあたっては、PPP（官民連携）、PFI（民間の資金、経営能力等を活用する手法など）を取り入れ、**民間事業者のノウハウ等を活用することで、効率化、コスト縮減、人件費の削減等を実現することが必要**だとの意見がありますが、あなたはどう思われますか。

1. 非常にそう思う	3. どちらともいえない	4. そう思わない
2. そう思う		5. 全くそう思わない

Q22. 人々の価値観や行動が大きく変化し、多様化していることを踏まえ、社会資本整備においても、その整備方策・手順について**住民、地域の意見等を十分に取り入れ、価値観の共有と協働作業が行えるような仕組みを作っていくべき**だとの意見がありますが、あなたはどう思われますか。

1. 非常にそう思う	3. どちらともいえない	4. そう思わない
2. そう思う		5. 全くそう思わない

Q23. 社会全体の安全性を高める施設等を整備するにあたって、**必要が生じた場合、土地利用などの私権が制限される（例えば、土砂災害や洪水の被災リスクの高い土地の開発・居住制限など）のは止むを得ない**との意見がありますが、あなたはどう思われますか。

1. 非常にそう思う	3. どちらともいえない	4. そう思わない
2. そう思う		5. 全くそう思わない

Q24. 高速道路、幹線道路が救急搬送や災害時に救援物資の運搬等に用いる「命の道」の役割も果たす、といった例も踏まえ、**社会資本整備にあたっては、効率の観点だけでなく、公平の観点も重視すべき**だとの意見がありますが、あなたはどう思われますか。

1. 非常にそう思う	3. どちらともいえない	4. そう思わない
2. そう思う		5. 全くそう思わない

Q25. これからのインフラ（社会資本）の保全整備にあたっては、**新型コロナウィルス感染症発生により生じた国民意識や国民生活の変化に対応していくことが重要**であるとの意見がありますが、あなたはどう思われますか。

1. 非常にそう思う	3. どちらともいえない	4. そう思わない
2. そう思う		5. 全くそう思わない

Q26. これからのインフラ（社会資本）の保全整備にあたっては、資源・エネルギーの再利用や CO_2 の削減など、**脱炭素社会を実現するための取り組みをより一層推進していくべき**だとの意見がありますが、あなたはどう思われますか。

1. 非常にそう思う	3. どちらともいえない	4. そう思わない
2. そう思う		5. 全くそう思わない

Q27. これからのインフラ（社会資本）の保全整備にあたっては、コスト削減やサービス水準向上のために、自動車の自動運転技術やドローンによる施設点検技術など**新技術の開発と導入を積極的に進めることが必要**であるとの意見がありますが、あなたはどう思われますか。

1. 非常にそう思う	3. どちらともいえない	4. そう思わない
2. そう思う		5. 全くそう思わない

Q28. インフラメンテナンスの分野で、日本の優れた技術は世界で十分に競争する力がある。こういった優れた**日本のインフラ技術(情報通信、エネルギー、交通、水分野など)を世界に輸出し、国際貢献するとともに日本の活力強化にもつなげるべき**だとの意見がありますが、あなたはどう思われますか。

1. 非常にそう思う	3. どちらともいえない	4. そう思わない
2. そう思う		5. 全くそう思わない

Q29. インフラ(社会資本)の保全整備にあたっては、**中長期の全体像を描いた上で財源をきちんと確保し、計画的効率的に進めることが必要**であるとの意見がありますが、あなたはどう思われますか。

1. 非常にそう思う	3. どちらともいえない	4. そう思わない
2. そう思う		5. 全くそう思わない

Q30. **アメリカやヨーロッパ諸国などでは、新型コロナウイルス感染症の影響から回復するための経済・社会活動の活性化や温室効果ガス削減などのため、インフラ投資を増大させる動きがあります**が、ご存じですか。

1. よく知っている	2. 知っている	3. あまり知らない	4. 全く知らない

Q30-1. **日本も**インフラの機能を維持し、安全性を高め、また経済活力を維持・増進させ、温室効果ガス削減を実現するために**インフラへの投資額を増やすべき**だという意見がありますが、あなたはどう思いますか。

1. 非常にそう思う	3. どちらともいえない	4. そう思わない
2. そう思う		5. 全くそう思わない

Q31. **日本は、外国と比べ山地が多く、海岸線が長く、台風、大雨、洪水、地震、火山噴火などの災害が発生し易いなどの特徴を持っています**。あなたは、このことをご存じですか。

1. よく知っている	2. 知っている	3. あまり知らない	4. 全く知らない

Q31-1. そのために、急峻な地形での工事が必要だったり、地震等に備えるため、頑丈な施設を整備しなければならないなど、**欧米諸国に比べて施設整備に費用がかさみます**。あなたは、このことについてどのように思いますか。

1. 理解できるし、納得もできる	3. よくわからない
2. 理解はできるが納得できない	4. 理解も納得もできない

8. 国家予算 費目別 今後の増減評価

■国家の予算についてお伺いします。

日本の国家予算は総額(2021 年度)106 兆 6097 億円です。

20 年前の 2001 年度と比較すると、以下のようになっています(( )内は割合)。

	2001 年度 額	構成比		2021 年度 額	構成比	
総額	82 兆 6524 億円		→	106 兆 6097 億円		↗
社会保障	17 兆 5552 億円	(21.2%)	→	35 兆 8421 億円		↗(33.6%↗)
地方交付税交付金等	16 兆 8230 億円	(20.4%)	→	15 兆 9489 億円		↘(15.0%↘)
公共事業	9 兆 4352 億円	(11.4%)	→	6 兆 695 億円		↘ (5.7%↘)
文教及び科学振興	6 兆 6472 億円	(8.0%)	→	5 兆 3969 億円		↘ (5.1%↘)
防衛	4 兆 9553 億円	(6.0%)	→	5 兆 3235 億円		↗ (5.0%↘)

年金・医療など社会保障費の額、構成比が突出して増大し(額で 2 倍、構成比で 1.6 倍)、公共事業は額、割合とも減少して(額で 2/3、構成比で 1/2)います

Q32. あなたは、今後の公共事業の予算をどうすべきだと思われますか。上記の結果も見た上でお答えください。

1. 増やしていくべき	3. 2021年度程度とすべき	4. 減らさざるを得ない
2. 増やさざるを得ない		5. 減らしていくべき

9. 日本とあなたの住む地域の将来（予測となるべき姿）

■地域・日本の将来予測となるべき姿についてお伺いします。

Q33. あなたの住む地域（2050 年前後を想定）について、次のような意見（見方）があります。

1. **衰退していく地域** 少子化・高齢化が進み、地域経済の衰退、中心市街地でも空き店舗が生じたり、空き家も増え、公共交通機関もなくなるなど、徐々に衰退していく
2. **質の高い生活がそれなりに維持される地域** 少子化・高齢化が進むが、地域の産業・経済を維持・活性化する動きや、各種の施設を特定の地域とまとめるコンパクト化を進めることなどにより、それなりに質の高い生活が維持される
3. **便利で快適な地域** 少子化・高齢化は進むが、地域の産業・経済は、新たな産業が生まれることにより活性化し、交通ネットワークが確保された便利で快適な地域となる
4. **成長性の高い便利で快適な地域** 地域社会に新たな成長産業などが生まれ、新たな居住者が流入、新たな産業なども生まれ、交通ネットワークなどはより良くなり、生産性が向上、活力のある成長性の高い、より便利で快適な地域となる

※このあとの設問で「日本全体」という観点で同様にお伺いしますので、ここでは「あなたの住む地域」という観点からお答えください。

Q33-1.あなたの住む地域が将来最もなりそうであると予測される姿はどれですか。

1. 衰退していく地域	3. 便利で快適な地域
2. 質の高い生活がそれなりに維持される地域	4. 成長性の高い便利で快適な地域

Q33-2.あなたの住む地域が将来なるべきと思われる姿はどれですか。

1. 衰退していく地域	3. 便利で快適な地域
2. 質の高い生活がそれなりに維持される地域	4. 成長性の高い便利で快適な地域

Q34. あなたの住む地域（2050 年前後を想定）について、次のような意見（見方）があります。

1. **社会的な関心・関係が希薄な地域**
   必要な情報はネットかSNSから入手、自分にとって意味、興味のあることには反応するが、そうでないものに対しては社会的な関心も興味も示さない個人のことしか考えない地域社会が形成される
2. **社会的な課題解決を行政に依存する地域**
   各個人の価値観や規範に基づく個人主義的な社会になり、社会的な問題には一定の理解を行うものの、具体的な行動などは起こさず、行政に委ねる地域社会が形成される
3. **社会的な課題に住民が分担して取り組む地域**
   社会の様々な課題に対し、行政に依存するのではなく、住民や NPO が社会産業（ソーシャルビジネス）を立ち上げ、行政と住民が分担して解決に取り組む地域社会となる
4. **血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域**
   地域の風土や文化が見直され、伝統的な血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域社会となる

Q34-1.あなたの住む地域が将来最もなりそうであると予測される姿はどれですか。

1. 社会的な関心・関係が希薄な地域	3. 社会的な課題に住民が分担して取り組む地域
2. 社会的な課題解決を行政に依存する地域	4. 血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域

Q34-2.あなたの住む地域が将来なるべきと思われる姿はどれですか。

1. 社会的な関心・関係が希薄な地域	3. 社会的な課題に住民が分担して取り組む地域
2. 社会的な課題解決を行政に依存する地域	4. 血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域

Q35. あなたの住む地域が将来(2050 年前後を想定)どのような社会になって欲しいですか？【自由記述】

Q35-1. そのためには、どのような社会基盤(例えば、防災施設や交通機関、情報通信施設など)の整備が重要だと思われますか？【自由記述】

Q36. 日本の将来(2050 年前後を想定)について、次のような意見(見方)があります。

1. **衰退する日本** 少子化・高齢化が進み、激化する国際競争の下、世界の中で現在の位置は保ち得ず、経済成長もマイナス気味となり、徐々に衰退していく
2. **定常社会の日本** 少子化・高齢化が進むが、女性の社会進出、技術革新、国民の努力もあって、経済成長がプラスマイナス0%といった「定常社会」となり、世界の中での位置も保ち、それなりに質の高い生活を維持する
3. **活力を保持した日本** 少子化・高齢化にも係わらず、女性の社会進出、技術革新、経済構造の改革、経営革新などにより、一定の成長を実現、世界の中での位置も保った、活力を保持した日本となる
4. **生産性が向上、成長する日本** 少子化・高齢化にも係わらず、女性の社会進出が進むことで、生産年齢人口が確保され、技術革新や経済構造の改革による生産性の更なる向上が図られ、経済に経営革新の、更なる進展などにより、高い成長を実現、世界の中での位置も高まる、活力ある日本となる

※先ほどは「あなたの住む地域」について伺いました。今度は「日本全体」についてお答えください。

Q36-1.将来の日本が最もなりそうであると予測される姿はどれですか。

1. 衰退する日本　2. 定常社会の日本　3. 活力を保持した日本　4. 生産性が向上、成長する日本

Q36-2.将来の日本がなるべきと思われる姿はどれですか。

1. 衰退する日本　2. 定常社会の日本　3. 活力を保持した日本　4. 生産性が向上、成長する日本

Q37. 日本の将来(2050 年前後を想定)について、次のような意見(見方)があります。

1. **社会的な関心・関係が希薄な日本**
   必要な情報はネットかSNSから入手、自分にとって意味、興味のあることには反応するが、そうでないものに対しては社会的な関心も興味も示さない個人のことしか考えない社会が形成される日本
2. **社会的な課題解決を行政に依存する日本**
   各個人の価値観や規範に基づく個人主義的な社会になり、社会的な問題には一定の理解を行うものの、具体的な行動などは起こさず、行政に委ねる社会が形成される日本
3. **社会的な課題に住民が分担して取り組む日本**
   社会の様々な課題に対し、行政に依存するのではなく、住民や NPO が社会産業(ソーシャルビジネス)を立ち上げ、行政と住民が分担して解決に取り組むような社会が形成される日本
4. **血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本**
   地域の風土や文化が見直され、伝統的な血縁社会、地域社会が新たな形で復活し、生活・社会行動の基盤となるような日本

Q37-1.将来の日本が最もなりそうであると予測される姿はどれですか。

1. 社会的な関心・関係が希薄な日本
2. 社会的な課題解決を行政に依存する日本
3. 社会的な課題に住民が分担して取り組む日本
4. 血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本

Q37-2.将来の日本がなるべきと思われる姿はどれですか。

1. 社会的な関心・関係が希薄な日本
2. 社会的な課題解決を行政に依存する日本
3. 社会的な課題に住民が分担して取り組む日本
4. 血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本

Q38. 日本が将来(2050 年前後を想定)どのような社会になって欲しいですか？【自由記述】

Q38-1. そのためには、どのような社会基盤(例えば、防災施設や交通機関、情報通信施設など)の整備が重要だと思われますか？【自由記述】

属性(フェイスシート)

ご意見をおうかがいするのはこれで終わりですが、ご回答を統計的に分析するために、あなたご自身やご家族のことについて少しおたずねします。

Q39.〔 性 〕

1. 男性
2. 女性
3. 回答したくない

Q40.〔年齢〕※満でご回答ください。

1. 18～19 歳	4. 30～34 歳	7. 45～49 歳	10. 60～64 歳
2. 20～24 歳	5. 35～39 歳	8. 50～54 歳	11. 65～69 歳
3. 25～29 歳	6. 40～44 歳	9. 55～59 歳	12. 70～74 歳
			13. 75 歳以上

Q41.〔職業〕

1. 会社員・会社役員	4. 自由業	7. パート・アルバイト
2. 公務員・団体職員	5. 専業主婦(夫)	8. その他( )
3. 自営業	6. 学生	9. 無職

Q42.〔世帯構成〕

- 1人世帯
- 1世代世帯(夫婦のみ)
- 2世代世帯(親と子)
- 3世代世帯(親と子と孫)
- その他( )
- わからない

Q43.〔お住まいの地域の種別〕(○は一つだけ)

1. 三大都市圏の政令指定都市(さいたま市・千葉市・横浜市・川崎市・相模原市・名古屋市・京都市・大阪市・堺市・神戸市)及び東京 23 区
2. 三大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市(所沢市・四日市市・大津市など)
3. 三大都市圏の上記以外の地域
4. 地方中枢都市(札幌市・仙台市・広島市・福岡市・北九州市)
5. 地方中核都市人口 30 万人以上の都市及び県庁所在地(旭川市・いわき市・浜松市・福山市など)
6. 地方圏のその他の市
7. 地方圏の町村
8. その他( )
9. わからない

Q44.〔居住年数〕

1. 1年未満	3. 2年～5年未満	5. 10 年～15 年未満	7. 20 年～30 年未満
2. 1年～2年未満	4. 5年～10 年未満	6. 15 年～20 年未満	8. 30 年以上

Q45.〔住宅の状況〕

1. 持ち家(一戸建て)
2. 持ち家(マンションなど)
3. 公営(都道府県市町村営)住宅
4. 公団(公社)住宅
5. 給与住宅(社宅・公務員住宅)
6. 民間の賃貸住宅(アパート・マンションなど)
7. 借間
8. その他( )

Q46.〔日頃の主な移動手段〕(○は一つだけ)

1. 電車
2. バス
3. 自家用車
4. バイク
5. 自転車
6. 徒歩
7. その他(　　)

Q47.〔自動車の運転頻度〕

1. ほぼ毎日運転する
2. 休日のみ運転する(週に1～2回程度)
3. あまり運転しない(年に数回程度)
4. 全く運転しない(免許をもっていないなど)

Q48.〔主な収入源〕(○は一つだけ)

1. 給料	2. 自営での収入	3. 年金	4. その他

Q49.〔世帯年収〕

1. ～99 万円	5. 400 万～499 万円	9. 800 万～899 万	13. 1,400 万～1,599 万円
2. 100 万～199 万円	6. 500 万～599 万円	10. 900 万～999 万円	14. 1,600 万～1,799 万円
3. 200 万～299 万円	7. 600 万～699 万円	11. 1,000 万～1,199 万円	15. 1,800 万～1,999 万円
4. 300 万～399 万円	8. 700 万～799 万円	12. 1,200 万～1,399 万円	16. 2,000 万円以上

Q50.〔主な情報入手先〕(利用するものに○ 最も良く利用するものに◎)

1. 新聞
2. テレビ
3. インターネットニュース
4. インターネット Web サイト
5. SNS
6. ラジオ
7. 雑誌
8. その他

Q51.〔災害体験〕あなたご自身あるいは、ご家族、ご親戚、または身近なご友人で、震災、洪水、台風被害、土砂崩れなどの災害の直接的被害に遭われた方はいらっしゃいますか。

自分自身	→	1.被害に遭ったことがある(　　年位前)	2.被害に遭ったことはない
家族	→	1.被害に遭った人がいる(　　年位前)	2. 被害に遭った人はいない
親戚	→	1.被害に遭った人がいる(　　年位前)	2. 被害に遭った人はいない
身近な友人	→	1.被害に遭った人がいる(　　年位前)	2. 被害に遭った人はいない

○調査結果のポイント

1. 全体的に高まる社会・生活への不安

社会・生活に関する不安度を問う設問では、前回調査(2017)と比較し、全体的に不安度が高まっている【P31】。不安度が大きく高まっている項目が多いのは、「日本の経済成長・景気が悪化」などの活力・交流に関するもの及び「災害が頻発・激甚化する」、「地球温暖化問題が進行する」などの安全・安心に関するものとなっている。

2. 大きく変化する社会・生活環境と求められる変化への対応

新型コロナウイルス感染症の発生に伴う変化に関する設問に、約 9 割の者が変化があったと回答【P60 Q3-1】。これに象徴されるように、社会・生活環境の変化やそれに伴うニーズの変化は大きい。また、社会資本のあり方・保全・整備の進め方に関する設問では、「新型コロナによる変化への対応」、「国土強靱化」、「脱炭素社会実現への取組」、「新技術の開発と導入」など、近年、大きな変化のあった分野への対応について、6 割～7 割程度の者が肯定的な回答をしており【P129 Q14,Q25,Q26,Q27】、これらの社会・生活環境の変化への対応が求められている。

3. 地域により異なる意識

居住地域の社会資本具体分野別の充足度評価に関する設問【P90～P92】や居住地域の将来像の予測に関する設問【P180】では、地域ブロック別・都市規模別で評価や意識が大きく異なる。こういった地域毎の意識の差も十分踏まえ、地域にとってより良い社会資本の保全・整備を進めていく必要がある。

4. 中長期計画に基づく計画的で効率的な社会資本の保全・整備へのニーズの高まり

日本全体の社会資本の推進意向に関する設問では、全ての分野において、充足すべきとの割合が 7 割を超えており【P79 Q7-4】、社会資本整備に対するニーズが高いことが明らかとなった。また、中長期計画・財源確保・計画的効率的推進の必要性に関する設問では、肯定的回答が 7 割を超え、前回調査と比較しても 6.2 ポイント増加【P129～130 Q29】。中長期計画に基づく計画的で効率的な社会資本の保全・整備へのニーズは高まっている。

5. 十分認知されていない社会資本をとりまく環境

社会資本の維持・管理の課題に関する認知が5割にとどまっている【P119 Q9】。また、アメリカやヨーロッパ諸国などでの社会資本投資の増大に関する認知も3割程度である【P165 Q30】。前回調査と比較すると認知が高まっている項目もあるが、社会資本をとりまく環境は、いまだ十分認知されていると言える状態ではない。社会資本の維持・管理の課題に関する認知【P120 Q9】や日本の過酷な自然条件に関する認知【P171 Q31】については、若い世代のほうが、また、男性より女性のほうが認知率が低い傾向にある。また、主な情報の入手先を問う設問では、紙媒体が前回調査より減少し、インターネット媒体が増加している【P263 Q50-1】。情報発信を行う際には、これらの点にも留意する必要がある。

6. 公共の果たす役割への期待の高まり

居住地域のなるべき姿として、「社会的な課題解決を行政に依存する地域」を選択した割合が大きく増加(前回 20.9%→今回 30.4%)【P184】。また、今後の公共事業予算の増減に関する設問では、増やす計が大きく増加(前回 41.3%→今回 50.6%)【P175 Q32】。更には、「必要が生じた場合、土地利用などの私権が制限されるのは止むを得ない」との回答も大きく増加(前回 37.9%→今回 55.9%)【P130 Q23】。災害の激甚化、新型コロナウイルス感染症の発生、地球温暖化の進行など、個人だけでは対応困難な課題が山積する中、公共の果たす役割への期待が高まっているものと推測される。

7. 求められる社会資本のなるべき姿の具体像

1. で述べた通り、社会・生活への不安は高まっている。また、全体的な社会資本の充足度(日本全体)は悪化【P114】。一方で、社会資本の分野別の充足度については、少なくない分野で向上【P78 Q7-1】。これは、社会資本整備が着実に進捗していることも一因と考えられるが、国民のなかで社会資本のなるべき姿の具体像がなく、全体的な不満はあるものの、具体の分野別社会資本については、何が不足なのかイメージできていない可能性もある。より良い社会を実現するための社会資本のなるべき姿の具体像の提示が必要。特に将来に悲観的な者(若者や世帯収入の低い者【P190,P181】など)へのアピールが重要。また、社会資本のなるべき姿の具体像の検討にあたっては、上記の国民意識を十分に踏まえる必要がある。

8. 日本の将来に希望を与え得る社会資本

日本の全体的な社会資本の充足度評価と日本の将来予測との相関分析を行ったところ、充足度評価が高い者ほど、希望のある将来を予測している割合が高いことが明らかとなった【P226】。社会資本の充足が国民の将来予測に希望を与える一因となり得ると言える。

9. 適切な判断を頂くためにも社会資本に関する課題等への認知度の向上が鍵

社会資本に関する課題等を認知しているグループと認知していないグループを抽出し、グループ毎に、「全体的な社会資本の充足度評価」や「今後の公共事業費の増減の意向」などでどのような傾向が見られるか分析を行った【P241】。その結果、認知しているグループでは、「どちらともいえない」(判断保留)を選ぶ割合が全体平均より10～15%少なく、自らの認知している事実に基づき、充足度の判断をしっかり下していることが確認出来た。社会資本の保全・整備に国民の判断を適切に反映させる意味でも、国民の皆様に社会資本を取り巻く環境や整備による効果等を知っていただく取り組みが大切である。

なお、認知しているグループにおいては、全体的な社会資本の充足度評価は全体平均と比較して高いにもかかわらず、今後の公共事業予算の増加について、より肯定的であり、日本の将来予測について、より悲観的である。これは、社会資本に関する課題等を認知しているグループは、現況の社会資本の充足度について一定の評価はしているが、日本の将来については、楽観はしておらず、社会資本をより充足させていくべきであると考えているものと推測される。

10. 活力保持・成長を求められている日本の将来

1．で述べた通り、社会・生活への不安は全体的に高まっているが、日本の将来なるべき姿については、「活力を保持した日本」、「生産性が向上し、成長する日本」を選択した割合が、前回同様、合わせて約 6 割に及んだ(前回調査:59.2%、今回調査:61.7%)。また、仕事を重視しないグループや都会暮らしに消極的なグループなど、様々な価値観のグループを抽出し、相関分析も行った【P242～P247】。その結果、日本の将来なるべき姿について、いずれのグループでも「活力を保持した日本」、「生産性が向上し、成長する日本」を選択した割合が合わせて 5 割を超えた。

全体分析／属性分析

1. 社会・生活の動向に関する意識・態度

■社会・生活の動向に関する不安度（居住地域／日本全体）

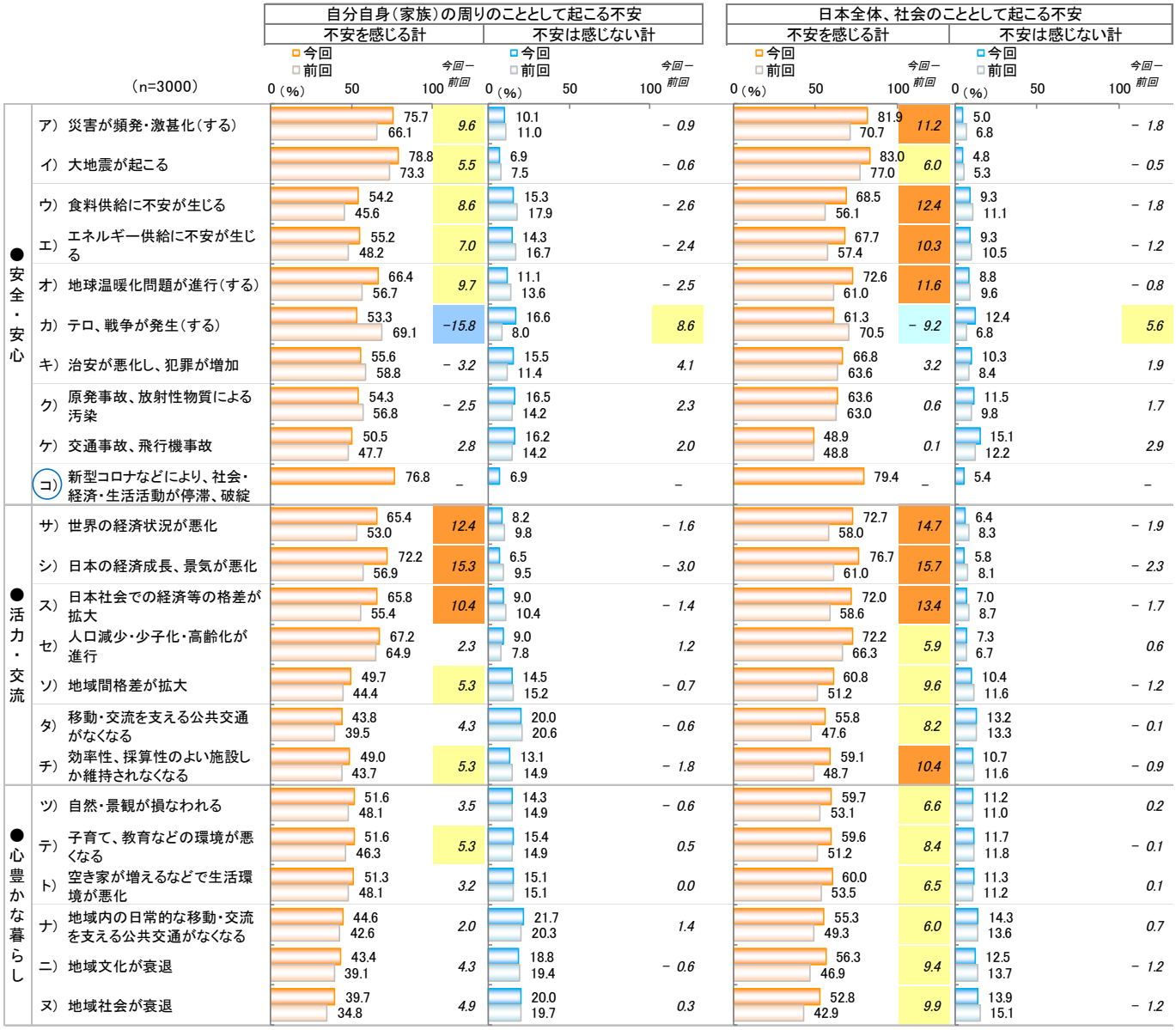
- 日本全体での不安の方が、居住地域よりも強い。
- 不安度が特に高いのは、「大地震が起こる」、「災害が頻発・激甚化する」、「新型コロナなどにより社会・経済・生活活動が停滞・破綻」など安全・安心に関するもの、及び、「日本の経済成長・景気が悪化」、「人口減少・少子化・高齢化が進行」などの活力・交流に関するもの。

Q1-1.　各々の項目について「自分自身や家族の周りや地域のこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。（それぞれひとつだけ）

Q1-2.　各々の項目について「日本全体や社会のこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。（それぞれひとつだけ）

【前回比較】

・ 前回調査との比較では、全体的に不安度が高まっている。不安度が大きく高まっている項目が多いのは、「日本の経済成長・景気が悪化」などの活力・交流に関するもの及び「災害が頻発・激甚化する」、「地球温暖化問題が進行する」などの安全・安心に関するもの。

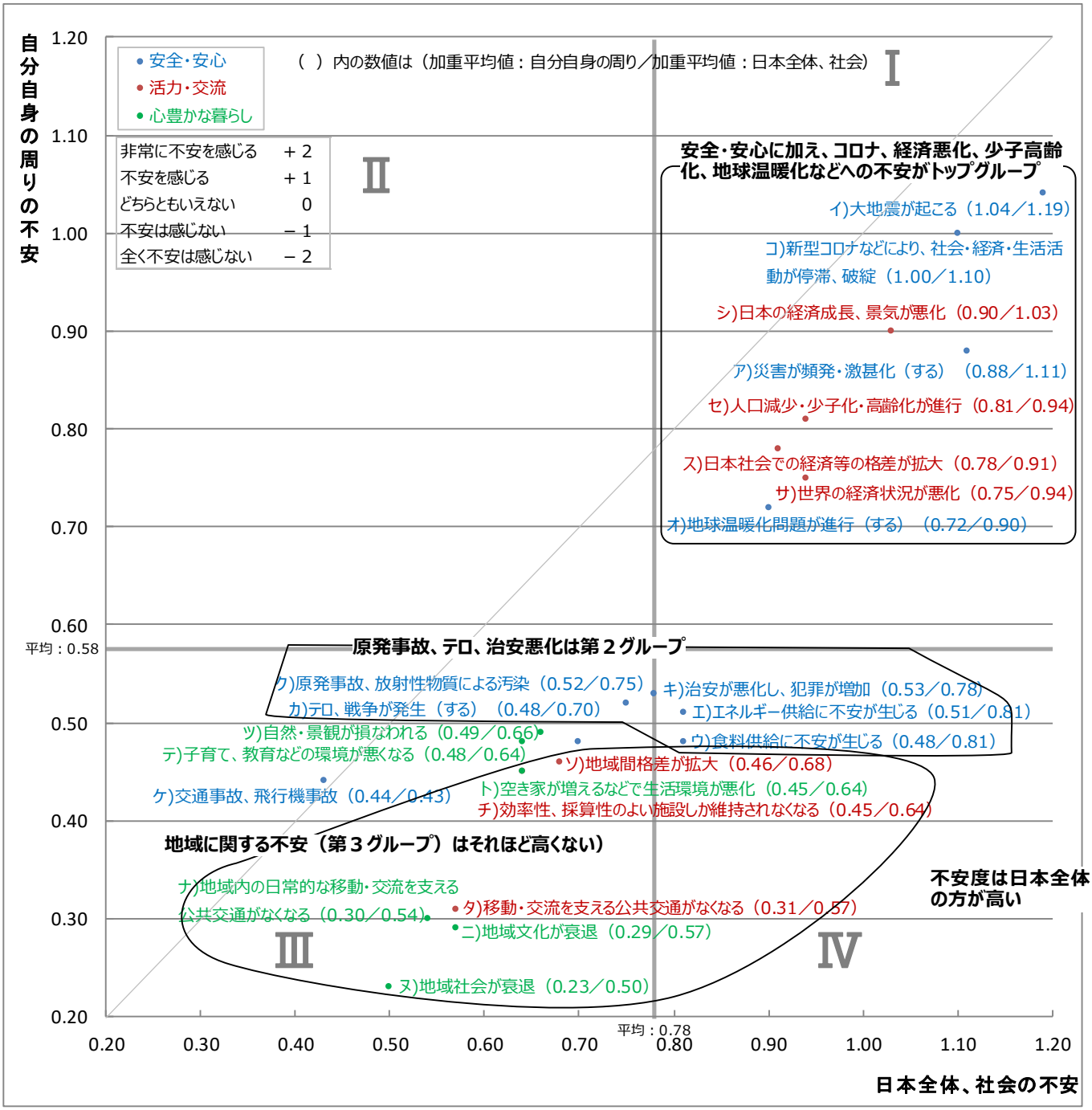


■10%～ ■5.0%～9.9% ■-5.0%～-9.9% ■-10%～

○新設問（2017 調査にない設問）

■社会・生活の動向に関する不安度[自分自身の周りの不安／日本全体・社会](Q1-1、Q1-2)加重平均グラフ

- 日本全体での不安の方が、自分自身の周りの不安よりも強い。
- 特に不安度が高いトップグループは、「大地震が起こる」「新型コロナによる停滞、破綻」「日本経済の悪化」「災害が頻発・激甚化」「人口減少・少子化・高齢化」「世界経済悪化」などがそれに続く。
- 「原発事故」「テロ」「治安悪化」「エネルギー供給」などは第2グループ。
- 第3グループに属するのは、「地域の公共交通がなくなる」「空き家」「地域文化が衰退」など、地域・生活に関わるもの。



・社会・生活に関する不安度を、「自分の身の周り」「日本全体、社会」で加重平均（非常に不安2、不安1、どちらともいえない0、不安は感じない－1、全く不安は感じない－2で、回答者割合をかけ足し上げたもの）を取り、プロットした。

1-1.社会・生活の動向に関する不安度（居住地域）属性分析

■社会・生活の動向に関する不安度（居住地域）属性分析1〈性・年代別〉

- 全体的に女性は男性より不安度が高い。
- 年代別で見ると、上の年代ほど不安度の高い項目（例：「オ）地球温暖化問題が進行」など）、下の年代ほど不安度の高い項目（例：「ケ）交通事故、飛行機事故」など）、年代による差が少ない項目（例：「ソ）地域間格差が拡大」など）などがある。
- 「テ）子育てなどの環境が悪くなる」について、女性 18 歳～30 代で特に高くなっている【P35】。

＜安全・安心＞

Q1-1. 各々の項目について「自分自身や家族の周りや地域のこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。（それぞれひとつだけ）

（%）

不安を感じる計		n	●安全・安心									
			ア)災害が頻発・激甚化（する）	イ)大地震が起こる	ウ)食料供給に不安が生じる	エ)エネルギー供給に不安が生じる	オ)地球温暖化問題が進行（する）	カ)テロ、戦争が発生（する）	キ)治安が悪化し、犯罪が増加	ク)原発事故、放射性物質による汚染	ケ)交通事故、飛行機事故	コ)新型コロナなどにより、社会・経済・生活活動が停滞、破綻
全体		3000	75.7	78.8	54.2	55.2	66.4	53.3	55.6	54.3	50.5	76.8
性別	男性	1500	71.3	75.3	52.1	50.6	59.1	51.4	49.8	47.5	45.9	70.7
	女性	1500	80.1	82.3	56.3	59.7	73.7	55.2	61.5	61.2	55.1	82.9
年代	18～29歳	600	68.2	73.7	51.8	53.0	59.7	51.7	54.3	51.3	61.2	74.2
	30代	600	76.0	79.2	51.3	53.7	63.3	55.7	57.8	55.3	58.3	76.3
	40代	600	77.3	78.5	54.3	54.5	62.5	52.8	58.3	52.3	48.2	78.8
	50代	600	77.8	80.0	56.8	57.3	69.3	52.5	54.5	53.2	46.2	76.8
	60～79歳	600	79.3	82.7	56.5	57.3	77.0	53.8	53.2	59.5	38.5	77.7
性年代	男性18-29歳	300	59.3	68.3	50.3	49.3	53.0	47.3	45.7	42.7	51.0	65.3
	男性30代	300	70.0	75.7	48.3	48.0	53.7	50.3	51.3	46.3	55.3	68.3
	男性40代	300	72.3	72.7	49.3	47.0	52.7	52.0	53.0	45.0	42.7	71.7
	男性50代	300	76.0	78.0	56.3	53.0	64.0	53.3	51.0	48.0	44.7	73.7
	男性60-79歳	300	79.0	81.7	56.0	55.7	72.0	54.0	48.0	55.3	35.7	74.3
	女性18-29歳	300	77.0	79.0	53.3	56.7	66.3	56.0	63.0	60.0	71.3	83.0
	女性30代	300	82.0	82.7	54.3	59.3	73.0	61.0	64.3	64.3	61.3	84.3
	女性40代	300	82.3	84.3	59.3	62.0	72.3	53.7	63.7	59.7	53.7	86.0
	女性50代	300	79.7	82.0	57.3	61.7	74.7	51.7	58.0	58.3	47.7	80.0
	女性60-79歳	300	79.7	83.7	57.0	59.0	82.0	53.7	58.3	63.7	41.3	81.0
世帯構成	1人世帯	643	70.1	74.7	51.9	52.7	61.9	53.3	54.9	52.9	47.4	75.4
	1世代世帯（夫婦のみ）	737	78.4	80.7	54.1	55.8	70.4	53.3	54.3	54.7	45.7	76.1
	2世代世帯（親と子）	1413	77.2	80.2	54.3	55.3	67.2	52.9	56.5	54.2	53.9	77.8
	3世代世帯（親と子と孫）	156	77.6	78.2	65.4	62.2	60.9	57.1	58.3	59.0	58.3	81.4

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い
○新設問（2017 調査にない設問）

■社会・生活の動向に関する不安度（居住地域）属性分析2〈性・年代別〉

＜活力・交流＞

Q1-1. 各々の項目について「自分自身や家族の周りや地域のこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。（それぞれひとつだけ）

（%）

	不安を感じる計	n	●活力・交流						
			サ)世界の経済状況が悪化	シ)日本の経済成長、景気が悪化	ス)日本社会での経済等の格差が拡大	セ)人口減少・少子化・高齢化が進行	ソ)地域間格差が拡大	タ)移動・交流を支える公共交通がなくなる	チ)効率性、採算性のよい施設しか維持されなくなる
全体		3000	65.4	72.2	65.8	67.2	49.7	43.8	49.0
性別	男性	1500	59.5	66.0	59.9	65.3	49.0	41.9	48.7
	女性	1500	71.3	78.5	71.6	69.2	50.3	45.6	49.3
年代	18～29歳	600	67.2	73.5	66.3	64.5	51.3	51.7	50.5
	30代	600	64.8	73.8	64.2	66.0	49.0	45.0	49.0
	40代	600	68.7	76.2	69.0	67.8	47.7	42.7	47.8
	50代	600	62.8	68.5	64.5	66.5	48.8	39.8	49.5
	60～79歳	600	63.7	69.2	64.8	71.3	51.5	39.7	48.2
性年代	男性18-29歳	300	59.0	64.7	57.0	59.7	49.7	48.7	50.0
	男性30代	300	61.0	69.3	57.3	62.0	48.0	44.0	48.0
	男性40代	300	61.7	69.7	63.3	66.0	45.0	38.3	48.3
	男性50代	300	60.7	65.3	61.7	66.3	51.0	42.0	50.7
	男性60-79歳	300	55.3	61.0	60.3	72.3	51.3	36.7	46.7
	女性18-29歳	300	75.3	82.3	75.7	69.3	53.0	54.7	51.0
	女性30代	300	68.7	78.3	71.0	70.0	50.0	46.0	50.0
	女性40代	300	75.7	82.7	74.7	69.7	50.3	47.0	47.3
	女性50代	300	65.0	71.7	67.3	66.7	46.7	37.7	48.3
	女性60-79歳	300	72.0	77.3	69.3	70.3	51.7	42.7	49.7
世帯構成	1人世帯	643	63.6	71.1	63.3	61.9	49.0	46.3	50.1
	1世代世帯（夫婦のみ）	737	64.0	69.5	64.0	66.4	50.5	41.5	47.4
	2世代世帯（親と子）	1413	66.9	74.5	67.8	70.5	49.6	43.0	48.9
	3世代世帯（親と子と孫）	156	69.9	75.0	70.5	69.9	53.2	51.3	57.7

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問（2017 調査にない設問）

■社会・生活の動向に関する不安度（居住地域）属性分析3 〈性・年代別〉

＜心豊かな暮らし＞

Q1-1. 各々の項目について「自分自身や家族の周りや地域のこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。（それぞれひとつだけ）

（%）

		不安を感じる計	n	●心豊かな暮らし						
				ツ)自然・景観が損なわれる	テ)子育て、教育などの環境が悪くなる	ト)空き家が増えるなどで生活環境が悪化	ナ)地域内の日常的な移動・交流を支える公共交通がなくなる	ニ)地域文化が衰退	ヌ)地域社会が衰退	ひとつもない
全体			3000	51.6	51.6	51.3	44.6	43.4	39.7	5.7
性別	男性		1500	47.0	48.5	49.5	41.3	41.2	38.9	7.7
	女性		1500	56.3	54.8	53.1	47.9	45.5	40.6	3.7
年代	18～29歳		600	52.0	60.2	46.7	50.0	43.8	42.7	7.7
	30代		600	52.8	59.5	48.5	45.2	44.5	37.5	5.7
	40代		600	47.8	47.0	50.8	44.8	41.3	36.7	5.5
	50代		600	52.0	45.2	52.0	42.0	43.3	39.3	6.5
	60～79歳		600	53.5	46.3	58.5	40.8	43.8	42.5	3.2
性年代	男性18-29歳		300	47.3	54.3	44.0	47.3	39.0	38.7	12.0
	男性30代		300	48.0	53.7	43.7	40.3	40.3	35.0	7.7
	男性40代		300	40.7	45.7	49.7	41.0	39.0	36.7	7.7
	男性50代		300	50.7	45.3	52.0	38.3	44.0	41.3	7.7
	男性60-79歳		300	48.3	43.3	58.0	39.3	43.7	42.7	3.3
	女性18-29歳		300	56.7	66.0	49.3	52.7	48.7	46.7	3.3
	女性30代		300	57.7	65.3	53.3	50.0	48.7	40.0	3.7
	女性40代		300	55.0	48.3	52.0	48.7	43.7	36.7	3.3
	女性50代		300	53.3	45.0	52.0	45.7	42.7	37.3	5.3
	女性60-79歳		300	58.7	49.3	59.0	42.3	44.0	42.3	3.0
世帯構成	1人世帯		643	55.1	47.6	47.6	46.7	43.9	41.4	7.6
	1世代世帯（夫婦のみ）		737	51.0	49.4	51.7	43.7	43.7	40.4	5.2
	2世代世帯（親と子）		1413	50.2	54.2	52.9	43.4	43.1	38.6	4.7
	3世代世帯（親と子と孫）		156	52.6	62.2	53.8	52.6	46.2	42.9	5.1

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問（2017 調査にない設問）

■社会・生活の動向に関する不安度（居住地域）属性分析4 〈地域別〉

- 地域別で見ると、地域間の差の大きい項目（例：「イ）大地震が起こる」など）も、小さい項目（例：「オ）地球温暖化問題が進行」など）もある。
- 都市規模による差は、地域別の差に比較すると小さい。

＜安全・安心＞

Q1-1. 各々の項目について「自分自身や家族の周りや地域のこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。（それぞれひとつだけ）

（%）

	不安を感じる計	n	●安全・安心 ア)災害が頻発・激甚化（する）	イ)大地震が起こる	ウ)食料供給に不安が生じる	エ)エネルギー供給に不安が生じる	オ)地球温暖化問題が進行（する）	カ)テロ、戦争が発生（する）	キ)治安が悪化し、犯罪が増加	ク)原発事故、放射性物質による汚染	ケ)交通事故、飛行機事故	コ)新型コロナなどにより、社会・経済・生活活動が停滞、破綻
全体		3000	75.7	78.8	54.2	55.2	66.4	53.3	55.6	54.3	50.5	76.8
地域ブロック別	北海道ブロック	120	70.8	64.2	50.8	58.3	64.2	54.2	55.0	53.3	51.7	75.0
	東北ブロック	210	70.5	66.2	52.4	52.9	66.2	53.3	54.8	53.8	48.6	78.6
	関東ブロック	1070	75.5	82.9	55.0	53.1	66.3	53.5	56.2	54.5	47.6	75.7
	北陸ブロック	120	72.5	64.2	53.3	53.3	64.2	49.2	46.7	55.0	50.0	65.8
	中部ブロック	360	76.1	86.7	51.4	54.4	66.1	50.0	54.2	55.8	53.6	75.6
	近畿ブロック	510	78.6	81.6	53.7	56.9	67.5	56.3	59.2	55.1	56.1	81.4
	中国ブロック	180	75.0	70.0	57.8	61.1	66.7	51.1	55.0	52.2	51.1	71.7
	四国ブロック	100	81.0	91.0	52.0	52.0	69.0	44.0	49.0	49.0	47.0	85.0
	九州・沖縄ブロック	330	76.7	72.4	56.7	58.8	66.1	57.0	56.4	54.2	49.4	78.2
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	846	75.7	83.1	53.3	53.7	66.0	53.5	57.1	55.3	49.2	77.0
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	302	75.8	84.4	54.6	55.3	70.2	53.3	57.0	52.0	51.7	74.8
	三大都市圏の上記以外の地域	499	80.2	84.8	56.1	57.1	68.1	55.1	58.1	55.9	53.7	80.4
	地方中枢都市	254	71.7	69.3	56.3	59.4	67.7	59.8	61.0	54.3	52.8	79.9
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地	248	68.5	74.2	51.2	48.8	62.5	53.2	54.8	54.4	51.2	74.6
	地方圏のその他の市	557	79.5	75.8	54.8	58.0	67.9	50.1	49.9	53.9	48.3	75.0
	地方圏の町村	202	76.2	69.3	53.5	55.0	61.4	52.5	55.9	52.5	49.0	77.7

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問（2017 調査にない設問）

■社会・生活の動向に関する不安度（居住地域）属性分析５ 〈地域別〉

＜活力・交流＞

Q1-1. 各々の項目について「自分自身や家族の周りや地域のこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。（それぞれひとつだけ）

（%）

		不安を感じる計	n	●活力・交流						
				サ)世界の経済状況が悪化	シ)日本の経済成長、景気が悪化	ス)日本社会での経済等の格差が拡大	セ)人口減少・少子化・高齢化が進行	ソ)地域間格差が拡大	タ)移動・交流を支える公共交通がなくなる	チ)効率性、採算性のよい施設しか維持されなくなる
全体		3000	3000	65.4	72.2	65.8	67.2	49.7	43.8	49.0
地域ブロック別	北海道ブロック	120	120	61.7	69.2	65.0	67.5	60.8	50.8	48.3
	東北ブロック	210	210	62.9	68.1	62.9	62.9	52.4	46.7	51.9
	関東ブロック	1070	1070	64.3	72.7	65.6	66.4	46.3	39.7	47.9
	北陸ブロック	120	120	56.7	60.0	61.7	60.0	45.0	40.8	44.2
	中部ブロック	360	360	64.4	71.9	63.3	67.8	45.0	42.8	46.1
	近畿ブロック	510	510	70.6	74.3	68.6	69.6	52.7	47.5	51.6
	中国ブロック	180	180	62.8	71.1	63.9	65.0	51.1	43.9	47.2
	四国ブロック	100	100	68.0	79.0	67.0	70.0	54.0	50.0	59.0
	九州・沖縄ブロック	330	330	69.1	74.5	68.8	71.2	54.8	47.0	50.0
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	846	846	66.4	72.9	64.9	66.3	45.7	39.5	47.0
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	302	302	66.2	75.5	65.9	67.5	47.0	42.1	48.7
	三大都市圏の上記以外の地域	499	499	67.1	73.7	70.1	69.7	50.5	46.7	52.3
	地方中枢都市	254	254	67.7	76.4	69.3	70.9	54.3	47.2	49.2
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地	248	248	61.3	65.3	58.9	67.7	53.2	44.4	49.6
	地方圏のその他の市	557	557	64.3	70.4	65.4	67.0	53.1	46.0	50.1
	地方圏の町村	202	202	64.4	72.8	67.3	64.4	50.0	48.0	49.0

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問（2017 調査にない設問）

■社会・生活の動向に関する不安度（居住地域）6 〈地域別〉

＜心豊かな暮らし＞

Q1-1. 各々の項目について「自分自身や家族の周りや地域のこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。（それぞれひとつだけ）

（%）

		不安を感じる計	n	●心豊かな暮らし						ひとつもない
				ツ)自然・景観が損なわれる	テ)子育て、教育などの環境が悪くなる	ト)空き家が増えるなどで生活環境が悪化	ナ)地域内の日常的な移動・交流を支える公共交通がなくなる	ニ)地域文化が衰退	ヌ)地域社会が衰退	
全体			3000	51.6	51.6	51.3	44.6	43.4	39.7	5.7
地域ブロック別	北海道ブロック		120	45.8	48.3	49.2	46.7	41.7	40.0	3.3
	東北ブロック		210	44.3	45.7	48.6	50.5	47.6	40.0	6.7
	関東ブロック		1070	53.2	50.2	50.7	42.6	43.2	38.2	5.3
	北陸ブロック		120	40.0	45.0	44.2	40.0	41.7	37.5	11.7
	中部ブロック		360	53.3	54.7	50.8	41.9	38.9	36.9	3.9
	近畿ブロック		510	54.5	58.4	55.5	46.1	42.0	42.4	5.3
	中国ブロック		180	50.6	50.6	51.7	47.8	46.1	38.9	10.6
	四国ブロック		100	50.0	44.0	56.0	49.0	51.0	48.0	2.0
	九州・沖縄ブロック		330	52.4	52.7	50.9	45.5	45.8	42.1	6.1
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区		846	53.5	51.2	50.4	41.4	43.6	38.7	5.8
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市		302	51.0	52.0	50.3	43.0	39.4	38.7	4.3
	三大都市圏の上記以外の地域		499	53.9	55.3	55.7	45.3	41.7	39.3	4.2
	地方中枢都市		254	52.8	52.0	50.0	48.4	50.4	42.1	4.7
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地		248	50.0	49.2	49.2	44.4	47.6	41.5	6.9
	地方圏のその他の市		557	48.7	49.7	53.3	47.9	43.3	40.6	5.9
	地方圏の町村		202	48.5	51.5	47.5	46.5	42.6	41.6	6.4

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問（2017 調査にない設問）

1-2.社会・生活の動向に関する不安度（日本全体）属性分析

■社会・生活の動向に関する不安度（日本全体）属性分析1 〈性・年代別〉

- 全体的に女性は男性より不安度が高い。
- 年代別で見ると、上の年代ほど不安度の高い項目（例：「オ）地球温暖化問題が進行」など）、下の年代ほど不安度の高い項目（例：「ケ）交通事故、飛行機事故」など）、年代による差が少ない項目（例：「ソ）地域間格差が拡大」など）などがある。
- 「テ）子育てなどの環境が悪くなる」について、子育てと関連が深いと推測される女性 18 歳～30 代で特に高くなっている。【P41】
- 上記の傾向は、居住地域に関する不安度と同様であり、全体的に居住地域より日本全体のほうが、不安度は高い。

＜安全・安心＞

Q1-2. 各々の項目について「日本全体や社会のこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。（それぞれひとつだけ）

（%）

不安を感じる計		n	●安全・安心 ア）災害が頻発・激甚化（する）	イ）大地震が起こる	ウ）食料供給に不安が生じる	エ）エネルギー供給に不安が生じる	オ）地球温暖化問題が進行（する）	カ）テロ、戦争が発生（する）	キ）治安が悪化し、犯罪が増加	ク）原発事故、放射性物質による汚染	ケ）交通事故、飛行機事故	○コ）新型コロナなどにより、社会・経済・生活活動が停滞、破綻
全体		3000	81.9	83.0	68.5	67.7	72.6	61.3	66.8	63.6	48.9	79.4
性別	男性	1500	77.8	78.9	63.7	61.5	65.0	56.8	60.7	55.7	44.5	72.5
	女性	1500	86.0	87.0	73.3	74.0	80.1	65.7	72.9	71.4	53.3	86.4
年代	18～29歳	600	73.0	75.2	63.7	66.8	65.3	57.2	62.8	59.3	56.0	75.0
	30代	600	81.0	81.0	66.2	67.0	69.3	61.3	68.5	63.5	52.3	79.2
	40代	600	81.0	83.2	67.8	65.0	69.5	60.2	67.3	62.3	46.2	79.5
	50代	600	83.5	84.7	69.5	68.0	74.3	63.0	67.7	64.0	46.8	80.7
	60～79歳	600	91.0	90.8	75.2	71.8	84.3	64.7	67.5	68.7	43.2	82.8
性年代	男性18-29歳	300	64.0	66.0	56.3	60.3	57.3	48.3	53.7	48.3	46.7	62.3
	男性30代	300	76.7	78.7	61.7	61.0	61.7	58.0	65.0	56.3	48.0	71.3
	男性40代	300	76.0	76.3	61.0	56.3	58.0	56.0	58.3	52.0	42.0	72.3
	男性50代	300	82.0	83.0	66.3	61.3	69.0	61.0	65.0	59.0	46.7	77.0
	男性60-79歳	300	90.3	90.7	73.0	68.3	79.0	60.7	61.3	63.0	39.0	79.3
	女性18-29歳	300	82.0	84.3	71.0	73.3	73.3	66.0	72.0	70.3	65.3	87.7
	女性30代	300	85.3	83.3	70.7	73.0	77.0	64.7	72.0	70.7	56.7	87.0
	女性40代	300	86.0	90.0	74.7	73.7	81.0	64.3	76.3	72.7	50.3	86.7
	女性50代	300	85.0	86.3	72.7	74.7	79.7	65.0	70.3	69.0	47.0	84.3
	女性60-79歳	300	91.7	91.0	77.3	75.3	89.7	68.7	73.7	74.3	47.3	86.3
世帯構成	1人世帯	643	77.0	77.9	64.9	68.0	70.8	57.7	64.4	59.3	47.3	76.4
	1世代世帯（夫婦のみ）	737	84.7	84.5	70.0	66.8	74.9	63.4	66.2	63.9	46.7	79.1
	2世代世帯（親と子）	1413	83.2	84.3	69.1	68.1	72.5	61.0	67.9	64.8	51.1	80.8
	3世代世帯（親と子と孫）	156	81.4	85.9	73.1	71.2	72.4	68.6	71.2	69.2	49.4	83.3

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問（2017 調査にない設問）

■社会・生活の動向に関する不安度（日本全体）属性分析２ 〈性・年代別〉

＜活力・交流＞

Q1-2.　各々の項目について「日本全体や社会のこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。（それぞれひとつだけ）

（%）

	不安を感じる計	n	●活力・交流						
			サ)世界の経済状況が悪化	シ)日本の経済成長、景気が悪化	ス)日本社会での経済等の格差が拡大	セ)人口減少・少子化・高齢化が進行	ソ)地域間格差が拡大	タ)移動・交流を支える公共交通がなくなる	チ)効率性、採算性のよい施設しか維持されなくなる
全体		3000	72.7	76.7	72.0	72.2	60.8	55.8	59.1
性別	男性	1500	65.5	69.6	65.3	68.0	57.1	51.4	55.7
	女性	1500	79.9	83.9	78.7	76.3	64.4	60.3	62.6
年代	18～29歳	600	71.3	77.0	71.7	71.2	63.2	58.8	58.5
	30代	600	74.5	77.5	71.3	71.2	60.5	55.8	58.7
	40代	600	73.0	77.5	72.8	69.3	58.0	55.0	58.2
	50代	600	70.3	74.8	70.7	72.7	58.0	52.3	58.0
	60～79歳	600	74.2	76.8	73.3	76.5	64.2	57.2	62.3
性年代	男性18-29歳	300	60.3	66.3	61.7	61.3	55.0	52.7	55.0
	男性30代	300	67.3	71.0	65.7	67.3	54.3	50.0	52.7
	男性40代	300	64.0	69.0	65.0	64.3	54.3	49.3	53.0
	男性50代	300	66.7	70.3	64.7	71.7	59.7	51.0	58.3
	男性60-79歳	300	69.0	71.3	69.3	75.3	62.3	54.0	59.3
	女性18-29歳	300	82.3	87.7	81.7	81.0	71.3	65.0	62.0
	女性30代	300	81.7	84.0	77.0	75.0	66.7	61.7	64.7
	女性40代	300	82.0	86.0	80.7	74.3	61.7	60.7	63.3
	女性50代	300	74.0	79.3	76.7	73.7	56.3	53.7	57.7
	女性60-79歳	300	79.3	82.3	77.3	77.7	66.0	60.3	65.3
世帯構成	1人世帯	643	69.8	73.4	69.4	67.5	58.2	53.2	57.2
	1世代世帯（夫婦のみ）	737	71.5	74.6	70.8	71.8	60.7	55.5	58.3
	2世代世帯（親と子）	1413	74.4	79.3	74.1	74.5	61.9	56.9	60.2
	3世代世帯（親と子と孫）	156	78.8	80.8	73.7	76.9	66.0	59.6	66.0

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問（2017 調査にない設問）

■社会・生活の動向に関する不安度（日本全体）属性分析3 〈性・年代別〉

＜心豊かな暮らし＞

Q1-2.　各々の項目について「日本全体や社会のこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。（それぞれひとつだけ）

（%）

		不安を感じる計	n	●心豊かな暮らし						ひとつもない
				ツ)自然・景観が損なわれる	テ)子育て、教育などの環境が悪くなる	ト)空き家が増えるなどで生活環境が悪化	ナ)地域内の日常的な移動・交流を支える公共交通がなくなる	ニ)地域文化が衰退	ヌ)地域社会が衰退	
全体			3000	59.7	59.6	60.0	55.3	56.3	52.8	7.0
性別	男性		1500	54.0	56.1	55.3	50.3	51.2	49.3	9.5
	女性		1500	65.4	63.1	64.8	60.4	61.5	56.3	4.5
年代	18～29歳		600	59.3	64.0	55.0	56.8	56.5	53.8	9.2
	30代		600	62.5	66.5	58.7	56.3	59.7	52.8	8.2
	40代		600	54.7	54.3	55.3	52.3	52.5	47.8	7.3
	50代		600	59.0	55.2	60.8	56.5	54.8	52.3	7.5
	60～79歳		600	63.0	58.0	70.3	54.7	58.2	57.2	2.8
性年代	男性18-29歳		300	52.3	57.7	46.7	50.0	47.3	46.7	14.3
	男性30代		300	55.3	60.7	51.7	49.0	51.7	48.3	11.0
	男性40代		300	47.0	49.7	50.0	47.7	46.0	43.3	10.7
	男性50代		300	58.7	56.3	59.7	53.3	54.3	53.0	8.7
	男性60-79歳		300	56.7	56.3	68.3	51.3	56.7	55.0	3.0
	女性18-29歳		300	66.3	70.3	63.3	63.7	65.7	61.0	4.0
	女性30代		300	69.7	72.3	65.7	63.7	67.7	57.3	5.3
	女性40代		300	62.3	59.0	60.7	57.0	59.0	52.3	4.0
	女性50代		300	59.3	54.0	62.0	59.7	55.3	51.7	6.3
	女性60-79歳		300	69.3	59.7	72.3	58.0	59.7	59.3	2.7
世帯構成	1人世帯		643	60.5	55.5	55.8	52.9	55.5	54.4	9.5
	1世代世帯（夫婦のみ）		737	59.0	57.7	62.0	55.4	55.4	51.6	6.1
	2世代世帯（親と子）		1413	59.9	62.3	60.8	56.2	57.3	53.1	6.3
	3世代世帯（親と子と孫）		156	61.5	67.9	64.1	59.6	60.9	53.8	3.8

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問（2017 調査にない設問）

■社会・生活の動向に関する不安度（日本全体）属性分析4 〈地域別〉

- 地域別で見ると、地域間で差のある項目（例：「イ）大地震が起こる」など）も、差の小さい項目（例：「オ）地球温暖化問題が進行」など）もある。
- 上記傾向は居住地域の不安度と同様であるが、居住地域の不安度と比較し、日本全体の不安度は地域別・都市規模別の差が比較的少ない。

＜安全・安心＞

Q1-2. 各々の項目について「日本全体や社会のこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。（それぞれひとつだけ）

（%）

		不安を感じる計	n	●安全・安心									
				ア)災害が頻発・激甚化（する）	イ)大地震が起こる	ウ)食料供給に不安が生じる	エ)エネルギー供給に不安が生じる	オ)地球温暖化問題が進行（する）	カ)テロ、戦争が発生（する）	キ)治安が悪化し、犯罪が増加	ク)原発事故、放射性物質による汚染	ケ)交通事故、飛行機事故	コ)新型コロナなどにより、社会・経済・生活活動が停滞、破綻
全体			3000	81.9	83.0	68.5	67.7	72.6	61.3	66.8	63.6	48.9	79.4
地域ブロック別	北海道ブロック		120	80.0	80.0	66.7	69.2	71.7	60.0	65.8	68.3	40.8	80.8
	東北ブロック		210	79.5	76.2	64.8	68.1	71.0	61.0	68.1	59.0	50.5	77.1
	関東ブロック		1070	82.6	84.2	67.9	66.1	72.8	58.5	65.4	62.7	47.3	78.6
	北陸ブロック		120	75.8	74.2	62.5	65.0	72.5	61.7	67.5	63.3	45.8	71.7
	中部ブロック		360	81.7	85.8	71.7	70.3	72.8	61.1	66.4	62.8	49.2	78.1
	近畿ブロック		510	83.1	84.5	69.0	68.0	72.0	65.9	70.0	66.5	55.1	82.9
	中国ブロック		180	80.6	78.3	69.4	66.7	72.2	63.9	67.8	61.7	46.7	76.1
	四国ブロック		100	85.0	90.0	68.0	69.0	75.0	57.0	58.0	64.0	44.0	83.0
	九州・沖縄ブロック		330	82.1	82.4	70.6	70.3	73.3	63.6	67.9	64.8	50.0	82.7
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区		846	81.8	83.7	66.7	66.4	71.6	60.6	65.8	62.6	47.8	78.0
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市		302	82.8	86.8	69.2	67.5	71.9	63.2	62.9	65.2	50.3	80.1
	三大都市圏の上記以外の地域		499	85.8	87.4	72.5	70.3	76.2	63.7	73.5	67.3	53.9	83.6
	地方中枢都市		254	84.3	81.9	72.4	68.9	72.8	66.9	73.2	66.9	50.0	83.1
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地		248	79.8	80.6	66.1	64.9	73.0	62.5	64.5	60.1	42.7	76.6
	地方圏のその他の市		557	82.2	82.0	68.2	68.9	73.1	57.8	64.3	62.3	47.9	78.5
	地方圏の町村		202	77.7	78.7	67.8	70.8	72.3	61.4	64.9	63.4	46.5	79.7

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問（2017 調査にない設問）

■社会・生活の動向に関する不安度（日本全体）属性分析５ 〈地域別〉

＜活力・交流＞

Q1-2.　各々の項目について「日本全体や社会のこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。（それぞれひとつだけ）

（%）

	不安を感じる計	n	●活力・交流						
			サ)世界の経済状況が悪化	シ)日本の経済成長、景気が悪化	ス)日本社会での経済等の格差が拡大	セ)人口減少・少子化・高齢化が進行	ソ)地域間格差が拡大	タ)移動・交流を支える公共交通がなくなる	チ)効率性、採算性のよい施設しか維持されなくなる
全体		3000	72.7	76.7	72.0	72.2	60.8	55.8	59.1
地域ブロック別	北海道ブロック	120	75.0	78.3	71.7	71.7	63.3	54.2	59.2
	東北ブロック	210	73.8	76.2	73.3	70.5	61.9	56.7	58.1
	関東ブロック	1070	71.1	75.7	72.0	71.8	57.9	53.7	57.4
	北陸ブロック	120	65.8	67.5	68.3	70.8	60.0	52.5	55.8
	中部ブロック	360	73.1	76.9	71.9	73.9	64.2	56.1	59.7
	近畿ブロック	510	75.1	79.4	73.3	73.7	62.0	59.4	61.4
	中国ブロック	180	68.9	76.7	63.9	69.4	58.9	55.6	60.0
	四国ブロック	100	77.0	78.0	77.0	74.0	63.0	58.0	64.0
	九州・沖縄ブロック	330	75.2	78.5	73.3	71.8	63.3	57.6	60.6
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	846	70.4	75.4	70.2	71.4	58.0	53.5	57.7
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	302	74.8	78.1	72.8	72.5	59.6	54.6	56.0
	三大都市圏の上記以外の地域	499	77.2	80.8	76.2	75.6	64.9	60.7	64.7
	地方中枢都市	254	78.7	80.3	71.7	72.4	61.8	57.1	59.8
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地	248	68.1	72.2	69.0	71.8	62.5	52.0	60.5
	地方圏のその他の市	557	71.8	76.1	72.7	72.4	62.3	57.1	59.6
	地方圏の町村	202	72.3	78.2	73.3	71.8	60.9	58.9	58.4

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問（2017 調査にない設問）

■社会・生活の動向に関する不安度（日本全体）属性分析6　●心豊かな暮らし〈地域別〉

＜心豊かな暮らし＞

Q1-2.　各々の項目について「日本全体や社会のこと」として、不安を感じるかどうかお答えください。（それぞれひとつだけ）

（%）

		不安を感じる計	n	●心豊かな暮らし						ひとつもない
				ツ)自然・景観が損なわれる	テ)子育て、教育などの環境が悪くなる	ト)空き家が増えるなどで生活環境が悪化	ナ)地域内の日常的な移動・交流を支える公共交通がなくなる	ニ)地域文化が衰退	ヌ)地域社会が衰退	
全体			3000	59.7	59.6	60.0	55.3	56.3	52.8	7.0
地域ブロック別	北海道ブロック		120	52.5	53.3	55.8	54.2	52.5	54.2	4.2
	東北ブロック		210	51.0	62.4	61.0	55.7	55.2	53.3	5.2
	関東ブロック		1070	60.5	57.8	58.5	52.4	55.9	50.4	7.0
	北陸ブロック		120	59.2	61.7	58.3	53.3	52.5	50.0	8.3
	中部ブロック		360	59.4	59.7	59.7	56.1	56.1	50.8	6.7
	近畿ブロック		510	64.3	62.4	62.4	58.0	58.2	57.5	6.7
	中国ブロック		180	58.9	56.1	57.2	57.2	55.0	52.2	11.7
	四国ブロック		100	59.0	62.0	60.0	63.0	56.0	57.0	3.0
	九州・沖縄ブロック		330	59.4	62.1	64.8	57.3	59.4	54.8	8.2
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区		846	61.1	57.1	58.3	52.1	56.5	52.0	7.3
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市		302	59.9	57.6	59.6	53.0	53.6	50.3	5.0
	三大都市圏の上記以外の地域		499	62.5	63.1	63.1	58.9	57.9	54.5	6.2
	地方中枢都市		254	58.3	59.8	60.2	56.7	60.2	56.3	5.9
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地		248	60.5	61.3	61.7	56.9	57.7	56.0	8.1
	地方圏のその他の市		557	57.5	61.2	61.2	56.7	56.0	52.8	6.3
	地方圏の町村		202	57.9	59.9	59.9	60.4	55.0	51.5	8.4

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問（2017 調査にない設問）

2. 社会・生活の動向に対する重要度

■社会・生活の動向に対する重要度（Q2）

・　今回設定した 30 項目のうち、28 項目において、重要であるとの回答が 70%以上であり、「安全・安心」、「活力・交流」、「心豊かな暮らし」、いずれに関しても、全般的に重要度は高いとされている。

Q2.　　安全で活力ある快適な暮らしをする上で、あなたは次の各項目について重要だと思いますか。（それぞれひとつだけ）

（n=3000）　　（%）

				非常に重要	重要	重要度は低い	わからない	重要計
●安全・安心	ア）	災害の頻発・激甚化から護られる（こと）	○	37.4	50.7	6.5	5.4	88.1
	イ）	大地震から護られる（こと）	◎	41.3	44.6	7.9	6.1	86.0
	ウ）	エネルギーが安定的に供給される（こと）	○	38.6	50.2	6.2	4.9	88.9
	エ）	地球温暖化が進まないようにする	○	32.6	47.0	13.4	7.0	79.7
	オ）	食品の供給や安全性を確保すること	○	37.8	50.6	6.9	4.6	88.4
	カ）	テロ、戦争が起きないようにする	◎	41.5	41.8	10.7	6.0	83.3
	キ）	治安を維持し、犯罪を防ぐ	◎	41.2	46.7	7.2	4.9	87.9
	ク）	原発事故等を起こさないようにする	◎	42.8	41.7	9.9	5.6	84.5
	ケ）	交通事故、飛行機事故を防ぐ	○	30.2	49.9	14.0	5.9	80.1
●活力・交流	コ）	強い国際競争力が保持される		23.8	49.2	17.3	9.7	73.0
	サ）	活力ある日本の経済が保持される	○	34.7	51.3	8.4	5.6	86.0
	シ）	活力ある地域の社会が保持される		27.6	54.4	11.8	6.3	81.9
	ス）	技術革新の進展、展開がなされる	○	31.0	49.7	12.4	7.0	80.6
	セ）	観光振興がなされ、多くの人が訪れる（こと）		18.3	42.7	30.4	8.7	60.9
	ソ）	地域間や都市間を円滑に人や物が移動できる		20.9	54.7	18.0	6.4	75.6
	タ）	情報基盤施設が整備される		23.6	50.2	18.9	7.4	73.8
	チ）	雇用が維持され、収入が確保される	◎	43.0	45.6	6.6	4.9	88.5
	ツ）	インフラ（社会資本）の保全により、経済や社会の効率・活力を高める		27.9	54.9	10.6	6.7	82.7
	テ）	外国人観光客・労働者の増加などに伴うグローバル化に対応する		12.3	37.2	37.5	13.0	49.6
●心豊かな暮らし	ト）	家族が心豊かに快適に暮らせる	◎	53.3	37.9	4.4	4.4	91.2
	ナ）	自分や家族が健康である	◎	63.6	28.9	3.6	3.9	92.5
	ニ）	自分や家族の仕事が充実している	◎	49.9	39.9	5.9	4.3	89.8
	ヌ）	生活に必要な収入が確保される	◎	58.3	34.3	3.8	3.6	92.6
	ネ）	医療・福祉体制が充実している	◎	52.3	39.5	4.0	4.2	91.8
	ノ）	子育てや教育の環境が充実している	◎	40.7	42.4	10.6	6.2	83.1
	ハ）	相互に助け合う地域社会が維持される		27.9	51.5	13.6	7.0	79.4
	ヒ）	快適で美しい街並みや居住環境が保持、形成される		27.4	52.7	14.2	5.7	80.1
	フ）	資源・エネルギーの再利用等がなされ脱炭素社会が構築される		26.6	50.0	15.4	8.0	76.6
	ヘ）	人と自然が共生する生活を送れる	○	30.8	50.5	12.6	6.1	81.2
	ホ）	地域の人々が快適で便利な社会生活を送れる		29.6	53.7	11.1	5.6	83.3

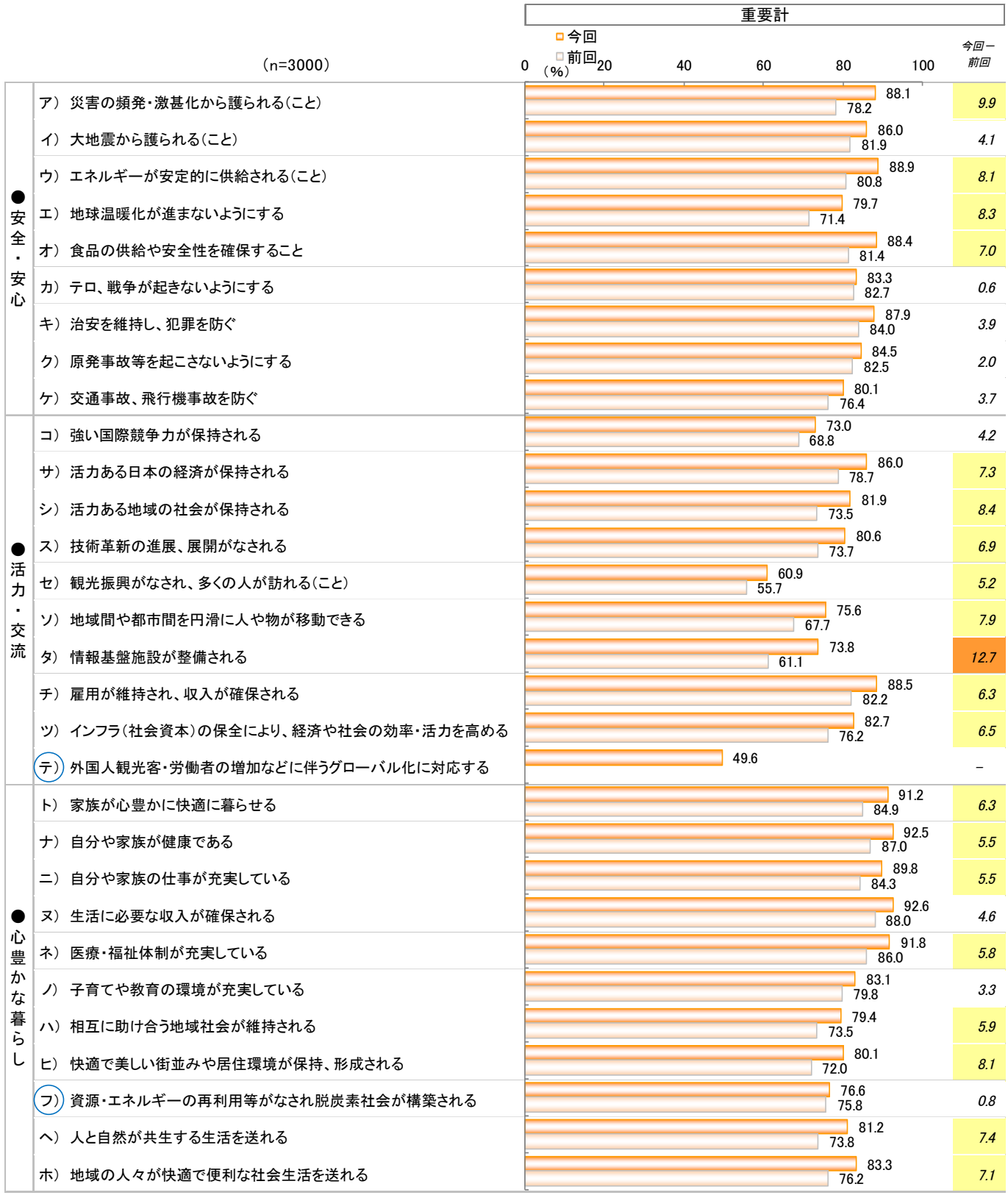
※フ）資源・エネルギーの再利用等がなされ脱炭素社会が構築される　→　2017年「資源・エネルギーの再利用等がなされる循環型社会が構築されること」で聴取

■80%～　■70%～79.9%　■60%～69.9%　■50%～59.9%　○新設問（2017 調査にない設問）

非常に重要　◎40%～　○30%～39.9%

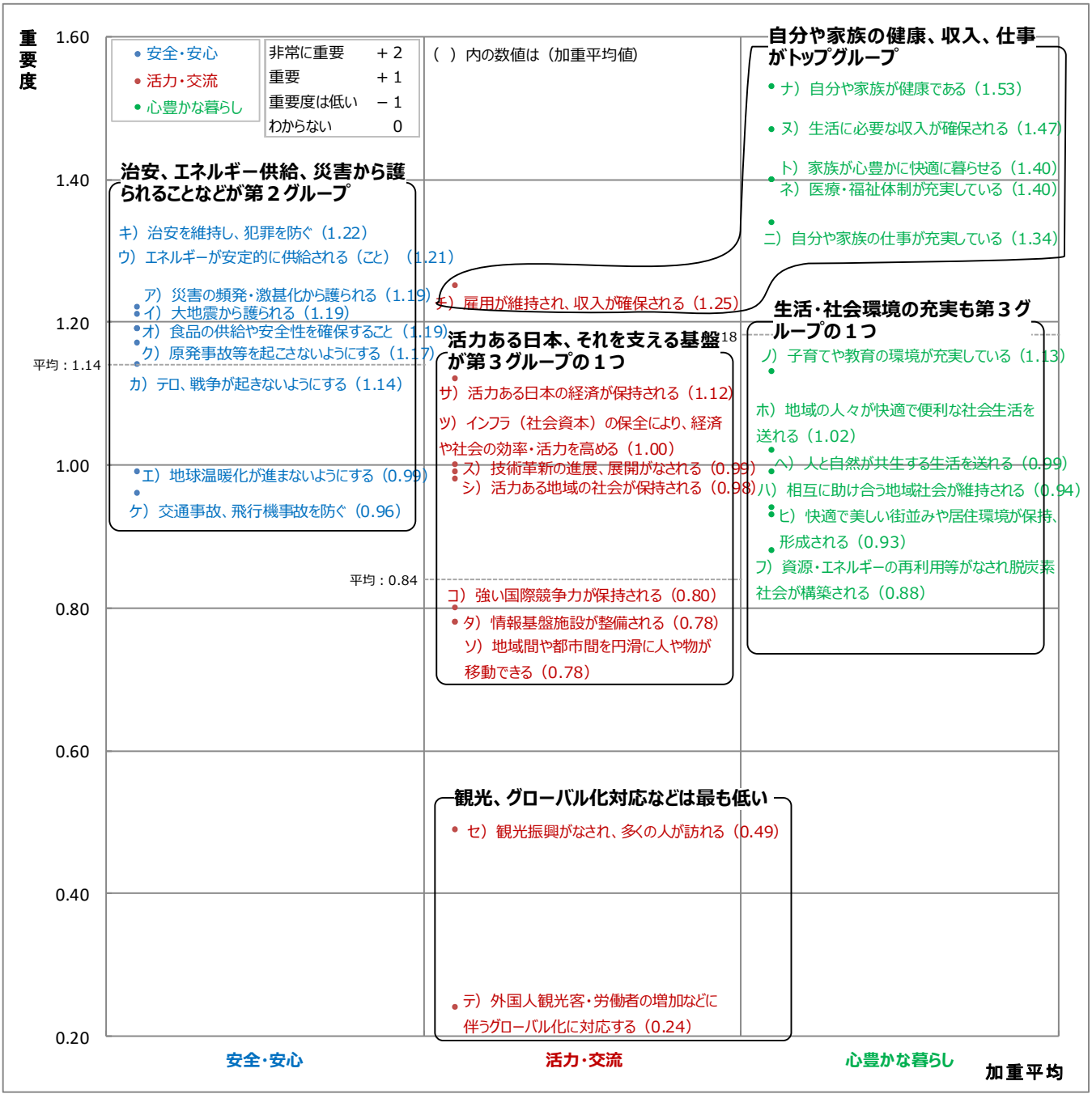
【前回比較】

・　前回調査との比較では、全ての項目において重要との回答が増えている。「安全・安心」、「活力・交流」、「心豊かな暮らし」、それぞれ・に関する項目の平均増加率は 5.3%、7.3%、5.5%となっており、活力・交流に関する項目についての増加率が比較的高い。



■社会・生活の動向に対する重要度（Q2）加重平均グラフ

- 「自分や家族が健康で安定した暮らしが送れること」「収入・仕事が確保されること」がトップグループ。
- 第2グループは、「治安」「エネルギー供給」「災害から護られること」「テロ・戦争が起きないようにする」などの「安全・安心」。
- 第3グループは2つあり、1つは「活力ある日本、それを支える基盤とするもの」。もう1つは、「生活・環境の充実」。「観光」「グローバル化対応」は最も低い。



・各項目別に非常に重要2、重要1、重要度は低い－1、わからない0を与え、回答者割合をかけ加重平均したものをプロット。

2-1.社会・生活の動向に対する重要度属性分析

■社会・生活の動向に対する重要度属性分析1 〈性・年代別〉

・ 全体的に女性は男性より重要度が高い。特に心豊かな暮らしに関する項目において、男女差が大きい【P50】。
・ 年代別で見ると、上の年代ほど不安度の高い項目（例：「エ）地球温暖化が進まないようにする」など）、下の年代ほど不安度の高い項目（例：「ケ）交通事故、飛行機事故」など）、年代による差が少ない項目（例：「コ）強い国際競争力が保持されること」など）などがある。

＜安全・安心＞

Q2. 安全で活力ある快適な暮らしをする上で、あなたは次の各項目について重要だと思いますか。（それぞれひとつだけ）

（%）

非常に重要		n	●安全・安心								
			ア）災害の頻発・激甚化から護られる（こと）	イ）大地震から護られる（こと）	ウ）エネルギーが安定的に供給される（こと）	エ）地球温暖化が進まないようにする	オ）食品の供給や安全性を確保すること	カ）テロ、戦争が起きないようにする	キ）治安を維持し、犯罪を防ぐ	ク）原発事故等を起こさないようにする	ケ）交通事故、飛行機事故を防ぐ
全体		3000	37.4	41.3	38.6	32.6	37.8	41.5	41.2	42.8	30.2
性別	男性	1500	31.7	35.5	34.1	25.0	31.5	34.8	35.3	36.5	24.7
	女性	1500	43.2	47.2	43.2	40.3	44.1	48.2	47.1	49.1	35.7
年代	18～29歳	600	35.8	38.3	39.3	30.3	36.8	43.3	43.8	36.7	36.2
	30代	600	37.0	43.7	41.2	31.8	42.3	44.8	46.0	41.7	35.7
	40代	600	39.2	41.0	38.0	29.3	37.3	39.7	42.2	42.8	30.5
	50代	600	38.3	39.7	39.2	34.5	36.8	42.0	40.5	46.2	27.8
	60～79歳	600	36.8	44.0	35.5	37.2	35.7	37.7	33.3	46.5	20.7
性年代	男性18-29歳	300	26.7	29.3	34.7	22.7	29.3	32.3	34.7	27.0	28.0
	男性30代	300	27.3	38.0	37.3	23.3	34.3	38.0	40.3	36.3	29.7
	男性40代	300	35.7	35.7	33.7	20.7	33.0	33.0	38.3	37.7	25.7
	男性50代	300	35.3	37.3	34.3	28.3	31.7	38.0	34.7	40.0	24.0
	男性60-79歳	300	33.3	37.0	30.3	30.0	29.3	32.7	28.3	41.3	16.0
	女性18-29歳	300	45.0	47.3	44.0	38.0	44.3	54.3	53.0	46.3	44.3
	女性30代	300	46.7	49.3	45.0	40.3	50.3	51.7	51.7	47.0	41.7
	女性40代	300	42.7	46.3	42.3	38.0	41.7	46.3	46.0	48.0	35.3
	女性50代	300	41.3	42.0	44.0	40.7	42.0	46.0	46.3	52.3	31.7
	女性60-79歳	300	40.3	51.0	40.7	44.3	42.0	42.7	38.3	51.7	25.3
世帯構成	1人世帯	643	33.1	38.7	37.8	27.4	36.5	38.4	39.7	38.6	29.4
	1世代世帯（夫婦のみ）	737	37.9	40.8	37.2	35.5	36.0	41.2	38.0	45.0	26.3
	2世代世帯（親と子）	1413	39.0	43.0	40.1	33.2	39.9	42.8	43.9	43.2	32.6
	3世代世帯（親と子と孫）	156	43.6	44.2	38.5	35.9	37.2	44.9	41.0	48.7	32.1

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い
○新設問（2017 調査にない設問）

■社会・生活の動向に対する重要度属性分析2 〈性・年代別〉

＜活力・交流＞

Q2.　安全で活力ある快適な暮らしをするうえで、あなたは次の各項目について重要だと思いますか。(それぞれひとつだけ)

(%)

非常に重要		n	●活力・交流									
			コ)強い国際競争力が保持される	サ)活力ある日本の経済が保持される	シ)活力ある地域の社会が保持される	ス)技術革新の進展、展開がなされる	セ)観光振興がなされ、多くの人が訪れる(こと)	ソ)地域間や都市間を円滑に人や物が移動できる	タ)情報基盤施設が整備される	チ)雇用が維持され、収入が確保される	ツ)インフラ(社会資本)の保全により、経済や社会の効率・活力を高める	テ)外国人観光客・労働者の増加などに伴うグローバル化に対応する
全体		3000	23.8	34.7	27.6	31.0	18.3	20.9	23.6	43.0	27.9	12.3
性別	男性	1500	25.0	32.9	25.0	32.5	17.8	18.5	23.3	36.5	25.4	11.5
	女性	1500	22.6	36.4	30.1	29.4	18.7	23.3	23.9	49.5	30.3	13.2
年代	18～29歳	600	24.0	38.7	33.2	32.7	27.0	28.8	29.8	48.3	32.8	18.7
	30代	600	25.0	40.8	33.0	34.8	22.2	24.8	29.8	47.2	32.8	14.3
	40代	600	23.3	32.8	25.5	30.2	16.8	18.7	20.8	43.0	26.7	11.2
	50代	600	25.2	32.8	24.8	28.8	15.5	18.0	22.3	42.2	25.2	10.0
	60～79歳	600	21.5	28.2	21.3	28.3	9.8	14.2	15.0	34.2	21.8	7.5
性年代	男性18-29歳	300	25.0	35.0	28.0	32.3	26.0	24.7	27.3	36.3	29.7	17.7
	男性30代	300	27.7	38.3	28.7	35.7	21.7	21.7	29.3	40.0	30.3	13.3
	男性40代	300	23.7	31.7	24.3	33.3	15.0	16.0	19.7	38.3	23.3	9.3
	男性50代	300	26.7	34.0	25.7	30.3	15.3	17.7	24.0	37.7	24.0	10.0
	男性60-79歳	300	22.0	25.7	18.3	31.0	11.0	12.7	16.0	30.0	19.7	7.0
	女性18-29歳	300	23.0	42.3	38.3	33.0	28.0	33.0	32.3	60.3	36.0	19.7
	女性30代	300	22.3	43.3	37.3	34.0	22.7	28.0	30.3	54.3	35.3	15.3
	女性40代	300	23.0	34.0	26.7	27.0	18.7	21.3	22.0	47.7	30.0	13.0
	女性50代	300	23.7	31.7	24.0	27.3	15.7	18.3	20.7	46.7	26.3	10.0
	女性60-79歳	300	21.0	30.7	24.3	25.7	8.7	15.7	14.0	38.3	24.0	8.0
世帯構成	1人世帯	643	22.9	33.9	27.5	29.5	20.7	20.5	24.6	41.8	27.8	13.4
	1世代世帯(夫婦のみ)	737	22.8	31.1	23.7	30.3	15.5	19.5	20.1	40.0	25.1	10.3
	2世代世帯(親と子)	1413	24.6	37.0	28.9	32.0	18.8	21.9	25.1	44.9	29.4	13.0
	3世代世帯(親と子と孫)	156	28.8	36.5	34.6	33.3	19.2	20.5	26.3	45.5	30.8	14.1

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問(2017 調査にない設問)

■社会・生活の動向に対する重要度属性分析3 〈性・年代別〉

＜心豊かな暮らし＞

Q2.　安全で活力ある快適な暮らしをするうえで、あなたは次の各項目について重要だと思いますか。(それぞれひとつだけ)

(%)

非常に重要		n	●心豊かな暮らし											ひとつもない
			ト)家族が心豊かに快適に暮らせる	ナ)自分や家族が健康である	ニ)自分や家族の仕事が充実している	ヌ)生活に必要な収入が確保される	ネ)医療・福祉体制が充実している	ノ)子育てや教育の環境が充実している	ハ)相互に助け合う地域社会が維持される	ヒ)快適で美しい街並みや居住環境が保持、形成される	フ)資源・エネルギーの再利用等がなされ脱炭素社会が構築される	ヘ)人と自然が共生する生活を送れる	ホ)地域の人々が快適で便利な社会生活を送れる	
全体		3000	53.3	63.6	49.9	58.3	52.3	40.7	27.9	27.4	26.6	30.8	29.6	18.5
性別	男性	1500	44.9	55.8	41.4	49.0	42.2	34.3	22.8	22.7	21.0	25.5	24.5	23.0
	女性	1500	61.6	71.5	58.5	67.5	62.4	47.2	33.1	32.2	32.1	36.1	34.7	14.1
年代	18～29歳	600	53.5	57.8	52.7	57.2	51.2	48.3	34.7	34.7	26.7	33.8	34.7	20.7
	30代	600	60.5	66.8	55.3	65.0	56.2	52.0	31.2	34.2	30.7	37.0	35.8	16.7
	40代	600	53.2	67.8	53.0	63.7	54.0	40.2	25.2	24.2	23.0	27.8	26.5	18.2
	50代	600	50.7	65.2	47.8	57.5	50.3	31.5	25.0	23.0	25.0	27.0	26.7	18.8
	60～79歳	600	48.5	60.5	40.8	48.0	49.8	31.7	23.7	21.2	27.5	28.2	24.5	18.3
性年代	男性18-29歳	300	40.0	44.3	42.3	43.7	37.7	35.3	28.3	28.7	21.7	29.0	26.3	27.7
	男性30代	300	52.3	58.7	45.0	55.3	42.7	43.0	24.3	26.0	23.0	29.7	28.7	20.7
	男性40代	300	45.7	61.7	45.0	55.0	45.7	39.3	21.7	21.0	16.7	22.3	22.3	21.3
	男性50代	300	43.0	56.3	39.3	49.0	41.3	26.3	21.3	20.7	21.7	24.0	24.3	25.7
	男性60-79歳	300	43.7	58.0	35.3	42.0	43.7	27.3	18.3	17.0	22.0	22.3	21.0	19.7
	女性18-29歳	300	67.0	71.3	63.0	70.7	64.7	61.3	41.0	40.7	31.7	38.7	43.0	13.7
	女性30代	300	68.7	75.0	65.7	74.7	69.7	61.0	38.0	42.3	38.3	44.3	43.0	12.7
	女性40代	300	60.7	74.0	61.0	72.3	62.3	41.0	28.7	27.3	29.3	33.3	30.7	15.0
	女性50代	300	58.3	74.0	56.3	66.0	59.3	36.7	28.7	25.3	28.3	30.0	29.0	12.0
	女性60-79歳	300	53.3	63.0	46.3	54.0	56.0	36.0	29.0	25.3	33.0	34.0	28.0	17.0
世帯構成	1人世帯	643	45.6	55.8	45.6	55.5	50.5	35.6	27.2	26.9	24.7	30.6	29.4	22.9
	1世代世帯(夫婦のみ)	737	52.9	65.0	47.6	55.4	49.8	35.1	26.1	25.1	27.1	29.2	28.2	17.2
	2世代世帯(親と子)	1413	57.0	66.5	53.1	61.3	54.2	45.6	29.0	28.7	27.0	31.6	30.9	17.1
	3世代世帯(親と子と孫)	156	57.7	67.3	53.2	59.6	57.1	50.6	33.3	32.1	29.5	35.3	29.5	14.7

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問(2017 調査にない設問)

■社会・生活の動向に対する重要度属性分析4 〈地域別〉

- 地域別で見ると、地域間の差の大きな項目（例：「イ）大地震から護られる」など）も、差の小さい項目（例：「サ）活力ある日本経済が保持される」など）もある。
- 都市規模別で見ると、地域別と比較して差は小さい。
- 北海道は多くの項目で、他のブロックと比較し、特に低い。

＜安全・安心＞

Q2. 安全で活力ある快適な暮らしをする上で、あなたは次の各項目について重要だと思いますか。（それぞれひとつだけ）

（%）

非常に重要		n	●安全・安心								
			ア）災害の頻発・激甚化から護られる（こと）	イ）大地震から護られる（こと）	ウ）エネルギーが安定的に供給される（こと）	エ）地球温暖化が進まないようにする	オ）食品の供給や安全性を確保すること	カ）テロ、戦争が起きないようにする	キ）治安を維持し、犯罪を防ぐ	ク）原発事故等を起こさないようにする	ケ）交通事故、飛行機事故を防ぐ
全体		3000	37.4	41.3	38.6	32.6	37.8	41.5	41.2	42.8	30.2
地域ブロック別	北海道ブロック	120	28.3	26.7	30.0	20.0	31.7	35.0	34.2	37.5	21.7
	東北ブロック	210	40.5	37.6	45.2	33.8	40.0	41.9	41.9	44.8	35.7
	関東ブロック	1070	39.7	44.3	39.3	35.0	38.4	43.6	41.4	42.9	30.8
	北陸ブロック	120	33.3	25.8	39.2	31.7	37.5	40.8	44.2	42.5	30.8
	中部ブロック	360	34.4	48.1	32.5	28.6	34.7	36.9	38.1	42.2	29.4
	近畿ブロック	510	35.7	42.4	39.6	30.6	37.1	41.0	42.0	42.2	29.4
	中国ブロック	180	36.1	36.1	39.4	36.1	37.8	41.1	37.8	42.8	32.2
	四国ブロック	100	42.0	56.0	41.0	31.0	40.0	40.0	44.0	47.0	32.0
	九州・沖縄ブロック	330	38.2	34.5	39.1	35.2	40.6	43.6	44.5	43.3	27.6
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	846	39.4	46.5	40.0	32.3	37.1	42.3	41.6	42.9	31.1
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	302	35.4	44.7	37.1	33.1	39.4	43.7	38.7	42.7	28.8
	三大都市圏の上記以外の地域	499	36.7	41.5	34.3	30.3	34.9	39.7	41.1	41.5	28.5
	地方中枢都市	254	36.2	35.8	41.3	30.7	42.9	46.1	44.5	46.5	30.7
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地	248	32.7	35.1	39.1	32.7	38.3	39.1	39.9	38.7	29.0
	地方圏のその他の市	557	41.8	40.2	43.3	36.1	40.0	41.7	42.7	45.6	31.8
	地方圏の町村	202	33.2	35.6	34.2	33.2	37.1	38.6	40.1	41.6	28.7

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問（2017 調査にない設問）

■社会・生活の動向に対する重要度属性分析5〈地域別〉

＜活力・交流＞

Q2.　安全で活力ある快適な暮らしをするうえで、あなたは次の各項目について重要だと思いますか。(それぞれひとつだけ)

(%)

非常に重要		n	●活力・交流									
			コ)強い国際競争力が保持される	サ)活力ある日本の経済が保持される	シ)活力ある地域の社会が保持される	ス)技術革新の進展、展開がなされる	セ)観光振興がなされ、多くの人が訪れる(こと)	ソ)地域間や都市間を円滑に人や物が移動できる	タ)情報基盤施設が整備される	チ)雇用が維持され、収入が確保される	ツ)インフラ(社会資本)の保全により、経済や社会の効率・活力を高める	テ)外国人観光客・労働者の増加などに伴うグローバル化に対応する
全体		3000	23.8	34.7	27.6	31.0	18.3	20.9	23.6	43.0	27.9	12.3
地域ブロック別	北海道ブロック	120	13.3	30.0	16.7	19.2	13.3	10.0	11.7	38.3	17.5	5.0
	東北ブロック	210	24.8	38.6	32.9	31.4	20.0	24.3	26.2	49.5	37.6	14.3
	関東ブロック	1070	23.9	34.2	26.4	31.8	16.8	21.1	23.4	42.6	27.5	12.1
	北陸ブロック	120	20.8	35.8	32.5	31.7	25.0	26.7	23.3	42.5	30.0	15.0
	中部ブロック	360	24.2	32.2	23.9	30.6	18.3	17.8	21.1	40.3	25.6	12.2
	近畿ブロック	510	22.7	34.1	28.4	32.5	17.3	20.0	24.5	41.8	26.1	11.6
	中国ブロック	180	22.2	33.9	24.4	28.9	18.3	21.1	23.3	41.1	25.6	13.3
	四国ブロック	100	29.0	39.0	30.0	32.0	19.0	22.0	27.0	47.0	33.0	18.0
	九州・沖縄ブロック	330	28.2	37.6	33.9	30.9	22.4	24.2	27.3	46.4	30.9	12.4
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	846	24.7	35.2	26.0	32.2	17.0	19.4	22.1	42.2	27.3	12.5
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	302	23.8	34.4	26.2	31.8	17.2	19.5	25.8	44.7	24.8	13.6
	三大都市圏の上記以外の地域	499	22.2	31.1	27.3	30.9	16.0	21.6	23.8	39.3	26.7	11.2
	地方中枢都市	254	28.0	38.6	30.3	33.9	22.0	23.2	22.8	50.4	31.5	12.2
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地	248	19.4	34.3	27.0	26.2	19.0	20.6	20.6	41.9	26.6	14.1
	地方圏のその他の市	557	24.6	37.3	31.6	31.6	20.3	23.7	27.6	45.1	32.0	12.4
	地方圏の町村	202	23.8	32.2	24.8	29.2	18.8	18.8	21.8	42.1	24.8	10.4

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問(2017 調査にない設問)

■社会・生活の動向に対する重要度属性分析6〈地域別〉

＜心豊かな暮らし＞

Q2.　安全で活力ある快適な暮らしをする上で、あなたは次の各項目について重要だと思いますか。(それぞれひとつだけ)

(%)

	非常に重要	n	●心豊かな暮らし											ひとつもない
			ト)家族が心豊かに快適に暮らせる	ナ)自分や家族が健康である	ニ)自分や家族の仕事が充実している	ヌ)生活に必要な収入が確保される	ネ)医療・福祉体制が充実している	ノ)子育てや教育の環境が充実している	ハ)相互に助け合う地域社会が維持される	ヒ)快適で美しい街並みや居住環境が保持、形成される	フ)資源・エネルギーの再利用等がなされ脱炭素社会が構築される	ヘ)人と自然が共生する生活を送れる	ホ)地域の人々が快適で便利な社会生活を送れる	
全体		3000	53.3	63.6	49.9	58.3	52.3	40.7	27.9	27.4	26.6	30.8	29.6	18.5
地域ブロック別	北海道ブロック	120	49.2	61.7	47.5	55.0	50.0	29.2	21.7	20.8	15.8	22.5	24.2	20.8
	東北ブロック	210	56.2	63.3	52.9	61.9	56.7	44.8	28.1	29.5	29.5	30.5	33.8	19.0
	関東ブロック	1070	54.5	65.0	50.2	59.6	53.0	39.8	26.7	27.6	26.3	32.1	28.9	17.9
	北陸ブロック	120	55.8	69.2	54.2	55.8	63.3	51.7	35.8	35.0	29.2	35.0	38.3	18.3
	中部ブロック	360	50.8	63.6	46.7	55.3	52.5	41.1	27.5	25.6	25.3	29.4	28.3	18.1
	近畿ブロック	510	51.8	63.1	49.6	59.4	52.2	42.2	26.7	27.3	24.7	28.0	28.8	17.3
	中国ブロック	180	45.6	54.4	42.8	49.4	42.8	33.9	26.7	22.8	27.2	31.1	30.6	23.9
	四国ブロック	100	56.0	62.0	48.0	59.0	52.0	35.0	26.0	28.0	27.0	26.0	27.0	19.0
	九州・沖縄ブロック	330	56.4	64.2	55.2	59.7	49.4	44.2	34.8	30.0	32.4	34.8	31.2	18.8
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	846	54.1	63.6	50.5	59.5	52.1	39.2	26.0	28.6	26.2	31.7	30.1	17.7
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	302	55.3	66.9	50.7	62.9	55.0	42.1	26.5	26.2	25.8	30.8	26.2	14.2
	三大都市圏の上記以外の地域	499	50.3	63.9	46.1	55.1	53.1	41.5	27.7	24.2	25.3	28.3	27.7	19.4
	地方中枢都市	254	55.9	68.9	55.1	62.6	52.8	39.8	34.3	30.3	26.0	33.9	34.6	16.1
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地	248	50.4	56.9	47.2	54.0	50.8	39.5	27.0	27.8	25.0	28.6	27.4	23.0
	地方圏のその他の市	557	54.8	64.5	50.6	58.0	52.1	43.6	28.7	27.3	30.0	32.1	32.3	16.9
	地方圏の町村	202	54.5	61.9	51.5	59.4	52.0	41.1	30.2	29.2	26.7	30.2	28.7	21.3

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問(2017 調査にない設問)

2-2.社会・生活に関する考え方

■社会・生活に関する考え方等(Q3)

・ 肯定的な回答が多い項目は、「地球環境に優しい生活をしたい」74.6%、「仕事よりも友人、家族等を大切にする暮らしに」67.1%、「ITなど新たな技術で生活や社会が便利になるのは良いことだ」62.9%、「安全・安心は全ての基盤なので、他のことより重視すべきだ」61.7%の順となっている。

Q3. あなたご自身は、社会・生活において、どのような考えをお持ちですか。(それぞれひとつだけ)

(%)

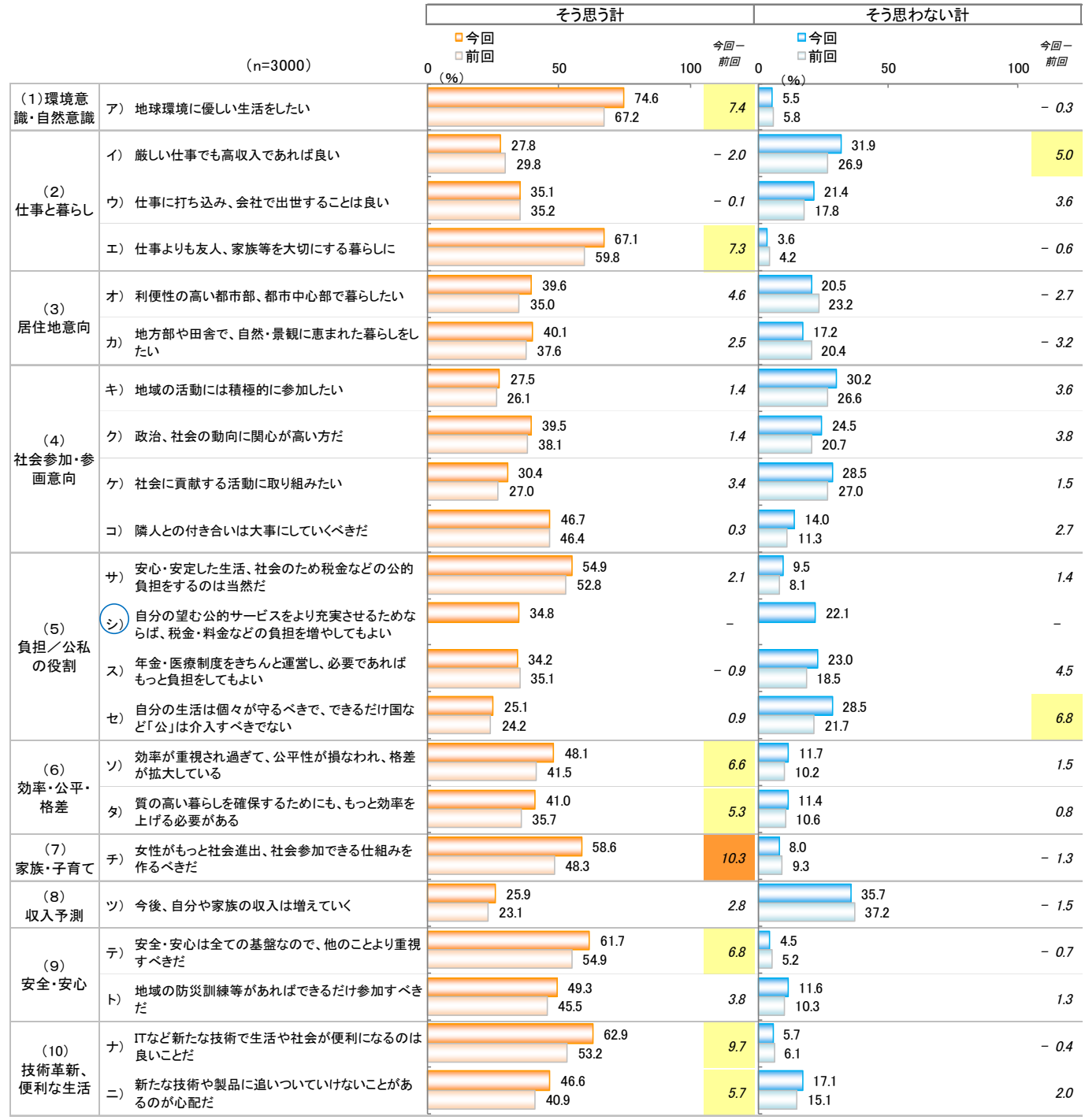
		(n=3000)	非常にそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	全くそう思わない	そう思う計	そう思わない計
(1)環境意識・自然意識	ア)	地球環境に優しい生活をしたい	19.4	55.2	19.8	3.6	2.0	74.6	5.5
(2)仕事と暮らし	イ)	厳しい仕事でも高収入であれば良い	7.4	20.4	40.3	24.0	7.9	27.8	31.9
	ウ)	仕事に打ち込み、会社で出世することは良い	7.2	27.9	43.5	14.9	6.5	35.1	21.4
	エ)	仕事よりも友人、家族等を大切にする暮らしに	22.5	44.7	29.3	2.6	1.0	67.1	3.6
(3)居住地意向	オ)	利便性の高い都市部、都市中心部で暮らしたい	10.4	29.2	39.9	14.9	5.6	39.6	20.5
	カ)	地方部や田舎で、自然・景観に恵まれた暮らしをしたい	9.5	30.6	42.7	12.4	4.7	40.1	17.2
(4)社会参加・参画意向	キ)	地域の活動には積極的に参加したい	5.2	22.4	42.3	20.7	9.5	27.5	30.2
	ク)	政治、社会の動向に関心が高い方だ	8.9	30.7	35.9	17.9	6.6	39.5	24.5
	ケ)	社会に貢献する活動に取り組みたい	5.5	24.8	41.1	19.6	8.9	30.4	28.5
	コ)	隣人との付き合いは大事にしていくべきだ	7.5	39.2	39.3	9.7	4.3	46.7	14.0
(5)負担／公私の役割	サ)	安心・安定した生活、社会のため税金などの公的負担をするのは当然だ	10.3	44.6	35.6	6.2	3.3	54.9	9.5
	㋑)	自分の望む公的サービスをより充実させるためならば、税金・料金などの負担を増やしてもよい	6.7	28.1	43.1	15.4	6.7	34.8	22.1
	ス)	年金・医療制度をきちんと運営し、必要であればもっと負担をしてもよい	6.7	27.5	42.9	15.4	7.6	34.2	23.0
	セ)	自分の生活は個々が守るべきで、できるだけ国など「公」は介入すべきでない	6.0	19.2	46.4	21.9	6.6	25.1	28.5
(6)効率・公平・格差	ソ)	効率が重視され過ぎて、公平性が損なわれ、格差が拡大している	12.8	35.3	40.2	9.2	2.5	48.1	11.7
	タ)	質の高い暮らしを確保するためにも、もっと効率を上げる必要がある	9.1	31.9	47.6	9.5	1.9	41.0	11.4
(7)家族・子育て	チ)	女性がもっと社会進出、社会参加できる仕組みを作るべきだ	16.6	42.0	33.4	5.4	2.6	58.6	8.0
(8)収入予測	ツ)	今後、自分や家族の収入は増えていく	6.6	19.3	38.4	23.5	12.2	25.9	35.7
(9)安全・安心	テ)	安全・安心は全ての基盤なので、他のことより重視すべきだ	16.0	45.6	33.8	3.2	1.3	61.7	4.5
	ト)	地域の防災訓練等があればできるだけ参加すべきだ	8.1	41.2	39.2	8.1	3.5	49.3	11.6
(10)技術革新、便利な生活	ナ)	ITなど新たな技術で生活や社会が便利になるのは良いことだ	16.4	46.4	31.5	4.0	1.6	62.9	5.7
	ニ)	新たな技術や製品に追いついていけないことがあるのが心配だ	10.5	36.1	36.3	12.1	5.0	46.6	17.1

■60%～ ■40%～59.9% ■30%～39.9% ■25%～29.9%

○新設問(2017 調査にない設問)

【前回比較】

・ 前回調査との比較では、「女性がもっと社会進出、社会参加できる仕組みを作るべきだ」がもっとも肯定的な回答の増加が大きく、唯一 10 ポイント以上増えている。逆に否定的な回答が増えている項目として、「厳しい仕事でも高収入であれば良い」、「自分の生活は個々が守るべきで、できるだけ国など「公」は介入すべきでない」の2つが上げられ、この2つの項目は 5 ポイント以上否定的な回答が増えている。



■10%～ ■5.0%～9.9% ■-5.0%～-9.9% ■-10%～

○新設問（2017 調査にない設問）

■社会・生活に関する考え方等（Q3）属性分析1　〈性・年代別〉

- 「（1）環境意識」については、男性より女性のほうが、15 ポイント以上「そう思う」計が高い。また、年代別に見ると、上の年代ほど「そう思う」計が高い。
- 「（2）仕事と暮らし」については、女性より男性のほうが、仕事を重視する回答の割合が高い。また、年代別に見ると、若い世代のほうが仕事を重視する割合が高い。
- 「（4）社会参加・参画意向」、「（5）負担/公私の役割」については、60 歳～79 歳が、他の年代と比べ、特に積極的な傾向にある。

（1）環境意識・自然～（5）負担／公私の役割

Q3.　あなたご自身は、社会・生活において、どのような考えをお持ちですか。（それぞれひとつだけ）

（%）

	そう思う計	n	（1）環境意識・自然意識	（2）仕事と暮らし			（3）居住地意向		（4）社会参加・参画意向				（5）負担／公私の役割			
			ア）地球環境に優しい生活をしたい	イ）厳しい仕事でも高収入であれば良い	ウ）仕事に打ち込み、会社で出世することは良い	エ）仕事よりも友人、家族等を大切にする暮らしに	オ）利便性の高い都市部、都市中心部で暮らしたい	カ）地方部や田舎で、自然・景観に恵まれた暮らしをしたい	キ）地域の活動には積極的に参加したい	ク）政治、社会の動向に関心が高い方だ	ケ）社会に貢献する活動に取り組みたい	コ）隣人との付き合いは大事にしていくべきだ	サ）安心・安定した生活、社会のため税金などの公的負担をするのは当然だ	シ）自分の望む公的サービスをより充実させるためならば、税金・料金などの負担を増やしてもよい	ス）年金・医療制度をきちんと運営し、必要であればもっと負担をしてもよい	セ）自分の生活は個々が守るべきで、できるだけ国など「公」は介入すべきでない
全体		3000	74.6	27.8	35.1	67.1	39.6	40.1	27.5	39.5	30.4	46.7	54.9	34.8	34.2	25.1
性別	男性	1500	65.9	32.3	35.5	62.9	37.1	42.7	32.0	45.7	31.5	46.6	54.7	39.0	38.2	28.3
	女性	1500	83.4	23.3	34.7	71.3	42.1	37.5	23.1	33.4	29.3	46.7	55.1	30.6	30.1	22.0
年代	18～29歳	600	68.7	35.0	47.3	71.8	45.2	46.3	31.5	34.5	35.2	40.5	53.0	36.7	34.0	34.3
	30代	600	71.2	31.3	38.8	73.0	39.7	43.5	26.2	33.3	29.2	44.0	51.5	35.8	34.0	27.3
	40代	600	70.3	31.3	36.5	66.0	41.2	36.7	24.8	37.2	27.7	44.5	50.8	32.5	31.5	21.5
	50代	600	79.0	21.7	28.2	66.0	38.0	36.0	23.5	37.5	25.8	44.0	55.2	31.2	31.8	20.0
	60～79歳	600	84.0	19.7	24.7	58.8	34.0	38.0	31.7	55.2	34.0	60.3	64.0	37.8	39.5	22.5
性年代	男性18-29歳	300	59.7	39.0	46.7	63.7	44.7	43.7	37.3	38.3	39.3	38.3	50.3	40.3	38.3	39.7
	男性30代	300	62.3	39.3	42.3	65.3	34.0	45.7	26.3	37.7	26.7	44.3	51.3	41.0	37.7	32.7
	男性40代	300	58.0	35.3	35.7	62.7	42.0	40.3	29.3	44.3	28.3	46.7	49.3	34.3	32.0	23.0
	男性50代	300	70.7	24.7	28.3	63.7	31.3	43.0	30.3	44.7	29.0	42.3	55.7	36.7	37.3	22.0
	男性60-79歳	300	78.7	23.0	24.7	59.3	33.3	41.0	36.7	63.3	34.0	61.3	67.0	42.7	45.7	24.0
	女性18-29歳	300	77.7	31.0	48.0	80.0	45.7	49.0	25.7	30.7	31.0	42.7	55.7	33.0	29.7	29.0
	女性30代	300	80.0	23.3	35.3	80.7	45.3	41.3	26.0	29.0	31.7	43.7	51.7	30.7	30.3	22.0
	女性40代	300	82.7	27.3	37.3	69.3	40.3	33.0	20.3	30.0	27.0	42.3	52.3	30.7	31.0	20.0
	女性50代	300	87.3	18.7	28.0	68.3	44.7	29.0	16.7	30.3	22.7	45.7	54.7	25.7	26.3	18.0
	女性60-79歳	300	89.3	16.3	24.7	58.3	34.7	35.0	26.7	47.0	34.0	59.3	61.0	33.0	33.3	21.0
世帯構成	1人世帯	643	71.2	32.7	36.1	62.8	40.3	40.7	26.9	36.5	31.7	36.1	50.7	32.2	33.4	27.4
	1世代世帯（夫婦のみ）	737	78.6	23.3	31.1	65.1	38.9	37.2	26.9	42.9	30.5	48.3	57.5	35.7	36.5	22.0
	2世代世帯（親と子）	1413	74.0	27.9	36.9	69.9	40.3	40.1	27.7	38.3	28.8	49.6	55.6	35.5	34.0	25.1
	3世代世帯（親と子と孫）	156	80.8	28.8	34.0	75.6	36.5	53.8	35.3	46.8	37.8	59.0	57.7	39.1	31.4	31.4

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い
○新設問（2017 調査にない設問）

■社会・生活に関する考え方等(Q3)属性分析2　〈性・年代別〉

- 「(6)効率・公平・格差」について、若い年代が効率を重視し、上の年代が公平性を重視する傾向が見られる。
- 「(7)家族・子育て」について、特に、女性 18 歳～30 代が女性の社会進出・参加への意識が高い。
- 「(9)安全・安心」について、男性より女性のほうが、「そう思う」計の割合が高い。また、年代別で見ると、60 歳～79 歳は他の年代と比較し、「そう思う」計の割合が高い。

(6)効率・公平・格差～(10)技術革新、便利な生活

Q3.　あなたご自身は、社会・生活において、どのような考えをお持ちですか。(それぞれひとつだけ)

(%)

そう思う計		n	(6) 効率・公平・格差		(7) 家族・子育て	(8) 収入予測	(9) 安全・安心		(10) 技術革新、便利な生活		ひとつもない
			ソ)効率が重視され過ぎて、公平性が損なわれ、格差が拡大している	タ)質の高い暮らしを確保するためにも、もっと効率を上げる必要がある	チ)女性がもっと社会進出、社会参加できる仕組みを作るべきだ	ツ)今後、自分や家族の収入は増えていく	テ)安全・安心は全ての基盤なので、他のことより重視すべきだ	ト)地域の防災訓練等があればできるだけ参加すべきだ	ナ)ITなど新たな技術で生活や社会が便利になるのは良いことだ	ニ)新たな技術や製品に追いついていけないことがあるのが心配だ	
全体		3000	48.1	41.0	58.6	25.9	61.7	49.3	62.9	46.6	5.2
性別	男性	1500	49.0	43.6	52.4	27.5	57.5	46.7	63.4	41.1	7.3
	女性	1500	47.1	38.4	64.9	24.3	65.8	51.9	62.3	52.1	3.1
年代	18～29歳	600	45.5	55.7	65.2	41.5	62.8	50.3	67.5	48.7	7.2
	30代	600	39.8	49.5	60.5	36.2	61.2	48.3	69.8	46.3	5.5
	40代	600	46.7	38.3	55.7	22.8	57.8	45.8	58.0	45.3	4.8
	50代	600	50.8	33.2	52.5	17.2	58.2	44.3	60.8	44.8	6.0
	60～79歳	600	57.5	28.3	59.3	12.0	68.3	57.5	58.2	47.8	2.3
性年代	男性18-29歳	300	46.0	57.7	56.7	42.0	56.3	45.3	64.7	46.3	10.3
	男性30代	300	39.3	50.7	50.3	37.7	55.7	43.7	68.0	41.3	7.7
	男性40代	300	49.0	41.7	48.3	25.7	54.3	44.3	59.0	40.7	7.7
	男性50代	300	53.0	35.3	48.7	19.0	56.3	43.0	61.7	40.0	8.3
	男性60-79歳	300	57.7	32.7	58.0	13.3	65.0	57.0	63.7	37.0	2.3
	女性18-29歳	300	45.0	53.7	73.7	41.0	69.3	55.3	70.3	51.0	4.0
	女性30代	300	40.3	48.3	70.7	34.7	66.7	53.0	71.7	51.3	3.3
	女性40代	300	44.3	35.0	63.0	20.0	61.3	47.3	57.0	50.0	2.0
	女性50代	300	48.7	31.0	56.3	15.3	60.0	45.7	60.0	49.7	3.7
	女性60-79歳	300	57.3	24.0	60.7	10.7	71.7	58.0	52.7	58.7	2.3
世帯構成	1人世帯	643	48.4	42.6	55.7	27.5	57.4	43.7	58.6	44.2	6.4
	1世代世帯(夫婦のみ)	737	48.6	36.2	58.1	20.9	63.5	50.6	61.9	45.9	4.5
	2世代世帯(親と子)	1413	46.7	43.0	60.5	28.1	62.0	50.2	65.5	47.7	5.0
	3世代世帯(親と子と孫)	156	60.9	42.3	64.7	25.6	71.8	61.5	67.9	53.8	1.9

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問(2017 調査にない設問)

■社会・生活に関する考え方等（Q3）属性分析3　〈地域別〉

- 地域別に見ると、北海道は他の地域より「そう思う」計が低い項目が多い。また、四国は他の地域より「そう思う」計の割合が高い項目が多い。
- 「（3）居住地意向」について、都市規模が大きい方が都市志向であり、都市規模が小さいほど地方志向である。

（1）環境意識・自然～（5）負担／公私の役割

Q3.　あなたご自身は、社会・生活において、どのような考えをお持ちですか。（それぞれひとつだけ）

（%）

そう思う計		n	（1）環境意識・自然意識	（2）仕事と暮らし			（3）居住地意向		（4）社会参加・参画意向				（5）負担／公私の役割			
			ア）地球環境に優しい生活をしたい	イ）厳しい仕事でも高収入であれば良い	ウ）仕事に打ち込み、会社で出世することは良い	エ）仕事よりも友人、家族等を大切にする暮らしに	オ）利便性の高い都市部、都市中心部で暮らしたい	カ）地方部や田舎で、自然・景観に恵まれた暮らしをしたい	キ）地域の活動には積極的に参加したい	ク）政治、社会の動向に関心が高い方だ	ケ）社会に貢献する活動に取り組みたい	コ）隣人との付き合いは大事にしていくべきだ	サ）安心・安定した生活、社会のため税金などの公的負担をするのは当然だ	シ）自分の望む公的サービスをより充実させるためならば、税金・料金などの負担を増やしてもよい	ス）年金・医療制度をきちんと運営し、必要であればもっと負担をしてもよい	セ）自分の生活は個々が守るべきで、できるだけ国など「公」は介入すべきでない
全体		3000	74.6	27.8	35.1	67.1	39.6	40.1	27.5	39.5	30.4	46.7	54.9	34.8	34.2	25.1
地域ブロック別	北海道ブロック	120	79.2	24.2	25.8	64.2	36.7	30.8	16.7	33.3	26.7	38.3	49.2	30.8	21.7	19.2
	東北ブロック	210	72.4	25.7	37.1	65.2	35.2	44.8	27.1	43.3	29.5	49.0	58.6	36.7	35.2	26.2
	関東ブロック	1070	75.1	27.1	35.0	68.7	45.4	36.7	26.4	40.8	30.5	44.5	54.7	34.1	35.0	25.0
	北陸ブロック	120	77.5	22.5	29.2	66.7	26.7	46.7	29.2	31.7	30.8	49.2	50.8	35.8	28.3	21.7
	中部ブロック	360	73.9	29.7	37.8	67.2	38.3	43.1	31.1	35.6	29.4	49.2	56.1	37.8	36.4	22.8
	近畿ブロック	510	75.3	29.0	35.7	68.2	43.1	38.0	25.7	39.6	28.8	48.6	55.5	32.7	31.8	27.6
	中国ブロック	180	66.1	25.0	32.2	64.4	30.6	47.2	29.4	38.3	32.8	45.6	54.4	37.8	38.9	29.4
	四国ブロック	100	82.0	29.0	40.0	68.0	27.0	52.0	32.0	48.0	33.0	54.0	62.0	39.0	35.0	25.0
	九州・沖縄ブロック	330	73.9	31.8	36.1	63.9	33.9	41.5	31.5	40.3	33.0	47.0	52.7	33.9	35.8	24.8
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	846	75.2	29.4	37.9	68.6	52.7	32.0	27.2	40.1	31.2	43.6	54.8	32.6	34.5	26.1
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	302	75.5	29.8	35.4	65.9	38.7	39.4	27.5	44.0	32.8	48.3	60.6	35.4	34.8	27.5
	三大都市圏の上記以外の地域	499	75.2	25.3	33.7	70.7	39.9	41.9	26.9	41.5	29.1	48.7	56.7	38.9	36.3	24.2
	地方中枢都市	254	77.2	26.8	33.1	66.9	45.3	31.5	23.6	39.8	29.9	41.7	53.1	34.6	33.1	26.4
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地	248	70.6	25.4	31.0	60.1	31.9	44.8	30.6	41.5	28.6	44.8	54.0	33.5	35.1	23.8
	地方圏のその他の市	557	76.1	25.9	32.0	67.5	25.1	49.9	29.1	37.3	31.6	50.3	54.0	36.6	34.6	23.2
	地方圏の町村	202	72.8	32.2	39.6	65.3	31.7	51.0	28.2	38.6	29.7	51.0	54.0	32.2	29.2	27.2

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い
○新設問（2017 調査にない設問）

■社会・生活に関する考え方等(Q3)属性分析4　〈地域別〉

(6)効率・公平・格差～(10)技術革新、便利な生活

Q3.　あなたご自身は、社会・生活において、どのような考えをお持ちですか。(それぞれひとつだけ)

(%)

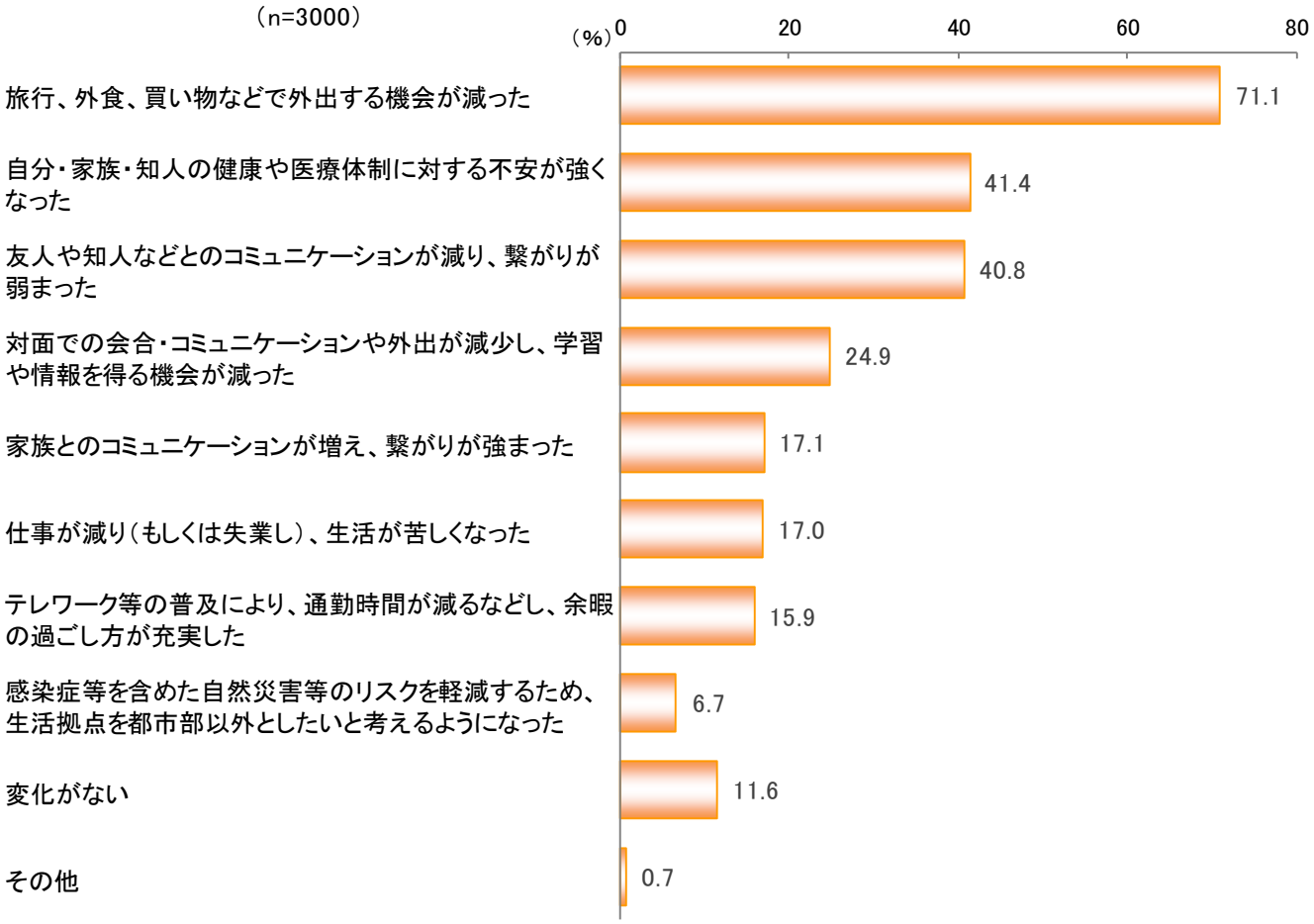
そう思う計		n	(6)効率・公平・格差		(7)家族・子育て	(8)収入予測	(9)安全・安心		(10)技術革新、便利な生活		ひとつもない
			ソ)効率が重視され過ぎて、公平性が損なわれ、格差が拡大している	タ)質の高い暮らしを確保するためにも、もっと効率を上げる必要がある	チ)女性がもっと社会進出、社会参加できる仕組みを作るべきだ	ツ)今後、自分や家族の収入は増えていく	テ)安全・安心は全ての基盤なので、他のことより重視すべきだ	ト)地域の防災訓練等があればできるだけ参加すべきだ	ナ)ITなど新たな技術で生活や社会が便利になるのは良いことだ	ニ)新たな技術や製品に追いついていけないことがあるのが心配だ	
全体		3000	48.1	41.0	58.6	25.9	61.7	49.3	62.9	46.6	5.2
地域ブロック別	北海道ブロック	120	43.3	40.8	53.3	20.8	51.7	47.5	63.3	29.2	4.2
	東北ブロック	210	50.0	40.0	54.3	25.2	59.5	49.0	64.8	47.1	6.2
	関東ブロック	1070	47.8	42.2	62.1	26.1	63.4	48.7	63.2	45.2	5.3
	北陸ブロック	120	42.5	40.0	57.5	27.5	65.8	50.0	59.2	50.8	6.7
	中部ブロック	360	46.7	38.9	57.8	26.7	60.3	45.8	62.5	47.2	4.4
	近畿ブロック	510	48.4	41.2	58.0	26.3	61.8	51.0	62.2	48.4	3.5
	中国ブロック	180	50.0	35.6	52.8	26.7	56.7	47.8	57.2	47.2	10.6
	四国ブロック	100	53.0	41.0	63.0	23.0	64.0	53.0	71.0	57.0	2.0
	九州・沖縄ブロック	330	50.0	43.0	56.4	26.4	63.0	52.4	63.9	48.5	5.2
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	846	47.5	43.5	60.9	27.8	62.6	50.9	64.5	46.7	3.9
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	302	45.7	41.7	59.6	26.8	65.2	48.0	67.2	44.0	3.6
	三大都市圏の上記以外の地域	499	50.7	40.3	61.5	24.8	61.7	48.9	61.3	49.5	5.6
	地方中枢都市	254	50.8	41.7	53.1	25.6	60.6	42.9	63.4	40.6	4.3
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地	248	51.2	36.3	58.1	25.4	64.5	52.0	62.1	53.2	6.9
	地方圏のその他の市	557	48.5	40.2	58.0	25.7	59.4	51.3	62.8	45.1	4.7
	地方圏の町村	202	43.6	41.6	55.0	22.8	60.9	51.0	60.4	48.5	6.4

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い
○新設問(2017 調査にない設問)

■新型コロナウイルス感染症の発生を受けての変化（Q3-1）

・ 約 9 割の者が変化があったと回答している。

Q3-1. 新型コロナウイルス感染症の発生を受けて、あなたご自身にどのような変化がありましたか？（該当するものすべて選択ください）



■新型コロナウイルス感染症の発生を受けての変化（Q3-1）属性分析1 〈性・年代別〉

- 否定的な選択肢については、女性のほうが選択する割合が高い傾向にある。
- 健康や医療体制に対する不安については、上の年代ほど選択する割合が高い。

Q3-1. 新型コロナウイルス感染症の発生を受けて、あなたご自身にどのような変化がありましたか？（該当するものすべて選択ください）

赤枠：否定的な選択肢　青枠：肯定的な選択肢

（%）

		n	旅行、外食、買い物などで外出する機会が減った	自分・家族・知人の健康や医療体制に対する不安が強くなった	友人や知人などとのコミュニケーションが減り、繋がりが弱まった	対面での会合・コミュニケーションや外出が減少し、学習や情報を得る機会が減った	家族とのコミュニケーションが増え、繋がりが強まった	仕事が減り（もしくは失業し）、生活が苦しくなった	テレワーク等の普及により、通勤時間が減るなどし、余暇の過ごし方が充実した	感染症等を含めた自然災害等のリスクを軽減するため、生活拠点を都市部以外としたいと考えるようになった	変化がない	その他
全体		3000	71.1	41.4	40.8	24.9	17.1	17.0	15.9	6.7	11.6	0.7
性別	男性	1500	64.3	34.6	36.9	22.2	14.3	17.9	18.4	7.3	14.1	0.6
	女性	1500	77.9	48.1	44.7	27.6	20.0	16.1	13.4	6.1	9.1	0.8
年代	18～29歳	600	64.7	30.7	41.8	26.8	21.0	16.8	26.0	8.2	12.7	0.8
	30代	600	72.3	38.2	43.7	28.0	20.2	17.3	20.7	7.8	11.0	0.2
	40代	600	68.3	41.3	38.5	20.8	17.2	19.8	14.3	5.8	12.8	1.2
	50代	600	72.7	43.0	34.5	23.5	12.8	18.0	12.7	6.5	13.2	0.5
	60～79歳	600	77.5	53.7	45.5	25.3	14.5	12.8	5.8	5.3	8.2	0.8
性年代	男性18-29歳	300	51.3	21.0	34.0	19.3	13.7	15.3	25.0	7.3	16.7	1.0
	男性30代	300	64.0	28.7	40.3	23.7	15.3	19.0	22.3	8.7	14.7	-
	男性40代	300	61.3	33.7	35.0	18.0	15.0	20.3	17.3	5.3	15.3	0.7
	男性50代	300	67.3	37.0	30.3	23.3	10.7	18.3	18.7	8.3	17.7	0.3
	男性60-79歳	300	77.7	52.7	44.7	26.7	16.7	16.3	8.7	7.0	6.0	1.0
	女性18-29歳	300	78.0	40.3	49.7	34.3	28.3	18.3	27.0	9.0	8.7	0.7
	女性30代	300	80.7	47.7	47.0	32.3	25.0	15.7	19.0	7.0	7.3	0.3
	女性40代	300	75.3	49.0	42.0	23.7	19.3	19.3	11.3	6.3	10.3	1.7
	女性50代	300	78.0	49.0	38.7	23.7	15.0	17.7	6.7	4.7	8.7	0.7
	女性60-79歳	300	77.3	54.7	46.3	24.0	12.3	9.3	3.0	3.7	10.3	0.7
世帯構成	1人世帯	643	65.6	37.2	37.8	24.9	10.3	22.7	19.9	7.8	13.5	1.1
	1世代世帯（夫婦のみ）	737	75.6	44.1	44.0	24.0	19.3	13.8	12.6	7.3	9.0	0.7
	2世代世帯（親と子）	1413	71.6	42.0	41.8	25.6	19.1	15.6	15.6	5.7	11.6	0.6
	3世代世帯（親と子と孫）	156	72.4	42.3	34.6	23.7	19.9	17.3	17.3	7.7	12.2	-

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

■新型コロナウイルス感染症の発生を受けての変化（Q3-1）属性分析2 〈地域別〉

・　テレワークに関する選択肢については、都市規模が大きいほど選択する割合が高い傾向にあり、その差は大きい。

Q3-1.　新型コロナウイルス感染症の発生を受けて、あなたご自身にどのような変化がありましたか？（該当するものすべて選択ください）

赤枠：否定的な選択肢　青枠：肯定的な選択肢

（%）

		n	旅行、外食、買い物などで外出する機会が減った	自分・家族・知人の健康や医療体制に対する不安が強くなった	友人や知人などとのコミュニケーションが減り、繋がりが弱まった	対面での会合・コミュニケーションや外出が減少し、学習や情報を得る機会が減った	家族とのコミュニケーションが増え、繋がりが強まった	仕事が減り（もしくは失業し）、生活が苦しくなった	テレワーク等の普及により、通勤時間が減るなどし、余暇の過ごし方が充実した	感染症等を含めた自然災害等のリスクを軽減するため、生活拠点を都市部以外としたいと考えるようになった	変化がない	その他
全体		3000	71.1	41.4	40.8	24.9	17.1	17.0	15.9	6.7	11.6	0.7
地域ブロック別	北海道ブロック	120	68.3	49.2	44.2	24.2	17.5	10.8	14.2	5.8	10.8	0.8
	東北ブロック	210	64.8	44.3	38.6	26.2	15.2	21.4	9.0	6.7	13.3	1.9
	関東ブロック	1070	71.7	38.8	41.8	26.2	19.3	16.3	22.1	9.0	10.9	0.7
	北陸ブロック	120	62.5	41.7	40.8	19.2	14.2	20.0	10.8	7.5	15.8	-
	中部ブロック	360	75.0	39.4	40.3	28.3	16.9	15.3	14.4	6.9	10.8	0.3
	近畿ブロック	510	71.2	45.9	43.1	26.9	18.0	16.9	16.5	4.3	10.6	0.4
	中国ブロック	180	69.4	36.1	33.3	17.2	11.7	17.8	8.9	4.4	15.0	1.1
	四国ブロック	100	67.0	44.0	35.0	18.0	17.0	17.0	6.0	3.0	15.0	1.0
	九州・沖縄ブロック	330	75.2	42.1	40.6	21.8	13.9	19.1	10.0	5.5	10.6	0.9
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	846	73.0	39.7	43.1	26.6	21.3	16.0	23.2	8.7	9.9	0.6
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	302	71.9	36.1	43.4	31.5	17.9	15.9	23.2	6.0	8.6	0.3
	三大都市圏の上記以外の地域	499	72.5	44.9	41.1	27.1	14.8	16.6	14.8	6.6	11.0	0.6
	地方中枢都市	254	70.5	44.5	40.2	20.1	16.9	17.3	15.7	3.9	9.4	1.2
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地	248	70.2	39.1	41.9	23.0	13.7	15.7	9.7	4.4	13.7	0.4
	地方圏のその他の市	557	71.3	45.4	38.6	23.3	16.0	18.0	7.7	7.4	11.1	0.9
	地方圏の町村	202	68.8	39.6	33.7	19.8	14.9	19.8	10.9	5.0	17.3	0.5

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

〇新項目

3. 社会・生活空間、国土に関する評価

■社会・国土形成の3つの方向性の現状評価／重要度

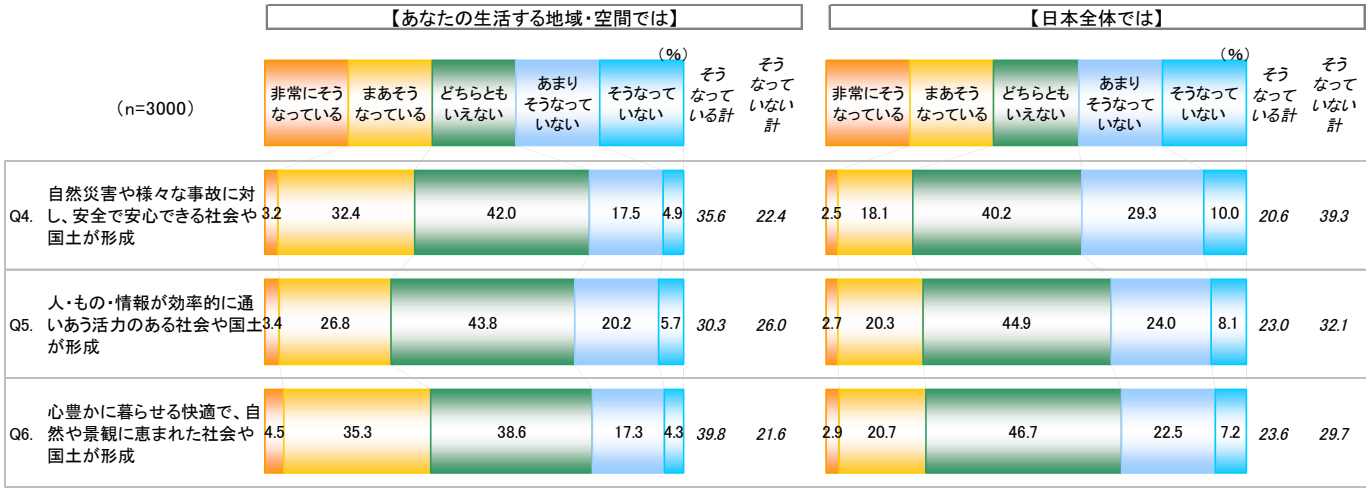
- 社会・国土形成は重要との認識は高く、「安全・安心」、「活力ある」、「心豊かに暮らせる」いずれの項目でも重要であるとの回答が 8 割程度以上となっている。
- 一方で、社会・国土形成に関する現状評価については、「どちらともいえない」と回答している者が 4～5 割程度。

［現状評価］

Q4.　自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土が形成されていると思いますか。（○は一つずつ）

Q5.　人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土が形成されていると思いますか。（○は一つずつ）

Q6.　心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土が形成されていると思いますか。（○は一つずつ）



［重要度］

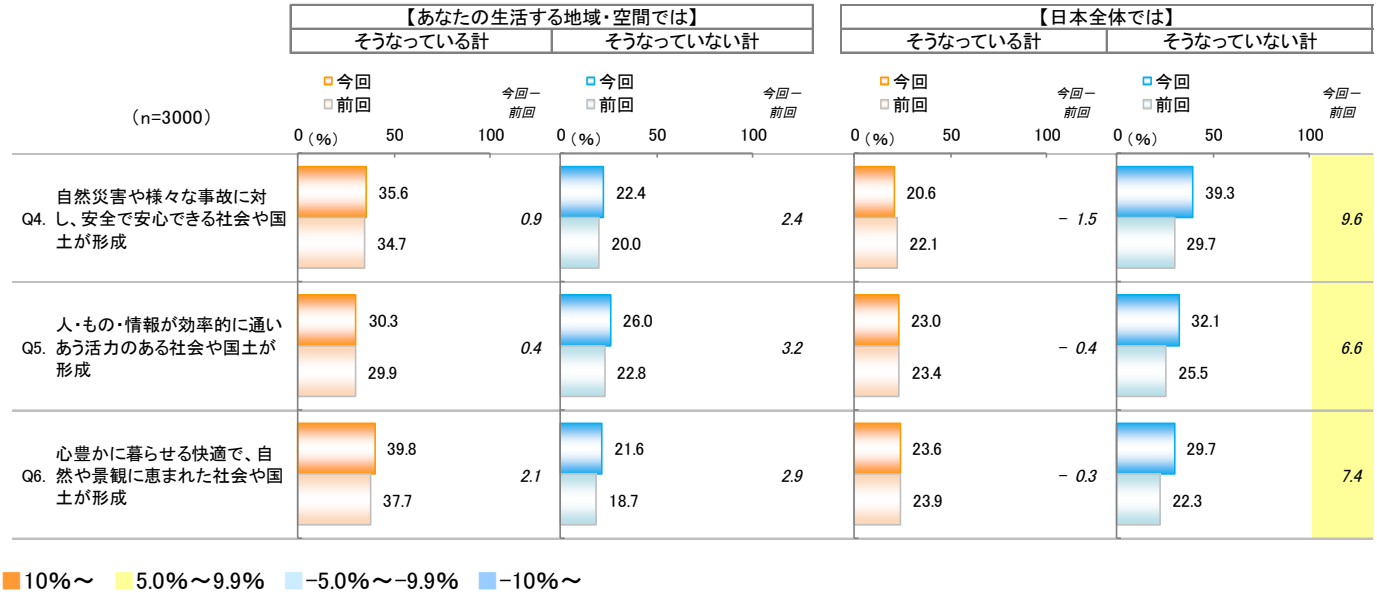
Q4SQ1.将来的に、自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。

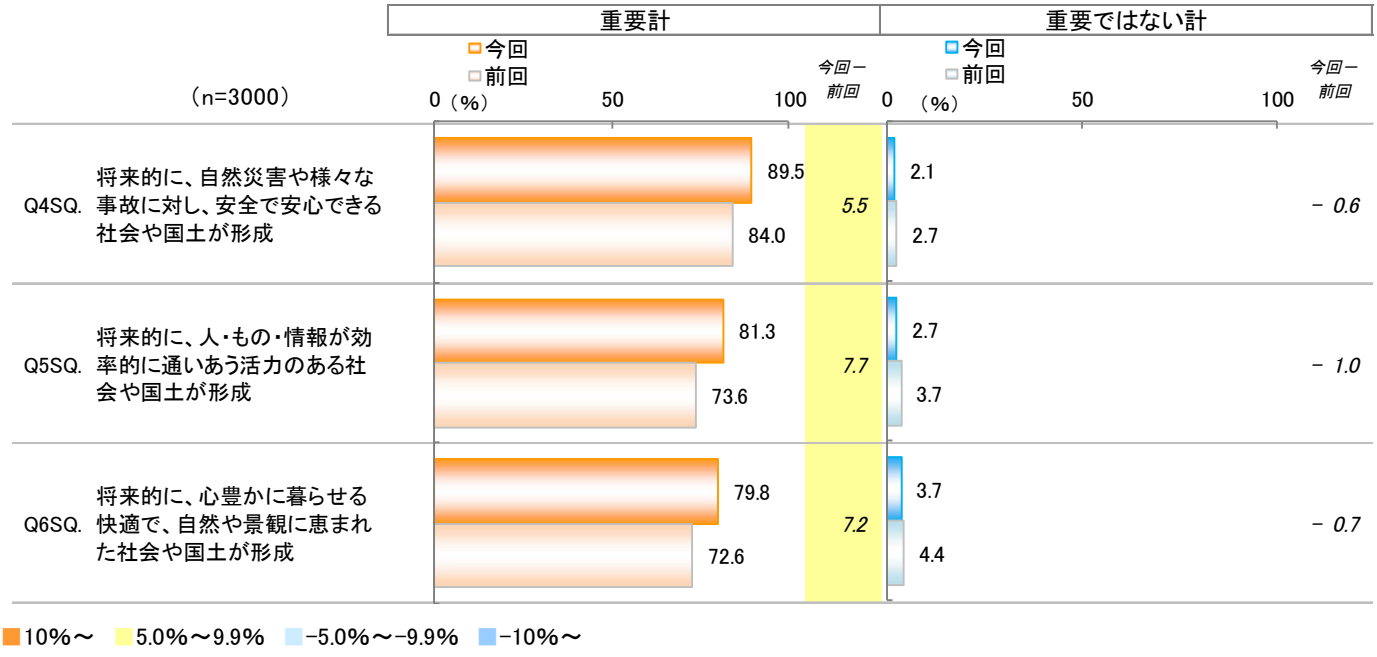
Q5SQ1. 将来的に、人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。

Q6SQ1. 将来的に、心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。

【前回比較】

・ 前回調査との比較では、日本全体の現状評価については、いずれの項目でも否定的な回答が 5 ポイント以上増えている。また、重要度については、いずれの項目でも重要であるとの回答が 5 ポイント以上増えている。

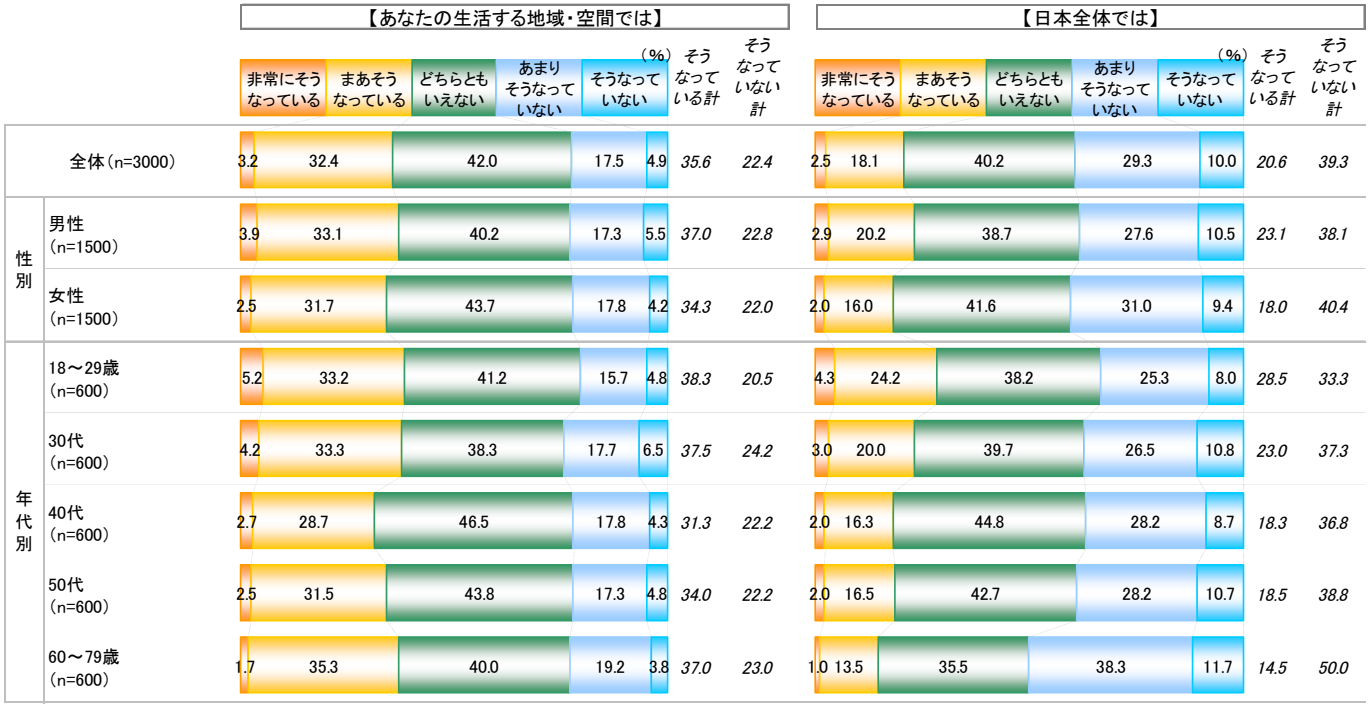




■現状評価〈性・年代別〉「自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土が形成」（Q4）

・性別、年代別とも、いずれのグループでも「どちらともいえない」が 4 割程度いる。
・年代別で見ると、日本全体では、上の年代ほど「そうなっている」計の割合が低い傾向がある。

Q4.　自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土が形成されていると思いますか。（○は一つずつ）



（%）

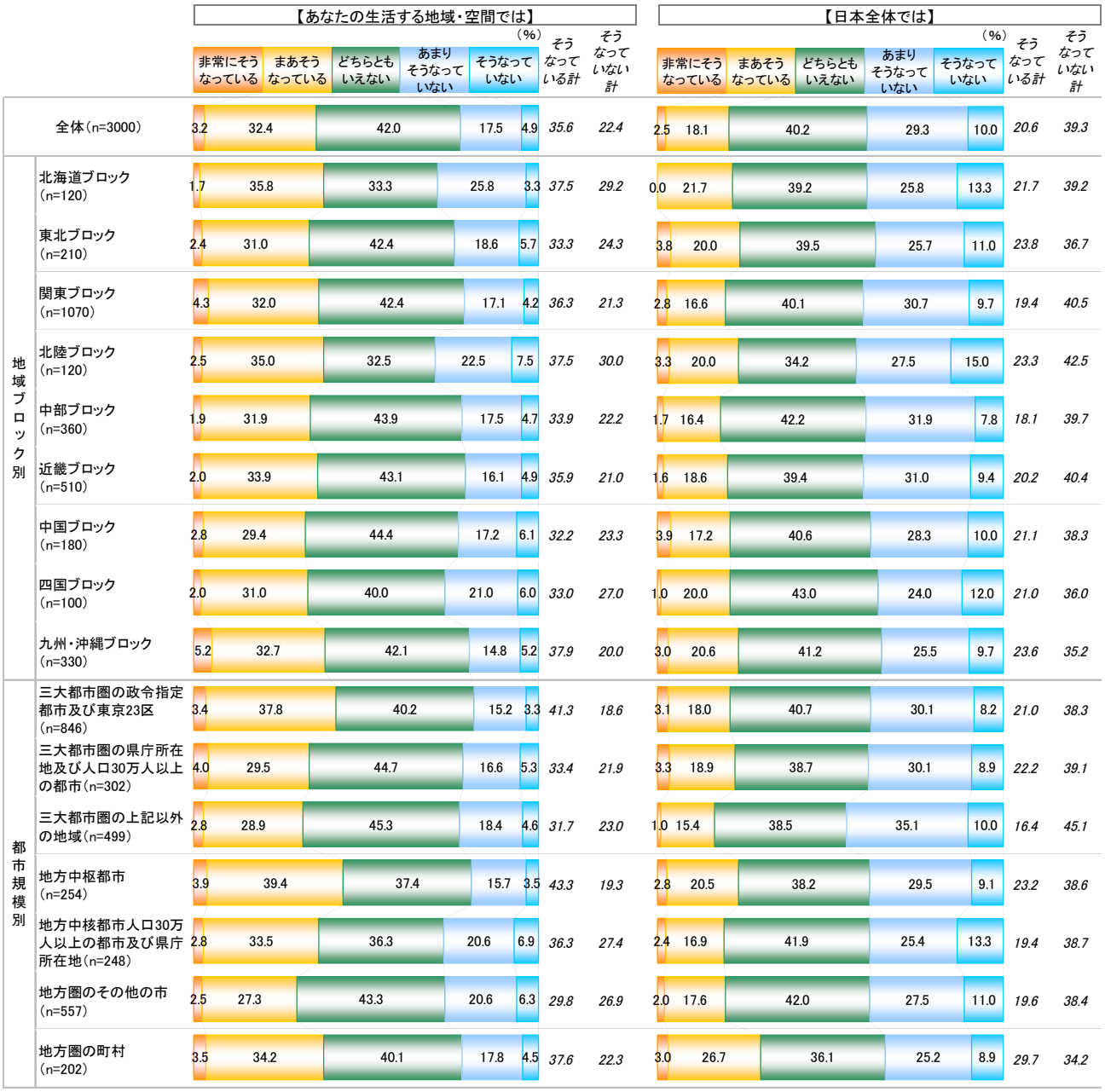
		【あなたの生活する地域・空間では】								【日本全体では】							
		n	非常にそうなっている (+2)	まあそうなっている (+1)	どちらともいえない (0)	あまりそうなっていない (−1)	そうなっていない (−2)	[そうなっている計]	[そうなっていない計]	n	非常にそうなっている (+2)	まあそうなっている (+1)	どちらともいえない (0)	あまりそうなっていない (−1)	そうなっていない (−2)	[そうなっている計]	[そうなっていない計]
全体		3000	3.2	32.4	42.0	17.5	4.9	35.6	22.4	3000	2.5	18.1	40.2	29.3	10.0	20.6	39.3
性年代	男性18-29歳	300	8.0	33.0	40.0	14.0	5.0	41.0	19.0	300	6.0	26.7	40.3	19.0	8.0	32.7	27.0
	男性30代	300	4.3	34.0	38.7	16.0	7.0	38.3	23.0	300	2.7	23.3	37.7	25.0	11.3	26.0	36.3
	男性40代	300	2.3	32.0	42.0	18.0	5.7	34.3	23.7	300	1.7	19.0	41.3	26.3	11.7	20.7	38.0
	男性50代	300	3.0	29.3	43.3	18.7	5.7	32.3	24.3	300	3.0	15.7	41.0	29.7	10.7	18.7	40.3
	男性60-79歳	300	2.0	37.0	37.0	19.7	4.3	39.0	24.0	300	1.3	16.3	33.3	38.0	11.0	17.7	49.0
	女性18-29歳	300	2.3	33.3	42.3	17.3	4.7	35.7	22.0	300	2.7	21.7	36.0	31.7	8.0	24.3	39.7
	女性30代	300	4.0	32.7	38.0	19.3	6.0	36.7	25.3	300	3.3	16.7	41.7	28.0	10.3	20.0	38.3
	女性40代	300	3.0	25.3	51.0	17.7	3.0	28.3	20.7	300	2.3	13.7	48.3	30.0	5.7	16.0	35.7
	女性50代	300	2.0	33.7	44.3	16.0	4.0	35.7	20.0	300	1.0	17.3	44.3	26.7	10.7	18.3	37.3
	女性60-79歳	300	1.3	33.7	43.0	18.7	3.3	35.0	22.0	300	0.7	10.7	37.7	38.7	12.3	11.3	51.0

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

■現状評価〈地域別〉「自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土が形成」（Q4）

・地域別、都市規模別で見ると、いずれのグループも「どちらともいえない」が 4 割程度いる。

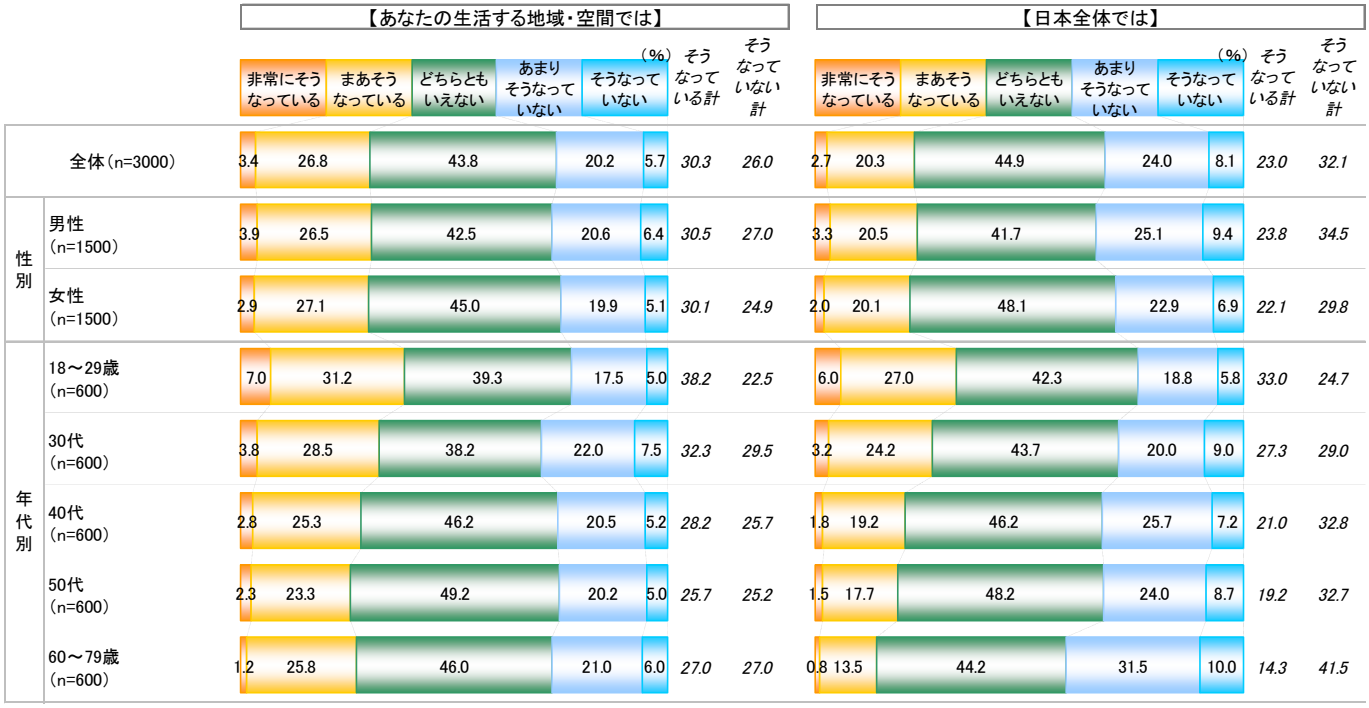
Q4.　自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土が形成されていると思いますか。（○は一つずつ）



■現状評価〈性・年代別〉「人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土が形成」（Q5）

・性別、年代別とも、いずれのグループでも「どちらともいえない」が 4 割程度いる。
・年代別で見ると、上の年代ほど、「そうなっている」計の割合が低い傾向がある。

Q5.　人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土が形成されていると思いますか。（○は一つずつ）



（%）

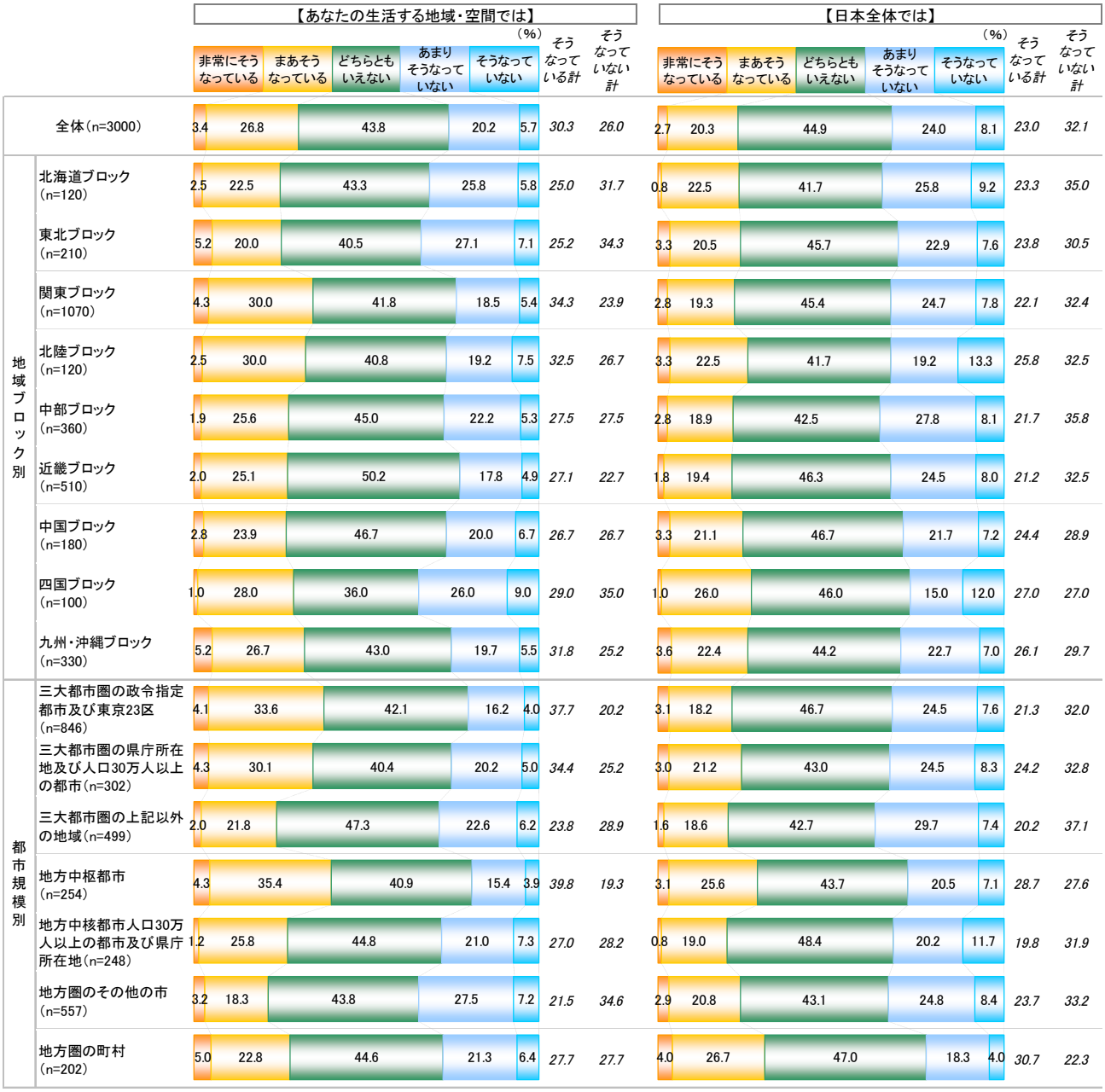
		【あなたの生活する地域・空間では】 n	非常にそうなっている (+2)	まあそうなっている (+1)	どちらともいえない (0)	あまりそうなっていない (−1)	そうなっていない (−2)	[そうなっている計]	[そうなっていない計]	【日本全体では】 n	非常にそうなっている (+2)	まあそうなっている (+1)	どちらともいえない (0)	あまりそうなっていない (−1)	そうなっていない (−2)	[そうなっている計]	[そうなっていない計]
全体		3000	3.4	26.8	43.8	20.2	5.7	30.3	26.0	3000	2.7	20.3	44.9	24.0	8.1	23.0	32.1
性年代	男性18-29歳	300	9.3	28.3	39.7	17.0	5.7	37.7	22.7	300	7.7	26.3	40.7	18.0	7.3	34.0	25.3
	男性30代	300	3.7	26.7	39.7	21.7	8.3	30.3	30.0	300	3.7	25.0	39.7	22.0	9.7	28.7	31.7
	男性40代	300	2.3	28.3	44.3	18.0	7.0	30.7	25.0	300	2.0	20.0	44.3	24.0	9.7	22.0	33.7
	男性50代	300	2.7	21.7	47.7	23.0	5.0	24.3	28.0	300	2.0	15.7	46.3	26.7	9.3	17.7	36.0
	男性60-79歳	300	1.7	27.7	41.3	23.3	6.0	29.3	29.3	300	1.3	15.3	37.7	34.7	11.0	16.7	45.7
	女性18-29歳	300	4.7	34.0	39.0	18.0	4.3	38.7	22.3	300	4.3	27.7	44.0	19.7	4.3	32.0	24.0
	女性30代	300	4.0	30.3	36.7	22.3	6.7	34.3	29.0	300	2.7	23.3	47.7	18.0	8.3	26.0	26.3
	女性40代	300	3.3	22.3	48.0	23.0	3.3	25.7	26.3	300	1.7	18.3	48.0	27.3	4.7	20.0	32.0
	女性50代	300	2.0	25.0	50.7	17.3	5.0	27.0	22.3	300	1.0	19.7	50.0	21.3	8.0	20.7	29.3
	女性60-79歳	300	0.7	24.0	50.7	18.7	6.0	24.7	24.7	300	0.3	11.7	50.7	28.3	9.0	12.0	37.3

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

■現状評価〈地域別〉「人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土が形成」(Q5)

・地域別、都市規模別で見ると、いずれのグループも「どちらともいえない」が 4 割程度いる。

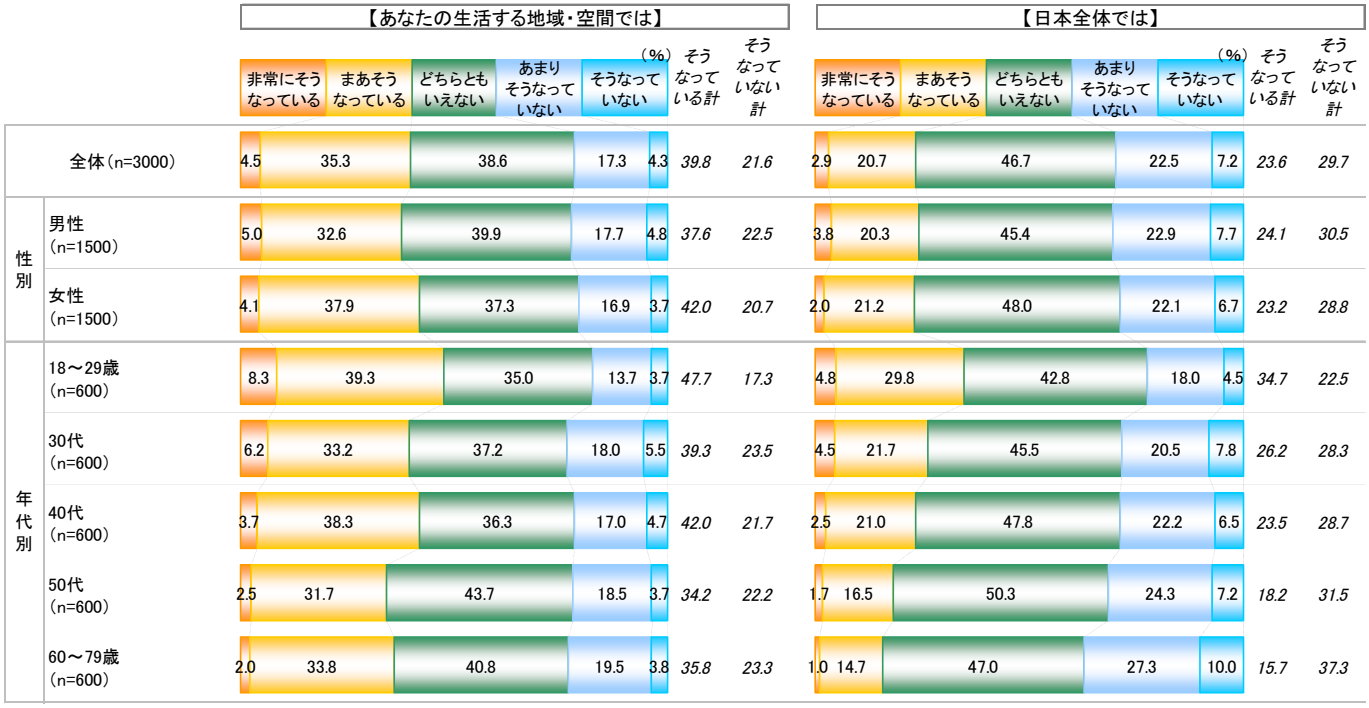
Q5.　人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土が形成されていると思いますか。(○は一つずつ)



■現状評価〈性・年代別〉「心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土が形成」（Q6）

・性別、年代別とも、いずれのグループでも「どちらともいえない」が 3 割～5 割程度いる。
・年代別で見ると、上の年代ほど、「そうなっている」計の割合が低い傾向がある。

Q6.　心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土が形成されていると思いますか。（○は一つずつ）



（%）

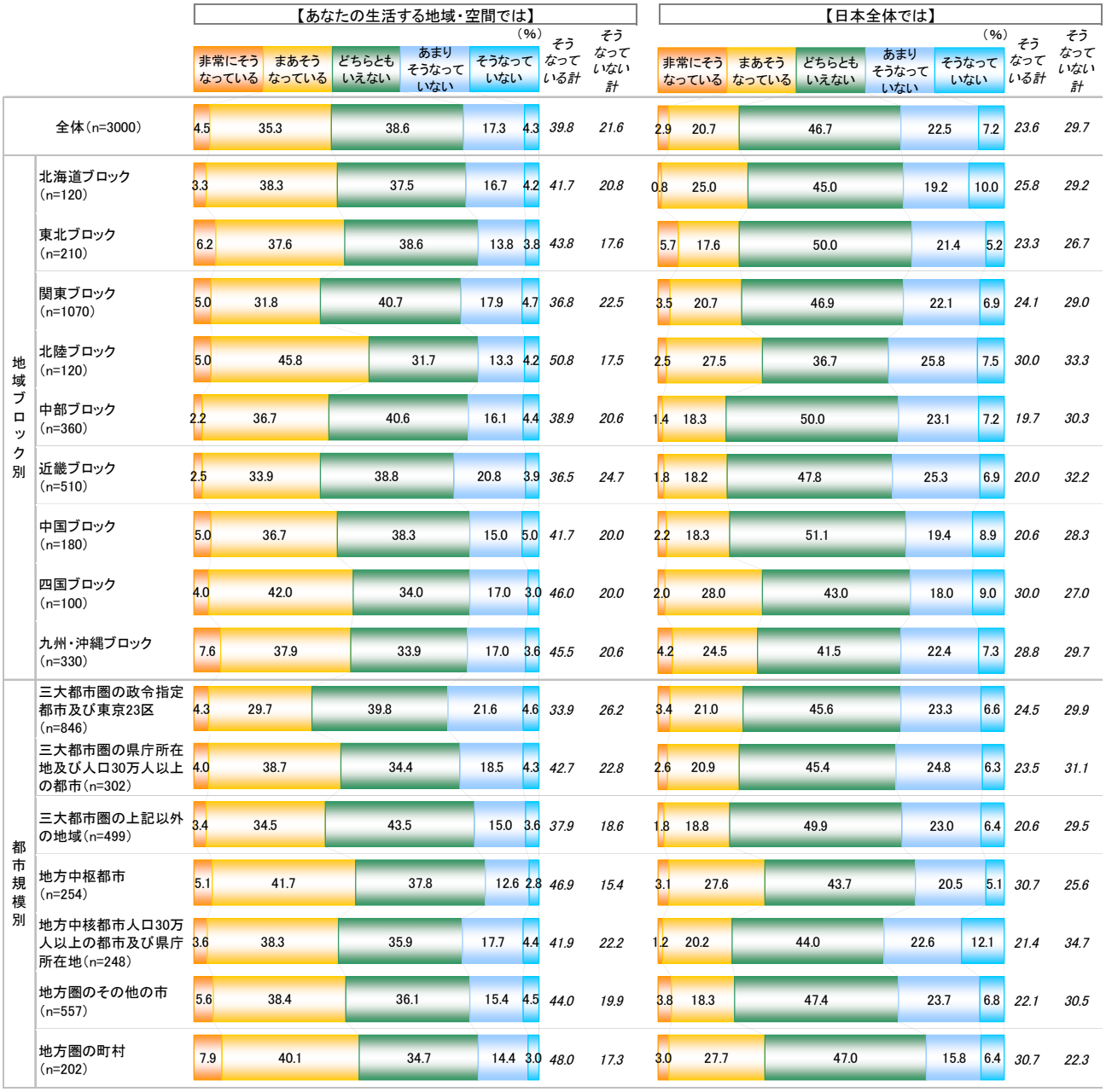
		【あなたの生活する地域・空間では】 n	非常にそうなっている (+2)	まあそうなっている (+1)	どちらともいえない (0)	あまりそうなっていない (−1)	そうなっていない (−2)	[そうなっている計]	[そうなっていない計]	【日本全体では】 n	非常にそうなっている (+2)	まあそうなっている (+1)	どちらともいえない (0)	あまりそうなっていない (−1)	そうなっていない (−2)	[そうなっている計]	[そうなっていない計]
全体		3000	4.5	35.3	38.6	17.3	4.3	39.8	21.6	3000	2.9	20.7	46.7	22.5	7.2	23.6	29.7
性年代	男性18-29歳	300	10.7	32.7	39.3	13.3	4.0	43.3	17.3	300	6.7	28.3	44.0	16.7	4.3	35.0	21.0
	男性30代	300	6.0	32.7	37.0	19.0	5.3	38.7	24.3	300	6.0	20.7	44.3	21.3	7.7	26.7	29.0
	男性40代	300	3.0	37.3	37.0	15.7	7.0	40.3	22.7	300	2.7	21.7	46.0	20.3	9.3	24.3	29.7
	男性50代	300	3.0	27.3	46.7	19.7	3.3	30.3	23.0	300	2.3	13.7	51.3	25.0	7.7	16.0	32.7
	男性60-79歳	300	2.3	33.0	39.3	21.0	4.3	35.3	25.3	300	1.3	17.0	41.3	31.0	9.3	18.3	40.3
	女性18-29歳	300	6.0	46.0	30.7	14.0	3.3	52.0	17.3	300	3.0	31.3	41.7	19.3	4.7	34.3	24.0
	女性30代	300	6.3	33.7	37.3	17.0	5.7	40.0	22.7	300	3.0	22.7	46.7	19.7	8.0	25.7	27.7
	女性40代	300	4.3	39.3	35.7	18.3	2.3	43.7	20.7	300	2.3	20.3	49.7	24.0	3.7	22.7	27.7
	女性50代	300	2.0	36.0	40.7	17.3	4.0	38.0	21.3	300	1.0	19.3	49.3	23.7	6.7	20.3	30.3
	女性60-79歳	300	1.7	34.7	42.3	18.0	3.3	36.3	21.3	300	0.7	12.3	52.7	23.7	10.7	13.0	34.3

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

■現状評価〈地域別〉「心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土が形成」（Q6）

・ 地域別、都市規模別で見ると、いずれのグループも「どちらともいえない」が 3 割～5 割と程度いる。

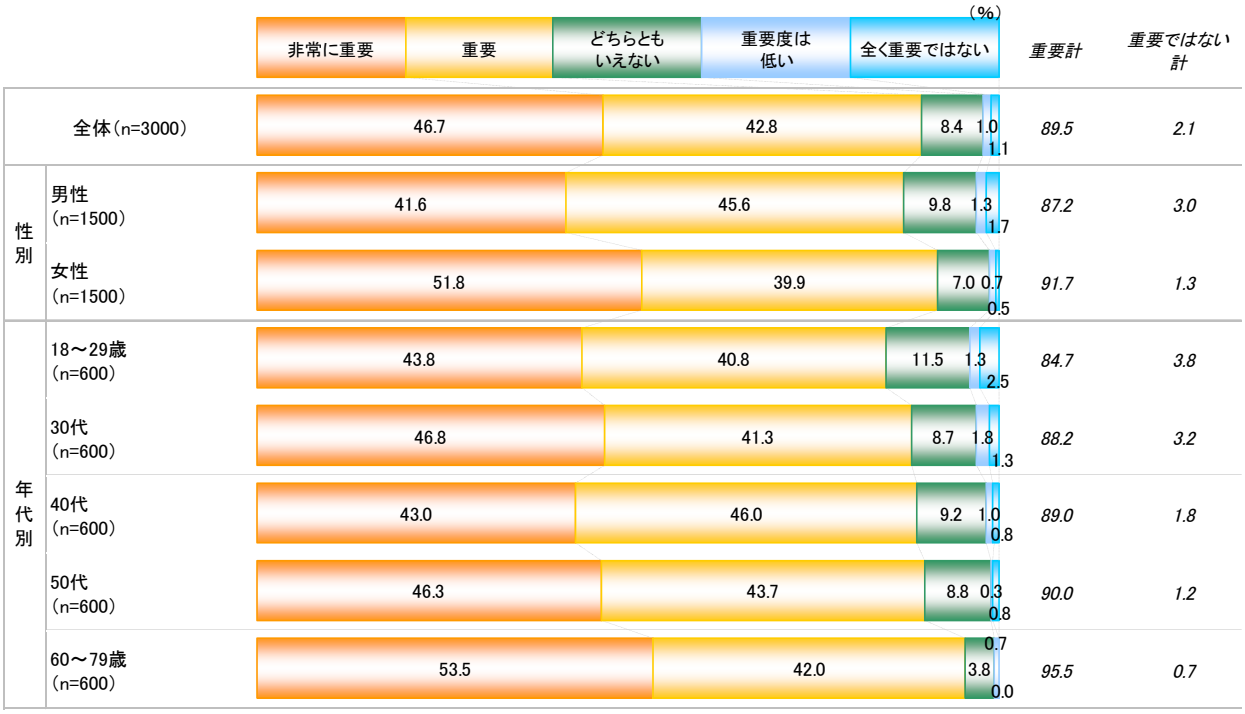
Q6.　心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土が形成されていると思いますか。（〇は一つずつ）



■重要度〈性・年代別〉「自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土が形成」（Q4SQ1）

- 性別・年代別とも、いずれのグループも「重要」計の割合が 8 割以上で非常に高い。
- 性別で見ると、女性の方が「非常に重要」の割合が 10 ポイント以上高い。
- 年代別で見ると、上の年代ほど「重要である」計が高い傾向にある。

Q4SQ1. 将来的に、自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。



（%）

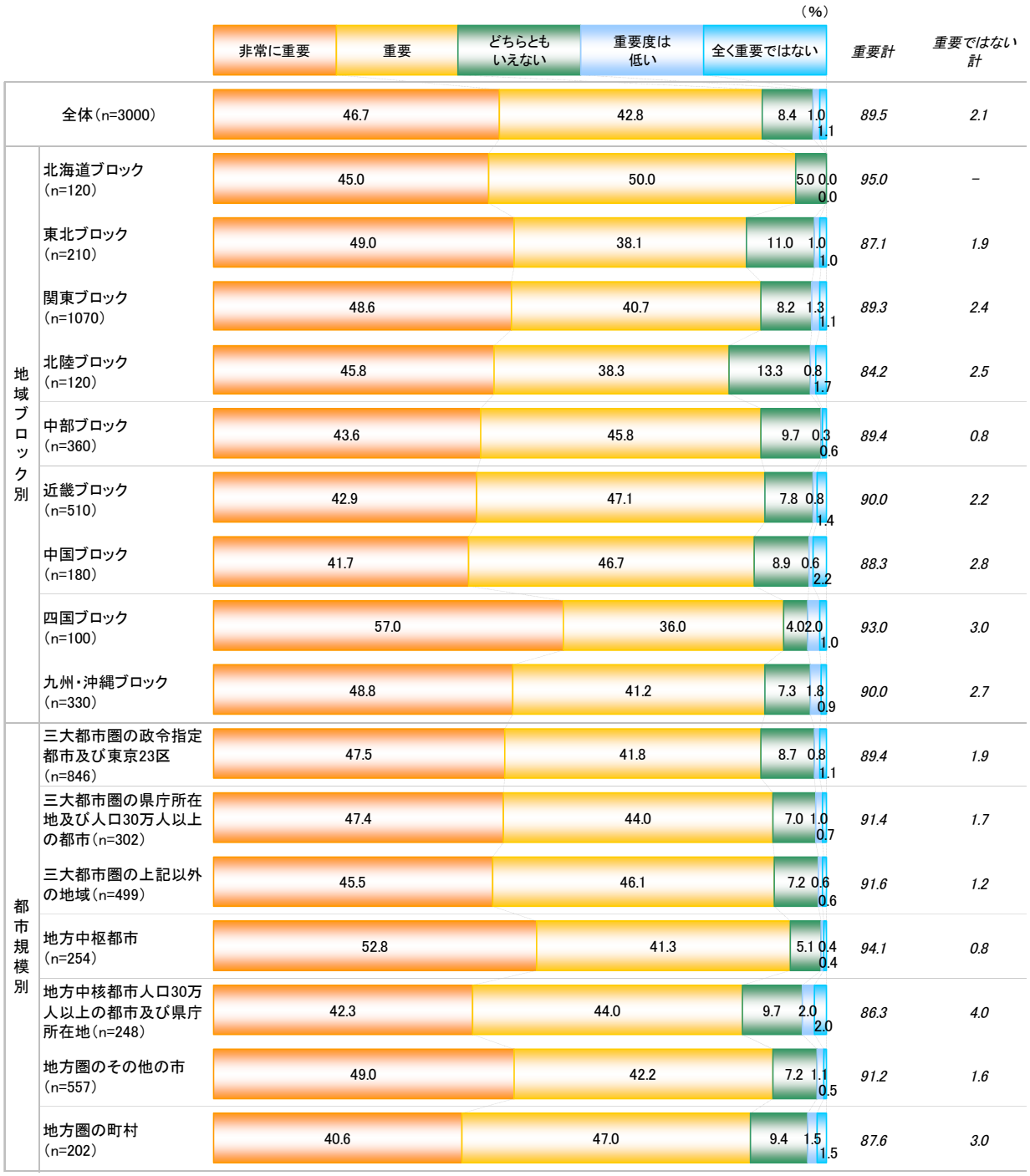
		n	非常に重要 (+2)	重要 (+1)	どちらともいえない (0)	重要度は低い (−1)	全く重要ではない (−2)	［重要計］	［重要ではない計］
全体		3000	46.7	42.8	8.4	1.0	1.1	89.5	2.1
性年代	男性18−29歳	300	33.7	46.7	14.0	2.0	3.7	80.3	5.7
	男性30代	300	43.0	42.3	11.0	1.7	2.0	85.3	3.7
	男性40代	300	39.7	46.0	11.0	1.7	1.7	85.7	3.3
	男性50代	300	41.7	47.0	9.7	0.7	1.0	88.7	1.7
	男性60−79歳	300	50.0	46.0	3.3	0.7	−	96.0	0.7
	女性18−29歳	300	54.0	35.0	9.0	0.7	1.3	89.0	2.0
	女性30代	300	50.7	40.3	6.3	2.0	0.7	91.0	2.7
	女性40代	300	46.3	46.0	7.3	0.3	−	92.3	0.3
	女性50代	300	51.0	40.3	8.0	−	0.7	91.3	0.7
	女性60−79歳	300	57.0	38.0	4.3	0.7	−	95.0	0.7

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

■重要度〈地域別〉「自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土が形成」（Q4SQ1）

・ 地域別・都市規模別とも、いずれのグループも「重要」計の割合が 8 割以上で非常に高い。

Q4SQ1. 将来的に、自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。



■重要度〈性・年代別〉「人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土が形成」（Q5SQ1）

- 性別、年代別とも、いずれのグループも「重要」計の割合が 8 割程度であり、非常に高い。
- 年代別で見ると、上の年代ほど「重要」計の割合が高い。

Q5SQ1. 将来的に、人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。

（%）

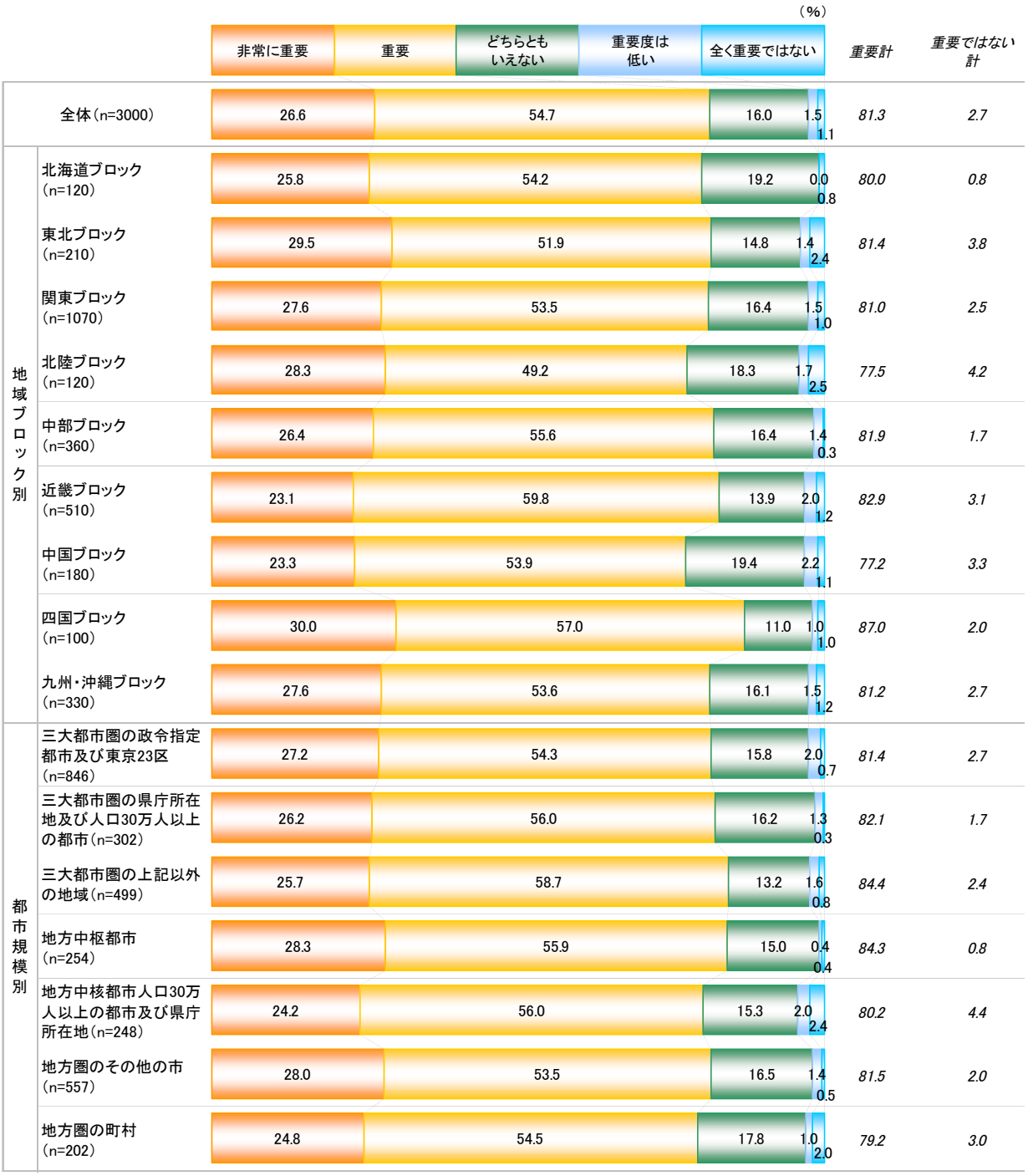
		n	非常に重要 (+2)	重要 (+1)	どちらともいえない (0)	重要度は低い (−1)	全く重要ではない (−2)	［重要計］	［重要ではない計］
全体		3000	26.6	54.7	16.0	1.5	1.1	81.3	2.7
性年代	男性18−29歳	300	26.3	48.0	20.3	2.3	3.0	74.3	5.3
	男性30代	300	29.0	45.7	19.7	3.0	2.7	74.7	5.7
	男性40代	300	24.7	55.7	17.7	1.0	1.0	80.3	2.0
	男性50代	300	26.3	56.0	14.3	2.0	1.3	82.3	3.3
	男性60−79歳	300	26.7	59.7	13.0	0.3	0.3	86.3	0.7
	女性18−29歳	300	27.7	55.3	15.0	1.0	1.0	83.0	2.0
	女性30代	300	27.7	55.3	14.0	2.7	0.3	83.0	3.0
	女性40代	300	23.3	56.7	17.7	1.7	0.7	80.0	2.3
	女性50代	300	28.0	54.3	16.0	1.0	0.7	82.3	1.7
	女性60−79歳	300	26.3	60.3	12.7	0.3	0.3	86.7	0.7

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

■重要度〈地域別〉「人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土が形成」（Q5SQ1）

・ 地域別、都市規模別とも、いずれのグループも「重要」計の割合が 8 割程度であり、非常に高い。

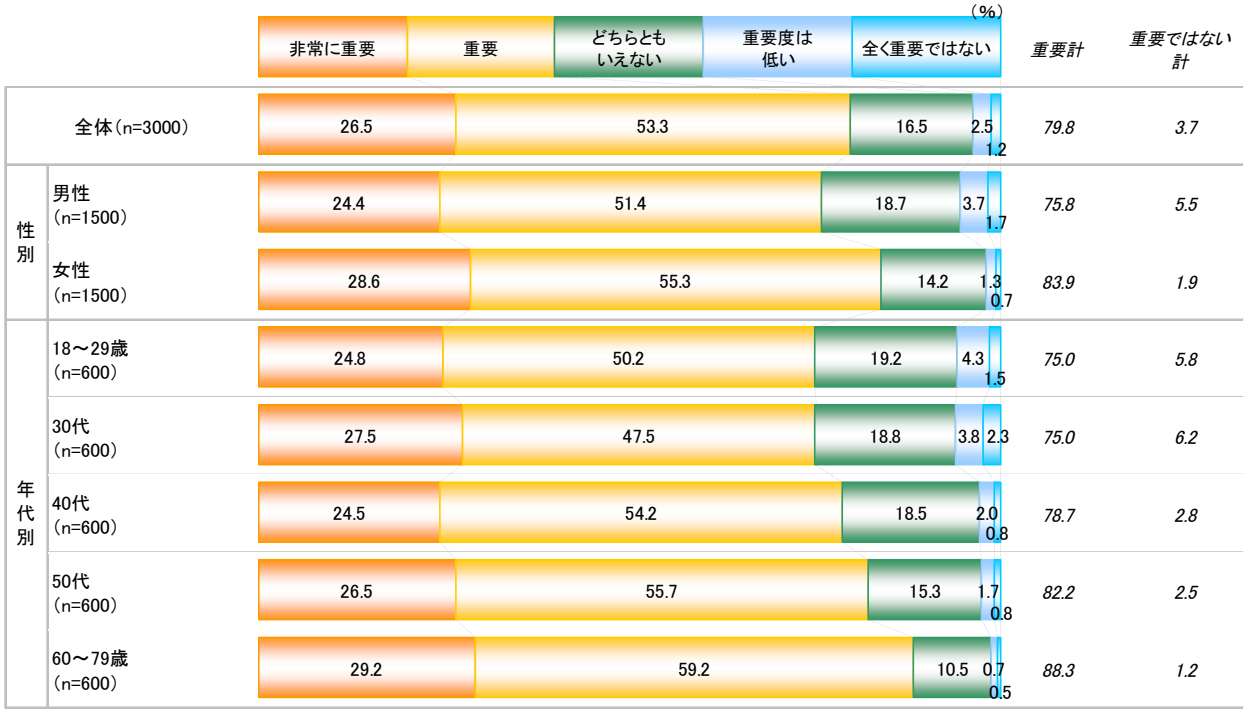
Q5SQ1. 将来的に、人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。



■重要度〈性・年代別〉「心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土が形成」（Q6SQ1）

- 性別・年代別とも、いずれのグループも「重要」計の割合が 8 割程度であり、非常に高い。
- 年代別で見ると、上の年代ほど「重要」計が高い。

Q6SQ1. 将来的に、心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。



（%）

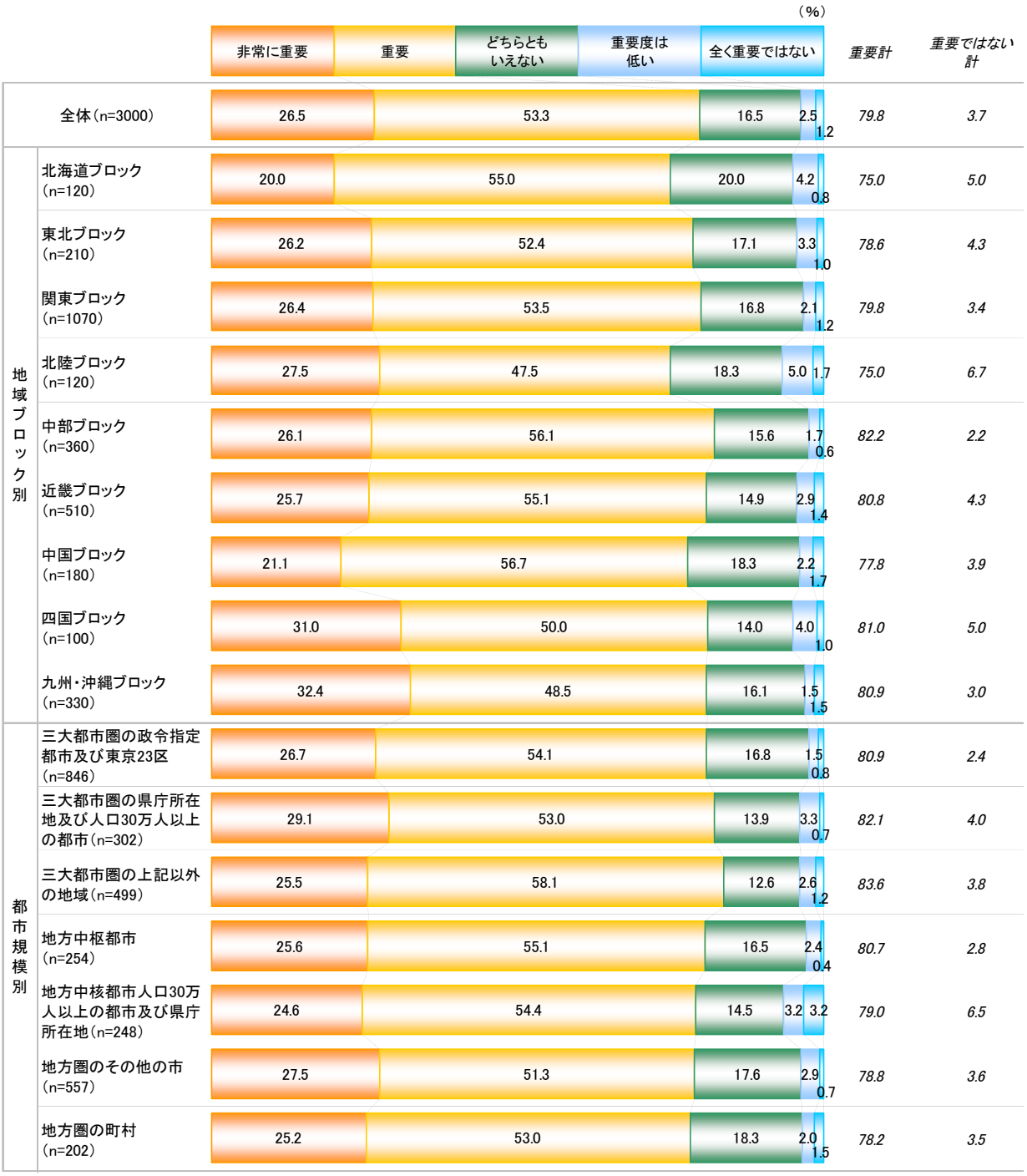
		n	非常に重要 (+2)	重要 (+1)	どちらともいえない (0)	重要度は低い (−1)	全く重要ではない (−2)	［重要計］	［重要ではない計］
全体		3000	26.5	53.3	16.5	2.5	1.2	79.8	3.7
性年代	男性18−29歳	300	22.3	44.3	24.0	7.3	2.0	66.7	9.3
	男性30代	300	22.7	48.7	19.7	5.0	4.0	71.3	9.0
	男性40代	300	24.0	52.0	20.0	2.7	1.3	76.0	4.0
	男性50代	300	25.0	52.7	18.7	2.7	1.0	77.7	3.7
	男性60−79歳	300	28.0	59.3	11.3	1.0	0.3	87.3	1.3
	女性18−29歳	300	27.3	56.0	14.3	1.3	1.0	83.3	2.3
	女性30代	300	32.3	46.3	18.0	2.7	0.7	78.7	3.3
	女性40代	300	25.0	56.3	17.0	1.3	0.3	81.3	1.7
	女性50代	300	28.0	58.7	12.0	0.7	0.7	86.7	1.3
	女性60−79歳	300	30.3	59.0	9.7	0.3	0.7	89.3	1.0

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

■重要度〈地域別〉「心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土が形成」（Q6SQ1）

・ 地域別、都市規模別とも、いずれのグループも「重要」計の割合が 8 割程度であり、非常に高い。

Q6SQ1. 将来的に、心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。

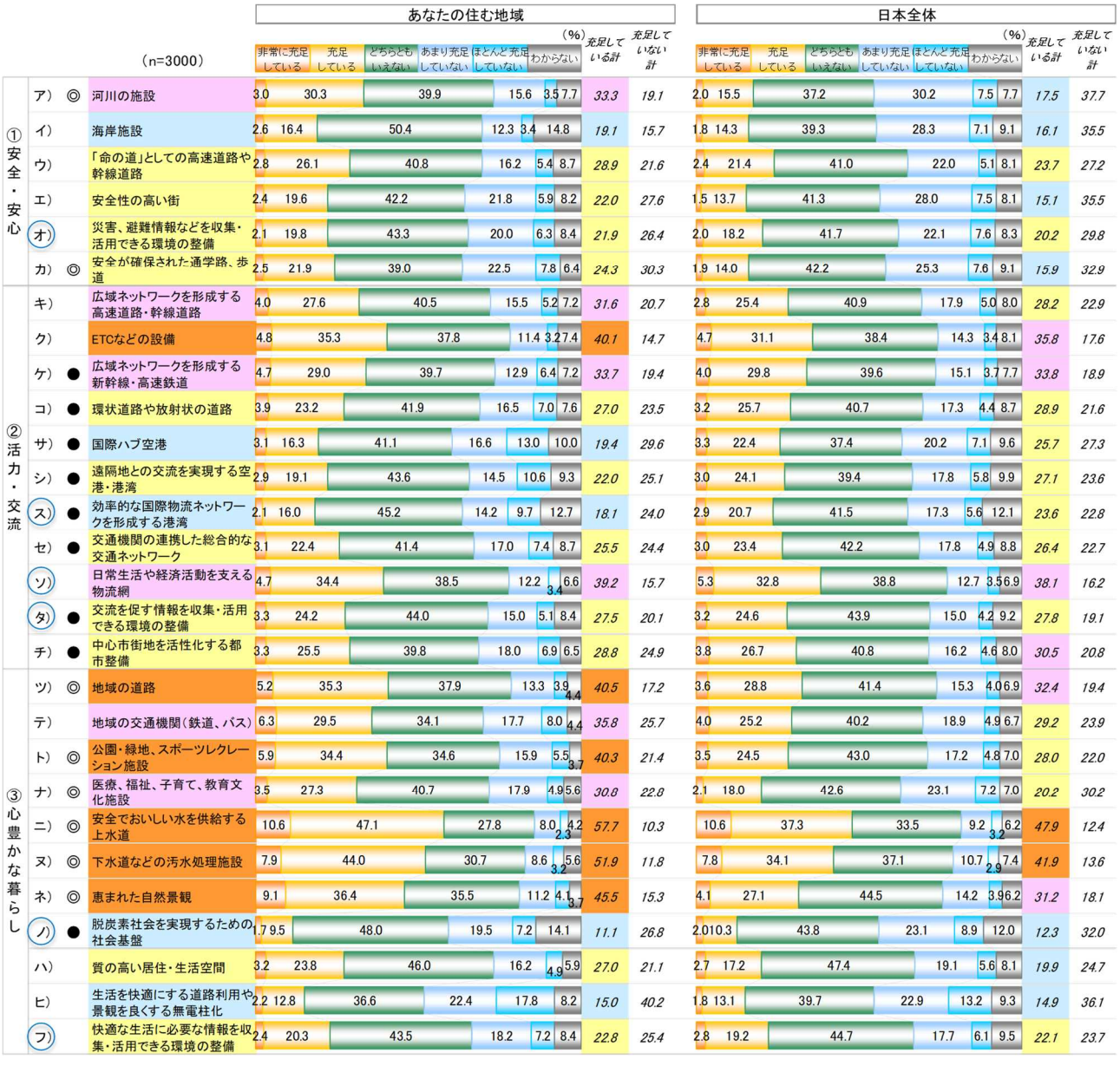


4. 社会資本具体分野別の充足度評価、推進意向

■社会資本具体分野別の充足度（居住地域／日本全体）

- 日本全体と居住地域での評価の差が大きい項目もある。
- 「活力・交流関連の社会資本」では居住地域より日本全体が、「心豊かな暮らし関連」「安全・安心関連」では日本全体より居住地域が整備されていると評価される傾向がある。

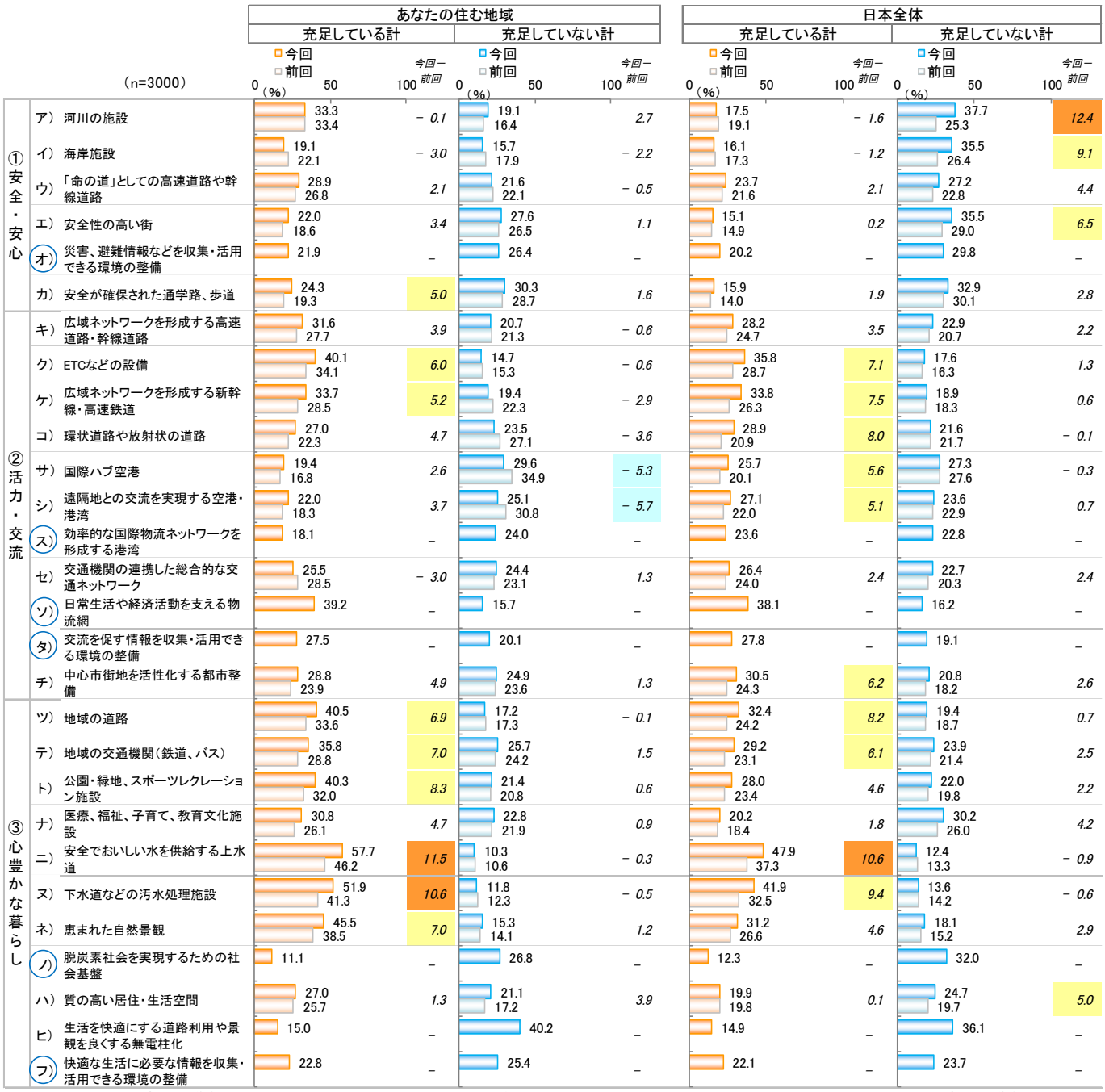
Q7-1. 「あなたの住む地域」について、次のインフラ（社会資本）は充足していると思いますか。（それぞれひとつだけ）
Q7-2. 「日本全体」について、次のインフラ（社会資本）は充足していると思いますか。（それぞれひとつだけ）



■40%～ ■30%～39.9% ■20%～29.9% ■10%～19.9%
●日本全体が地域を上回る ◎地域と日本全体8ポイント以上差
○新設問（2017 調査にない設問）

【前回比較】

・ 前回調査と比較すると、「河川の施設」、「海岸施設」、「安全性の高い街」については、日本全体の「充足していない計」が 5 ポイント以上増えている。一方で、「活力・交流」、「心豊かな暮らし」に関する社会資本については、「充足している計」が 5 ポイント以上増えている項目が少なからずある。



※ヒ）生活を快適にする道路利用や景観を良くする無電柱化：2017年は2項目で聴取。（2017年項目：ノ）景観を良くするための無電柱化／ハ）カフェなど生活を快適にする道路利用）

■10%～ ■5.0%～9.9% ■-5.0%～-9.9% ■-10%～

○新設問（2017 調査にない設問）

■社会資本具体分野別の推進意向（居住地域／日本全体）

・ 日本全体では、全ての分野で推進意向が高いとの回答の割合が 7 割を超えており、全体的に推進の意向は高い。

Q7-3. 「あなたの住む地域」について、インフラ（社会資本）のそれぞれについてどの程度充足・整備していくべきと思いますか。（それぞれひとつだけ）

Q7-4. 「日本全体」について、インフラ（社会資本）のそれぞれについてどの程度充足・整備していくべきと思いますか。（それぞれひとつだけ）

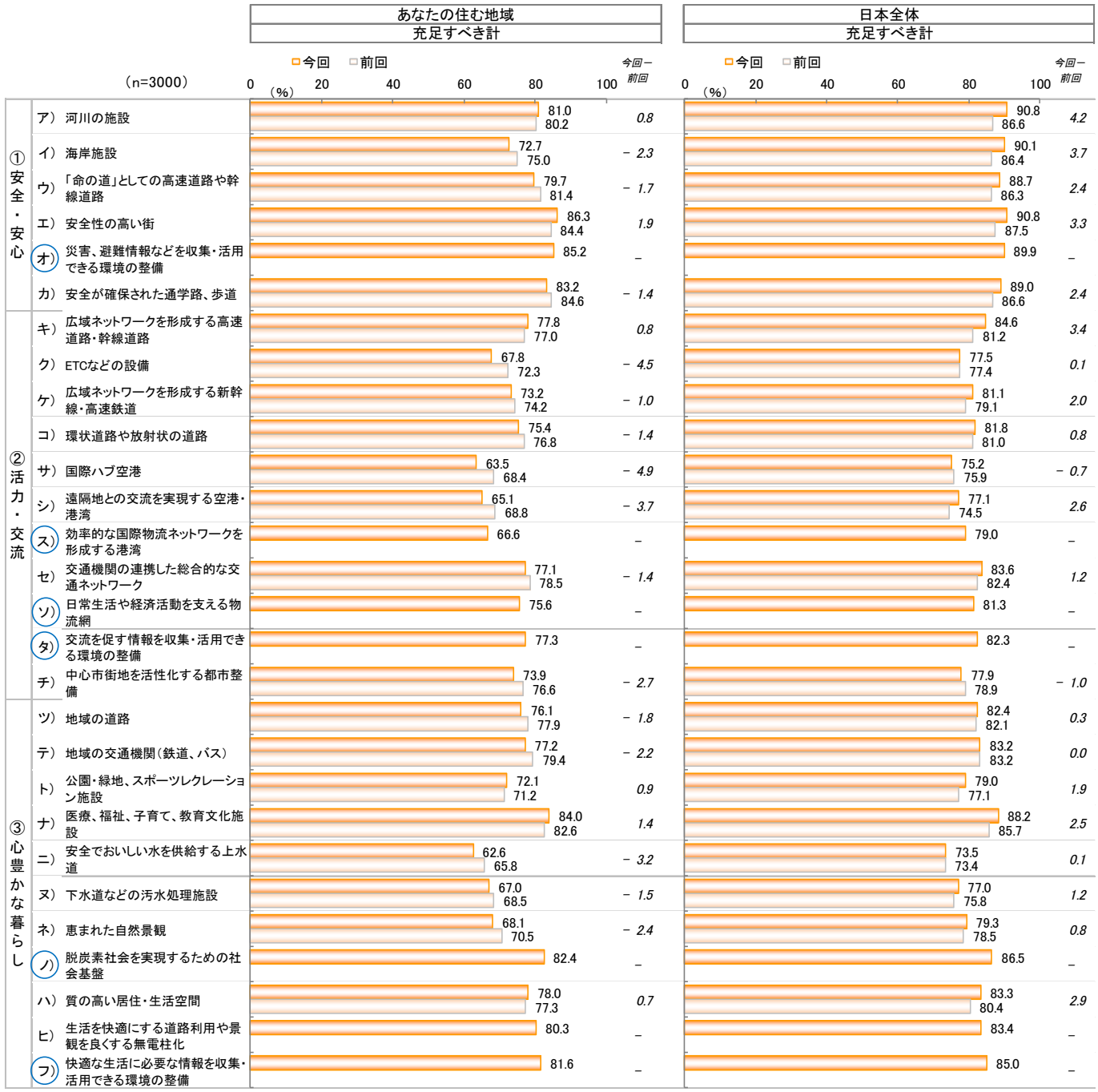
	（n=3000）	あなたの住む地域 特に早急に充足していくべき (%)	他とのバランスを見ながら計画的に充足すべき (%)	現状で十分 (%)	充足すべき計 (%)	日本全体 特に早急に充足していくべき (%)	他とのバランスを見ながら計画的に充足すべき (%)	現状で十分 (%)	充足すべき計 (%)
ア）	河川の施設	23.7	57.3	19.0	81.0	39.3	51.4	9.2	90.8
イ）	海岸施設	18.5	54.1	27.3	72.7	37.9	52.2	9.9	90.1
ウ）	「命の道」としての高速道路や幹線道路	21.4	58.3	20.3	79.7	34.4	54.3	11.3	88.7
エ）	安全性の高い街	27.7	58.6	13.7	86.3	35.8	55.0	9.2	90.8
オ）	災害、避難情報などを収集・活用できる環境の整備	25.5	59.7	14.8	85.2	31.9	58.1	10.1	89.9
カ）	安全が確保された通学路、歩道	27.0	56.2	16.8	83.2	28.5	60.5	11.0	89.0
キ）	広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路	15.6	62.2	22.2	77.8	20.7	63.8	15.4	84.6
ク）	ETCなどの設備	10.0	57.7	32.2	67.8	14.2	63.3	22.5	77.5
ケ）	広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道	12.4	60.8	26.8	73.2	16.3	64.8	18.9	81.1
コ）	環状道路や放射状の道路	12.9	62.6	24.6	75.4	16.2	65.6	18.2	81.8
サ）	国際ハブ空港	10.9	52.6	36.5	63.5	16.3	59.0	24.8	75.2
シ）	遠隔地との交流を実現する空港・港湾	9.9	55.2	34.9	65.1	15.0	62.1	22.9	77.1
ス）	効率的な国際物流ネットワークを形成する港湾	10.2	56.4	33.4	66.6	15.3	63.7	21.0	79.0
セ）	交通機関の連携した総合的な交通ネットワーク	12.6	64.5	22.9	77.1	16.2	67.5	16.4	83.6
ソ）	日常生活や経済活動を支える物流網	14.0	61.6	24.4	75.6	17.9	63.4	18.7	81.3
タ）	交流を促す情報を収集・活用できる環境の整備	12.5	64.8	22.7	77.3	16.1	66.2	17.7	82.3
チ）	中心市街地を活性化する都市整備	11.9	62.0	26.1	73.9	13.3	64.6	22.1	77.9
ツ）	地域の道路	16.2	59.9	23.9	76.1	17.1	65.2	17.6	82.4
テ）	地域の交通機関（鉄道、バス）	17.0	60.2	22.8	77.2	18.6	64.6	16.8	83.2
ト）	公園・緑地、スポーツレクレーション施設	13.4	58.7	27.9	72.1	15.9	63.1	21.0	79.0
ナ）	医療、福祉、子育て、教育文化施設	27.4	56.6	16.0	84.0	32.3	55.9	11.8	88.2
ニ）	安全でおいしい水を供給する上水道	15.6	47.0	37.4	62.6	19.1	54.5	26.5	73.5
ヌ）	下水道などの汚水処理施設	16.4	50.6	33.0	67.0	19.2	57.7	23.0	77.0
ネ）	恵まれた自然景観	13.5	54.6	31.9	68.1	17.2	62.1	20.7	79.3
ノ）	脱炭素社会を実現するための社会基盤	19.1	63.3	17.6	82.4	23.1	63.4	13.5	86.5
ハ）	質の高い居住・生活空間	13.8	64.2	22.0	78.0	16.6	66.7	16.7	83.3
ヒ）	生活を快適にする道路利用や景観を良くする無電柱化	14.4	65.9	19.7	80.3	16.1	67.4	16.6	83.4
フ）	快適な生活に必要な情報を収集・活用できる環境の整備	13.6	68.0	18.4	81.6	17.0	68.0	15.0	85.0

■84%～ ■80%～83.9% ■75%～79.9% ■70%～74.9%

○新設問（2017 調査にない設問）

【前回比較】

・ 前回調査と比較すると、前回より充足すべき計の割合が 5 ポイント以上増減したものはなく、比較的変化は少ない。



※ヒ）生活を快適にする道路利用や景観を良くする無電柱化：2017年は2項目で聴取。（2017年項目：ノ）景観を良くするための無電柱化／ハ）カフェなど生活を快適にする道路利用）

■10%～ ■5.0%～9.9% ■-5.0%～-9.9% ■-10%～

○新設問（2017 調査にない設問）

4-1.社会資本具体分野別の充足度評価、推進意向（居住地域）属性分析

■社会資本具体分野別の充足度評価（居住地域）属性分析1 〈性・年代別〉

- 性別で見ると、「ツ）地域の道路」について、唯一男女で10ポイント以上の差がある。その他については、男女差が5ポイント以下の項目が多い。
- 年代別で見ると、「ネ）恵まれた自然景観」のように年代別の差が小さい項目や、「ニ）安全でおいしい水を供給する上水道」のように上の世代の方が充足度が高い項目もあるが、多くの項目で若い年代のほうが充足度評価が高い傾向にある。

＜安全・安心＞

Q7-1. 「あなたの住む地域」について、次のインフラ（社会資本）は充足していると思いますか。（それぞれひとつだけ）

（%）

充足している計		n	●安全・安心					
			ア）河川の施設	イ）海岸施設	ウ）「命の道」としての高速道路や幹線道路	エ）安全性の高い街	オ）災害、避難情報などを収集・活用できる環境の整備	カ）安全が確保された通学路、歩道
全体		3000	33.3	19.1	28.9	22.0	21.9	24.3
性別	男性	1500	36.6	20.2	30.1	22.5	20.2	23.3
	女性	1500	29.9	17.9	27.7	21.5	23.6	25.3
年代	18～29歳	600	37.7	26.0	30.3	27.0	27.5	31.5
	30代	600	32.8	19.8	31.3	23.0	22.7	24.5
	40代	600	30.5	19.5	27.8	21.5	20.7	22.7
	50代	600	32.2	16.2	28.7	20.7	20.3	22.2
	60～79歳	600	33.2	13.8	26.3	17.8	18.3	20.8
性年代	男性18-29歳	300	40.3	24.3	33.3	27.7	27.0	32.7
	男性30代	300	36.7	22.3	32.0	23.3	21.7	23.3
	男性40代	300	33.0	23.0	30.3	22.0	21.3	24.7
	男性50代	300	35.0	18.3	26.0	21.0	14.3	16.7
	男性60-79歳	300	38.0	13.0	28.7	18.3	16.7	19.3
	女性18-29歳	300	35.0	27.7	27.3	26.3	28.0	30.3
	女性30代	300	29.0	17.3	30.7	22.7	23.7	25.7
	女性40代	300	28.0	16.0	25.3	21.0	20.0	20.7
	女性50代	300	29.3	14.0	31.3	20.3	26.3	27.7
	女性60-79歳	300	28.3	14.7	24.0	17.3	20.0	22.3
世帯構成	1人世帯	643	33.6	23.5	30.2	24.3	24.1	24.1
	1世代世帯（夫婦のみ）	737	31.3	15.7	28.5	19.9	20.6	22.7
	2世代世帯（親と子）	1413	34.2	18.6	28.7	22.0	21.7	25.8
	3世代世帯（親と子と孫）	156	37.2	22.4	30.1	24.4	23.7	21.8

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問（2017 調査にない設問）

■社会資本具体分野別の充足度評価（居住地域）属性分析2 〈性・年代別〉

＜活力・交流＞

Q7-1. 「あなたの住む地域」について、次のインフラ（社会資本）は充足していると思いますか。（それぞれひとつだけ）

（%）

充足している計

		n	●活力・交流										
			キ）広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路	ク）ETCなどの設備	ケ）広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道	コ）環状道路や放射状の道路	サ）国際ハブ空港	シ）遠隔地との交流を実現する空港・港湾	ス）効率的な国際物流ネットワークを形成する港湾	セ）交通機関の連携した総合的な交通ネットワーク	ソ）日常生活や経済活動を支える物流網	タ）交流を促す情報を収集・活用できる環境の整備	チ）中心市街地を活性化する都市整備
全体		3000	31.6	40.1	33.7	27.0	19.4	22.0	18.1	25.5	39.2	27.5	28.8
性別	男性	1500	31.1	39.6	33.9	27.5	20.1	23.3	19.4	24.7	37.0	24.7	27.0
	女性	1500	32.0	40.7	33.5	26.6	18.6	20.7	16.9	26.3	41.3	30.3	30.5
年代	18～29歳	600	35.5	43.5	37.5	32.3	26.0	28.3	22.8	31.7	43.3	33.2	37.5
	30代	600	33.5	43.7	34.3	26.7	19.7	21.8	18.3	26.7	36.3	28.2	29.5
	40代	600	31.8	39.7	33.8	28.8	19.0	21.5	17.5	24.2	38.0	26.5	28.0
	50代	600	29.8	37.8	30.8	25.0	17.8	19.7	16.5	24.0	37.7	25.3	25.8
	60～79歳	600	27.2	36.0	32.0	22.3	14.3	18.5	15.5	21.0	40.5	24.3	23.0
性年代	男性18-29歳	300	36.0	40.0	37.0	32.3	25.7	31.0	23.7	31.3	41.0	29.3	37.7
	男性30代	300	33.3	39.7	35.0	26.7	20.7	22.7	20.0	25.3	36.0	25.7	27.7
	男性40代	300	32.3	42.0	36.7	32.3	21.0	24.3	19.3	25.7	38.3	26.7	25.0
	男性50代	300	25.7	36.3	27.3	23.3	17.7	19.7	16.3	20.0	30.3	20.0	21.0
	男性60-79歳	300	28.3	40.0	33.3	22.7	15.7	18.7	17.7	21.0	39.3	22.0	23.7
	女性18-29歳	300	35.0	47.0	38.0	32.3	26.3	25.7	22.0	32.0	45.7	37.0	37.3
	女性30代	300	33.7	47.7	33.7	26.7	18.7	21.0	16.7	28.0	36.7	30.7	31.3
	女性40代	300	31.3	37.3	31.0	25.3	17.0	18.7	15.7	22.7	37.7	26.3	31.0
	女性50代	300	34.0	39.3	34.3	26.7	18.0	19.7	16.7	28.0	45.0	30.7	30.7
	女性60-79歳	300	26.0	32.0	30.7	22.0	13.0	18.3	13.3	21.0	41.7	26.7	22.3
世帯構成	1人世帯	643	30.5	35.9	34.4	28.3	22.2	25.8	20.4	26.3	38.7	27.2	31.3
	1世代世帯（夫婦のみ）	737	30.7	40.2	33.9	26.3	19.1	22.7	18.5	26.3	39.3	27.5	29.4
	2世代世帯（親と子）	1413	32.7	42.7	33.5	27.2	18.3	20.3	16.9	24.8	39.1	27.5	27.4
	3世代世帯（親と子と孫）	156	33.3	39.7	34.0	26.3	20.5	20.5	21.8	26.3	43.6	30.8	29.5

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問（2017 調査にない設問）

■社会資本具体分野別の充足度評価（居住地域）属性分析3 〈性・年代別〉

＜心豊かな暮らし＞

Q7-1. 「あなたの住む地域」について、次のインフラ（社会資本）は充足していると思いますか。（それぞれひとつだけ）

（%）

充足している計		n	●心豊かな暮らし											ひとつもない
			ツ）地域の道路	テ）地域の交通機関（鉄道、バス）	ト）公園・緑地、スポーツレクレーション施設	ナ）医療、福祉、子育て、教育文化施設	ニ）安全でおいしい水を供給する上水道	ヌ）下水道などの汚水処理施設	ネ）恵まれた自然景観	ノ）脱炭素社会を実現するための社会基盤	ハ）質の高い居住・生活空間	ヒ）生活を快適にする道路利用や景観を良くする無電柱化	フ）快適な生活に必要な情報を収集・活用できる環境の整備	
全体		3000	40.5	35.8	40.3	30.8	57.7	51.9	45.5	11.1	27.0	15.0	22.8	20.2
性別	男性	1500	35.4	32.3	35.7	28.4	55.3	50.4	42.1	12.5	24.9	15.2	20.7	21.9
	女性	1500	45.6	39.3	44.9	33.3	60.1	53.3	48.9	9.8	29.0	14.8	24.9	18.5
年代	18～29歳	600	49.0	42.7	45.5	36.8	54.2	52.0	45.7	19.2	36.7	21.8	32.0	18.3
	30代	600	40.2	33.0	42.0	32.3	54.5	47.8	45.2	12.5	27.5	17.5	22.8	18.8
	40代	600	40.0	36.0	39.7	29.5	56.7	50.3	46.5	10.7	25.8	14.0	21.2	22.2
	50代	600	37.0	31.5	37.5	27.3	58.0	49.8	41.5	7.5	21.5	12.3	20.7	24.3
	60～79歳	600	36.3	35.7	36.7	28.2	65.2	59.3	48.7	5.8	23.3	9.3	17.2	17.3
性年代	男性18-29歳	300	42.0	39.3	38.0	36.3	49.3	49.0	41.3	22.7	34.3	22.0	32.7	24.0
	男性30代	300	36.3	29.7	36.0	30.7	53.0	48.0	42.7	14.7	25.7	20.3	20.7	20.7
	男性40代	300	37.3	34.7	36.7	26.3	54.0	50.7	41.7	11.7	24.0	14.3	19.7	22.7
	男性50代	300	29.7	26.0	32.3	23.3	52.3	44.7	36.3	8.0	18.0	10.3	16.0	28.3
	男性60-79歳	300	31.7	31.7	35.3	25.3	67.7	59.7	48.7	5.3	22.7	9.0	14.3	14.0
	女性18-29歳	300	56.0	46.0	53.0	37.3	59.0	55.0	50.0	15.7	39.0	21.7	31.3	12.7
	女性30代	300	44.0	36.3	48.0	34.0	56.0	47.7	47.7	10.3	29.3	14.7	25.0	17.0
	女性40代	300	42.7	37.3	42.7	32.7	59.3	50.0	51.3	9.7	27.7	13.7	22.7	21.7
	女性50代	300	44.3	37.0	42.7	31.3	63.7	55.0	46.7	7.0	25.0	14.3	25.3	20.3
	女性60-79歳	300	41.0	39.7	38.0	31.0	62.7	59.0	48.7	6.3	24.0	9.7	20.0	20.7
世帯構成	1人世帯	643	41.4	38.3	38.4	29.4	54.6	49.9	40.9	15.4	26.6	17.0	23.2	23.3
	1世代世帯（夫婦のみ）	737	39.3	37.0	40.7	29.0	59.8	53.2	46.0	8.3	26.1	13.2	21.0	19.0
	2世代世帯（親と子）	1413	41.3	35.0	42.0	32.3	57.7	52.4	46.9	10.5	28.0	15.4	23.4	19.4
	3世代世帯（親と子と孫）	156	39.1	30.8	36.5	36.5	63.5	54.5	51.9	14.1	25.6	13.5	25.0	16.7

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問（2017 調査にない設問）

■社会資本具体分野別の充足度評価（居住地域）属性分析4 〈地域別〉

・　地域別、都市規模別とも、総じて人口規模が小さなグループほど充足度評価が低い傾向にある。特に、「活力・交流」に関する項目では、その傾向が顕著である。

＜安全・安心＞

Q7-1.　「あなたの住む地域」について、次のインフラ（社会資本）は充足していると思いますか。（それぞれひとつだけ）

（%）

		充足している計	n	●安全・安心					
				ア）河川の施設	イ）海岸施設	ウ）「命の道」としての高速道路や幹線道路	エ）安全性の高い街	オ）災害、避難情報などを収集・活用できる環境の整備	カ）安全が確保された通学路、歩道
全体			3000	33.3	19.1	28.9	22.0	21.9	24.3
地域ブロック別	北海道ブロック		120	34.2	13.3	26.7	15.0	17.5	28.3
	東北ブロック		210	33.3	28.1	32.4	23.8	21.4	22.4
	関東ブロック		1070	34.3	17.2	30.3	25.4	25.5	26.4
	北陸ブロック		120	40.0	18.3	26.7	18.3	16.7	20.0
	中部ブロック		360	33.1	19.4	28.6	19.7	21.9	21.7
	近畿ブロック		510	32.4	18.2	30.2	20.6	19.2	23.5
	中国ブロック		180	27.8	20.0	24.4	20.6	20.0	20.6
	四国ブロック		100	30.0	19.0	22.0	18.0	16.0	26.0
	九州・沖縄ブロック		330	32.7	22.1	26.7	20.3	20.9	24.5
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区		846	34.9	19.7	35.0	27.1	27.8	29.1
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市		302	38.7	17.5	32.5	24.8	23.8	26.2
	三大都市圏の上記以外の地域		499	30.3	13.8	24.2	18.4	17.4	20.2
	地方中枢都市		254	36.2	24.8	34.3	26.8	26.4	30.3
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地		248	31.5	21.4	24.2	16.5	19.4	21.4
	地方圏のその他の市		557	31.1	20.1	26.0	18.7	16.9	19.6
	地方圏の町村		202	34.7	20.8	23.3	19.3	18.8	23.3

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問（2017 調査にない設問）

■社会資本具体分野別の充足度評価（居住地域）属性分析5 〈地域別〉

＜活力・交流＞

Q7-1. 「あなたの住む地域」について、次のインフラ（社会資本）は充足していると思いますか。（それぞれひとつだけ）

（%）

充足している計

		n	●活力・交流										
			キ）広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路	ク）ETCなどの設備	ケ）広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道	コ）環状道路や放射状の道路	サ）国際ハブ空港	シ）遠隔地との交流を実現する空港・港湾	ス）効率的な国際物流ネットワークを形成する港湾	セ）交通機関の連携した総合的な交通ネットワーク	ソ）日常生活や経済活動を支える物流網	タ）交流を促す情報を収集・活用できる環境の整備	チ）中心市街地を活性化する都市整備
全体		3000	31.6	40.1	33.7	27.0	19.4	22.0	18.1	25.5	39.2	27.5	28.8
地域ブロック別	北海道ブロック	120	20.0	30.0	12.5	19.2	20.0	25.0	16.7	16.7	31.7	20.8	27.5
	東北ブロック	210	31.9	39.5	36.2	24.8	13.3	18.6	17.1	20.0	33.8	23.3	27.6
	関東ブロック	1070	35.0	42.1	36.0	31.9	21.0	21.4	17.7	30.7	44.8	30.7	33.6
	北陸ブロック	120	26.7	36.7	34.2	21.7	9.2	19.2	17.5	15.8	26.7	22.5	20.0
	中部ブロック	360	34.2	42.8	33.6	26.7	20.8	22.2	18.1	23.6	36.4	23.6	23.9
	近畿ブロック	510	32.2	42.4	37.8	27.5	24.3	25.7	21.0	31.0	43.3	32.2	30.0
	中国ブロック	180	22.2	27.2	26.1	16.7	7.8	13.3	13.9	14.4	28.3	19.4	18.9
	四国ブロック	100	23.0	38.0	19.0	16.0	7.0	16.0	10.0	11.0	32.0	22.0	22.0
	九州・沖縄ブロック	330	30.3	40.6	34.5	26.4	22.1	26.4	21.5	23.0	36.4	27.3	28.2
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	846	39.0	46.9	43.1	38.5	29.7	30.6	25.8	40.2	50.2	38.3	42.3
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	302	37.4	47.0	37.4	31.5	21.2	23.2	15.6	30.8	48.7	29.1	32.8
	三大都市圏の上記以外の地域	499	27.7	34.9	27.7	20.2	17.6	16.8	13.8	19.6	36.3	23.4	18.0
	地方中枢都市	254	34.3	46.9	41.7	32.7	27.6	33.9	28.0	29.5	42.9	34.6	42.1
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地	248	28.2	37.9	32.3	21.8	8.9	17.7	15.7	13.3	31.9	20.2	23.8
	地方圏のその他の市	557	25.1	34.8	25.7	17.4	8.6	14.7	12.4	14.0	27.5	19.0	18.7
	地方圏の町村	202	22.8	30.7	24.3	19.3	15.8	12.4	11.4	16.3	31.2	18.3	15.8

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問（2017 調査にない設問）

■社会資本具体分野別の充足度評価（居住地域）属性分析6 〈地域別〉

＜心豊かな暮らし＞

Q7-1. 「あなたの住む地域」について、次のインフラ（社会資本）は充足していると思いますか。（それぞれひとつだけ）

（%）

充足している計		n	●心豊かな暮らし											ひとつもない
			ツ）地域の道路	テ）地域の交通機関（鉄道、バス）	ト）公園・緑地、スポーツレクレーション施設	ナ）医療、福祉、子育て、教育文化施設	ニ）安全でおいしい水を供給する上水道	ヌ）下水道などの汚水処理施設	ネ）恵まれた自然景観	ノ）脱炭素社会を実現するための社会基盤	ハ）質の高い居住・生活空間	ヒ）生活を快適にする道路利用や景観を良くする無電柱化	フ）快適な生活に必要な情報を収集・活用できる環境の整備	
全体		3000	40.5	35.8	40.3	30.8	57.7	51.9	45.5	11.1	27.0	15.0	22.8	20.2
地域ブロック別	北海道ブロック	120	42.5	27.5	36.7	25.0	62.5	55.0	60.0	9.2	27.5	10.0	20.0	22.5
	東北ブロック	210	35.2	23.3	33.8	23.8	59.5	43.8	58.1	14.3	28.1	11.0	18.1	22.9
	関東ブロック	1070	43.8	44.7	46.5	35.3	57.0	54.5	38.8	10.6	27.2	18.1	26.6	18.7
	北陸ブロック	120	34.2	20.0	35.8	21.7	55.0	46.7	60.8	10.0	25.0	12.5	20.8	19.2
	中部ブロック	360	39.2	28.3	34.7	28.3	56.4	47.8	41.4	10.6	28.1	11.7	19.4	24.4
	近畿ブロック	510	43.7	43.3	40.4	34.3	57.5	53.9	41.8	11.6	28.4	15.7	23.7	18.4
	中国ブロック	180	26.7	23.3	32.8	23.3	55.0	46.7	47.2	10.6	19.4	13.9	17.2	27.8
	四国ブロック	100	40.0	18.0	30.0	21.0	62.0	38.0	56.0	11.0	20.0	10.0	17.0	20.0
	九州・沖縄ブロック	330	38.8	32.1	40.0	30.6	60.0	57.6	54.5	12.4	28.8	14.8	21.8	17.0
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	846	51.3	53.7	47.6	39.4	58.4	58.7	31.0	13.1	31.6	21.5	30.9	18.6
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	302	43.7	47.0	50.0	39.1	59.6	57.3	44.7	10.3	29.8	17.9	23.2	14.6
	三大都市圏の上記以外の地域	499	35.3	32.1	35.1	26.3	55.9	47.7	46.7	8.0	24.4	10.2	18.2	22.4
	地方中枢都市	254	43.3	43.3	43.3	29.1	62.6	62.2	53.1	15.4	34.3	17.7	29.9	17.7
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地	248	34.3	21.0	36.3	27.4	58.9	51.2	48.0	11.7	23.4	10.9	16.9	21.8
	地方圏のその他の市	557	33.6	18.5	34.8	22.4	57.6	43.8	58.7	9.9	21.2	10.8	16.2	20.3
	地方圏の町村	202	33.7	15.8	29.2	27.2	57.9	45.5	63.4	11.4	24.8	11.4	18.3	21.3

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問（2017 調査にない設問）

■社会資本具体分野別の充足度評価(居住地域)属性分析 〈性・年代別〉 参考:充足していない計

＜安全・安心＞

Q7-1. 「あなたの住む地域」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

(%)

充足していない計		n	●安全・安心					
			ア)河川の施設	イ)海岸施設	ウ)「命の道」としての高速道路や幹線道路	エ)安全性の高い街	オ)災害、避難情報などを収集・活用できる環境の整備	カ)安全が確保された通学路、歩道
全体		3000	19.1	15.7	21.6	27.6	26.4	30.3
性別	男性	1500	19.1	15.9	22.7	27.7	28.2	31.5
	女性	1500	19.1	15.5	20.5	27.5	24.5	29.1
年代	18～29歳	600	18.8	15.7	22.2	29.0	25.2	29.7
	30代	600	20.3	16.8	23.3	29.3	30.2	35.0
	40代	600	21.7	17.2	22.5	29.2	26.3	30.7
	50代	600	17.0	15.0	18.7	24.3	23.3	27.8
	60～79歳	600	17.8	14.0	21.5	26.3	26.8	28.3
性年代	男性18-29歳	300	20.0	16.0	22.0	27.0	24.0	25.7
	男性30代	300	19.7	18.3	26.7	29.3	30.7	36.7
	男性40代	300	22.3	16.0	22.7	29.0	27.7	31.0
	男性50代	300	16.0	15.3	19.3	23.7	26.7	30.3
	男性60-79歳	300	17.7	14.0	23.0	29.7	32.0	34.0
	女性18-29歳	300	17.7	15.3	22.3	31.0	26.3	33.7
	女性30代	300	21.0	15.3	20.0	29.3	29.7	33.3
	女性40代	300	21.0	18.3	22.3	29.3	25.0	30.3
	女性50代	300	18.0	14.7	18.0	25.0	20.0	25.3
	女性60-79歳	300	18.0	14.0	20.0	23.0	21.7	22.7
世帯構成	1人世帯	643	17.9	15.2	21.2	26.6	24.6	27.4
	1世代世帯(夫婦のみ)	737	20.1	16.0	21.3	28.0	27.3	28.8
	2世代世帯(親と子)	1413	19.5	15.4	21.6	27.6	26.8	31.8
	3世代世帯(親と子と孫)	156	15.4	17.3	24.4	28.8	26.9	33.3

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問(2017 調査にない設問)

■社会資本具体分野別の充足度評価(居住地域)属性分析 〈性・年代別〉 参考:充足していない計

＜活力・交流＞

Q7-1. 「あなたの住む地域」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

(%)

充足していない計		n	●活力・交流										
			キ)広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路	ク)ETCなどの設備	ケ)広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道	コ)環状道路や放射状の道路	サ)国際ハブ空港	シ)遠隔地との交流を実現する空港・港湾	ス)効率的な国際物流ネットワークを形成する港湾	セ)交通機関の連携した総合的な交通ネットワーク	ソ)日常生活や経済活動を支える物流網	タ)交流を促す情報を収集・活用できる環境の整備	チ)中心市街地を活性化する都市整備
全体		3000	20.7	14.7	19.4	23.5	29.6	25.1	24.0	24.4	15.7	20.1	24.9
性別	男性	1500	21.1	16.3	20.5	24.7	31.6	26.6	26.2	26.5	16.8	22.3	25.8
	女性	1500	20.2	13.0	18.2	22.3	27.6	23.7	21.7	22.3	14.5	18.0	24.1
年代	18～29歳	600	19.7	16.8	17.7	22.2	28.3	24.0	23.3	22.7	16.3	21.5	22.0
	30代	600	23.3	16.0	21.0	24.8	32.3	28.0	28.2	27.7	18.8	23.3	26.2
	40代	600	21.8	13.8	19.7	22.5	29.3	25.3	23.7	24.0	15.5	20.2	27.8
	50代	600	17.7	12.0	17.7	21.5	25.3	21.0	19.8	20.5	12.8	16.0	20.8
	60～79歳	600	20.8	14.7	20.8	26.5	32.7	27.3	24.8	27.2	14.8	19.7	27.8
性年代	男性18-29歳	300	17.7	20.7	18.0	22.0	29.0	24.7	27.0	23.3	17.0	23.7	22.0
	男性30代	300	24.7	17.7	21.3	25.7	35.0	29.7	28.7	28.0	18.3	25.3	26.7
	男性40代	300	22.0	15.7	21.0	23.0	28.7	24.0	25.7	26.0	17.7	22.3	29.7
	男性50代	300	18.3	12.0	20.0	23.7	28.7	23.0	21.7	24.0	15.3	18.7	21.3
	男性60-79歳	300	23.0	15.7	22.3	29.3	36.7	31.7	28.0	31.3	15.7	21.3	29.3
	女性18-29歳	300	21.7	13.0	17.3	22.3	27.7	23.3	19.7	22.0	15.7	19.3	22.0
	女性30代	300	22.0	14.3	20.7	24.0	29.7	26.3	27.7	27.3	19.3	21.3	25.7
	女性40代	300	21.7	12.0	18.3	22.0	30.0	26.7	21.7	22.0	13.3	18.0	26.0
	女性50代	300	17.0	12.0	15.3	19.3	22.0	19.0	18.0	17.0	10.3	13.3	20.3
	女性60-79歳	300	18.7	13.7	19.3	23.7	28.7	23.0	21.7	23.0	14.0	18.0	26.3
世帯構成	1人世帯	643	20.1	16.6	19.4	22.7	29.7	26.1	25.5	21.9	15.7	18.4	24.0
	1世代世帯(夫婦のみ)	737	20.9	14.0	19.5	25.4	30.7	25.1	23.5	25.9	15.3	20.2	25.5
	2世代世帯(親と子)	1413	20.3	13.6	18.8	22.9	29.6	24.6	23.8	24.7	16.0	21.4	24.9
	3世代世帯(親と子と孫)	156	23.7	20.5	22.4	26.3	25.6	24.4	21.2	28.2	16.0	16.7	27.6

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問(2017 調査にない設問)

■社会資本具体分野別の充足度評価(居住地域)属性分析 〈性・年代別〉 参考:充足していない計

＜心豊かな暮らし＞

Q7-1. 「あなたの住む地域」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

(%)

充足していない計		n	●心豊かな暮らし											ひとつもない
			ツ)地域の道路	テ)地域の交通機関(鉄道、バス)	ト)公園・緑地、スポーツレクレーション施設	ナ)医療、福祉、子育て、教育文化施設	ニ)安全でおいしい水を供給する上水道	ヌ)下水道などの汚水処理施設	ネ)恵まれた自然景観	ノ)脱炭素社会を実現するための社会基盤	ハ)質の高い居住・生活空間	ヒ)生活を快適にする道路利用や景観を良くする無電柱化	フ)快適な生活に必要な情報を収集・活用できる環境の整備	
全体		3000	17.2	25.7	21.4	22.8	10.3	11.8	15.3	26.8	21.1	40.2	25.4	29.6
性別	男性	1500	18.7	26.0	23.3	23.5	10.7	12.2	15.5	30.7	22.1	39.0	28.6	28.7
	女性	1500	15.7	25.4	19.5	22.1	10.0	11.5	15.1	22.9	20.1	41.3	22.1	30.5
年代	18～29歳	600	15.0	21.5	20.3	18.8	14.3	10.3	17.0	23.8	19.0	32.0	21.2	30.7
	30代	600	17.2	26.8	21.5	22.8	13.0	12.0	17.5	27.8	24.7	39.2	27.8	29.5
	40代	600	17.3	25.5	21.5	24.8	10.2	12.5	14.8	25.5	20.0	39.3	24.8	30.0
	50代	600	16.3	25.5	19.7	21.7	6.2	10.7	14.8	26.2	19.3	38.8	23.0	32.3
	60～79歳	600	20.2	29.2	24.0	26.0	8.0	13.7	12.5	30.5	22.7	51.5	30.0	25.3
性年代	男性18-29歳	300	15.0	20.0	21.3	17.0	16.0	10.3	17.7	25.7	20.0	28.7	22.0	33.0
	男性30代	300	18.0	26.3	23.3	23.0	13.7	10.3	18.0	31.0	24.7	35.7	29.7	28.7
	男性40代	300	18.3	25.3	23.7	25.3	11.0	13.3	15.7	29.0	20.7	37.0	28.0	30.3
	男性50代	300	18.0	26.3	20.0	22.7	5.7	11.3	13.0	30.0	18.7	38.7	25.3	31.0
	男性60-79歳	300	24.3	32.0	28.3	29.7	7.0	15.7	13.3	37.7	26.7	55.0	38.0	20.3
	女性18-29歳	300	15.0	23.0	19.3	20.7	12.7	10.3	16.3	22.0	18.0	35.3	20.3	28.3
	女性30代	300	16.3	27.3	19.7	22.7	12.3	13.7	17.0	24.7	24.7	42.7	26.0	30.3
	女性40代	300	16.3	25.7	19.3	24.3	9.3	11.7	14.0	22.0	19.3	41.7	21.7	29.7
	女性50代	300	14.7	24.7	19.3	20.7	6.7	10.0	16.7	22.3	20.0	39.0	20.7	33.7
	女性60-79歳	300	16.0	26.3	19.7	22.3	9.0	11.7	11.7	23.3	18.7	48.0	22.0	30.3
世帯構成	1人世帯	643	15.7	21.3	21.0	20.5	13.2	11.8	16.3	24.9	21.8	35.6	24.1	31.4
	1世代世帯(夫婦のみ)	737	17.9	25.8	22.5	24.0	11.0	14.0	15.2	29.9	23.1	45.0	27.5	28.2
	2世代世帯(親と子)	1413	16.9	27.2	20.7	23.1	9.1	10.3	15.5	25.9	19.7	39.7	25.1	29.6
	3世代世帯(親と子と孫)	156	21.8	30.1	25.0	25.0	7.1	13.5	11.5	28.8	23.7	41.7	23.7	26.9

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問(2017 調査にない設問)

■社会資本具体分野別の充足度評価(居住地域)属性分析 〈地域別〉　参考:充足していない計

＜安全・安心＞

Q7-1. 「あなたの住む地域」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

(%)

		充足していない計	n	●安全・安心					
				ア)河川の施設	イ)海岸施設	ウ)「命の道」としての高速道路や幹線道路	エ)安全性の高い街	オ)災害、避難情報などを収集・活用できる環境の整備	カ)安全が確保された通学路、歩道
全体			3000	19.1	15.7	21.6	27.6	26.4	30.3
地域ブロック別	北海道ブロック		120	21.7	21.7	31.7	32.5	25.0	32.5
	東北ブロック		210	24.8	16.7	24.3	26.7	30.5	33.8
	関東ブロック		1070	18.1	12.3	18.0	25.0	23.7	27.9
	北陸ブロック		120	15.8	20.8	27.5	28.3	25.0	27.5
	中部ブロック		360	19.7	16.7	20.8	31.1	28.1	33.6
	近畿ブロック		510	14.7	13.9	17.6	24.1	25.3	29.8
	中国ブロック		180	25.0	20.6	28.9	34.4	32.8	33.9
	四国ブロック		100	25.0	24.0	35.0	36.0	35.0	30.0
	九州・沖縄ブロック		330	20.3	18.8	24.8	30.0	27.0	31.5
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区		846	15.8	13.7	12.3	21.9	21.3	24.9
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市		302	17.9	14.6	18.9	25.2	25.2	29.1
	三大都市圏の上記以外の地域		499	16.8	12.2	22.0	29.1	29.1	34.5
	地方中枢都市		254	14.2	13.8	15.4	21.3	19.3	23.6
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地		248	25.4	19.8	27.0	31.9	26.6	33.5
	地方圏のその他の市		557	25.5	21.0	32.3	34.5	34.3	34.8
	地方圏の町村		202	21.3	18.3	35.6	39.6	35.1	37.6

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問(2017 調査にない設問)

■社会資本具体分野別の充足度評価(居住地域)属性分析 〈地域別〉　参考:充足していない計

＜活力・交流＞

Q7-1. 「あなたの住む地域」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

(%)

充足していない計		n	●活力・交流										
			キ)広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路	ク)ETCなどの設備	ケ)広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道	コ)環状道路や放射状の道路	サ)国際ハブ空港	シ)遠隔地との交流を実現する空港・港湾	ス)効率的な国際物流ネットワークを形成する港湾	セ)交通機関の連携した総合的な交通ネットワーク	ソ)日常生活や経済活動を支える物流網	タ)交流を促す情報を収集・活用できる環境の整備	チ)中心市街地を活性化する都市整備
全体		3000	20.7	14.7	19.4	23.5	29.6	25.1	24.0	24.4	15.7	20.1	24.9
地域ブロック別	北海道ブロック	120	29.2	17.5	34.2	31.7	36.7	31.7	25.0	32.5	22.5	28.3	27.5
	東北ブロック	210	29.5	20.0	25.7	33.8	40.5	32.9	31.0	38.6	25.2	28.1	35.7
	関東ブロック	1070	15.9	10.3	13.3	15.9	21.5	18.7	17.4	16.4	10.2	14.8	19.0
	北陸ブロック	120	25.0	17.5	20.0	25.8	45.0	34.2	31.7	30.0	24.2	25.8	33.3
	中部ブロック	360	20.6	13.9	17.5	22.5	26.7	24.7	21.1	21.9	15.3	20.0	27.2
	近畿ブロック	510	18.8	15.3	17.3	22.7	27.3	23.7	25.1	22.0	14.5	16.7	21.4
	中国ブロック	180	26.7	23.3	25.6	33.3	42.2	36.7	33.9	35.0	21.1	26.7	32.8
	四国ブロック	100	32.0	19.0	42.0	45.0	59.0	41.0	46.0	47.0	29.0	36.0	41.0
	九州・沖縄ブロック	330	22.1	17.3	24.5	28.2	31.8	27.0	27.0	30.3	17.0	24.5	27.3
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	846	13.8	9.7	10.6	13.5	19.7	16.0	16.2	13.2	8.9	13.1	14.1
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	302	16.6	8.6	16.9	18.9	22.8	23.2	20.5	18.5	9.3	15.2	20.5
	三大都市圏の上記以外の地域	499	21.8	15.6	18.4	23.0	26.1	23.4	22.0	23.2	16.4	20.2	26.7
	地方中枢都市	254	14.6	7.1	15.0	18.1	26.8	18.9	17.7	20.5	13.0	15.4	14.6
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地	248	22.2	16.1	24.6	32.3	44.4	35.9	34.3	34.3	16.9	21.8	32.7
	地方圏のその他の市	557	30.3	22.4	30.0	35.5	44.3	37.3	35.4	40.2	24.8	30.9	40.2
	地方圏の町村	202	34.7	26.7	32.2	38.1	37.6	34.7	33.2	36.6	27.7	31.7	34.2

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問(2017 調査にない設問)

■社会資本具体分野別の充足度評価（居住地域）属性分析 〈地域別〉　参考：充足していない計

＜心豊かな暮らし＞

Q7-1. 「あなたの住む地域」について、次のインフラ（社会資本）は充足していると思いますか。（それぞれひとつだけ）

（%）

充足していない計		n	●心豊かな暮らし											ひとつもない
			ツ）地域の道路	テ）地域の交通機関（鉄道、バス）	ト）公園・緑地、スポーツレクレーション施設	ナ）医療、福祉、子育て、教育文化施設	ニ）安全でおいしい水を供給する上水道	ヌ）下水道などの汚水処理施設	ネ）恵まれた自然景観	ノ）脱炭素社会を実現するための社会基盤	ハ）質の高い居住・生活空間	ヒ）生活を快適にする道路利用や景観を良くする無電柱化	フ）快適な生活に必要な情報を収集・活用できる環境の整備	
全体		3000	17.2	25.7	21.4	22.8	10.3	11.8	15.3	26.8	21.1	40.2	25.4	29.6
地域ブロック別	北海道ブロック	120	18.3	34.2	21.7	35.8	10.8	11.7	10.0	30.0	21.7	41.7	25.8	26.7
	東北ブロック	210	24.3	41.0	30.0	30.5	11.4	16.7	9.5	26.2	28.1	47.6	35.2	25.7
	関東ブロック	1070	13.6	17.1	16.3	19.2	10.3	10.9	17.5	25.0	18.8	35.9	19.3	33.1
	北陸ブロック	120	20.0	35.8	25.0	26.7	8.3	8.3	9.2	27.5	20.8	35.8	29.2	27.5
	中部ブロック	360	16.1	30.0	25.8	25.3	8.1	14.2	16.4	32.5	20.3	43.1	27.8	28.9
	近畿ブロック	510	14.5	20.6	19.4	18.8	11.0	8.4	19.0	26.3	21.4	40.6	22.7	28.8
	中国ブロック	180	23.9	32.2	24.4	22.2	10.6	12.2	15.6	30.6	24.4	38.9	36.1	26.1
	四国ブロック	100	29.0	42.0	36.0	37.0	17.0	26.0	11.0	32.0	26.0	57.0	41.0	23.0
	九州・沖縄ブロック	330	20.9	31.8	23.3	23.3	9.7	11.2	10.6	22.4	21.5	42.1	28.2	28.2
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	846	10.9	12.9	14.8	16.4	11.1	8.0	23.0	25.9	18.7	33.2	16.7	36.2
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	302	14.2	17.2	16.9	19.9	7.6	9.3	15.2	29.1	18.2	36.8	21.5	31.1
	三大都市圏の上記以外の地域	499	16.0	26.3	23.2	25.1	9.0	13.4	12.8	27.3	21.2	46.3	28.3	26.5
	地方中枢都市	254	15.7	15.4	15.0	19.7	7.1	6.7	11.4	20.9	13.8	38.6	20.1	36.2
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地	248	19.8	35.9	27.8	24.6	11.7	11.7	10.1	26.2	25.0	42.3	32.3	24.2
	地方圏のその他の市	557	25.7	44.0	28.5	29.4	12.6	17.6	11.5	30.0	26.2	46.3	36.1	21.2
	地方圏の町村	202	25.7	47.0	34.7	33.2	10.9	17.8	10.4	27.2	27.7	46.0	33.2	25.2

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問（2017 調査にない設問）

4-2.社会資本具体分野別の充足度評価、推進意向(日本全体)属性分析

■社会資本具体分野別の充足度評価(日本全体)属性分析1 〈性・年代別〉

・ 年代別で見ると、18～29 歳の年代は多くの分野で他の層を大きく上回っている。また、多くの分野で上の年代ほど充足度評価が低い傾向にある。

＜安全・安心＞

Q7-2. 「日本全体」について、次のインフラ(社会資本)は充足していると思いますか。(それぞれひとつだけ)

(%)

	充足している計	n	●安全・安心 ア)河川の施設	イ)海岸施設	ウ)「命の道」としての高速道路や幹線道路	エ)安全性の高い街	オ)災害、避難情報などを収集・活用できる環境の整備	カ)安全が確保された通学路、歩道
全体		3000	17.5	16.1	23.7	15.1	20.2	15.9
性別	男性	1500	20.7	18.9	25.8	16.5	20.4	17.5
	女性	1500	14.3	13.3	21.7	13.7	20.1	14.3
年代	18～29歳	600	28.0	26.2	34.2	26.8	33.8	26.7
	30代	600	18.0	17.3	23.5	15.0	21.2	16.5
	40代	600	16.0	15.3	24.3	13.3	18.7	13.5
	50代	600	14.3	13.0	18.5	11.7	15.7	12.3
	60～79歳	600	11.0	8.7	18.2	8.8	11.8	10.3
性年代	男性18-29歳	300	34.0	30.7	35.0	29.0	34.0	30.3
	男性30代	300	22.3	20.3	27.7	18.3	23.7	20.0
	男性40代	300	19.0	19.3	26.7	15.7	18.0	15.7
	男性50代	300	14.3	13.3	18.7	11.0	13.7	12.0
	男性60-79歳	300	13.7	10.7	21.0	8.7	12.7	9.3
	女性18-29歳	300	22.0	21.7	33.3	24.7	33.7	23.0
	女性30代	300	13.7	14.3	19.3	11.7	18.7	13.0
	女性40代	300	13.0	11.3	22.0	11.0	19.3	11.3
	女性50代	300	14.3	12.7	18.3	12.3	17.7	12.7
	女性60-79歳	300	8.3	6.7	15.3	9.0	11.0	11.3
世帯構成	1人世帯	643	20.5	20.2	25.5	18.0	24.4	21.2
	1世代世帯(夫婦のみ)	737	12.5	11.9	19.8	11.8	14.8	10.7
	2世代世帯(親と子)	1413	18.5	16.3	25.1	15.5	21.1	16.1
	3世代世帯(親と子と孫)	156	20.5	17.3	25.6	16.7	21.8	18.6

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問(2017 調査にない設問)

■社会資本具体分野別の充足度評価（日本全体）属性分析2 〈性・年代別〉

＜活力・交流＞

Q7-2. 「日本全体」について、次のインフラ（社会資本）は充足していると思いますか。（それぞれひとつだけ）

（%）

充足している計		n	●活力・交流										
			キ）広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路	ク）ETCなどの設備	ケ）広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道	コ）環状道路や放射状の道路	サ）国際ハブ空港	シ）遠隔地との交流を実現する空港・港湾	ス）効率的な国際物流ネットワークを形成する港湾	セ）交通機関の連携した総合的な交通ネットワーク	ソ）日常生活や経済活動を支える物流網	タ）交流を促す情報を収集・活用できる環境の整備	チ）中心市街地を活性化する都市整備
全体		3000	28.2	35.8	33.8	28.9	25.7	27.1	23.6	26.4	38.1	27.8	30.5
性別	男性	1500	28.5	36.1	33.5	28.2	23.9	26.4	23.7	25.3	37.6	27.1	29.5
	女性	1500	27.9	35.5	34.1	29.6	27.5	27.8	23.5	27.4	38.7	28.6	31.5
年代	18～29歳	600	36.8	45.3	41.8	39.2	35.3	37.3	32.3	35.8	43.7	37.7	40.3
	30代	600	29.5	39.5	35.2	31.0	29.7	29.7	25.8	27.5	37.5	29.2	30.2
	40代	600	28.0	34.3	33.5	29.2	23.5	25.2	23.0	25.3	38.2	25.8	29.8
	50代	600	23.7	29.2	27.5	22.8	21.3	22.8	20.0	24.2	35.2	24.3	27.7
	60～79歳	600	23.0	30.7	31.2	22.3	18.7	20.5	16.8	19.0	36.2	22.2	24.5
性年代	男性18-29歳	300	36.3	42.3	38.7	37.3	31.7	36.0	32.3	34.3	41.0	35.7	37.0
	男性30代	300	32.0	41.0	34.0	30.3	30.0	32.0	27.7	28.0	38.3	29.7	30.7
	男性40代	300	28.3	36.7	34.3	29.3	19.7	22.3	22.7	24.0	38.0	25.3	31.0
	男性50代	300	23.0	28.7	27.0	21.7	20.0	22.7	20.0	24.3	34.0	23.0	24.0
	男性60-79歳	300	22.7	32.0	33.7	22.3	18.3	19.0	15.7	16.0	36.7	21.7	24.7
	女性18-29歳	300	37.3	48.3	45.0	41.0	39.0	38.7	32.3	37.3	46.3	39.7	43.7
	女性30代	300	27.0	38.0	36.3	31.7	29.3	27.3	24.0	27.0	36.7	28.7	29.7
	女性40代	300	27.7	32.0	32.7	29.0	27.3	28.0	23.3	26.7	38.3	26.3	28.7
	女性50代	300	24.3	29.7	28.0	24.0	22.7	23.0	20.0	24.0	36.3	25.7	31.3
	女性60-79歳	300	23.3	29.3	28.7	22.3	19.0	22.0	18.0	22.0	35.7	22.7	24.3
世帯構成	1人世帯	643	30.6	35.9	34.7	31.1	26.7	28.1	24.6	28.6	37.0	28.1	32.0
	1世代世帯（夫婦のみ）	737	23.6	33.6	29.3	24.3	23.2	24.0	20.9	22.8	36.9	25.9	27.4
	2世代世帯（親と子）	1413	29.4	37.0	35.9	30.1	27.0	28.0	24.4	27.5	39.5	28.3	31.6
	3世代世帯（親と子と孫）	156	31.4	39.1	35.9	30.8	23.1	31.4	26.3	25.6	38.5	32.1	30.8

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問（2017 調査にない設問）

■社会資本具体分野別の充足度評価（日本全体）属性分析3 〈性・年代別〉

＜心豊かな暮らし＞

Q7-2. 「日本全体」について、次のインフラ（社会資本）は充足していると思いますか。（それぞれひとつだけ）

（%）

充足している計		n	●心豊かな暮らし											ひとつもない
			ツ）地域の道路	テ）地域の交通機関（鉄道、バス）	ト）公園・緑地、スポーツレクレーション施設	ナ）医療、福祉、子育て、教育文化施設	ニ）安全でおいしい水を供給する上水道	ヌ）下水道などの汚水処理施設	ネ）恵まれた自然景観	ノ）脱炭素社会を実現するための社会基盤	ハ）質の高い居住・生活空間	ヒ）生活を快適にする道路利用や景観を良くする無電柱化	フ）快適な生活に必要な情報を収集・活用できる環境の整備	
全体		3000	32.4	29.2	28.0	20.2	47.9	41.9	31.2	12.3	19.9	14.9	22.1	33.2
性別	男性	1500	30.5	28.1	26.9	20.9	46.9	40.6	31.3	13.3	19.7	15.4	21.7	33.8
	女性	1500	34.3	30.4	29.0	19.5	48.9	43.1	31.1	11.3	20.0	14.3	22.4	32.5
年代	18～29歳	600	42.2	38.8	34.5	26.7	47.7	46.5	35.0	19.0	32.8	25.3	34.5	28.8
	30代	600	33.8	30.5	28.7	20.5	47.3	43.2	31.5	14.0	22.8	17.7	25.0	33.7
	40代	600	31.2	29.5	29.5	19.0	47.5	41.7	31.7	12.2	18.5	14.0	20.5	34.2
	50代	600	26.7	23.3	23.5	18.0	45.3	36.7	29.2	9.7	14.5	10.5	18.5	38.0
	60～79歳	600	28.2	24.0	23.7	16.7	51.7	41.3	28.7	6.5	10.7	6.8	11.8	31.2
性年代	男性18-29歳	300	38.7	35.7	32.7	29.3	44.0	44.0	34.7	22.3	33.0	26.7	34.0	32.0
	男性30代	300	32.7	30.3	26.7	22.3	48.7	43.7	33.0	17.0	24.0	20.3	25.7	32.7
	男性40代	300	32.0	30.7	31.3	20.7	48.3	42.3	33.0	12.3	19.7	14.3	20.3	33.3
	男性50代	300	23.0	21.3	22.0	15.3	41.0	33.7	25.3	9.0	12.7	9.0	15.3	41.0
	男性60-79歳	300	26.3	22.3	22.0	16.7	52.7	39.3	30.7	5.7	9.3	6.7	13.3	30.0
	女性18-29歳	300	45.7	42.0	36.3	24.0	51.3	49.0	35.3	15.7	32.7	24.0	35.0	25.7
	女性30代	300	35.0	30.7	30.7	18.7	46.0	42.7	30.0	11.0	21.7	15.0	24.3	34.7
	女性40代	300	30.3	28.3	27.7	17.3	46.7	41.0	30.3	12.0	17.3	13.7	20.7	35.0
	女性50代	300	30.3	25.3	25.0	20.7	49.7	39.7	33.0	10.3	16.3	12.0	21.7	35.0
	女性60-79歳	300	30.0	25.7	25.3	16.7	50.7	43.3	26.7	7.3	12.0	7.0	10.3	32.3
世帯構成	1人世帯	643	34.8	31.4	28.8	23.2	44.9	41.2	30.8	14.2	23.3	19.0	25.0	35.3
	1世代世帯（夫婦のみ）	737	29.6	27.3	26.2	17.9	51.0	41.5	30.1	10.3	16.4	11.5	18.0	32.2
	2世代世帯（親と子）	1413	33.4	30.1	28.8	20.3	47.2	42.5	31.8	12.7	20.1	15.0	23.1	32.3
	3世代世帯（親と子と孫）	156	31.4	25.6	29.5	18.6	52.6	42.3	34.6	13.5	20.5	14.7	22.4	32.7

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問（2017 調査にない設問）

■社会資本具体分野別の充足度評価（日本全体）属性分析4 〈地域別〉

・ 地域別、都市規模別ともに、全体的に居住地域の充足評価よりも差が小さい。

＜安全・安心＞

Q7-2. 「日本全体」について、次のインフラ（社会資本）は充足していると思いますか。（それぞれひとつだけ）

（%）

充足している計		n	●安全・安心					
			ア）河川の施設	イ）海岸施設	ウ）「命の道」としての高速道路や幹線道路	エ）安全性の高い街	オ）災害、避難情報などを収集・活用できる環境の整備	カ）安全が確保された通学路、歩道
全体		3000	17.5	16.1	23.7	15.1	20.2	15.9
地域ブロック別	北海道ブロック	120	16.7	13.3	21.7	15.0	20.0	15.0
	東北ブロック	210	19.0	18.6	31.4	14.3	21.4	18.1
	関東ブロック	1070	17.1	14.5	22.2	14.7	19.3	15.4
	北陸ブロック	120	17.5	18.3	22.5	14.2	20.8	13.3
	中部ブロック	360	16.4	14.2	21.1	14.7	17.8	13.1
	近畿ブロック	510	17.5	17.3	23.9	15.9	20.4	16.9
	中国ブロック	180	13.3	16.1	20.6	13.3	16.1	17.2
	四国ブロック	100	23.0	22.0	32.0	19.0	30.0	25.0
	九州・沖縄ブロック	330	19.7	18.5	26.7	16.7	24.2	15.2
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	846	19.0	17.5	23.0	16.9	21.9	17.8
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	302	18.2	14.2	24.2	16.2	19.9	15.6
	三大都市圏の上記以外の地域	499	14.4	11.4	21.0	12.0	15.8	12.0
	地方中枢都市	254	18.9	18.1	24.4	15.4	21.3	15.7
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地	248	18.5	16.9	27.0	16.5	20.6	17.3
	地方圏のその他の市	557	15.6	16.9	25.0	15.3	20.6	15.6
	地方圏の町村	202	21.3	20.3	30.2	13.9	25.2	16.3

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問（2017 調査にない設問）

■社会資本具体分野別の充足度評価（日本全体）属性分析5 〈地域別〉

＜活力・交流＞

Q7-2. 「日本全体」について、次のインフラ（社会資本）は充足していると思いますか。（それぞれひとつだけ）

（%）

充足している計		n	●活力・交流										
			キ）広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路	ク）ETCなどの設備	ケ）広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道	コ）環状道路や放射状の道路	サ）国際ハブ空港	シ）遠隔地との交流を実現する空港・港湾	ス）効率的な国際物流ネットワークを形成する港湾	セ）交通機関の連携した総合的な交通ネットワーク	ソ）日常生活や経済活動を支える物流網	タ）交流を促す情報を収集・活用できる環境の整備	チ）中心市街地を活性化する都市整備
全体		3000	28.2	35.8	33.8	28.9	25.7	27.1	23.6	26.4	38.1	27.8	30.5
地域ブロック別	北海道ブロック	120	23.3	28.3	22.5	17.5	21.7	21.7	18.3	16.7	33.3	20.0	26.7
	東北ブロック	210	33.8	34.8	34.8	32.4	29.5	31.0	29.5	30.0	39.5	31.4	31.9
	関東ブロック	1070	27.6	36.5	34.4	30.2	24.2	26.3	22.5	26.5	39.1	27.4	31.9
	北陸ブロック	120	27.5	28.3	34.2	27.5	23.3	22.5	20.0	25.0	35.0	29.2	23.3
	中部ブロック	360	28.3	36.1	32.2	26.1	23.1	23.1	23.1	23.1	36.7	24.7	26.1
	近畿ブロック	510	27.6	38.6	35.3	29.0	28.6	30.8	24.9	29.2	39.8	28.6	31.6
	中国ブロック	180	21.7	29.4	23.9	20.6	21.7	18.3	15.6	17.8	30.6	21.1	23.3
	四国ブロック	100	33.0	43.0	40.0	38.0	30.0	37.0	27.0	32.0	45.0	34.0	35.0
	九州・沖縄ブロック	330	31.5	36.1	38.5	31.8	29.7	31.5	28.5	29.7	38.2	33.3	34.8
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	846	28.4	38.4	36.5	31.1	26.8	29.1	24.9	29.1	41.6	29.7	35.6
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	302	32.5	38.1	37.7	30.1	26.2	25.2	24.2	27.2	40.4	27.8	30.5
	三大都市圏の上記以外の地域	499	24.4	34.3	29.7	26.9	23.0	25.5	22.0	24.6	36.7	24.8	25.7
	地方中枢都市	254	28.0	36.2	35.0	27.2	25.6	25.6	24.4	24.4	35.8	27.6	31.1
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地	248	29.8	33.9	30.2	29.8	27.4	25.8	22.6	25.0	37.9	30.2	28.2
	地方圏のその他の市	557	29.6	33.4	33.0	26.9	26.2	28.0	23.2	25.5	36.3	28.4	28.2
	地方圏の町村	202	29.7	39.6	37.6	32.2	28.7	30.2	25.7	28.7	41.1	28.7	35.6

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問（2017 調査にない設問）

■社会資本具体分野別の充足度評価（日本全体）属性分析6 〈地域別〉

＜心豊かな暮らし＞

Q7-2. 「日本全体」について、次のインフラ（社会資本）は充足していると思いますか。（それぞれひとつだけ）

（%）

充足している計		n	●心豊かな暮らし											ひとつもない
			ツ）地域の道路	テ）地域の交通機関（鉄道、バス）	ト）公園・緑地、スポーツレクレーション施設	ナ）医療、福祉、子育て、教育文化施設	ニ）安全でおいしい水を供給する上水道	ヌ）下水道などの汚水処理施設	ネ）恵まれた自然景観	ノ）脱炭素社会を実現するための社会基盤	ハ）質の高い居住・生活空間	ヒ）生活を快適にする道路利用や景観を良くする無電柱化	フ）快適な生活に必要な情報を収集・活用できる環境の整備	
全体		3000	32.4	29.2	28.0	20.2	47.9	41.9	31.2	12.3	19.9	14.9	22.1	33.2
地域ブロック別	北海道ブロック	120	28.3	26.7	23.3	16.7	38.3	40.8	31.7	10.8	21.7	8.3	16.7	36.7
	東北ブロック	210	34.3	30.0	28.6	19.0	50.0	40.0	30.0	13.8	21.0	13.8	22.9	32.9
	関東ブロック	1070	33.2	30.8	29.6	19.3	50.4	42.7	31.1	11.6	18.2	14.5	20.3	31.4
	北陸ブロック	120	30.0	23.3	23.3	20.0	42.5	35.0	32.5	12.5	19.2	13.3	30.0	37.5
	中部ブロック	360	30.8	25.0	23.9	18.6	43.3	35.6	29.2	12.2	19.2	12.8	20.3	37.8
	近畿ブロック	510	31.8	29.6	29.6	22.2	50.0	47.5	28.4	12.2	21.8	15.5	23.5	30.0
	中国ブロック	180	27.8	21.7	21.1	17.8	42.2	32.2	32.8	10.0	16.7	16.1	19.4	40.6
	四国ブロック	100	38.0	29.0	29.0	22.0	51.0	44.0	39.0	16.0	25.0	18.0	26.0	33.0
	九州・沖縄ブロック	330	34.5	34.8	30.9	24.2	47.9	46.1	34.8	14.2	22.1	19.4	26.4	32.1
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	846	37.9	34.8	32.9	23.8	51.7	47.8	31.4	13.1	21.9	16.9	22.9	29.6
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	302	29.8	28.1	26.2	16.9	51.3	46.4	26.8	9.3	17.2	11.9	18.9	29.8
	三大都市圏の上記以外の地域	499	26.7	24.4	24.4	16.8	47.3	37.1	29.3	10.4	17.8	12.4	20.6	34.5
	地方中枢都市	254	30.3	32.7	24.0	20.5	46.5	43.3	27.2	11.0	19.7	13.8	21.3	31.9
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地	248	32.7	24.2	30.6	25.0	46.8	40.7	38.3	16.1	21.8	14.9	22.6	36.7
	地方圏のその他の市	557	32.0	26.9	26.4	17.8	44.7	37.9	34.3	12.9	18.5	15.1	23.7	34.3
	地方圏の町村	202	36.6	32.7	31.7	22.8	49.0	41.6	35.6	15.3	25.7	19.3	27.7	32.2

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問（2017 調査にない設問）

■社会資本具体分野別の充足度（日本全体）〈性・年代別〉 参考：充足していない計

＜安全・安心＞

Q7-2. 「日本全体」について、次のインフラ（社会資本）は充足していると思いますか。（それぞれひとつだけ）

（%）

充足していない計		n	●安全・安心					
			ア）河川の施設	イ）海岸施設	ウ）「命の道」としての高速道路や幹線道路	エ）安全性の高い街	オ）災害、避難情報などを収集・活用できる環境の整備	カ）安全が確保された通学路、歩道
全体		3000	37.7	35.5	27.2	35.5	29.8	32.9
性別	男性	1500	35.7	34.0	26.8	35.1	30.5	33.7
	女性	1500	39.7	36.9	27.5	35.9	29.1	32.1
年代	18～29歳	600	29.7	25.5	20.5	27.3	22.5	25.0
	30代	600	37.3	36.8	29.0	34.3	31.0	32.8
	40代	600	36.0	35.0	24.8	33.0	29.5	31.8
	50代	600	38.5	36.0	26.7	35.2	29.8	33.7
	60～79歳	600	47.0	44.0	34.8	47.7	36.0	41.2
性年代	男性18-29歳	300	23.7	20.0	18.0	23.3	20.3	20.3
	男性30代	300	34.7	35.7	29.7	34.3	30.0	32.3
	男性40代	300	34.0	35.3	24.0	34.3	30.3	33.3
	男性50代	300	37.3	34.0	25.3	32.0	30.3	36.0
	男性60-79歳	300	48.7	45.0	37.0	51.3	41.3	46.7
	女性18-29歳	300	35.7	31.0	23.0	31.3	24.7	29.7
	女性30代	300	40.0	38.0	28.3	34.3	32.0	33.3
	女性40代	300	38.0	34.7	25.7	31.7	28.7	30.3
	女性50代	300	39.7	38.0	28.0	38.3	29.3	31.3
	女性60-79歳	300	45.3	43.0	32.7	44.0	30.7	35.7
世帯構成	1人世帯	643	34.4	31.3	25.8	30.6	25.8	28.8
	1世代世帯（夫婦のみ）	737	42.7	41.1	31.9	41.9	35.0	36.5
	2世代世帯（親と子）	1413	36.0	33.6	24.6	33.7	28.7	32.5
	3世代世帯（親と子と孫）	156	42.3	41.0	30.8	40.4	30.1	35.3

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問（2017 調査にない設問）

■社会資本具体分野別の充足度（日本全体）〈性・年代別〉 参考：充足していない計

＜活力・交流＞

Q7-2. 「日本全体」について、次のインフラ（社会資本）は充足していると思いますか。（それぞれひとつだけ）

（%）

充足していない計		n	●活力・交流										
			キ）広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路	ク）ETCなどの設備	ケ）広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道	コ）環状道路や放射状の道路	サ）国際ハブ空港	シ）遠隔地との交流を実現する空港・港湾	ス）効率的な国際物流ネットワークを形成する港湾	セ）交通機関の連携した総合的な交通ネットワーク	ソ）日常生活や経済活動を支える物流網	タ）交流を促す情報を収集・活用できる環境の整備	チ）中心市街地を活性化する都市整備
全体		3000	22.9	17.6	18.9	21.6	27.3	23.6	22.8	22.7	16.2	19.1	20.8
性別	男性	1500	25.2	18.9	20.4	23.8	30.5	25.9	25.5	25.3	16.8	20.8	23.3
	女性	1500	20.6	16.3	17.3	19.5	24.1	21.3	20.1	20.0	15.5	17.5	18.2
年代	18～29歳	600	17.3	14.3	15.2	18.0	20.5	17.0	18.7	19.2	13.8	16.3	17.2
	30代	600	22.5	18.8	21.2	23.2	24.2	23.8	21.8	23.2	18.8	21.0	22.8
	40代	600	23.3	17.5	18.2	20.8	27.7	22.8	21.8	21.2	15.8	18.5	19.8
	50代	600	23.2	16.8	18.3	19.7	26.0	24.2	21.3	21.7	14.3	17.7	19.0
	60～79歳	600	28.2	20.7	21.5	26.5	38.3	30.2	30.5	28.2	18.0	22.2	25.0
性年代	男性18-29歳	300	17.3	14.7	15.3	17.3	21.3	17.3	20.7	19.3	14.7	17.7	19.3
	男性30代	300	23.7	20.3	23.7	26.7	24.7	24.3	23.7	25.0	18.3	21.3	24.7
	男性40代	300	27.3	20.3	19.3	23.7	31.0	26.7	25.0	24.7	19.0	20.7	24.3
	男性50代	300	25.0	17.3	18.7	21.7	29.7	26.0	22.3	23.7	14.0	20.3	21.7
	男性60-79歳	300	32.7	22.0	25.0	29.7	46.0	35.3	36.0	34.0	18.0	24.0	26.7
	女性18-29歳	300	17.3	14.0	15.0	18.7	19.7	16.7	16.7	19.0	13.0	15.0	15.0
	女性30代	300	21.3	17.3	18.7	19.7	23.7	23.3	20.0	21.3	19.3	20.7	21.0
	女性40代	300	19.3	14.7	17.0	18.0	24.3	19.0	18.7	17.7	12.7	16.3	15.3
	女性50代	300	21.3	16.3	18.0	17.7	22.3	22.3	20.3	19.7	14.7	15.0	16.3
	女性60-79歳	300	23.7	19.3	18.0	23.3	30.7	25.0	25.0	22.3	18.0	20.3	23.3
世帯構成	1人世帯	643	21.3	17.1	18.0	21.0	26.1	23.5	22.1	22.4	14.3	17.0	19.3
	1世代世帯（夫婦のみ）	737	27.0	19.1	20.8	24.3	32.4	27.3	24.8	25.6	17.8	23.1	21.8
	2世代世帯（親と子）	1413	21.3	16.9	17.8	20.2	24.7	21.2	21.5	20.5	16.0	18.0	20.5
	3世代世帯（親と子と孫）	156	22.4	17.9	20.5	23.1	33.3	26.3	27.6	27.6	16.0	18.6	23.7

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問（2017 調査にない設問）

■社会資本具体分野別の充足度（日本全体）〈性・年代別〉 参考：充足していない計

＜心豊かな暮らし＞

Q7-2. 「日本全体」について、次のインフラ（社会資本）は充足していると思いますか。（それぞれひとつだけ）

（%）

充足していない計		n	●心豊かな暮らし											ひとつもない
			ツ）地域の道路	テ）地域の交通機関（鉄道、バス）	ト）公園・緑地、スポーツレクレーション施設	ナ）医療、福祉、子育て、教育文化施設	ニ）安全でおいしい水を供給する上水道	ヌ）下水道などの汚水処理施設	ネ）恵まれた自然景観	ノ）脱炭素社会を実現するための社会基盤	ハ）質の高い居住・生活空間	ヒ）生活を快適にする道路利用や景観を良くする無電柱化	フ）快適な生活に必要な情報を収集・活用できる環境の整備	
全体		3000	19.4	23.9	22.0	30.2	12.4	13.6	18.1	32.0	24.7	36.1	23.7	33.5
性別	男性	1500	21.1	25.2	23.3	28.7	12.5	15.1	19.0	34.3	27.1	36.4	26.3	33.3
	女性	1500	17.7	22.5	20.7	31.7	12.3	12.2	17.3	29.7	22.2	35.8	21.1	33.7
年代	18～29歳	600	15.8	18.3	20.5	28.3	14.2	10.7	16.8	26.7	18.5	26.5	17.3	37.8
	30代	600	19.0	23.0	24.0	33.5	14.0	14.8	20.5	31.2	24.7	34.8	23.7	34.5
	40代	600	18.2	22.5	19.2	27.3	12.3	13.2	17.3	30.5	23.3	34.8	22.7	36.3
	50代	600	19.5	23.8	22.5	29.5	11.5	13.2	17.2	31.2	25.7	36.7	24.0	33.8
	60～79歳	600	24.3	31.7	23.8	32.5	10.0	16.3	18.8	40.3	31.2	47.7	31.0	25.0
性年代	男性18-29歳	300	16.0	17.3	19.3	21.7	13.3	10.7	14.0	26.7	19.3	25.3	18.3	40.3
	男性30代	300	19.7	25.0	26.7	31.3	13.0	15.3	21.3	32.3	26.7	35.0	28.0	36.3
	男性40代	300	21.7	24.0	22.0	26.7	13.3	15.0	19.3	33.3	26.3	35.0	25.7	35.0
	男性50代	300	20.3	24.0	22.7	29.7	12.3	15.7	19.0	33.7	27.7	36.7	25.0	33.0
	男性60-79歳	300	27.7	35.7	26.0	34.3	10.3	18.7	21.3	45.3	35.7	50.0	34.7	22.0
	女性18-29歳	300	15.7	19.3	21.7	35.0	15.0	10.7	19.7	26.7	17.7	27.7	16.3	35.3
	女性30代	300	18.3	21.0	21.3	35.7	15.0	14.3	19.7	30.0	22.7	34.7	19.3	32.7
	女性40代	300	14.7	21.0	16.3	28.0	11.3	11.3	15.3	27.7	20.3	34.7	19.7	37.7
	女性50代	300	18.7	23.7	22.3	29.3	10.7	10.7	15.3	28.7	23.7	36.7	23.0	34.7
	女性60-79歳	300	21.0	27.7	21.7	30.7	9.7	14.0	16.3	35.3	26.7	45.3	27.3	28.0
世帯構成	1人世帯	643	17.7	22.7	21.5	27.5	12.1	11.7	17.0	28.1	22.9	31.3	22.7	38.4
	1世代世帯（夫婦のみ）	737	20.8	26.9	23.6	32.3	12.1	15.9	18.7	35.0	26.2	40.4	26.6	29.9
	2世代世帯（親と子）	1413	18.5	21.7	20.5	29.8	12.5	13.2	18.3	32.0	23.9	35.0	22.6	33.8
	3世代世帯（親と子と孫）	156	25.0	34.0	27.6	34.0	13.5	15.4	17.9	34.6	30.1	43.6	23.7	27.6

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問（2017 調査にない設問）

■社会資本具体分野別の充足度（日本全体）〈地域別〉 参考：充足していない計

＜安全・安心＞

Q7-2. 「日本全体」について、次のインフラ（社会資本）は充足していると思いますか。（それぞれひとつだけ）

（%）

充足していない計		n	●安全・安心					
			ア）河川の施設	イ）海岸施設	ウ）「命の道」としての高速道路や幹線道路	エ）安全性の高い街	オ）災害、避難情報などを収集・活用できる環境の整備	カ）安全が確保された通学路、歩道
全体		3000	37.7	35.5	27.2	35.5	29.8	32.9
地域ブロック別	北海道ブロック	120	30.0	31.7	29.2	34.2	26.7	31.7
	東北ブロック	210	33.8	32.4	25.7	35.2	31.0	33.8
	関東ブロック	1070	39.3	35.5	27.4	35.7	30.1	32.8
	北陸ブロック	120	37.5	41.7	33.3	38.3	35.8	35.0
	中部ブロック	360	39.4	39.7	28.9	38.6	32.5	36.4
	近畿ブロック	510	37.1	34.3	25.9	34.9	27.6	32.2
	中国ブロック	180	41.1	36.7	30.0	40.6	30.6	31.1
	四国ブロック	100	33.0	31.0	26.0	26.0	28.0	30.0
	九州・沖縄ブロック	330	36.4	34.2	23.3	32.1	27.3	31.5
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	846	38.2	35.6	27.1	34.8	28.6	30.5
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	302	37.7	35.1	25.5	36.1	31.8	36.8
	三大都市圏の上記以外の地域	499	40.3	37.7	28.7	39.5	31.7	37.3
	地方中枢都市	254	33.5	30.7	23.6	33.9	26.8	32.7
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地	248	37.1	35.9	28.2	33.9	30.6	31.9
	地方圏のその他の市	557	39.0	39.5	31.8	37.2	31.8	34.6
	地方圏の町村	202	33.7	27.2	18.8	33.2	27.7	29.2

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問（2017 調査にない設問）

■社会資本具体分野別の充足度（日本全体）〈地域別〉 参考：充足していない計

＜活力・交流＞

Q7-2. 「日本全体」について、次のインフラ（社会資本）は充足していると思いますか。（それぞれひとつだけ）

（%）

充足していない計		n	●活力・交流										
			キ）広域ネットワークを形成する高速道路・幹線道路	ク）ETCなどの設備	ケ）広域ネットワークを形成する新幹線・高速鉄道	コ）環状道路や放射状の道路	サ）国際ハブ空港	シ）遠隔地との交流を実現する空港・港湾	ス）効率的な国際物流ネットワークを形成する港湾	セ）交通機関の連携した総合的な交通ネットワーク	ソ）日常生活や経済活動を支える物流網	タ）交流を促す情報を収集・活用できる環境の整備	チ）中心市街地を活性化する都市整備
全体		3000	22.9	17.6	18.9	21.6	27.3	23.6	22.8	22.7	16.2	19.1	20.8
地域ブロック別	北海道ブロック	120	22.5	17.5	25.8	30.0	30.8	24.2	27.5	27.5	20.0	21.7	17.5
	東北ブロック	210	20.0	21.0	21.9	24.3	29.0	28.1	24.3	25.7	21.0	22.4	23.8
	関東ブロック	1070	22.2	15.5	16.0	19.1	26.6	21.8	19.9	21.0	14.2	17.3	19.7
	北陸ブロック	120	25.0	25.0	21.7	23.3	30.8	25.0	30.0	25.8	20.8	19.2	24.2
	中部ブロック	360	25.8	18.3	21.9	23.3	28.6	25.0	25.0	24.2	16.1	20.6	22.2
	近畿ブロック	510	22.2	16.3	16.3	20.8	25.3	22.0	21.6	20.8	14.1	18.2	18.8
	中国ブロック	180	26.1	23.3	23.3	29.4	31.1	31.7	30.6	27.8	17.8	21.7	26.7
	四国ブロック	100	23.0	19.0	24.0	21.0	29.0	27.0	24.0	22.0	15.0	23.0	24.0
	九州・沖縄ブロック	330	22.4	17.6	19.4	20.0	25.2	21.5	22.1	21.8	19.1	19.4	19.4
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	846	22.5	15.1	16.4	19.5	26.7	20.8	20.4	20.3	14.4	19.1	19.3
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	302	20.2	14.6	13.9	18.9	25.2	24.2	21.5	21.2	14.2	16.6	18.5
	三大都市圏の上記以外の地域	499	24.0	18.2	19.2	21.2	30.1	23.8	23.6	23.4	15.2	18.2	21.2
	地方中枢都市	254	20.9	16.9	18.5	25.2	26.8	22.8	22.8	24.4	17.3	19.3	18.5
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地	248	23.4	19.8	22.2	26.2	26.2	25.8	26.6	23.8	17.3	19.4	22.2
	地方圏のその他の市	557	25.7	22.3	23.5	24.1	29.3	26.4	26.0	26.4	19.6	23.0	25.0
	地方圏の町村	202	21.8	16.8	20.8	20.8	27.2	25.2	20.8	18.3	16.3	15.8	20.3

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

○新設問（2017 調査にない設問）

■社会資本具体分野別の充足度（日本全体）〈地域別〉 参考：充足していない計

＜心豊かな暮らし＞

Q7-2. 「日本全体」について、次のインフラ（社会資本）は充足していると思いますか。（それぞれひとつだけ）

（%）

充足していない計		n	●心豊かな暮らし											
			ツ）地域の道路	テ）地域の交通機関（鉄道、バス）	ト）公園・緑地、スポーツレクレーション施設	ナ）医療、福祉、子育て、教育文化施設	ニ）安全でおいしい水を供給する上水道	ヌ）下水道などの汚水処理施設	ネ）恵まれた自然景観	ノ）脱炭素社会を実現するための社会基盤	ハ）質の高い居住・生活空間	ヒ）生活を快適にする道路利用や景観を良くする無電柱化	フ）快適な生活に必要な情報を収集・活用できる環境の整備	ひとつもない
全体		3000	19.4	23.9	22.0	30.2	12.4	13.6	18.1	32.0	24.7	36.1	23.7	33.5
地域ブロック別	北海道ブロック	120	19.2	24.2	19.2	32.5	18.3	13.3	16.7	30.0	24.2	38.3	25.0	35.0
	東北ブロック	210	24.3	28.1	25.7	35.2	15.7	14.8	19.0	32.9	31.0	38.6	28.1	28.6
	関東ブロック	1070	18.4	21.9	20.7	30.2	11.2	13.6	17.9	32.7	23.3	36.9	22.2	33.9
	北陸ブロック	120	24.2	27.5	20.0	32.5	14.2	12.5	16.7	25.8	24.2	34.2	25.0	32.5
	中部ブロック	360	19.4	26.9	24.4	30.3	10.8	14.2	18.6	32.2	26.4	35.6	25.8	33.6
	近畿ブロック	510	18.4	22.2	20.6	30.4	11.6	12.2	20.4	31.4	25.5	37.1	22.2	32.2
	中国ブロック	180	21.7	27.8	23.9	25.6	15.0	15.6	17.2	32.2	25.6	31.7	25.0	30.6
	四国ブロック	100	19.0	27.0	25.0	26.0	12.0	15.0	15.0	31.0	23.0	34.0	27.0	37.0
	九州・沖縄ブロック	330	17.9	22.4	23.3	29.1	13.0	13.6	17.0	32.7	22.4	33.9	23.3	37.6
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区	846	17.0	21.0	20.0	28.0	11.5	12.4	19.0	32.5	23.8	36.4	22.8	36.3
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市	302	19.5	21.5	22.2	29.8	10.6	11.3	19.9	34.1	26.8	40.4	24.5	28.1
	三大都市圏の上記以外の地域	499	19.2	25.3	22.0	32.5	9.6	14.6	15.8	32.7	24.2	36.1	23.0	32.9
	地方中枢都市	254	16.9	21.3	16.5	27.2	11.8	10.2	14.2	29.1	20.5	35.0	22.4	37.0
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地	248	23.4	28.6	23.0	29.8	13.3	14.1	15.3	29.4	23.0	33.9	22.2	33.9
	地方圏のその他の市	557	22.3	27.3	26.6	34.3	14.9	16.7	18.9	33.8	27.3	36.6	26.8	30.3
	地方圏の町村	202	18.8	25.2	24.3	28.7	16.8	13.9	23.3	32.2	26.2	34.7	24.8	31.7

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

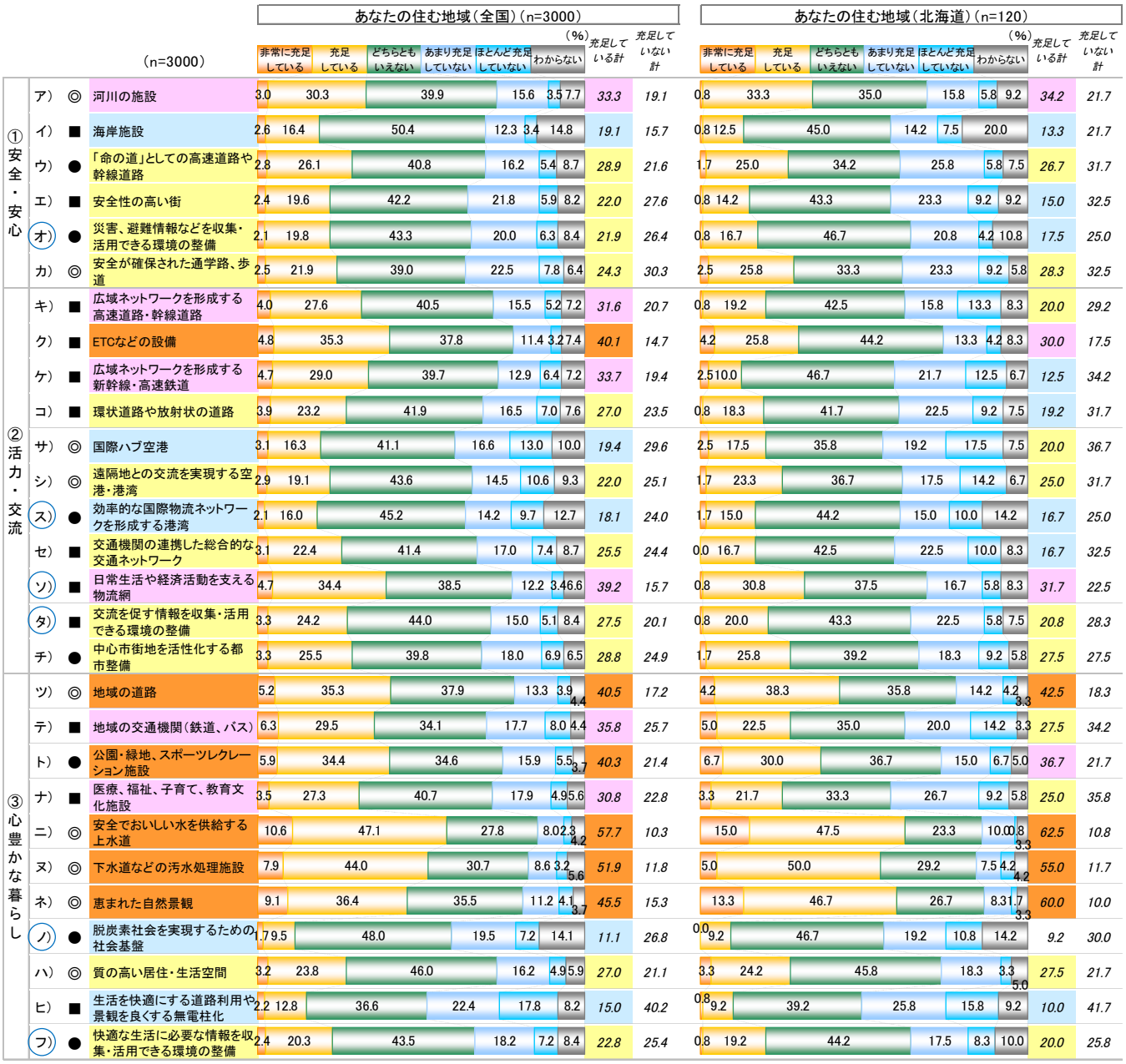
○新設問（2017 調査にない設問）

〔居住地域の個別インフラ充足度評価（全国と各ブロック比較）〕

参考

■社会資本具体分野別の充足度評価　＜北海道＞

Q7-1.　「あなたの住む地域」について、次のインフラ（社会資本）は充足していると思いますか。（それぞれひとつだけ）



充足している計：

■40%～　■30%～39.9%　■20%～29.9%　■10%～19.9%

各地－全国　●マイナス　■マイナス 5 ポイント以上　◎プラス

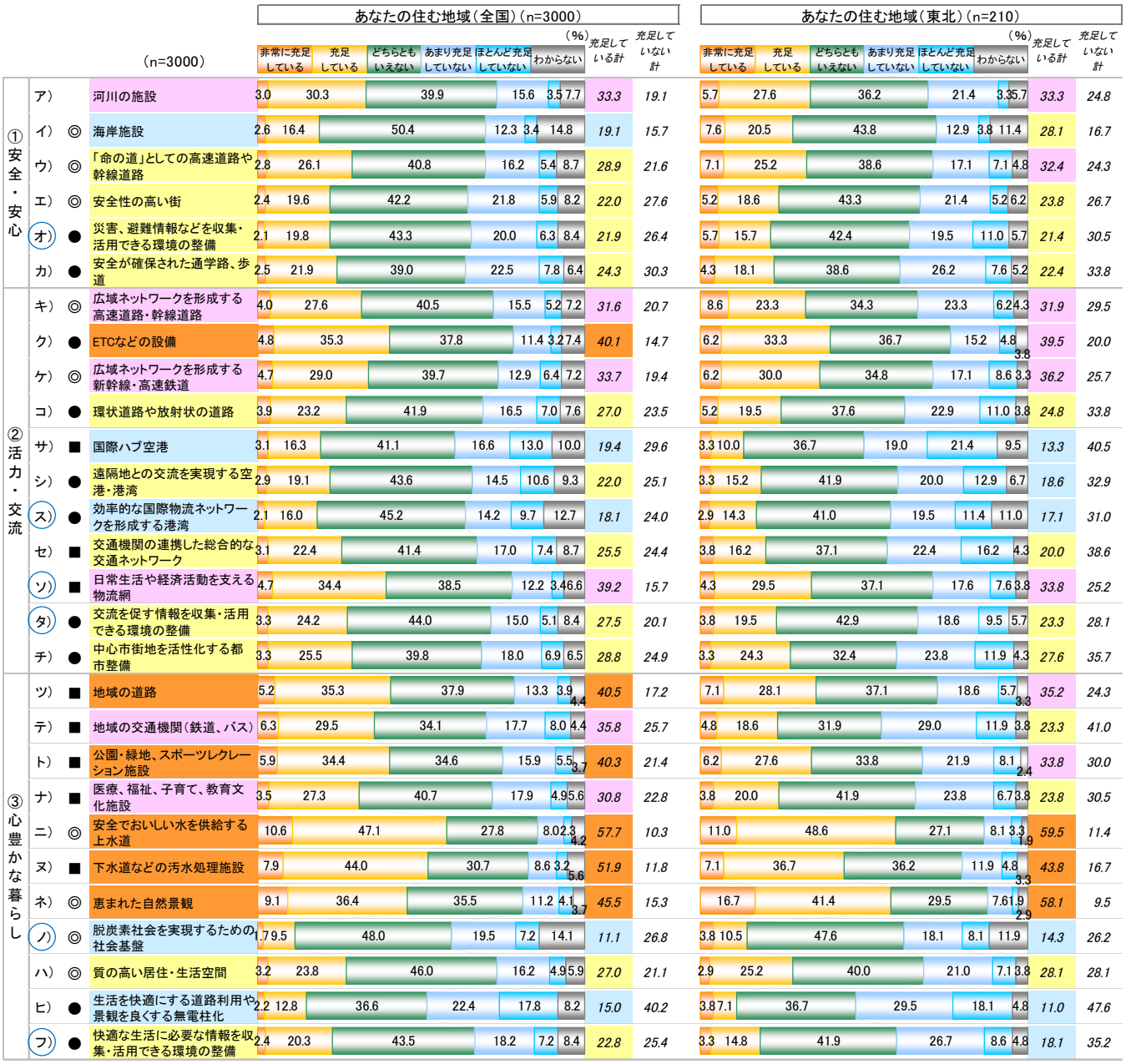
○新設問（2017 調査にない設問）

〔居住地域の分野別インフラ充足度評価（全国と各ブロック比較）〕

参考

■社会資本具体分野別の充足度評価　＜東北＞

Q7-1.　「あなたの住む地域」について、次のインフラ（社会資本）は充足していると思いますか。（それぞれひとつだけ）



充足している計：

■40%～　■30%～39.9%　■20%～29.9%　■10%～19.9%

各地－全国　●マイナス　■マイナス 5 ポイント以上　◎プラス

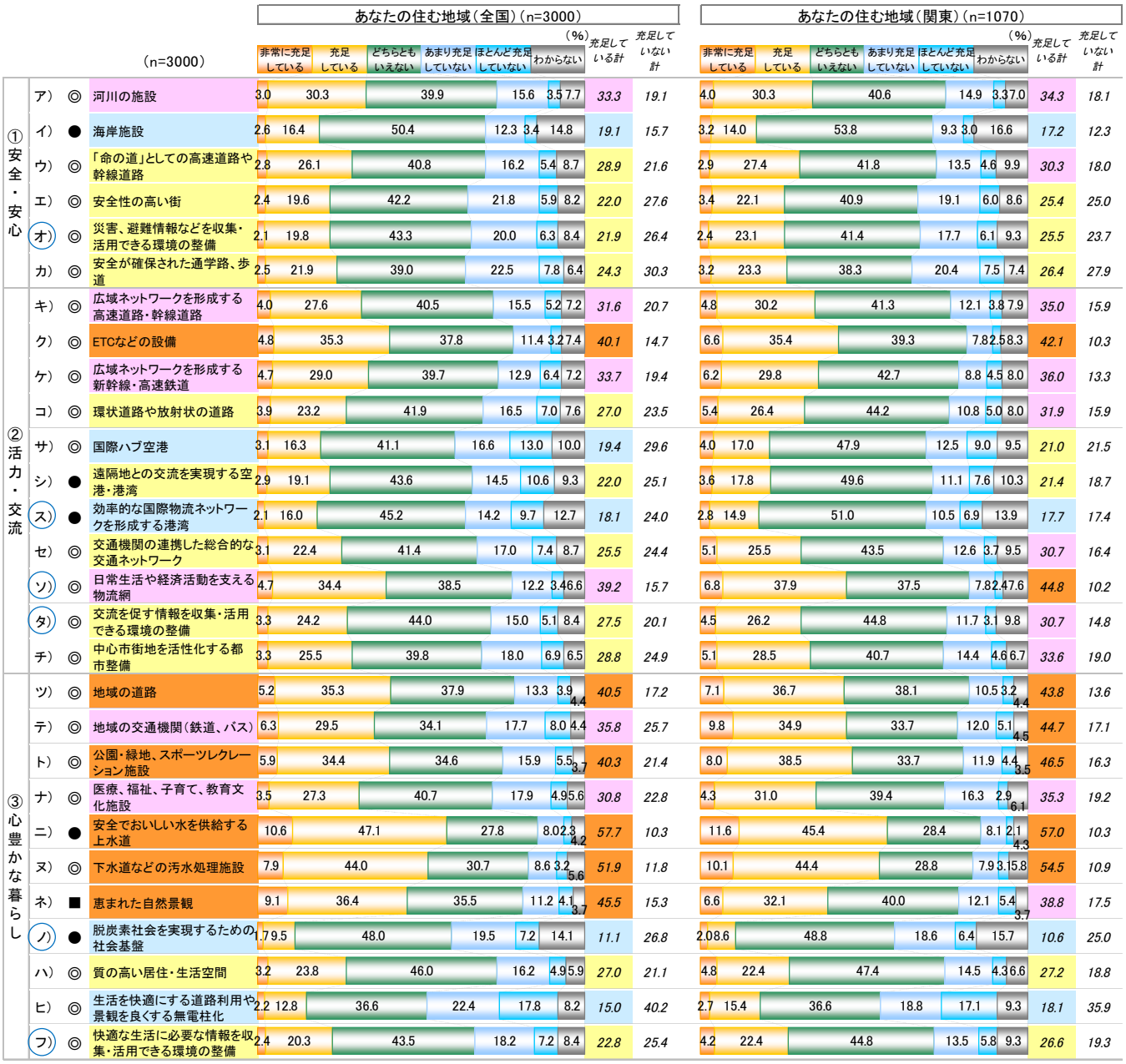
○新設問（2017 調査にない設問）

〔居住地域の分野別インフラ充足度評価（全国と各ブロック比較）〕

参考

■社会資本具体分野別の充足度評価　＜関東＞

Q7-1.　「あなたの住む地域」について、次のインフラ（社会資本）は充足していると思いますか。（それぞれひとつだけ）



充足している計：

■40%～　■30%～39.9%　■20%～29.9%　■10%～19.9%

各地－全国　●マイナス　■マイナス 5 ポイント以上　◎プラス

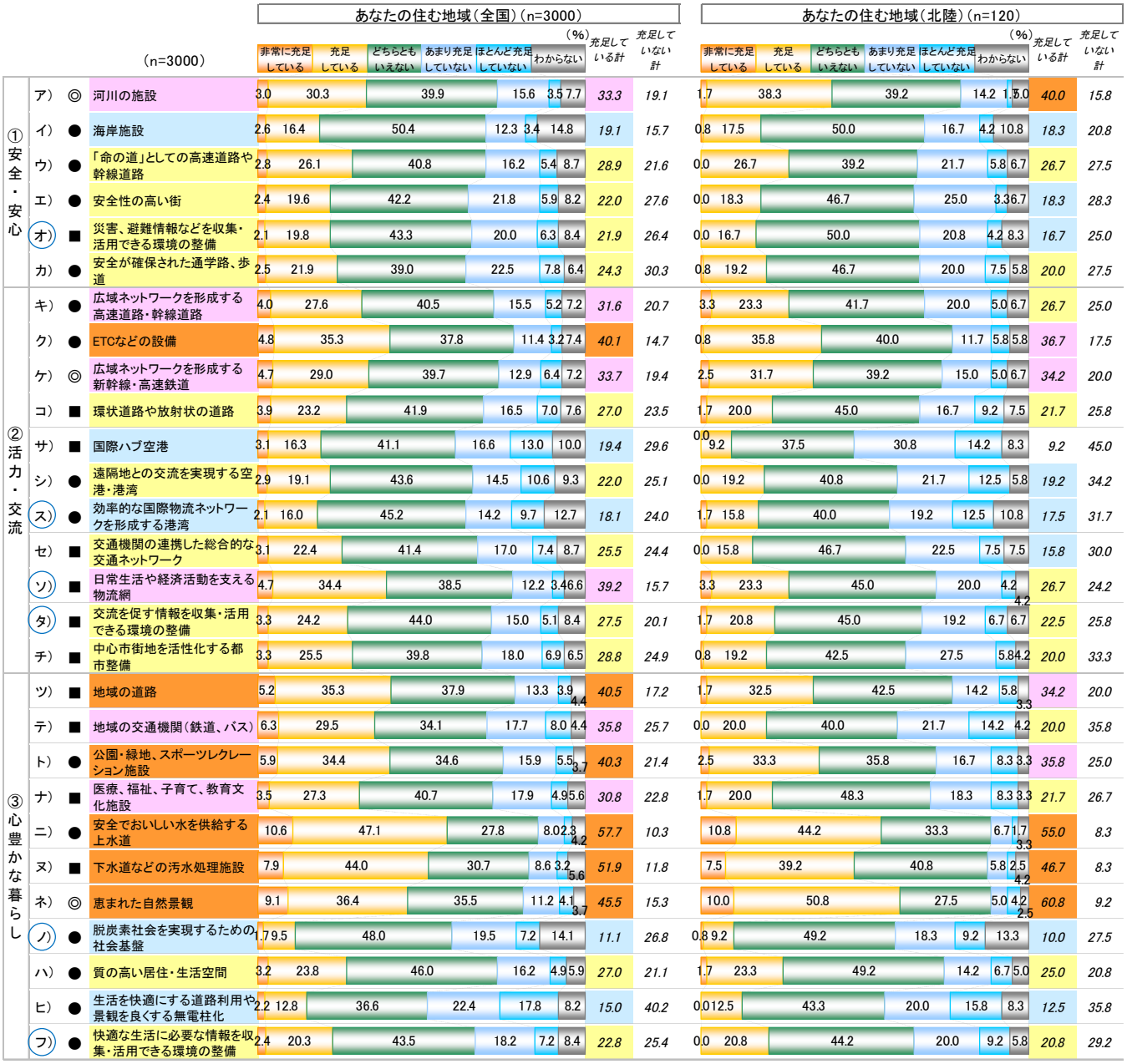
○新設問（2017 調査にない設問）

〔居住地域の分野別インフラ充足度評価（全国と各ブロック比較）〕

参考

■社会資本具体分野別の充足度評価　＜北陸＞

Q7-1.　「あなたの住む地域」について、次のインフラ（社会資本）は充足していると思いますか。（それぞれひとつだけ）



充足している計：
■40%～　■30%～39.9%　■20%～29.9%　■10%～19.9%

各地－全国　●マイナス　■マイナス 5 ポイント以上
◎プラス

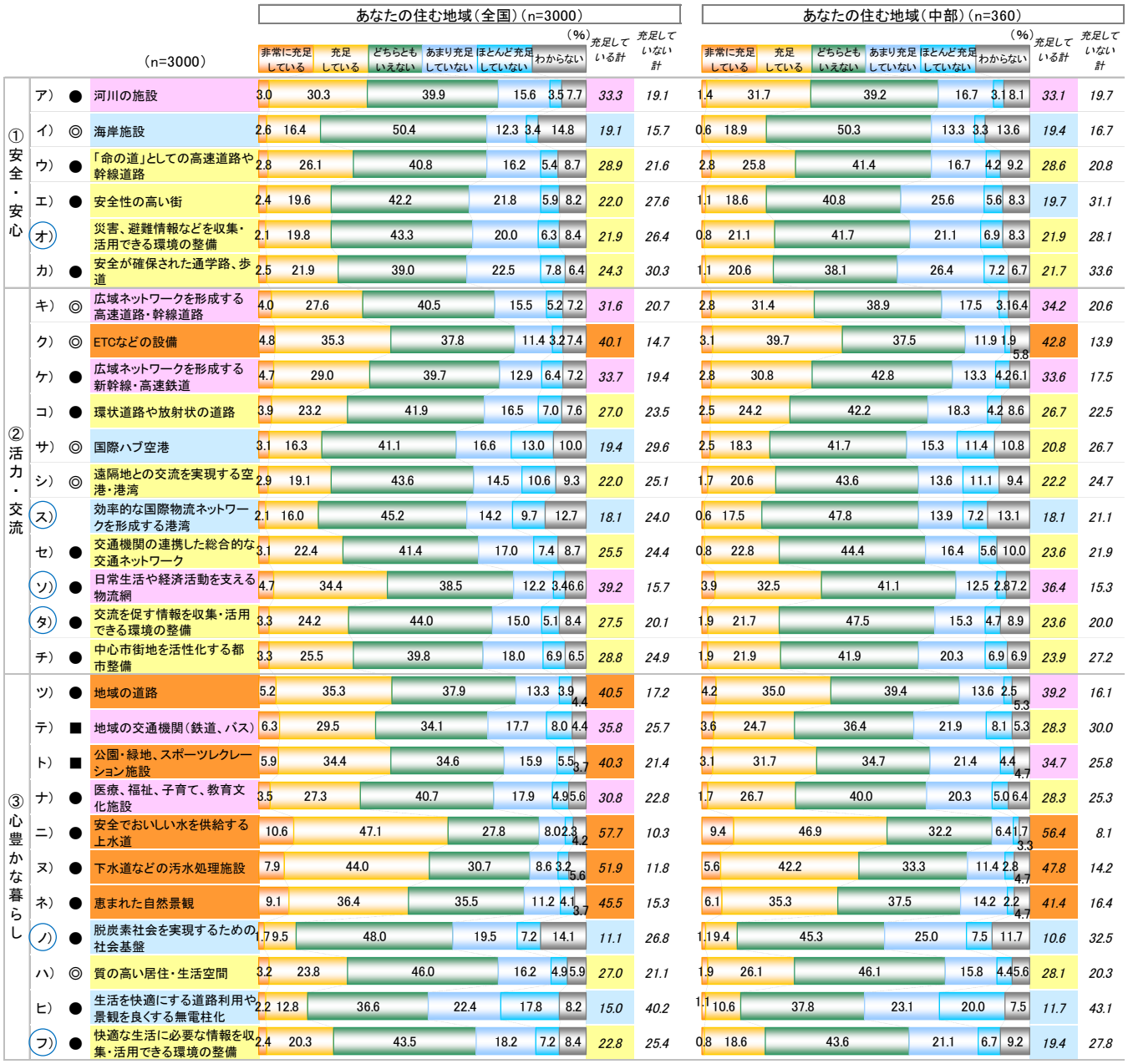
○新設問（2017 調査にない設問）

〔居住地域の分野別インフラ充足度評価（全国と各ブロック比較）〕

参考

■社会資本具体分野別の充足度評価　＜中部＞

Q7-1.　「あなたの住む地域」について、次のインフラ（社会資本）は充足していると思いますか。（それぞれひとつだけ）



充足している計：

■40%～　■30%～39.9%　■20%～29.9%　■10%～19.9%

各地ー全国　●マイナス　■マイナス 5 ポイント以上

◎プラス

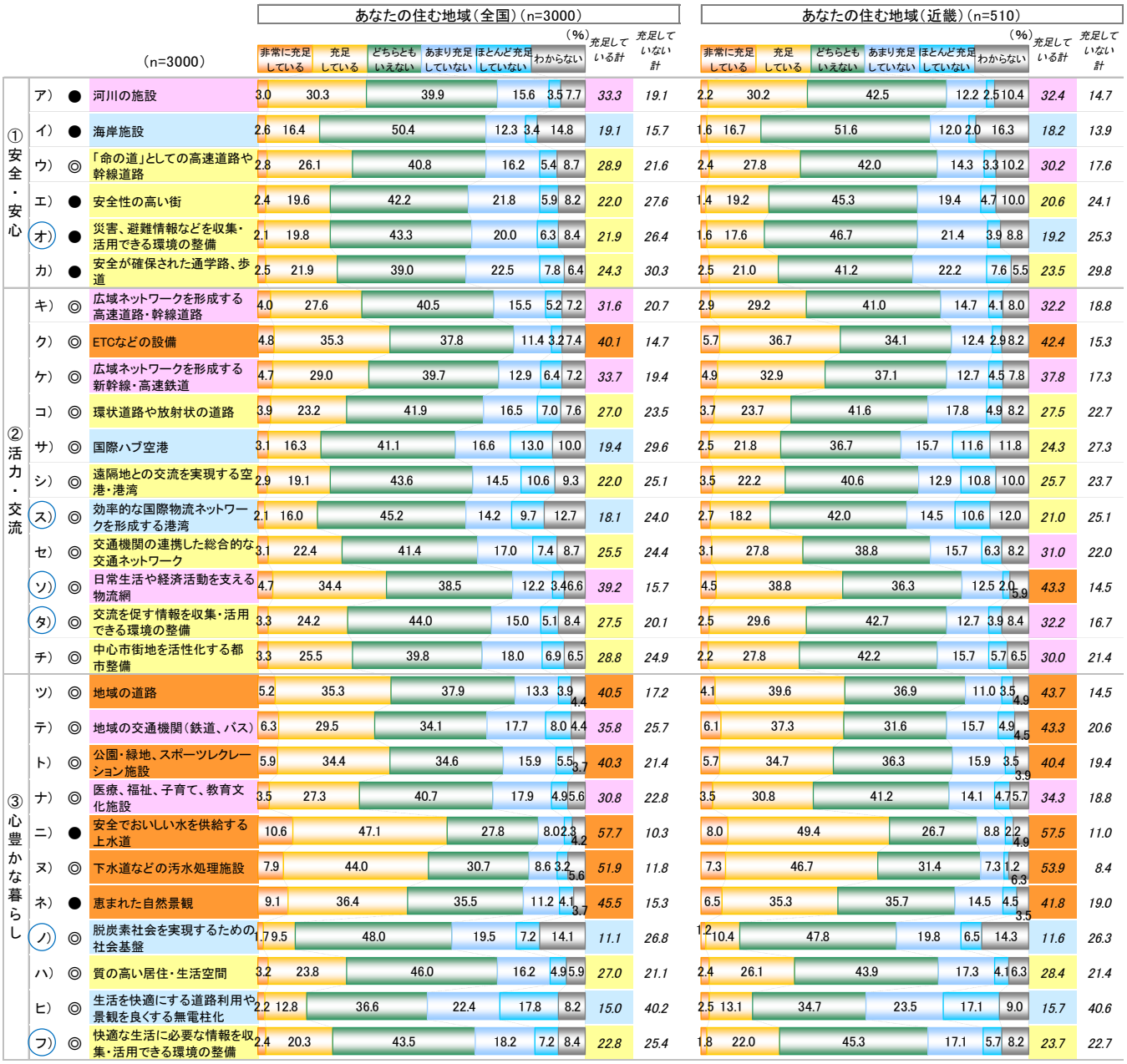
○新設問（2017 調査にない設問）

〔居住地域の分野別インフラ充足度評価（全国と各ブロック比較）〕

参考

■社会資本具体分野別の充足度評価　＜近畿＞

Q7-1.　「あなたの住む地域」について、次のインフラ（社会資本）は充足していると思いますか。（それぞれひとつだけ）



充足している計：

■40%～　■30%～39.9%　■20%～29.9%　■10%～19.9%

各地ー全国　●マイナス　■マイナス 5 ポイント以上

◎プラス

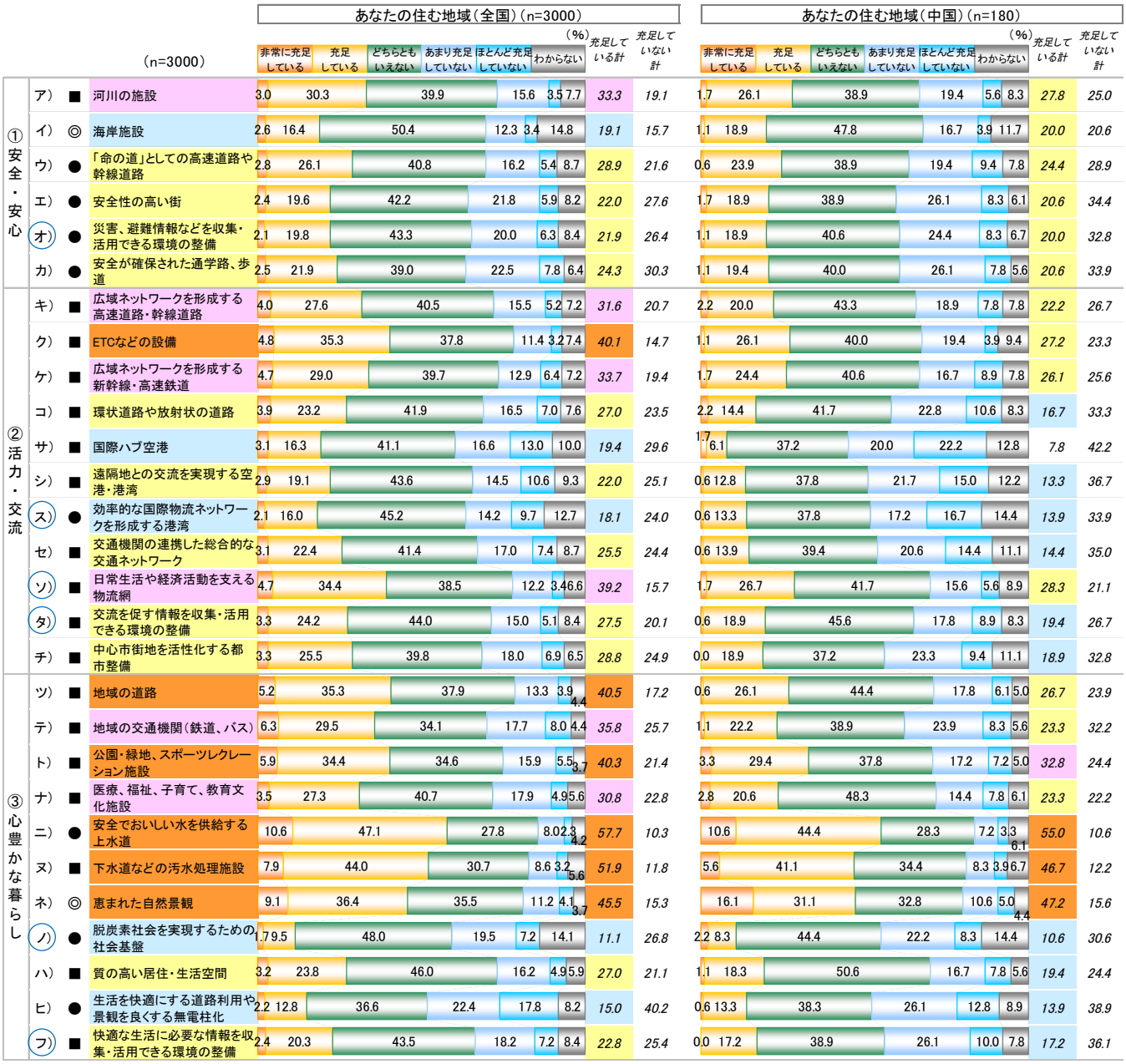
○新設問（2017 調査にない設問）

〔居住地域の分野別インフラ充足度評価（全国と各ブロック比較）〕

参考

■社会資本具体分野別の充足度評価　＜中国＞

Q7-1.　「あなたの住む地域」について、次のインフラ（社会資本）は充足していると思いますか。（それぞれひとつだけ）



充足している計：
■40%～　■30%～39.9%　■20%～29.9%　■10%～19.9%

各地ー全国　●マイナス　■マイナス 5 ポイント以上
◎プラス

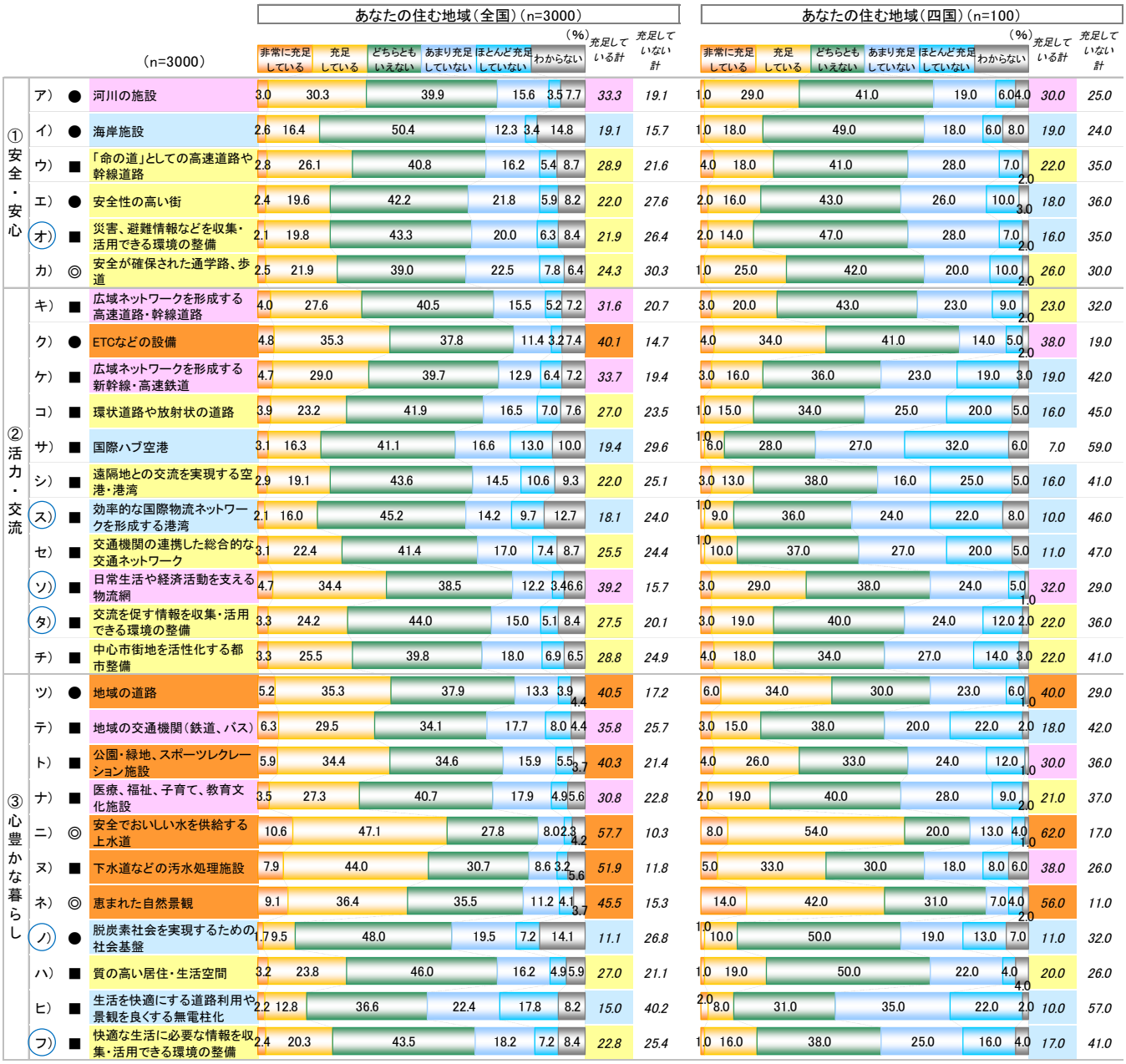
○新設問（2017 調査にない設問）

〔居住地域の分野別インフラ充足度評価（全国と各ブロック比較）〕

参考

■社会資本具体分野別の充足度評価　＜四国＞

Q7-1.　「あなたの住む地域」について、次のインフラ（社会資本）は充足していると思いますか。（それぞれひとつだけ）



充足している計：

■40%～　■30%～39.9%　■20%～29.9%　■10%～19.9%

各地ー全国　●マイナス　■マイナス 5 ポイント以上

◎プラス

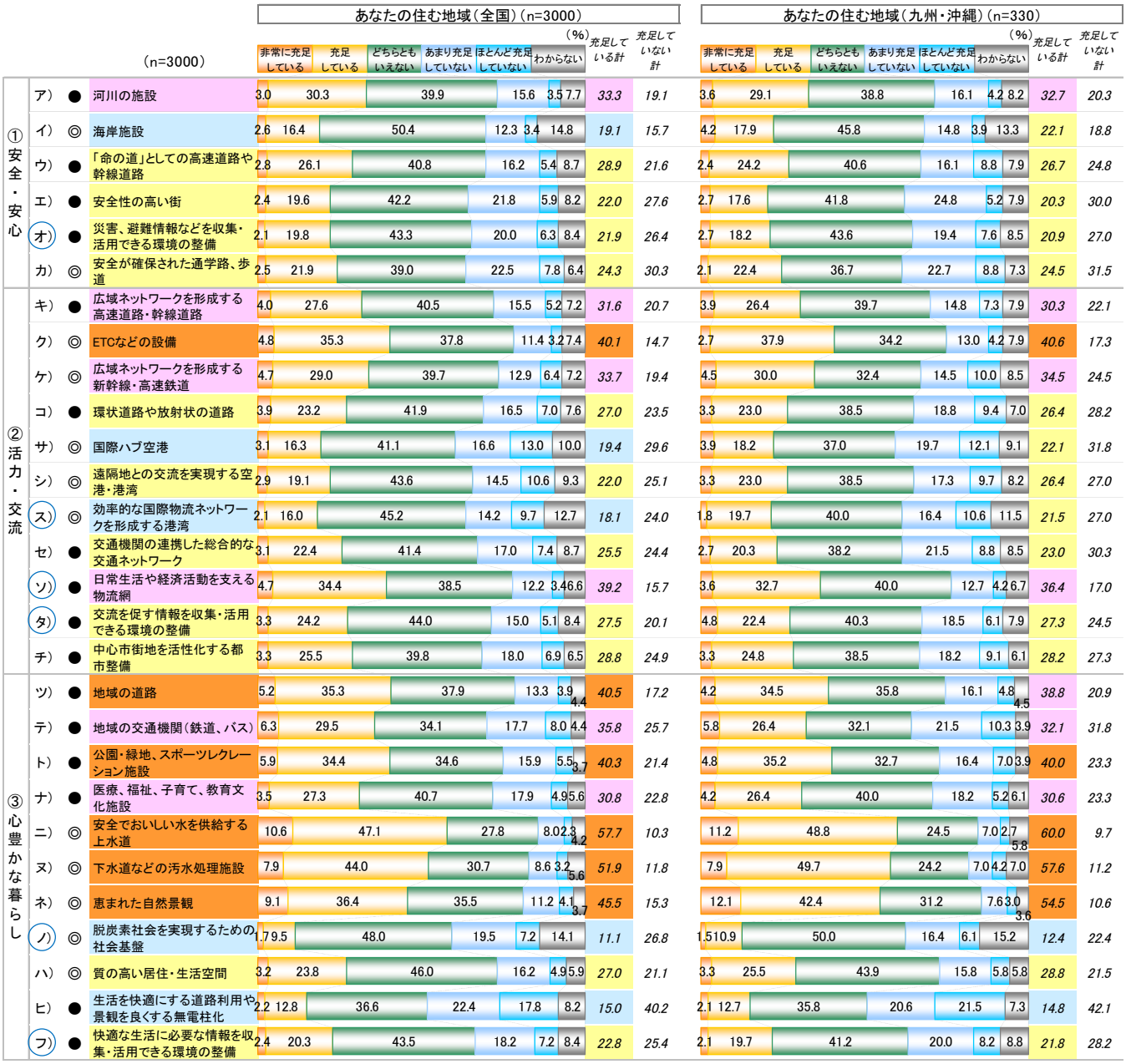
○新設問（2017 調査にない設問）

〔居住地域の分野別インフラ充足度評価（全国と各ブロック比較）〕

参考

■社会資本具体分野別の充足度評価　＜九州・沖縄＞

Q7-1.　「あなたの住む地域」について、次のインフラ（社会資本）は充足していると思いますか。（それぞれひとつだけ）



充足している計：

■40%～　■30%～39.9%　■20%～29.9%　■10%～19.9%

各地ー全国　●マイナス　■マイナス 5 ポイント以上　◎プラス

○新設問（2017 調査にない設問）

5. 社会資本の状況に関する全体評価

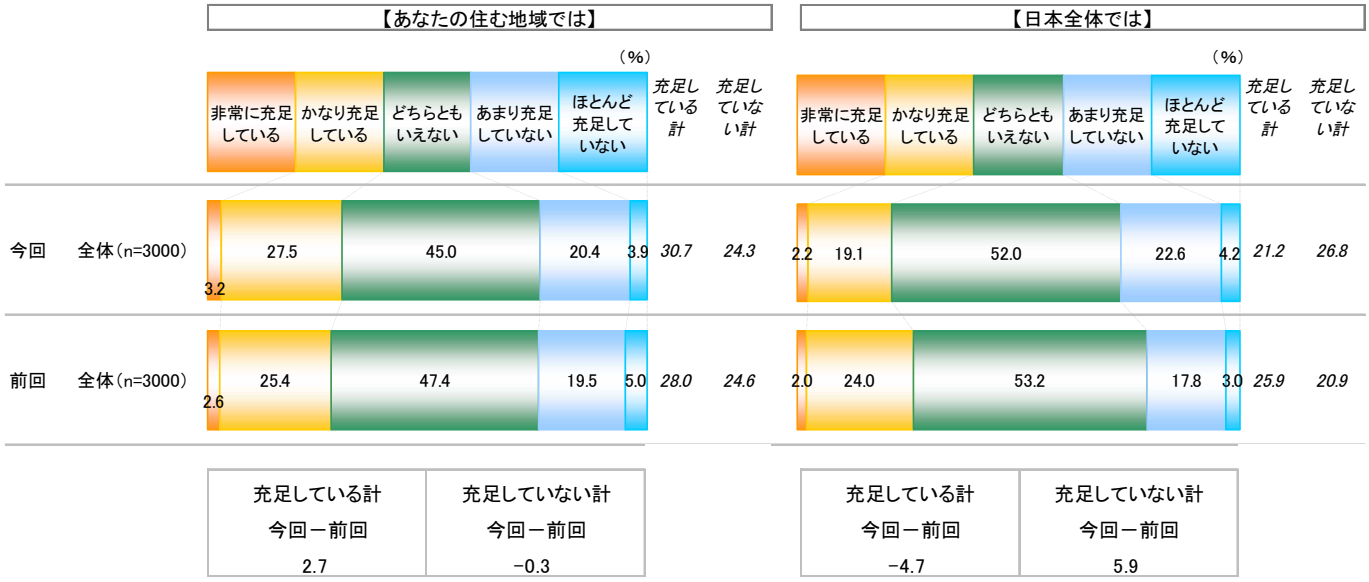
■社会資本の状況に関する全体評価（Q8）

・「充足している」と「充足していない」の比率は、居住地域 30.7%＞24.3%、日本全体 21.2%＜26.8%であり、居住地域では充足しているとの回答が多いのに対し、日本全体では充足していないとの回答が多い。

・居住地域における評価については、地域ブロックや都市規模ごとに大きく異なる。特に、東北、中国、四国ブロックや、地方圏の 30 万人以下の市町村では充足していない計が充足している計を大きく上回っている。

・前回調査と比較すると、居住地域については、充足しているとの評価が微増している（2.7 ポイント増）。一方で、日本全体については、否定的な評価が増加している。

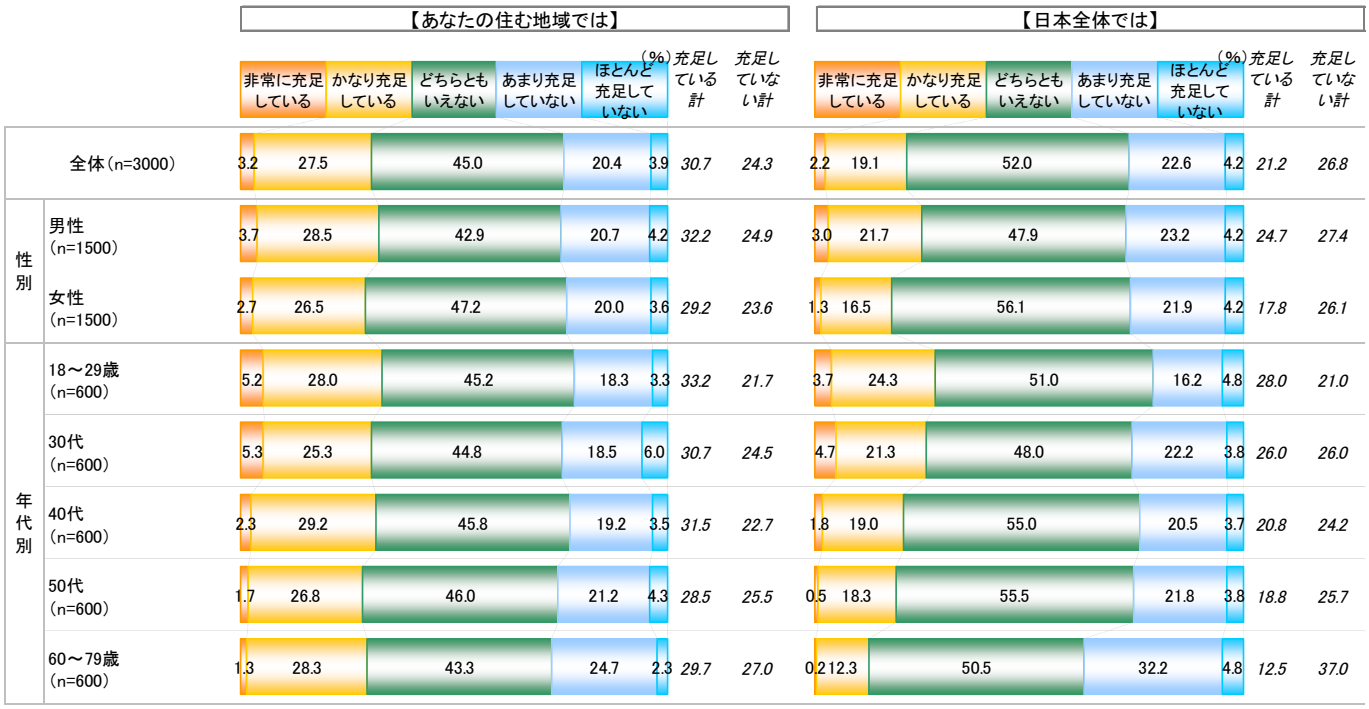
Q8.　これまで、個別のインフラ（社会資本）についてあなたのご意見を伺ってきましたが、あなたはこういったインフラ（社会資本）が、全体としてどの程度充足していると考えますか。（それぞれひとつだけ）



■社会資本の状況に関する全体評価〈性・年代別〉

- 性別、年代別とも、「どちらともいない」を選択した割合が4割以上である。
- 性別で見ると、日本全体については、「充足している」計の割合が女性より男性の方が 6.9 ポイント高い。
- 年代別で見ると、日本全体については、上の年代ほど充足度評価が低い傾向にある。

Q8.　これまで、個別のインフラ（社会資本）についてあなたのご意見を伺ってきましたが、あなたはこういったインフラ（社会資本）が、全体としてどの程度充足していると考えますか。（それぞれひとつだけ）



（%）

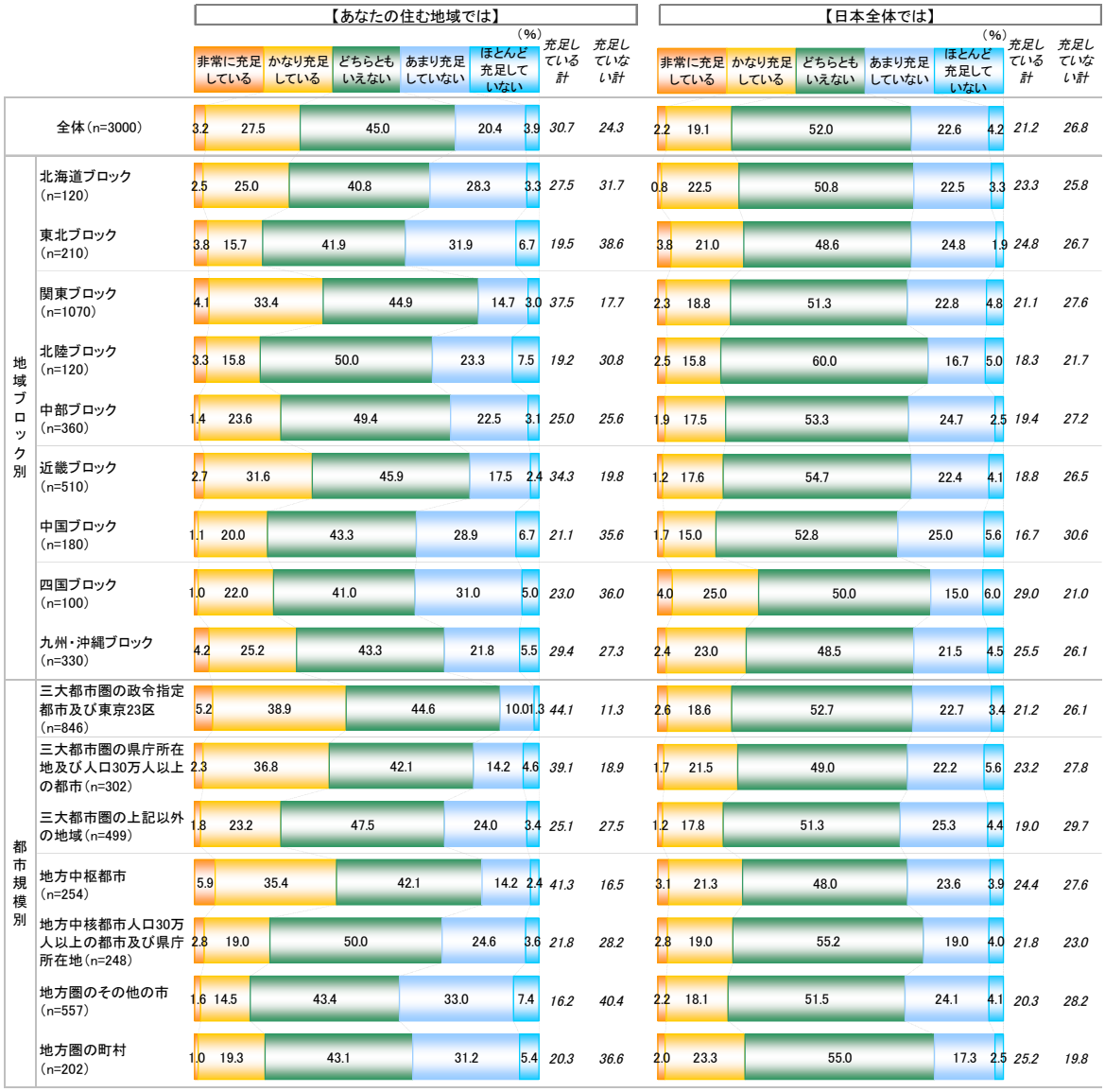
		【あなたの住む地域では】 n	非常に充足している (+2)	かなり充足している (+1)	どちらともいえない (0)	あまり充足していない (−1)	ほとんど充足していない (−2)	［充足している計］	［充足していない計］	【日本全体では】 n	非常に充足している (+2)	かなり充足している (+1)	どちらともいえない (0)	あまり充足していない (−1)	ほとんど充足していない (−2)	［充足している計］	［充足していない計］
全体		3000	3.2	27.5	45.0	20.4	3.9	30.7	24.3	3000	2.2	19.1	52.0	22.6	4.2	21.2	26.8
性年代	男性18-29歳	300	6.3	28.3	45.0	16.7	3.7	34.7	20.3	300	5.7	30.3	47.0	13.3	3.7	36.0	17.0
	男性30代	300	5.7	29.3	40.7	17.7	6.7	35.0	24.3	300	6.0	25.7	42.3	22.3	3.7	31.7	26.0
	男性40代	300	2.7	31.7	41.3	20.0	4.3	34.3	24.3	300	2.3	20.7	51.0	21.0	5.0	23.0	26.0
	男性50代	300	1.3	25.3	46.0	23.7	3.7	26.7	27.3	300	0.7	17.3	54.3	23.7	4.0	18.0	27.7
	男性60-79歳	300	2.3	28.0	41.3	25.7	2.7	30.3	28.3	300	0.3	14.3	45.0	35.7	4.7	14.7	40.3
	女性18-29歳	300	4.0	27.7	45.3	20.0	3.0	31.7	23.0	300	1.7	18.3	55.0	19.0	6.0	20.0	25.0
	女性30代	300	5.0	21.3	49.0	19.3	5.3	26.3	24.7	300	3.3	17.0	53.7	22.0	4.0	20.3	26.0
	女性40代	300	2.0	26.7	50.3	18.3	2.7	28.7	21.0	300	1.3	17.3	59.0	20.0	2.3	18.7	22.3
	女性50代	300	2.0	28.3	46.0	18.7	5.0	30.3	23.7	300	0.3	19.3	56.7	20.0	3.7	19.7	23.7
	女性60-79歳	300	0.3	28.7	45.3	23.7	2.0	29.0	25.7	300	−	10.3	56.0	28.7	5.0	10.3	33.7

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

■社会資本の状況に関する全体評価〈地域別〉

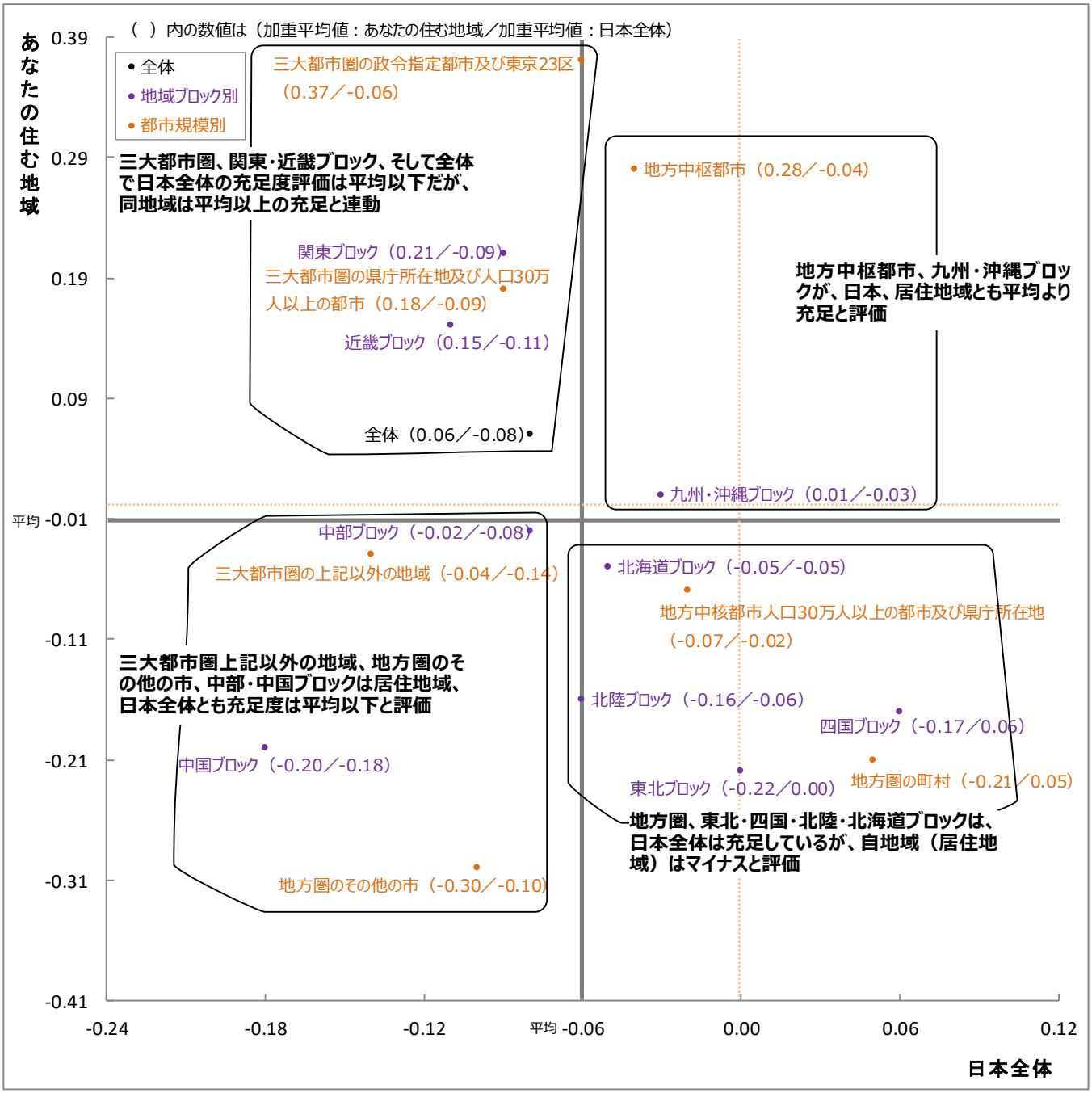
- 地域別、都市規模別とも、「どちらともいえない」を選択した割合が4割以上である。
- 居住地域については、地域別、都市規模別ともに、人口規模の大きなグループの充足度評価が高い傾向にある。
- 日本全体については、居住地域についてほど、地域別、都市規模別で充足度評価に差が見られない。

Q8. これまで、個別のインフラ（社会資本）についてあなたのご意見を伺ってきましたが、あなたはこういったインフラ（社会資本）が、全体としてどの程度充足していると考えますか。（それぞれひとつだけ）



■社会資本の状況に関する全体評価＜地域ブロック別、都市規模別＞（Q8）加重平均グラフ

- 地方中枢都市、九州・沖縄ブロックが、日本、居住地域とも平均より充足と評価。
- 三大都市圏、関東・近畿ブロック、そして全体で日本全体の充足度評価は平均以下だが、同地域は平均以上の充足と連動。
- 地方圏、東北・四国・北陸・北海道ブロックは、日本全体は充足しているが、自地域（居住地域）はマイナスと評価。
- 三大都市圏上記以外の地域、地方圏のその他の市、中部・中国ブロックは居住地域、日本全体とも充足度は平均以下と評価。



凡例）非常に充足している+2　かなり充足している+1　どちらともいえない 0　あまり充足していない−1　ほとんど充足していない−2

参考：社会資本の状況に関する全体評価と「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」3分野の社会・国土の形成評価の相関分析

社会資本の状況に関する全体評価（Q8）と社会・生活空間、国土に関する評価（Q4、Q5、Q6）の重回帰分析

＜ 重回帰分析について ＞

全国及び各地域ブロックの社会資本の状況に関する全体評価（充足度評価）に対して、「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」の3分野の社会・国土形成評価の影響がどの程度強いかを数量的に把握するため、多変量解析の手法を用いて分析した。

具体的には、社会資本の状況に関する全体評価（＝充足度評価、5段階で聴取）を目的変数、「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」の3分野の社会・国土形成評価（＝充足度評価、5段階で聴取）を説明変数とする重回帰分析を行った。

全国の分析の他、地域ブロック間の差を分析するため、地域ブロックごとに同様の重回帰分析も実施した。

＜ 重回帰分析結果 ＞

分析の結果は、重相関係数が 0.518 とそれほど高くはないものの、前回（0.491）より高く、また、各説明変数の係数の有意確率 p 値は 0.00～0.004 を示し、有意判定の基準となる p＜0.05 となっているので、一定の説明、解釈は可能であると考えられる。

全国では、3分野の社会・国土形成評価のうち「活力・交流」が前回同様最も全体評価に寄与している。つまり、自分の居住地域が「安全・安心」や「心豊かな暮らし」のある社会・国土が形成されていると感じられるよりも、「活力・交流」のある社会・国土が形成されていると感じられるほうが、地域社会の社会資本が充足しているという評価が高くなっている（寄与率が高くなっている）。「活力・交流」に次いでは「安全・安心」が2番目であり、「心豊かな暮らし」は「活力・交流」「安全・安心」と比べると寄与率は低くなっている。前回と比べると、「活力・交流」の寄与率は、さらに高まっている。

一方、地域ブロック別で見ると、重相関係数は 0.470～0.688 で前回より上がっているが、前回同様、p 値が必ずしも有意でなかったり、単相関と偏相関の符号が逆に出ている地域ブロック（北海道、中部、四国）もあり、安定した重回帰式が出せたとは言い難いが、相対的な比較は可能と思われるので、その結果を示す。

四国は「安全・安心」の寄与が最も高くなっているが、それ以外の地域については、「活力・交流」の寄与が最も高い。また、前回と比べると、四国、九州・沖縄以外では、「活力・交流」の寄与が高くなっている。

社会・生活空間、国土に関する評価（Q4、Q5、Q6）と社会資本の状況に関する全体評価（Q8）の重回帰分析

目的変数：社会資本の状況に関する全体評価（生活地域）（Q8）
説明変数：社会・国土の形成の評価（生活地域）（Q4、Q5、Q6）

	社会資本の状況に関する全体評価（生活地域）															前回2017年										
全国	社会資本の状況に関する全体評価（生活地域）	=	0.177	×	安全・安心	+	0.336	×	活力・交流	+	0.051	×	心豊かな暮らし	+	0.020	0.229	×	安全・安心	+	0.272	×	活力・交流	+	0.065	×	心豊かな暮らし	−	0.045
北海道	社会資本の状況に関する全体評価（生活地域）	=	0.177	×	安全・安心	+	0.488	×	活力・交流	+	-0.025	×	心豊かな暮らし	−	0.008	0.145	×	安全・安心	+	0.445	×	活力・交流	+	-0.071	×	心豊かな暮らし	−	0.171
東北	社会資本の状況に関する全体評価（生活地域）	=	0.021	×	安全・安心	+	0.533	×	活力・交流	+	0.084	×	心豊かな暮らし	−	0.186	0.364	×	安全・安心	+	0.065	×	活力・交流	+	0.109	×	心豊かな暮らし	−	0.246
関東	社会資本の状況に関する全体評価（生活地域）	=	0.165	×	安全・安心	+	0.308	×	活力・交流	+	0.068	×	心豊かな暮らし	+	0.146	0.256	×	安全・安心	+	0.262	×	活力・交流	+	0.045	×	心豊かな暮らし	+	0.036
北陸	社会資本の状況に関する全体評価（生活地域）	=	0.106	×	安全・安心	+	0.351	×	活力・交流	+	0.213	×	心豊かな暮らし	−	0.237	-0.072	×	安全・安心	+	0.274	×	活力・交流	+	0.178	×	心豊かな暮らし	−	0.148
中部	社会資本の状況に関する全体評価（生活地域）	=	0.274	×	安全・安心	+	0.278	×	活力・交流	+	-0.017	×	心豊かな暮らし	−	0.035	0.133	×	安全・安心	+	0.201	×	活力・交流	+	0.208	×	心豊かな暮らし	−	0.063
近畿	社会資本の状況に関する全体評価（生活地域）	=	0.165	×	安全・安心	+	0.288	×	活力・交流	+	0.077	×	心豊かな暮らし	+	0.117	0.380	×	安全・安心	+	0.207	×	活力・交流	+	0.004	×	心豊かな暮らし	−	0.005
中国	社会資本の状況に関する全体評価（生活地域）	=	0.085	×	安全・安心	+	0.383	×	活力・交流	+	0.070	×	心豊かな暮らし	−	0.205	0.142	×	安全・安心	+	0.250	×	活力・交流	+	0.298	×	心豊かな暮らし	−	0.235
四国	社会資本の状況に関する全体評価（生活地域）	=	0.445	×	安全・安心	+	0.271	×	活力・交流	+	-0.045	×	心豊かな暮らし	−	0.129	0.195	×	安全・安心	+	0.365	×	活力・交流	+	0.036	×	心豊かな暮らし	−	0.232
九州・沖縄	社会資本の状況に関する全体評価（生活地域）	=	0.193	×	安全・安心	+	0.197	×	活力・交流	+	0.162	×	心豊かな暮らし	−	0.085	0.141	×	安全・安心	+	0.388	×	活力・交流	+	0.051	×	心豊かな暮らし	−	0.048

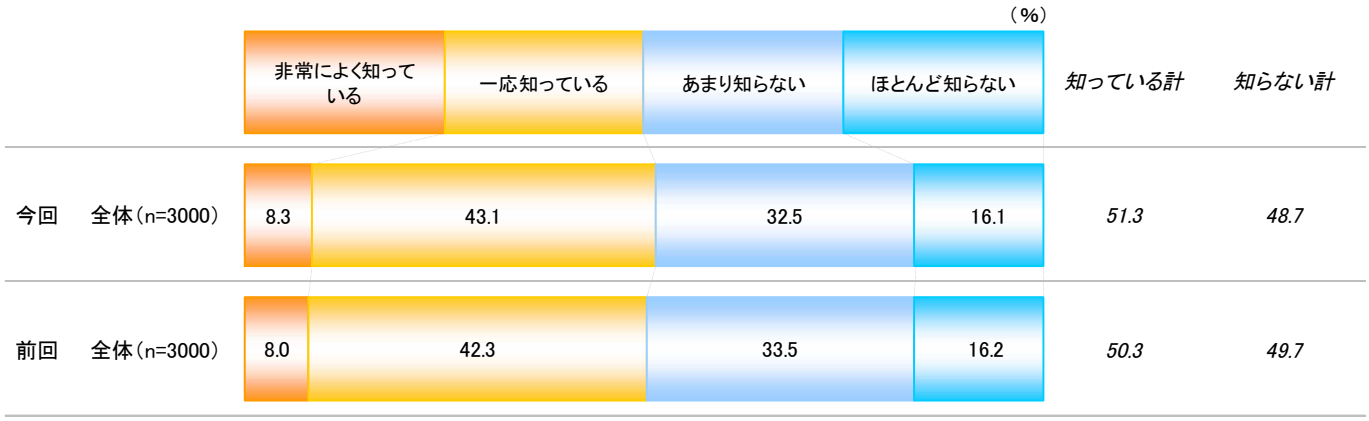
は0.30以上
は0.25以上

6. 社会資本の維持管理・更新に関する認知・理解・評価

■社会資本の維持管理・更新の理解・評価（課題認知）

・インフラ維持管理・更新費用課題認知率は5割程度にとどまる。

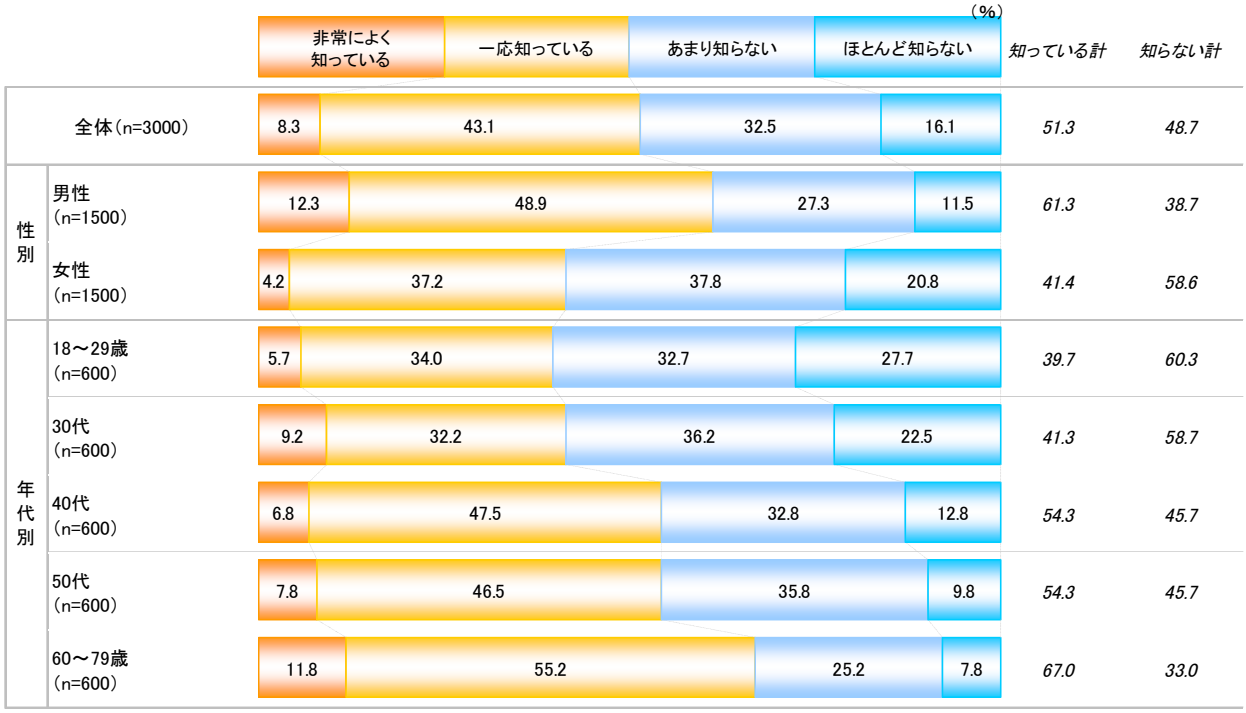
Q9.　今後、戦後の急成長期以降に急速に蓄積してきた膨大なインフラ（社会資本）が耐用年数を迎え、増加する維持管理・更新費用への対応が大きな課題となることをあなたはご存じですか。



■社会資本の維持管理・更新の課題認知〈性・年代別〉

- 若い世代のほうが認知率が低い。
- 男性より女性のほうが認知率が低い。

Q9.　今後、戦後の急成長期以降に急速に蓄積してきた膨大なインフラ（社会資本）が耐用年数を迎え、増加する維持管理・更新費用への対応が大きな課題となることをあなたはご存じですか。



（%）

		n	非常によく知っている	一応知っている	あまり知らない	ほとんど知らない	［知っている計］	［知らない計］
全体		3000	8.3	43.1	32.5	16.1	51.3	48.7
性年代	男性18-29歳	300	8.0	38.0	31.3	22.7	46.0	54.0
	男性30代	300	13.0	38.7	31.0	17.3	51.7	48.3
	男性40代	300	10.3	54.0	27.3	8.3	64.3	35.7
	男性50代	300	13.3	52.0	28.7	6.0	65.3	34.7
	男性60-79歳	300	17.0	62.0	18.0	3.0	79.0	21.0
	女性18-29歳	300	3.3	30.0	34.0	32.7	33.3	66.7
	女性30代	300	5.3	25.7	41.3	27.7	31.0	69.0
	女性40代	300	3.3	41.0	38.3	17.3	44.3	55.7
	女性50代	300	2.3	41.0	43.0	13.7	43.3	56.7
	女性60-79歳	300	6.7	48.3	32.3	12.7	55.0	45.0

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

■社会資本の維持管理・更新の課題認知〈地域別〉

・地域別で見ると、「知っている」計の割合について、最も高い四国と最も低い北陸では 20 ポイントの差がある。

Q9.　今後、戦後の急成長期以降に急速に蓄積してきた膨大なインフラ（社会資本）が耐用年数を迎え、増加する維持管理・更新費用への対応が大きな課題となることをあなたはご存じですか。

（%）

		非常によく知っている	一応知っている	あまり知らない	ほとんど知らない	知っている計	知らない計
	全体（n=3000）	8.3	43.1	32.5	16.1	51.3	48.7
地域ブロック別	北海道ブロック（n=120）	7.5	52.5	22.5	17.5	60.0	40.0
	東北ブロック（n=210）	9.0	40.0	35.7	15.2	49.0	51.0
	関東ブロック（n=1070）	9.7	43.3	31.3	15.7	53.0	47.0
	北陸ブロック（n=120）	8.3	36.7	38.3	16.7	45.0	55.0
	中部ブロック（n=360）	6.7	39.7	34.7	18.9	46.4	53.6
	近畿ブロック（n=510）	5.5	45.7	34.7	14.1	51.2	48.8
	中国ブロック（n=180）	7.8	38.9	38.9	14.4	46.7	53.3
	四国ブロック（n=100）	11.0	54.0	21.0	14.0	65.0	35.0
	九州・沖縄ブロック（n=330）	8.8	41.8	30.3	19.1	50.6	49.4
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区（n=846）	9.7	46.0	31.0	13.4	55.7	44.3
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市（n=302）	10.3	40.4	32.5	16.9	50.7	49.3
	三大都市圏の上記以外の地域（n=499）	6.2	43.9	35.5	14.4	50.1	49.9
	地方中枢都市（n=254）	11.0	44.1	28.0	16.9	55.1	44.9
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地（n=248）	8.5	44.0	32.7	14.9	52.4	47.6
	地方圏のその他の市（n=557）	7.5	42.9	33.0	16.5	50.4	49.6
	地方圏の町村（n=202）	5.4	41.1	35.6	17.8	46.5	53.5

■社会資本の維持管理・更新の理解・評価（優先性／選別の必要性／住民協力の必要性）

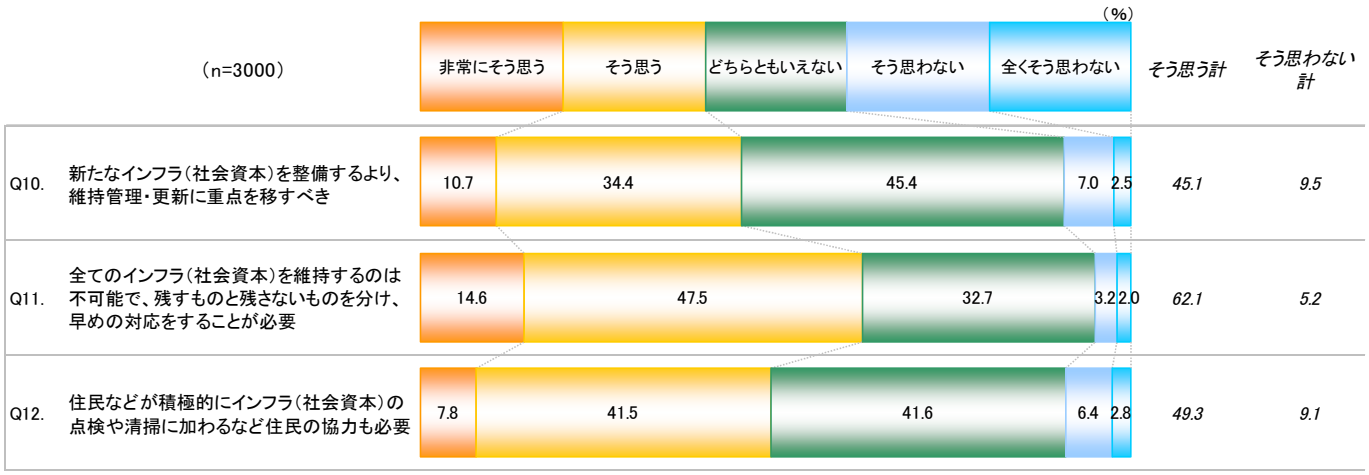
・　前回調査と比較すると、Q11「全てのインフラ（社会資本）を維持するのは不可能で、残すものと残さないものを分け、早めの対応をすることが必要」については肯定的回答が5ポイント以上増えている。その他の設問については、3ポイント程度以下の増減であり、大きな変化はない。

Q10.　増加する維持管理コストへの対応として、新たなインフラ（社会資本）を整備するより、維持管理・更新に重点を移すべきだとの意見がありますが、あなたはどう思われますか。

Q11.　インフラ（社会資本）の老朽化が急速に進行するため、全てのインフラ（社会資本）を維持するのは不可能で、残すものと残さないものを分け、早めの対応をすることが必要だとの意見がありますが、あなたはどう思われますか。

Q12.　インフラ（社会資本）の老朽化に的確に対応していくためには、住民などが積極的にインフラ（社会資本）の点検や清掃に加わるなど住民の協力も必要だとの意見がありますが、あなたはどう思われますか。

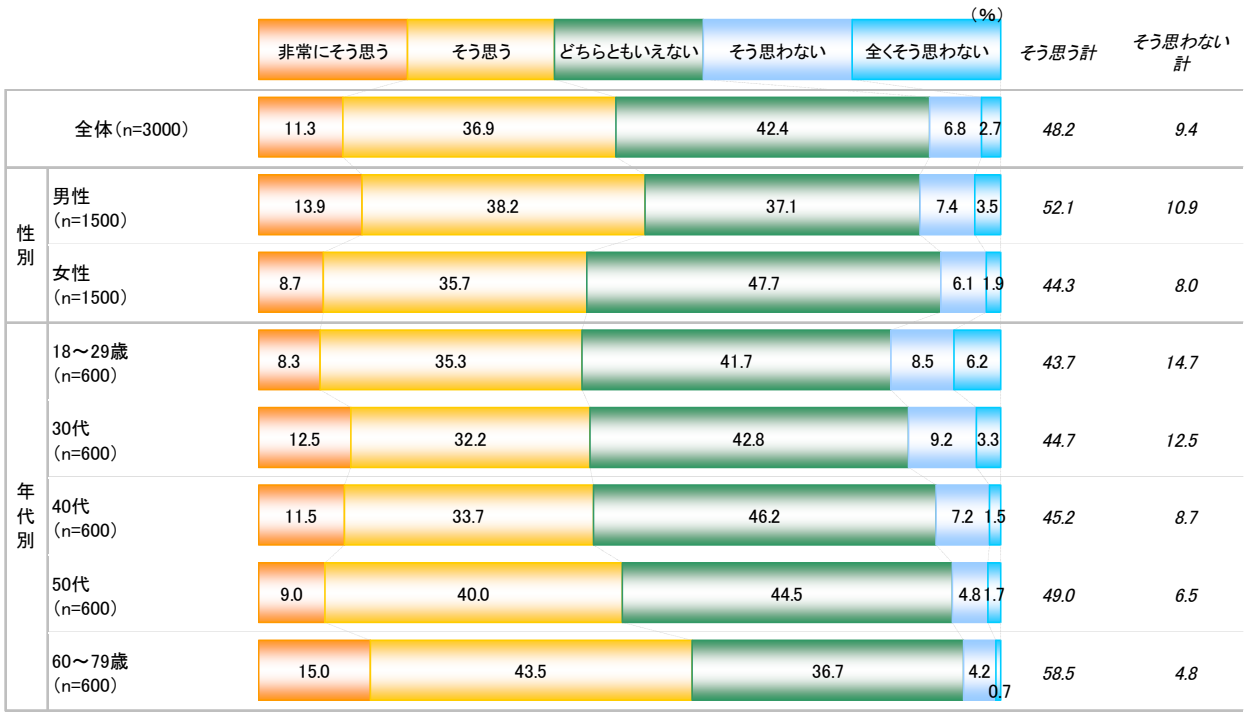
［参考：前回調査結果］



■社会資本の維持管理・更新の優先性〈性・年代別〉

・ 年代別で見ると、上の年代ほど「そう思う」計が高い傾向にある。

Q10. 増加する維持管理コストへの対応として、新たなインフラ（社会資本）を整備するより、維持管理・更新に重点を移すべきだとの意見がありますが、あなたはどう思われますか。



（%）

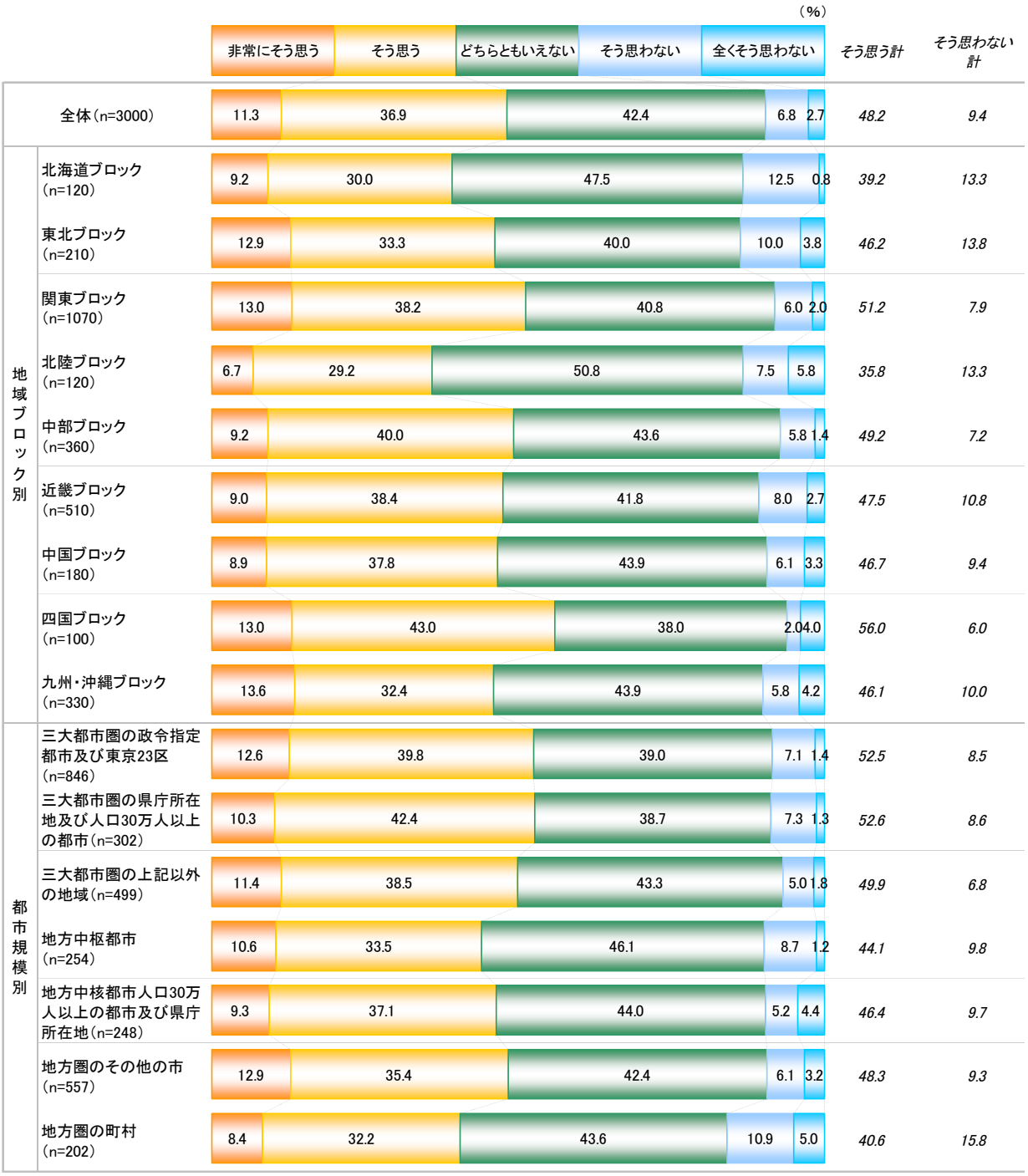
		n	非常にそう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらともいえない (0)	そう思わない (−1)	全くそう思わない (−2)	［そう思う計］	［そう思わない計］
全体		3000	11.3	36.9	42.4	6.8	2.7	48.2	9.4
性年代	男性18−29歳	300	10.0	31.7	40.7	9.3	8.3	41.7	17.7
	男性30代	300	14.3	33.7	39.3	8.3	4.3	48.0	12.7
	男性40代	300	15.3	35.0	38.7	8.7	2.3	50.3	11.0
	男性50代	300	10.7	43.7	37.3	6.3	2.0	54.3	8.3
	男性60−79歳	300	19.0	47.0	29.3	4.3	0.3	66.0	4.7
	女性18−29歳	300	6.7	39.0	42.7	7.7	4.0	45.7	11.7
	女性30代	300	10.7	30.7	46.3	10.0	2.3	41.3	12.3
	女性40代	300	7.7	32.3	53.7	5.7	0.7	40.0	6.3
	女性50代	300	7.3	36.3	51.7	3.3	1.3	43.7	4.7
	女性60−79歳	300	11.0	40.0	44.0	4.0	1.0	51.0	5.0

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

■社会資本の維持管理・更新の優先性〈地域別〉

・ 地域別で見ると、「そう思う」計の割合について、最も高い四国と最も低い北陸で 20.2 ポイントの差がある。

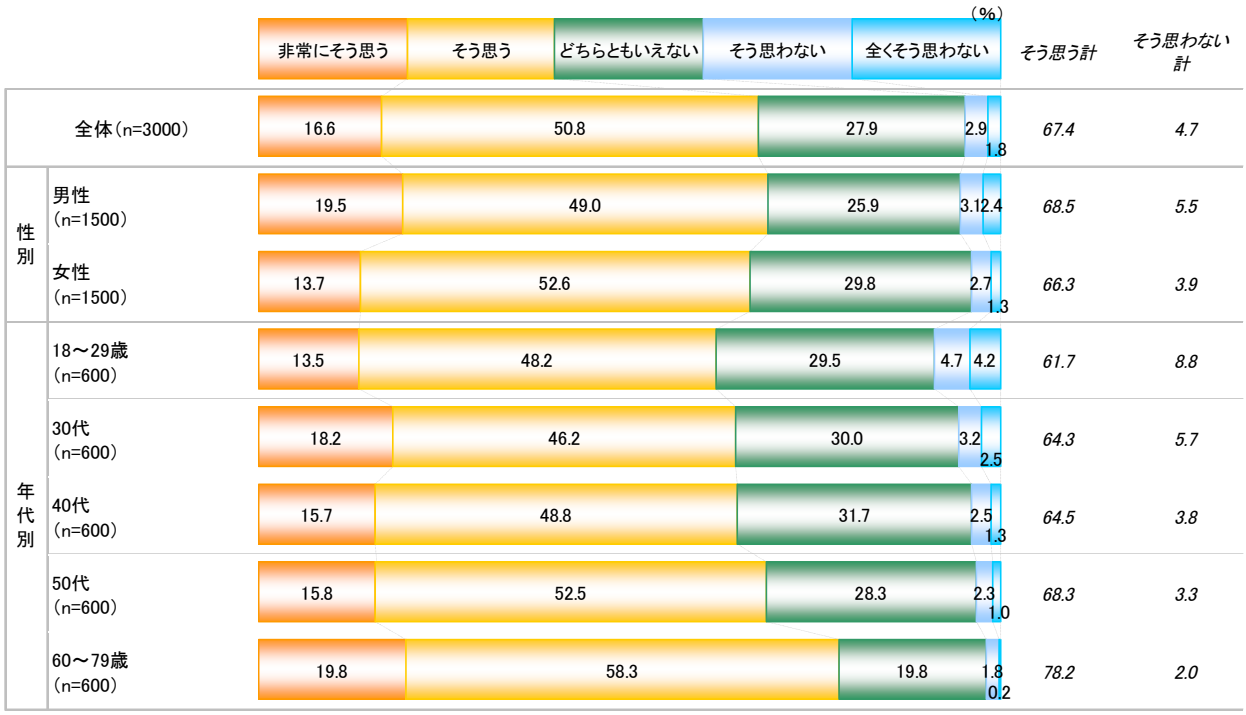
Q10. 増加する維持管理コストへの対応として、新たなインフラ（社会資本）を整備するより、維持管理・更新に重点を移すべきだとの意見がありますが、あなたはどう思われますか。



■社会資本の維持管理・更新の選別の必要性〈性・年代別〉

・ 年代別で見ると、上の年代ほど「そう思う」計が高い。

Q11. インフラ（社会資本）の老朽化が急速に進行するため、全てのインフラ（社会資本）を維持するのは不可能で、残すものと残さないものを分け、早めの対応をすることが必要だとの意見がありますが、あなたはどう思われますか。



（%）

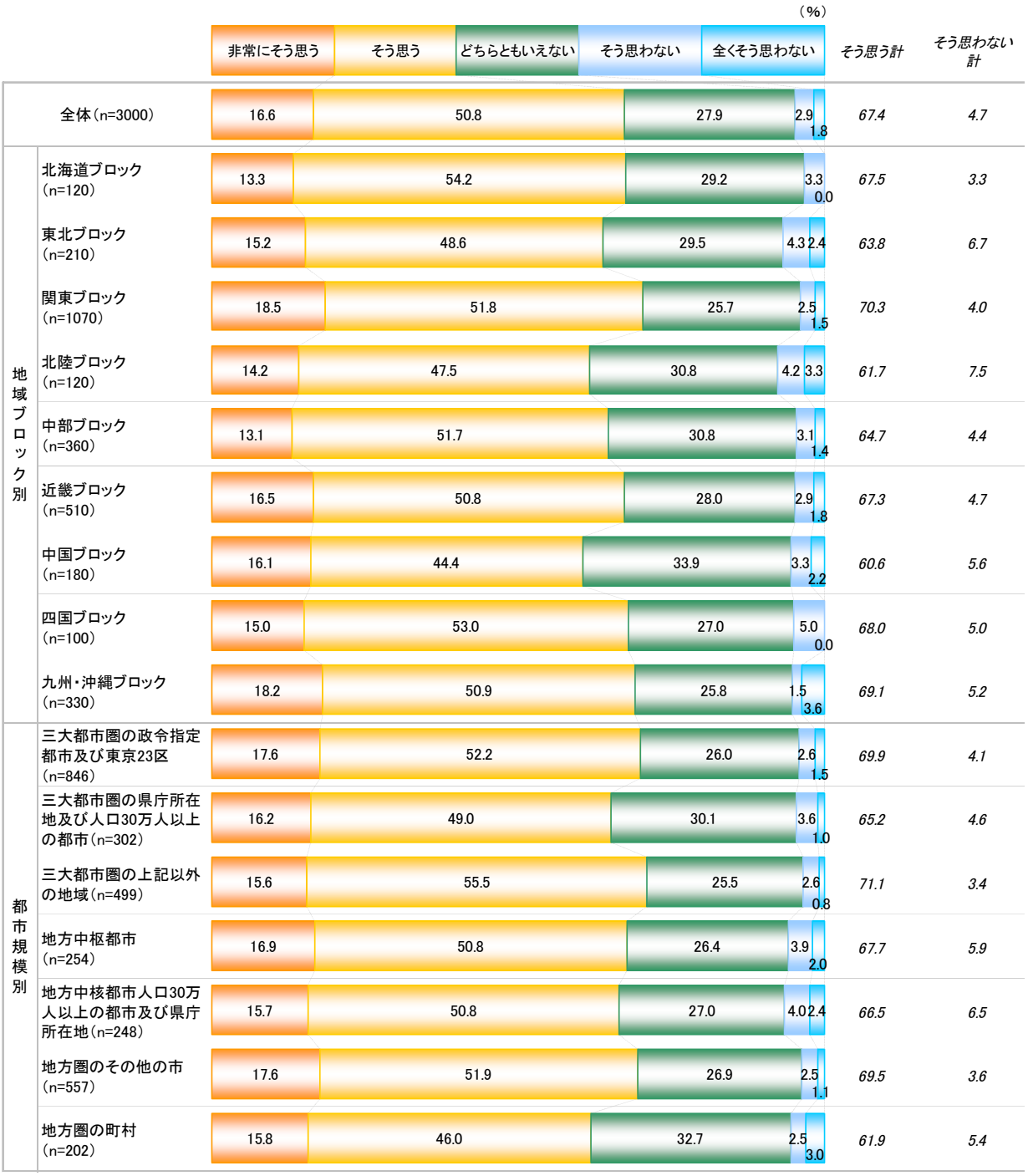
		n	非常にそう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらともいえない (0)	そう思わない (−1)	全くそう思わない (−2)	［そう思う計］	［そう思わない計］
全体		3000	16.6	50.8	27.9	2.9	1.8	67.4	4.7
性年代	男性18−29歳	300	14.7	43.3	32.3	4.7	5.0	58.0	9.7
	男性30代	300	22.3	43.3	29.0	2.0	3.3	65.7	5.3
	男性40代	300	19.3	49.7	24.7	3.7	2.7	69.0	6.3
	男性50代	300	17.7	51.0	26.7	3.7	1.0	68.7	4.7
	男性60−79歳	300	23.7	57.7	17.0	1.7	−	81.3	1.7
	女性18−29歳	300	12.3	53.0	26.7	4.7	3.3	65.3	8.0
	女性30代	300	14.0	49.0	31.0	4.3	1.7	63.0	6.0
	女性40代	300	12.0	48.0	38.7	1.3	−	60.0	1.3
	女性50代	300	14.0	54.0	30.0	1.0	1.0	68.0	2.0
	女性60−79歳	300	16.0	59.0	22.7	2.0	0.3	75.0	2.3

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

■社会資本の維持管理・更新の選別の必要性〈地域別〉

・ 地域別、都市規模別とも、いずれのグループでも「そう思う」計の割合が 6 割以上である。

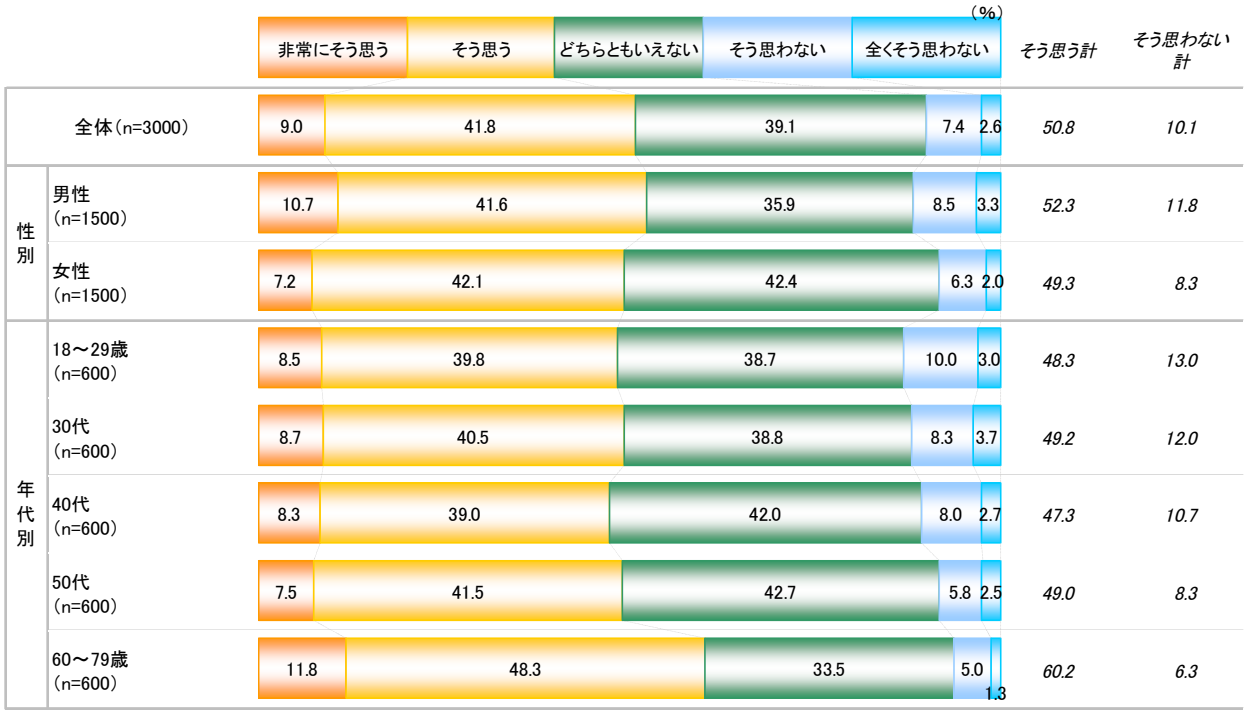
Q11. インフラ（社会資本）の老朽化が急速に進行するため、全てのインフラ（社会資本）を維持するのは不可能で、残すものと残さないものを分け、早めの対応をすることが必要だとの意見がありますが、あなたはどう思われますか。



■社会資本の維持管理・更新の住民協力の必要性〈性・年代別〉

- 性別、年代別とも、いずれのグループも「そう思う」計の割合が 45%以上、「どちらともいえない」の割合が 4 割程度となっている。
- 年代別で見ると、60～79 歳の年代が他の年代と比較して、「そう思う」計が 10 ポイント以上高い。一方でその他の世代間では「そう思う」計に大きな差はない。

Q12.　インフラ（社会資本）の老朽化に的確に対応していくためには、住民などが積極的にインフラ（社会資本）の点検や清掃に加わるなど住民の協力も必要だとの意見がありますが、あなたはどう思われますか。



（%）

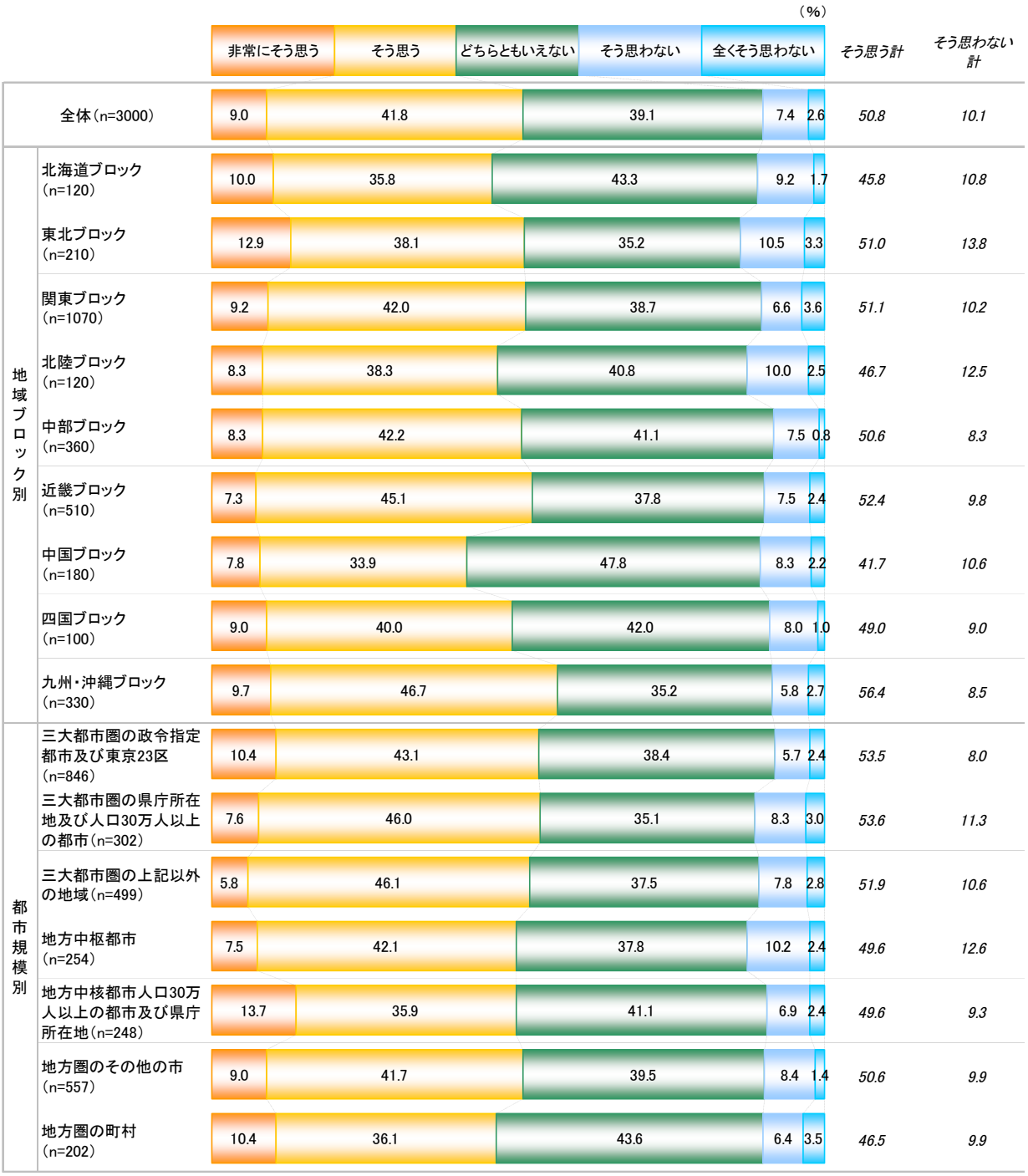
		n	非常にそう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらともいえない (0)	そう思わない (−1)	全くそう思わない (−2)	[そう思う計]	[そう思わない計]
全体		3000	9.0	41.8	39.1	7.4	2.6	50.8	10.1
性年代	男性18−29歳	300	11.0	35.7	37.7	12.0	3.7	46.7	15.7
	男性30代	300	10.3	40.7	35.7	8.3	5.0	51.0	13.3
	男性40代	300	10.3	39.7	38.0	8.0	4.0	50.0	12.0
	男性50代	300	10.3	42.7	36.3	8.3	2.3	53.0	10.7
	男性60−79歳	300	11.7	49.3	31.7	6.0	1.3	61.0	7.3
	女性18−29歳	300	6.0	44.0	39.7	8.0	2.3	50.0	10.3
	女性30代	300	7.0	40.3	42.0	8.3	2.3	47.3	10.7
	女性40代	300	6.3	38.3	46.0	8.0	1.3	44.7	9.3
	女性50代	300	4.7	40.3	49.0	3.3	2.7	45.0	6.0
	女性60−79歳	300	12.0	47.3	35.3	4.0	1.3	59.3	5.3

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

■社会資本の維持管理・更新の住民協力の必要性〈地域別〉

・　地域別、都市規模別とも、いずれのグループも「そう思う」計の割合が 5 割程度、「どちらともいえない」の割合が 4 割程度となっている。

Q12.　インフラ（社会資本）の老朽化に的確に対応していくためには、住民などが積極的にインフラ（社会資本）の点検や清掃に加わるなど住民の協力も必要だとの意見がありますが、あなたはどう思われますか。



7. 社会資本整備のあり方、保全・整備の進め方に関する評価

■社会資本整備のあり方、保全・整備の進め方に関する評価 （「そう思う」計）

- 「災害に備えるためには、ソフト対策も重要」が、唯一、肯定的回答が 8 割を超え、最も肯定的回答が多い。
- その他の項目（「中長期の全体像を描いた上で財源をきちんと確保し、計画的効率的に進めること」、「新型コロナウイルス感染症発生により生じた国民意識や国民生活の変化に対応していくことが重要」、「安全・安心を高める社会資本整備を重点的に進めるべき」、「インフラの強度や機能などに余裕を持たせ、安全度を高めるべき」など）についても、肯定的な回答が多い（5 割～7 割程度）。

以下のような意見がありますが、あなたはどう思われますか？

Q13. 気候変動による災害の頻発化、巨大地震発生の可能性の増大などに対応するため、安全・安心を高める社会資本整備を重点的に進めるべき
Q14. 東日本大震災などで、国土の脆弱性が明らかになった日本にとって、強くしなやかな国民生活の実現のため、国土を強靭化することは重要だ
Q15. 自然災害などは、予想以上の規模で発生したり、短い時間で続けて起こるなど不確実性があるため、インフラ（社会資本）の強度や機能などに余裕を持たせ、安全度を高めるべき
Q16. 災害に備えるためには、インフラの整備（ハード対策）も重要だが、防災訓練やハザードマップの理解・活用などのソフト対策も重要
Q17. 日本の経済活力を維持、成長を促進するため、移動時間の短縮、輸送費の低下、企業立地や設備投資の誘発など、生産拡大効果のある社会資本整備を重点的に進めるべきだ
Q18. 災害からの復旧・復興にあたり、専門的知識・技能を持った国の職員を迅速に派遣する体制（ex.「TEC フォース」）を強化することが必要だ
Q19. 人口密度が高いほど効率化により都市施設の維持管理費が少なくなるので、住む人や都市施設を集め、人口密度の高いコンパクトシティを形成し、それらを道路などのネットワークで結びつけて、地方の成長を促し、人口減少を克服することを進めるべきだ
Q20. 感染症等も含めた自然災害等に対するリスクを減らすため、また、地方の文化・風土・伝統などの多様性を保持するため、人口や機能を分散させた国土づくりを行うべき
Q21. これからのインフラ（社会資本）の保全整備にあたっては、PPP（官民連携）、PFI（民間の資金、経営能力等を活用する手法など）を取り入れ、民間事業者のノウハウ等を活用することで、効率化、コスト縮減、人件費の削減等を実現することが必要だ
Q22. 人々の価値観や行動が大きく変化し、多様化していることを踏まえ、社会資本整備においても、その整備方策・手順について住民、地域の意見等を十分に取り入れ、価値観の共有と協働作業が行えるような仕組みを作っていくべきだ
Q23. 社会全体の安全性を高める施設等を整備するにあたって、必要が生じた場合、土地利用などの私権が制限されるのは止むを得ない
Q24. 高速道路、幹線道路が救急搬送や災害時に救援物資の運搬等に用いる「命の道」の役割も果たす、といった例も踏まえ、社会資本整備にあたっては、効率の観点だけでなく、公平の観点も重視すべきだ
Q25. これからのインフラ（社会資本）の保全整備にあたっては、新型コロナウイルス感染症発生により生じた国民意識や国民生活の変化に対応していくことが重要である
Q26. これからのインフラ（社会資本）の保全整備にあたっては、資源・エネルギーの再利用や CO2 の削減など、脱炭素社会を実現するための取り組みをより一層推進していくべき
Q27. これからのインフラ（社会資本）の保全整備にあたっては、コスト削減やサービス水準向上のために、自動車の自動運転技術やドローンによる施設点検技術など新技術の開発と導入を積極的に進めることが必要である
Q28. インフラメンテナンスの分野で、日本の優れた技術は世界で十分に競争する力がある。こういった優れた日本のインフラ技術を世界に輸出し、国際貢献するとともに日本の活力強化にもつなげるべきだ
Q29. インフラ（社会資本）の保全整備にあたっては、中長期の全体像を描いた上で財源をきちんと確保し、計画的効率的に進めることが必要である

（%）

	（n=3000）	非常にそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	全くそう思わない	そう思う計	そう思わない計
Q13.	安全・安心を高める社会資本整備を重点的に進めるべき	22.2	49.6	24.3	2.4	1.5	71.8	3.9
Q14.	国土を強靭（きょうじん）化することは重要	22.4	46.8	25.8	3.6	1.5	69.1	5.1
○Q15.	インフラの強度や機能などに余裕を持たせ、安全度を高めるべき	20.4	50.6	24.9	2.8	1.2	71.0	4.0
Q17.	生産拡大効果のある社会資本整備を重点的に進めるべき	10.5	40.7	41.4	5.8	1.6	51.2	7.4
Q18.	専門的知識・技能を持った国の職員を迅速に派遣する体制を強化することが必要	15.5	46.1	33.2	3.7	1.6	61.6	5.2
Q19.	コンパクトシティを形成するなど、地方の成長を促し、人口減少を克服することを進めるべき	11.8	35.0	40.1	10.7	2.4	46.7	13.1
○Q20.	人口や機能を分散させた国土づくりを行うべき	12.4	41.9	38.0	5.8	1.9	54.3	7.8
Q21.	民間事業者のノウハウ等を活用することで、効率化、コスト縮減、人件費の削減等を実現する	15.2	47.4	32.3	3.7	1.3	62.7	5.1
Q22.	住民、地域の意見等を十分に取り入れ、価値観の共有と協働作業が行えるような仕組み	12.0	49.6	32.8	4.3	1.3	61.6	5.6
Q23.	必要が生じた場合、土地利用などの私権が制限されるのは止むを得ない	11.7	44.2	35.3	7.3	1.5	55.9	8.7
Q24.	社会資本整備にあたっては、効率の観点だけでなく、公平の観点も重視すべき	10.9	49.0	34.6	4.3	1.3	59.8	5.6
○Q25.	新型コロナにより生じた国民意識や国民生活の変化に対応していく	22.2	47.4	24.8	4.0	1.6	69.6	5.6
○Q26.	脱炭素社会を実現するための取り組みをより一層推進していくべき	15.6	43.9	31.6	5.7	3.2	59.5	8.9
○Q27.	自動運転技術やドローンによる施設点検技術など新技術の開発と導入を積極的に進める	17.6	47.0	30.7	3.3	1.4	64.6	4.7
Q28.	日本のインフラ技術を世界に輸出し、国際貢献するとともに日本の活力強化にもつなげるべき	18.1	46.2	29.8	4.2	1.7	64.3	5.9
Q29.	中長期の全体像を描いた上で財源をきちんと確保し、計画的効率的に進めることが必要	20.9	49.9	24.4	3.3	1.5	70.9	4.8

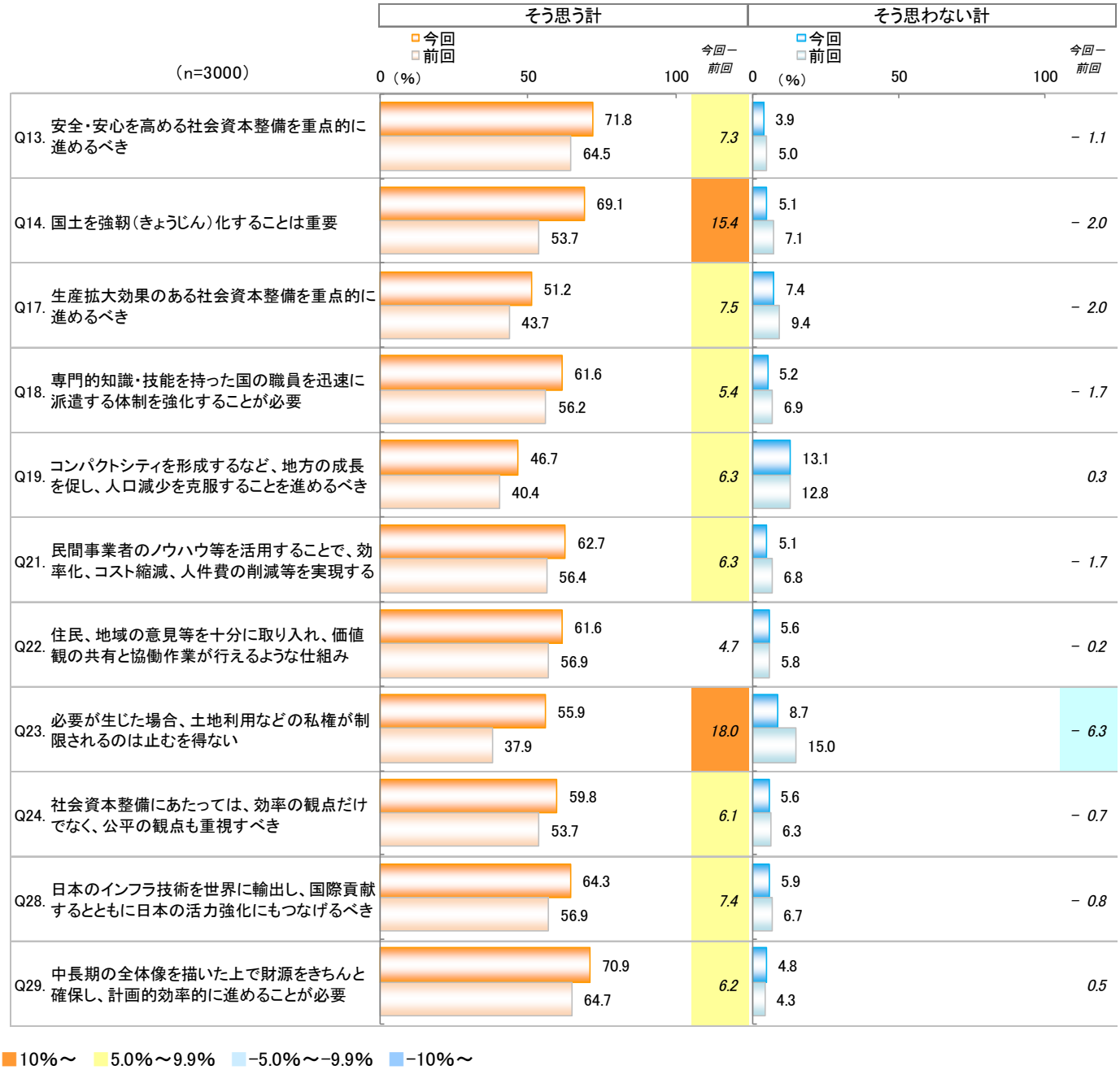
（%）

	（n=3000）	そう思うし、自らも取り組んでいる	そう思うが、自らは取り組めていない	どちらともいえない	そう思わない	そう思う計	そう思わない
○Q16.	災害に備えるためには、ソフト対策も重要	20.0	62.6	15.0	2.3	82.6	2.3

■60%～　■55%～59.9%　■50%～54.9%　■40%～49.9%　○新設問（2017 調査にない設問）

【前回比較】

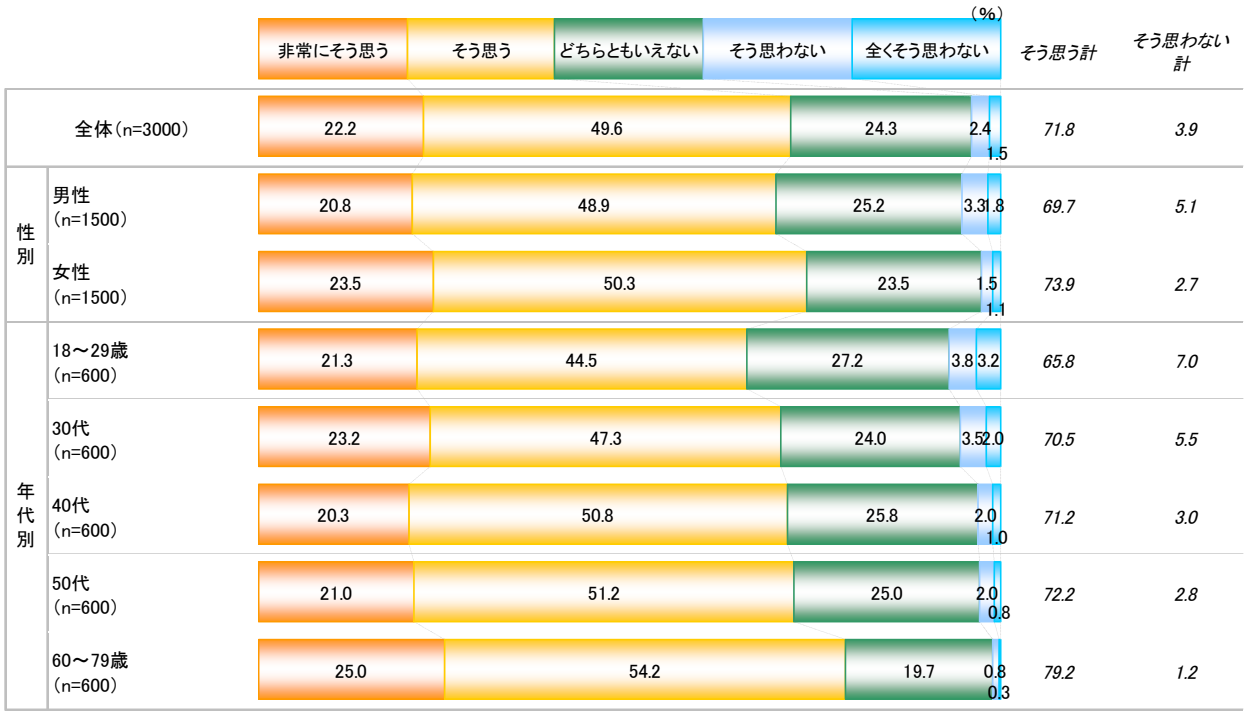
・　前回調査との比較については、いずれの項目についても、肯定的な回答が 5 ポイント程度以上増加している。特に「必要が生じた場合、土地利用などの私権が制限されるのは止むを得ない」「国土を強靭化することは重要」の 2 項目が 15 ポイント以上と大幅に増加している。



■安全・安心を高める社会資本整備を重点的に進める（Q13）〈性・年代別〉

・ 年代別で見ると、上の年代ほど「そう思う」計が高い。

Q13.　気候変動による災害の頻発化、巨大地震発生の可能性の増大などに対応するため、安全・安心を高める社会資本整備を重点的に進めるべき



（%）

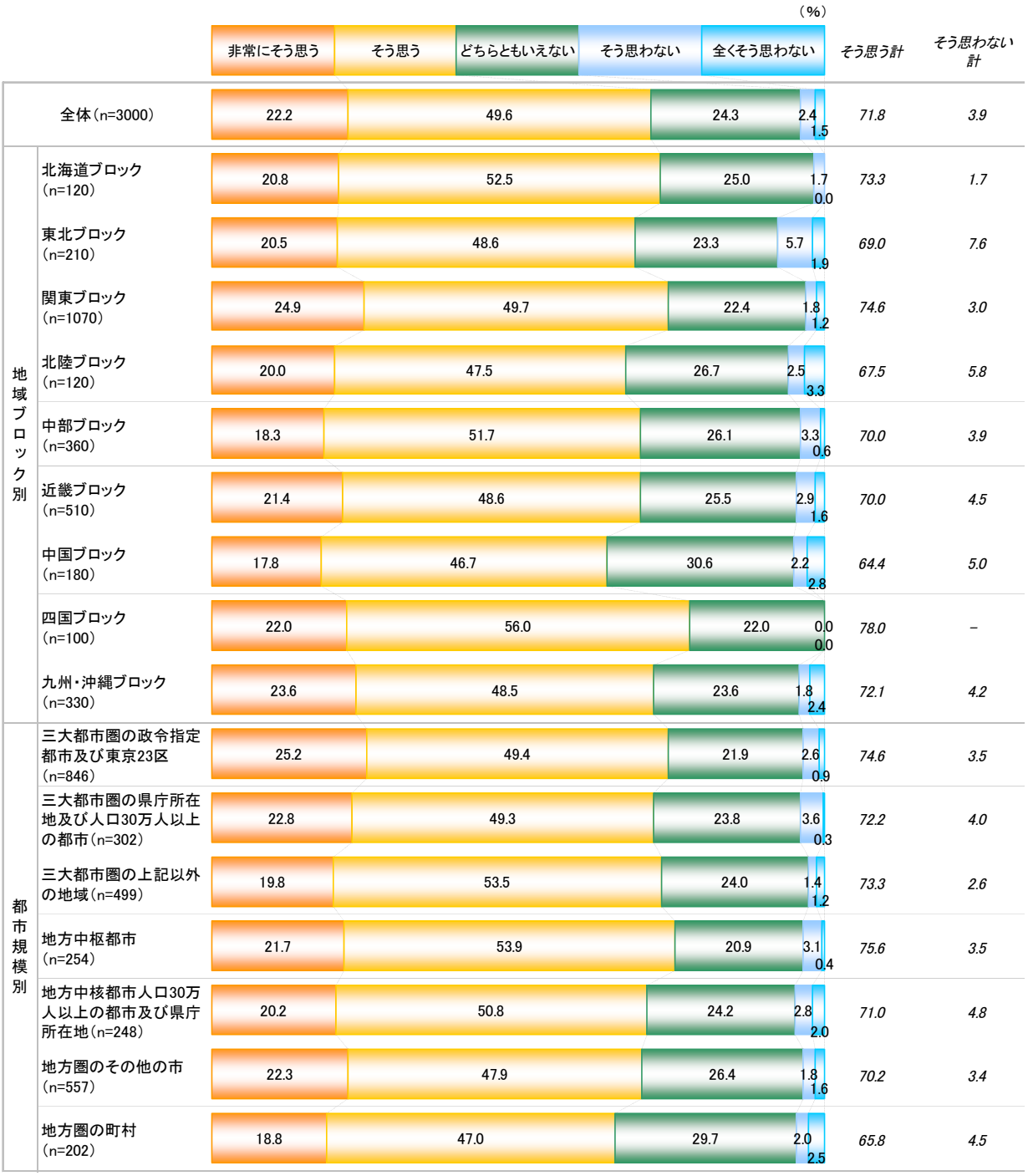
		n	非常にそう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらともいえない (0)	そう思わない (−1)	全くそう思わない (−2)	［そう思う計］	［そう思わない計］
全体		3000	22.2	49.6	24.3	2.4	1.5	71.8	3.9
性年代	男性18−29歳	300	19.3	41.0	31.7	5.0	3.0	60.3	8.0
	男性30代	300	20.0	47.7	25.0	4.0	3.3	67.7	7.3
	男性40代	300	19.7	50.0	25.3	3.0	2.0	69.7	5.0
	男性50代	300	20.0	50.3	25.7	3.3	0.7	70.3	4.0
	男性60−79歳	300	25.0	55.3	18.3	1.3	−	80.3	1.3
	女性18−29歳	300	23.3	48.0	22.7	2.7	3.3	71.3	6.0
	女性30代	300	26.3	47.0	23.0	3.0	0.7	73.3	3.7
	女性40代	300	21.0	51.7	26.3	1.0	−	72.7	1.0
	女性50代	300	22.0	52.0	24.3	0.7	1.0	74.0	1.7
	女性60−79歳	300	25.0	53.0	21.0	0.3	0.7	78.0	1.0

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

■安全・安心を高める社会資本整備を重点的に進める（Q13）〈地域別〉

・ 地域別、都市規模別とも、いずれのグループも「そう思う」計が 7 割程度である。

Q13.　気候変動による災害の頻発化、巨大地震発生の可能性の増大などに対応するため、安全・安心を高める社会資本整備を重点的に進めるべき



■国土を強靭化する(Q14)〈性・年代別〉

- 性別、年代別とも、いずれのグループも「そう思う」計が 7 割程度である。
- 年代別で見ると、60 歳～79 歳の年代が他の年代より「そう思う」計が 10 ポイント以上高い。

Q14.　東日本大震災などで、国土の脆弱性が明らかになった日本にとって、強くしなやかな国民生活の実現のため、国土を強靭化することは重要だ

(%)

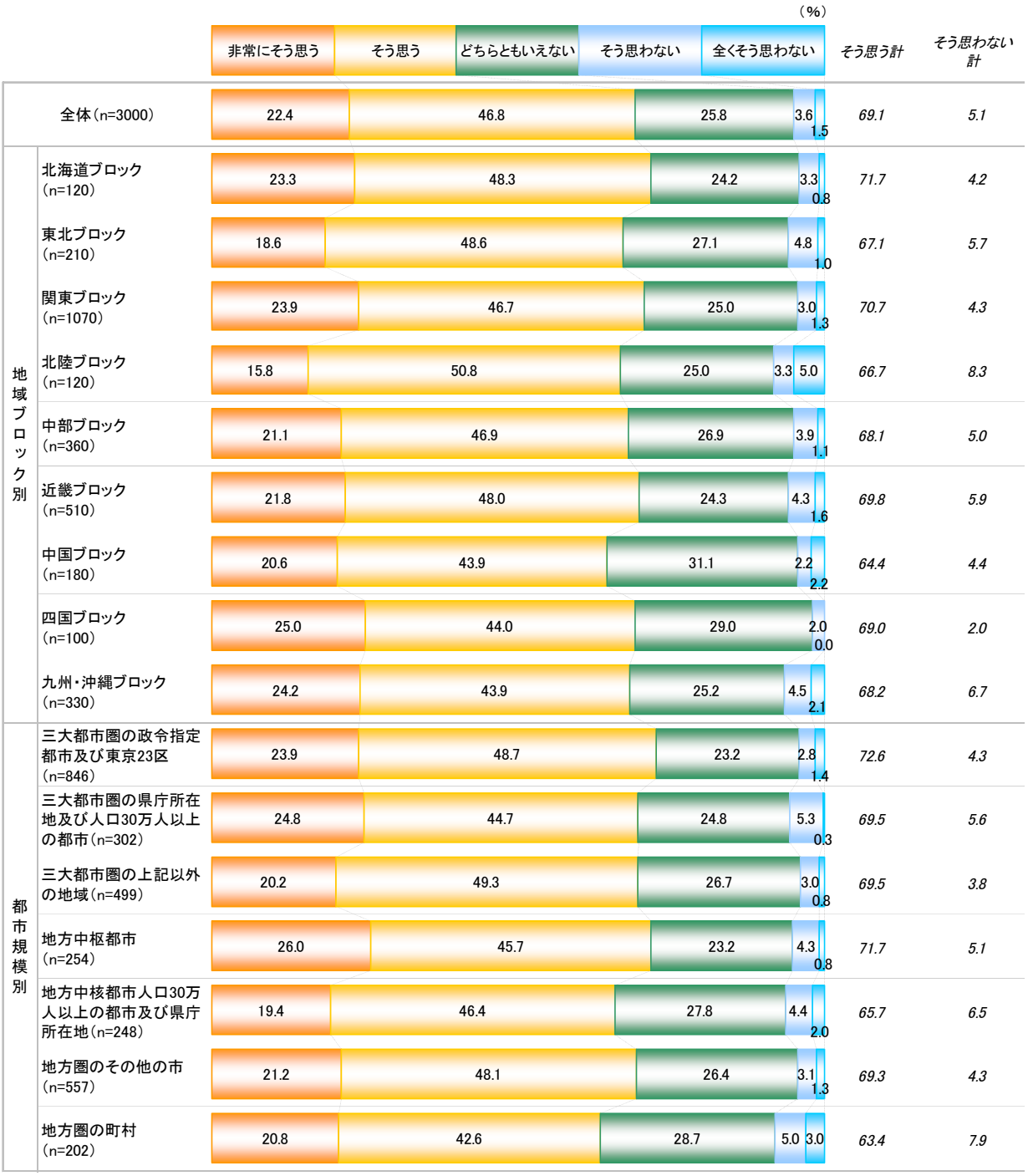
		n	非常にそう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらともいえない (0)	そう思わない (−1)	全くそう思わない (−2)	[そう思う計]	[そう思わない計]
全体		3000	22.4	46.8	25.8	3.6	1.5	69.1	5.1
性年代	男性18-29歳	300	21.7	36.7	31.7	5.7	4.3	58.3	10.0
	男性30代	300	21.0	44.3	25.3	6.3	3.0	65.3	9.3
	男性40代	300	21.0	46.7	26.7	3.3	2.3	67.7	5.7
	男性50代	300	20.3	44.3	31.0	3.3	1.0	64.7	4.3
	男性60-79歳	300	26.0	51.0	19.0	4.0	−	77.0	4.0
	女性18-29歳	300	25.3	46.7	22.7	3.0	2.3	72.0	5.3
	女性30代	300	21.3	49.0	26.3	2.7	0.7	70.3	3.3
	女性40代	300	21.0	45.0	31.0	3.0	−	66.0	3.0
	女性50代	300	19.3	50.3	26.7	2.3	1.3	69.7	3.7
	女性60-79歳	300	26.7	53.7	17.3	2.0	0.3	80.3	2.3

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

■国土を強靭化する（Q14）〈地域別〉

・ 地域別、都市規模別とも、いずれのグループも「そう思う」計が 7 割程度である。

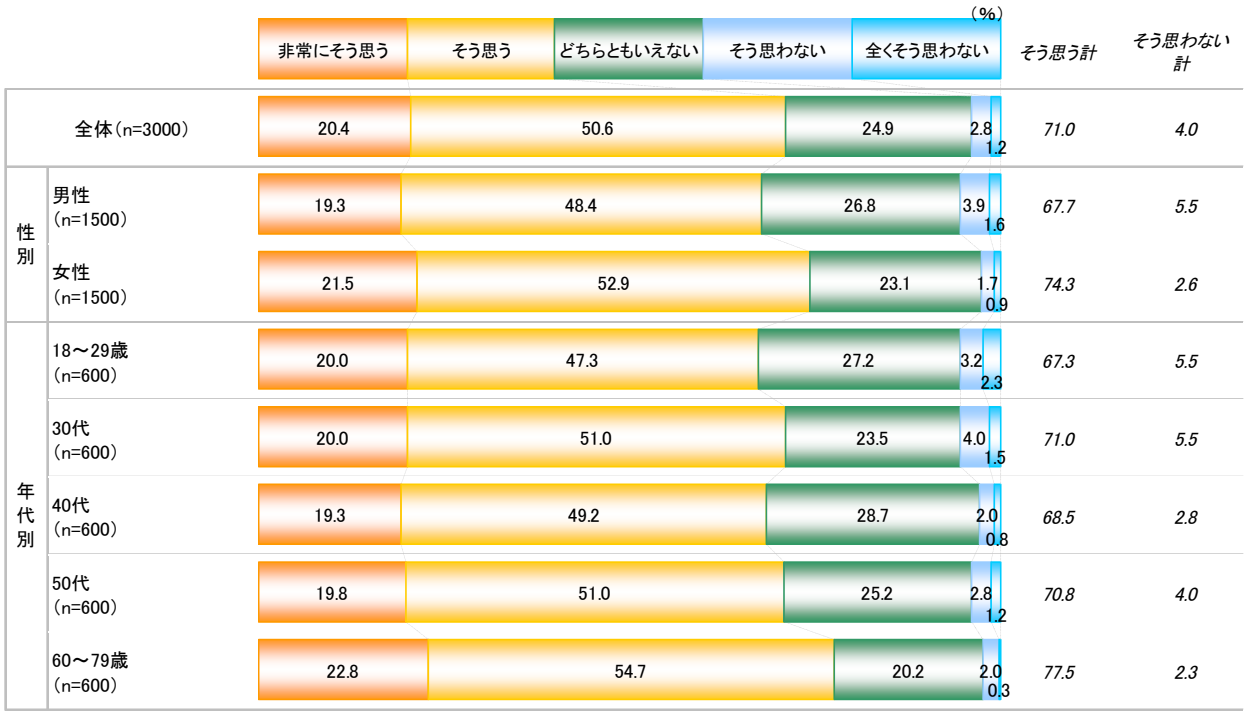
Q14.　東日本大震災などで、国土の脆弱性が明らかになった日本にとって、強くしなやかな国民生活の実現のため、国土を強靭化することは重要だ



■インフラ（社会資本）の強度や機能などに余裕を持たせ、安全度を高める（Q15）〈性・年代別〉

- 性別、年代別とも、いずれのグループも「そう思う」計が 7 割程度である。
- 年代別でみると、上の年代ほど「そう思う」計が高い傾向にある。

Q15.　自然災害などは、予想以上の規模で発生したり、短い時間で続けて起こるなど不確実性があるため、インフラ（社会資本）の強度や機能などに余裕を持たせ、安全度を高めるべき



（%）

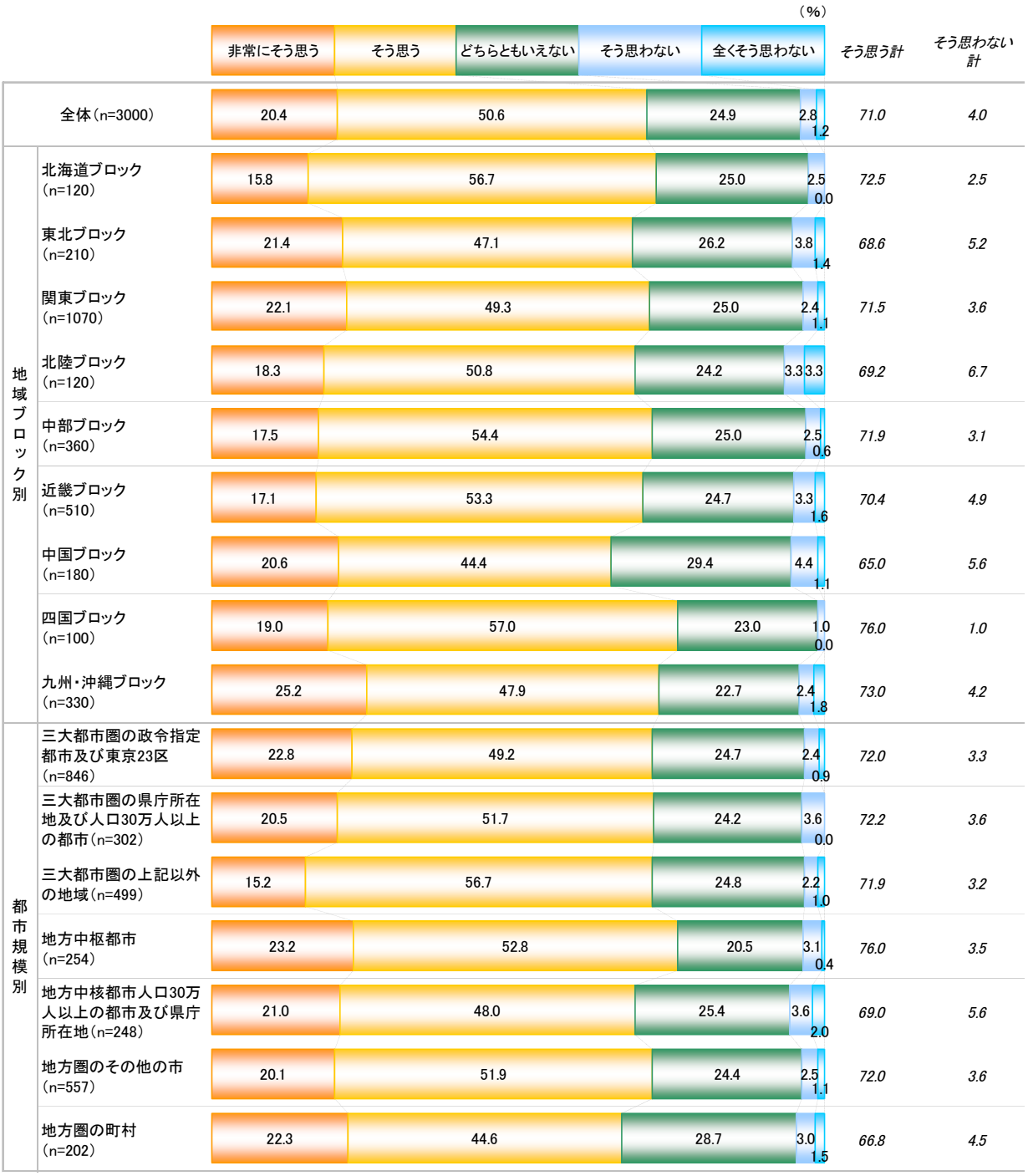
		n	非常にそう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらともいえない (0)	そう思わない (−1)	全くそう思わない (−2)	［そう思う計］	［そう思わない計］
全体		3000	20.4	50.6	24.9	2.8	1.2	71.0	4.0
性年代	男性18−29歳	300	17.7	42.3	33.0	4.3	2.7	60.0	7.0
	男性30代	300	18.7	51.0	23.7	4.7	2.0	69.7	6.7
	男性40代	300	18.0	49.0	29.0	2.3	1.7	67.0	4.0
	男性50代	300	20.0	48.0	26.0	4.7	1.3	68.0	6.0
	男性60−79歳	300	22.3	51.7	22.3	3.3	0.3	74.0	3.7
	女性18−29歳	300	22.3	52.3	21.3	2.0	2.0	74.7	4.0
	女性30代	300	21.3	51.0	23.3	3.3	1.0	72.3	4.3
	女性40代	300	20.7	49.3	28.3	1.7	−	70.0	1.7
	女性50代	300	19.7	54.0	24.3	1.0	1.0	73.7	2.0
	女性60−79歳	300	23.3	57.7	18.0	0.7	0.3	81.0	1.0

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

■インフラ（社会資本）の強度や機能などに余裕を持たせ、安全度を高める（Q15）〈地域別〉

・ 地域別、都市規模別とも、いずれのグループも「そう思う」計が 7 割程度である。

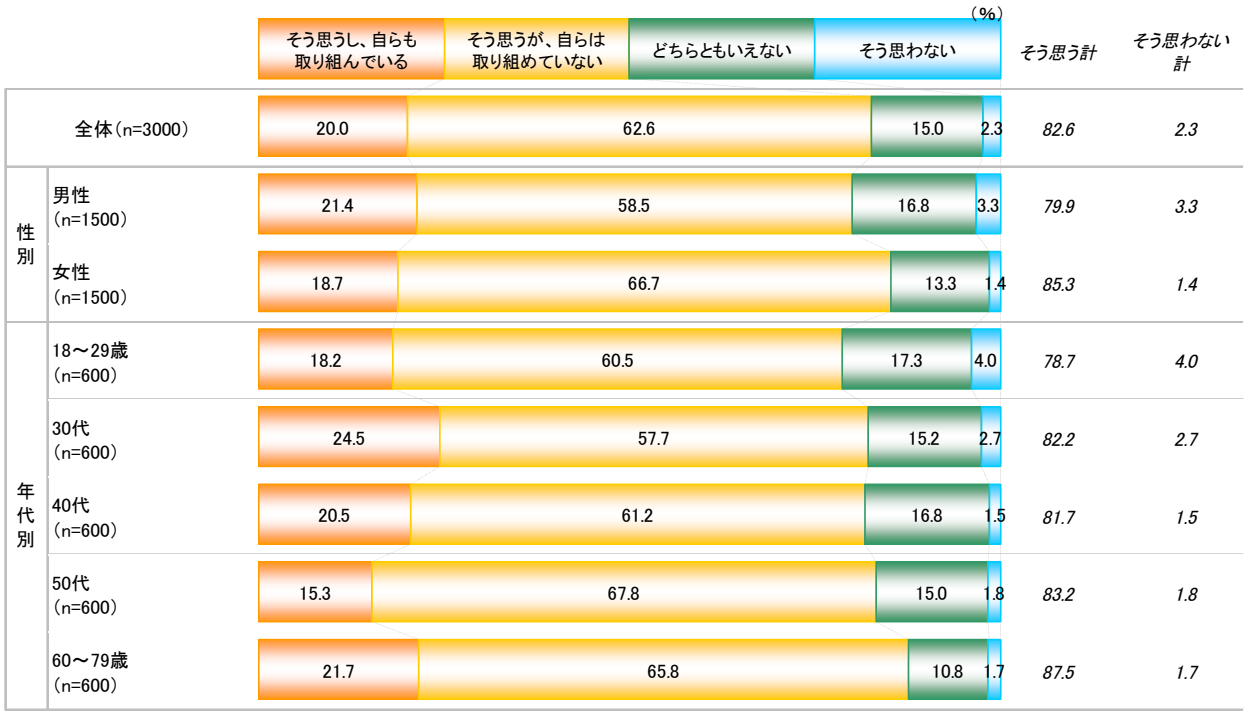
Q15.　自然災害などは、予想以上の規模で発生したり、短い時間で続けて起こるなど不確実性があるため、インフラ（社会資本）の強度や機能などに余裕を持たせ、安全度を高めるべき



■防災訓練やハザードマップの理解・活用などのソフト対策も重要（Q16）〈性・年代別〉

・　性別、年代別とも、いずれのグループも「そう思うが自らは取り組めていない」の割合が 6 割程度である。

Q16.　災害に備えるためには、インフラの整備（ハード対策）も重要だが、防災訓練やハザードマップの理解・活用などのソフト対策も重要



（%）

		n	そう思うし、自らも取り組んでいる	そう思うが、自らは取り組めていない	どちらともいえない	そう思わない	［そう思う計］	［そう思わない計］
全体		3000	20.0	62.6	15.0	2.3	82.6	2.3
性年代	男性18-29歳	300	16.7	54.3	24.0	5.0	71.0	5.0
	男性30代	300	25.7	52.3	17.7	4.3	78.0	4.3
	男性40代	300	22.3	57.7	18.0	2.0	80.0	2.0
	男性50代	300	19.3	64.0	14.3	2.3	83.3	2.3
	男性60-79歳	300	23.0	64.3	10.0	2.7	87.3	2.7
	女性18-29歳	300	19.7	66.7	10.7	3.0	86.3	3.0
	女性30代	300	23.3	63.0	12.7	1.0	86.3	1.0
	女性40代	300	18.7	64.7	15.7	1.0	83.3	1.0
	女性50代	300	11.3	71.7	15.7	1.3	83.0	1.3
	女性60-79歳	300	20.3	67.3	11.7	0.7	87.7	0.7

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

■防災訓練やハザードマップの理解・活用などのソフト対策も重要（Q16）〈地域別〉

・　地域別、都市規模別とも、いずれのグループも「そう思うが、自らは取り組めていない」の割合が 6 割程度である。

Q16.　災害に備えるためには、インフラの整備（ハード対策）も重要だが、防災訓練やハザードマップの理解・活用などのソフト対策も重要

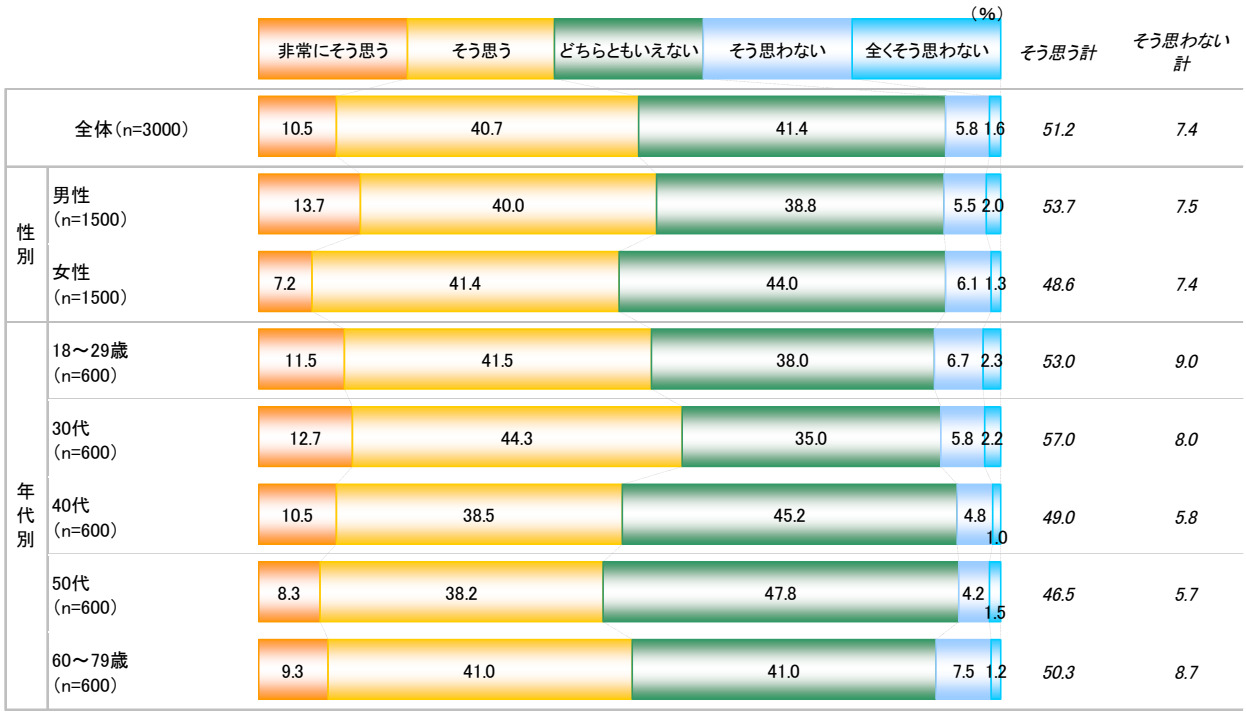
（%）

		そう思うし、自らも取り組んでいる	そう思うが、自らは取り組めていない	どちらともいえない	そう思わない	そう思う計	そう思わない計
	全体（n=3000）	20.0	62.6	15.0	2.3	*82.6*	*2.3*
地域ブロック別	北海道ブロック（n=120）	17.5	64.2	16.7	1.7	*81.7*	*1.7*
	東北ブロック（n=210）	20.5	61.0	16.2	2.4	*81.4*	*2.4*
	関東ブロック（n=1070）	22.7	59.9	15.3	2.1	*82.6*	*2.1*
	北陸ブロック（n=120）	15.8	59.2	19.2	5.8	*75.0*	*5.8*
	中部ブロック（n=360）	18.3	67.2	13.3	1.1	*85.6*	*1.1*
	近畿ブロック（n=510）	16.3	67.1	13.7	2.9	*83.3*	*2.9*
	中国ブロック（n=180）	22.8	55.0	20.0	2.2	*77.8*	*2.2*
	四国ブロック（n=100）	21.0	65.0	12.0	2.0	*86.0*	*2.0*
	九州・沖縄ブロック（n=330）	19.4	64.5	13.3	2.7	*83.9*	*2.7*
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区（n=846）	21.5	62.2	14.1	2.2	*83.7*	*2.2*
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市（n=302）	19.5	65.9	11.9	2.6	*85.4*	*2.6*
	三大都市圏の上記以外の地域（n=499）	19.8	64.1	15.0	1.0	*84.0*	*1.0*
	地方中枢都市（n=254）	21.3	64.2	13.0	1.6	*85.4*	*1.6*
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地（n=248）	16.5	65.7	15.7	2.0	*82.3*	*2.0*
	地方圏のその他の市（n=557）	21.0	62.5	14.5	2.0	*83.5*	*2.0*
	地方圏の町村（n=202）	20.3	57.4	18.3	4.0	*77.7*	*4.0*

■生産拡大効果のある社会資本整備を重点的に進める（Q17）〈性・年代別〉

・ 性別、年代別とも、「そう思う」計の割合が 5 割程度、「どちらともいえない」の割合が 4 割程度である。

Q17.　日本の経済活力を維持、成長を促進するため、移動時間の短縮、輸送費の低下、企業立地や設備投資の誘発など、生産拡大効果のある社会資本整備を重点的に進めるべきだ



（%）

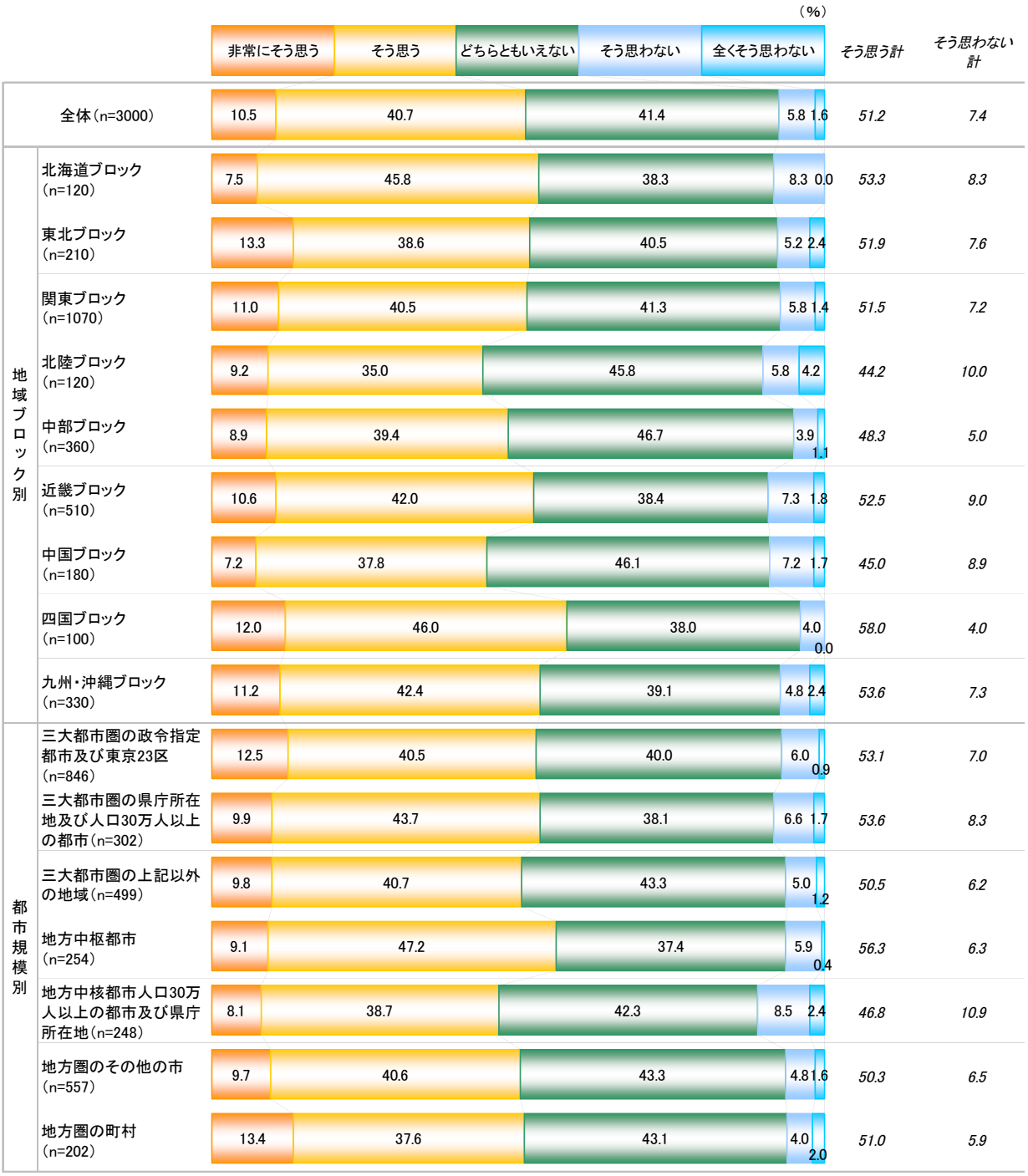
		n	非常にそう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらともいえない (0)	そう思わない (−1)	全くそう思わない (−2)	［そう思う計］	［そう思わない計］
全体		3000	10.5	40.7	41.4	5.8	1.6	51.2	7.4
性年代	男性18−29歳	300	16.0	36.3	38.7	6.7	2.3	52.3	9.0
	男性30代	300	15.7	45.3	31.7	4.0	3.3	61.0	7.3
	男性40代	300	14.3	39.0	40.7	4.3	1.7	53.3	6.0
	男性50代	300	11.0	39.7	44.3	3.3	1.7	50.7	5.0
	男性60−79歳	300	11.7	39.7	38.7	9.0	1.0	51.3	10.0
	女性18−29歳	300	7.0	46.7	37.3	6.7	2.3	53.7	9.0
	女性30代	300	9.7	43.3	38.3	7.7	1.0	53.0	8.7
	女性40代	300	6.7	38.0	49.7	5.3	0.3	44.7	5.7
	女性50代	300	5.7	36.7	51.3	5.0	1.3	42.3	6.3
	女性60−79歳	300	7.0	42.3	43.3	6.0	1.3	49.3	7.3

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

■生産拡大効果のある社会資本整備を重点的に進める（Q17）〈地域別〉

・　地域別、都市規模別とも、いずれのグループも「そう思う」計の割合が 5 割程度、「どちらともいえない」の割合が 4 割程度である。

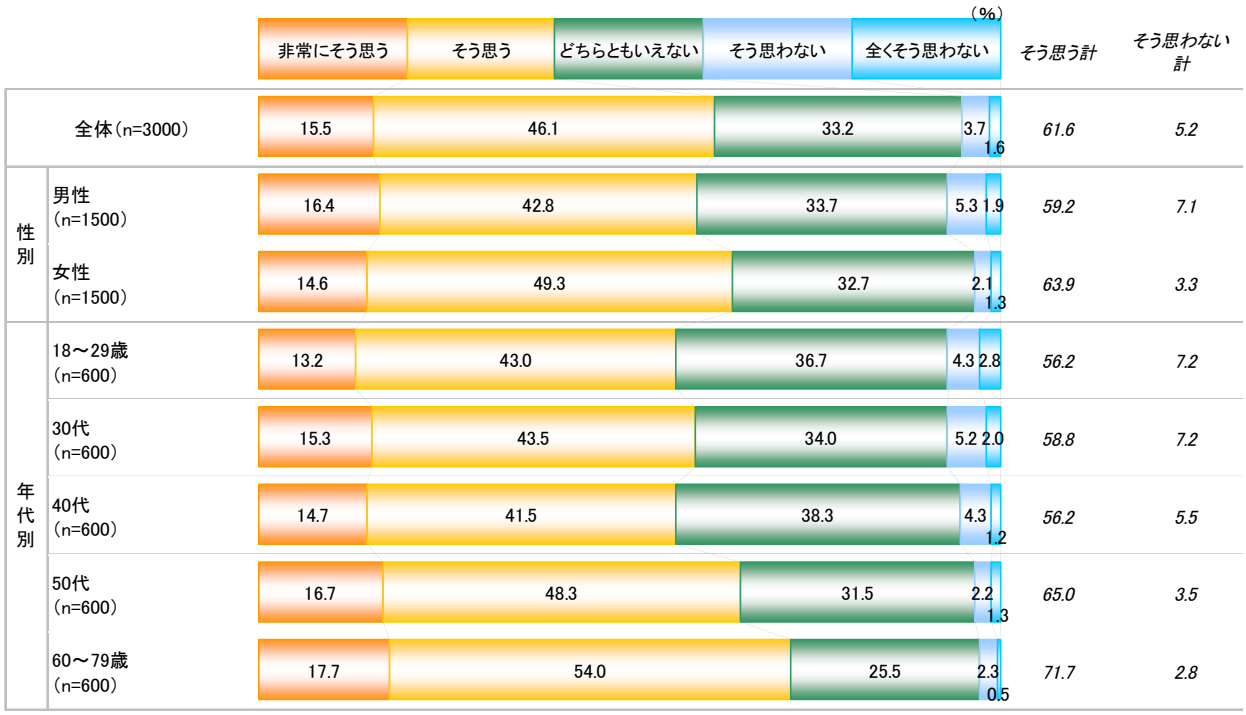
Q17.　日本の経済活力を維持、成長を促進するため、移動時間の短縮、輸送費の低下、企業立地や設備投資の誘発など、生産拡大効果のある社会資本整備を重点的に進めるべきだ



■災害時に専門的知識・技能を持った国の職員を迅速に派遣する体制（Q18）〈性・年代別〉

- 性別、年代別とも、いずれのグループも「そう思う」計が 5 割以上である。
- 年代別で見ると、上の年代ほど「そう思う」計が高い傾向にある。

Q18.　災害からの復旧・復興にあたり、専門的知識・技能を持った国の職員を迅速に派遣する体制（ex.「TEC フォース」）を強化することが必要だ



（%）

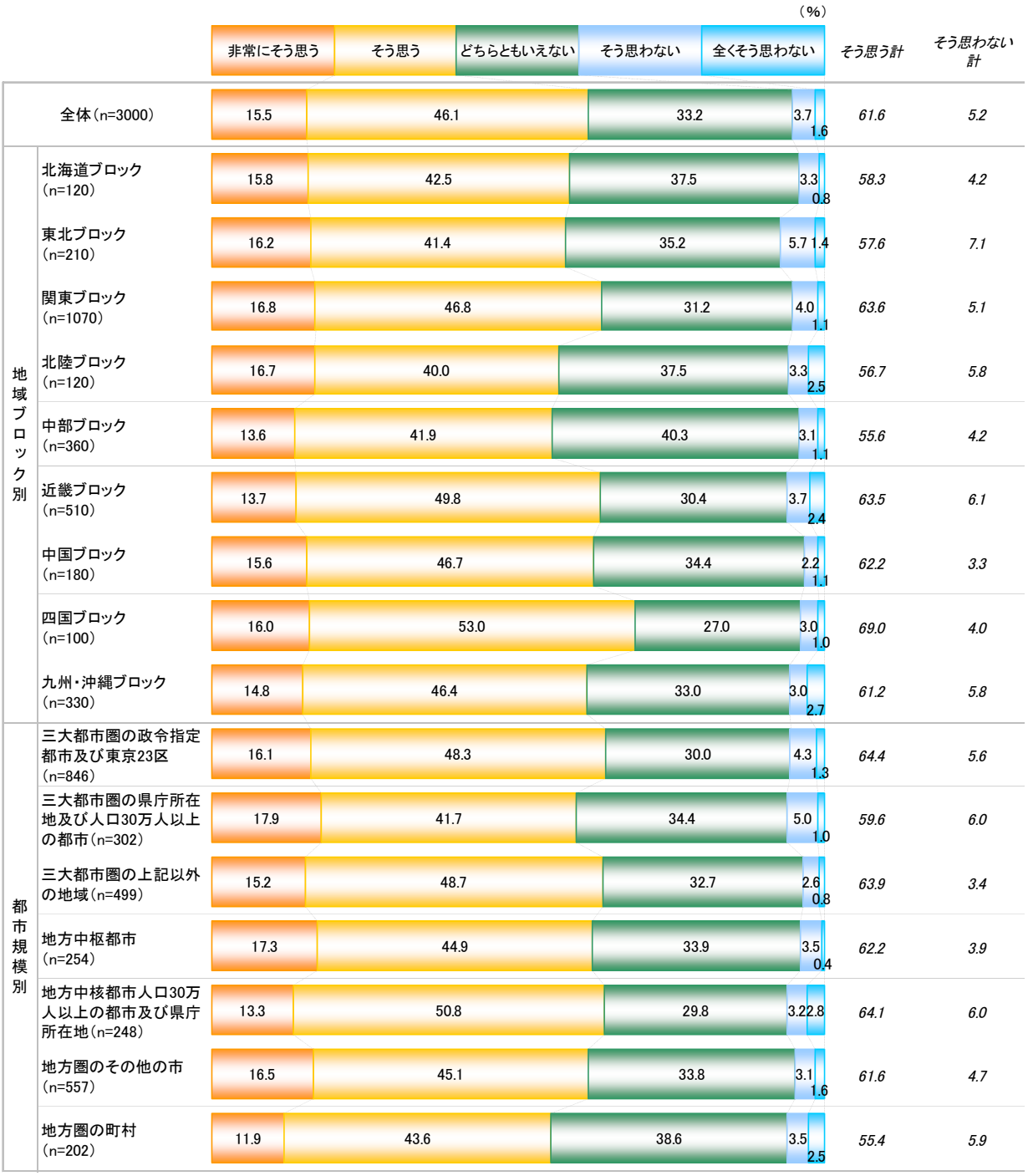
		n	非常にそう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらともいえない (0)	そう思わない (−1)	全くそう思わない (−2)	[そう思う計]	[そう思わない計]
全体		3000	15.5	46.1	33.2	3.7	1.6	61.6	5.2
性年代	男性18−29歳	300	15.7	37.3	38.3	5.0	3.7	53.0	8.7
	男性30代	300	16.7	40.7	33.3	7.0	2.3	57.3	9.3
	男性40代	300	15.3	39.0	37.0	7.0	1.7	54.3	8.7
	男性50代	300	15.0	47.7	32.0	4.0	1.3	62.7	5.3
	男性60−79歳	300	19.3	49.3	27.7	3.3	0.3	68.7	3.7
	女性18−29歳	300	10.7	48.7	35.0	3.7	2.0	59.3	5.7
	女性30代	300	14.0	46.3	34.7	3.3	1.7	60.3	5.0
	女性40代	300	14.0	44.0	39.7	1.7	0.7	58.0	2.3
	女性50代	300	18.3	49.0	31.0	0.3	1.3	67.3	1.7
	女性60−79歳	300	16.0	58.7	23.3	1.3	0.7	74.7	2.0

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

■災害時に専門的知識・技能を持った国の職員を迅速に派遣する体制（Q18）〈地域別〉

・ 地域別、都市規模別とも、いずれのグループでも「そう思う」計が 6 割程度である。

Q18.　災害からの復旧・復興にあたり、専門的知識・技能を持った国の職員を迅速に派遣する体制（ex.「TEC フォース」）を強化することが必要だ



■コンパクトシティを形成するなど、地方の成長を促し、人口減少を克服することを進める（Q19）〈性・年代別〉

- 性別、年代別とも、「そう思う」計と「どちらともいえない」の割合が拮抗しているグループが多い。
- 性別で見ると、女性は「どちらともいえない」が「そう思う」計よりも多く、男性は「そう思う」計が「どちらともいえない」よりも多い。
- 年代別に見ると、40 代は「どちらともいえない」が「そう思う」計よりも多く、それ以外の年代は「そう思う」計が「どちらともいえない」よりも多い。

Q19.　人口密度が高いほど効率化により都市施設の維持管理費が少なくなるので、住む人や都市施設を集め、人口密度の高いコンパクトシティを形成し、それらを道路などのネットワークで結びつけて、地方の成長を促し、人口減少を克服することを進めるべきだ

（%）

		n	非常にそう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらともいえない (0)	そう思わない (−1)	全くそう思わない (−2)	[そう思う計]	[そう思わない計]
全体		3000	11.8	35.0	40.1	10.7	2.4	46.7	13.1
性年代	男性18−29歳	300	17.0	37.7	31.3	9.0	5.0	54.7	14.0
	男性30代	300	15.0	32.0	37.0	13.0	3.0	47.0	16.0
	男性40代	300	14.0	35.3	39.0	9.3	2.3	49.3	11.7
	男性50代	300	14.0	36.7	40.0	7.7	1.7	50.7	9.3
	男性60−79歳	300	13.0	40.3	32.0	13.0	1.7	53.3	14.7
	女性18−29歳	300	12.3	34.3	36.0	13.3	4.0	46.7	17.3
	女性30代	300	9.0	33.0	46.3	9.7	2.0	42.0	11.7
	女性40代	300	8.3	28.3	51.3	10.0	2.0	36.7	12.0
	女性50代	300	5.7	34.3	47.0	11.7	1.3	40.0	13.0
	女性60−79歳	300	9.3	37.7	41.3	10.7	1.0	47.0	11.7

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

■コンパクトシティを形成するなど、地方の成長を促し、人口減少を克服することを進める（Q19）〈地域別〉

- 地域別、都市規模別とも「そう思う」計の割合と「どちらともいえない」の割合が拮抗しているグループが多い。
- 地域別で見ると、北陸は「どちらともいえない」が「そう思う」計より高く、それ以外の地域は「そう思う」計が「どちらともいえない」より高い。
- 都市規模別で見ると、地方圏の町村は「どちらともいえない」が「そう思う」計より高く、それ以外は「そう思う」計が「どちらともいえない」より高い。

Q19.　人口密度が高いほど効率化により都市施設の維持管理費が少なくなるので、住む人や都市施設を集め、人口密度の高いコンパクトシティを形成し、それらを道路などのネットワークで結びつけて、地方の成長を促し、人口減少を克服することを進めるべきだ

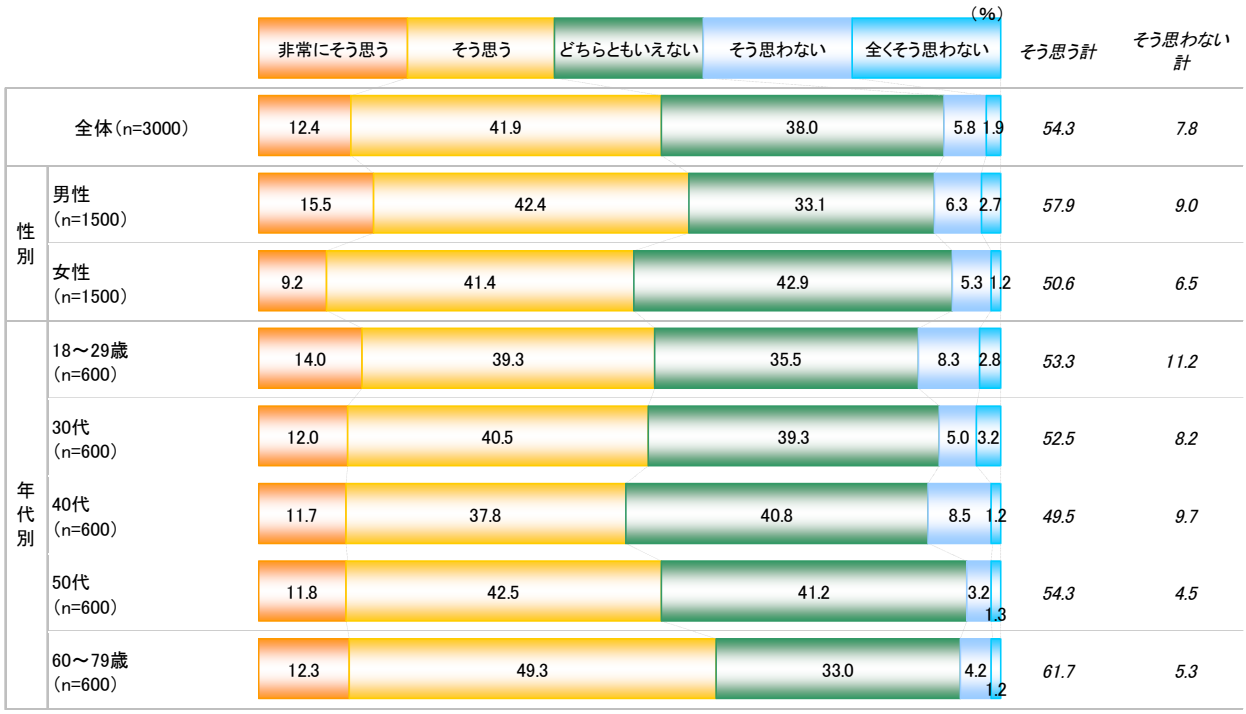
（%）

		非常にそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	全くそう思わない	そう思う計	そう思わない計
	全体（n=3000）	11.8	35.0	40.1	10.7	2.4	46.7	13.1
地域ブロック別	北海道ブロック（n=120）	11.7	33.3	43.3	10.0	1.7	45.0	11.7
	東北ブロック（n=210）	14.3	31.0	40.0	12.9	1.9	45.2	14.8
	関東ブロック（n=1070）	13.2	33.0	41.3	10.4	2.1	46.2	12.5
	北陸ブロック（n=120）	9.2	28.3	46.7	10.0	5.8	37.5	15.8
	中部ブロック（n=360）	10.6	38.6	39.2	9.2	2.5	49.2	11.7
	近畿ブロック（n=510）	9.8	40.4	36.3	11.2	2.4	50.2	13.5
	中国ブロック（n=180）	11.1	36.1	36.7	13.3	2.8	47.2	16.1
	四国ブロック（n=100）	11.0	36.0	36.0	15.0	2.0	47.0	17.0
	九州・沖縄ブロック（n=330）	11.5	33.6	43.0	9.4	2.4	45.2	11.8
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区（n=846）	13.2	35.9	39.4	9.6	1.9	49.2	11.5
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市（n=302）	12.3	35.1	37.4	12.6	2.6	47.4	15.2
	三大都市圏の上記以外の地域（n=499）	9.6	38.7	39.3	10.4	2.0	48.3	12.4
	地方中枢都市（n=254）	12.6	34.3	40.6	10.2	2.4	46.9	12.6
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地（n=248）	13.3	36.7	32.7	13.7	3.6	50.0	17.3
	地方圏のその他の市（n=557）	11.3	32.7	42.2	11.7	2.2	44.0	13.8
	地方圏の町村（n=202）	9.9	30.2	48.5	9.4	2.0	40.1	11.4

■人口や機能を分散させた国土づくりを行うべき（Q20）〈性・年代別〉

- 性別、年代別とも、いずれのグループも「そう思う」計の割合が 5 割～6 割程度である。
- 性別で見ると、男性の方が女性より「そう思う」計が 7.3 ポイント高い。
- 年代別で見ると、60 歳～79 歳の年代が他の年代と比較して、「そう思う」計が 7 ポイント以上高い。

Q20.　感染症等も含めた自然災害等に対するリスクを減らすため、また、地方の文化・風土・伝統などの多様性を保持するため、人口や機能を分散させた国土づくりを行うべき



（%）

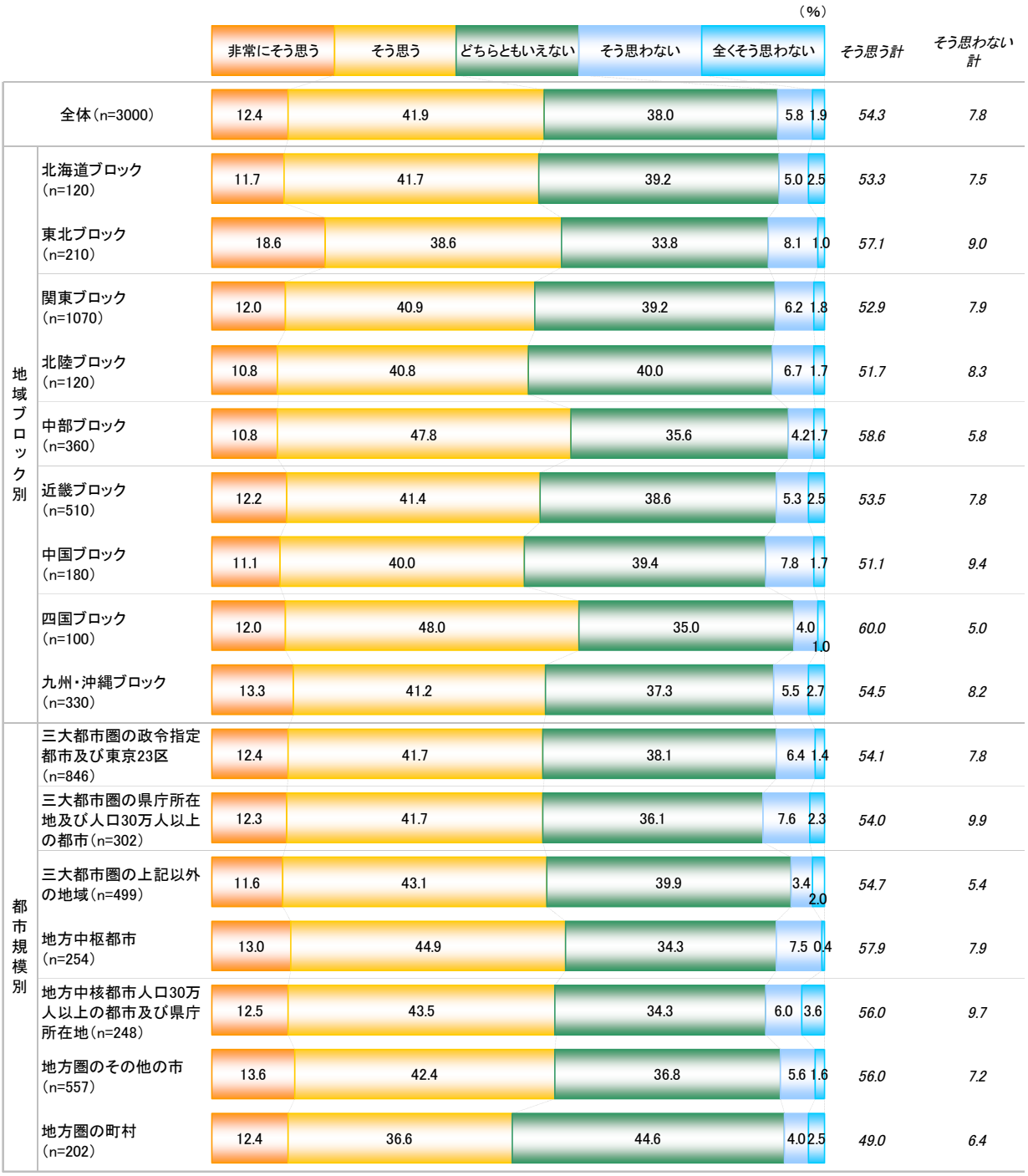
		n	非常にそう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらともいえない (0)	そう思わない (−1)	全くそう思わない (−2)	［そう思う計］	［そう思わない計］
全体		3000	12.4	41.9	38.0	5.8	1.9	54.3	7.8
性年代	男性18-29歳	300	16.3	37.3	33.3	9.0	4.0	53.7	13.0
	男性30代	300	16.3	40.0	33.0	5.7	5.0	56.3	10.7
	男性40代	300	15.0	37.7	36.0	9.3	2.0	52.7	11.3
	男性50代	300	13.7	45.0	37.0	3.0	1.3	58.7	4.3
	男性60-79歳	300	16.3	52.0	26.0	4.7	1.0	68.3	5.7
	女性18-29歳	300	11.7	41.3	37.7	7.7	1.7	53.0	9.3
	女性30代	300	7.7	41.0	45.7	4.3	1.3	48.7	5.7
	女性40代	300	8.3	38.0	45.7	7.7	0.3	46.3	8.0
	女性50代	300	10.0	40.0	45.3	3.3	1.3	50.0	4.7
	女性60-79歳	300	8.3	46.7	40.0	3.7	1.3	55.0	5.0

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

■人口や機能を分散させた国土づくりを行うべき（Q20）〈地域別〉

- 地域別、都市規模別ともに、いずれのグループも「そう思う」計が 5～6 割程度である。
- 都市規模別で見ると、地方圏の町村が他と比較して、「そう思う」計が 5 ポイント以上低くなっている。

Q20.　感染症等も含めた自然災害等に対するリスクを減らすため、また、地方の文化・風土・伝統などの多様性を保持するため、人口や機能を分散させた国土づくりを行うべき



■民間事業者のノウハウ等を活用することで、効率化、コスト縮減、人件費の削減等を実現（Q21）〈性・年代別〉

- 性別、年代別ともに、いずれのグループも「そう思う」計が 5 割以上である。
- 年代別で見ると、60 歳～79 歳の年代が他の年代と比較して、「そう思う」計が 7 ポイント以上高くなっている。

Q21.　これからのインフラ（社会資本）の保全整備にあたっては、PPP（官民連携）、PFI（民間の資金、経営能力等を活用する手法など）を取り入れ、民間事業者のノウハウ等を活用することで、効率化、コスト縮減、人件費の削減等を実現することが必要だ

（%）

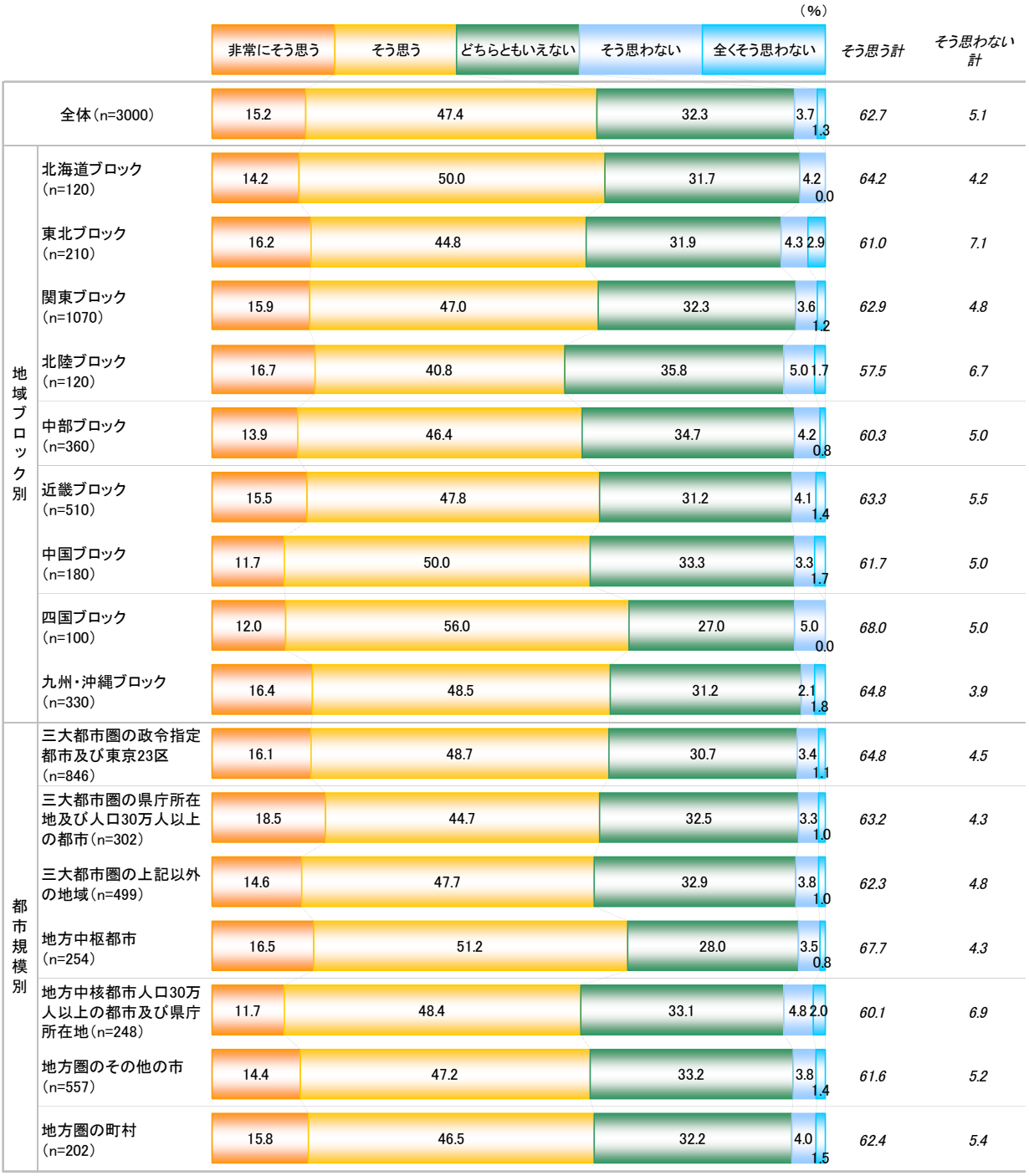
		n	非常にそう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらともいえない (0)	そう思わない (−1)	全くそう思わない (−2)	[そう思う計]	[そう思わない計]
全体		3000	15.2	47.4	32.3	3.7	1.3	62.7	5.1
性年代	男性18−29歳	300	18.3	39.3	35.3	3.7	3.3	57.7	7.0
	男性30代	300	18.0	45.3	29.0	5.3	2.3	63.3	7.7
	男性40代	300	15.7	43.0	35.0	4.7	1.7	58.7	6.3
	男性50代	300	16.3	48.7	30.0	3.7	1.3	65.0	5.0
	男性60−79歳	300	18.7	53.0	23.7	4.0	0.7	71.7	4.7
	女性18−29歳	300	13.3	49.0	31.0	5.7	1.0	62.3	6.7
	女性30代	300	13.7	45.0	35.7	4.3	1.3	58.7	5.7
	女性40代	300	12.7	45.3	41.0	1.0	−	58.0	1.0
	女性50代	300	10.7	51.3	35.0	1.7	1.3	62.0	3.0
	女性60−79歳	300	15.0	54.3	27.0	3.3	0.3	69.3	3.7

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

■民間事業者のノウハウ等を活用することで、効率化、コスト縮減、人件費の削減等を実現（Q21）〈地域別〉

・ 地域別、都市規模別ともに、いずれのグループも「そう思う」計が 6 割程度である。

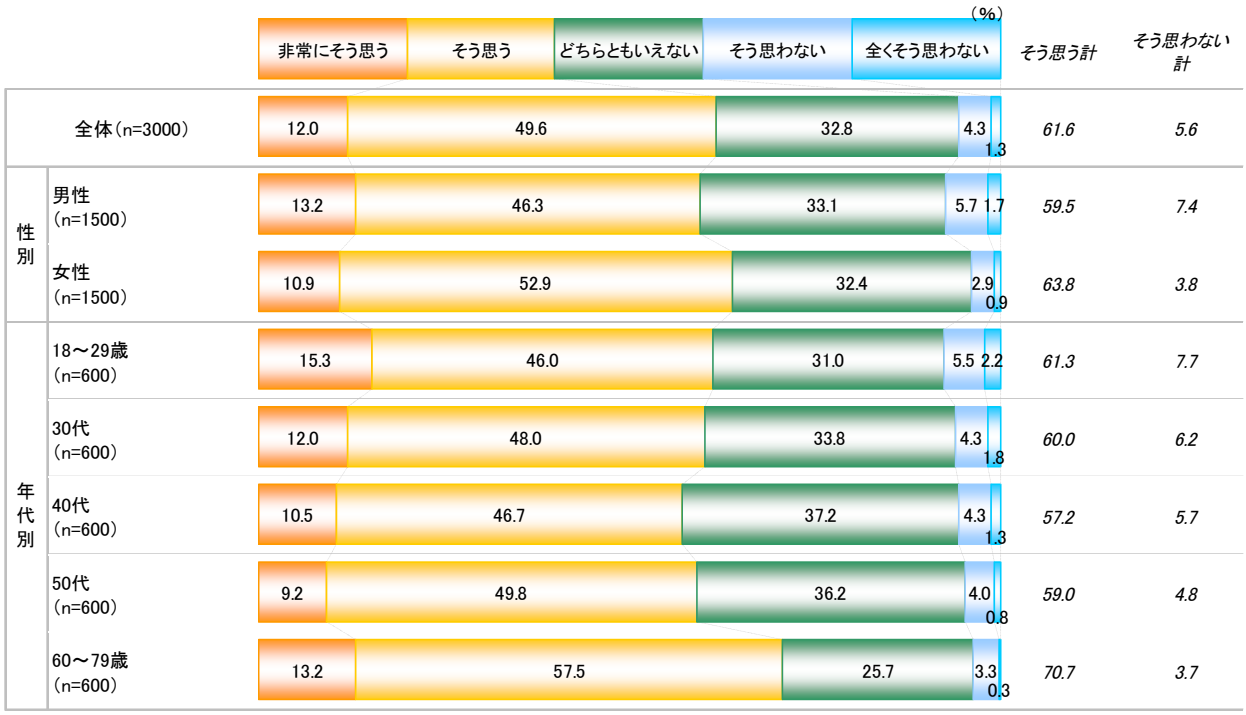
Q21. これからのインフラ（社会資本）の保全整備にあたっては、PPP（官民連携）、PFI（民間の資金、経営能力等を活用する手法など）を取り入れ、民間事業者のノウハウ等を活用することで、効率化、コスト縮減、人件費の削減等を実現することが必要だ



■住民、地域の意見等を十分に取り入れ、価値観の共有と協働作業が行えるような仕組み（Q22）〈性・年代別〉

- 性別、年代別ともに、いずれのグループも「そう思う」計の割合が 57%以上である。
- 年代別で見ると、60 歳～79 歳が、他の年代と比較して、「そう思う」計が 9 ポイント以上が高い。

Q22.　人々の価値観や行動が大きく変化し、多様化していることを踏まえ、社会資本整備においても、その整備方策・手順について住民、地域の意見等を十分に取り入れ、価値観の共有と協働作業が行えるような仕組みを作っていくべきだ



（%）

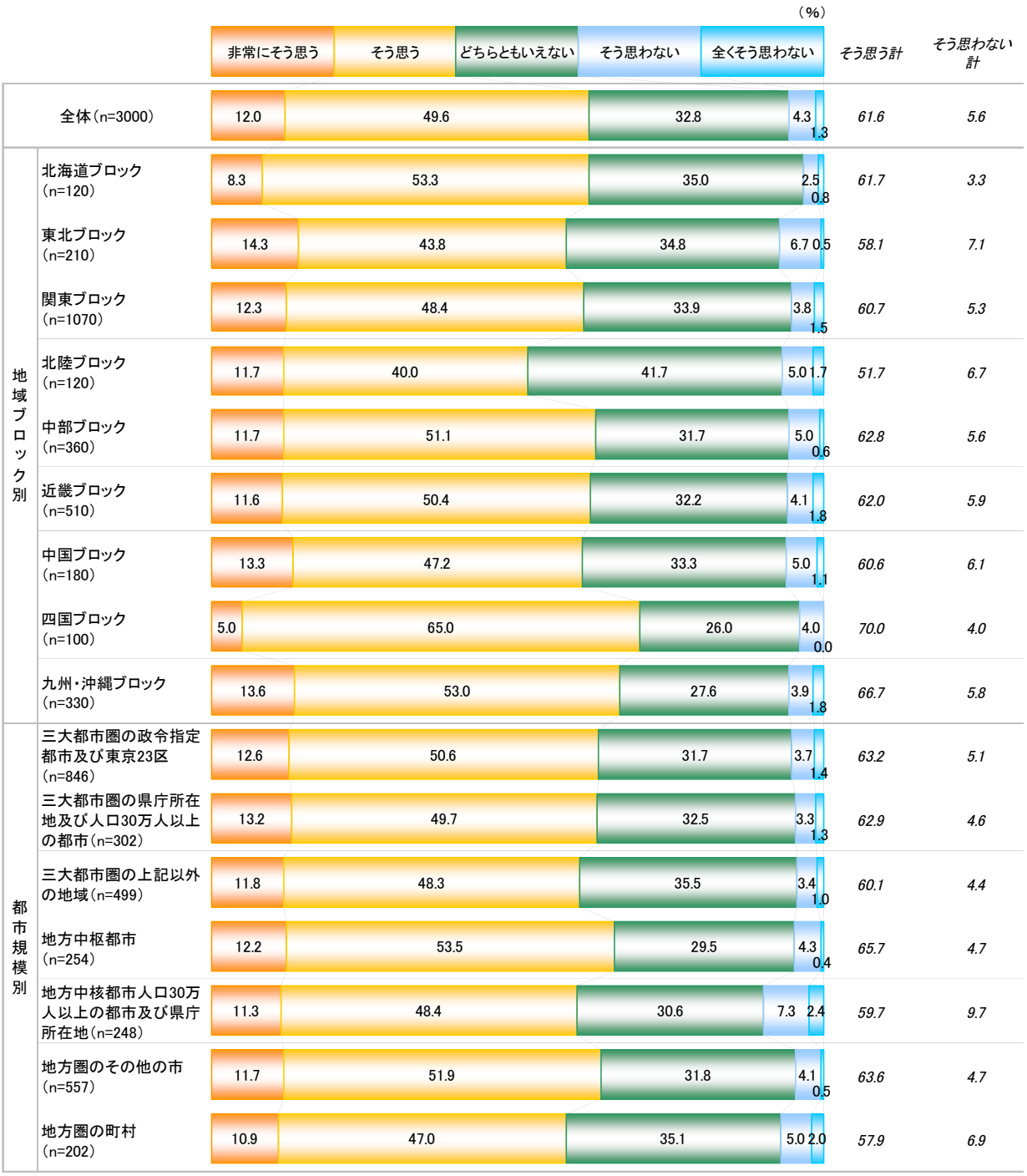
		n	非常にそう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらともいえない (0)	そう思わない (−1)	全くそう思わない (−2)	[そう思う計]	[そう思わない計]
全体		3000	12.0	49.6	32.8	4.3	1.3	61.6	5.6
性年代	男性18−29歳	300	16.7	41.7	33.7	5.0	3.0	58.3	8.0
	男性30代	300	13.7	44.0	33.3	6.7	2.3	57.7	9.0
	男性40代	300	12.7	43.3	35.7	6.0	2.3	56.0	8.3
	男性50代	300	9.0	47.0	37.0	6.0	1.0	56.0	7.0
	男性60−79歳	300	14.0	55.3	26.0	4.7	−	69.3	4.7
	女性18−29歳	300	14.0	50.3	28.3	6.0	1.3	64.3	7.3
	女性30代	300	10.3	52.0	34.3	2.0	1.3	62.3	3.3
	女性40代	300	8.3	50.0	38.7	2.7	0.3	58.3	3.0
	女性50代	300	9.3	52.7	35.3	2.0	0.7	62.0	2.7
	女性60−79歳	300	12.3	59.7	25.3	2.0	0.7	72.0	2.7

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

■住民、地域の意見等を十分に取り入れ、価値観の共有と協働作業が行えるような仕組み（Q22）〈地域別〉

- 地域別、都市規模別ともに、いずれのグループも「そう思う」計が 5 割以上である。
- 地域別で見ると、「そう思う」計の割合が最も高いのは四国、最も低いのは北陸であり、その差は 18.3 ポイントである。

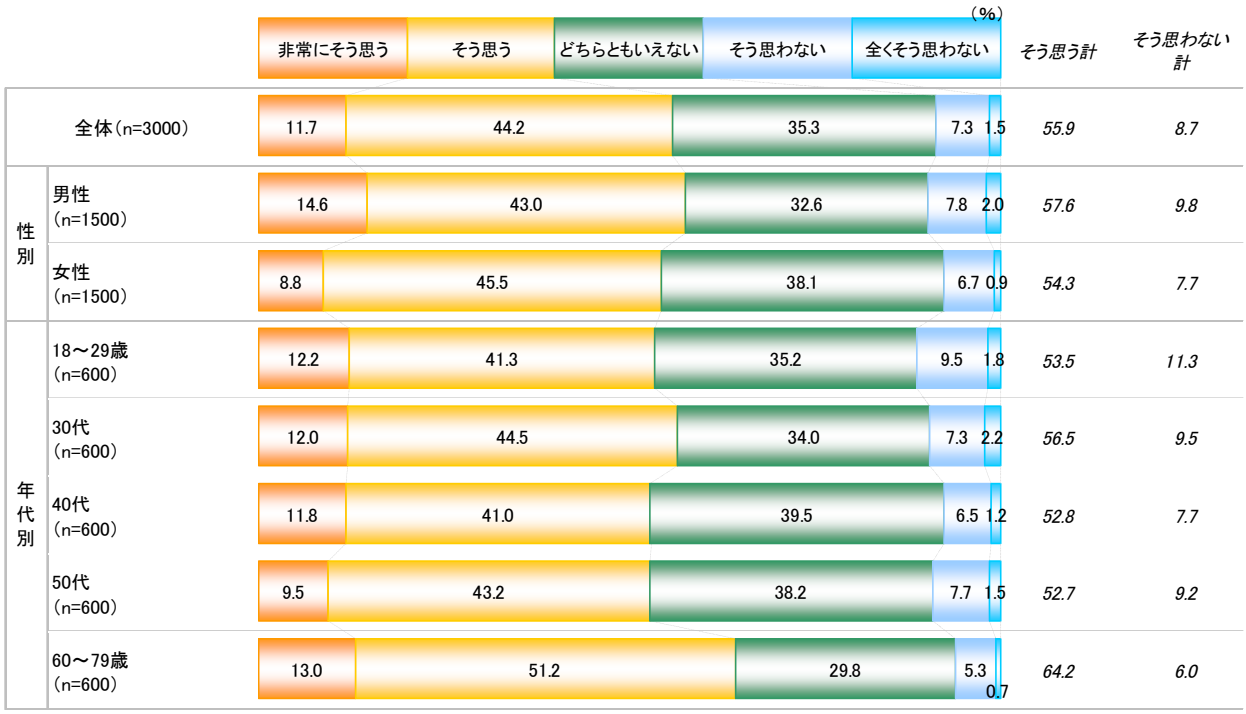
Q22.　人々の価値観や行動が大きく変化し、多様化していることを踏まえ、社会資本整備においても、その整備方策・手順について住民、地域の意見等を十分に取り入れ、価値観の共有と協働作業が行えるような仕組みを作っていくべきだ



■必要が生じた場合、土地利用などの私権が制限されるのは止むを得ない（Q23）〈性・年代別〉

- 性別、年代別ともに、「そう思う」計の割合が 5 割以上である。
- 年代別で見ると、60 歳～79 歳が他の年代より「そう思う」計の割合が 7.7 ポイント以上高い。
- 性年代別で見ると、男性 60 歳～79 歳が他より「そう思う」計の割合が 9 ポイント以上高い。

Q23.　社会全体の安全性を高める施設等を整備するにあたって、必要が生じた場合、土地利用などの私権が制限されるのは止むを得ない



（%）

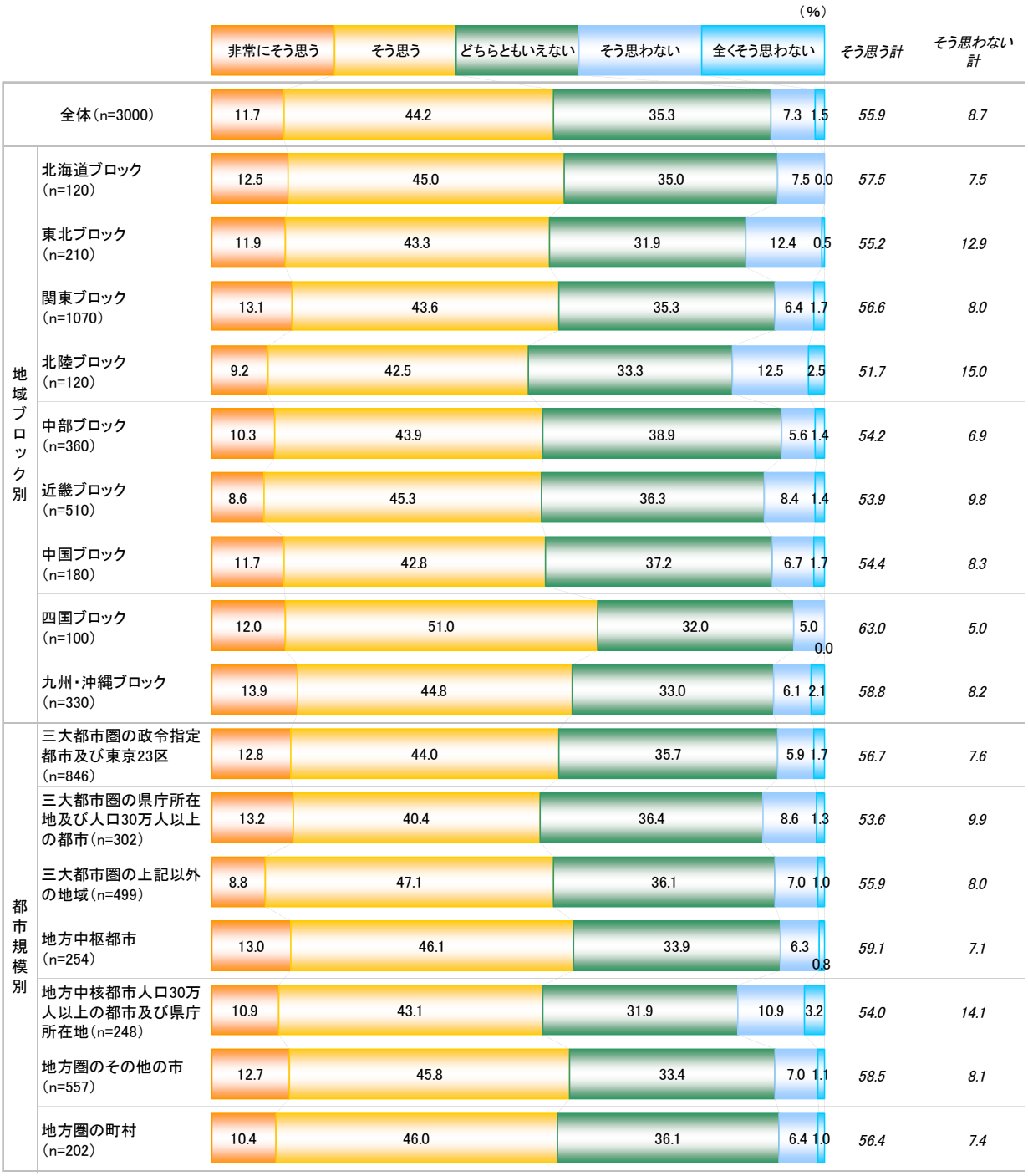
		n	非常にそう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらともいえない (0)	そう思わない (−1)	全くそう思わない (−2)	［そう思う計］	［そう思わない計］
全体		3000	11.7	44.2	35.3	7.3	1.5	55.9	8.7
性年代	男性18-29歳	300	15.3	36.0	34.3	11.7	2.7	51.3	14.3
	男性30代	300	14.0	45.7	30.0	7.0	3.3	59.7	10.3
	男性40代	300	16.0	36.7	37.3	8.7	1.3	52.7	10.0
	男性50代	300	11.7	43.7	36.3	6.3	2.0	55.3	8.3
	男性60-79歳	300	16.0	53.0	25.0	5.3	0.7	69.0	6.0
	女性18-29歳	300	9.0	46.7	36.0	7.3	1.0	55.7	8.3
	女性30代	300	10.0	43.3	38.0	7.7	1.0	53.3	8.7
	女性40代	300	7.7	45.3	41.7	4.3	1.0	53.0	5.3
	女性50代	300	7.3	42.7	40.0	9.0	1.0	50.0	10.0
	女性60-79歳	300	10.0	49.3	34.7	5.3	0.7	59.3	6.0

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

■必要が生じた場合、土地利用などの私権が制限されるのは止むを得ない（Q23）〈地域別〉

・ 地域別、都市規模別ともに、いずれのグループも「そう思う」計の割合が 5 割以上である。

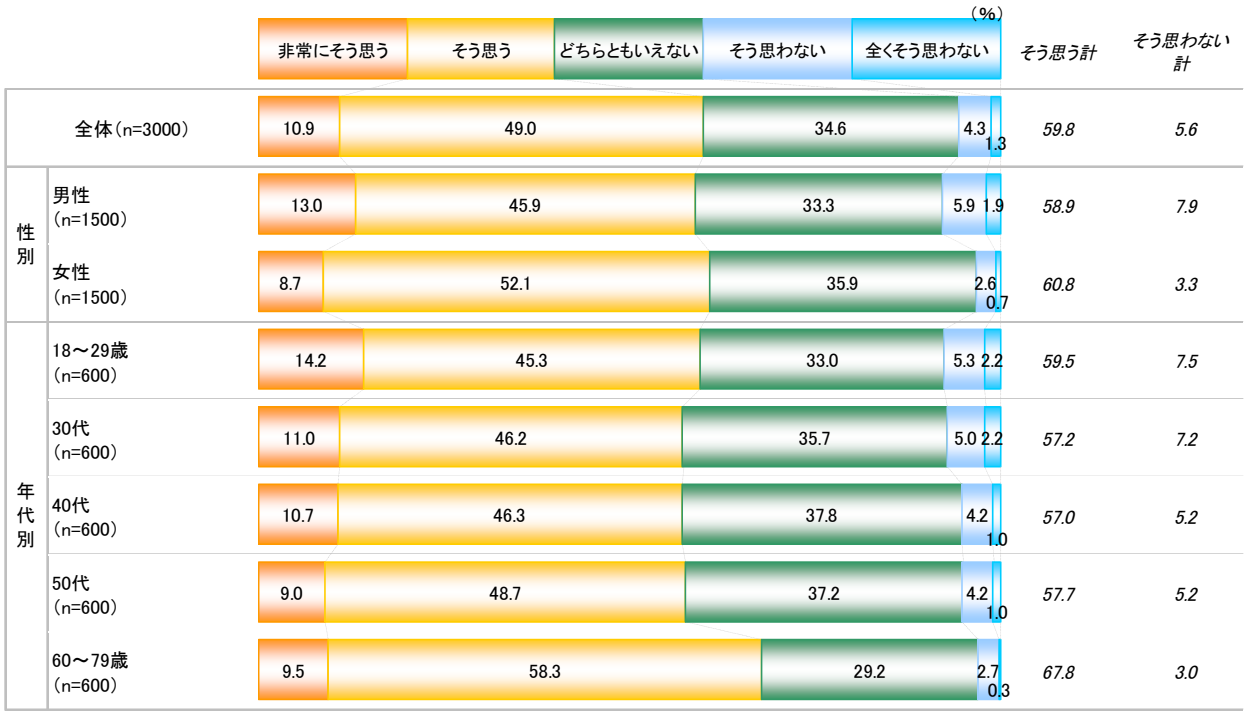
Q23.　社会全体の安全性を高める施設等を整備するにあたって、必要が生じた場合、土地利用などの私権が制限されるのは止むを得ない



■社会資本整備にあたっては、効率の観点だけでなく、公平の観点も重視すべき（Q24）〈性・年代別〉

- 性別、年代別ともに、いずれのグループも「そう思う」計が 5 割以上である。
- 年代別で見ると、「そう思う」計について、60 歳～79 歳が他の年代より 8 ポイント以上高い。

Q24.　高速道路、幹線道路が救急搬送や災害時に救援物資の運搬等に用いる「命の道」の役割も果たす、といった例も踏まえ、社会資本整備にあたっては、効率の観点だけでなく、公平の観点も重視すべきだ



（%）

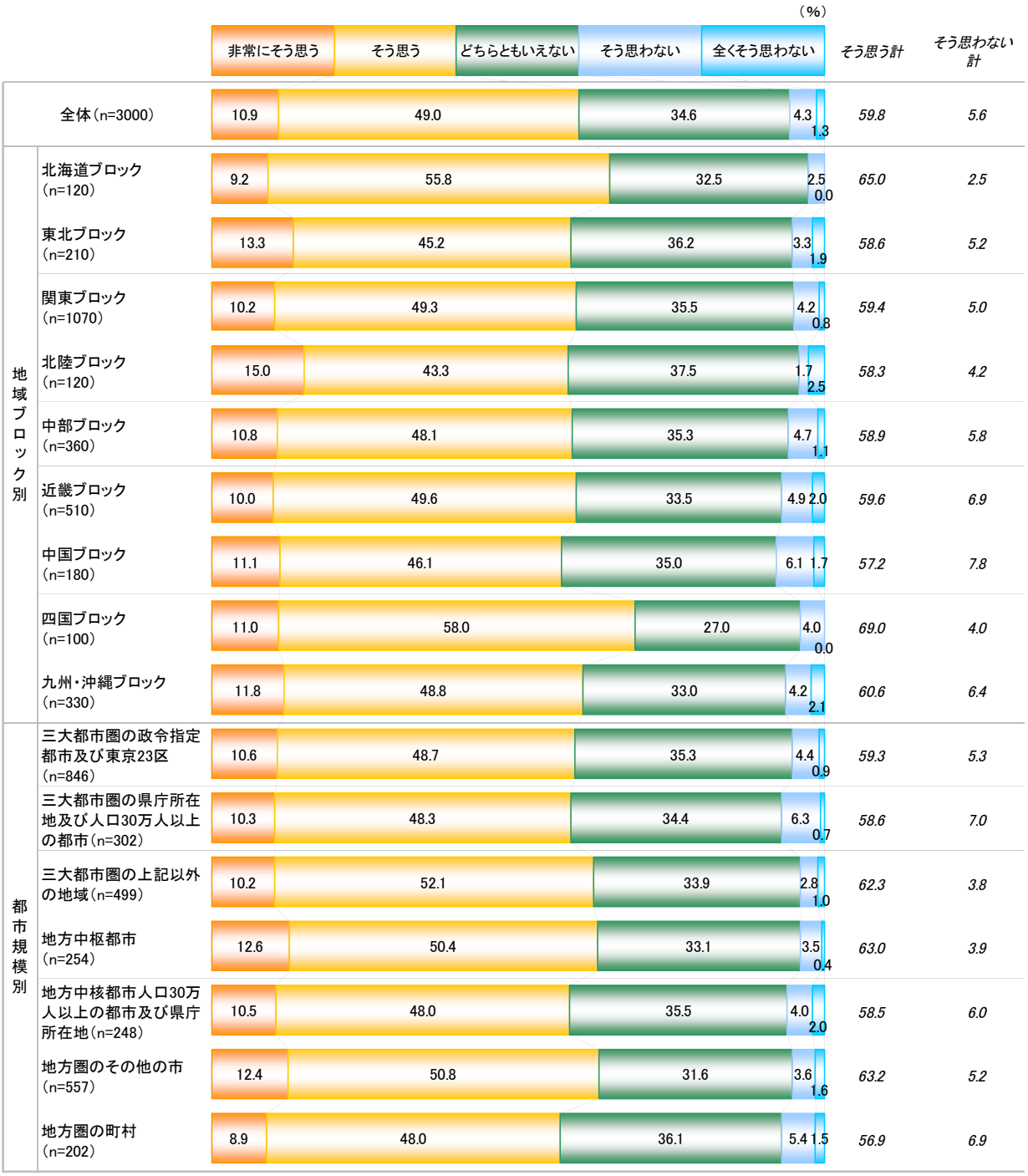
		n	非常にそう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらともいえない (0)	そう思わない (−1)	全くそう思わない (−2)	[そう思う計]	[そう思わない計]
全体		3000	10.9	49.0	34.6	4.3	1.3	59.8	5.6
性年代	男性18−29歳	300	16.0	40.0	34.3	6.3	3.3	56.0	9.7
	男性30代	300	14.3	42.0	34.3	6.3	3.0	56.3	9.3
	男性40代	300	12.7	44.7	35.3	5.7	1.7	57.3	7.3
	男性50代	300	12.3	45.7	34.0	6.7	1.3	58.0	8.0
	男性60−79歳	300	9.7	57.0	28.3	4.7	0.3	66.7	5.0
	女性18−29歳	300	12.3	50.7	31.7	4.3	1.0	63.0	5.3
	女性30代	300	7.7	50.3	37.0	3.7	1.3	58.0	5.0
	女性40代	300	8.7	48.0	40.3	2.7	0.3	56.7	3.0
	女性50代	300	5.7	51.7	40.3	1.7	0.7	57.3	2.3
	女性60−79歳	300	9.3	59.7	30.0	0.7	0.3	69.0	1.0

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

■社会資本整備にあたっては、効率の観点だけでなく、公平の観点も重視すべき（Q24）〈地域別〉

- 地域別、都市規模別ともに、いずれのグループも「そう思う」計が6割程度である。
- 地域別で見ると、北海道と四国が、他のグループと比較して、「そう思う」計が 5 ポイント以上高い。

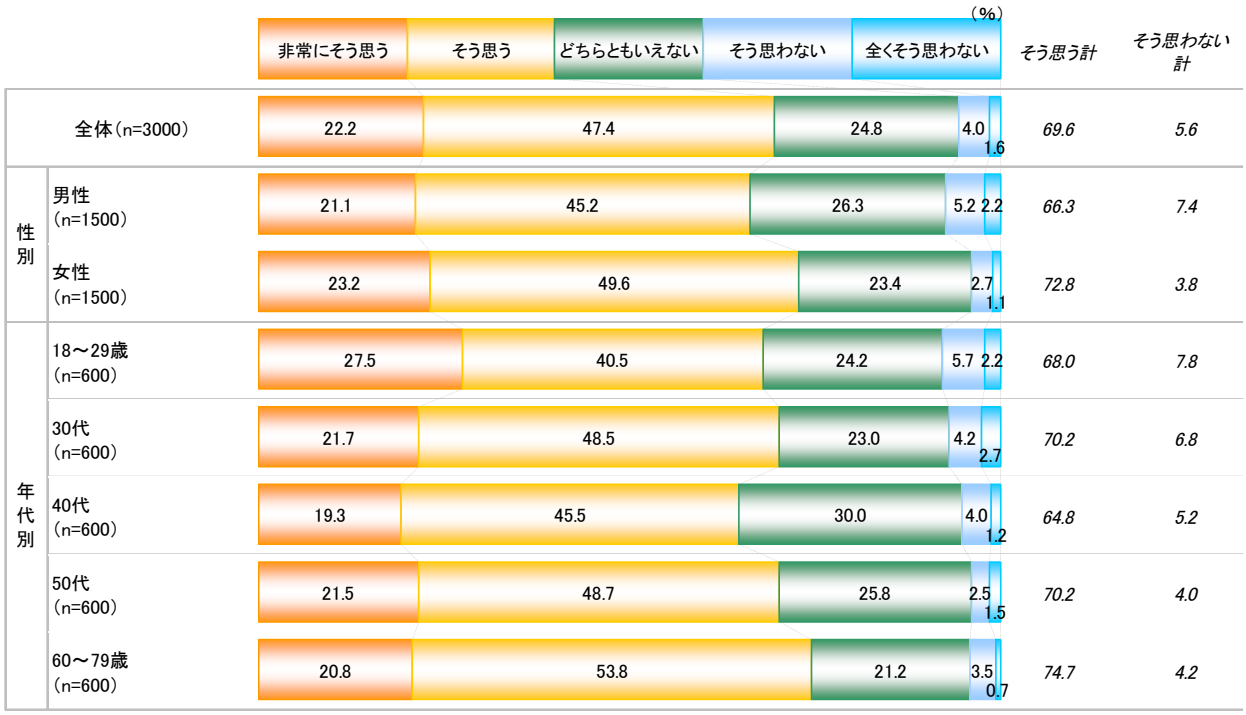
Q24.　高速道路、幹線道路が救急搬送や災害時に救援物資の運搬等に用いる「命の道」の役割も果たす、といった例も踏まえ、社会資本整備にあたっては、効率の観点だけでなく、公平の観点も重視すべきだ



■新型コロナにより生じた国民意識や国民生活の変化に対応していくことが重要（Q25）〈性・年代別〉

- 性別、年代別ともに、いずれのグループも「そう思う」計の割合が 7 割程度である。
- 性別で見ると、女性の方が男性と比較し、「そう思う」計が 6.5 ポイント高い。

Q25.　これからのインフラ（社会資本）の保全整備にあたっては、新型コロナウイルス感染症発生により生じた国民意識や国民生活の変化に対応していくことが重要である



（%）

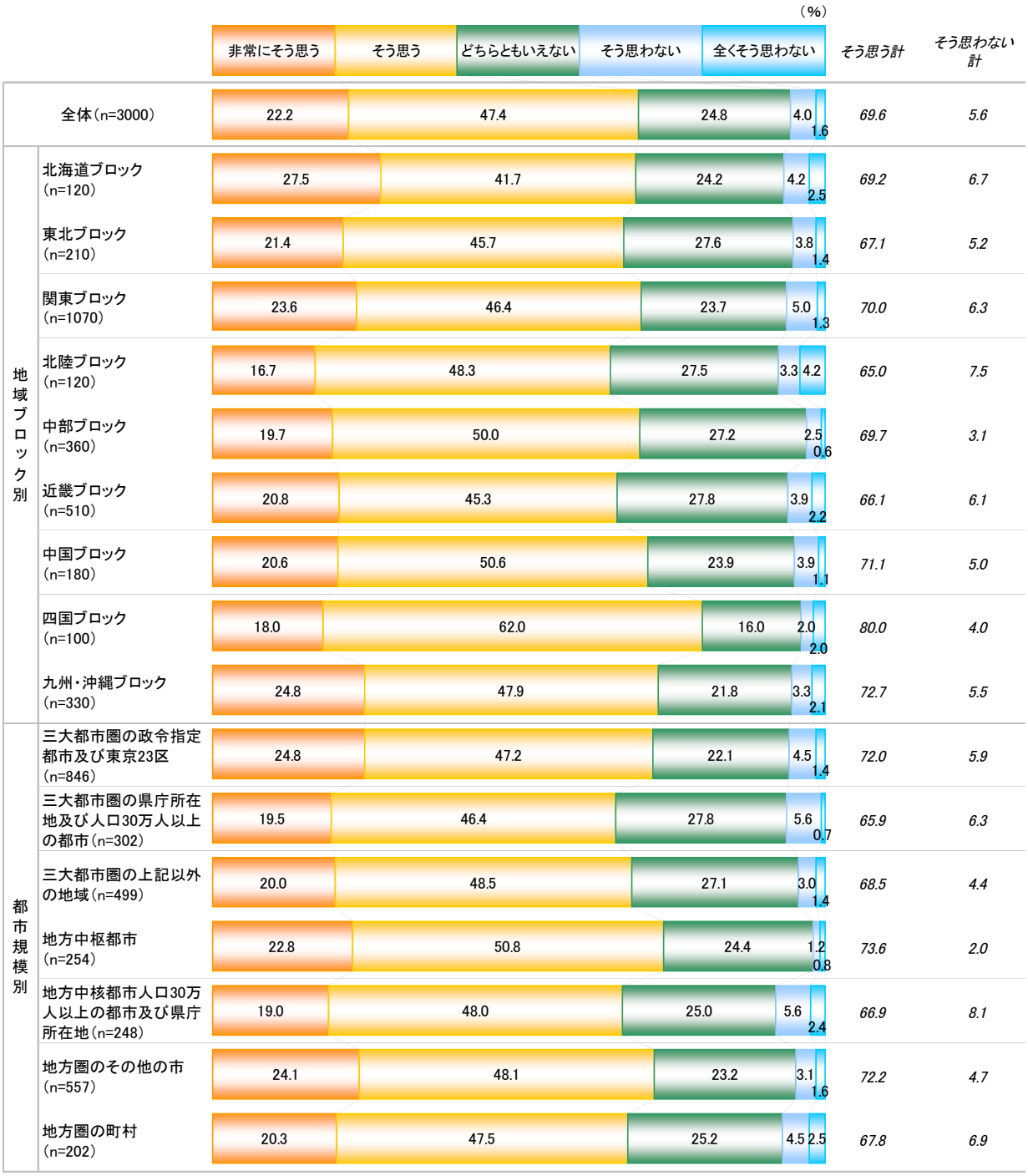
		n	非常にそう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらともいえない (0)	そう思わない (−1)	全くそう思わない (−2)	［そう思う計］	［そう思わない計］
全体		3000	22.2	47.4	24.8	4.0	1.6	69.6	5.6
性年代	男性18−29歳	300	23.3	38.3	28.3	6.7	3.3	61.7	10.0
	男性30代	300	20.3	46.7	25.7	4.0	3.3	67.0	7.3
	男性40代	300	20.3	44.3	27.7	5.7	2.0	64.7	7.7
	男性50代	300	21.7	44.3	28.0	4.7	1.3	66.0	6.0
	男性60−79歳	300	20.0	52.3	21.7	5.0	1.0	72.3	6.0
	女性18−29歳	300	31.7	42.7	20.0	4.7	1.0	74.3	5.7
	女性30代	300	23.0	50.3	20.3	4.3	2.0	73.3	6.3
	女性40代	300	18.3	46.7	32.3	2.3	0.3	65.0	2.7
	女性50代	300	21.3	53.0	23.7	0.3	1.7	74.3	2.0
	女性60−79歳	300	21.7	55.3	20.7	2.0	0.3	77.0	2.3

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

■新型コロナにより生じた国民意識や国民生活の変化に対応していくことが重要（Q25）〈地域別〉

- 地域別、都市規模別ともに、いずれのグループも「そう思う」計の割合が 6 割以上である。
- 地域別で見ると、「そう思う」計が最も高いのは四国であり、唯一「そう思う」計の割合が 80%以上である。

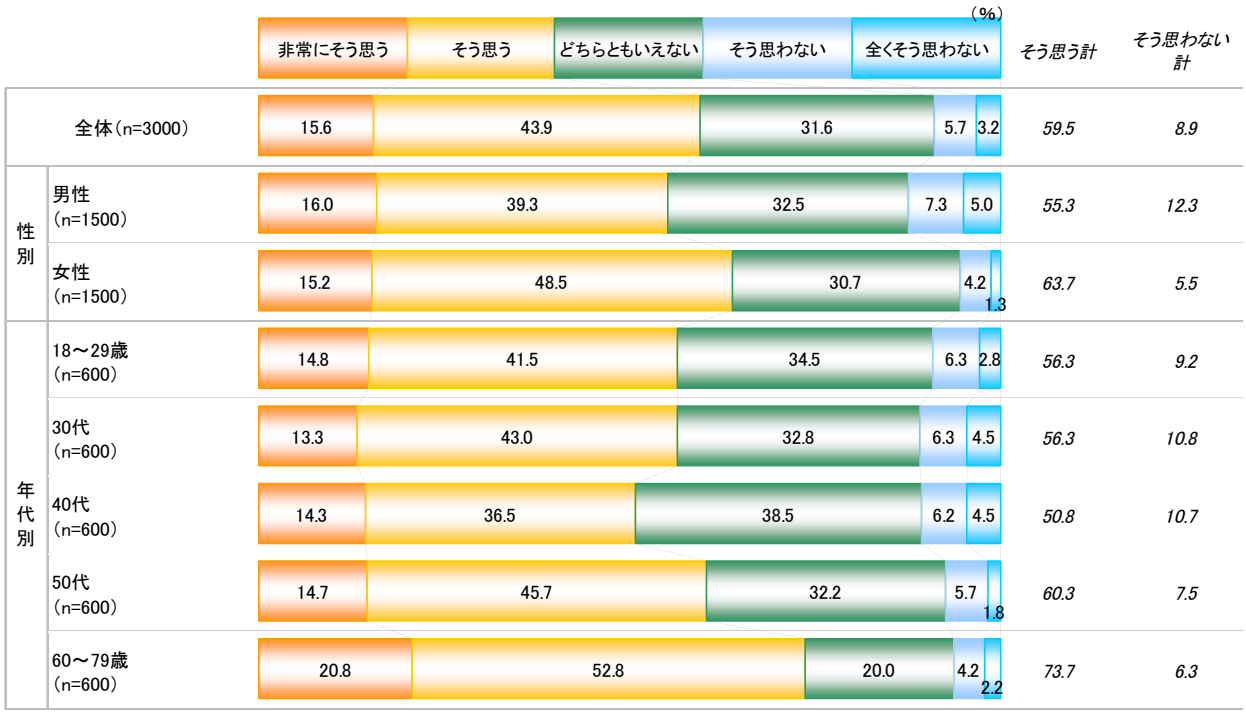
Q25.　これからのインフラ（社会資本）の保全整備にあたっては、新型コロナウイルス感染症発生により生じた国民意識や国民生活の変化に対応していくことが重要である



■脱炭素社会を実現するための取り組みをより一層推進していくべき（Q26）〈性・年代別〉

- 性別、年代別ともに、いずれのグループも「そう思う」計が 5 割以上である。
- 性別で見ると、男性は女性と比較し、「そう思う」計が 8.4 ポイント高い。
- 年代別で見ると、60 歳～79 歳は他の年代と比較し、「そう思う」計が 10 ポイント以上高い。

Q26.　これからのインフラ（社会資本）の保全整備にあたっては、資源・エネルギーの再利用や CO2 の削減など、脱炭素社会を実現するための取り組みをより一層推進していくべき



（%）

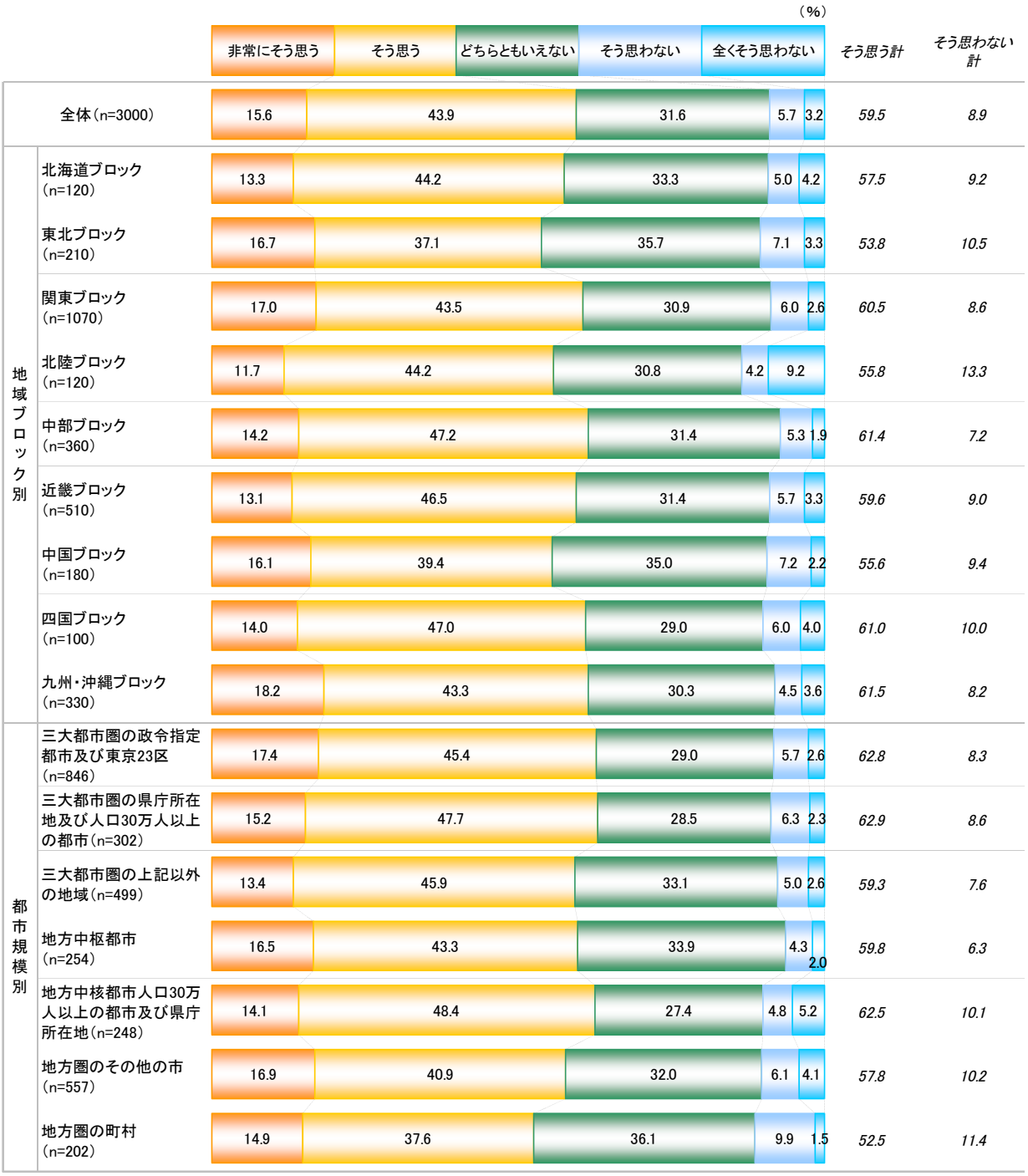
		n	非常にそう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらともいえない (0)	そう思わない (−1)	全くそう思わない (−2)	［そう思う計］	［そう思わない計］
全体		3000	15.6	43.9	31.6	5.7	3.2	59.5	8.9
性年代	男性18-29歳	300	13.7	36.0	38.7	8.0	3.7	49.7	11.7
	男性30代	300	12.7	38.7	33.0	7.7	8.0	51.3	15.7
	男性40代	300	16.7	32.7	36.0	7.3	7.3	49.3	14.7
	男性50代	300	15.0	39.7	35.7	6.7	3.0	54.7	9.7
	男性60-79歳	300	22.0	49.3	19.0	6.7	3.0	71.3	9.7
	女性18-29歳	300	16.0	47.0	30.3	4.7	2.0	63.0	6.7
	女性30代	300	14.0	47.3	32.7	5.0	1.0	61.3	6.0
	女性40代	300	12.0	40.3	41.0	5.0	1.7	52.3	6.7
	女性50代	300	14.3	51.7	28.7	4.7	0.7	66.0	5.3
	女性60-79歳	300	19.7	56.3	21.0	1.7	1.3	76.0	3.0

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

■脱炭素社会を実現するための取り組みをより一層推進していくべき（Q26）〈地域別〉

- 地域別、都市規模別ともに、「そう思う」計の割合が 5 割以上である。
- 都市規模別で見ると、地方圏の町村が他と比較して、「そう思う」計が5ポイント以上低くなっている。

Q26.　これからのインフラ（社会資本）の保全整備にあたっては、資源・エネルギーの再利用や CO2 の削減など、脱炭素社会を実現するための取り組みをより一層推進していくべき



■新技術の開発と導入を積極的に進めることが必要である（Q27）〈性・年代別〉

- 性別、年代別ともに、いずれのグループも「そう思う」計の割合が 6～7 割程度である。
- 性別で見ると、男性は女性と比較し、「そう思う」計が 5 ポイント高い。
- 性年代別で見ると、女性 40 代は他と比較して「どちらともいえない」の割合が 5 ポイント以上高い。また、男性 30 代と男性 60 歳～79 歳は他と比較して、「そう思う」計の割合が 4 ポイント以上高い。

Q27.　これからのインフラ（社会資本）の保全整備にあたっては、コスト削減やサービス水準向上のために、自動車の自動運転技術やドローンによる施設点検技術など新技術の開発と導入を積極的に進めることが必要である

（%）

		n	非常にそう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらともいえない (0)	そう思わない (−1)	全くそう思わない (−2)	［そう思う計］	［そう思わない計］
全体		3000	17.6	47.0	30.7	3.3	1.4	64.6	4.7
性年代	男性18-29歳	300	21.0	41.7	30.0	5.0	2.3	62.7	7.3
	男性30代	300	25.0	46.7	24.0	1.7	2.7	71.7	4.3
	男性40代	300	20.7	40.7	29.3	7.7	1.7	61.3	9.3
	男性50代	300	19.7	44.7	30.7	3.0	2.0	64.3	5.0
	男性60-79歳	300	25.7	49.7	20.7	3.3	0.7	75.3	4.0
	女性18-29歳	300	15.0	49.7	29.7	3.3	2.3	64.7	5.7
	女性30代	300	14.0	47.0	34.7	3.7	0.7	61.0	4.3
	女性40代	300	9.3	45.3	42.3	2.7	0.3	54.7	3.0
	女性50代	300	10.7	52.3	35.7	0.7	0.7	63.0	1.3
	女性60-79歳	300	14.7	52.3	30.0	2.3	0.7	67.0	3.0

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

■新技術の開発と導入を積極的に進めることが必要である（Q27）〈地域別〉

・ 地域別、都市規模別ともに、いずれのグループも「そう思う」計の割合が 6 割以上である。

Q27.　これからのインフラ（社会資本）の保全整備にあたっては、コスト削減やサービス水準向上のために、自動車の自動運転技術やドローンによる施設点検技術など新技術の開発と導入を積極的に進めることが必要である

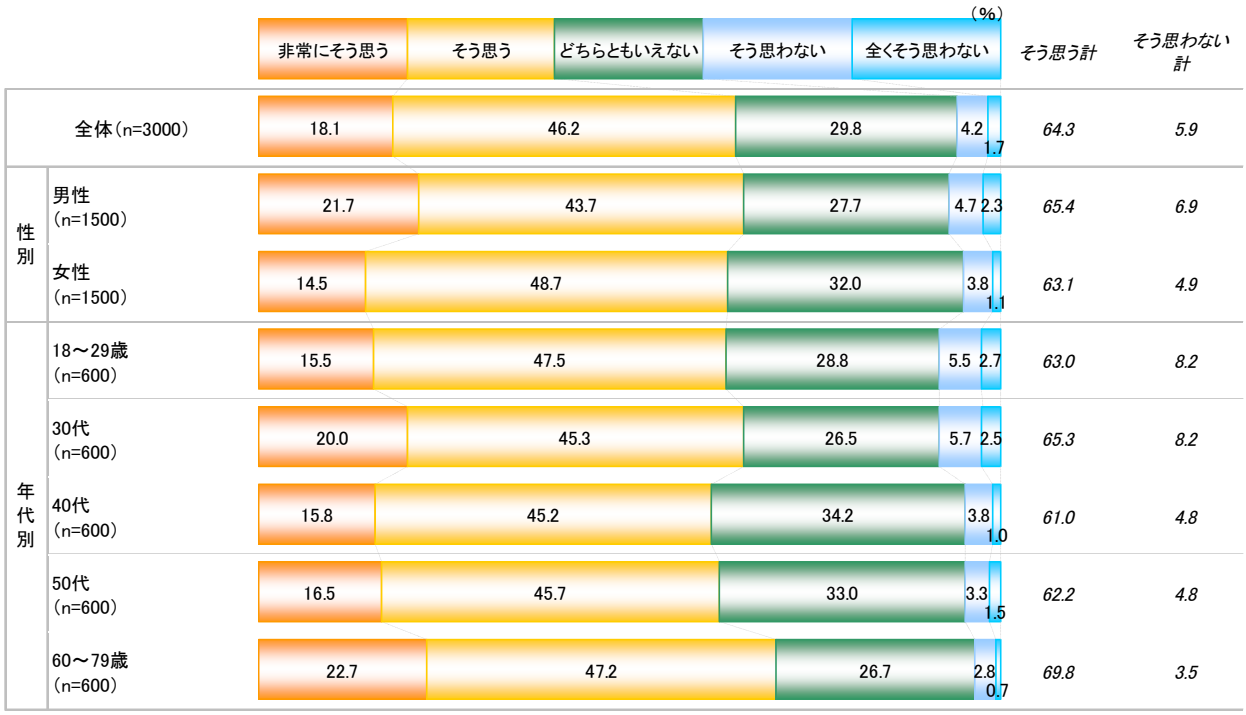
（%）

		非常にそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	全くそう思わない	そう思う計	そう思わない計
	全体（n=3000）	17.6	47.0	30.7	3.3	1.4	64.6	4.7
地域ブロック別	北海道ブロック（n=120）	17.5	45.8	33.3	1.7	1.7	63.3	3.3
	東北ブロック（n=210）	21.0	43.3	31.0	3.8	1.0	64.3	4.8
	関東ブロック（n=1070）	18.3	47.1	30.3	3.3	1.0	65.4	4.3
	北陸ブロック（n=120）	20.8	43.3	28.3	5.8	1.7	64.2	7.5
	中部ブロック（n=360）	16.4	48.9	30.8	3.1	0.8	65.3	3.9
	近畿ブロック（n=510）	16.5	46.5	31.6	3.5	2.0	62.9	5.5
	中国ブロック（n=180）	18.3	43.9	34.4	2.2	1.1	62.2	3.3
	四国ブロック（n=100）	18.0	51.0	25.0	5.0	1.0	69.0	6.0
	九州・沖縄ブロック（n=330）	14.2	50.0	30.0	3.0	2.7	64.2	5.8
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区（n=846）	17.6	49.2	28.7	3.4	1.1	66.8	4.5
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市（n=302）	20.5	44.4	30.1	3.6	1.3	64.9	5.0
	三大都市圏の上記以外の地域（n=499）	17.6	47.3	31.7	2.4	1.0	64.9	3.4
	地方中枢都市（n=254）	16.9	47.2	31.9	2.8	1.2	64.2	3.9
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地（n=248）	17.7	48.8	27.0	3.6	2.8	66.5	6.5
	地方圏のその他の市（n=557）	17.1	48.7	30.5	3.2	0.5	65.7	3.8
	地方圏の町村（n=202）	17.8	43.1	32.7	3.5	3.0	60.9	6.4

■日本のインフラ技術を世界に輸出し、国際貢献するとともに日本の活力強化にもつなげる（Q28）〈性・年代別〉

・ 性別、年代別ともに、いずれのグループも「そう思う」計の割合が 6 割以上である。

Q28.　インフラメンテナンスの分野で、日本の優れた技術は世界で十分に競争する力がある。こういった優れた日本のインフラ技術を世界に輸出し、国際貢献するとともに日本の活力強化にもつなげるべきだ



（%）

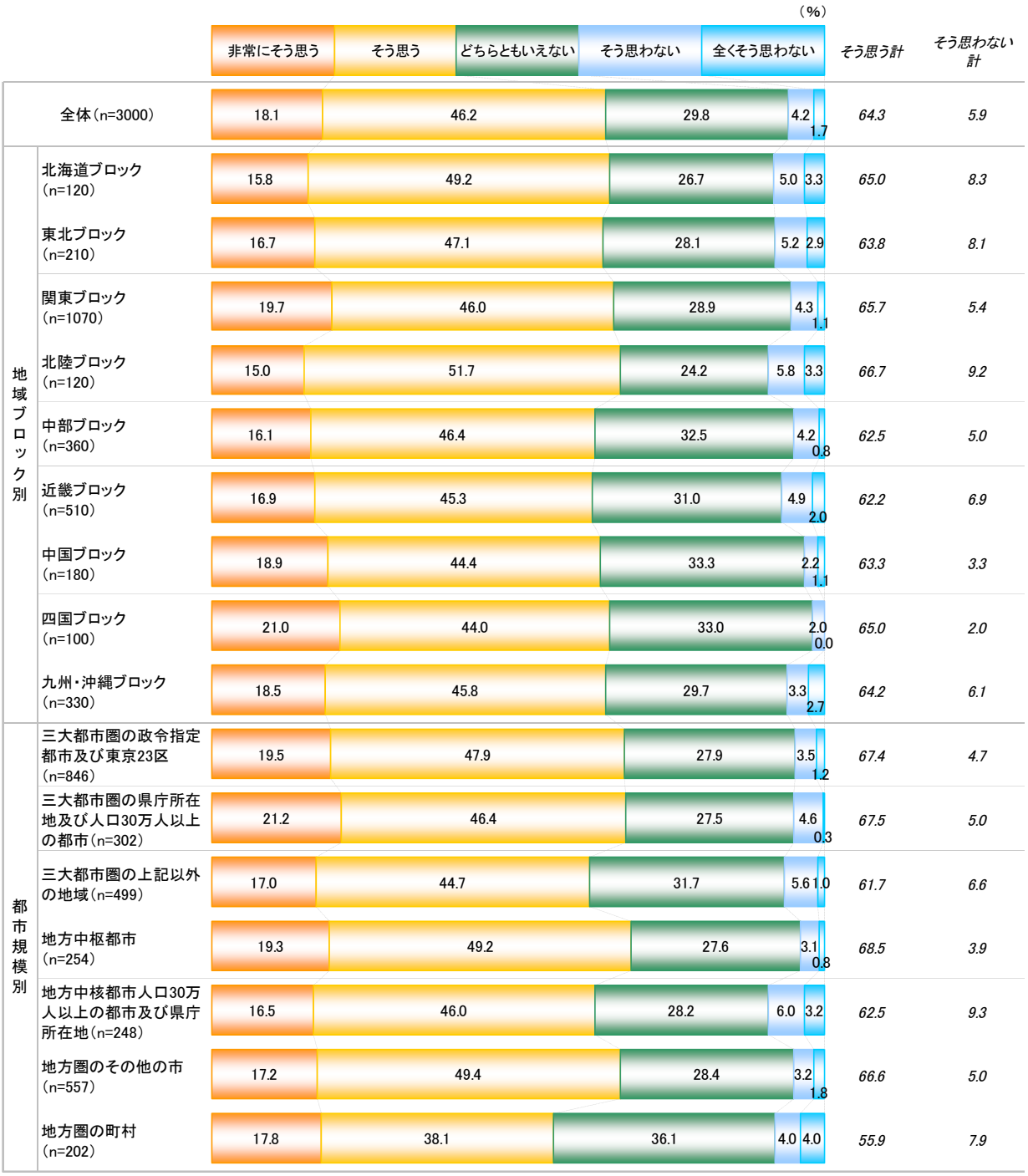
		n	非常にそう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらともいえない (0)	そう思わない (−1)	全くそう思わない (−2)	［そう思う計］	［そう思わない計］
全体		3000	18.1	46.2	29.8	4.2	1.7	64.3	5.9
性年代	男性18−29歳	300	18.7	41.7	31.0	5.3	3.3	60.3	8.7
	男性30代	300	23.3	43.7	24.0	6.0	3.0	67.0	9.0
	男性40代	300	19.0	44.3	30.0	4.7	2.0	63.3	6.7
	男性50代	300	20.7	44.0	29.7	3.7	2.0	64.7	5.7
	男性60−79歳	300	27.0	44.7	23.7	3.7	1.0	71.7	4.7
	女性18−29歳	300	12.3	53.3	26.7	5.7	2.0	65.7	7.7
	女性30代	300	16.7	47.0	29.0	5.3	2.0	63.7	7.3
	女性40代	300	12.7	46.0	38.3	3.0	−	58.7	3.0
	女性50代	300	12.3	47.3	36.3	3.0	1.0	59.7	4.0
	女性60−79歳	300	18.3	49.7	29.7	2.0	0.3	68.0	2.3

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

■日本のインフラ技術を世界に輸出し、国際貢献するとともに日本の活力強化にもつなげる（Q28）〈地域別〉

- 地域別で見ると、いずれの地域も「そう思う」計の割合は 6 割以上である。
- 都市規模別で見ると、地方圏の町村は他と比較し、「そう思う」計の割合が 5 ポイント以上低い。

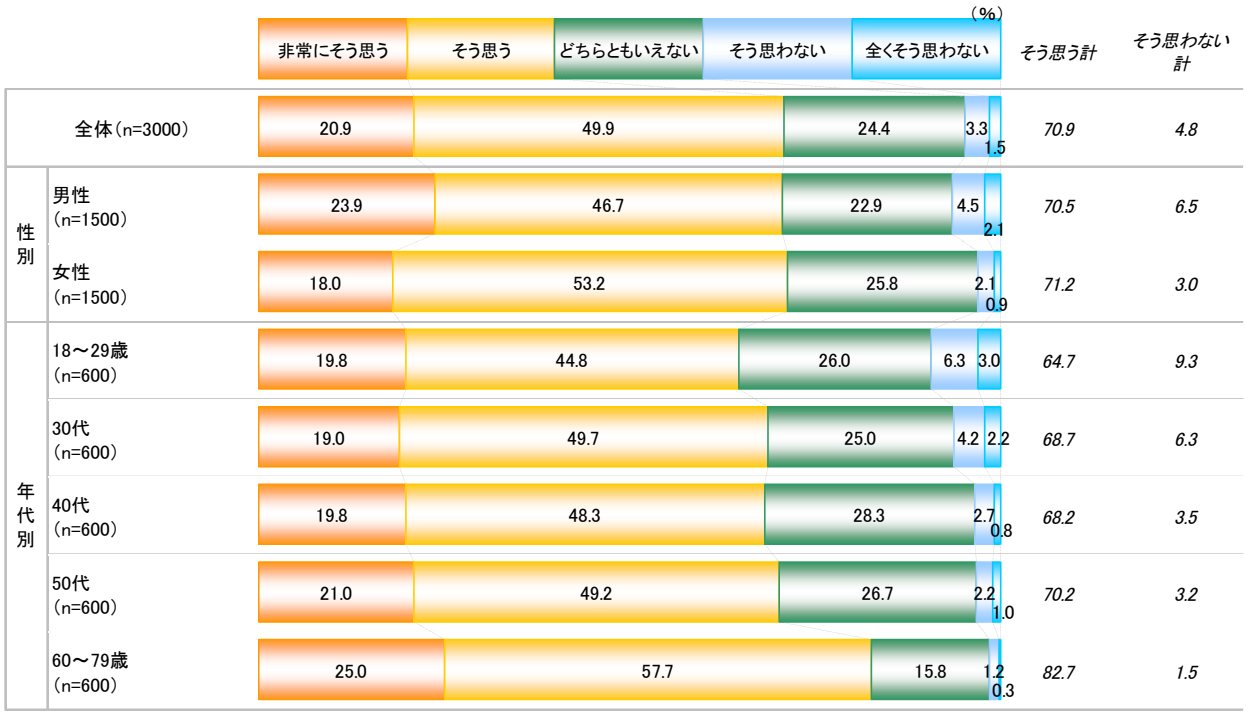
Q28.　インフラメンテナンスの分野で、日本の優れた技術は世界で十分に競争する力がある。こういった優れた日本のインフラ技術を世界に輸出し、国際貢献するとともに日本の活力強化にもつなげるべきだ



■中長期の全体像を描いた上で財源をきちんと確保し、計画的効率的に進める（Q29）〈性・年代別〉

- 性別、年齢別ともに、いずれのグループも「そう思う」計が 6 割以上である。
- 年代別で見ると、60 歳～79 歳は他の年代と比較して、「そう思う」計が 12 ポイント以上高い。

Q29.　インフラ（社会資本）の保全整備にあたっては、中長期の全体像を描いた上で財源をきちんと確保し、計画的効率的に進めることが必要である



（%）

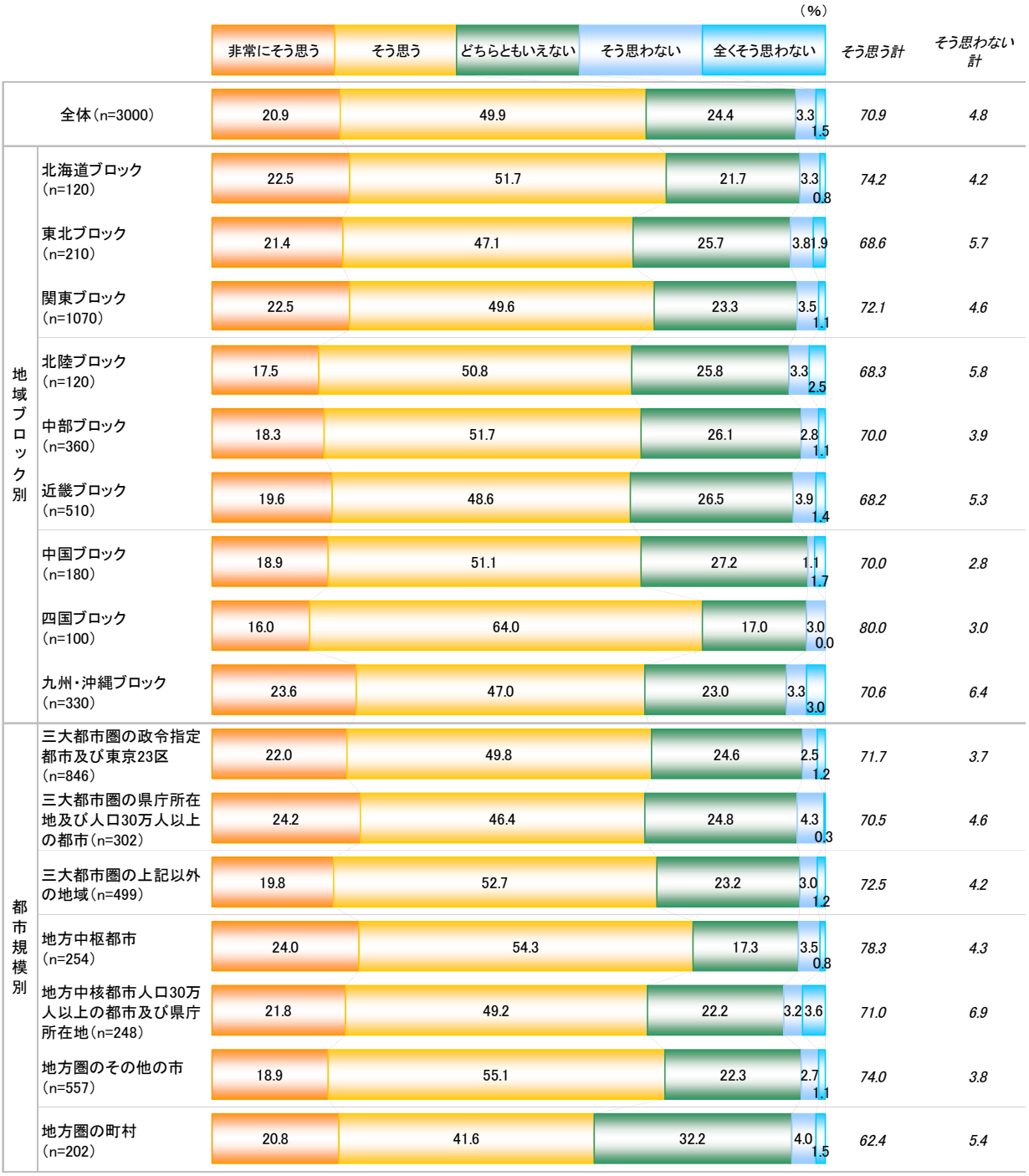
		n	非常にそう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらともいえない (0)	そう思わない (−1)	全くそう思わない (−2)	[そう思う計]	[そう思わない計]
全体		3000	20.9	49.9	24.4	3.3	1.5	70.9	4.8
性年代	男性18−29歳	300	20.3	42.0	25.7	8.3	3.7	62.3	12.0
	男性30代	300	21.0	47.3	23.7	4.7	3.3	68.3	8.0
	男性40代	300	24.3	47.3	23.0	3.7	1.7	71.7	5.3
	男性50代	300	23.3	44.0	27.7	3.7	1.3	67.3	5.0
	男性60−79歳	300	30.3	52.7	14.7	2.0	0.3	83.0	2.3
	女性18−29歳	300	19.3	47.7	26.3	4.3	2.3	67.0	6.7
	女性30代	300	17.0	52.0	26.3	3.7	1.0	69.0	4.7
	女性40代	300	15.3	49.3	33.7	1.7	−	64.7	1.7
	女性50代	300	18.7	54.3	25.7	0.7	0.7	73.0	1.3
	女性60−79歳	300	19.7	62.7	17.0	0.3	0.3	82.3	0.7

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

■中長期の全体像を描いた上で財源をきちんと確保し、計画的効率的に進める（Q29）〈地域別〉

- 地域別、都市規模別ともに、いずれのグループも「そう思う」計が 6 割以上である。
- 地域別で見ると、「そう思う」計が最高なのは四国であり、他のブロックより 5 ポイント以上高い。
- 都市規模別で見ると、「そう思う」計が最高なのは地方中枢都市、最低なのは地方圏の町村であり、その差は 15.9 ポイントである。

Q29.　インフラ（社会資本）の保全整備にあたっては、中長期の全体像を描いた上で財源をきちんと確保し、計画的効率的に進めることが必要である

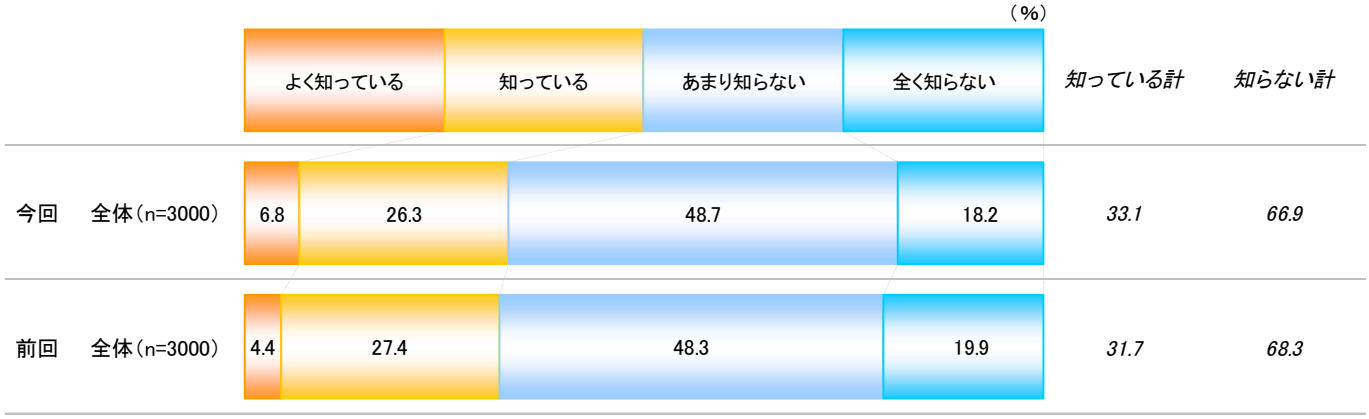


8. アメリカやヨーロッパ諸国での道路等のインフラ投資を増大させる動きに関する認知

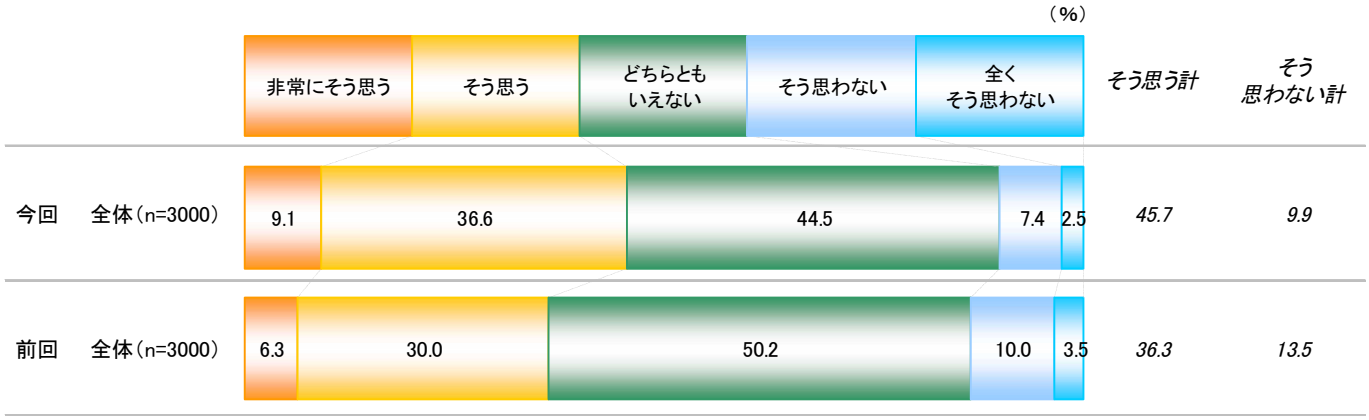
- 欧米で、インフラ投資を増大させる動きがあることを認知しているのは3割程度と低い（前回調査と同程度）。
- 日本もインフラ投資を増やすべきだという意見に対し、肯定的な回答が前回調査と比較して9.4ポイント増加している。

Q30. アメリカやヨーロッパ諸国などでは、新型コロナウイルス感染症の影響から回復するための経済・社会活動の活性化や温室効果ガス削減などのため、インフラ投資を増大させる動きがありますが、ご存じですか。

（前回）Q24.アメリカのトランプ大統領が1兆ドル（約 110 兆円）をインフラ整備に使うことを表明するなど、アメリカやヨーロッパ諸国では、安全性を高め、経済活力を維持・増進するため、道路等のインフラ投資を増大させる動きがありますが、ご存じですか。



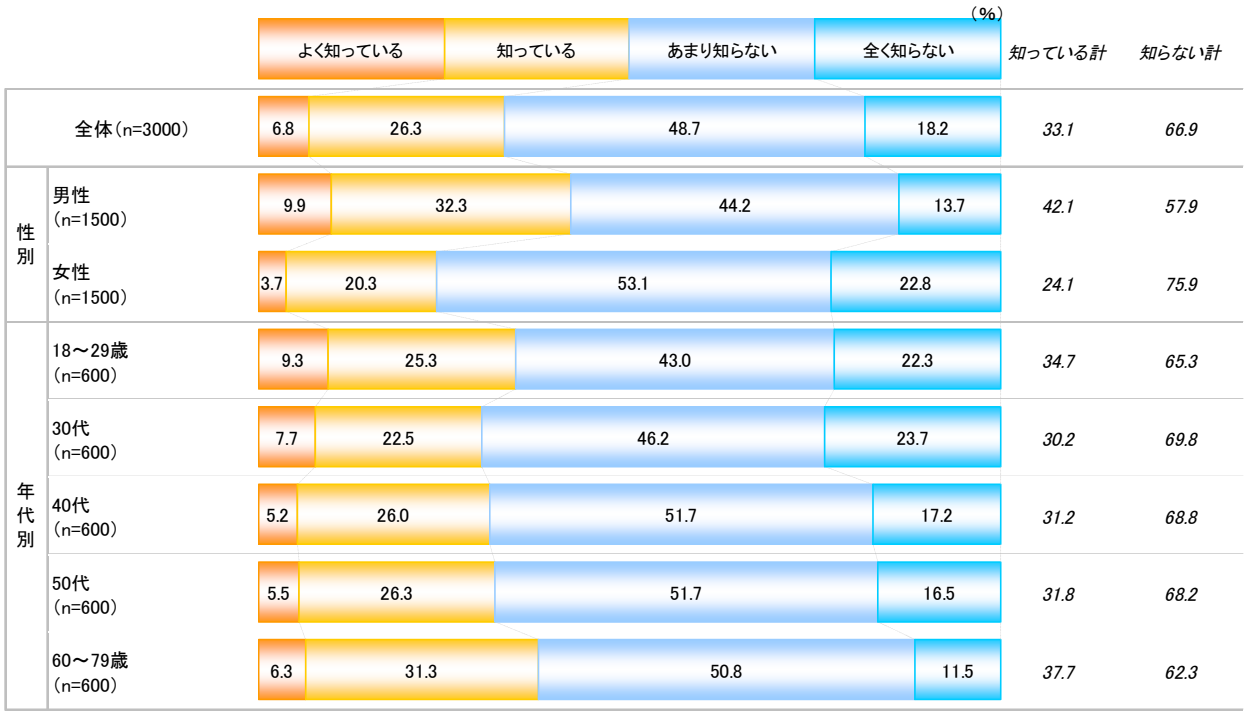
Q30-1. 日本もインフラの機能を維持し、安全性を高め、また経済活力を維持・増進させるためにインフラへの投資額を増やすべきだという意見がありますが、あなたはどう思いますか。



■アメリカやヨーロッパ諸国での道路等のインフラ投資を増大させる動きに関する認知（Q30）〈性・年代別〉

- 性別、年齢別とも、いずれのグループも「知らない」計が 5 割以上である。
- 性別で見ると、女性は男性より「知らない」計の割合が 18 ポイント高い。

Q30.　アメリカやヨーロッパ諸国などでは、新型コロナウイルス感染症の影響から回復するための経済・社会活動の活性化や温室効果ガス削減などのため、インフラ投資を増大させる動きがありますが、ご存じですか。



（%）

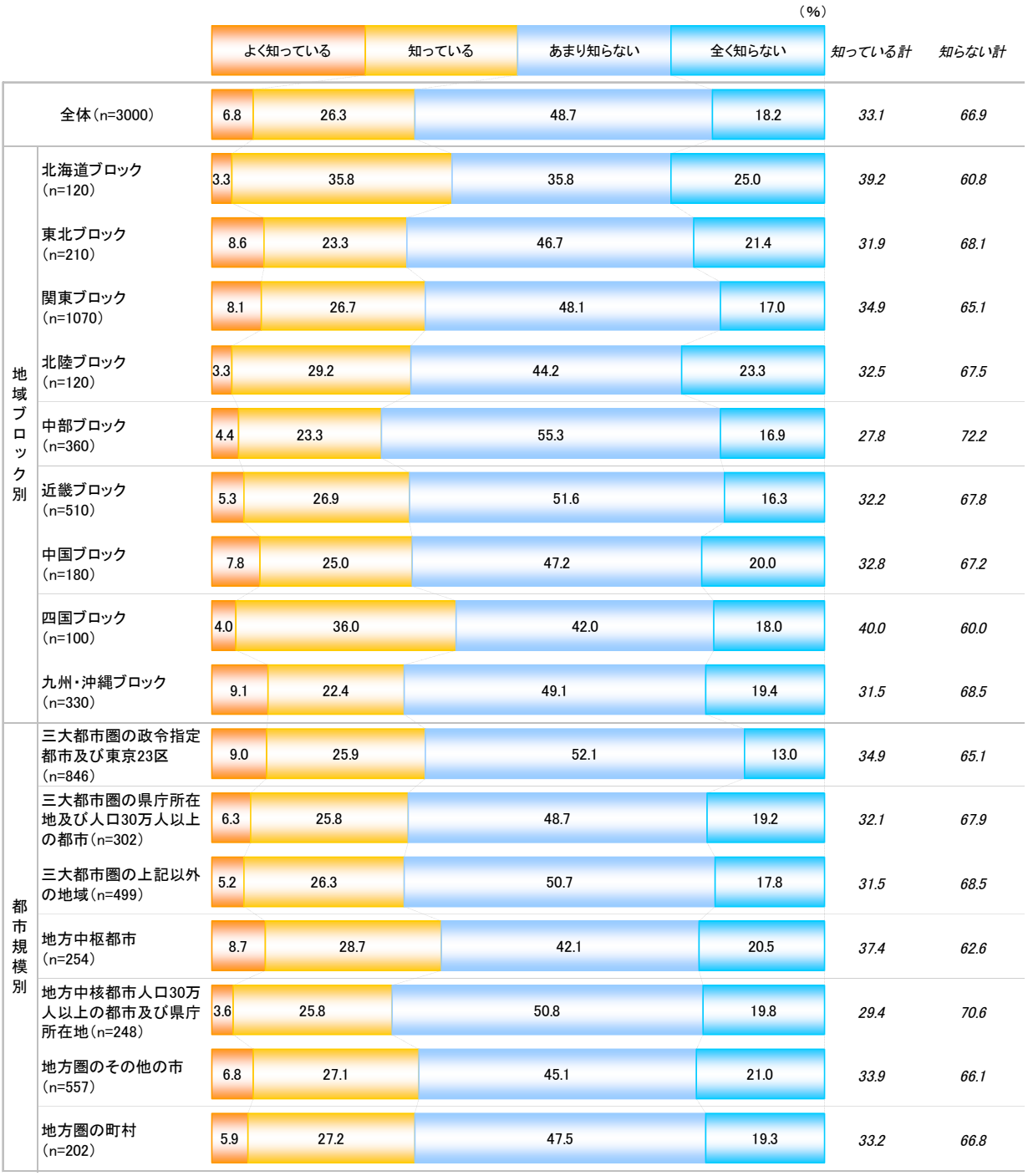
		n	よく知っている	知っている	あまり知らない	全く知らない	［知っている計］	［知らない計］
全体		3000	6.8	26.3	48.7	18.2	33.1	66.9
性年代	男性18-29歳	300	11.3	30.0	39.0	19.7	41.3	58.7
	男性30代	300	12.0	25.7	43.3	19.0	37.7	62.3
	男性40代	300	8.0	32.3	47.3	12.3	40.3	59.7
	男性50代	300	8.7	34.3	46.0	11.0	43.0	57.0
	男性60-79歳	300	9.3	39.0	45.3	6.3	48.3	51.7
	女性18-29歳	300	7.3	20.7	47.0	25.0	28.0	72.0
	女性30代	300	3.3	19.3	49.0	28.3	22.7	77.3
	女性40代	300	2.3	19.7	56.0	22.0	22.0	78.0
	女性50代	300	2.3	18.3	57.3	22.0	20.7	79.3
	女性60-79歳	300	3.3	23.7	56.3	16.7	27.0	73.0

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

■アメリカやヨーロッパ諸国での道路等のインフラ投資を増大させる動きに関する認知（Q30）〈地域別〉

・ 地域別、都市規模別とも、いずれのグループでも「知らない」計が 6 割以上である。

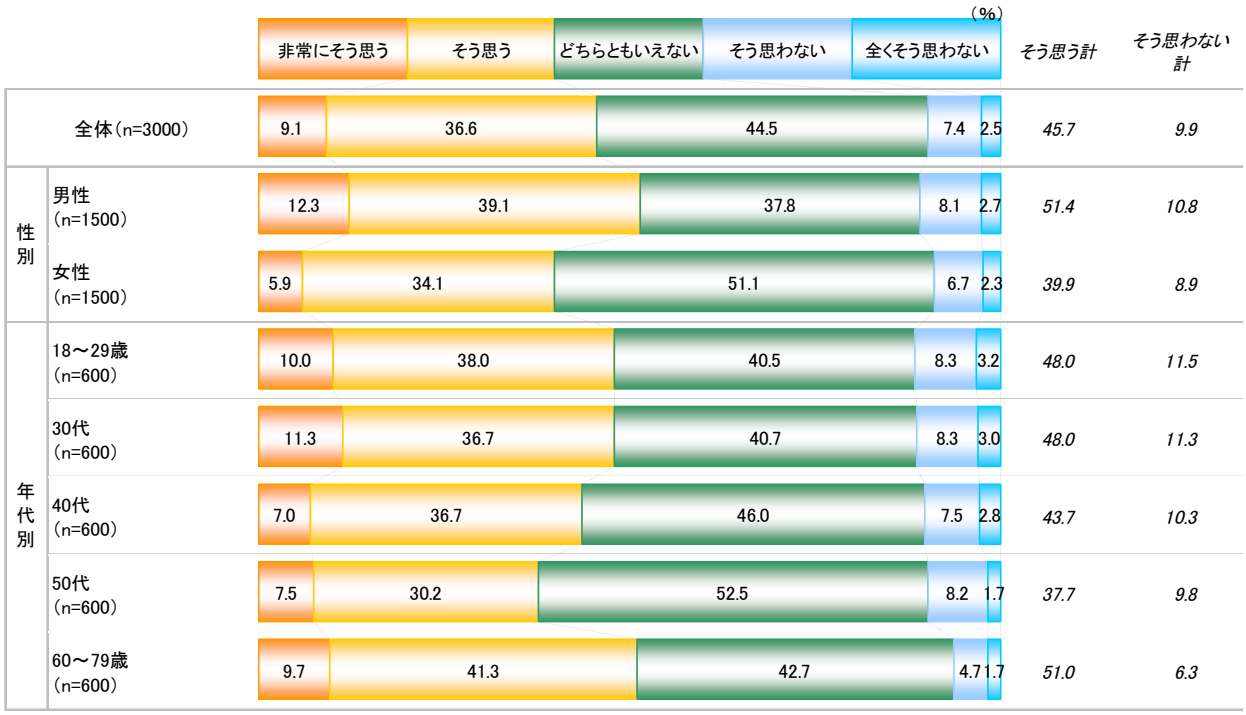
Q30. アメリカやヨーロッパ諸国などでは、新型コロナウイルス感染症の影響から回復するための経済・社会活動の活性化や温室効果ガス削減などのため、インフラ投資を増大させる動きがありますが、ご存じですか。



■アメリカやヨーロッパ諸国での道路等のインフラ投資を増大させる動きに関する認知（Q30SQ1）〈性・年代別〉

- 性別、年代別ともに、「そう思う」計と「どちらともいえない」の割合が拮抗しているグループが多い。
- 性別で見ると、男性は「そう思う」計の割合が「どちらともいえない」より高い。一方、女性は「どちらともいえない」の割合が「そう思う」計の割合より高い。
- 年代別で見ると、40代、50代は「どちらともいえない」の割合が「そう思う」計の割合より高い。その他の年代は「そう思う」計の割合が「どちらともいえない」の割合より高い。

Q30-1. 日本もインフラの機能を維持し、安全性を高め、また経済活力を維持・増進させるためにインフラへの投資額を増やすべきだという意見がありますが、あなたはどう思いますか。



（%）

		n	非常にそう思う (+2)	そう思う (+1)	どちらともいえない (0)	そう思わない (−1)	全くそう思わない (−2)	[そう思う計]	[そう思わない計]
全体		3000	9.1	36.6	44.5	7.4	2.5	45.7	9.9
性年代	男性18-29歳	300	13.3	38.7	35.7	9.0	3.3	52.0	12.3
	男性30代	300	15.0	40.0	35.0	6.7	3.3	55.0	10.0
	男性40代	300	10.0	41.7	37.0	8.0	3.3	51.7	11.3
	男性50代	300	11.7	31.3	44.7	10.7	1.7	43.0	12.3
	男性60-79歳	300	11.7	43.7	36.7	6.3	1.7	55.3	8.0
	女性18-29歳	300	6.7	37.3	45.3	7.7	3.0	44.0	10.7
	女性30代	300	7.7	33.3	46.3	10.0	2.7	41.0	12.7
	女性40代	300	4.0	31.7	55.0	7.0	2.3	35.7	9.3
	女性50代	300	3.3	29.0	60.3	5.7	1.7	32.3	7.3
	女性60-79歳	300	7.7	39.0	48.7	3.0	1.7	46.7	4.7

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

■アメリカやヨーロッパ諸国での道路等のインフラ投資を増大させる動きに関する認知（Q30SQ1）〈地域別〉

- 地域別、都市規模別ともに、「そう思う」計と「どちらともいえない」の割合が拮抗しているグループが多い。
- 地域別で見ると、北海道、東北、北陸、近畿、中国は「どちらともいえない」の割合が「そう思う」計の割合より高く、他の地域は「そう思う」計の割合が「どちらともいえない」の割合より高い。
- 都市規模別で見ると、地方圏の町村、地方中核都市等は「どちらともいえない」の割合が「そう思う」計の割合より高く、他は「そう思う」計の割合が「どちらともいえない」の割合以上である。

Q30-1. 日本もインフラの機能を維持し、安全性を高め、また経済活力を維持・増進させるためにインフラへの投資額を増やすべきだという意見がありますが、あなたはどう思いますか。

（%）

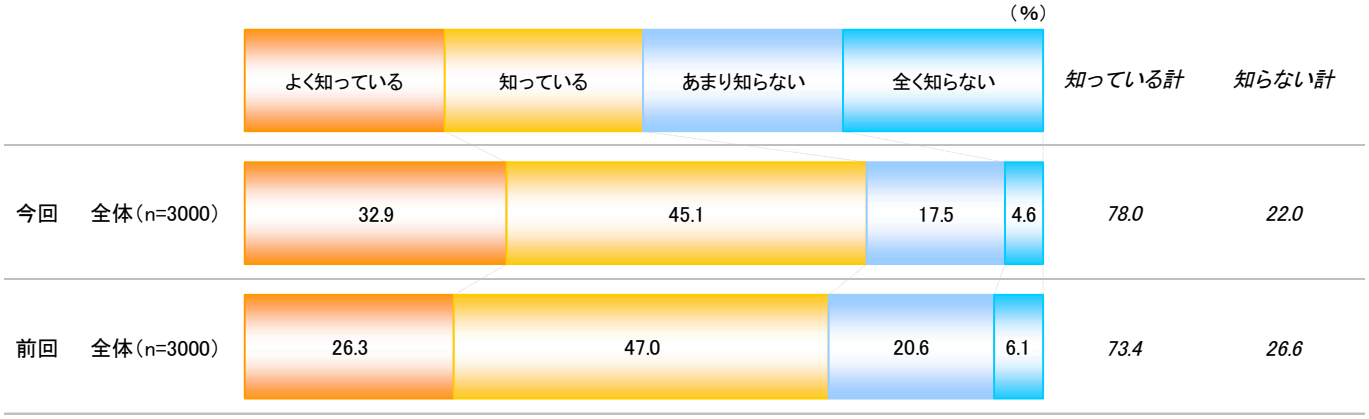
		非常にそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	全くそう思わない	そう思う計	そう思わない計
	全体（n=3000）	9.1	36.6	44.5	7.4	2.5	45.7	9.9
地域ブロック別	北海道ブロック（n=120）	5.0	35.8	45.8	11.7	1.7	40.8	13.3
	東北ブロック（n=210）	10.5	31.0	46.2	9.0	3.3	41.4	12.4
	関東ブロック（n=1070）	10.0	37.8	43.9	6.4	1.9	47.8	8.3
	北陸ブロック（n=120）	5.8	35.0	45.0	10.8	3.3	40.8	14.2
	中部ブロック（n=360）	7.5	40.3	44.4	5.6	2.2	47.8	7.8
	近畿ブロック（n=510）	8.2	34.9	46.9	7.1	2.9	43.1	10.0
	中国ブロック（n=180）	9.4	28.3	47.8	11.7	2.8	37.8	14.4
	四国ブロック（n=100）	10.0	44.0	35.0	9.0	2.0	54.0	11.0
	九州・沖縄ブロック（n=330）	10.6	37.9	41.8	6.4	3.3	48.5	9.7
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区（n=846）	10.8	38.3	42.6	6.6	1.8	49.1	8.4
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市（n=302）	10.3	35.8	44.7	7.9	1.3	46.0	9.3
	三大都市圏の上記以外の地域（n=499）	7.4	39.1	46.5	5.2	1.8	46.5	7.0
	地方中枢都市（n=254）	9.8	36.2	43.7	7.9	2.4	46.1	10.2
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地（n=248）	5.6	36.3	44.4	9.7	4.0	41.9	13.7
	地方圏のその他の市（n=557）	10.1	35.4	43.4	8.1	3.1	45.4	11.1
	地方圏の町村（n=202）	7.9	33.7	48.0	6.9	3.5	41.6	10.4

n100 以上について　全体より 10 ポイント以上高い　全体より 5 ポイント以上高い　全体より 5 ポイント以上低い　全体より 10 ポイント以上低い

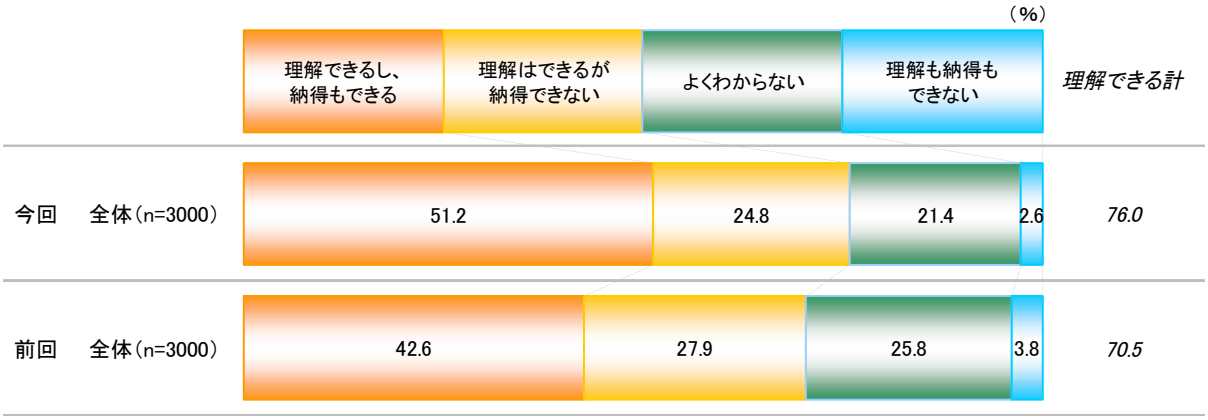
9. 災害が発生し易い日本の過酷な自然条件、それに伴う施設整備費用増加に関する認知

- 日本の自然条件が過酷であることに関し、回答者の 8 割弱が認知。それに伴い、施設整備に費用がかさむことに理解を示す層は 4 分の 3 を超えるが、「理解できるが、納得できない」も 4 分の 1 程度存在。
- 前回調査との比較については、「日本の自然条件が過酷であることに関する認知」が 4.6 ポイント、「施設整備に費用がかさむことに理解かつ納得できる」が 8.6 ポイント増加している。

Q31. 日本は、外国と比べ山地が多く、海岸線が長く、台風、大雨、洪水、地震、火山噴火などの災害が発生し易いなどの特徴を持っています。あなたは、このことをご存じですか。



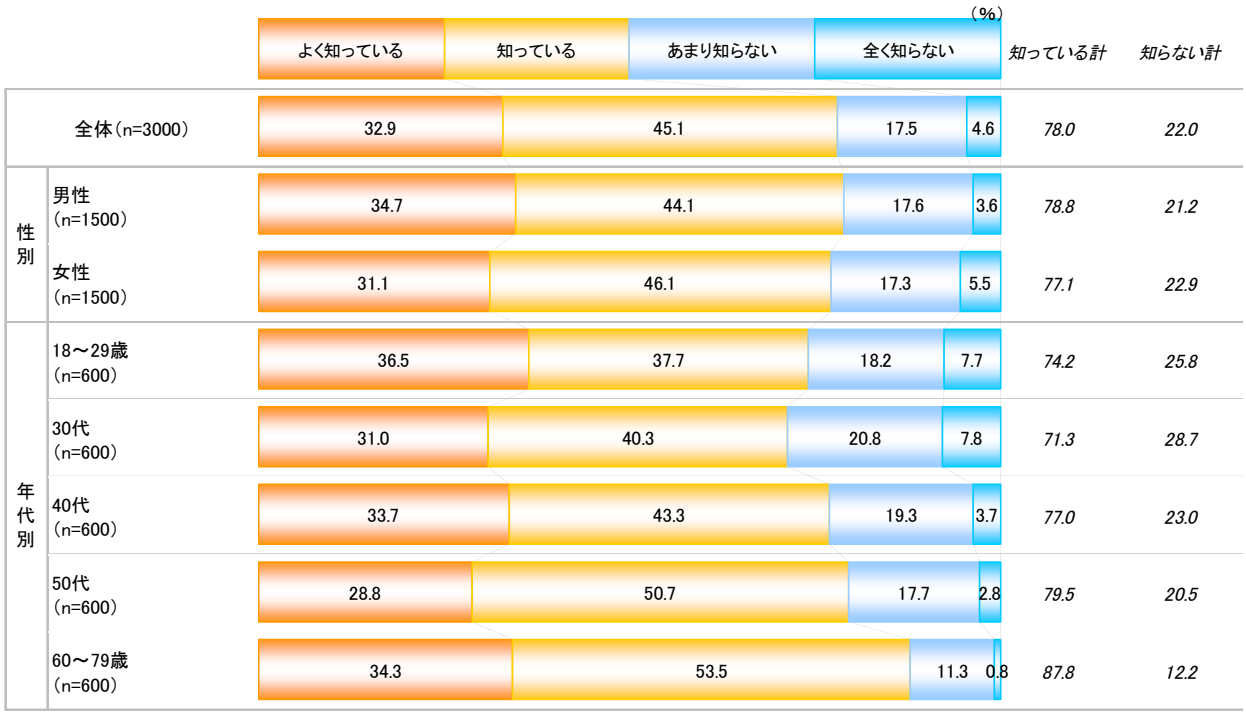
Q31-1. そのために、急峻な地形での工事が必要だったり、地震等に備えるため、頑丈な施設を整備しなければならないなど、欧米諸国に比べて施設整備に費用がかさみます。あなたは、このことについてどのように思いますか。



■災害が発生し易い日本の過酷な自然条件、それに伴う施設整備費用増加に関する認知（Q31）〈性・年代別〉

- 性別、年代別とも、いずれのグループも「知っている」計が 7 割以上である。
- 年代別で見ると、上の年代ほど「知っている」計が高い傾向にある。

Q31.　日本は、外国と比べ山地が多く、海岸線が長く、台風、大雨、洪水、地震、火山噴火などの災害が発生し易いなどの特徴を持っています。あなたは、このことをご存じですか。



（%）

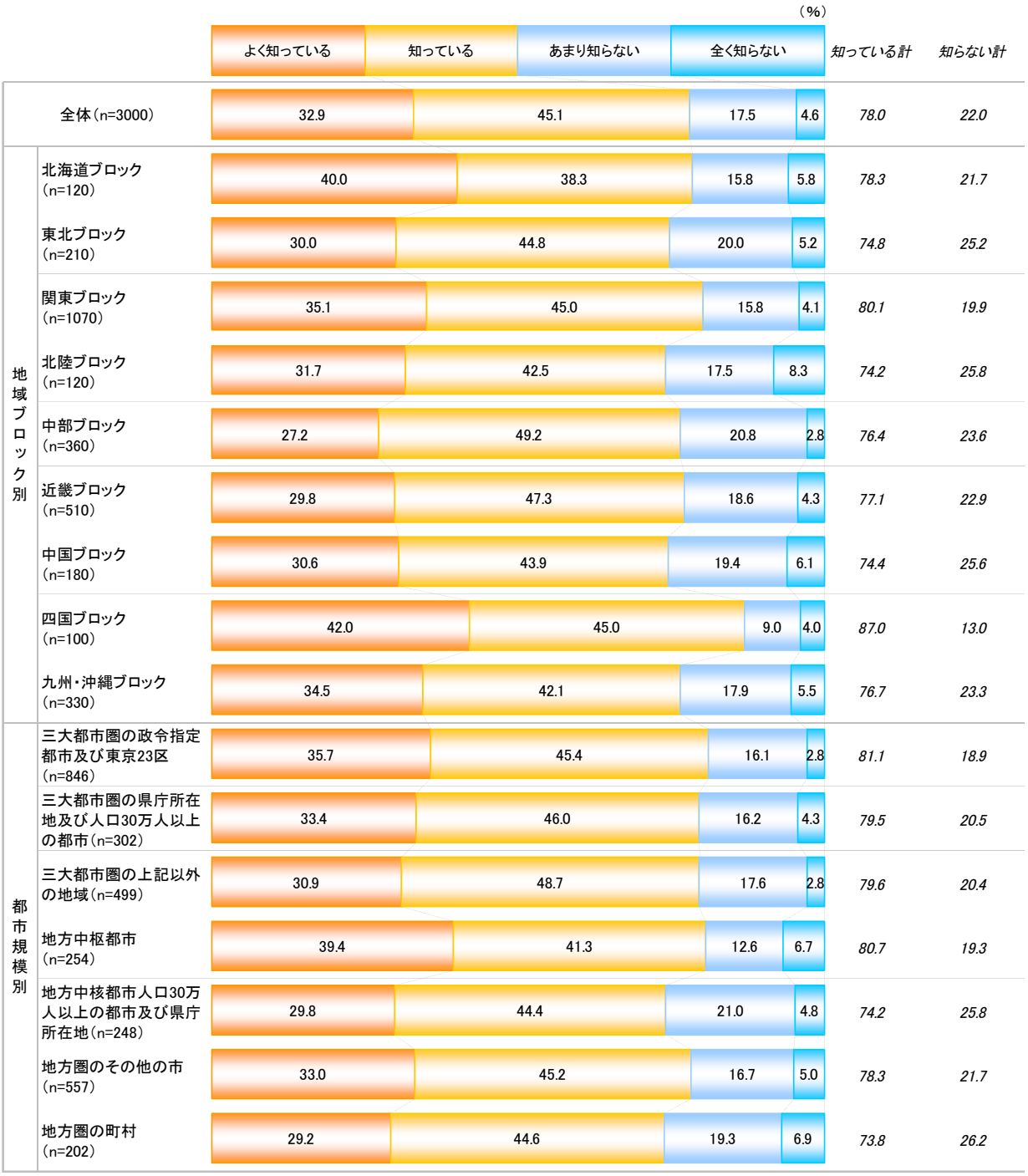
		n	よく知っている	知っている	あまり知らない	全く知らない	［知っている計］	［知らない計］
全体		3000	32.9	45.1	17.5	4.6	78.0	22.0
性年代	男性18-29歳	300	35.3	35.7	20.7	8.3	71.0	29.0
	男性30代	300	34.0	40.3	21.0	4.7	74.3	25.7
	男性40代	300	34.0	43.7	20.0	2.3	77.7	22.3
	男性50代	300	29.0	51.7	17.0	2.3	80.7	19.3
	男性60-79歳	300	41.0	49.3	9.3	0.3	90.3	9.7
	女性18-29歳	300	37.7	39.7	15.7	7.0	77.3	22.7
	女性30代	300	28.0	40.3	20.7	11.0	68.3	31.7
	女性40代	300	33.3	43.0	18.7	5.0	76.3	23.7
	女性50代	300	28.7	49.7	18.3	3.3	78.3	21.7
	女性60-79歳	300	27.7	57.7	13.3	1.3	85.3	14.7

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

■災害が発生し易い日本の過酷な自然条件、それに伴う施設整備費用増加に関する認知（Q31）〈地域別〉

- 地域別、都市規模別とも、いずれのグループでも「知っている」計が 7 割以上である。
- 地域別で見ると、四国は他の地域と比較して、「知っている」計が 6 ポイント以上高い。

Q31.　日本は、外国と比べ山地が多く、海岸線が長く、台風、大雨、洪水、地震、火山噴火などの災害が発生し易いなどの特徴を持っています。あなたは、このことをご存じですか。



■災害が発生し易い日本の過酷な自然条件、それに伴う施設整備費用増加に関する認知（Q31SQ1）〈性・年代別〉

- 性別、年代別とも、いずれのグループも「理解できるし、納得もできる」が 5 割程度である。
- 性別で見ると、男性が女性と比較し、「理解できるが納得できない」が 9.3 ポイント高い。
- 年代別で見ると、60 歳～79 歳は他の年代と比較し、「理解できるが納得できない」が 4 ポイント以上高い。

Q31-1. そのために、急峻な地形での工事が必要だったり、地震等に備えるため、頑丈な施設を整備しなければならないなど、欧米諸国に比べて施設整備に費用がかさみます。あなたは、このことについてどのように思いますか。

（%）

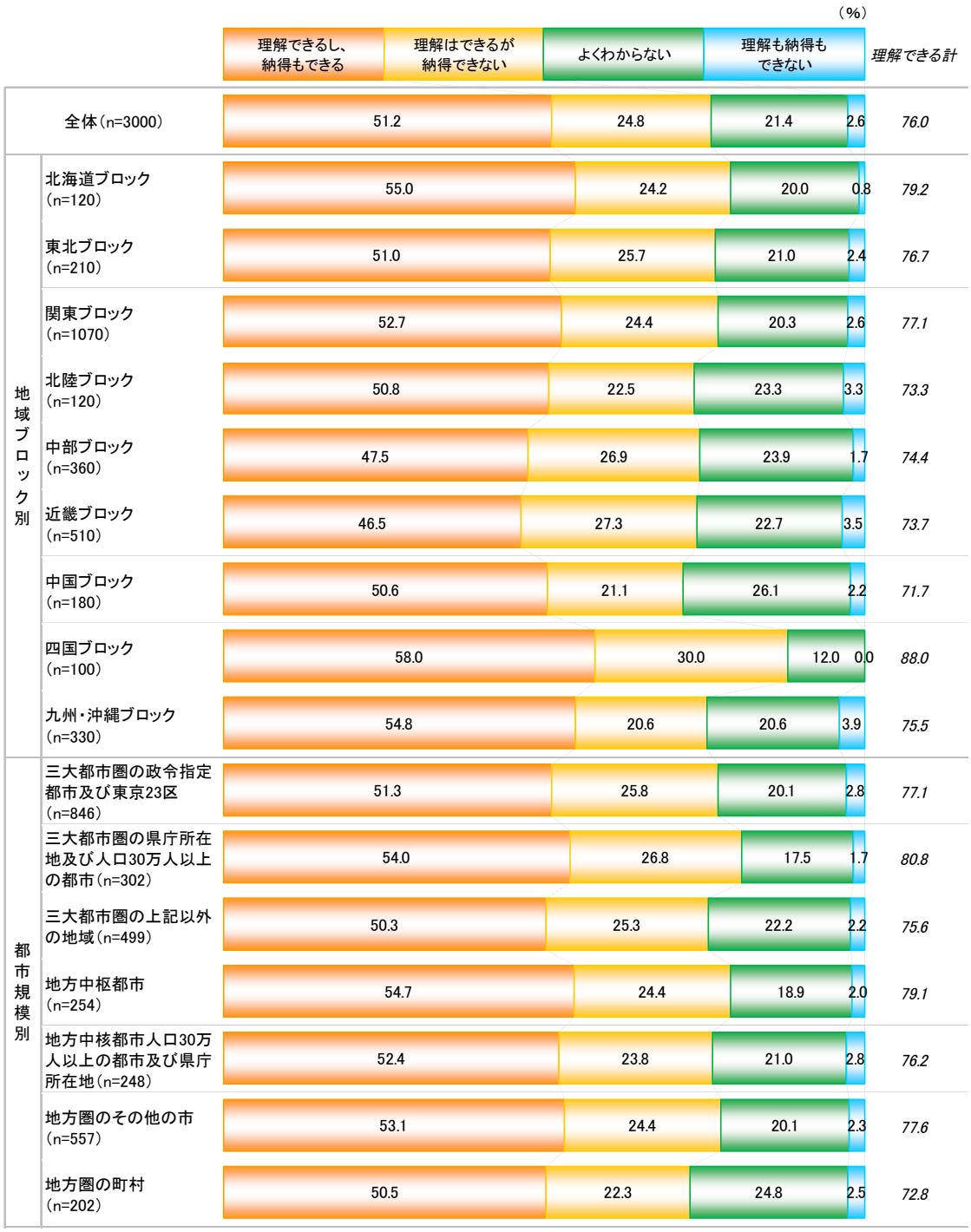
		n	理解できるし、納得もできる	理解はできるが納得できない	よくわからない	理解も納得もできない	[理解できる計]
全体		3000	51.2	24.8	21.4	2.6	76.0
性年代	男性18-29歳	300	47.0	25.0	23.3	4.7	72.0
	男性30代	300	52.0	25.7	20.0	2.3	77.7
	男性40代	300	49.7	30.3	18.0	2.0	80.0
	男性50代	300	47.3	29.3	21.0	2.3	76.7
	男性60-79歳	300	51.0	36.7	11.3	1.0	87.7
	女性18-29歳	300	55.3	17.7	24.0	3.0	73.0
	女性30代	300	51.0	18.7	26.0	4.3	69.7
	女性40代	300	50.3	21.3	25.7	2.7	71.7
	女性50代	300	55.0	18.7	23.7	2.7	73.7
	女性60-79歳	300	53.3	24.3	21.0	1.3	77.7

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

■災害が発生し易い日本の過酷な自然条件、それに伴う施設整備費用増加に関する認知（Q31SQ1）〈地域別〉

- 地域別、都市規模別ともに、いずれのグループでも「理解できるし、納得もできる」の割合が 4 割以上で最も高い。
- 地域別で見ると、四国は「理解できる」計が最も多く、他のブロックと比較して 8 ポイント以上高い。

Q31-1. そのために、急峻な地形での工事が必要だったり、地震等に備えるため、頑丈な施設を整備しなければならないなど、欧米諸国に比べて施設整備に費用がかさみます。あなたは、このことについてどのように思いますか。

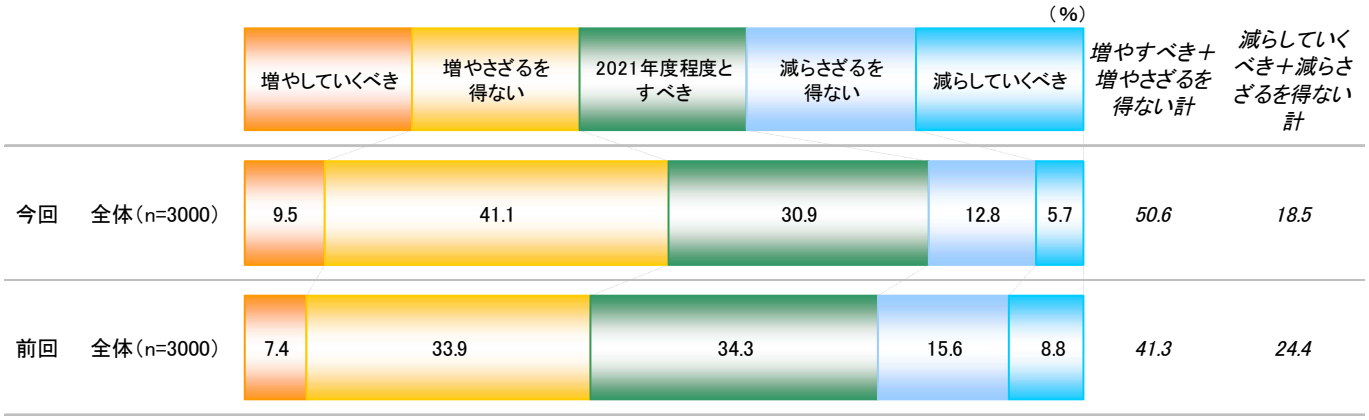


10. 国家予算　費目別　今後の増減評価

■公共事業予算の今後の増減評価（Q32）

- 増やす計は 50.6%、「2021 年度程度とすべき」は 30.9%、減らす計は 18.5%となっている。
- 前回調査との比較については、増やす計は 9.3 ポイント増加、「2021 年度程度とすべき」は 3.4 ポイント減少、減らす計は 5.9 ポイント減少となっている。

Q32.　あなたは、今後の公共事業の予算をどうすべきだと思われますか。上記の結果も見た上でお答えください。

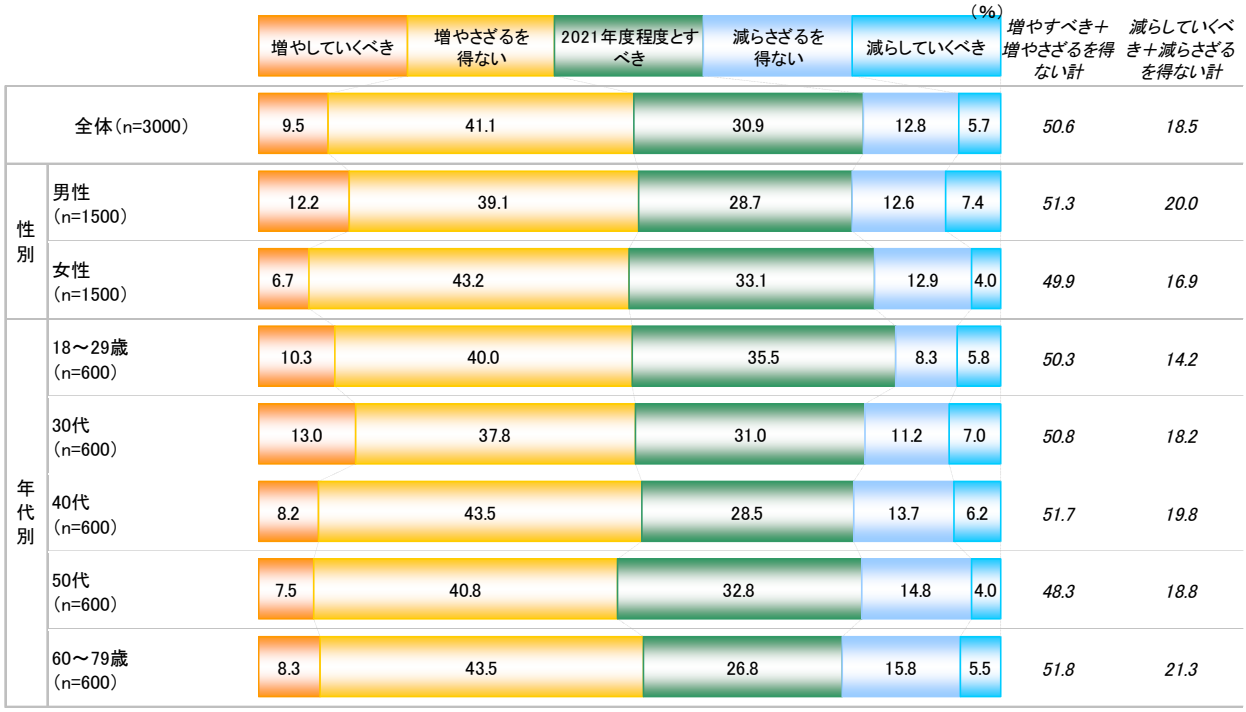


※前回は「平成29年度程度とすべき」で聴取

■公共事業予算の今後の増減評価（Q32）〈性・年代別〉

・ 性別、年代別ともに、いずれのグループでも「増やすべき＋増やさざるを得ない」計の割合が5割程度となっている。

Q32.　あなたは、今後の公共事業の予算をどうすべきだと思われますか。上記の結果も見た上でお答えください。



（%）

		n	増やしていくべき (+2)	増やさざるを得ない (+1)	2021年度程度とすべき (0)	減らさざるを得ない (−1)	減らしていくべき (−2)	［増やすべき＋増やさざるを得ない計］	［減らしていくべき＋減らさざるを得ない計］
全体		3000	9.5	41.1	30.9	12.8	5.7	50.6	18.5
性年代	男性18-29歳	300	10.7	37.7	33.3	9.3	9.0	48.3	18.3
	男性30代	300	17.7	35.3	28.7	10.3	8.0	53.0	18.3
	男性40代	300	10.7	43.0	26.7	12.3	7.3	53.7	19.7
	男性50代	300	10.0	38.0	32.0	14.7	5.3	48.0	20.0
	男性60-79歳	300	12.0	41.3	23.0	16.3	7.3	53.3	23.7
	女性18-29歳	300	10.0	42.3	37.7	7.3	2.7	52.3	10.0
	女性30代	300	8.3	40.3	33.3	12.0	6.0	48.7	18.0
	女性40代	300	5.7	44.0	30.3	15.0	5.0	49.7	20.0
	女性50代	300	5.0	43.7	33.7	15.0	2.7	48.7	17.7
	女性60-79歳	300	4.7	45.7	30.7	15.3	3.7	50.3	19.0

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

※前回は「平成 29 年度程度とすべき」で聴取

■公共事業予算の今後の増減評価（Q32）〈地域別〉

・ 地域別、都市規模別とも、いずれのグループでも「増やすべき＋増やさざるを得ない」計の割合が 5 割程度である。

Q32.　あなたは、今後の公共事業の予算をどうすべきだと思われますか。上記の結果も見た上でお答えください。

（%）

		増やしていくべき	増やさざるを得ない	2021年度程度とすべき	減らさざるを得ない	減らしていくべき	増やすべき＋増やさざるを得ない計	減らしていくべき＋減らさざるを得ない計
全体（n=3000）		9.5	41.1	30.9	12.8	5.7	50.6	18.5
地域ブロック別	北海道ブロック（n=120）	4.2	43.3	31.7	11.7	9.2	47.5	20.8
	東北ブロック（n=210）	12.4	37.6	28.1	14.3	7.6	50.0	21.9
	関東ブロック（n=1070）	9.7	39.9	31.9	13.5	5.0	49.6	18.5
	北陸ブロック（n=120）	5.8	45.0	30.0	13.3	5.8	50.8	19.2
	中部ブロック（n=360）	6.9	41.9	34.2	12.5	4.4	48.9	16.9
	近畿ブロック（n=510）	9.4	43.7	29.8	11.2	5.9	53.1	17.1
	中国ブロック（n=180）	12.2	32.8	35.0	11.7	8.3	45.0	20.0
	四国ブロック（n=100）	8.0	46.0	31.0	12.0	3.0	54.0	15.0
	九州・沖縄ブロック（n=330）	11.8	43.3	25.8	13.3	5.8	55.2	19.1
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区（n=846）	8.7	41.4	31.2	13.6	5.1	50.1	18.7
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市（n=302）	10.6	40.4	34.8	9.9	4.3	51.0	14.2
	三大都市圏の上記以外の地域（n=499）	9.0	44.3	30.3	12.0	4.4	53.3	16.4
	地方中枢都市（n=254）	9.1	40.6	30.3	12.2	7.9	49.6	20.1
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地（n=248）	8.5	40.7	29.0	15.3	6.5	49.2	21.8
	地方圏のその他の市（n=557）	10.2	40.4	30.5	11.7	7.2	50.6	18.9
	地方圏の町村（n=202）	8.9	44.6	26.7	14.4	5.4	53.5	19.8

11. あなたの住む地域と日本の将来（予測となるべき姿）

11-1. 地域の将来予測、なるべき姿（衰退－成長）（Q33）

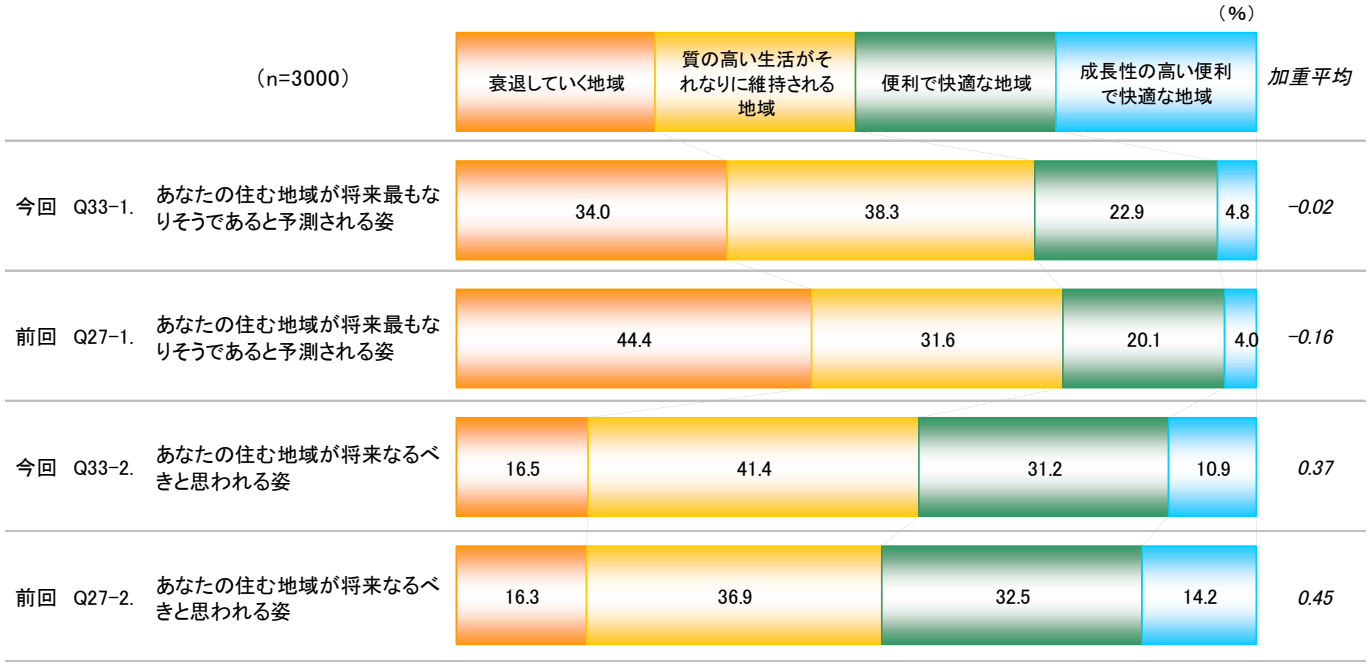
- 将来予測となるべき姿でギャップがある。（「衰退する地域」なりそう 34.0%（＞なるべき 16.5%）、「成長する地域」なりそう 4.8%（＜なるべき 10.9%））
- 前回調査との比較については、将来予測は悲観的予測が減り（「衰退する地域」が 10.4 ポイント減）、なるべき姿は成長を希望する回答が増えている（「成長する地域」が 0.8 ポイント増）。

Q33. あなたの住む地域（2050 年前後を想定）について、次のような意見（見方）があります。

1. **衰退していく地域** 少子化・高齢化が進み、地域経済の衰退、中心市街地でも空き店舗が生じたり、空き家も増え、公共交通機関もなくなるなど、徐々に衰退していく
2. **質の高い生活がそれなりに維持される地域** 少子化・高齢化が進むが、地域の産業・経済を維持・活性化する動きや、各種の施設を特定の地域とまとめるコンパクト化を進めることなどにより、それなりに質の高い生活が維持される
3. **便利で快適な地域** 少子化・高齢化は進むが、地域の産業・経済は、新たな産業が生まれることにより活性化し、交通ネットワークが確保された便利で快適な地域となる
4. **成長性の高い便利で快適な地域** 地域社会に新たな成長産業などが生まれ、新たな居住者が流入、新たな産業なども生まれ、交通ネットワークなどはより良くなり、生産性が向上、活力のある成長性の高い、より便利で快適な地域となる

Q33-1.あなたの住む地域が将来最もなりそうであると予測される姿はどれですか。

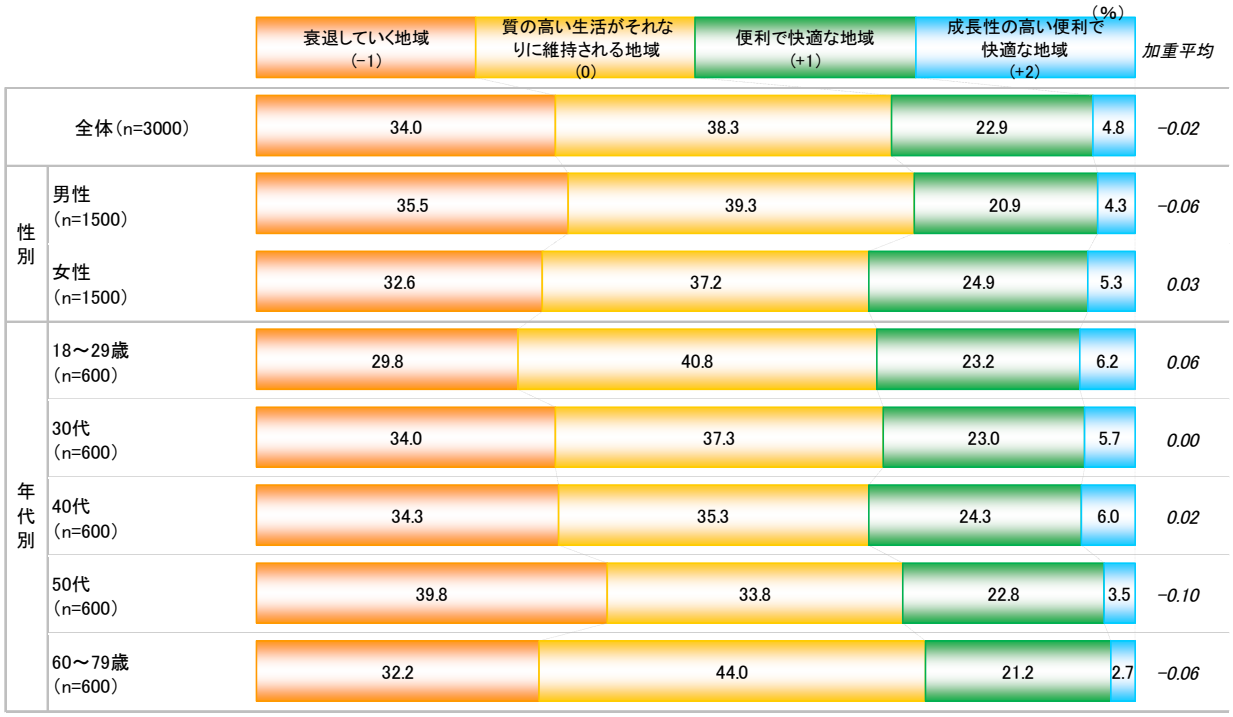
Q33-2.あなたの住む地域が将来なるべきと思われる姿はどれですか。



■地域の将来予測（衰退－成長）（Q33-1）〈性・年代別〉

- 性別で見ると、男性、女性とも「質の高い生活がそれなりに維持される地域」の割合が最も高く、4 割程度となっている。
- 年代別で見ると、50 代は「衰退していく地域」の割合が最も高いが、他の年代では「質の高い生活がそれなりに維持される地域」の割合が最も高い。

Q33-1.あなたの住む地域が将来最もなりそうであると予測される姿はどれですか。



（%）

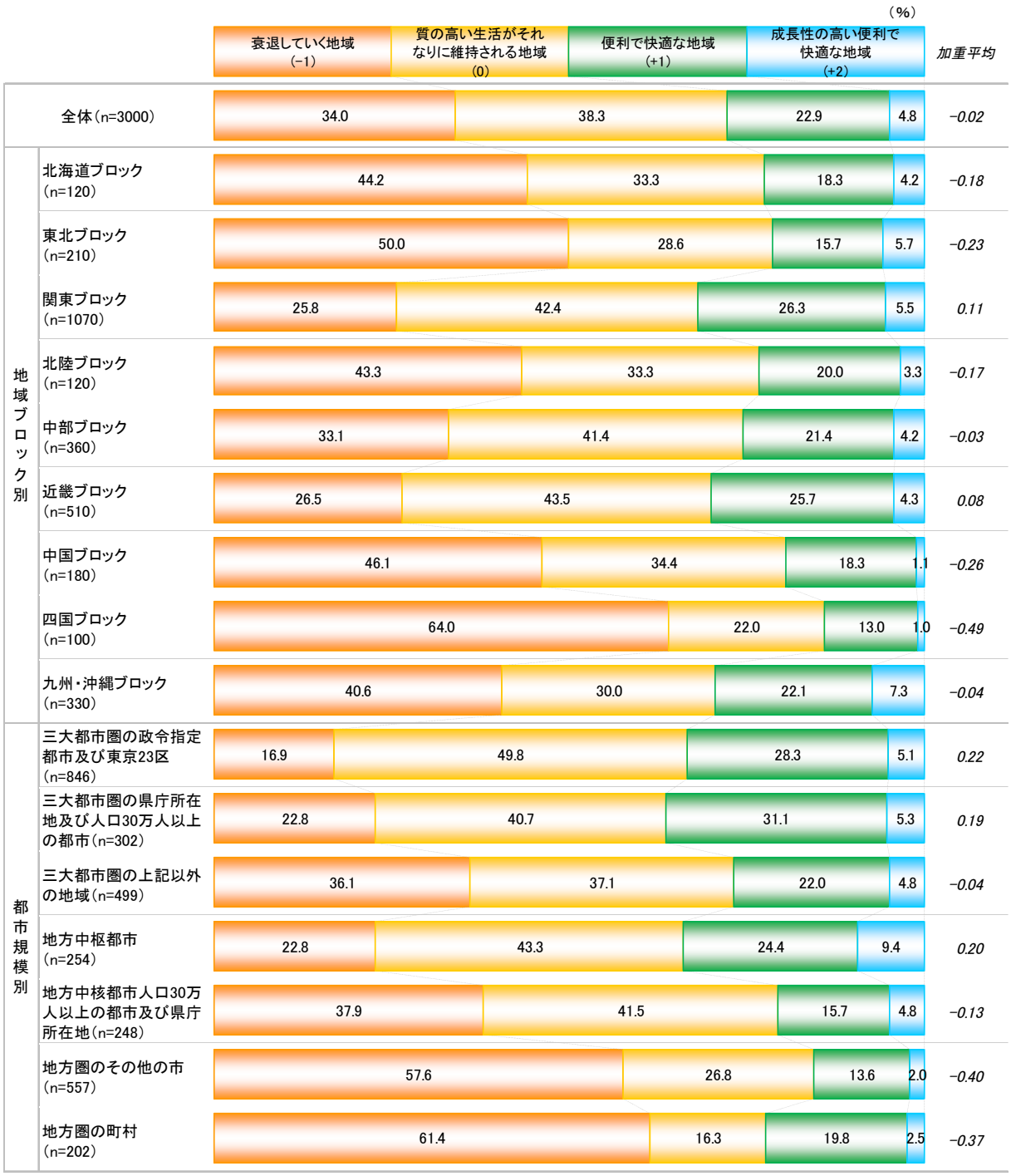
		n	衰退していく地域 (-1)	質の高い生活がそれなりに維持される地域 (0)	便利で快適な地域 (+1)	成長性の高い便利で快適な地域 (+2)	加重平均
全体		3000	34.0	38.3	22.9	4.8	-0.02
性年代	男性18-29歳	300	30.0	42.7	21.7	5.7	0.03
	男性30代	300	35.3	38.0	20.7	6.0	-0.03
	男性40代	300	35.0	39.7	21.3	4.0	-0.06
	男性50代	300	43.0	31.0	22.3	3.7	-0.13
	男性60-79歳	300	34.0	45.3	18.7	2.0	-0.11
	女性18-29歳	300	29.7	39.0	24.7	6.7	0.08
	女性30代	300	32.7	36.7	25.3	5.3	0.03
	女性40代	300	33.7	31.0	27.3	8.0	0.10
	女性50代	300	36.7	36.7	23.3	3.3	-0.07
	女性60-79歳	300	30.3	42.7	23.7	3.3	0.00

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

■地域の将来予測（衰退－成長）（Q33-1）〈地域別〉

- 地域別で差が大きい。関東、中部、近畿では「質の高い生活がそれなりに維持される地域」の割合が最も高く、その他の地域では、「衰退していく地域」の割合が最も高い。
- 都市規模別でも差が大きい。地方圏の人口 30 万人以下の市町村では「衰退していく地域」の割合が最も高く、その他では「質の高い生活がそれなりに維持される地域」の割合が最も高い。

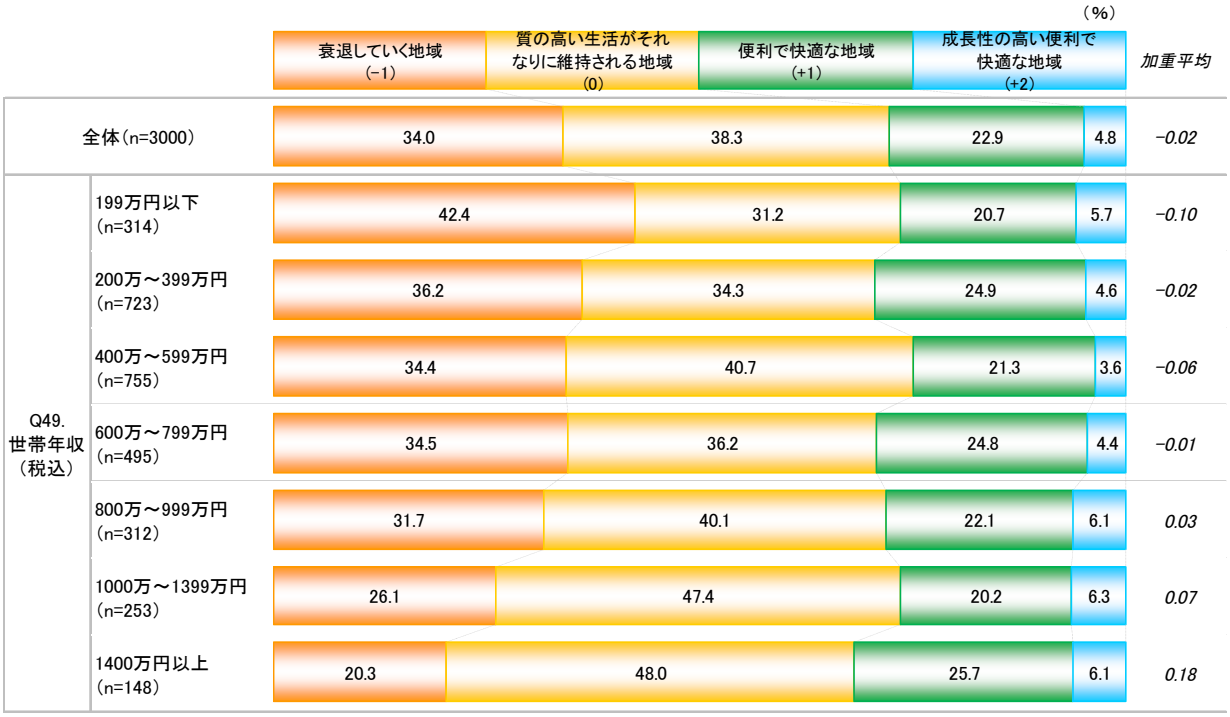
Q33-1.あなたの住む地域が将来最もなりそうであると予測される姿はどれですか。



■地域の将来予測（衰退－成長）（Q33-1）〈Q49 世帯年収別〉

・ 居住地域の将来予測について、世帯収入が少ないほど悲観的である。

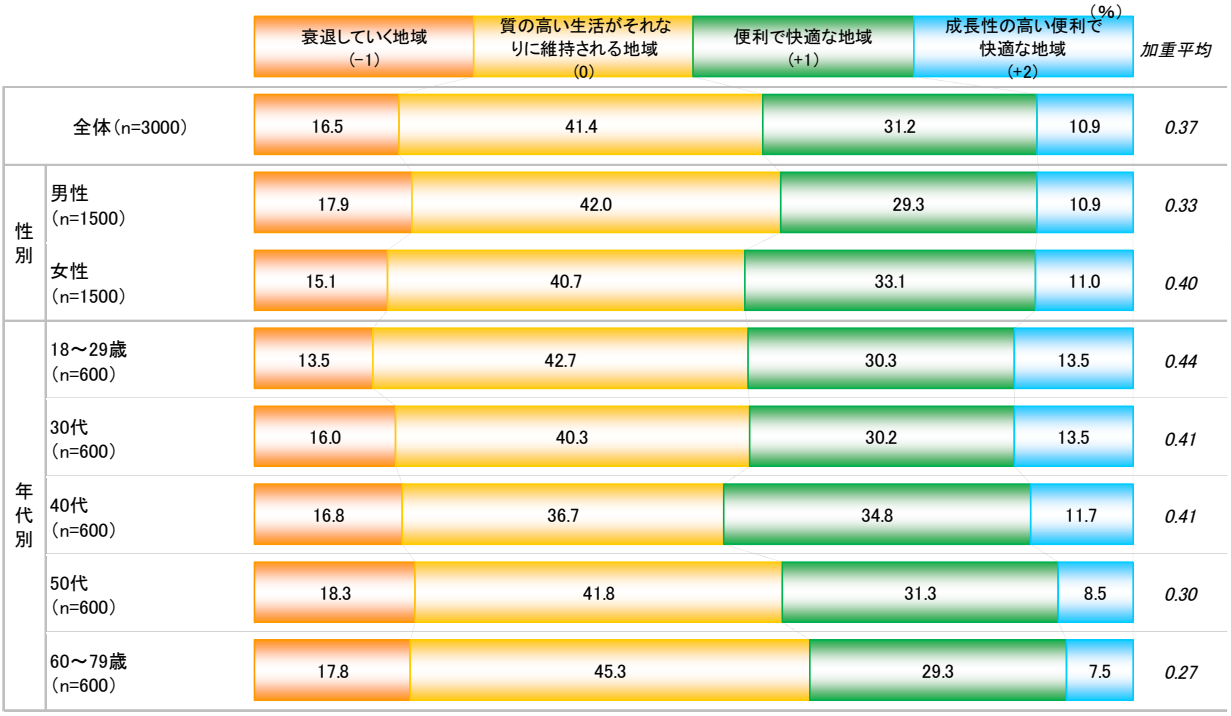
Q33-1.あなたの住む地域が将来最もなりそうであると予測される姿はどれですか。



■地域のなるべき姿（衰退－成長）（Q33-2）〈性・年代別〉

・ 性別、年代別とも、いずれのグループも「質の高い生活がそれなりに維持される地域」の割合が最も高く、4 割程度である。

Q33-2.あなたの住む地域が将来なるべきと思われる姿はどれですか。



（%）

		n	衰退していく地域 (-1)	質の高い生活がそれなりに維持される地域 (0)	便利で快適な地域 (+1)	成長性の高い便利で快適な地域 (+2)	加重平均
全体		3000	16.5	41.4	31.2	10.9	0.37
性年代	男性18-29歳	300	15.7	43.3	26.7	14.3	0.40
	男性30代	300	18.3	38.7	28.7	14.3	0.39
	男性40代	300	17.3	39.3	32.0	11.3	0.37
	男性50代	300	20.3	40.3	31.0	8.3	0.27
	男性60-79歳	300	17.7	48.3	28.0	6.0	0.22
	女性18-29歳	300	11.3	42.0	34.0	12.7	0.48
	女性30代	300	13.7	42.0	31.7	12.7	0.43
	女性40代	300	16.3	34.0	37.7	12.0	0.45
	女性50代	300	16.3	43.3	31.7	8.7	0.33
	女性60-79歳	300	18.0	42.3	30.7	9.0	0.31

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

■地域のなるべき姿（衰退－成長）（Q33-2）〈地域別〉

- 地域別、都市規模別とも、いずれのグループでも「質の高い生活がそれなりに維持される地域」の割合が最も高く、4 割程度である。
- 地域別で見ると、四国の「衰退していく地域」の割合が最も高く、他の地域と比較して、6 ポイント以上高い。
- 都市規模別で見ると、都市規模が小さいほど、「衰退していく地域」の割合が高い傾向にある。

Q33-2.あなたの住む地域が将来なるべきと思われる姿はどれですか。

（%）

		衰退していく地域（-1）	質の高い生活がそれなりに維持される地域（0）	便利で快適な地域（+1）	成長性の高い便利で快適な地域（+2）	今回 加重平均	前回 加重平均
	全体（n=3000）	16.5	41.4	31.2	10.9	0.37	0.45
地域ブロック別	北海道ブロック（n=120）	20.0	35.0	32.5	12.5	0.38	0.21
	東北ブロック（n=210）	23.8	39.5	27.1	9.5	0.22	0.23
	関東ブロック（n=1070）	13.4	39.9	34.7	12.1	0.45	0.50
	北陸ブロック（n=120）	17.5	41.7	35.0	5.8	0.29	0.29
	中部ブロック（n=360）	14.2	44.4	33.1	8.3	0.36	0.44
	近畿ブロック（n=510）	15.1	45.3	27.6	12.0	0.36	0.50
	中国ブロック（n=180）	21.7	37.2	30.6	10.6	0.30	0.47
	四国ブロック（n=100）	31.0	39.0	24.0	6.0	0.05	0.18
	九州・沖縄ブロック（n=330）	17.9	43.0	26.7	12.4	0.34	0.52
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区（n=846）	9.7	44.0	33.2	13.1	0.50	0.59
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市（n=302）	9.9	41.7	34.4	13.9	0.52	0.45
	三大都市圏の上記以外の地域（n=499）	17.4	42.5	31.7	8.4	0.31	0.44
	地方中枢都市（n=254）	12.2	40.6	31.5	15.7	0.51	0.52
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地（n=248）	19.4	35.1	33.1	12.5	0.39	0.45
	地方圏のその他の市（n=557）	26.4	41.3	25.7	6.6	0.13	0.29
	地方圏の町村（n=202）	26.2	42.1	25.2	6.4	0.12	0.30

11-2. 地域の将来予測、なるべき姿（社会課題に関する受動－能動）（Q34）

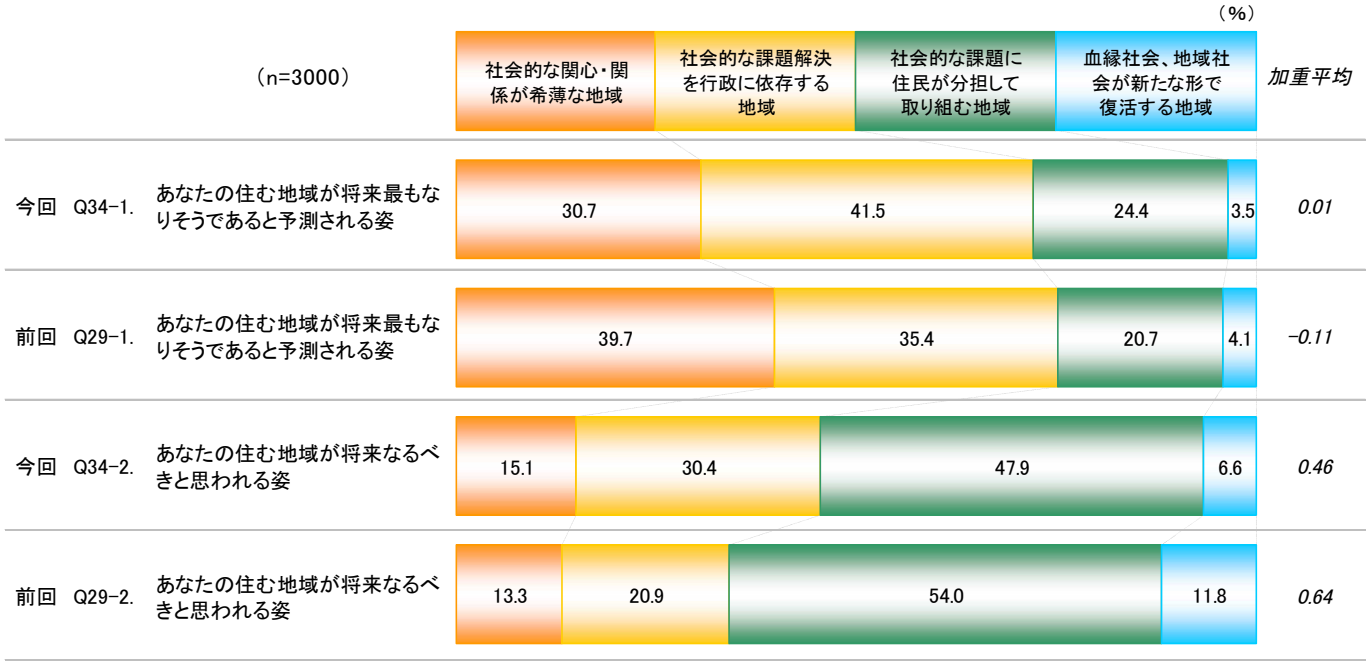
- 将来予測となるべき姿でギャップがある。（「社会的な関心・関係が希薄な地域」なりそう 30.7%（＞なるべき 15.1%）、「住民が分担して取り組む地域」なりそう 24.4%（＜なるべき 47.9%）
- 前回調査との比較については、将来予測では「社会的な関心・関係が希薄な地域」が大きく減っており（9.0 ポイント減）、なるべき姿では「社会的な課題解決を行政に依存する地域」が大きく増えている（9.5 ポイント増）。
- 「社会的な課題解決を行政に依存する地域」が大きく増えている理由としては、災害の激甚化、新型コロナウイルス感染症の発生、地球温暖化の進行など、個人だけでは対応困難な課題が山積する中、公共の果たす役割への期待が高まっているものと推測される。

Q34.　あなたの住む地域（2050 年前後を想定）について、次のような意見（見方）があります。

1. **社会的な関心・関係が希薄な地域**　必要な情報はネットかSNSから入手、自分にとって意味、興味のあることには反応するが、そうでないものに対しては社会的な関心も興味も示さない個人のことしか考えない地域社会が形成される
2. **社会的な課題解決を行政に依存する地域**　各個人の価値観や規範に基づく個人主義的な社会になり、社会的な問題には一定の理解を行うものの、具体的な行動などは起こさず、行政に委ねる地域社会が形成される
3. **社会的な課題に住民が分担して取り組む地域**　社会の様々な課題に対し、行政に依存するのではなく、住民や NPO が社会産業（ソーシャルビジネス）を立ち上げ、行政と住民が分担して解決に取り組む地域社会となる
4. **血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域**　地域の風土や文化が見直され、伝統的な血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域社会となる

Q34-1.あなたの住む地域が将来最もなりそうであると予測される姿はどれですか。

Q34-2.あなたの住む地域が将来なるべきと思われる姿はどれですか。



■地域の将来予測（社会課題に関する受動－能動）（Q34-1）〈性・年代別〉

・　性別、年代別ともいずれのグループでも「社会的な課題解決を行政に依存する地域」の割合が最も高く、4割程度である。

Q34-1.あなたの住む地域が将来最もなりそうであると予測される姿はどれですか。

（%）

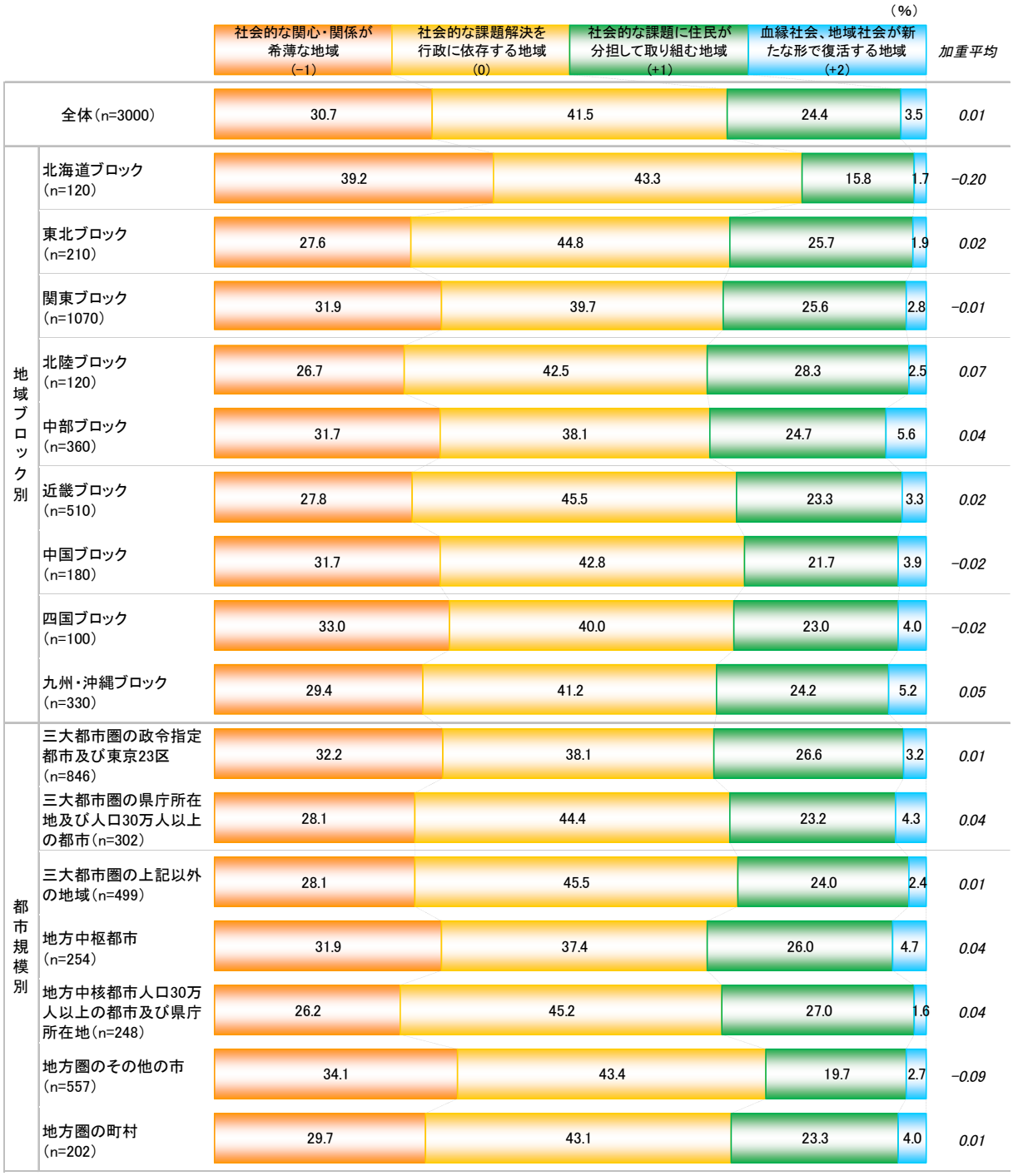
		n	社会的な関心・関係が希薄な地域 (-1)	社会的な課題解決を行政に依存する地域 (0)	社会的な課題に住民が分担して取り組む地域 (+1)	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域 (+2)	加重平均
全体		3000	30.7	41.5	24.4	3.5	0.01
性年代	男性18-29歳	300	32.3	38.7	22.7	6.3	0.03
	男性30代	300	28.7	41.7	25.3	4.3	0.05
	男性40代	300	35.3	38.0	23.3	3.3	-0.05
	男性50代	300	29.3	45.0	23.7	2.0	-0.02
	男性60-79歳	300	28.3	46.7	23.7	1.3	-0.02
	女性18-29歳	300	30.0	41.7	24.0	4.3	0.03
	女性30代	300	34.7	33.3	26.7	5.3	0.03
	女性40代	300	29.7	42.0	24.7	3.7	0.02
	女性50代	300	29.0	42.3	26.0	2.7	0.02
	女性60-79歳	300	29.7	45.3	23.7	1.3	-0.03

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

■地域の将来予測（社会課題に関する受動－能動）（Q34-1）〈地域別〉

- 地域別、都市規模別とも、いずれのグループでも「社会的な課題解決を行政に依存する地域」の割合が最も高く、4 割程度である。
- 地域別で見ると、北海道は「社会的な関心・関係が希薄な地域」の割合が最も高く、他の地域と比較して 6 ポイント以上高い。また、北海道は「社会的な課題に住民が分担して取り組む地域」については最も低く、他の地域と比較して 5 ポイント以上低い。

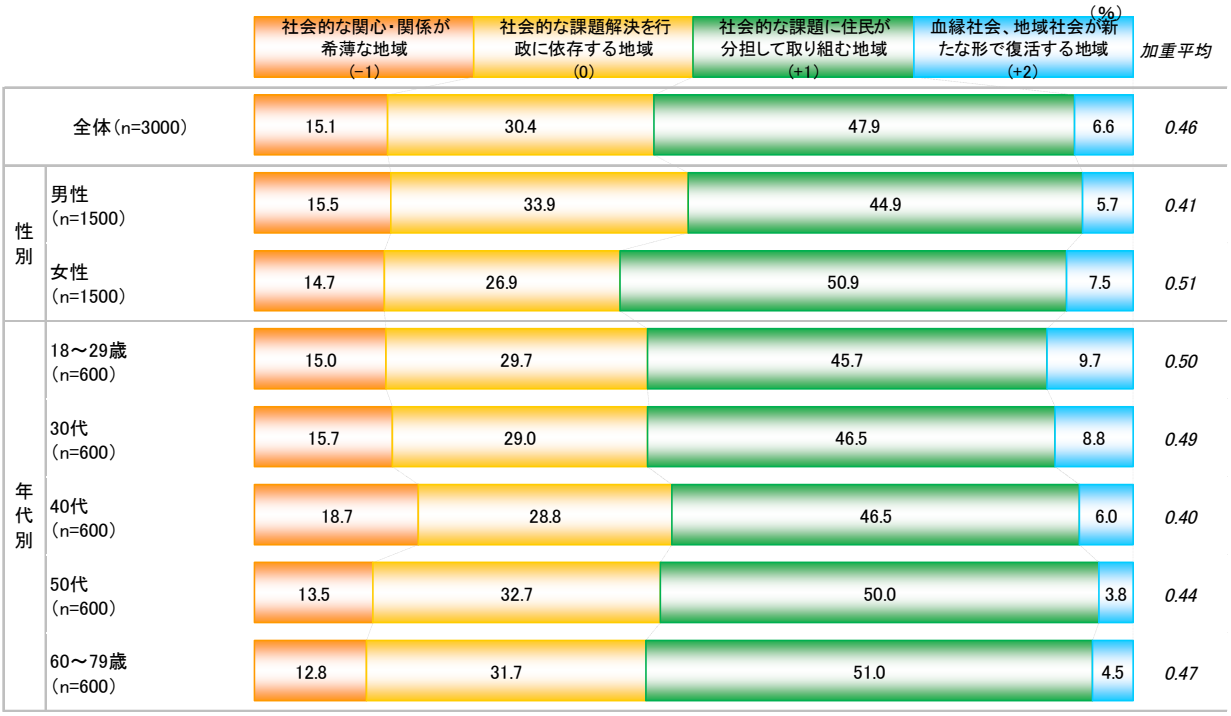
Q34-1.あなたの住む地域が将来最もなりそうであると予測される姿はどれですか。



■地域のなるべき姿（社会課題に関する受動－能動）（Q34-2）〈性・年代別〉

- 性別、年代別ともに、いずれのグループでも「社会的な課題に住民が分担して取り組む地域」の割合が最も高く、5 割程度である。
- 性別で見ると、男性は女性と比較して「社会的な課題解決を行政に依存する地域」の割合が 7 ポイント高い。

Q34-2.あなたの住む地域が将来なるべきと思われる姿はどれですか。



（%）

		n	社会的な関心・関係が希薄な地域（-1）	社会的な課題解決を行政に依存する地域（0）	社会的な課題に住民が分担して取り組む地域（+1）	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域（+2）	加重平均
全体		3000	15.1	30.4	47.9	6.6	0.46
性年代	男性18-29歳	300	16.3	37.3	37.0	9.3	0.39
	男性30代	300	15.0	32.3	45.3	7.3	0.45
	男性40代	300	20.3	31.7	42.7	5.3	0.33
	男性50代	300	14.0	35.7	46.7	3.7	0.40
	男性60-79歳	300	12.0	32.3	53.0	2.7	0.46
	女性18-29歳	300	13.7	22.0	54.3	10.0	0.61
	女性30代	300	16.3	25.7	47.7	10.3	0.52
	女性40代	300	17.0	26.0	50.3	6.7	0.47
	女性50代	300	13.0	29.7	53.3	4.0	0.48
	女性60-79歳	300	13.7	31.0	49.0	6.3	0.48

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

■地域のなるべき姿（社会課題に関する受動－能動）（Q34-2）〈地域別〉

- 地域別、都市規模別ともに、いずれのグループでも「社会的な課題に住民が分担して取り組む地域」の割合が最も高く、5 割程度である。
- 地域別で見ると、近畿は「社会的な課題解決を行政に依存する地域」の割合が最も高く、他の地域と比較して 5 ポイント以上高い。

Q34-2.あなたの住む地域が将来なるべきと思われる姿はどれですか。

（%）

		社会的な関心・関係が希薄な地域（-1）	社会的な課題解決を行政に依存する地域（0）	社会的な課題に住民が分担して取り組む地域（+1）	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域（+2）	加重平均
	全体（n=3000）	15.1	30.4	47.9	6.6	0.46
地域ブロック別	北海道ブロック（n=120）	18.3	29.2	48.3	4.2	0.38
	東北ブロック（n=210）	13.8	26.7	51.9	7.6	0.53
	関東ブロック（n=1070）	13.8	31.1	49.1	6.0	0.47
	北陸ブロック（n=120）	16.7	29.2	48.3	5.8	0.43
	中部ブロック（n=360）	15.0	29.4	47.2	8.3	0.49
	近畿ブロック（n=510）	15.5	36.1	42.7	5.7	0.39
	中国ブロック（n=180）	15.6	28.3	47.8	8.3	0.49
	四国ブロック（n=100）	19.0	28.0	46.0	7.0	0.41
	九州・沖縄ブロック（n=330）	16.7	25.2	50.9	7.3	0.49
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区（n=846）	15.7	32.2	46.3	5.8	0.42
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市（n=302）	13.9	31.5	48.0	6.6	0.47
	三大都市圏の上記以外の地域（n=499）	12.6	33.9	48.1	5.4	0.46
	地方中枢都市（n=254）	15.4	31.5	50.4	2.8	0.41
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地（n=248）	16.5	26.2	48.0	9.3	0.50
	地方圏のその他の市（n=557）	16.3	27.6	48.5	7.5	0.47
	地方圏の町村（n=202）	16.8	25.2	49.5	8.4	0.50

11-3. 日本の将来予測、なるべき姿（衰退－成長）（Q36）

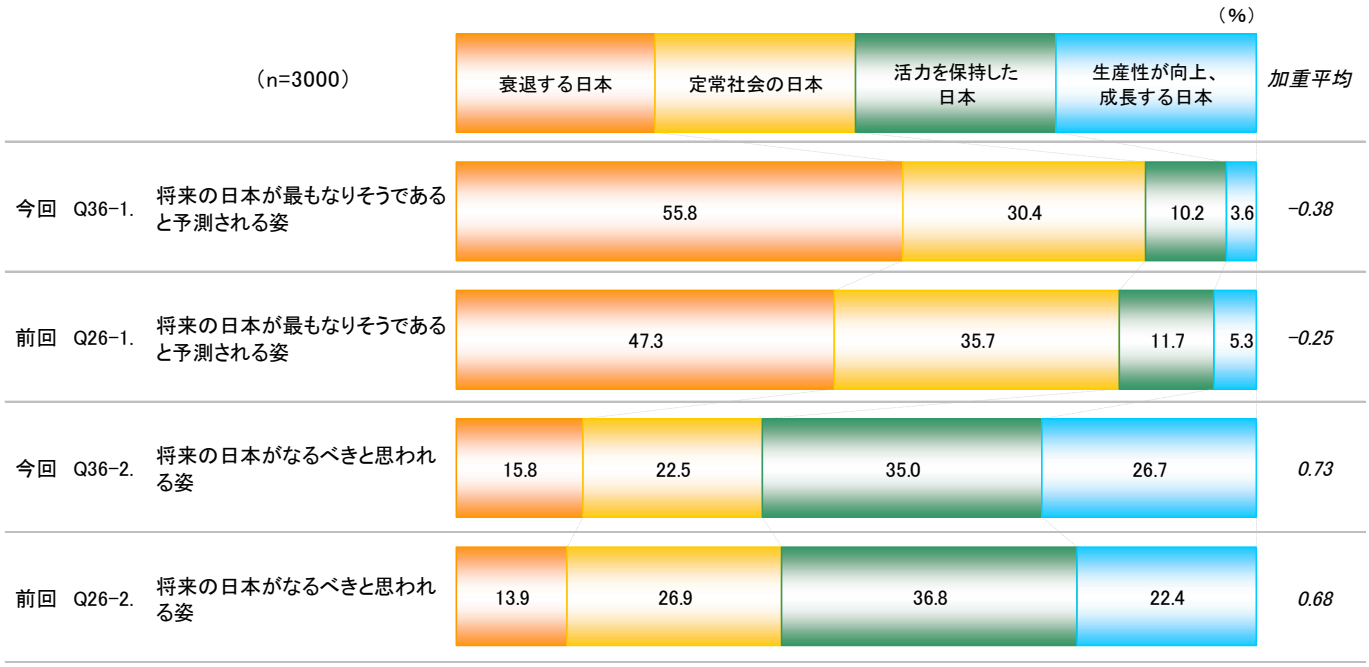
- 将来予測となるべき姿でギャップがあり、その差は居住地域よりも大きい。（「衰退する日本」なりそう 55.8%（＞なるべき 15.8%）、「成長する日本」なりそう 3.6%（＜なるべき 26.7%）
- 居住地域と比較すると、将来予測については、より悲観的であり（「衰退する地域」34.0%＜「衰退する日本」55.8%）、なるべき姿については成長を希望する割合が大きい（「成長する地域」10.9%＜「成長する日本」26.7%）。
- 前回調査との比較については、将来予測は悲観的予測が増え（「衰退する日本」が 8.5 ポイント増）、なるべき姿は成長を希望する回答が増えている（「成長する日本」が 4.3 ポイント増）。

Q36.　日本の将来（2050 年前後を想定）について、次のような意見（見方）があります。

1. **衰退する日本** 少子化・高齢化が進み、激化する国際競争の下、世界の中で現在の位置は保ち得ず、経済成長もマイナス気味となり、徐々に衰退していく
2. **定常社会の日本** 少子化・高齢化が進むが、女性の社会進出、技術革新、国民の努力もあって、経済成長がプラスマイナス0%といった「定常社会」となり、世界の中での位置も保ち、それなりに質の高い生活を維持する
3. **活力を保持した日本** 少子化・高齢化にも係わらず、女性の社会進出、技術革新、経済構造の改革、経営革新などにより、一定の成長を実現、世界の中での位置も保った、活力を保持した日本となる
4. **生産性が向上、成長する日本** 少子化・高齢化にも係わらず、女性の社会進出が進むことで、生産年齢人口が確保され、技術革新や経済構造の改革による生産性の更なる向上が図られ、経済に経営革新の、更なる進展などにより、高い成長を実現、世界の中での位置も高まる、活力ある日本となる

Q36-1.将来の日本が最もなりそうであると予測される姿はどれですか。

Q36-2.将来の日本がなるべきと思われる姿はどれですか。



■日本の将来予測（衰退－成長）（Q36-1）〈性・年代別〉

・ 日本の将来予測について若い世代のほうが悲観的である。

Q36-1.将来の日本が最もなりそうであると予測される姿はどれですか。

（%）

		n	衰退する日本 (-1)	定常社会の日本 (0)	活力を保持した日本 (+1)	生産性が向上、成長する日本 (+2)	今回 加重平均	前回 加重平均
全体		3000	55.8	30.4	10.2	3.6	-0.38	-0.25
性年代	男性18-29歳	300	57.7	23.3	11.7	7.3	-0.31	-0.22
	男性30代	300	62.7	26.0	9.7	1.7	-0.50	-0.27
	男性40代	300	60.7	27.0	10.0	2.3	-0.46	-0.34
	男性50代	300	56.7	30.3	11.0	2.0	-0.42	-0.33
	男性60-79歳	300	54.0	29.7	12.7	3.7	-0.34	-0.19
	女性18-29歳	300	61.7	28.3	6.3	3.7	-0.48	-0.28
	女性30代	300	59.3	30.7	6.7	3.3	-0.46	-0.32
	女性40代	300	53.0	35.0	8.7	3.3	-0.38	-0.23
	女性50代	300	46.3	35.0	14.3	4.3	-0.23	-0.17
	女性60-79歳	300	46.3	38.3	11.3	4.0	-0.27	-0.14

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

■日本の将来予測（衰退－成長）（Q36-1）〈地域別〉

- 地域別、都市規模別とも、いずれのグループでも「衰退する日本」の割合が最も高く、4 割～6 割程度となっている。
- 地域別で見ると、「衰退する日本」の割合は、北海道で最高、北陸で最低となっており、その差は 16.6 ポイントとなっている。
- 前回調査結果と比較すると、関東は「衰退する日本」の割合の増加量が、他のブロックと比較して高い（関東は＋14.5 ポイントとなっているのに対し、他の地域は＋9 ポイント以下）。

※ 前回結果は次ページ参照

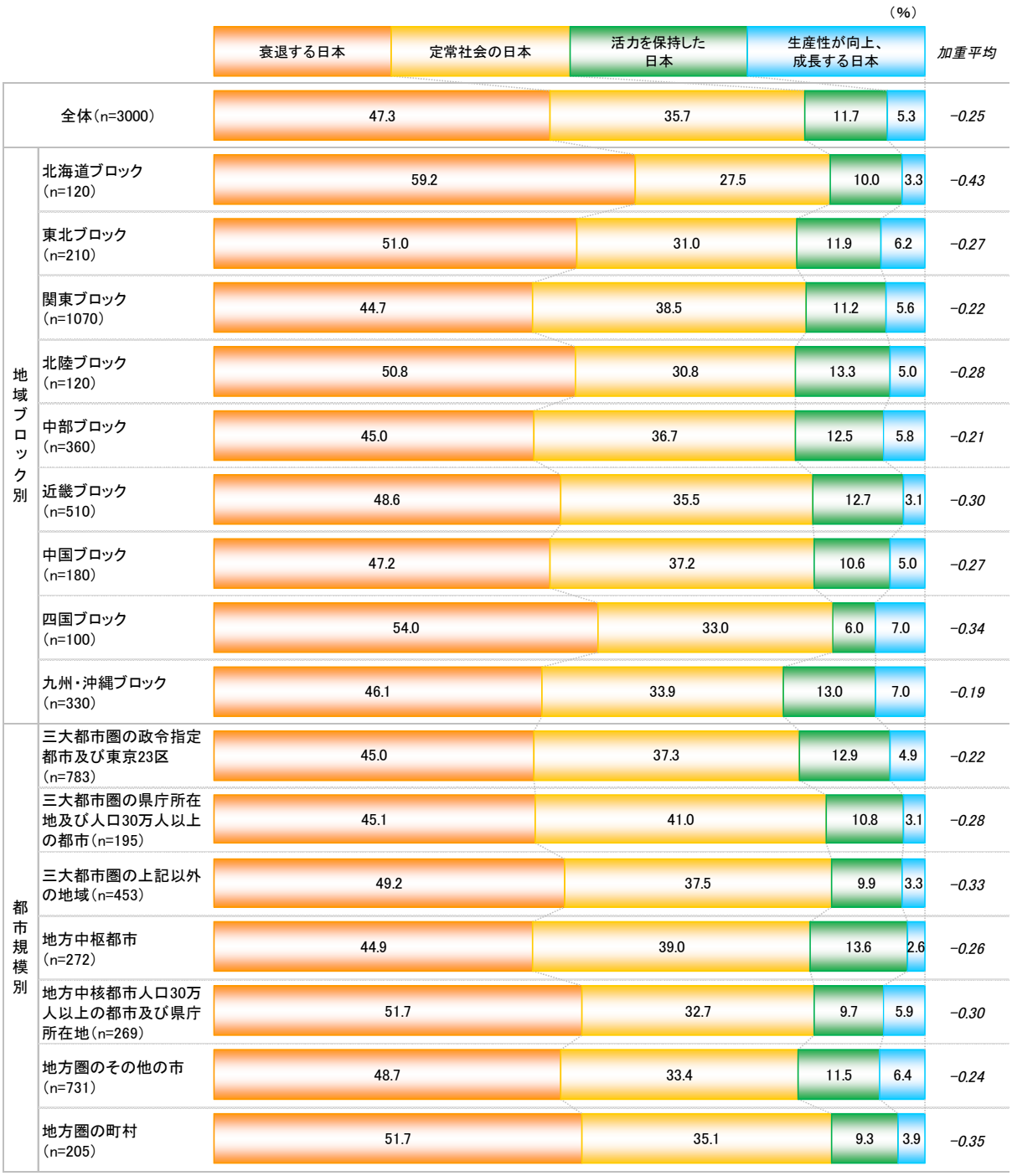
Q36-1.将来の日本が最もなりそうであると予測される姿はどれですか。

（%）

		衰退する日本（-1）	定常社会の日本（0）	活力を保持した日本（+1）	生産性が向上、成長する日本（+2）	今回加重平均	前回加重平均
	全体（n=3000）	55.8	30.4	10.2	3.6	-0.38	-0.25
地域ブロック別	北海道ブロック（n=120）	63.3	30.0	5.8	0.8	-0.56	-0.43
	東北ブロック（n=210）	48.6	35.2	11.0	5.2	-0.27	-0.27
	関東ブロック（n=1070）	59.2	30.0	7.8	3.1	-0.45	-0.22
	北陸ブロック（n=120）	46.7	32.5	15.8	5.0	-0.21	-0.28
	中部ブロック（n=360）	50.8	32.5	11.9	4.7	-0.29	-0.21
	近畿ブロック（n=510）	55.3	31.2	10.6	2.9	-0.39	-0.30
	中国ブロック（n=180）	55.6	27.8	16.1	0.6	-0.38	-0.27
	四国ブロック（n=100）	60.0	27.0	8.0	5.0	-0.42	-0.34
	九州・沖縄ブロック（n=330）	55.5	26.7	12.4	5.5	-0.32	-0.19
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区（n=846）	57.2	30.0	9.3	3.4	-0.41	-0.22
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市（n=302）	56.3	32.8	8.3	2.6	-0.43	-0.28
	三大都市圏の上記以外の地域（n=499）	56.7	32.1	8.6	2.6	-0.43	-0.33
	地方中枢都市（n=254）	57.1	31.5	9.8	1.6	-0.44	-0.26
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地（n=248）	50.8	33.9	10.5	4.8	-0.31	-0.30
	地方圏のその他の市（n=557）	56.7	30.3	9.9	3.1	-0.41	-0.24
	地方圏の町村（n=202）	56.4	22.3	15.3	5.9	-0.29	-0.35

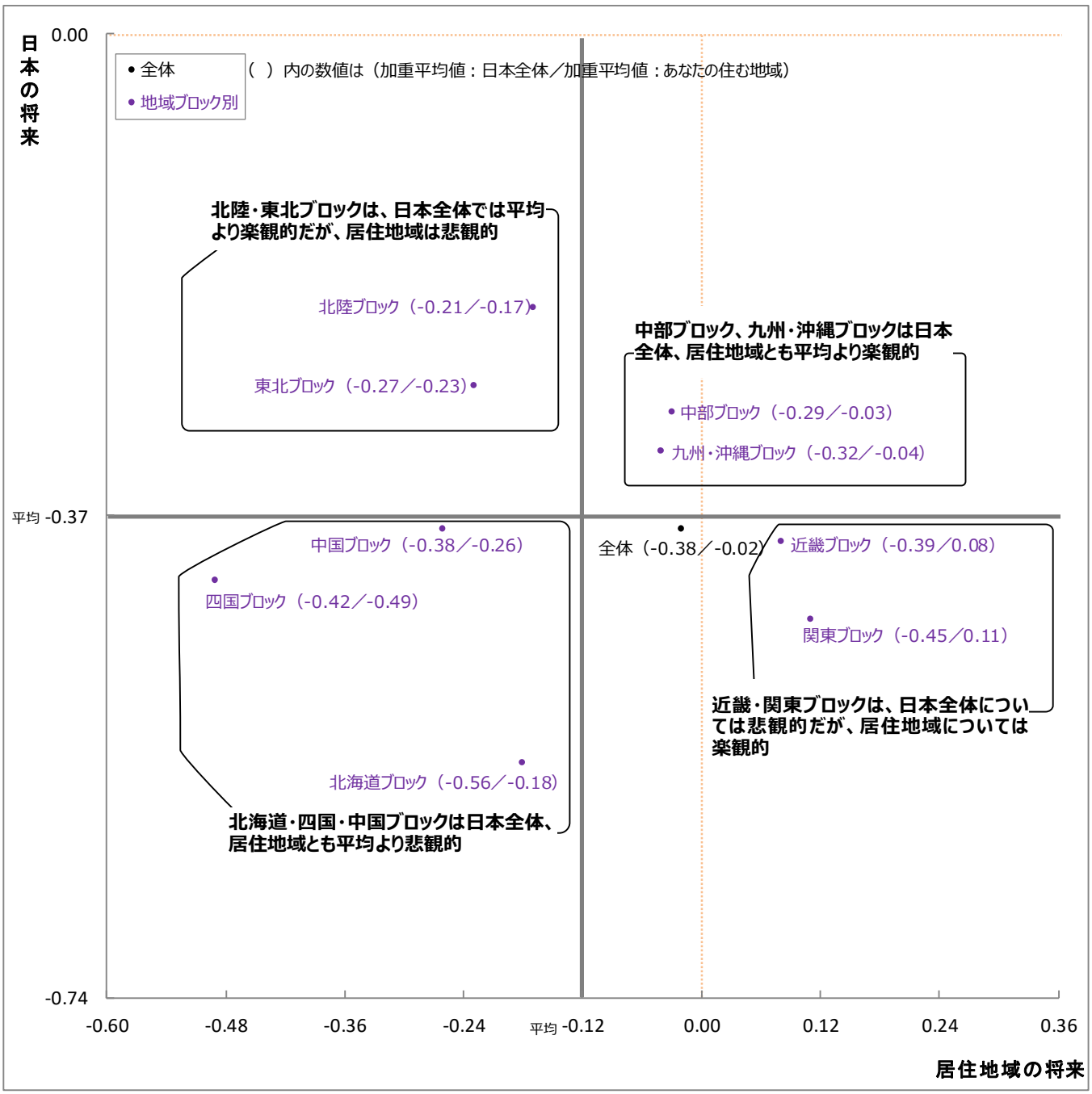
【前回】■日本の将来予測（衰退－成長）（Q26-1）〈地域別〉

Q26-1.将来の日本が最もなりそうであると予測される姿はどれですか。



■居住地域と日本の将来（衰退－成長）＜地域別＞（Q33-1、Q36-1）加重平均グラフ

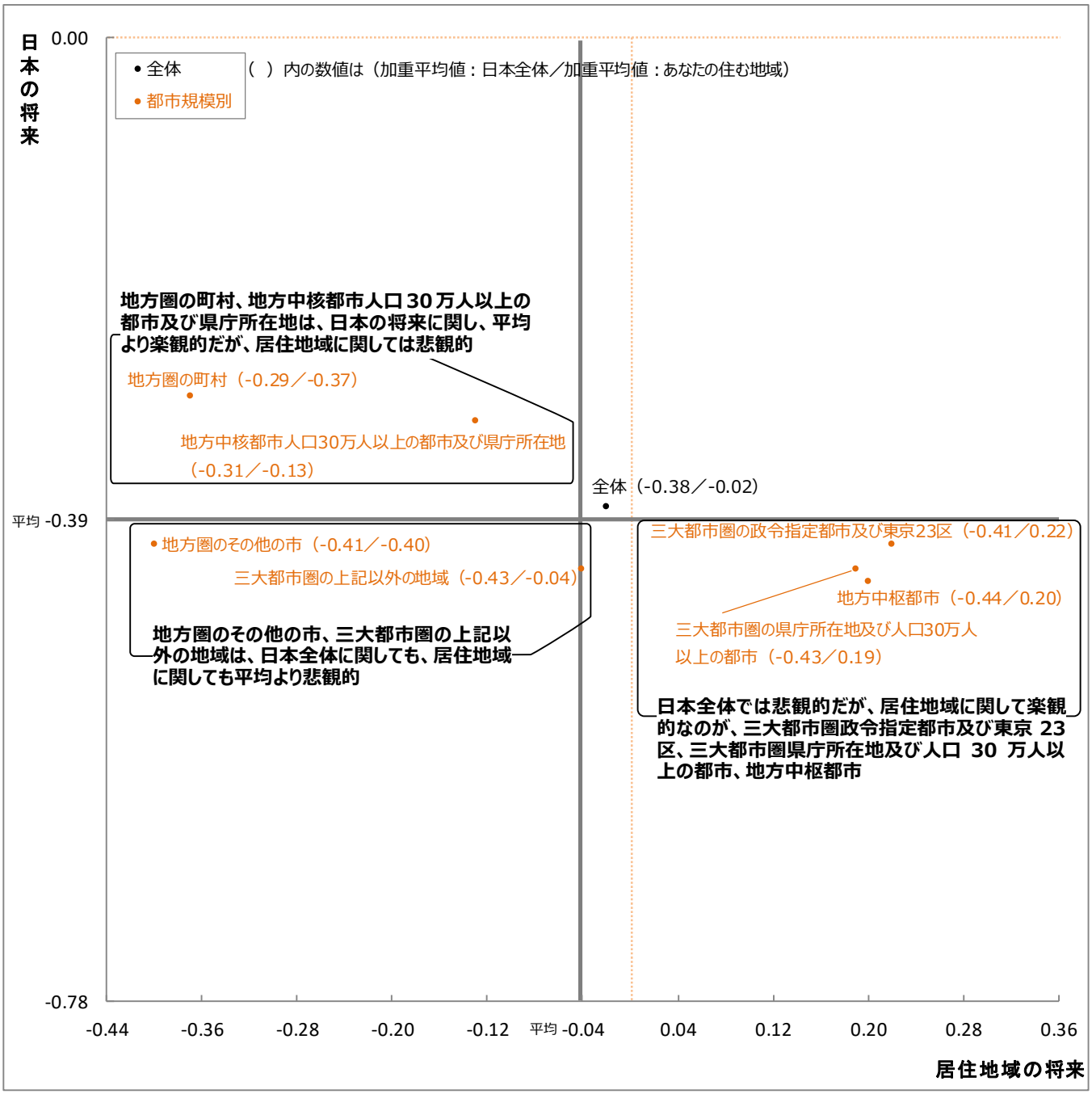
- 中部ブロック、九州・沖縄ブロックは日本全体、居住地域とも平均より楽観的。
- 北陸・東北ブロックは、日本全体では平均より楽観的だが、居住地域は悲観的。
- 近畿・関東ブロックは、日本全体については悲観的だが、居住地域については楽観的。
- 北海道・四国・中国ブロックは日本全体、居住地域とも平均より悲観的。



凡例）Q36.衰退する日本-1　定常社会の日本 0　活力を保持した日本+1　生産性が向上、成長する日本+2
Q33.衰退していく地域-1　質の高い生活がそれなりに維持される地域 0　便利で快適な地域+1　成長性の高い便利で快適な地域+2

■居住地域と日本の将来（衰退－成長）＜都市規模別＞（Q33-1、Q36-1）加重平均グラフ

- 日本の将来、居住地域の将来について、両方とも楽観的と評価する地域はない。
- 日本全体では悲観的だが、居住地域に関して楽観的なのが、三大都市圏政令指定都市及び東京 23 区、三大都市圏県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市、地方中枢都市。
- 地方圏の町村、地方中核都市人口 30 万人以上の都市及び県庁所在地は、日本の将来に関し、平均より楽観的だが、居住地域に関しては悲観的。
- 地方圏のその他の市、三大都市圏の上記以外の地域は、日本全体に関しても、居住地域に関しても平均より悲観的。



凡例）Q36.衰退する日本−1　定常社会の日本 0　活力を保持した日本+1　生産性が向上、成長する日本+2
Q33.衰退していく地域−1　質の高い生活がそれなりに維持される地域 0　便利で快適な地域+1　成長性の高い便利で快適な地域+2

三大都市圏の政令指定都市（さいたま市・千葉市・横浜市・川崎市・相模原市・名古屋市・京都市・大阪市・堺市・神戸市）及び東京 23 区
三大都市圏の県庁所在地及び人口 30 万人以上の都市（所沢市・四日市市・大津市など）
三大都市圏の上記以外の地域
地方中枢都市（札幌市・仙台市・広島市・福岡市・北九州市）
地地方中核都市人口 30 万人以上の都市及び県庁所在地（旭川市・いわき市・浜松市・福山市など）
地方圏のその他の市
地方圏の町村

■日本のなるべき姿（衰退－成長）（Q36-2）〈性・年代別〉

・　性別、年代別とも、いずれのグループも最も割合が高いのは「活力を保持した日本」もしくは「成長する日本」であり、その割合は 3 割～4 割程度である。

Q36-2.将来の日本がなるべきと思われる姿はどれですか。

（%）

		n	衰退する日本 (−1)	定常社会の日本 (0)	活力を保持した日本 (+1)	生産性が向上、成長する日本 (+2)	今回 加重平均	前回 加重平均
全体		3000	15.8	22.5	35.0	26.7	0.73	0.68
性年代	男性18-29歳	300	19.7	23.7	25.7	31.0	0.68	0.76
	男性30代	300	19.3	19.7	35.7	25.3	0.67	0.61
	男性40代	300	18.0	27.7	30.7	23.7	0.60	0.49
	男性50代	300	19.7	25.0	37.0	18.3	0.54	0.50
	男性60-79歳	300	14.0	24.7	40.3	21.0	0.68	0.64
	女性18-29歳	300	12.0	20.0	34.0	34.0	0.90	0.86
	女性30代	300	12.3	20.3	33.7	33.7	0.89	0.85
	女性40代	300	16.3	21.0	36.3	26.3	0.73	0.66
	女性50代	300	13.0	23.0	37.0	27.0	0.78	0.73
	女性60-79歳	300	13.7	20.0	39.7	26.7	0.79	0.67

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

■日本のなるべき姿（衰退－成長）（Q36-2）〈地域別〉

- 地域別で見ると、東北では「生産性が向上、成長する日本」の割合が最も高くなっているが、それ他の地域では、「活力を保持した日本」の割合が最も高い。
- 都市規模別で見ると、いずれのグループも「活力を保持した日本」の割合が最も高く、1/3 である。
- 前回調査と比較すると、関東だけが「生産性が向上、成長する日本」の割合が減少している。

※ 前回結果は次ページ参照

Q36-2.将来の日本がなるべきと思われる姿はどれですか。

（%）

		衰退する日本 (-1)	定常社会の日本 (0)	活力を保持した日本 (+1)	生産性が向上、成長する日本 (+2)	今回 加重平均	前回 加重平均
	全体（n=3000）	15.8	22.5	35.0	26.7	0.73	0.68
地域ブロック別	北海道ブロック（n=120）	13.3	20.8	35.0	30.8	0.83	0.47
	東北ブロック（n=210）	9.5	27.6	28.1	34.8	0.88	0.62
	関東ブロック（n=1070）	16.3	22.2	37.4	24.1	0.69	0.71
	北陸ブロック（n=120）	14.2	24.2	33.3	28.3	0.76	0.63
	中部ブロック（n=360）	12.2	24.7	35.0	28.1	0.79	0.70
	近畿ブロック（n=510）	18.8	23.5	33.9	23.7	0.63	0.65
	中国ブロック（n=180）	21.1	18.9	35.6	24.4	0.63	0.73
	四国ブロック（n=100）	16.0	24.0	34.0	26.0	0.70	0.62
	九州・沖縄ブロック（n=330）	16.1	17.6	33.9	32.4	0.83	0.68
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区（n=846）	15.1	22.3	35.6	27.0	0.74	0.69
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市（n=302）	16.2	23.5	37.7	22.5	0.67	0.64
	三大都市圏の上記以外の地域（n=499）	16.8	25.5	36.5	21.2	0.62	0.71
	地方中枢都市（n=254）	15.0	18.5	35.8	30.7	0.82	0.67
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地（n=248）	14.1	22.6	34.3	29.0	0.78	0.75
	地方圏のその他の市（n=557）	16.2	21.7	32.1	30.0	0.76	0.62
	地方圏の町村（n=202）	15.8	22.3	37.1	24.8	0.71	0.60

【前回】■日本のなるべき姿（衰退－成長）（Q26-2）〈地域別〉

Q26-2.将来の日本がなるべきと思われる姿はどれですか。

（%）

		衰退する日本	定常社会の日本	活力を保持した日本	生産性が向上、成長する日本	加重平均
	全体（n=3000）	13.9	26.9	36.8	22.4	0.68
地域ブロック別	北海道ブロック（n=120）	20.0	29.2	35.0	15.8	0.47
	東北ブロック（n=210）	15.2	26.2	39.5	19.0	0.62
	関東ブロック（n=1070）	11.4	30.4	34.0	24.2	0.71
	北陸ブロック（n=120）	11.7	31.7	38.3	18.3	0.63
	中部ブロック（n=360）	16.1	23.3	34.7	25.8	0.70
	近畿ブロック（n=510）	16.9	22.7	38.6	21.8	0.65
	中国ブロック（n=180）	9.4	26.1	46.1	18.3	0.73
	四国ブロック（n=100）	18.0	21.0	42.0	19.0	0.62
	九州・沖縄ブロック（n=330）	14.2	26.1	37.0	22.7	0.68
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区（n=783）	14.7	24.5	37.9	22.9	0.69
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市（n=195）	10.3	36.9	31.8	21.0	0.64
	三大都市圏の上記以外の地域（n=453）	12.1	28.7	35.1	24.1	0.71
	地方中枢都市（n=272）	13.6	25.7	40.8	19.9	0.67
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地（n=269）	10.8	29.0	34.9	25.3	0.75
	地方圏のその他の市（n=731）	15.0	27.5	37.6	19.8	0.62
	地方圏の町村（n=205）	18.0	22.9	39.5	19.5	0.60

11-4. 日本の将来予測、なるべき姿（社会課題に関する受動－能動）（Q37）

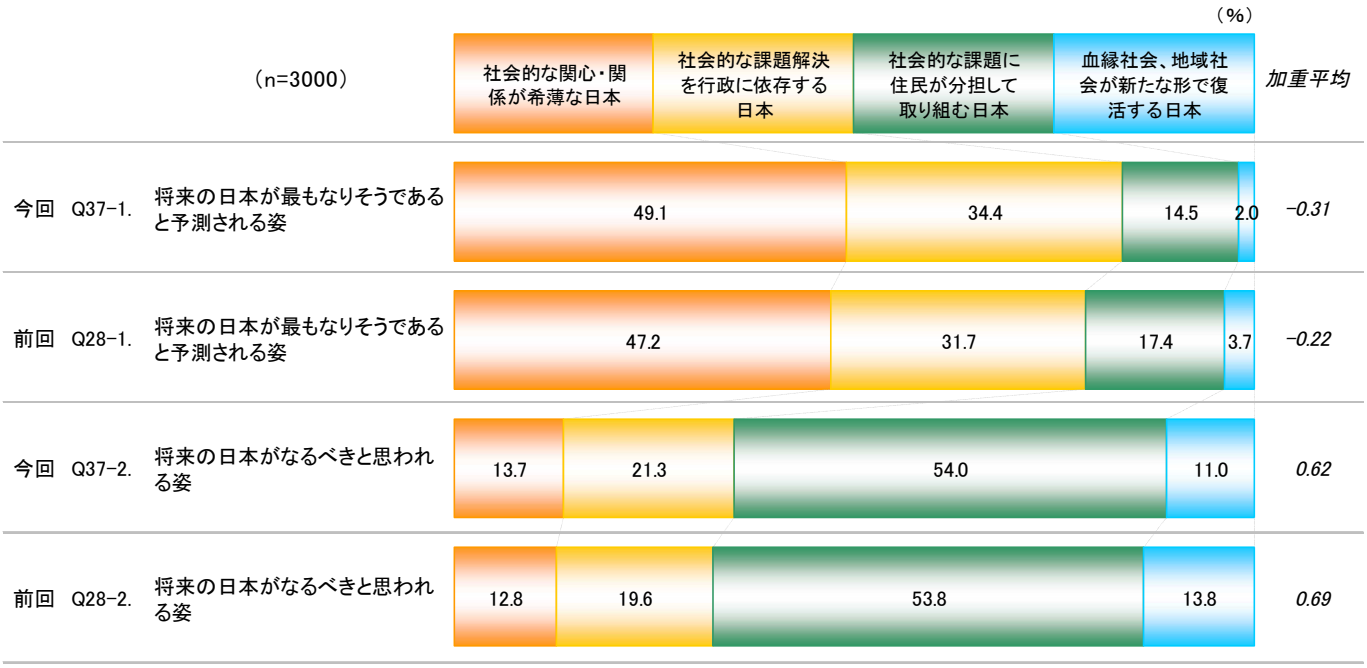
- 将来予測となるべき姿でギャップがあり、その差は居住地域よりも大きい。（「社会的な関心・関係が希薄な日本」なりそう 49.1%（＞なるべき 13.7%）、「住民が分担して取り組む日本」なりそう 14.5%（＜なるべき 54.0%）
- 居住地域と比較すると、将来予測については「社会的な関心・関係が希薄」の割合が多く（日本全体 49.1%＞居住地域 30.7%）、なるべき姿については「社会的な課題に住民が分担して取り組む」の割合が多い（日本全体 54.0%＞居住地域 47.9%）。
- 前回調査との比較については、将来予測・なるべき姿のいずれの選択肢も変動は 3 ポイント未満である。

Q37　日本の将来（2050 年前後を想定）について、次のような意見（見方）があります。

1. **社会的な関心・関係が希薄な日本** 必要な情報はネットかSNSから入手、自分にとって意味、興味のあることには反応するが、そうでないものに対しては社会的な関心も興味も示さない個人のことしか考えない社会が形成される日本
2. **社会的な課題解決を行政に依存する日本** 各個人の価値観や規範に基づく個人主義的な社会になり、社会的な問題には一定の理解を行うものの、具体的な行動などは起こさず、行政に委ねる社会が形成される日本
3. **社会的な課題に住民が分担して取り組む日本** 社会の様々な課題に対し、行政に依存するのではなく、住民や NPO が社会産業（ソーシャルビジネス）を立ち上げ、行政と住民が分担して解決に取り組むような社会が形成される日本
4. **血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本** 地域の風土や文化が見直され、伝統的な血縁社会、地域社会が新たな形で復活し、生活・社会行動の基盤となるような日本

Q37-1.将来の日本が最もなりそうであると予測される姿はどれですか。

Q37-2.将来の日本がなるべきと思われる姿はどれですか。



■日本の将来予測（社会課題に関する受動－能動）（Q37-1）〈性・年代別〉

・　性別、年代別とも、いずれのグループでも「社会的な関心・関係が希薄な日本」の割合が最も高く、5 割程度である。

Q37-1.将来の日本が最もなりそうであると予測される姿はどれですか。

（%）

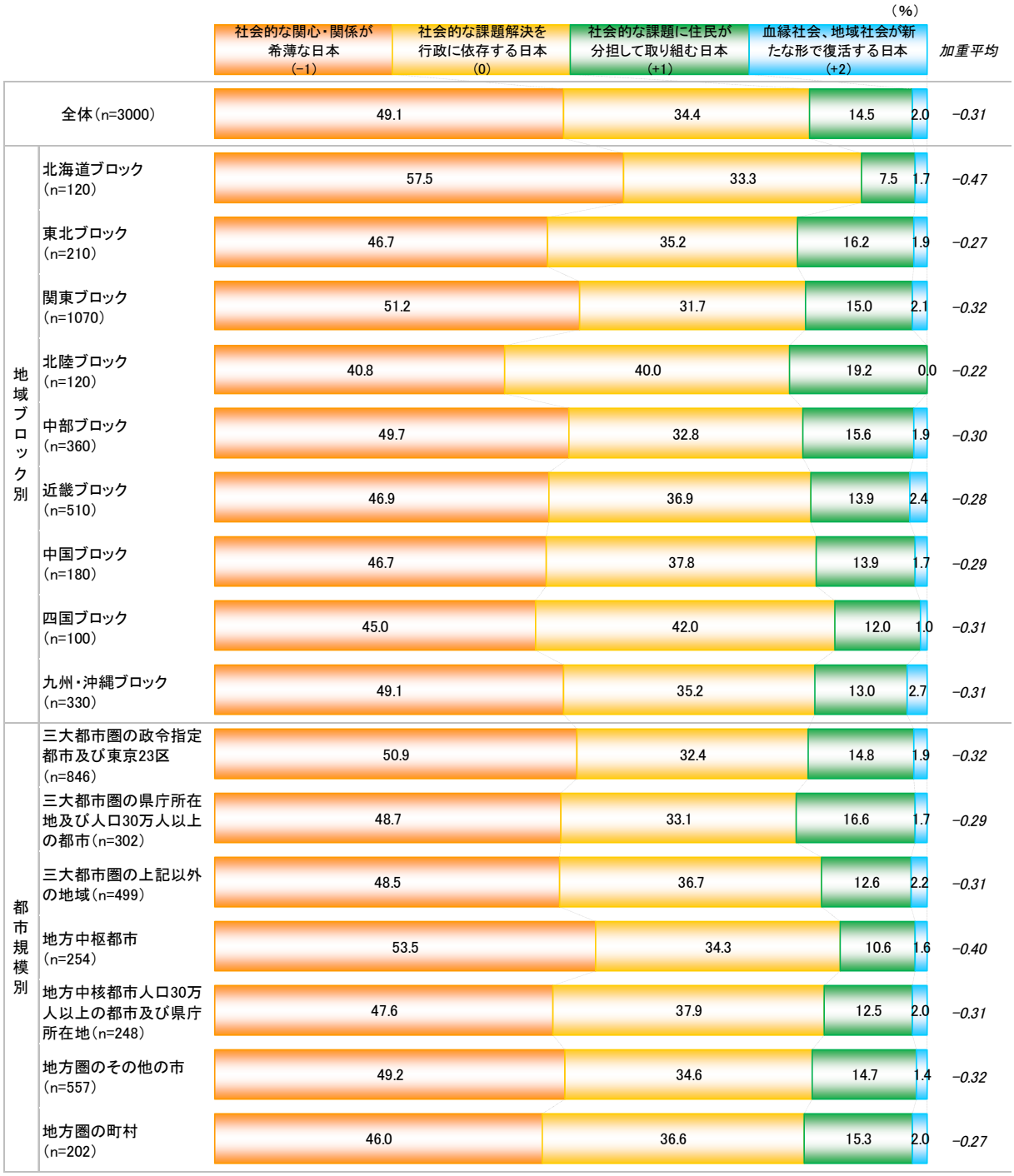
		n	社会的な関心・関係が希薄な日本 (−1)	社会的な課題解決を行政に依存する日本 (0)	社会的な課題に住民が分担して取り組む日本 (+1)	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本 (+2)	加重平均
全体		3000	49.1	34.4	14.5	2.0	−0.31
性年代	男性18−29歳	300	45.3	35.3	14.3	5.0	−0.21
	男性30代	300	51.7	31.3	14.7	2.3	−0.32
	男性40代	300	51.0	32.3	15.0	1.7	−0.33
	男性50代	300	50.3	34.3	14.0	1.3	−0.34
	男性60−79歳	300	44.7	39.0	15.7	0.7	−0.28
	女性18−29歳	300	49.0	34.0	15.3	1.7	−0.30
	女性30代	300	53.3	33.0	11.3	2.3	−0.37
	女性40代	300	50.3	37.7	11.3	0.7	−0.38
	女性50代	300	43.3	36.3	17.3	3.0	−0.20
	女性60−79歳	300	52.0	31.0	15.7	1.3	−0.34

n100 以上について　■全体より 10 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上高い　■全体より 5 ポイント以上低い　■全体より 10 ポイント以上低い

■日本の将来予測（社会課題に関する受動－能動）（Q37-1）〈地域別〉

- 地域別、都市規模別ともに、いずれのグループでも「社会的な関心・関係が希薄な日本」の割合が最も高く 4 割～6 割程度である。
- 地域別で見ると、「社会的な関心・関係が希薄な日本」の割合は、北海道で最も高く、北陸で最も低い、その差は 16.7 ポイントである。

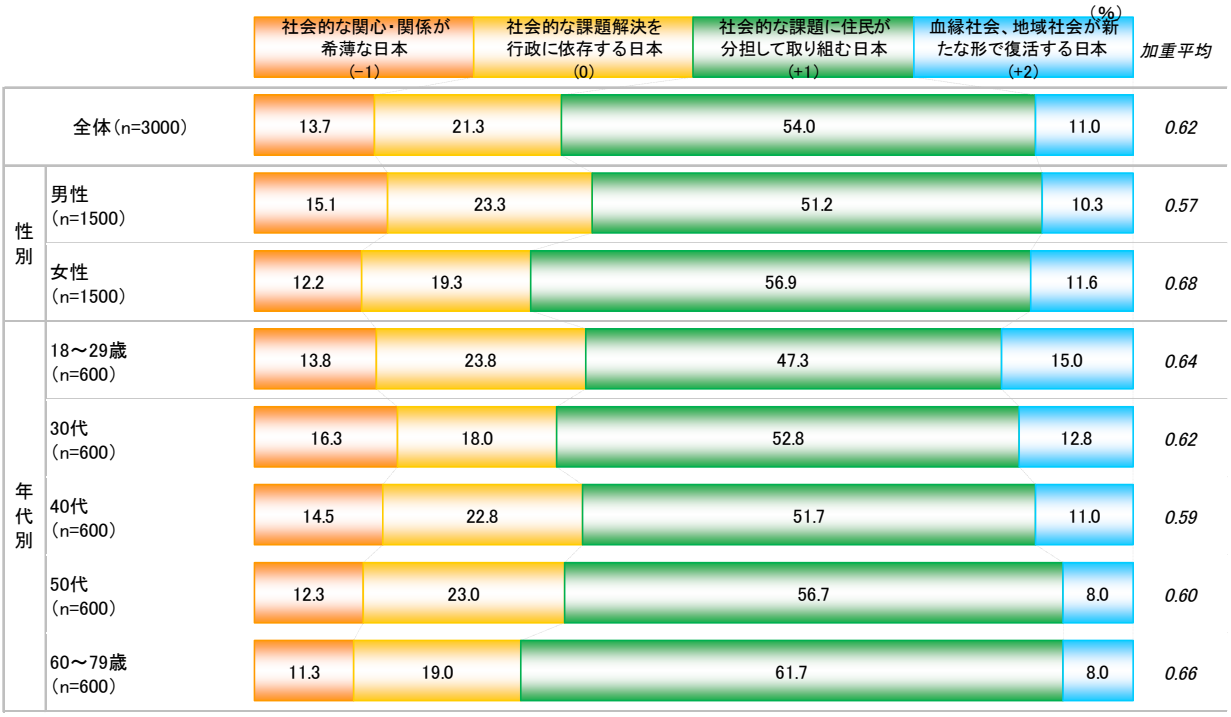
Q37-1.将来の日本が最もなりそうであると予測される姿はどれですか。



■日本のなるべき姿（社会課題に関する受動－能動）（Q37-2）〈性・年代別〉

- 性別、年代別ともに、いずれのグループでも「社会的な課題に住民が分担して取り組む日本」の割合が最も高く、5 割～6 割程度である。
- 性別で見ると、女性は男性と比較し、「社会的な課題に住民が分担して取り組む日本」の割合が 5.7 ポイント高い。
- 年代別で見ると、「社会的な課題に住民が分担して取り組む日本」の割合は上の年代ほど高い傾向にある。

Q37-2.将来の日本がなるべきと思われる姿はどれですか。



（%）

		n	社会的な関心・関係が希薄な日本 (-1)	社会的な課題解決を行政に依存する日本 (0)	社会的な課題に住民が分担して取り組む日本 (+1)	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本 (+2)	加重平均
全体		3000	13.7	21.3	54.0	11.0	0.62
性年代	男性18-29歳	300	16.3	28.0	42.3	13.3	0.53
	男性30代	300	18.7	18.3	52.0	11.0	0.55
	男性40代	300	16.3	23.0	48.7	12.0	0.56
	男性50代	300	14.7	25.7	53.0	6.7	0.52
	男性60-79歳	300	9.7	21.7	60.0	8.7	0.68
	女性18-29歳	300	11.3	19.7	52.3	16.7	0.74
	女性30代	300	14.0	17.7	53.7	14.7	0.69
	女性40代	300	12.7	22.7	54.7	10.0	0.62
	女性50代	300	10.0	20.3	60.3	9.3	0.69
	女性60-79歳	300	13.0	16.3	63.3	7.3	0.65

n100 以上について ■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

■日本のなるべき姿（社会課題に関する受動－能動）（Q37-2）〈地域別〉

・　地域別、都市規模別ともに、いずれのグループでも「社会的な課題に住民が分担して取り組む日本」の割合が最も高く、5 割程度である。

Q37-2.将来の日本がなるべきと思われる姿はどれですか。

（%）

		社会的な関心・関係が希薄な日本（-1）	社会的な課題解決を行政に依存する日本（0）	社会的な課題に住民が分担して取り組む日本（+1）	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本（+2）	加重平均
	全体（n=3000）	13.7	21.3	54.0	11.0	0.62
地域ブロック別	北海道ブロック（n=120）	9.2	20.0	55.0	15.8	0.78
	東北ブロック（n=210）	12.9	21.4	55.2	10.5	0.63
	関東ブロック（n=1070）	13.6	22.5	54.4	9.4	0.60
	北陸ブロック（n=120）	15.0	20.8	50.0	14.2	0.63
	中部ブロック（n=360）	13.1	21.4	54.4	11.1	0.64
	近畿ブロック（n=510）	13.7	21.2	54.5	10.6	0.62
	中国ブロック（n=180）	12.8	21.7	55.0	10.6	0.63
	四国ブロック（n=100）	13.0	24.0	48.0	15.0	0.65
	九州・沖縄ブロック（n=330）	16.7	17.3	53.3	12.7	0.62
都市規模別	三大都市圏の政令指定都市及び東京23区（n=846）	13.2	22.8	55.2	8.7	0.59
	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市（n=302）	14.9	21.9	52.3	10.9	0.59
	三大都市圏の上記以外の地域（n=499）	12.4	20.8	56.5	10.2	0.65
	地方中枢都市（n=254）	14.6	17.3	56.3	11.8	0.65
	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地（n=248）	11.7	21.8	50.8	15.7	0.71
	地方圏のその他の市（n=557）	14.0	20.1	53.0	12.9	0.65
	地方圏の町村（n=202）	15.3	22.8	54.0	7.9	0.54

相関分析

■社会・生活に関する不安、社会・生活に関する重要度をランクづけ分類した相関分析

（1）ランクづけ分類の方法 → 3つに区分け（類型化）

今回　Q1Q2 得点ランク区分

社会・生活に関する不安（自分・生活地域） 非常に不安を感じる　+2点 不安を感じる　+1点 どちらともいえない　0点 不安は感じない　-1点 全く不安は感じない　-2点 とした各項目の加重平均の合計点を右のように３つ区分けした	**安全・安心** **10項目**	**不安度−高**	11～20点
		不安度−中	1～10点
		不安度−低	-20～0点
	活力・交流 **7項目**	**不安度−高**	8～14点
		不安度−中	1～7点
		不安度−低	-14～0点
	心豊かな暮らし **6項目**	**不安度−高**	7～12点
		不安度−中	1～6点
		不安度−低	-12～0点
	全体 **23項目**	**不安度−高**	24～46点
		不安度−中	1～23点
		不安度−低	-46～0点
社会・生活に関する不安（日本全体・社会） 非常に不安を感じる　+2点 不安を感じる　+1点 どちらともいえない　0点 不安は感じない　-1点 全く不安は感じない　-2点 とした各項目の加重平均の合計点を右のように３つ区分けした	**安全・安心** **10項目**	**不安度−高**	11～20点
		不安度−中	1～10点
		不安度−低	-20～0点
	活力・交流 **7項目**	**不安度−高**	8～14点
		不安度−中	1～7点
		不安度−低	-14～0点
	心豊かな暮らし **6項目**	**不安度−高**	7～12点
		不安度−中	1～6点
		不安度−低	-12～0点
	全体 **23項目**	**不安度−高**	24～46点
		不安度−中	1～23点
		不安度−低	-46～0点
社会・生活に関する重要度 非常に重要　+2点 重要　+1点 重要度は低い　-1点 わからない　0点 とした各項目の加重平均の合計点を右のように３つ区分けした	**安全・安心** **9項目**	**重要度−高**	10～18点
		重要度−中	1～9点
		重要度−低	-9～0点
	活力・交流 **10項目**	**重要度−高**	11～20点
		重要度−中	1～10点
		重要度−低	-10～0点
	心豊かな暮らし **11項目**	**重要度−高**	12～22点
		重要度−中	1～11点
		重要度−低	-11～0点
	全体 **30項目**	**重要度−高**	31～60点
		重要度−中	1～30点
		重要度−低	-30～0点

（参考：再掲Ｑ１、Ｑ２質問項目）

社会・生活に関する不安

安全・安心　10 項目

ア）気候変動等に伴い、水害・台風などの災害の規模が大きくなり、頻度が増える
イ）南海トラフ、首都圏直下型などの大地震が起こる
ウ）世界の食料事情が厳しくなり、食料の供給・安全性に不安が生じる
エ）世界のエネルギー事情が厳しくなり、エネルギー供給に不安が生じる
オ）温暖化、酸性雨などの地球温暖化問題が進行する
カ）テロ、戦争が発生する
キ）治安が悪化し、犯罪が増加する
ク）原発事故、放射性物質による汚染が広がる
ケ）交通事故、飛行機事故に遭う
コ）新型コロナウイルスなどの感染症により、社会・経済・生活活動が停滞、破綻する

活力・交流　７項目

サ）世界の経済状況が悪化する
シ）日本の経済成長、景気が悪化する
ス）日本社会での経済等の格差が拡大する
セ）人口減少・少子化・高齢化が進行する
ソ）地域間格差が拡大（東京一極集中、地方の疲弊）する
タ）地域間や都市間の移動・交流を支える公共交通がなくなる
チ）効率性、採算性のよい施設しか維持されなくなる

心豊かな暮らし　６項目

ツ）自然・景観が損なわれる
テ）子育て、教育などの環境が悪くなる
ト）空き家が増えるなどで生活環境が悪化する
ナ）買物や通勤・通学などの地域内の日常的な移動・交流を支える公共交通がなくなる
ニ）伝統ある地域文化が衰退する
ヌ）地域社会（コミュニティ）が衰退する

社会・生活に関する重要度

安全・安心　９項目

ア）気候変動等に伴い、規模が大きくなり頻度の増えた水害・台風などの災害から護られること
イ）南海トラフ、首都圏直下型などの大地震から護られること
ウ）エネルギーが安定的に供給されること
エ）地球温暖化が進まないようにすること
オ）食品の供給や安全性を確保すること
カ）テロ、戦争が起きないようにすること
キ）治安を維持し、犯罪を防ぐこと
ク）原発事故等を起こさないようにすること

ケ）交通事故、飛行機事故を防ぐこと

活力・交流　10 項目

コ）強い国際競争力が保持されること
サ）活力ある日本の経済が保持されること
シ）活力ある地域の社会が保持されること
ス）技術革新の進展、技術革新の展開がなされること
セ）観光振興がなされ、他地域や外国から多くの人が訪れること
ソ）地域間や都市間を円滑に人や物が移動できること
タ）もっと便利で効率的に情報交換（入手）ができるための情報基盤施設が整備されること
チ）雇用が維持され、収入が確保されること他地域、海外との活発な交流がなされること
ツ）インフラ（社会資本）の保全により、経済や社会の効率・活力を高めること
テ）外国人観光客・労働者の増加などに伴うグローバル化に対応すること

心豊かな暮らし　11 項目

ト）家族が心豊かに快適に暮らせること
ナ）自分や家族が健康であること
ニ）自分や家族の仕事が充実していること
ヌ）生活に必要な収入が確保されること
ネ）医療・福祉体制が充実していること
ノ）子育てや教育の環境が充実していること
ハ）相互に助け合う地域社会が維持されること
ヒ）快適で美しい街並みや居住環境が保持、形成されること
フ）資源・エネルギーの再利用や CO2 の削減等がなされ脱炭素社会が構築されること
ヘ）人と自然が共生する生活を送れること
ホ）地域の人々が快適で便利な社会生活を送れること

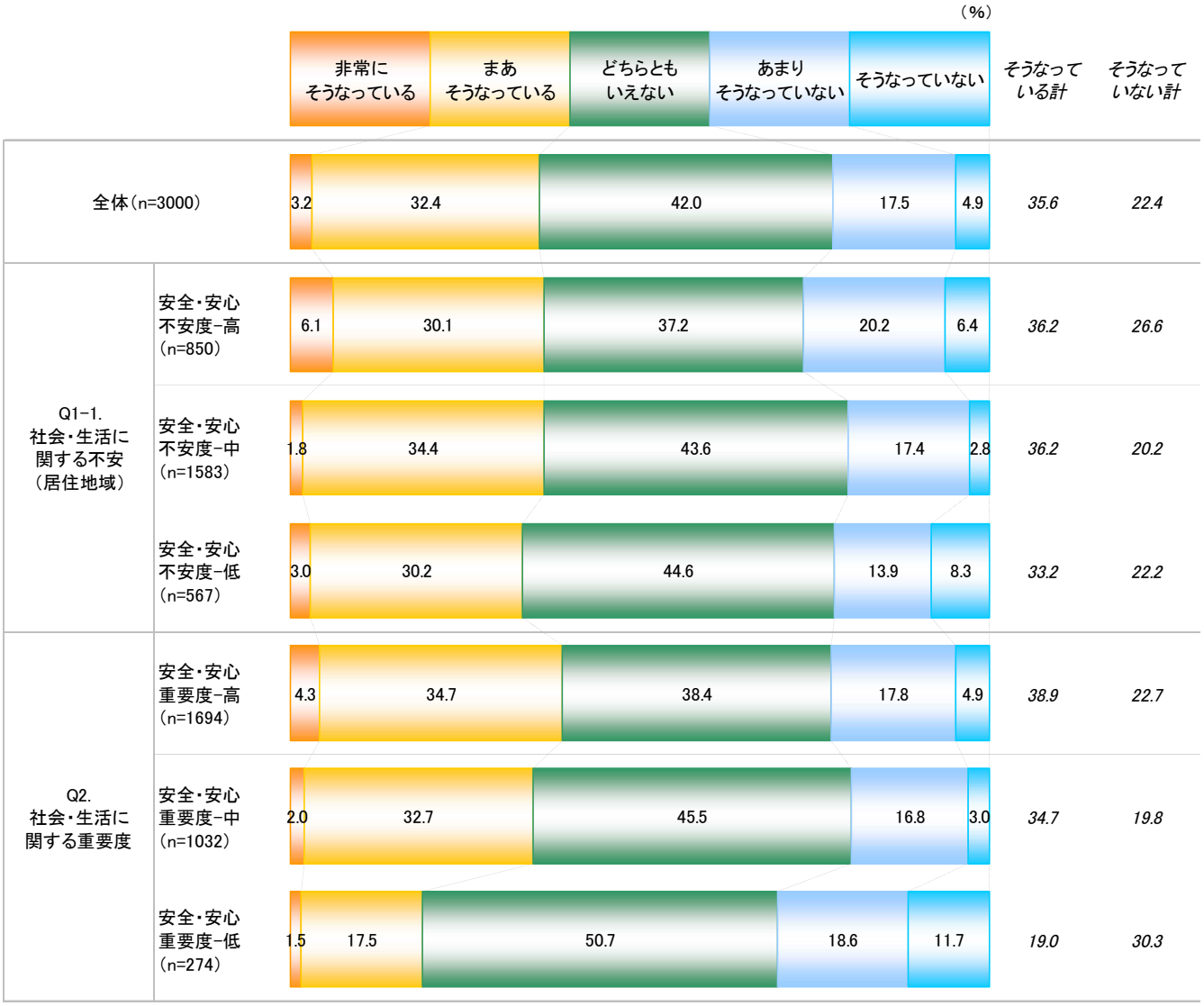
(2)社会・生活に関する不安、重要度をランクづけ分類した相関分析結果

■社会・国土形成に関する充足度評価(居住地域) × 社会・生活に関する不安度(居住地域)・重要度評価 の相関分析

- 全体的には、「社会・生活に関する不安・重要度評価」で不安度・重要度評価が高い人ほど「社会や国土の形成の充足度評価(居住地域)」の「重要」計の割合が高くなる傾向にある。
- ただし、「安全・安心」の分野については、不安度に違いによる「そうなっている」計の割合の差が著しく小さい。

＜安全・安心＞

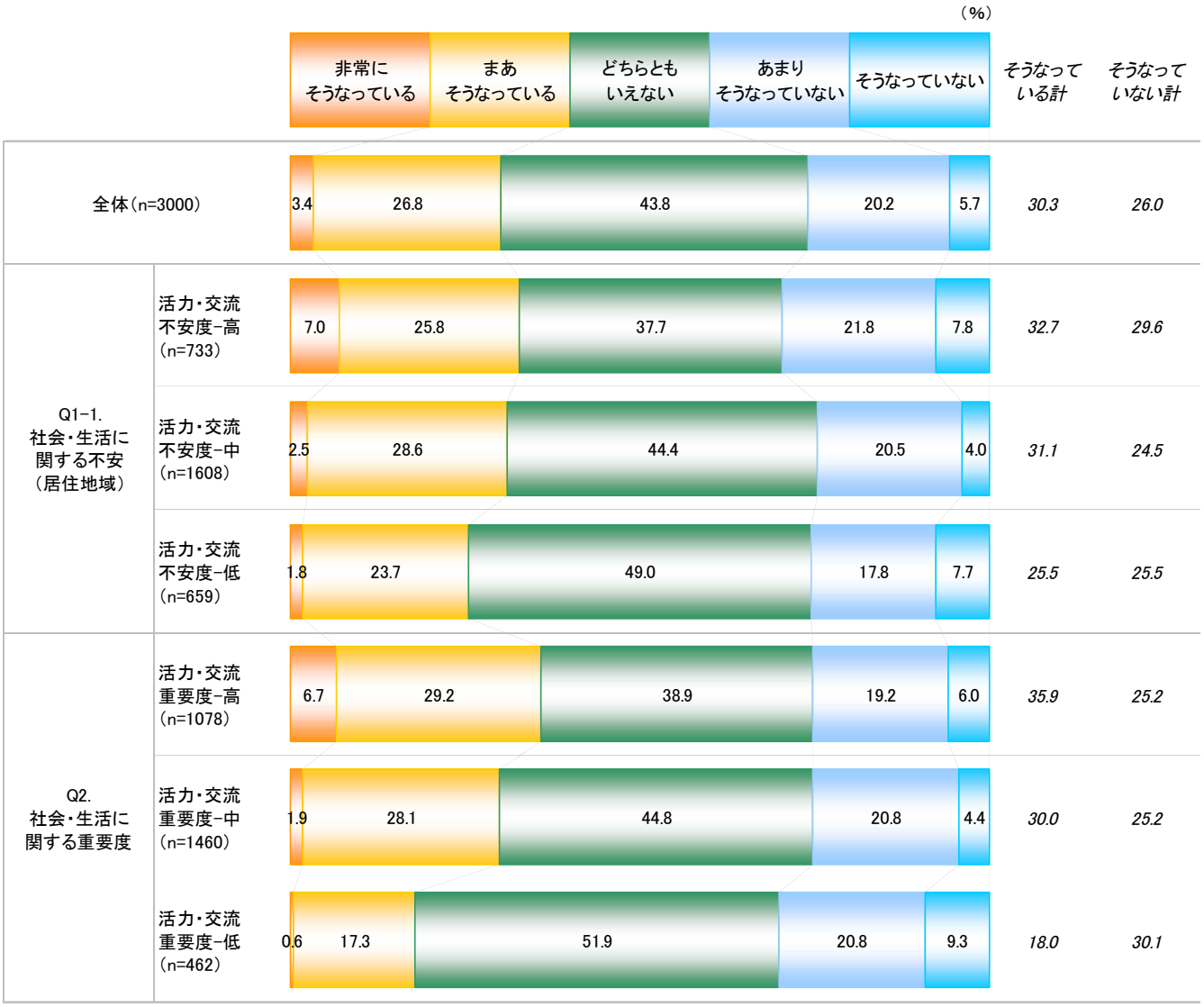
Q4. 自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土が形成されていると思いますか。(それぞれひとつだけ)
＜Q4-1.社会・国土形成 安心・安全 充足度【居住地域】＞



＜活力・交流＞

Q5.　人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土が形成されていると思いますか。（それぞれひとつだけ）

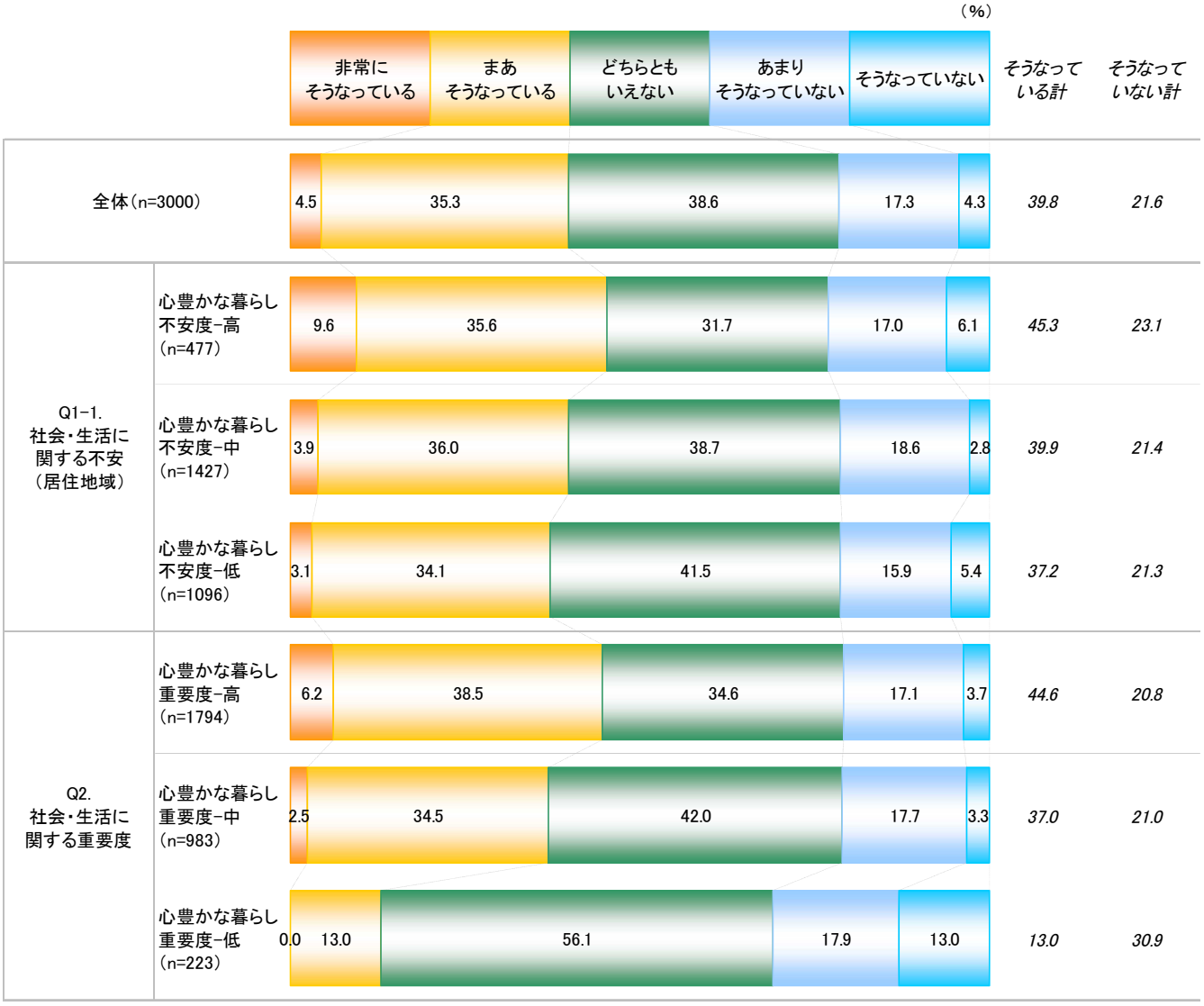
＜Q5-1.社会・国土形成　活力・交流　充足度【居住地域】＞



＜心豊かな暮らし＞

Q6.　心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土が形成されていると思いますか。(それぞれひとつだけ)

＜Q6-1.社会・国土形成　心豊かな暮らし　充足度【居住地域】＞



■社会・国土の形成に関する重要度評価　×　生活・社会に関する不安（居住地域）・重要度評価　の相関分析

・　「安全・安心」、「活力・交流」、「心豊かな暮らし」いずれの分野でも「社会・生活に関する不安（居住地域）・重要度評価」で不安度・重要度評価が高い人ほど「社会や国土の形成の重要度評価」の「重要」計の割合が高くなる。

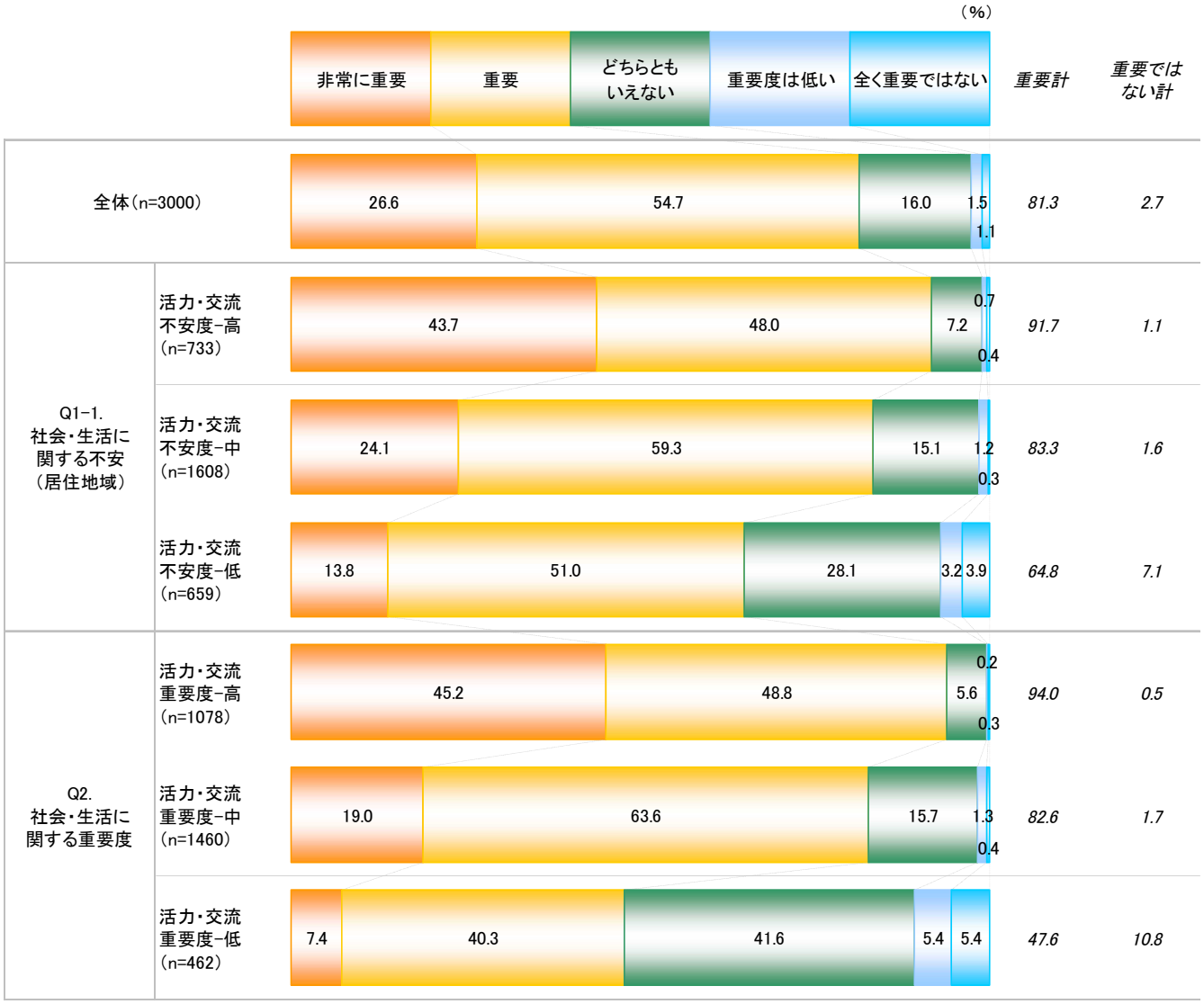
＜安全・安心＞

Q4SQ1.　将来的に、自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。（○は一つ）

＜Q4-3.社会・国土形成　安心・安全　重要度（居住地域）＞

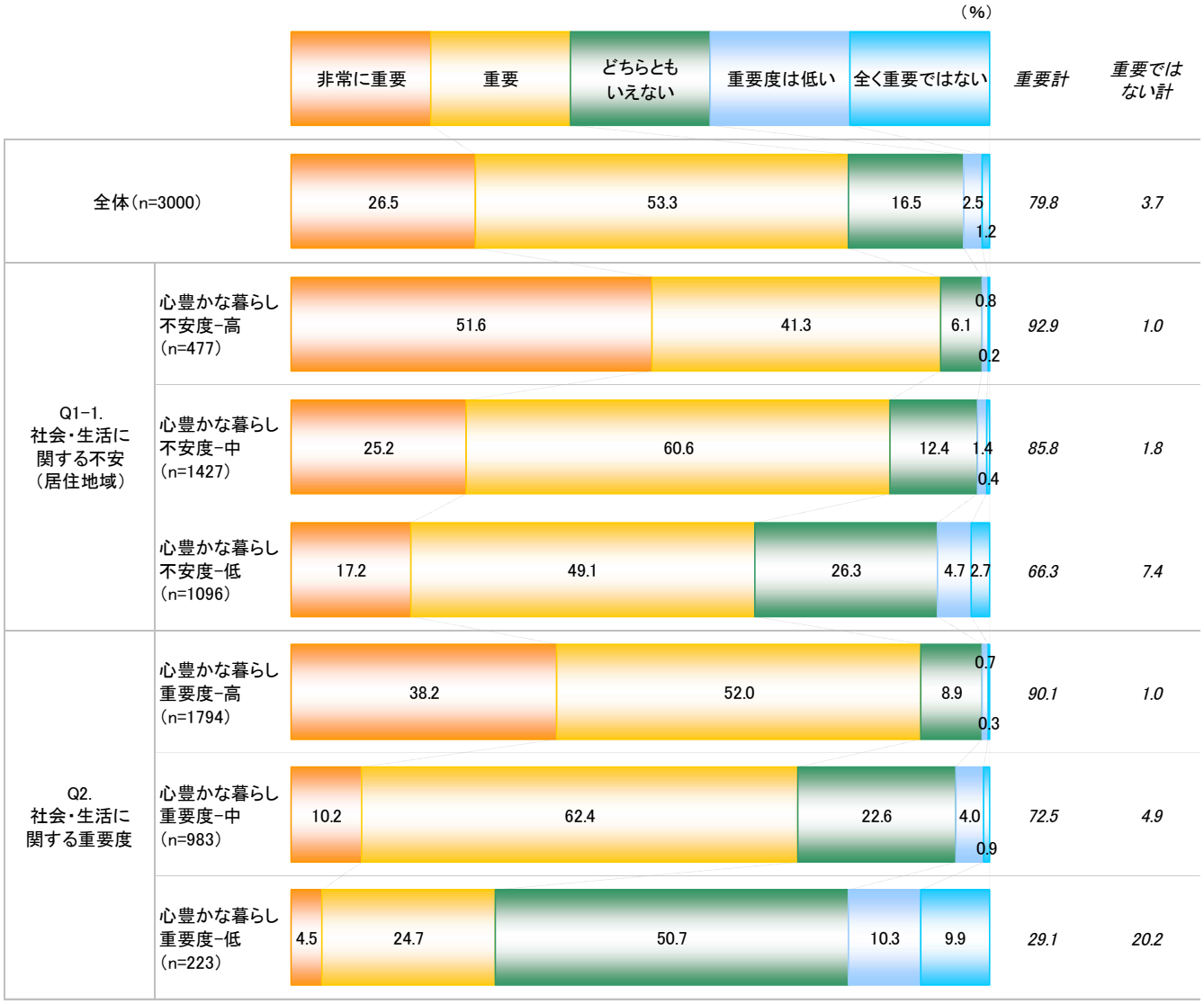
＜活力・交流＞

Q5SQ1. 将来的に、人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。（〇は一つ）
＜Q5-3.社会・国土形成　交流・活力　重要度（居住地域）＞



＜心豊かな暮らし＞

Q6SQ1. 将来的に、心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。（〇は一つ）
＜Q6-3.社会・国土形成　心豊かな暮らし　重要度（居住地域）＞



■社会や国土の形成に関する充足度評価（日本全体） × 社会・生活に関する不安（日本全体）・重要度評価 の相関分析

- 全体的には、「社会・生活に関する不安（日本全体）・重要度評価」で不安度・重要度評価が高い人ほど「社会や国土の形成の充足度評価（日本全体）」の「そうなっている」計及び「そうなっていない」計の割合が高くなる傾向にある。

＜安全・安心＞

Q4.　自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土が形成されていると思いますか。（それぞれひとつだけ）
＜Q4-2.社会・国土形成　安心・安全　充足度【日本全体】＞

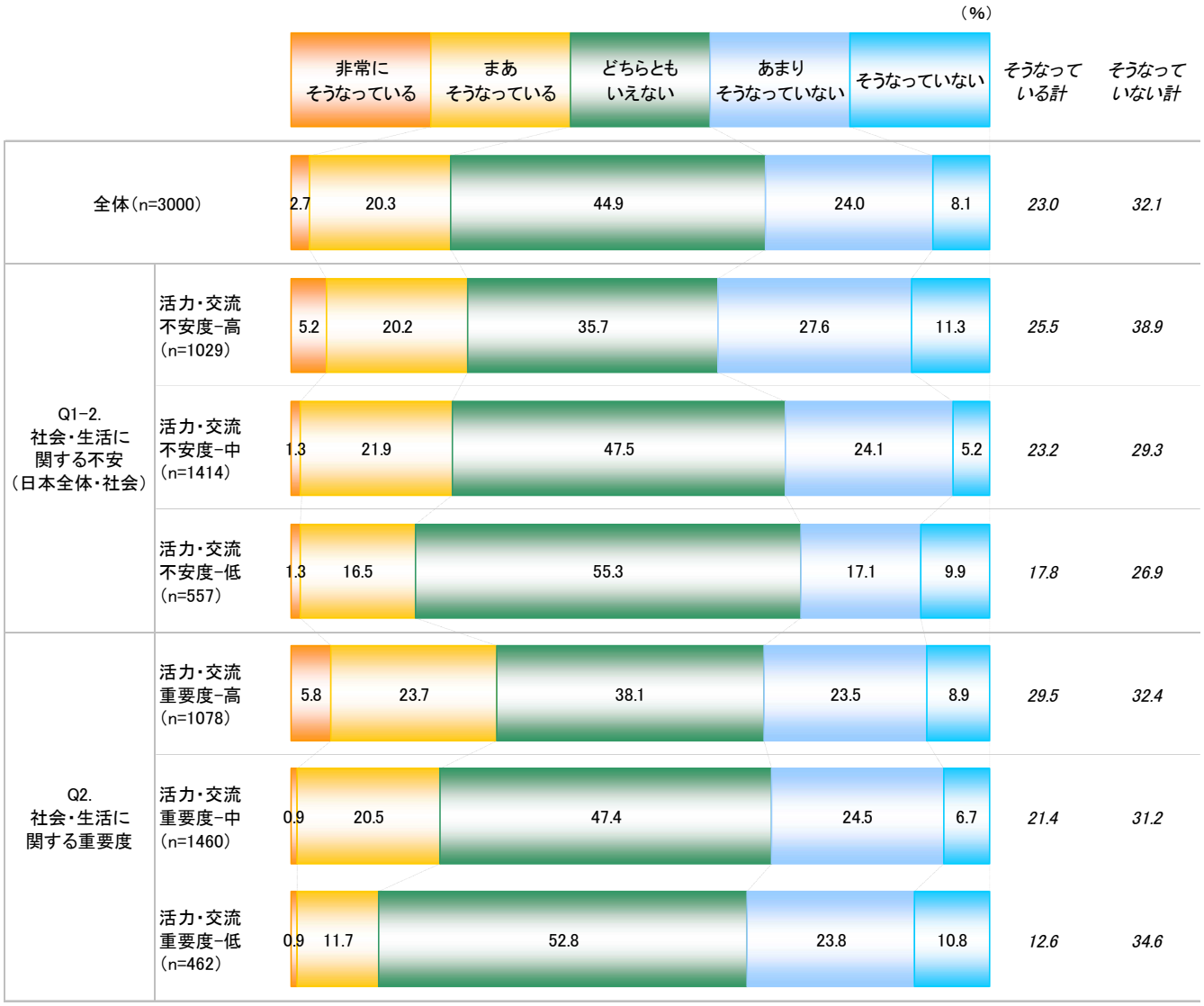
（%）

		非常にそうなっている	まあそうなっている	どちらともいえない	あまりそうなっていない	そうなっていない	そうなっている計	そうなっていない計
全体（n=3000）		2.5	18.1	40.2	29.3	10.0	*20.6*	*39.3*
Q1-2. 社会・生活に関する不安（日本全体・社会）	安全・安心 不安度-高（n=1184）	4.1	16.6	33.3	31.5	14.5	*20.7*	*46.0*
	安全・安心 不安度-中（n=1376）	1.2	19.7	42.9	30.7	5.5	*20.9*	*36.2*
	安全・安心 不安度-低（n=440）	1.8	17.3	50.2	18.9	11.8	*19.1*	*30.7*
Q2. 社会・生活に関する重要度	安全・安心 重要度-高（n=1694）	3.1	17.6	34.9	32.2	12.2	*20.7*	*44.5*
	安全・安心 重要度-中（n=1032）	1.8	20.3	45.5	26.7	5.5	*22.2*	*32.3*
	安全・安心 重要度-低（n=274）	1.1	12.8	52.6	20.8	12.8	*13.9*	*33.6*

＜活力・交流＞

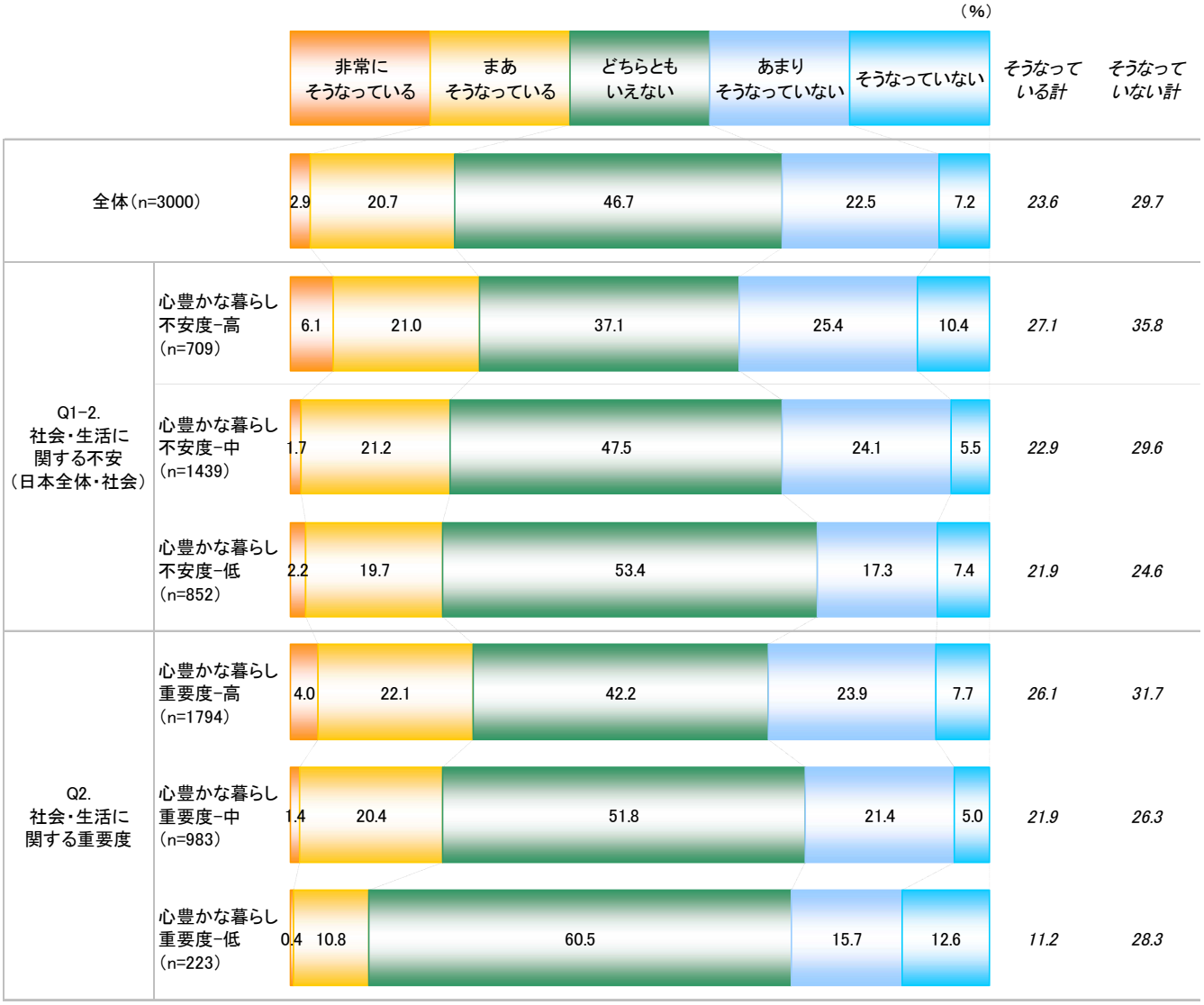
Q5.　人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土が形成されていると思いますか。(それぞれひとつだけ)

＜Q5-2.社会・国土形成　活力・交流　充足度【日本全体】＞



＜心豊かな暮らし＞

Q6.　心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土が形成されていると思いますか。(それぞれひとつだけ)
＜Q6-2.社会・国土形成　心豊かな暮らし　充足度【日本全体】＞

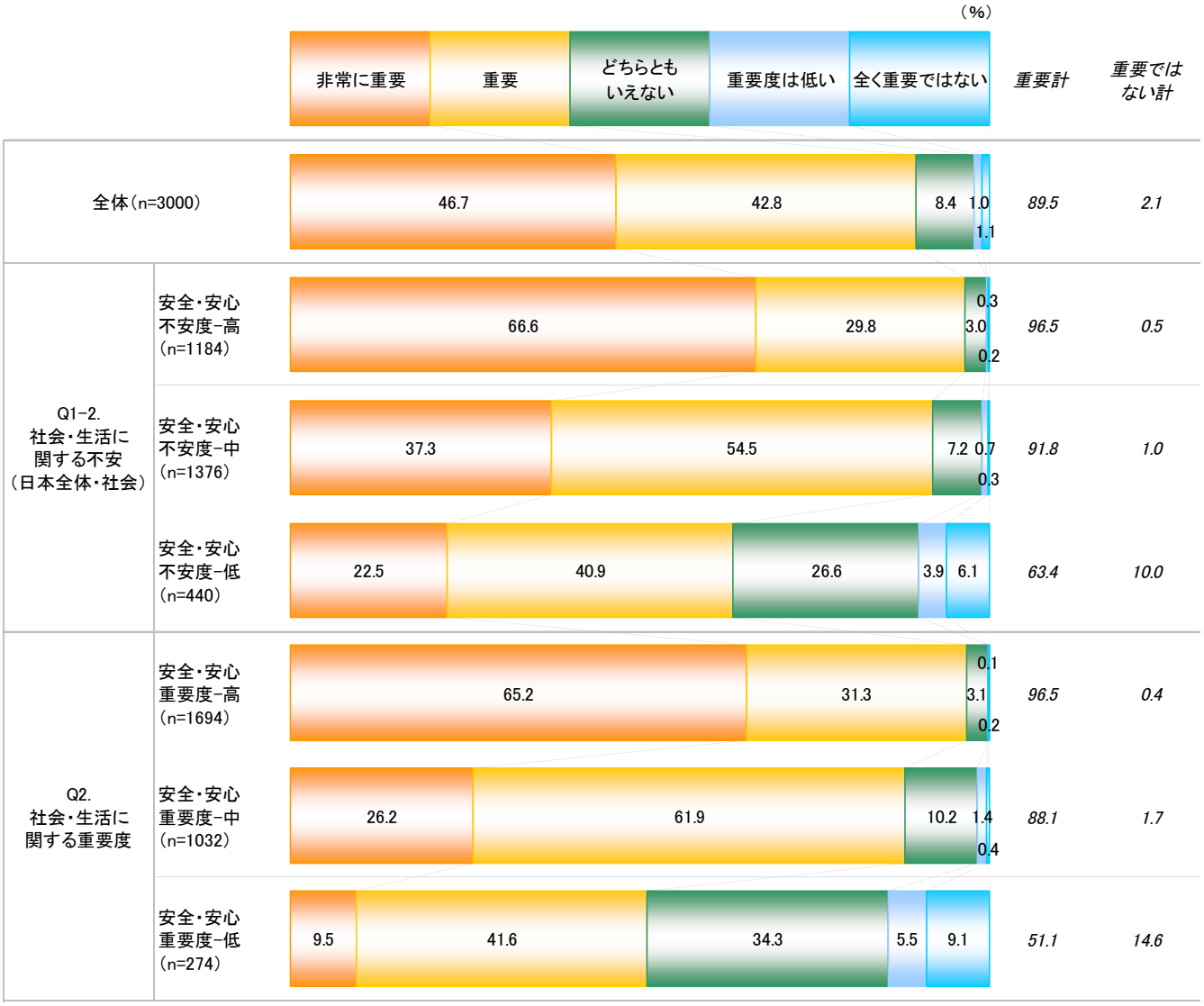


■社会や国土の形成の重要度評価　×　社会・生活に関する不安（日本全体）・重要度評価　の相関分析

・「安全・安心」、「活力・交流」、「心豊かな暮らし」いずれの分野でも「社会・生活に関する不安（日本全体）・重要度評価」で不安度・重要度評価が高い者ほど「社会や国土の形成の重要度評価」の「重要」計の割合が高くなり、「どちらともいえない」の割合が低くなる。

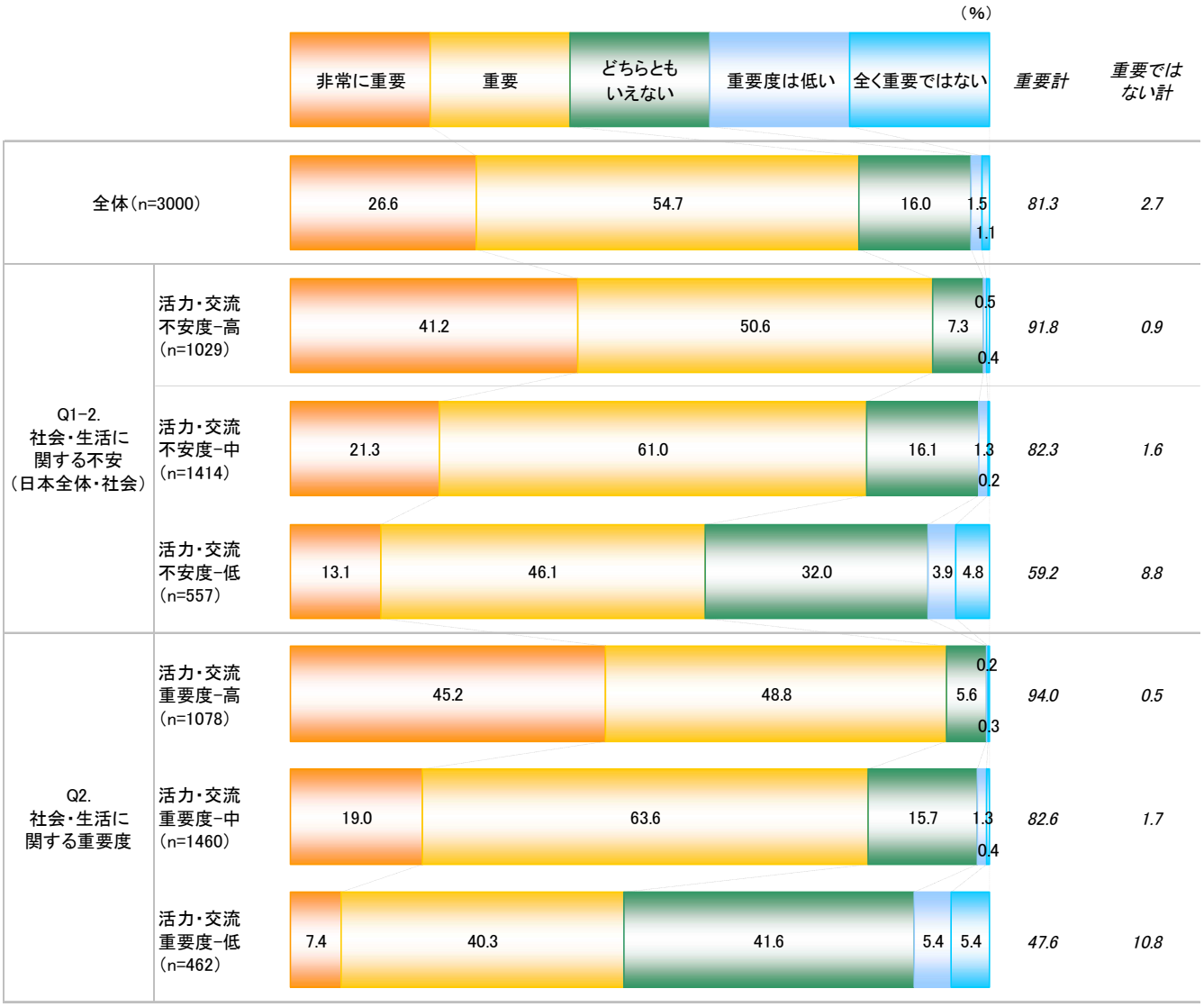
＜安全・安心＞

Q4SQ1.　将来的に、自然災害や様々な事故に対し、安全で安心できる社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。（○は一つ）
＜Q4-3.社会・国土形成　安心・安全　重要度（日本全体）＞



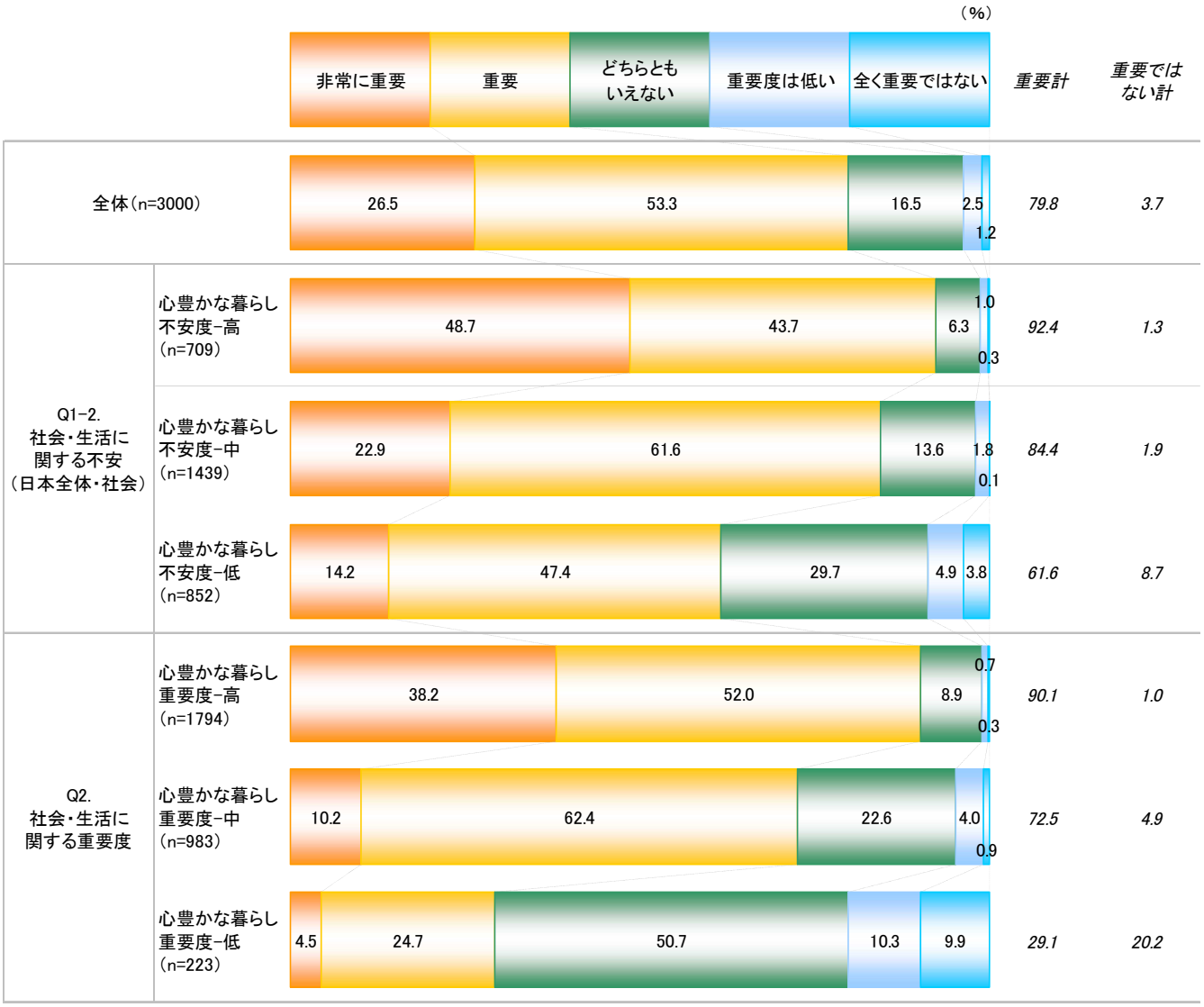
＜活力・交流＞

Q5SQ1. 将来的に、人・もの・情報が効率的に通いあう活力のある社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。（〇は一つ）
＜Q5-3.社会・国土形成　交流・活力　重要度（日本全体）＞



＜心豊かな暮らし＞

Q6SQ1. 将来的に、心豊かに暮らせる快適で、自然や景観に恵まれた社会や国土を形成していくことは、重要だと思いますか。（〇は一つ）
＜Q6-3.社会・国土形成　心豊かな暮らし　重要度（日本全体）＞



■社会資本に関する全体評価（日本全体） × 社会・生活に関する不安・重要度評価 の相関分析

- 「日本全体の社会・生活に関する不安度評価」と「日本全体の社会資本に関する全体評価」の関係を見ると、不安度が高いほど、「充足していない」計の割合が高くなる傾向にある。
- 「社会・生活に関する重要度評価」と「日本全体の社会資本に関する全体評価」の関係を見ると、重要度評価が高いほど、「充足している」計の割合が高い。
- 上記の傾向は「安心・安全」、「活力・交流」、「心豊かな暮らし」、いずれの分野でも同様の傾向である。

Q8. これまで、個別のインフラ（社会資本）についてあなたのご意見を伺ってきましたが、あなたはこういったインフラ（社会資本）が、全体としてどの程度充足していると考えますか。（それぞれひとつだけ）

＜Q8-1.社会資本の状況全体評価（日本全体）＞

（%）

		非常に充足している	かなり充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	ほとんど充足していない	充足している計	充足していない計
	全体（n=3000）	2.2	19.1	52.0	22.6	4.2	21.2	26.8
Q1-2. 社会・生活に関する不安（日本全体・社会）	安全・安心 不安度-高（n=1184）	3.0	18.2	46.8	25.9	6.1	21.2	32.0
	安全・安心 不安度-中（n=1376）	1.3	19.9	54.5	22.1	2.2	21.2	24.3
	安全・安心 不安度-低（n=440）	2.5	18.9	58.2	15.0	5.5	21.4	20.5
	活力・交流 不安度-高（n=1029）	3.3	18.4	45.9	26.1	6.3	21.7	32.5
	活力・交流 不安度-中（n=1414）	1.3	20.3	53.7	22.3	2.4	21.6	24.7
	活力・交流 不安度-低（n=557）	2.2	17.2	59.1	16.7	4.8	19.4	21.5
	心豊かな暮らし 不安度-高（n=709）	4.2	18.2	44.7	26.1	6.8	22.4	32.9
	心豊かな暮らし 不安度-中（n=1439）	1.5	18.8	53.1	23.6	3.1	20.3	26.6
	心豊かな暮らし 不安度-低（n=852）	1.5	20.3	56.2	18.0	4.0	21.8	21.9
	全体 不安度-高（n=1082）	3.3	17.7	46.3	26.1	6.6	21.1	32.6
	全体 不安度-中（n=1487）	1.3	19.8	54.9	21.9	2.2	21.0	24.0
	全体 不安度-低（n=431）	2.3	20.0	56.1	16.2	5.3	22.3	21.6
Q2. 社会・生活に関する重要度	安全・安心 重要度-高（n=1694）	2.6	19.5	47.9	25.3	4.7	22.1	30.0
	安全・安心 重要度-中（n=1032）	1.4	20.5	56.9	18.8	2.4	21.9	21.2
	安全・安心 重要度-低（n=274）	2.6	10.9	58.8	20.1	7.7	13.5	27.7
	活力・交流 重要度-高（n=1078）	3.6	21.5	45.5	24.0	5.4	25.1	29.4
	活力・交流 重要度-中（n=1460）	1.1	19.1	54.8	22.1	2.9	20.2	25.0
	活力・交流 重要度-低（n=462）	2.2	13.2	58.4	20.8	5.4	15.4	26.2
	心豊かな暮らし 重要度-高（n=1794）	2.6	19.8	48.9	24.1	4.6	22.4	28.7
	心豊かな暮らし 重要度-中（n=983）	1.4	19.6	54.6	21.8	2.5	21.1	24.3
	心豊かな暮らし 重要度-低（n=223）	1.8	10.8	65.5	13.5	8.5	12.6	22.0
	全体 重要度-高（n=1633）	2.9	19.8	48.1	24.3	5.0	22.7	29.3
	全体 重要度-中（n=1161）	1.3	19.7	55.5	21.3	2.2	21.0	23.5
	全体 重要度-低（n=206）	1.5	9.7	63.6	16.0	9.2	11.2	25.2

■社会資本に関する全体評価（居住地域） × 社会・生活に関する不安・重要度評価 の相関分析

- 「居住地域の社会・生活に関する不安度評価」と「居住地域の社会資本に関する全体評価」の関係を見ると、不安度が高いほど、「充足していない」計が高くなる傾向がある。
- 「社会・生活に関する重要度評価」と「居住地域の社会資本に関する全体評価」の関係を見ると、重要度評価が高いほど「充足している」計の割合が高い。
- 上記の傾向は「安心・安全」、「活力・交流」、「心豊かな暮らし」、いずれの分野でも同様の傾向である。

＜Q8-2.社会資本の状況全体評価（居住地域）＞

（%）

		非常に充足している	かなり充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	ほとんど充足していない	充足している計	充足していない計
	全体（n=3000）	3.2	27.5	45.0	20.4	3.9	30.7	24.3
Q1-1. 社会・生活に関する不安（居住地域）	安全・安心 不安度-高（n=850）	4.7	25.4	43.8	20.5	5.6	30.1	26.1
	安全・安心 不安度-中（n=1583）	2.4	29.1	44.5	21.5	2.5	31.5	23.9
	安全・安心 不安度-低（n=567）	3.0	26.3	48.3	17.1	5.3	29.3	22.4
	活力・交流 不安度-高（n=733）	5.0	25.1	39.2	23.5	7.2	30.2	30.7
	活力・交流 不安度-中（n=1608）	2.3	29.4	46.0	20.4	2.0	31.7	22.4
	活力・交流 不安度-低（n=659）	3.2	25.8	49.3	16.8	4.9	29.0	21.7
	心豊かな暮らし 不安度-高（n=477）	6.9	24.5	42.8	20.8	5.0	31.4	25.8
	心豊かな暮らし 不安度-中（n=1427）	2.4	27.6	44.4	22.4	3.2	30.0	25.6
	心豊かな暮らし 不安度-低（n=1096）	2.6	28.7	46.9	17.5	4.3	31.3	21.8
	全体 不安度-高（n=725）	5.1	24.0	43.2	20.7	7.0	29.1	27.7
	全体 不安度-中（n=1729）	2.3	29.0	44.7	21.9	2.0	31.3	23.9
	全体 不安度-低（n=546）	3.3	27.5	48.5	15.0	5.7	30.8	20.7
Q2. 社会・生活に関する重要度	安全・安心 重要度-高（n=1694）	4.0	29.7	42.0	20.0	4.4	33.7	24.3
	安全・安心 重要度-中（n=1032）	1.8	27.9	46.5	21.6	2.1	29.7	23.7
	安全・安心 重要度-低（n=274）	2.9	12.8	58.4	18.2	7.7	15.7	25.9
	活力・交流 重要度-高（n=1078）	4.5	28.5	40.9	21.3	4.8	32.9	26.2
	活力・交流 重要度-中（n=1460）	2.3	29.9	45.5	19.8	2.5	32.2	22.3
	活力・交流 重要度-低（n=462）	2.8	18.0	53.0	19.9	6.3	20.8	26.2
	心豊かな暮らし 重要度-高（n=1794）	3.7	29.2	42.6	20.6	3.9	32.9	24.5
	心豊かな暮らし 重要度-中（n=983）	2.6	28.1	46.0	20.4	2.8	30.7	23.3
	心豊かな暮らし 重要度-低（n=223）	0.9	12.1	60.5	17.9	8.5	13.0	26.5
	全体 重要度-高（n=1633）	3.9	29.6	42.1	20.5	4.0	33.4	24.4
	全体 重要度-中（n=1161）	2.5	27.5	46.2	21.0	2.8	30.0	23.9
	全体 重要度-低（n=206）	1.5	11.7	61.7	16.0	9.2	13.1	25.2

■日本の将来予測　×　社会・生活に関する不安・重要度評価　の相関分析

・　「日本の将来予測」と「日本の社会・生活に関する不安度・重要度」の関係を見ると、「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」いずれの分野でも、不安度・重要度評価が高い人ほど「衰退する日本」とする人の割合が高くなる。

Q36-1.将来の日本が最もなりそうであると予測される姿はどれですか。

＜Q36-1.日本の将来予測（日本全体）＞

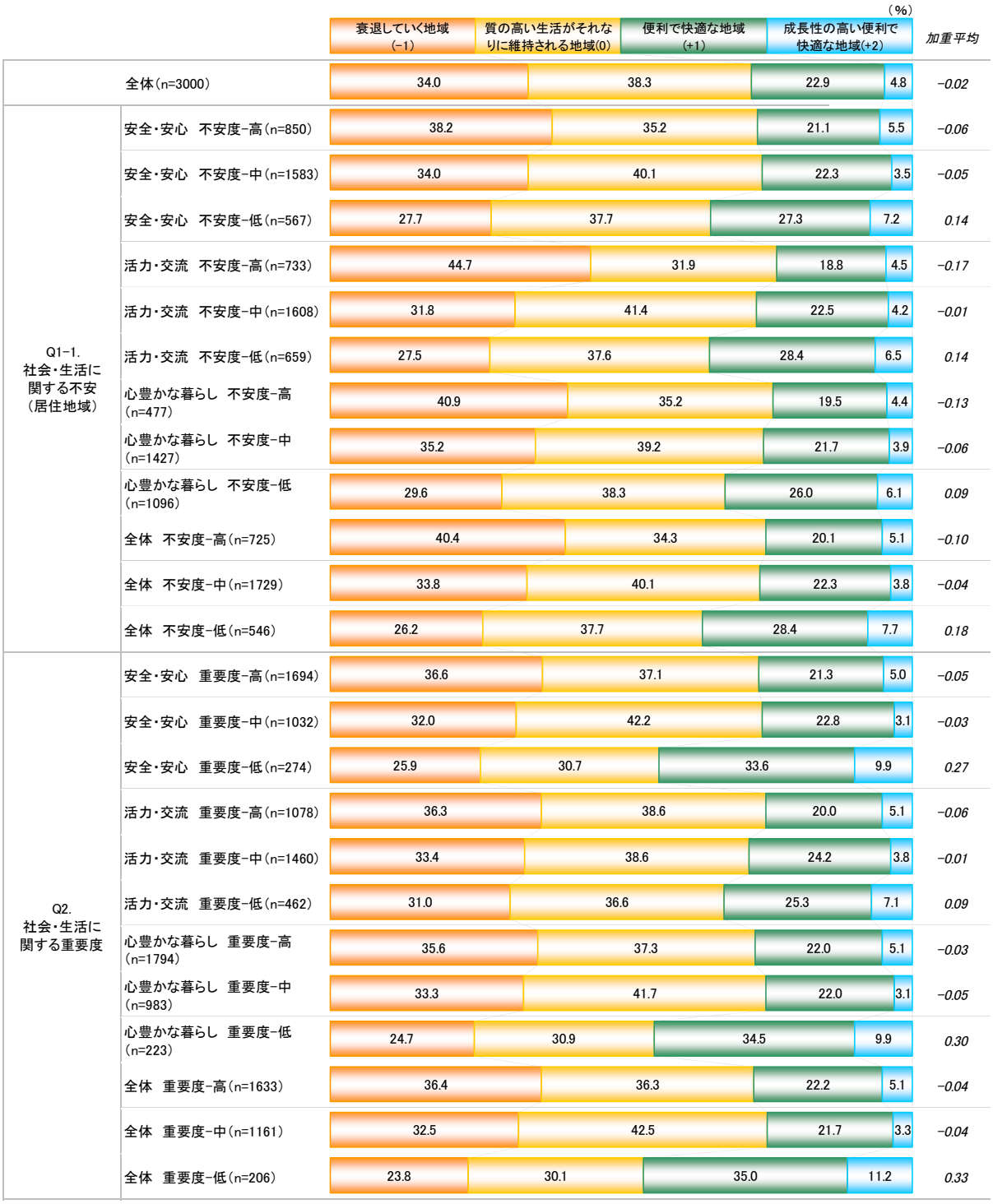
（%）

		衰退する日本 (-1)	定常社会の日本 (0)	活力を保持した日本 (+1)	生産性が向上、成長する日本(+2)	加重平均
	全体（n=3000）	55.8	30.4	10.2	3.6	-0.38
Q1-2. 社会・生活に関する不安（日本全体・社会）	安全・安心　不安度-高（n=1184）	65.5	24.2	7.7	2.6	-0.53
	安全・安心　不安度-中（n=1376）	51.5	34.4	10.8	3.3	-0.34
	安全・安心　不安度-低（n=440）	43.4	34.5	15.2	6.8	-0.15
	活力・交流　不安度-高（n=1029）	70.4	21.1	6.3	2.2	-0.60
	活力・交流　不安度-中（n=1414）	51.7	34.9	9.9	3.5	-0.35
	活力・交流　不安度-低（n=557）	39.5	35.9	18.3	6.3	-0.09
	心豊かな暮らし　不安度-高（n=709）	66.9	22.4	7.8	3.0	-0.53
	心豊かな暮らし　不安度-中（n=1439）	55.9	32.2	8.9	3.0	-0.41
	心豊かな暮らし　不安度-低（n=852）	46.6	33.8	14.6	5.0	-0.22
	全体　不安度-高（n=1082）	67.0	23.3	7.4	2.3	-0.55
	全体　不安度-中（n=1487）	52.0	34.1	10.3	3.6	-0.34
	全体　不安度-低（n=431）	41.1	35.3	17.2	6.5	-0.11
Q2. 社会・生活に関する重要度	安全・安心　重要度-高（n=1694）	60.6	28.4	8.1	2.9	-0.47
	安全・安心　重要度-中（n=1032）	50.8	33.8	11.5	3.9	-0.31
	安全・安心　重要度-低（n=274）	45.6	29.6	18.2	6.6	-0.14
	活力・交流　重要度-高（n=1078）	61.3	26.3	8.3	4.1	-0.45
	活力・交流　重要度-中（n=1460）	53.8	33.8	9.8	2.7	-0.39
	活力・交流　重要度-低（n=462）	49.6	29.2	16.0	5.2	-0.23
	心豊かな暮らし　重要度-高（n=1794）	60.5	27.9	8.6	3.1	-0.46
	心豊かな暮らし　重要度-中（n=983）	51.3	34.7	10.6	3.5	-0.34
	心豊かな暮らし　重要度-低（n=223）	38.6	31.4	22.0	8.1	0.00
	全体　重要度-高（n=1633）	60.7	27.9	8.5	2.9	-0.46
	全体　重要度-中（n=1161）	51.6	33.9	10.9	3.6	-0.33
	全体　重要度-低（n=206）	41.3	30.6	19.9	8.3	-0.05

■居住地域の将来予測　×　社会・生活に関する不安・重要度評価　の相関分析

・　「居住地域の将来予測」と「居住地域の社会・生活に関する不安度・重要度」の関係を見ると、「安全・安心」「活力・交流」「心豊かな暮らし」いずれでも不安度・重要度評価が高い人ほど「衰退する地域」とする人の割合が高くなる。

Q33-1.あなたの住む地域が将来最もなりそうであると予測される姿はどれですか。
＜Q33-1.地域の将来予測（居住地域）＞



■公共事業予算の今後の増減評価　×　社会・生活に関する不安・重要度評価　の相関分析

・　社会・生活に関し不安度・重要度の高い人ほど、公共事業予算の今後の増減について「増やすべき＋増やさざるを得ない」とする人の割合が高い。

Q32.　あなたは、今後の公共事業の予算をどうすべきだと思われますか。上記の結果も見た上でお答えください。

＜Q32.公共事業費増減評価＞

(%)

		増やしていくべき	増やさざるを得ない	2021年度程度とすべき	減らさざるを得ない	減らしていくべき	増やすべき＋増やさざるを得ない計	前回 増やすべき＋増やさざるを得ない計	減らしていくべき＋減らさざるを得ない計
	全体(n=3000)	9.5	41.1	30.9	12.8	5.7	50.6	41.3	18.5
Q1-1. 社会・生活に関する不安（居住地域）	安全・安心　不安度-高(n=850)	12.4	42.6	28.4	11.9	4.8	54.9	48.0	16.7
	安全・安心　不安度-中(n=1583)	7.5	42.8	32.2	13.0	4.7	50.2	40.9	17.6
	安全・安心　不安度-低(n=567)	10.8	34.4	31.4	13.6	9.9	45.1	35.3	23.5
	活力・交流　不安度-高(n=733)	12.3	41.9	27.1	12.7	6.0	54.2	49.4	18.7
	活力・交流　不安度-中(n=1608)	8.2	43.6	31.9	12.1	4.2	51.8	42.8	16.3
	活力・交流　不安度-低(n=659)	9.4	34.3	32.8	14.6	9.0	43.7	34.7	23.5
	心豊かな暮らし　不安度-高(n=477)	14.5	41.5	28.9	10.1	5.0	56.0	49.7	15.1
	心豊かな暮らし　不安度-中(n=1427)	7.8	43.8	31.8	12.1	4.6	51.6	44.9	16.6
	心豊かな暮らし　不安度-低(n=1096)	9.5	37.5	30.7	14.9	7.5	47.0	34.8	22.4
	全体　不安度-高(n=725)	13.5	42.2	28.0	10.8	5.5	55.7	51.3	16.3
	全体　不安度-中(n=1729)	7.5	43.0	31.5	13.4	4.6	50.5	40.9	18.0
	全体　不安度-低(n=546)	10.3	33.9	33.0	13.6	9.3	44.1	34.9	22.9
Q1-2. 社会・生活に関する不安（日本全体・社会）	安全・安心　不安度-高(n=1184)	10.3	43.1	28.6	12.7	5.3	53.4	47.6	18.0
	安全・安心　不安度-中(n=1376)	8.1	43.1	32.6	12.2	4.0	51.2	41.5	16.2
	安全・安心　不安度-低(n=440)	11.4	29.8	32.0	14.8	12.0	41.1	31.1	26.8
	活力・交流　不安度-高(n=1029)	11.1	44.0	27.8	11.8	5.3	55.1	47.8	17.1
	活力・交流　不安度-中(n=1414)	8.1	42.9	32.5	12.6	4.0	50.9	43.7	16.5
	活力・交流　不安度-低(n=557)	10.1	31.4	32.7	15.1	10.8	41.5	32.6	25.9
	心豊かな暮らし　不安度-高(n=709)	12.8	42.7	27.9	11.1	5.4	55.6	48.1	16.5
	心豊かな暮らし　不安度-中(n=1439)	7.9	44.5	30.9	12.6	4.2	52.3	45.1	16.7
	心豊かな暮らし　不安度-低(n=852)	9.4	34.2	33.5	14.4	8.6	43.5	33.2	23.0
	全体　不安度-高(n=1082)	11.0	44.0	28.9	11.2	4.9	55.0	49.4	16.1
	全体　不安度-中(n=1487)	7.9	42.0	32.1	13.5	4.5	49.9	42.0	18.0
	全体　不安度-低(n=431)	11.1	30.9	32.0	14.2	11.8	42.0	30.4	26.0
Q2. 社会・生活に関する重要度	安全・安心　重要度-高(n=1694)	10.3	42.9	29.7	12.3	4.8	53.2	46.4	17.1
	安全・安心　重要度-中(n=1032)	8.8	42.3	32.4	11.1	5.3	51.2	40.0	16.5
	安全・安心　重要度-低(n=274)	6.6	25.9	33.2	21.9	12.4	32.5	28.5	34.3
	活力・交流　重要度-高(n=1078)	12.9	45.4	28.6	8.3	4.9	58.3	52.7	13.2
	活力・交流　重要度-中(n=1460)	7.8	42.3	32.1	13.6	4.3	50.1	40.9	17.9
	活力・交流　重要度-低(n=462)	6.7	27.7	32.9	20.8	11.9	34.4	29.4	32.7
	心豊かな暮らし　重要度-高(n=1794)	10.3	43.9	29.8	11.3	4.7	54.2	46.4	16.0
	心豊かな暮らし　重要度-中(n=983)	8.7	40.8	31.0	13.6	5.8	49.5	39.5	19.4
	心豊かな暮らし　重要度-低(n=223)	5.8	20.6	39.5	21.1	13.0	26.5	27.1	34.1
	全体　重要度-高(n=1633)	11.3	44.1	29.9	10.3	4.5	55.4	48.0	14.8
	全体　重要度-中(n=1161)	7.8	40.8	31.4	14.3	5.8	48.6	38.8	20.1
	全体　重要度-低(n=206)	4.9	19.4	36.9	23.8	15.0	24.3	27.0	38.8

■日本の社会資本に関する全体（充足度）評価　×　日本全体の社会・国土形成の充足度評価　との相関分析

- 「居住地域の社会・国土形成充足度評価」と「居住地域の社会資本に関する全体評価」の関係については、「安全・安心」、「活力・交流」、「心豊かな暮らし」の3分野で傾向に大きな差はない。
- 「日本の社会・国土形成充足度評価」の評価が高い者ほど、「日本の社会資本に関する全体評価」が高い。
- 「日本の社会・国土形成充足度評価」について、「どちらともいえない」を選択した者が「日本の社会資本に関する全体評価」でも「どちらともいえない」を選択している割合が他と較べ、著しく多い。

Q8.　これまで、個別のインフラ（社会資本）についてあなたのご意見を伺ってきましたが、あなたはこういったインフラ（社会資本）が、全体としてどの程度充足していると考えますか。（それぞれひとつだけ）

＜相関分析（Q8：日本全体）×Q4-2、Q5-2、Q6-2＞

（%）

		非常に充足している	かなり充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	ほとんど充足していない	充足している計	充足していない計
全体（n=3000）		2.2	19.1	52.0	22.6	4.2	21.2	26.8
Q4-2. 社会・国土の形成 安心・安全 充足度 【日本全体】	非常にそうなっている（n=74）	32.4	29.7	21.6	12.2	4.1	62.2	16.2
	まあそうなっている（n=543）	3.7	43.5	42.5	9.9	0.4	47.1	10.3
	どちらともいえない（n=1205）	0.9	14.7	69.1	13.6	1.7	15.6	15.3
	あまりそうなっていない（n=879）	0.6	13.0	45.7	37.7	3.1	13.5	40.7
	そうなっていない（n=299）	1.7	7.7	26.1	39.8	24.7	9.4	64.5
	[そうなっている計]（n=617）	7.1	41.8	40.0	10.2	0.8	48.9	11.0
	[そうなっていない計]（n=1178）	0.8	11.6	40.7	38.2	8.6	12.5	46.8
Q5-2. 社会・国土の形成 活力・交流 充足度 【日本全体】	非常にそうなっている（n=80）	28.8	32.5	25.0	11.3	2.5	61.3	13.8
	まあそうなっている（n=609）	4.3	43.2	41.5	10.5	0.5	47.5	11.0
	どちらともいえない（n=1347）	1.0	14.0	68.8	14.6	1.6	15.0	16.2
	あまりそうなっていない（n=720）	0.3	10.7	41.7	43.5	3.9	11.0	47.4
	そうなっていない（n=244）	0.4	7.0	24.6	38.5	29.5	7.4	68.0
	[そうなっている計]（n=689）	7.1	41.9	39.6	10.6	0.7	49.1	11.3
	[そうなっていない計]（n=964）	0.3	9.8	37.3	42.2	10.4	10.1	52.6
Q6-2. 社会・国土の形成 心豊かな暮らし 充足度 【日本全体】	非常にそうなっている（n=87）	34.5	24.1	28.7	10.3	2.3	58.6	12.6
	まあそうなっている（n=622）	3.2	40.5	42.6	12.9	0.8	43.7	13.7
	どちらともいえない（n=1401）	0.6	15.4	67.5	15.1	1.4	16.1	16.4
	あまりそうなっていない（n=674）	0.6	11.1	39.8	43.6	4.9	11.7	48.5
	そうなっていない（n=216）	0.5	3.7	25.9	38.4	31.0	4.6	69.4
	[そうなっている計]（n=709）	7.1	38.5	40.9	12.6	1.0	45.6	13.5
	[そうなっていない計]（n=890）	0.7	9.3	36.4	42.4	11.2	10.0	53.6

■日本の全体的な社会資本に関する全体充足度評価　×　社会・国土形成重要度評価　との相関分析

・　「日本の全体的な社会資本に関する充足度評価」と「社会・国土形成重要度評価」について、関連性は低い。これは「社会・国土形成重要度評価」については、「日本全体」についてか「居住地域」についてかを限定せず質問したため、自分に身近である「居住地域」をイメージしつつ、回答された可能性がある。なお、「社会・国土形成重要度評価」と「居住地域の全体的な社会資本に関する充足度評価」の相関分析については P228 に掲載している。

Q8.　これまで、個別のインフラ（社会資本）についてあなたのご意見を伺ってきましたが、あなたはこういったインフラ（社会資本）が、全体としてどの程度充足していると考えますか。（それぞれひとつだけ）

＜相関分析（Q8：日本全体）×Q4-3、Q5-3、Q6-3＞

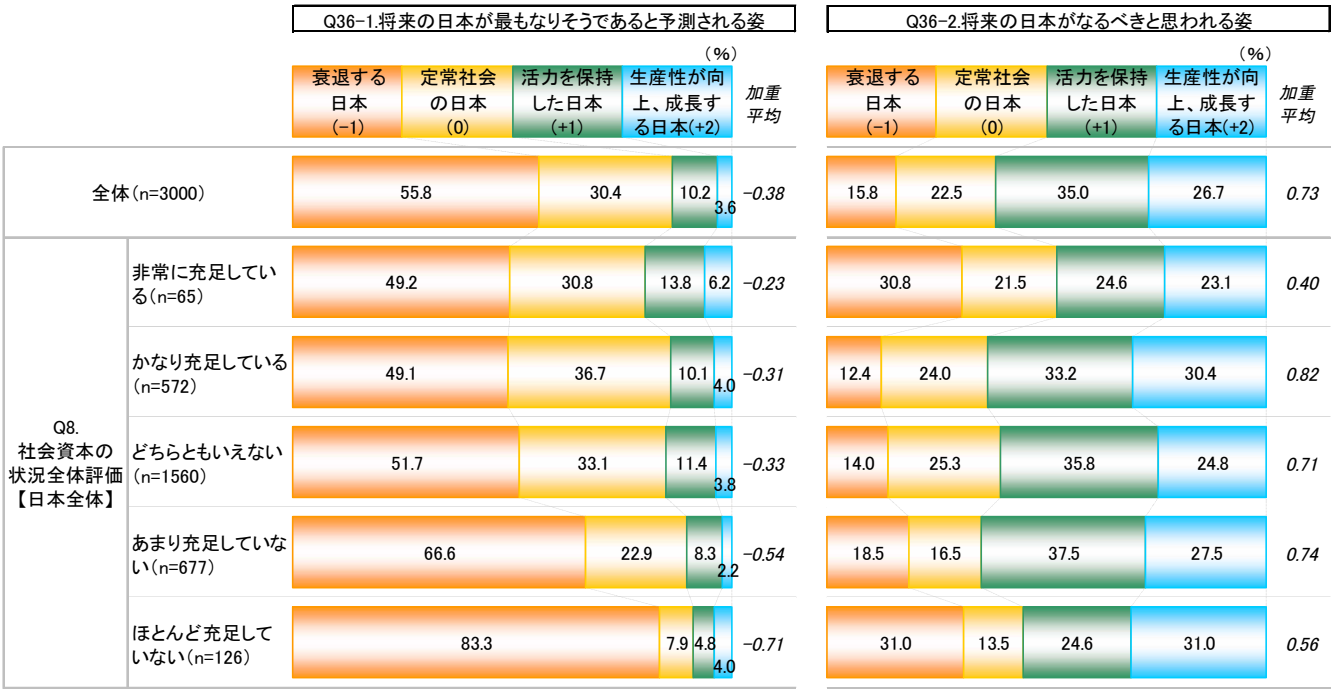
（%）

		非常に充足している	かなり充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	ほとんど充足していない	充足している計	充足していない計
全体（n=3000）		2.2	19.1	52.0	22.6	4.2	21.2	26.8
Q4-3. 社会・国土の形成 安心・安全 重要度	非常に重要（n=1401）	2.6	19.6	45.5	26.3	5.9	22.3	32.3
	重要（n=1283）	1.7	20.3	55.0	21.0	1.9	22.0	23.0
	どちらともいえない（n=252）	0.8	10.7	75.0	10.7	2.8	11.5	13.5
	重要度は低い（n=31）	6.5	16.1	51.6	19.4	6.5	22.6	25.8
	全く重要ではない（n=33）	6.1	15.2	36.4	15.2	27.3	21.2	42.4
	［重要計］（n=2684）	2.2	19.9	50.0	23.8	4.0	22.1	27.8
	［重要ではない計］（n=64）	6.3	15.6	43.8	17.2	17.2	21.9	34.4
Q5-3. 社会・国土の形成 交流・活力 重要度	非常に重要（n=798）	3.4	20.8	43.2	25.7	6.9	24.2	32.6
	重要（n=1641）	1.6	20.7	51.6	23.5	2.7	22.2	26.2
	どちらともいえない（n=481）	2.1	10.6	68.4	15.2	3.7	12.7	18.9
	重要度は低い（n=46）	2.2	28.3	47.8	19.6	2.2	30.4	21.7
	全く重要ではない（n=34）	2.9	8.8	52.9	11.8	23.5	11.8	35.3
	［重要計］（n=2439）	2.2	20.7	48.8	24.2	4.1	22.9	28.3
	［重要ではない計］（n=80）	2.5	20.0	50.0	16.3	11.3	22.5	27.5
Q6-3. 社会・国土の形成 心豊かな暮らし 重要度	非常に重要（n=795）	3.8	20.0	43.3	25.3	7.7	23.8	33.0
	重要（n=1600）	1.3	19.9	52.5	23.9	2.4	21.2	26.3
	どちらともいえない（n=494）	2.0	12.8	67.0	15.2	3.0	14.8	18.2
	重要度は低い（n=75）	4.0	36.0	36.0	18.7	5.3	40.0	24.0
	全く重要ではない（n=36）	2.8	13.9	50.0	13.9	19.4	16.7	33.3
	［重要計］（n=2395）	2.1	19.9	49.4	24.3	4.2	22.0	28.5
	［重要ではない計］（n=111）	3.6	28.8	40.5	17.1	9.9	32.4	27.0

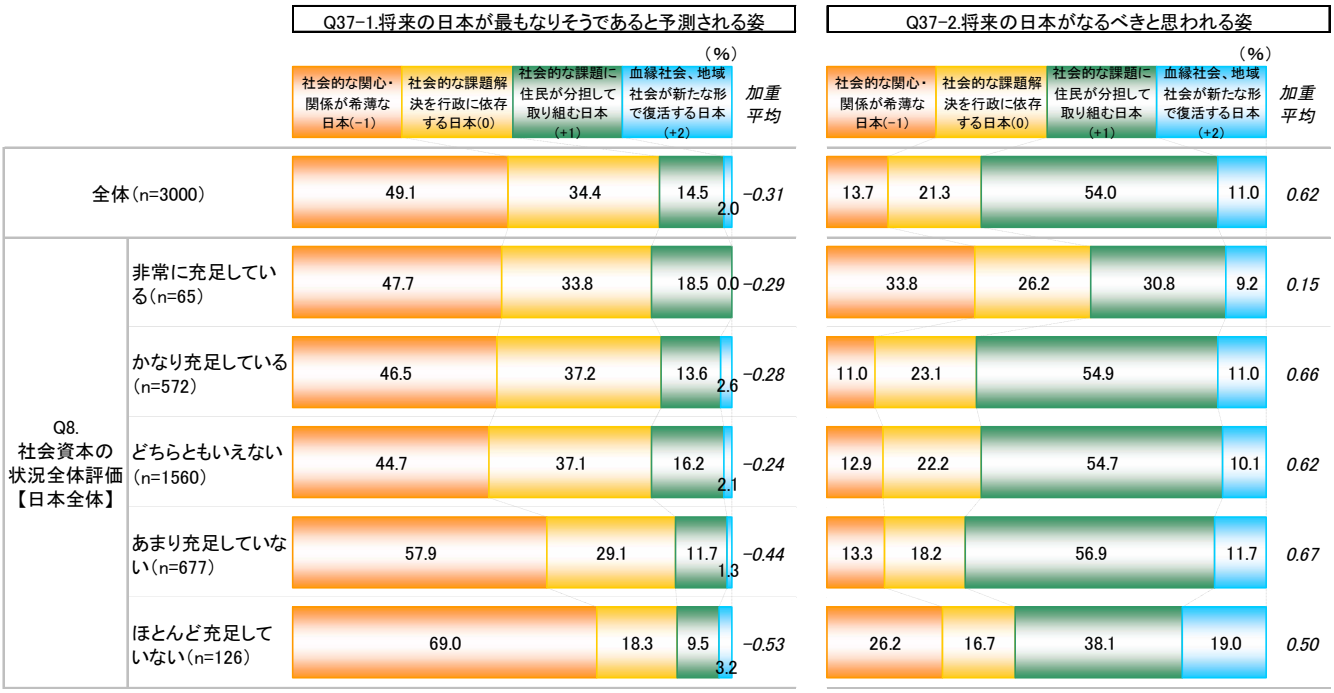
■日本の全体的な社会資本に関する充足度評価　×　日本将来像「予測」「なるべき姿」 との相関分析

- 全体的な社会資本の充足度評価と日本の将来予測との相関分析については、社会資本の充足度評価にかかわらず、衰退する日本を選んだ者の割合が５割程度、もしくはそれ以上である。また、社会資本の充足度評価が高いほど、希望のある将来を予測している割合が高い。
- 社会資本の充足が国民の将来予測に希望を与える一つの要因となり得ると言える。

＜相関分析（Q8.日本全体）×Q36＞



＜相関分析（Q8.日本全体）×Q37＞



■居住地域の全体的な社会資本に関する充足度評価　×　居住地域の社会・国土形成充足度評価　との相関分析

- 「居住地域の社会・国土形成充足度評価」と「居住地域の社会資本に関する全体評価」の関係については、「安全・安心」、「活力・交流」、「心豊かな暮らし」の3分野で傾向に大きな差はない。
- 「居住地域の社会・国土形成充足度評価」の評価が高い者ほど、「居住地域の全体的な社会資本に関する充足度評価」が高い。
- 「居住地域の社会・国土形成充足度評価」について、「どちらともいえない」を選択した者が「居住地域の社会資本に関する全体評価」でも「どちらともいえない」を選択している割合が他と較べ、著しく高い。

Q8.　これまで、個別のインフラ（社会資本）についてあなたのご意見を伺ってきましたが、あなたはこういったインフラ（社会資本）が、全体としてどの程度充足していると考えますか。（それぞれひとつだけ）

＜相関分析（Q8：居住地域）×Q4-1、Q5-1、Q6-1＞

（%）

		非常に充足している	かなり充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	ほとんど充足していない	充足している計	充足していない計
全体（n=3000）		3.2	27.5	45.0	20.4	3.9	30.7	24.3
Q4-1. 社会・国土の形成 安心・安全 充足度 【生活地域・空間】	非常にそうなっている（n=97）	38.1	27.8	19.6	9.3	5.2	66.0	14.4
	まあそうなっている（n=972）	4.0	49.5	32.5	13.2	0.8	53.5	14.0
	どちらともいえない（n=1259）	1.0	18.0	62.0	16.3	2.7	19.0	19.0
	あまりそうなっていない（n=526）	0.8	15.8	37.6	41.6	4.2	16.5	45.8
	そうなっていない（n=146）	2.1	5.5	25.3	34.2	32.9	7.5	67.1
	[そうなっている計]（n=1069）	7.1	47.5	31.3	12.8	1.2	54.6	14.0
	[そうなっていない計]（n=672）	1.0	13.5	35.0	40.0	10.4	14.6	50.4
Q5-1. 社会・国土の形成 活力・交流 充足度 【生活地域・空間】	非常にそうなっている（n=103）	41.7	24.3	22.3	7.8	3.9	66.0	11.7
	まあそうなっている（n=805）	4.5	54.2	33.2	7.6	0.6	58.6	8.2
	どちらともいえない（n=1313）	1.1	19.4	62.4	15.2	1.9	20.5	17.1
	あまりそうなっていない（n=607）	0.2	16.0	33.8	44.8	5.3	16.1	50.1
	そうなっていない（n=172）	0.6	7.6	21.5	40.7	29.7	8.1	70.3
	[そうなっている計]（n=908）	8.7	50.8	31.9	7.6	1.0	59.5	8.6
	[そうなっていない計]（n=779）	0.3	14.1	31.1	43.9	10.7	14.4	54.6
Q6-1. 社会・国土の形成 心豊かな暮らし 充足度 【生活地域・空間】	非常にそうなっている（n=136）	28.7	28.7	28.7	9.6	4.4	57.4	14.0
	まあそうなっている（n=1058）	3.2	42.1	35.6	17.1	2.0	45.3	19.1
	どちらともいえない（n=1158）	1.1	19.3	62.2	15.0	2.3	20.5	17.4
	あまりそうなっていない（n=520）	1.3	20.2	35.8	38.3	4.4	21.5	42.7
	そうなっていない（n=128）	1.6	10.2	22.7	34.4	31.3	11.7	65.6
	[そうなっている計]（n=1194）	6.1	40.5	34.8	16.2	2.3	46.6	18.5
	[そうなっていない計]（n=648）	1.4	18.2	33.2	37.5	9.7	19.6	47.2

■居住地域の全体的な社会資本に関する充足度評価　×　社会・国土形成重要度評価　との相関分析

- 「社会・国土形成の充足度評価」と「居住地域の全体的な社会資本に関する充足度評価」の関係については、「安全・安心」、「活力・交流」、「心豊かな暮らし」の3分野で傾向に大きな差はない。
- 「社会・国土形成重要度評価」について「まったく重要でない」を選択した者は、「居住地域の全体的な社会資本に関する充足度評価」で「充足している」計を選択する割合が著しく低い。
- 「社会・国土形成重要度評価」について「どちらともいえない」を選択した者は、「居住地域の全体的な社会資本に関する充足度評価」でも「どちらともいえない」を選択している割合が著しく高い。

Q8.　これまで、個別のインフラ（社会資本）についてあなたのご意見を伺ってきましたが、あなたはこういったインフラ（社会資本）が、全体としてどの程度充足していると考えますか。（それぞれひとつだけ）

＜相関分析（Q8：居住地域）×Q4-3、Q5-3、Q6-3＞

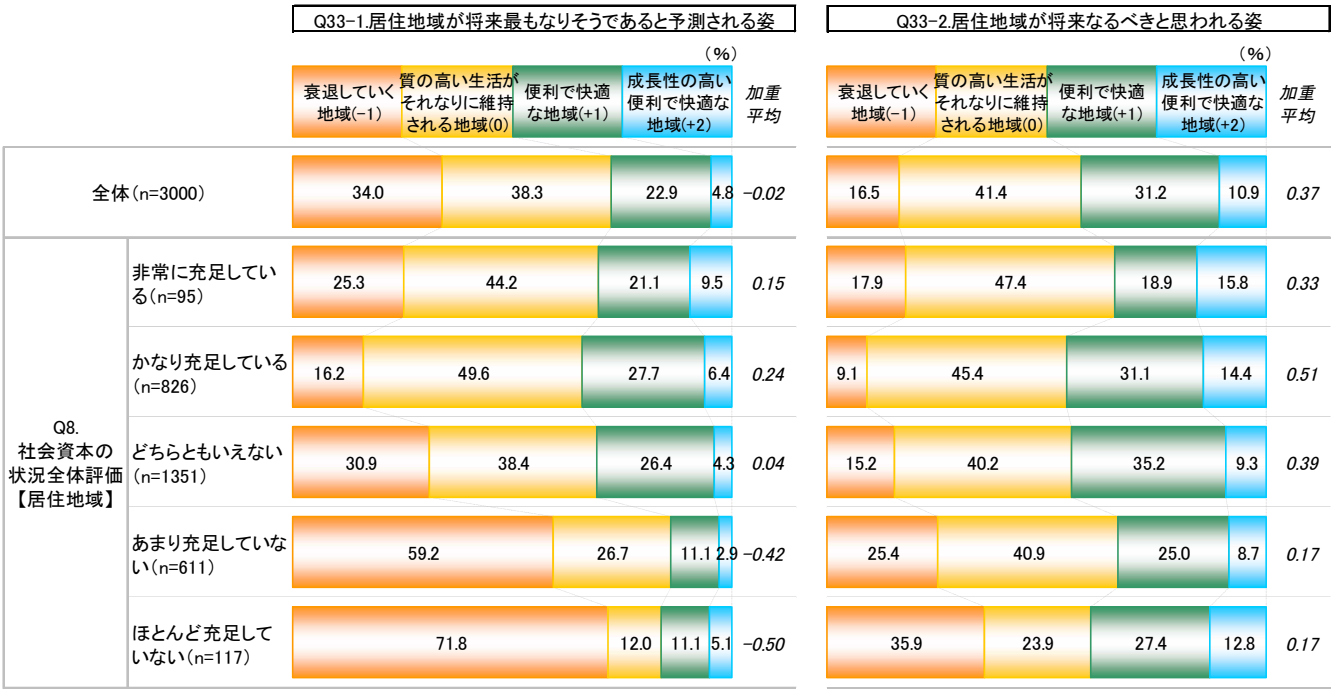
（%）

		非常に充足している	かなり充足している	どちらともいえない	あまり充足していない	ほとんど充足していない	充足している計	充足していない計
全体（n=3000）		3.2	27.5	45.0	20.4	3.9	30.7	24.3
Q4-3. 社会・国土の形成 安心・安全 重要度 生活地域・空間	非常に重要（n=1401）	4.2	29.5	39.3	21.7	5.4	33.7	27.1
	重要（n=1283）	2.3	29.0	45.8	21.3	1.7	31.3	23.0
	どちらともいえない（n=252）	1.6	12.7	73.8	8.3	3.6	14.3	11.9
	重要度は低い（n=31）	3.2	25.8	45.2	19.4	6.5	29.0	25.8
	全く重要ではない（n=33）	6.1	3.0	42.4	21.2	27.3	9.1	48.5
	［重要計］（n=2684）	3.3	29.2	42.4	21.5	3.6	32.5	25.1
	［重要ではない計］（n=64）	4.7	14.1	43.8	20.3	17.2	18.8	37.5
Q5-3. 社会・国土の形成 交流・活力 重要度 生活地域・空間	非常に重要（n=798）	5.0	28.8	38.1	22.1	6.0	33.8	28.1
	重要（n=1641）	2.6	30.3	43.3	21.1	2.7	32.8	23.8
	どちらともいえない（n=481）	2.1	17.5	62.8	15.4	2.3	19.5	17.7
	重要度は低い（n=46）	4.3	30.4	37.0	17.4	10.9	34.8	28.3
	全く重要ではない（n=34）	2.9	2.9	50.0	20.6	23.5	5.9	44.1
	［重要計］（n=2439）	3.4	29.8	41.6	21.4	3.8	33.2	25.2
	［重要ではない計］（n=80）	3.8	18.8	42.5	18.8	16.3	22.5	35.0
Q6-3. 社会・国土の形成 心豊かな暮らし 重要度 生活地域・空間	非常に重要（n=795）	5.5	26.7	40.4	21.8	5.7	32.2	27.4
	重要（n=1600）	2.3	30.3	43.0	22.0	2.4	32.6	24.4
	どちらともいえない（n=494）	1.8	21.3	60.5	12.3	4.0	23.1	16.4
	重要度は低い（n=75）	5.3	29.3	37.3	21.3	6.7	34.7	28.0
	全く重要ではない（n=36）	5.6	5.6	41.7	25.0	22.2	11.1	47.2
	［重要計］（n=2395）	3.3	29.1	42.1	21.9	3.5	32.4	25.4
	［重要ではない計］（n=111）	5.4	21.6	38.7	22.5	11.7	27.0	34.2

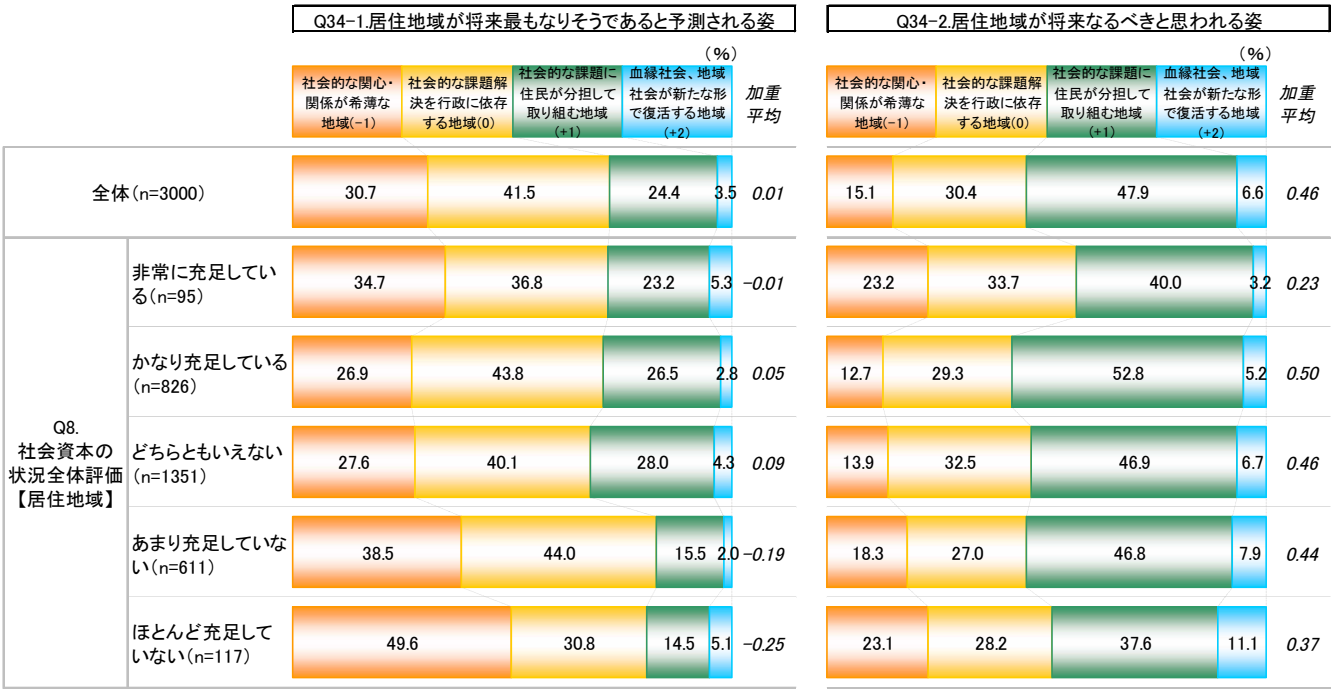
■居住地域の全体的な社会資本に関する充足度評価　×　居住地域の将来像[予測、なるべき姿]　との相関分析

・　居住地の全体的な社会資本の充足度評価が高いほど、将来予測＜衰退⇔成長＞の回答が楽観的な傾向にある。

＜相関分析（Q8.居住地域）×Q33＞



＜相関分析（Q8.居住地域）×Q34＞



■公共事業予算の今後の増減評価　×　居住地域の社会・国土形成充足度評価　との相関分析

- 「居住地域の社会・国土形成の充足度評価」と「公共事業予算の今後の増減評価」の関係については、「安全・安心」、「活力・交流」、「心豊かな暮らし」の3分野で傾向に大きな差はない。
- 「居住地域の社会・国土形成の充足度評価」で「非常にそうなっている」、「まあそうなっている」と答えた者は、「公共事業予算の今後の増減評価」について「増やしていくべき＋増やさざるを得ない」計の割合が全体平均より高くなっている。

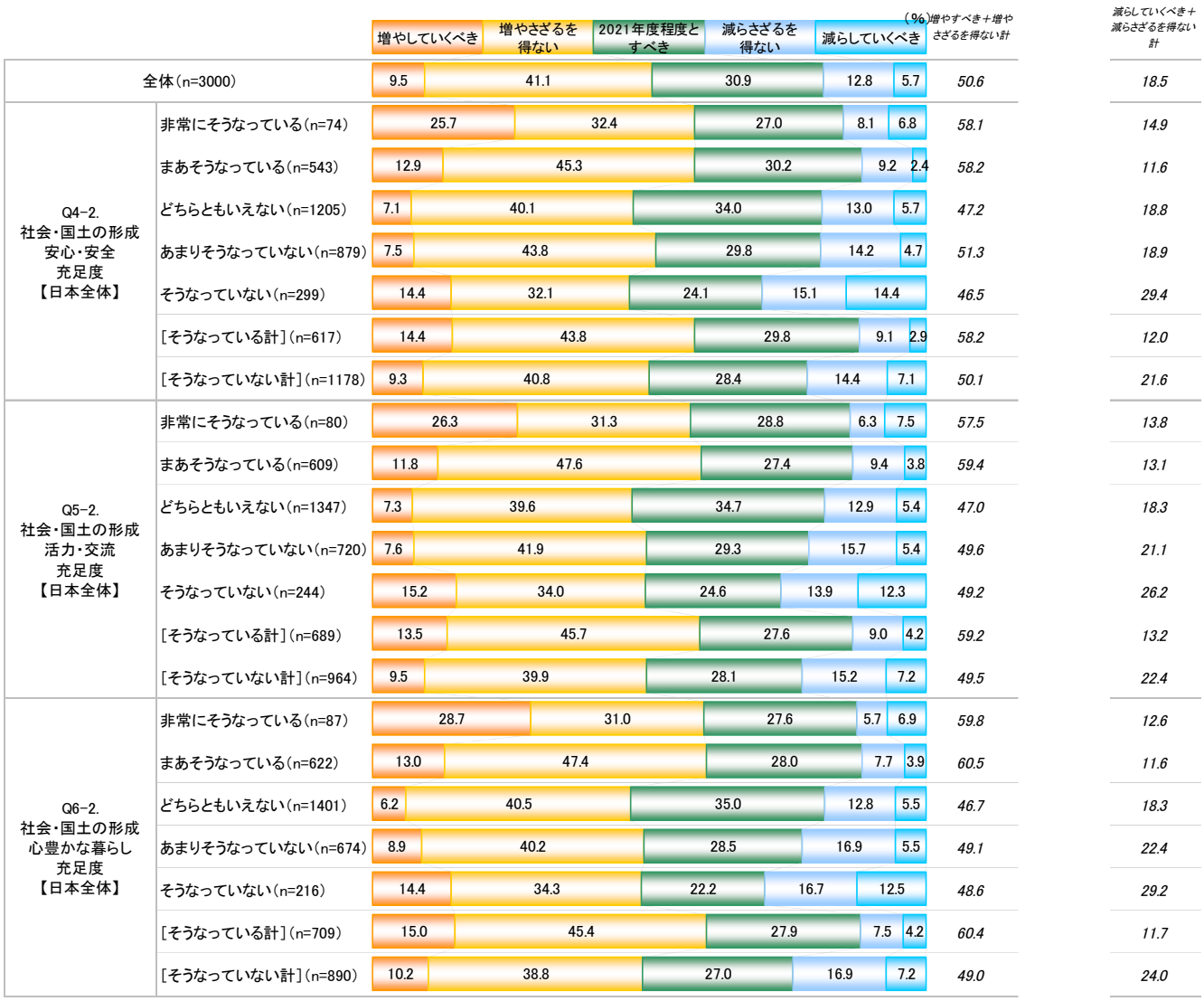
Q32.　あなたは、今後の公共事業の予算をどうすべきだと思われますか。上記の結果も見た上でお答えください。
＜相関分析（Q32）×Q4-1、Q5-1、Q6-1＞

		増やしていくべき	増やさざるを得ない	2021年度程度とすべき	減らさざるを得ない	減らしていくべき	(%) 増やすべき＋増やさざるを得ない計	減らしていくべき＋減らさざるを得ない計
全体（n=3000）		9.5	41.1	30.9	12.8	5.7	50.6	18.5
Q4-1. 社会・国土の形成 安心・安全 充足度 【生活地域・空間】	非常にそうなっている（n=97）	30.9	36.1	20.6	8.2	4.1	67.0	12.4
	まあそうなっている（n=972）	9.5	46.0	29.0	11.4	4.1	55.5	15.5
	どちらともいえない（n=1259）	7.7	39.5	33.9	12.7	6.2	47.2	18.9
	あまりそうなっていない（n=526）	7.8	40.5	29.8	16.5	5.3	48.3	21.9
	そうなっていない（n=146）	16.4	28.8	28.8	11.6	14.4	45.2	26.0
	[そうなっている計]（n=1069）	11.4	45.1	28.3	11.1	4.1	56.5	15.2
	[そうなっていない計]（n=672）	9.7	37.9	29.6	15.5	7.3	47.6	22.8
Q5-1. 社会・国土の形成 活力・交流 充足度 【生活地域・空間】	非常にそうなっている（n=103）	25.2	40.8	23.3	4.9	5.8	66.0	10.7
	まあそうなっている（n=805）	10.3	45.6	28.7	11.1	4.3	55.9	15.4
	どちらともいえない（n=1313）	6.8	41.2	33.6	12.6	5.9	48.0	18.4
	あまりそうなっていない（n=607）	8.9	38.7	31.8	16.3	4.3	47.6	20.6
	そうなっていない（n=172）	18.6	28.5	22.7	14.5	15.7	47.1	30.2
	[そうなっている計]（n=908）	12.0	45.0	28.1	10.4	4.5	57.0	14.9
	[そうなっていない計]（n=779）	11.0	36.5	29.8	15.9	6.8	47.5	22.7
Q6-1. 社会・国土の形成 心豊かな暮らし 充足度 【生活地域・空間】	非常にそうなっている（n=136）	22.8	37.5	27.2	5.1	7.4	60.3	12.5
	まあそうなっている（n=1058）	10.7	46.7	27.5	10.5	4.6	57.4	15.1
	どちらともいえない（n=1158）	7.3	37.7	35.4	13.6	6.0	45.1	19.5
	あまりそうなっていない（n=520）	6.3	42.7	30.2	16.7	4.0	49.0	20.8
	そうなっていない（n=128）	17.2	23.4	25.8	16.4	17.2	40.6	33.6
	[そうなっている計]（n=1194）	12.1	45.6	27.5	9.9	4.9	57.7	14.8
	[そうなっていない計]（n=648）	8.5	38.9	29.3	16.7	6.6	47.4	23.3

■公共事業予算の今後の増減評価　×　日本全体の社会・国土形成充足度評価　との相関分析

- 「日本全体の社会・国土形成の充足度評価」と「公共事業予算の今後の増減評価」の関係については、「安全・安心」、「活力・交流」、「心豊かな暮らし」の3分野で傾向に大きな差はない。
- 「日本全体の社会・国土形成の充足度評価」について「非常にそうなっている」、「まあそうなっている」と答えた者は、「公共事業予算の今後の増減評価」について「増やしていくべき＋増やさざるを得ない」計の割合が全体平均より高い。

＜相関分析（Q32）×Q4-2、Q5-2、Q6-2＞



■公共事業予算の今後の増減評価　×　社会・国土形成重要度評価　との相関分析

・　「安全・安心」、「活力・交流」、「心豊かな暮らし」いずれの重要度評価についても、「非常に重要」を選択した者について、公共事業費を「増やすべき＋増やさざるを得ない」計の割合が最大となり、逆に、「全く重要ではない」を選択した者については、公共事業費を「減らしていくべき＋減らさざるを得ない」計の割合が最大となる。

＜相関分析（Q32-3）×Q4、Q5、Q6＞

（%）

		増やしていくべき	増やさざるを得ない	2021年度程度とすべき	減らさざるを得ない	減らしていくべき	増やすべき＋増やさざるを得ない計	減らしていくべき＋減らさざるを得ない計
全体（n=3000）		9.5	41.1	30.9	12.8	5.7	50.6	18.5
Q4-3. 社会・国土の形成 安心・安全 重要度	非常に重要（n=1401）	13.0	45.5	26.6	9.9	5.0	58.5	14.9
	重要（n=1283）	6.5	40.8	34.2	14.0	4.6	47.2	18.6
	どちらともいえない（n=252）	5.2	25.8	37.3	21.8	9.9	31.0	31.7
	重要度は低い（n=31）	16.1	22.6	29.0	16.1	16.1	38.7	32.3
	全く重要ではない（n=33）	3.0	6.1	39.4	15.2	36.4	9.1	51.5
	[重要計]（n=2684）	9.9	43.2	30.3	11.8	4.8	53.1	16.7
	[重要ではない計]（n=64）	9.4	14.1	34.4	15.6	26.6	23.4	42.2
Q5-3. 社会・国土の形成 交流・活力 重要度	非常に重要（n=798）	16.3	45.9	23.3	9.3	5.3	62.2	14.5
	重要（n=1641）	7.3	43.8	33.0	12.4	3.6	51.1	16.0
	どちらともいえない（n=481）	5.6	27.9	37.6	19.3	9.6	33.5	28.9
	重要度は低い（n=46）	13.0	23.9	23.9	21.7	17.4	37.0	39.1
	全く重要ではない（n=34）	5.9	11.8	26.5	8.8	47.1	17.6	55.9
	[重要計]（n=2439）	10.2	44.5	29.8	11.4	4.1	54.7	15.5
	[重要ではない計]（n=80）	10.0	18.8	25.0	16.3	30.0	28.8	46.3
Q6-3. 社会・国土の形成 心豊かな暮らし 重要度	非常に重要（n=795）	16.1	43.3	26.0	10.1	4.5	59.4	14.6
	重要（n=1600）	7.4	43.9	31.8	12.5	4.4	51.3	16.9
	どちらともいえない（n=494）	6.3	30.2	37.7	17.4	8.5	36.4	25.9
	重要度は低い（n=75）	6.7	42.7	24.0	18.7	8.0	49.3	26.7
	全く重要ではない（n=36）	5.6	19.4	22.2	8.3	44.4	25.0	52.8
	[重要計]（n=2395）	10.3	43.7	29.9	11.7	4.5	53.9	16.2
	[重要ではない計]（n=111）	6.3	35.1	23.4	15.3	19.8	41.4	35.1

■公共事業予算今後の増減評価　×　全体的な社会資本の充足度評価　との相関分析

・　全体的な社会資本の充足度評価で、「充足している」を選択した者は、「増やすべき＋増やさざるを得ない」計が全体平均より高い。

＜相関分析（Q32）×Q8-1、Q8-2＞

（%）

		増やしていくべき	増やさざるを得ない	2021年度程度とすべき	減らさざるを得ない	減らしていくべき	増やすべき＋増やさざるを得ない計	減らしていくべき＋減らさざるを得ない計
全体（n=3000）		9.5	41.1	30.9	12.8	5.7	*50.6*	*18.5*
Q8-1. 社会資本の状況 全体評価 【生活地域・空間】	非常に充足している（n=95）	24.2	38.9	23.2	6.3	7.4	*63.2*	*13.7*
	かなり充足している（n=826）	10.2	46.2	28.7	10.9	4.0	*56.4*	*14.9*
	どちらともいえない（n=1351）	6.8	39.1	34.6	13.9	5.6	*45.9*	*19.5*
	あまり充足していない（n=611）	10.6	42.4	27.0	13.6	6.4	*53.0*	*20.0*
	ほとんど充足していない（n=117）	17.1	23.9	30.8	13.7	14.5	*41.0*	*28.2*
	［充足している計］（n=921）	11.6	45.5	28.1	10.4	4.3	*57.1*	*14.8*
	［充足していない計］（n=728）	11.7	39.4	27.6	13.6	7.7	*51.1*	*21.3*
Q8-2. 社会資本の状況 全体評価 【日本全体】	非常に充足している（n=65）	24.6	38.5	21.5	3.1	12.3	*63.1*	*15.4*
	かなり充足している（n=572）	12.9	45.3	27.3	9.4	5.1	*58.2*	*14.5*
	どちらともいえない（n=1560）	6.2	39.9	33.8	14.9	5.2	*46.1*	*20.1*
	あまり充足していない（n=677）	11.2	42.7	29.5	11.2	5.3	*53.9*	*16.5*
	ほとんど充足していない（n=126）	16.7	31.0	23.8	15.1	13.5	*47.6*	*28.6*
	［充足している計］（n=637）	14.1	44.6	26.7	8.8	5.8	*58.7*	*14.6*
	［充足していない計］（n=803）	12.1	40.8	28.6	11.8	6.6	*52.9*	*18.4*

■公共事業予算の今後の増減評価　×　居住地域と日本の将来　との相関分析

- 　将来に関する設問で、いずれの選択肢を選択した場合でも、公共事業予算の増減に関する設問では、「増やすべき＋増やさない」計の割合が「減らしていくべき＋減らさざるを得ない」計の割合より多い。
- 「2021 年度程度とすべき」との意見は 2 割～4 割程度となっており、いずれのケースでも少なくない割合となっている。

＜相関分析（Q32）×Q33、Q34、Q36、Q37＞

（%）

		増やしていくべき	増やさざるを得ない	2021年度程度とすべき	減らさざるを得ない	減らしていくべき	増やすべき＋増やさざるを得ない計	減らしていくべき＋減らさざるを得ない計
全体（n=3000）		9.5	41.1	30.9	12.8	5.7	50.6	18.5
Q33-1. 地域の将来像1（衰退～成長）予測	衰退していく地域（n=1021）	12.9	38.8	28.6	12.8	6.9	51.7	19.7
	質の高い生活がそれなりに維持される地域（n=1148）	7.3	47.5	29.6	11.4	4.2	54.8	15.6
	便利で快適な地域（n=687）	7.6	35.4	36.7	14.8	5.5	42.9	20.4
	成長性の高い便利で快適な地域（n=144）	11.1	34.7	30.6	13.2	10.4	45.8	23.6
Q36-1. 日本の将来像1（衰退～成長）予測	衰退する日本（n=1675）	10.9	40.8	27.1	14.4	6.7	51.7	21.2
	定常社会の日本（n=911）	6.8	43.4	36.7	10.0	3.2	50.2	13.2
	活力を保持した日本（n=307）	8.5	36.8	37.5	12.1	5.2	45.3	17.3
	生産性が向上、成長する日本（n=107）	13.1	39.3	23.4	12.1	12.1	52.3	24.3
Q33-2. 地域の将来像1（衰退～成長）あるべき姿	衰退していく地域（n=495）	13.9	40.2	26.1	12.3	7.5	54.1	19.8
	質の高い生活がそれなりに維持される地域（n=1241）	7.7	43.2	31.2	13.2	4.8	50.8	18.0
	便利で快適な地域（n=936）	7.6	40.3	33.9	14.1	4.2	47.9	18.3
	成長性の高い便利で快適な地域（n=328）	14.9	37.2	29.0	7.9	11.0	52.1	18.9
Q36-2. 日本の将来像1（衰退～成長）あるべき姿	衰退する日本（n=474）	13.5	37.6	27.0	12.4	9.5	51.1	21.9
	定常社会の日本（n=675）	7.6	40.0	31.4	16.9	4.1	47.6	21.0
	活力を保持した日本（n=1050）	7.7	42.5	33.9	11.0	4.9	50.2	15.9
	生産性が向上、成長する日本（n=801）	11.0	42.4	29.0	11.7	5.9	53.4	17.6
Q34-1. 地域の将来像2（受動～能動）予測	社会的な関心・関係が希薄な地域（n=921）	14.4	37.6	27.1	13.9	6.9	52.0	20.8
	社会的な課題解決を行政に依存する地域（n=1244）	6.8	44.9	32.2	12.0	4.2	51.6	16.2
	社会的な課題に住民が分担して取り組む地域（n=731）	7.9	40.9	33.2	13.1	4.8	48.8	17.9
	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域（n=104）	8.7	29.8	32.7	9.6	19.2	38.5	28.8
Q37-1. 日本の将来像2（受動～能動）予測	社会的な関心・関係が希薄な日本（n=1473）	11.0	39.9	28.5	13.4	7.2	50.9	20.6
	社会的な課題解決を行政に依存する日本（n=1033）	7.8	45.0	32.9	10.9	3.3	52.9	14.2
	社会的な課題に住民が分担して取り組む日本（n=434）	7.6	38.7	33.9	15.4	4.4	46.3	19.8
	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本（n=60）	13.3	21.7	35.0	10.0	20.0	35.0	30.0
Q34-2. 地域の将来像2（受動～能動）あるべき姿	社会的な関心・関係が希薄な地域（n=454）	15.4	37.9	25.6	14.3	6.8	53.3	21.1
	社会的な課題解決を行政に依存する地域（n=911）	7.9	40.6	33.8	12.4	5.3	48.5	17.7
	社会的な課題に住民が分担して取り組む地域（n=1438）	8.8	42.7	30.8	12.9	4.9	51.5	17.7
	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する地域（n=197）	8.1	39.6	31.0	10.2	11.2	47.7	21.3
Q37-2. 日本の将来像2（受動～能動）あるべき姿	社会的な関心・関係が希薄な日本（n=410）	15.6	34.9	27.6	12.9	9.0	50.5	22.0
	社会的な課題解決を行政に依存する日本（n=640）	9.2	41.4	33.1	12.0	4.2	50.6	16.3
	社会的な課題に住民が分担して取り組む日本（n=1621）	8.0	42.6	31.6	13.0	4.9	50.5	17.9
	血縁社会、地域社会が新たな形で復活する日本（n=329）	9.7	41.3	27.7	13.1	8.2	51.1	21.3

■新型コロナによる態度変容（Q3-1）と日本・居住地域の将来予測・なるべき姿（Q33.Q36）との相関分析

＜ コロナ関連回答　類型化の方法 ＞

① Q3-1.新型コロナウイルス感染症を受けての変化の設問の選択を以下のようにプラス項目とマイナス項目に分類。

プラス項目

1.テレワーク等の普及により、通勤時間が減るなどし、余暇の過ごし方が充実した

4.家族とのコミュニケーションが増え、繋がりが強まった

マイナス項目

2.仕事が減り（もしくは失業し）、生活が苦しくなった

3.旅行、外食、買い物などで外出する機会が減った

5.友人や知人などとのコミュニケーションが減り、繋がりが弱まった

6.対面での会合・コミュニケーションや外出が減少し、学習や情報を得る機会が減った

7.自分・家族・知人の健康や医療体制に対する不安が強くなった

プラスでもマイナスでもない項目

8. 感染症等を含めた自然災害等のリスクを軽減するため、生活拠点を都市部以外としたいと考えるようになった

9. 変化がない

10.その他：

② 回答者ごとに、選択したプラス項目とマイナス項目の数によって以下のように類型化した。

プラス項目1個以上

プラス項目もマイナス項目もなし

プラス項目なし＆マイナス項目2個以下

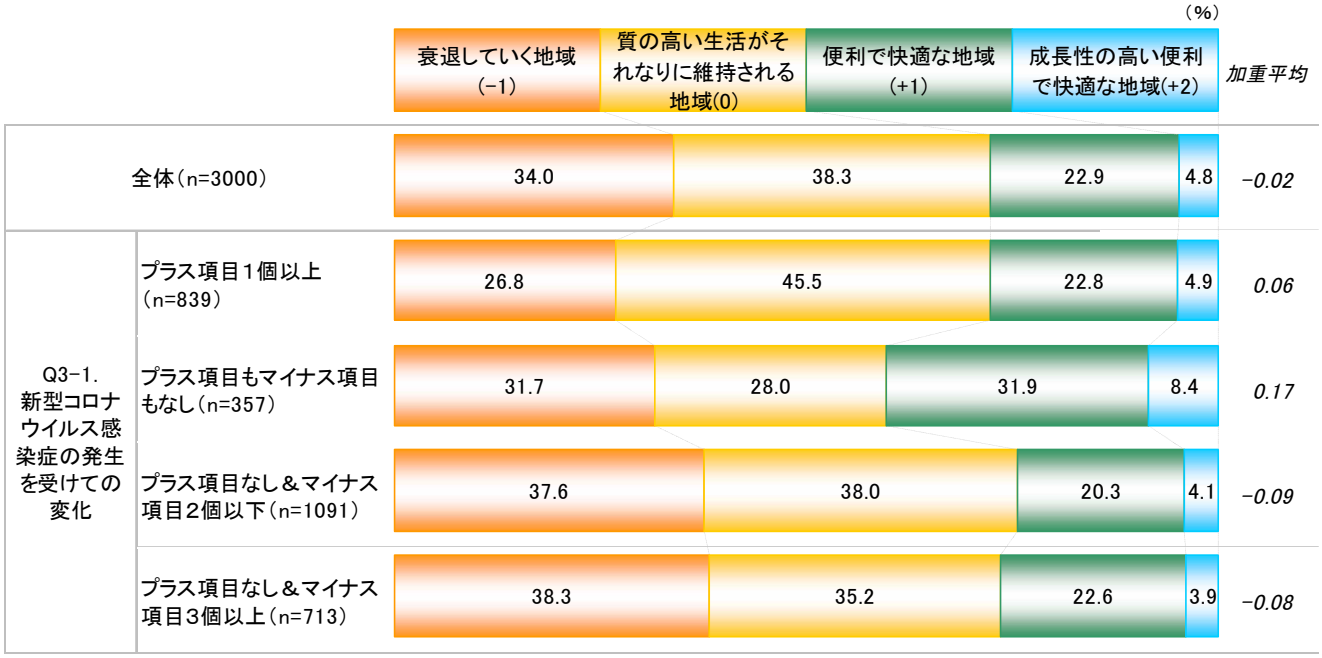
プラス項目なし＆マイナス項目3個以上

■新型コロナによる態度変容（Q3-1）と日本・居住地域の将来予測・なるべき姿（Q33.Q36）との相関分析

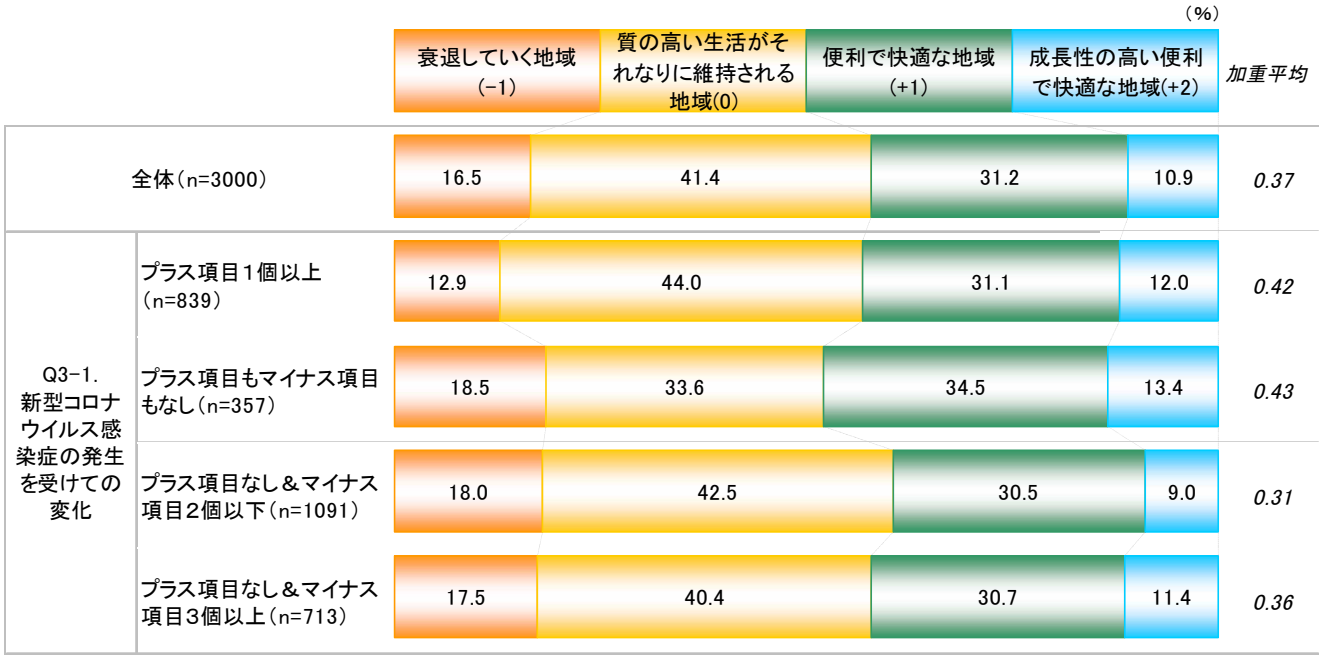
- 居住地域の将来予測について、コロナによる変化で悪影響があったとの回答項目数が多いほど悲観的。
- 一方で、なるべき姿について、コロナによる変化との相関は見られない。

＜居住地域について＞

Q33-1.あなたの住む地域が将来最もなりそうであると予測される姿

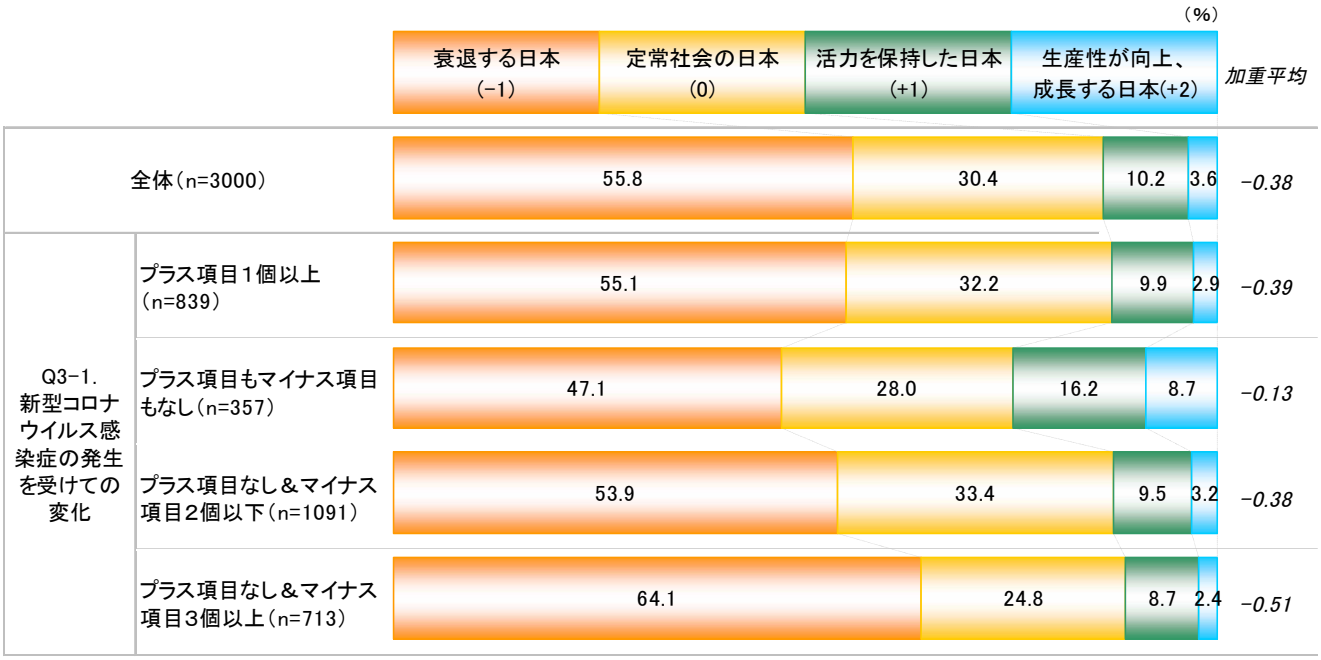


Q33-2.あなたの住む地域が将来なるべきと思われる姿

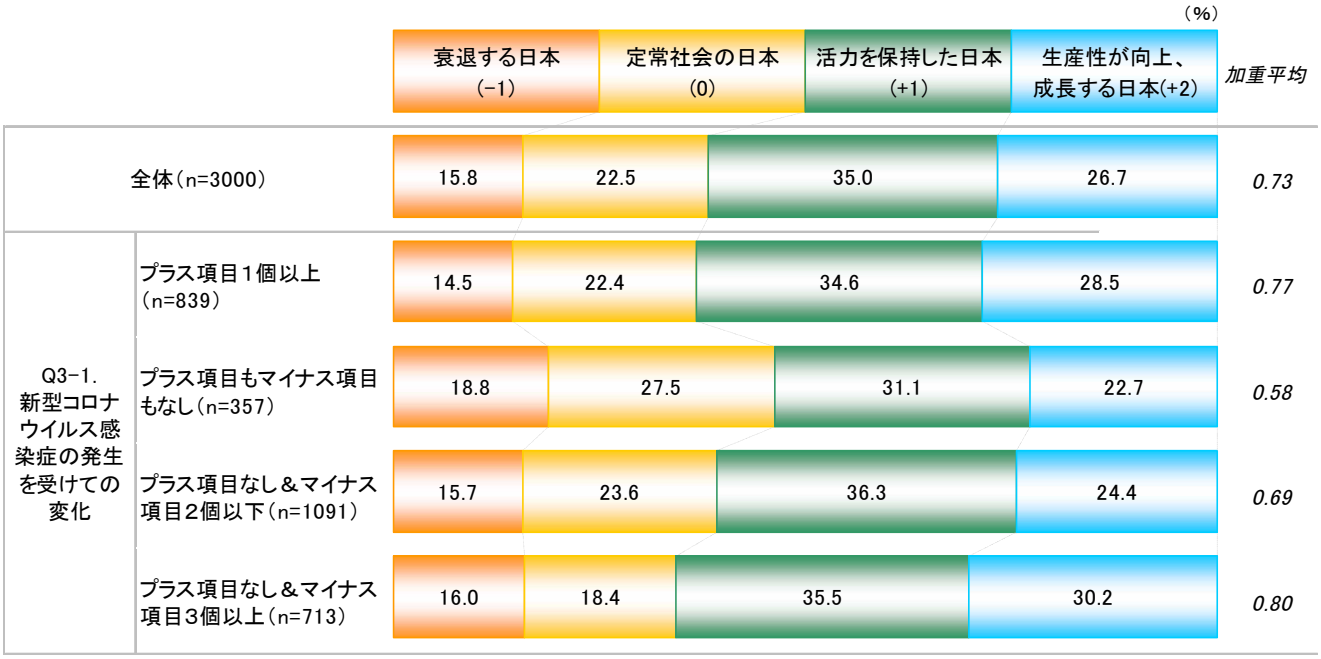


＜日本について＞

Q36-1.将来の日本が最もなりそうであると予測される姿



Q36-2.将来の日本がなるべきと思われる姿



■新型コロナによる態度変容（Q3-1）の回答類型毎の属性分析

＜分析の趣旨＞

P235 で新型コロナによる態度変容（Q3-1）の回答により類型化を行ったが、その類型毎の属性分析を行い、どのような類型がプラスの影響（もしくはマイナスの影響）を受けているかを大まかに把握する。

＜ コロナ関連回答　類型化の方法【P235 よりの再掲】 ＞

① Q3-1.新型コロナウイルス感染症を受けての変化の設問の選択を以下のようにプラス項目とマイナス項目に分類。

プラス項目

1.テレワーク等の普及により、通勤時間が減るなどし、余暇の過ごし方が充実した

4.家族とのコミュニケーションが増え、繋がりが強まった

マイナス項目

2.仕事が減り（もしくは失業し）、生活が苦しくなった　　3.旅行、外食、買い物などで外出する機会が減った

5.友人や知人などとのコミュニケーションが減り、繋がりが弱まった

6.対面での会合・コミュニケーションや外出が減少し、学習や情報を得る機会が減った

7.自分・家族・知人の健康や医療体制に対する不安が強くなった

プラスでもマイナスでもない項目

8. 感染症等を含めた自然災害等のリスクを軽減するため、生活拠点を都市部以外としたいと考えるようになった

9. 変化がない　　10.その他：

② 回答者ごとに、選択したプラス項目とマイナス項目の数によって以下のように類型化した。

プラス項目1個以上	プラス項目もマイナス項目もなし
プラス項目なし＆マイナス項目2個以下	プラス項目なし＆マイナス項目3個以上

＜ 分析結果 ＞

- 年代別では、18歳～39歳の世代で「プラス項目1個以上」の割合が全体平均より5ポイント以上高く、60歳～74歳の世代で「プラス項目なし＆マイナス項目3個以」の割合が全体平均より5ポイント以上高い。
- 職業別では、学生と会社員・会社役員で「プラス項目1個以上」の割合が全体平均より5ポイント以上高く、専業主婦、無職、その他で「プラス項目なし＆マイナス項目3個以」の割合が全体平均より5ポイント以上高い。
- 世帯年収別では、399万円以下の世帯で「プラス項目1個以上」の割合が全体平均より5ポイント以上低く、800万円以上の世帯で「プラス項目1個以上」の割合が全体平均より高い傾向にある。

※ 次ページ以降にデータ表あり。

年齢別					
	n（人）	Q3-1. 新型コロナウイルス感染症の発生を受けての変化（単位：%）			
		プラス項目１個以上	プラス項目もマイナス項目もなし	プラス項目なし＆マイナス項目２個以下	プラス項目なし＆マイナス項目３個以上
全体	3000	28.0	11.9	36.4	23.8
18～19歳	23	39.1	21.7	30.4	8.7
20～24歳	180	42.8	15.0	25.0	17.2
25～29歳	397	38.5	11.8	32.2	17.4
30～34歳	268	33.6	9.3	34.0	23.1
35～39歳	332	33.4	13.0	29.8	23.8
40～44歳	281	27.8	11.4	36.3	24.6
45～49歳	319	24.8	14.4	39.5	21.3
50～54歳	332	22.3	14.5	40.4	22.9
55～59歳	268	20.9	12.3	41.8	25.0
60～64歳	265	20.4	7.2	40.4	32.1
65～69歳	187	17.1	8.0	45.5	29.4
70～74歳	120	15.8	10.0	38.3	35.8
75歳以上	28	25.0	17.9	32.1	25.0

職業別					
	n（人）	Q3-1. 新型コロナウイルス感染症の発生を受けての変化（単位：%）			
		プラス項目１個以上	プラス項目もマイナス項目もなし	プラス項目なし＆マイナス項目２個以下	プラス項目なし＆マイナス項目３個以上
全体	3000	28.0	11.9	36.4	23.8
会社員・会社役員	1334	35.8	10.9	33.3	20.0
公務員・団体職員	231	21.2	16.0	43.3	19.5
自営業	161	21.7	12.4	41.6	24.2
自由業	58	27.6	12.1	34.5	25.9
専業主婦（夫）	386	23.6	9.1	36.5	30.8
学生	96	46.9	9.4	28.1	15.6
パート・アルバイト	413	18.4	13.3	39.7	28.6
その他	38	28.9	2.6	34.2	34.2
無職	283	13.8	16.6	40.6	29.0

■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

世帯年収別					
	n（人）	Q3-1. 新型コロナウイルス感染症の発生を受けての変化（単位：%）			
		プラス項目１個以上	プラス項目もマイナス項目もなし	プラス項目なし＆マイナス項目２個以下	プラス項目なし＆マイナス項目３個以上
全体	3000	28.0	11.9	36.4	23.8
～99万円	126	19.0	20.6	37.3	23.0
100万～199万円	188	14.9	14.4	43.6	27.1
200万～299万円	304	17.4	14.8	38.8	28.9
300万～399万円	419	22.9	13.6	34.6	28.9
400万～499万円	401	26.2	12.7	37.2	23.9
500万～599万円	354	25.7	11.9	37.6	24.9
600万～699万円	266	32.3	9.8	32.0	25.9
700万～799万円	229	29.3	9.2	41.0	20.5
800万～899万円	177	35.6	9.0	37.3	18.1
900万～999万円	135	38.5	6.7	36.3	18.5
1000万～1199万円	170	41.8	7.1	32.4	18.8
1200万～1399万円	83	37.3	8.4	37.3	16.9
1400万～1599万円	63	50.8	11.1	25.4	12.7
1600万～1799万円	30	46.7	10.0	26.7	16.7
1800万～1999万円	11	27.3	9.1	45.5	18.2
2000万円以上	44	52.3	15.9	18.2	13.6

■全体より 10 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上高い ■全体より 5 ポイント以上低い ■全体より 10 ポイント以上低い

■社会資本に関する課題等の認知度と社会資本の充足度評価・将来予測等に関する相関分析

＜分析の主旨＞

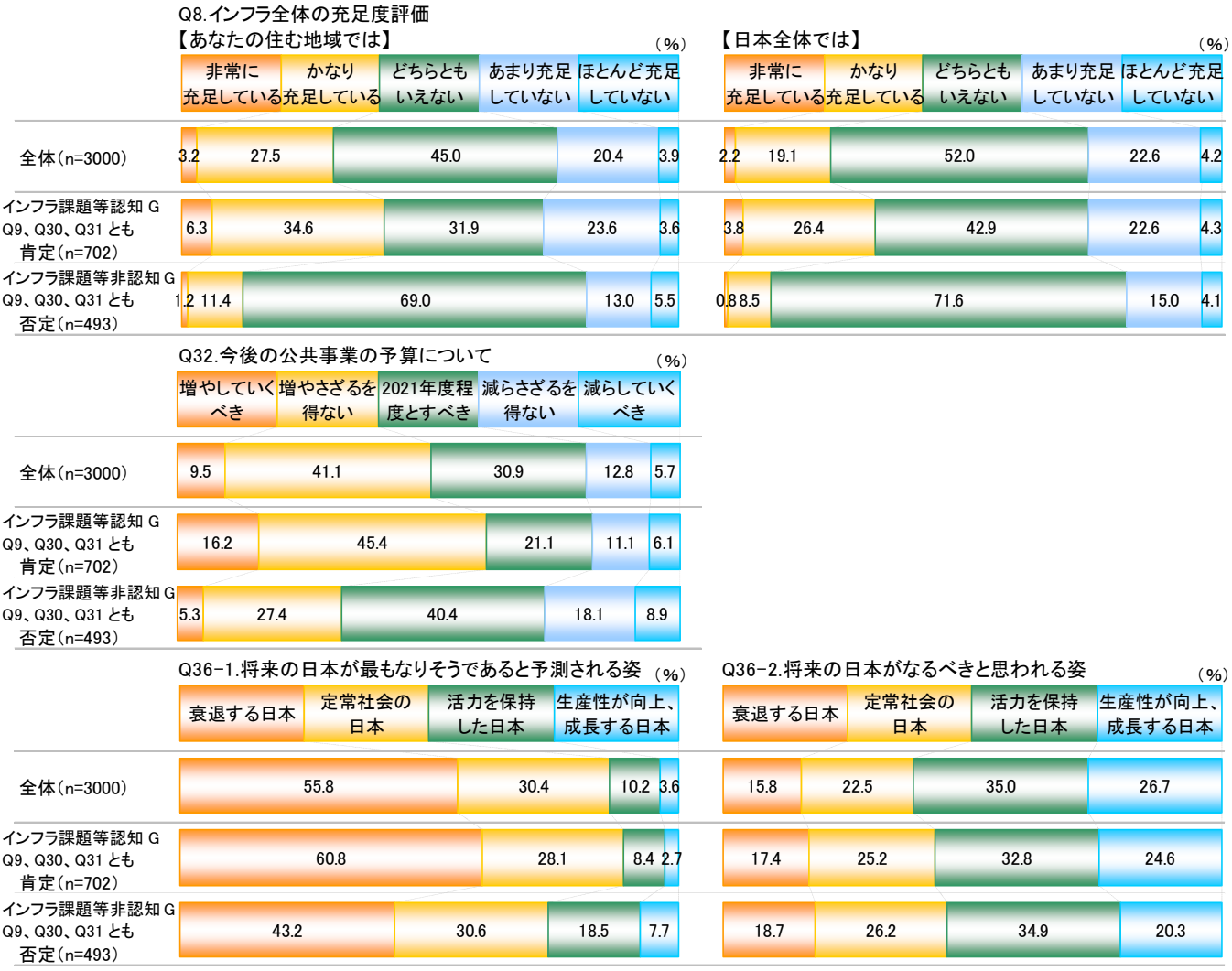
社会資本に関する課題等の認知度が、「全体的な社会資本の充足度評価」、「今後の公共事業費の増減の意向」、「日本の将来予測等」に与える影響を分析するため以下手順で分析を行った。

＜分析の手順＞

- 社会資本の課題等に関する設問として「維持管理等の重要度に関する設問（Q9）」、「諸外国でのインフラ投資増の動きに関する設問（Q30）」、「日本の厳しい地形・気候に関する設問（Q31）」がある。この3つの問い全てに知っていると回答したグループを「インフラに関する課題等を認知しているグループ」、3つの問い全てに知らないと回答したグループを「インフラに関する課題等を認知していないグループ」として抽出する。
- 上記で抽出したグループ毎に「全体的な社会資本の充足度に関する評価（Q8）」、「公共事業費の増減に関する意向（Q32）」、「日本の将来予測・なるべき姿＜衰退⇔成長＞（Q36）」についての傾向を分析。

＜結果＞

- インフラに関する課題等を認知しているグループはサンプル数 702（23.4%）、インフラに関する課題等を認知していないグループはサンプル数 493（16.4%）である。
- インフラに関する課題等を認知していないグループは全体平均と比較して、「全体的な社会資本の評価」について、どちらとも言えないが著しく高い。認知度の低さが判断保留の一因となっていると推測される。
- インフラに関する課題等を認知しているグループは全体平均と比較して、「全体的な社会資本の評価」が高く、「公共事業費の増加」に肯定的、「将来予測」は悲観的。
- 将来の日本のなるべきと思われる姿について、「インフラに関する課題等を認知しているグループ」、「インフラに関する課題等を認知していないグループ」とも「活力を保持した日本」、「生産性が向上し、成長する日本」を選択した割合が 5 割を超えている。



■社会生活における考え方と社会資本の充足度評価・将来予測等に関する相関分析

＜分析の主旨＞

社会生活における考え方等が、「全体的な社会資本の充足度評価」、「今後の公共事業費の増減の意向」、「日本の将来予測等」に与える影響を分析するため以下手順で分析を行った。

＜分析の手順＞

- Q3社会・生活の動向に関する考え方等に関する設問のうち、「そう思う計」と「そう思わない計」のサンプル数に偏りの少ない設問を抽出。
- 上記の抽出した設問をテーマ毎にとりまとめ、以下の通りグループを抽出

(1) 仕事を重視するグループ【ウ)に肯定】 ⇔ 仕事を重視しないグループ【ウ)に否定】
ウ)仕事に打ち込み、出世することは良い

(2) 都会暮らしに積極的なグループ【オ)に肯定】 ⇔ 都会暮らしに消極的なグループ【オ)に否定】
オ)都市部、都市中心部で暮らしたい

(3) 社会参加に積極的なグループ【キ)ク)ケ)に肯定】 ⇔ 社会参加に消極的なグループ【キ)ク)ケ)に否定】
キ)地域の活動には積極的に参加したい、ク)政治、社会の動向に関心が高い、ケ)社会に貢献する活動に取り組みたい

(4) 負担に積極的なグループ【シ)ス)セ)に肯定】 ⇔ 負担に消極的なグループ【シ)ス)セ)に否定】
シ)公的サービスをより充実させるため、税金・料金などの負担を増やしてもよい
ス)年金・医療制度のため、必要であればもっと負担をしてもよい
セ)自分の生活は個々が守るべき、「公」は介入すべきでない

(5) 収入予測が楽観的なグループ【ツ)に肯定】 ⇔ 収入予測が悲観的なグループ【ツ)に否定】
ツ)今後、自分や家族の収入は増えていく

- 上記で抽出したグループ毎に「全体的な社会資本の充足度に関する評価(Q8)」、「公共事業費の増減に関する意向(Q32)」、「日本の将来予測・なるべき姿＜衰退⇔成長＞(Q36)」についての傾向を分析。

＜結果＞

■社会生活における考え方と社会資本の充足度評価・将来予測等に関する相関分析＜仕事を重視するグループ ⇔ 仕事を重視しないグループ＞

- 仕事を重視するグループはサンプル数 1053（35.1%）、仕事を重視しないグループはサンプル数 642（21.4%）である。
- 仕事を重視するグループは全体平均と比較して、「全体的な社会資本の評価」（充足度評価）が高く、「公共事業費の増加」に肯定的である。
- 仕事を重視しないグループは全体平均と比較して、日本のなりそうな姿について、悲観的である。
- 将来の日本のなるべきと思われる姿について、「仕事を重視するグループ」、「仕事を重視しないグループ」とも「活力を保持した日本」、「生産性が向上し、成長する日本」を選択した割合が 5 割を超えている。

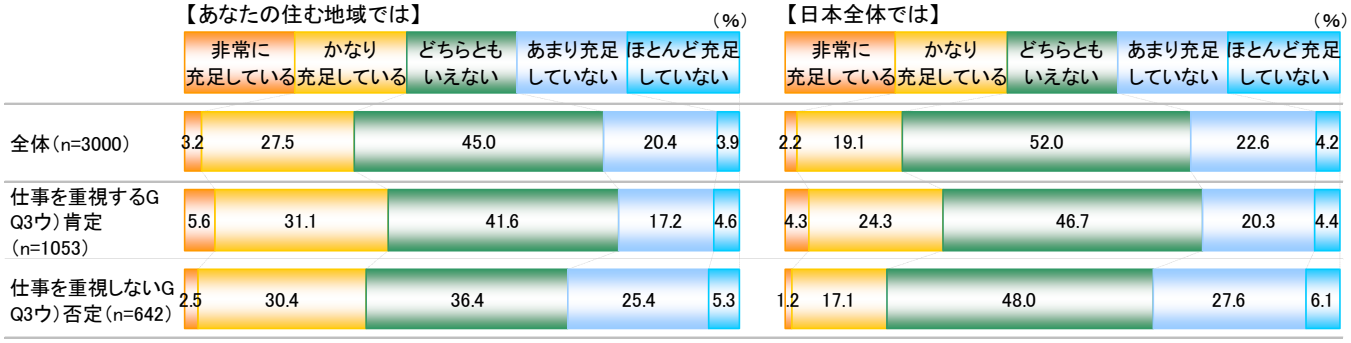
Q3. あなたご自身は、社会・生活において、どのような考えをお持ちですか。

ウ）仕事に打ち込み、出世することは良い

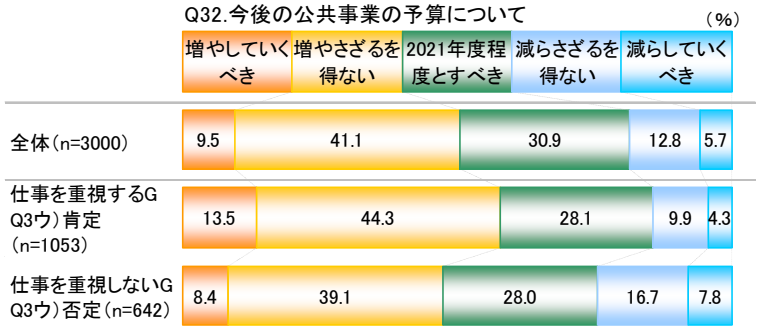
〔**仕事を重視するグループ**（＝「非常にそう思う」＋「そう思う」）〕

〔**仕事を重視しないグループ**（＝「そう思わない」＋「全くそう思わない」）〕

Q8.インフラ全体の充足度評価

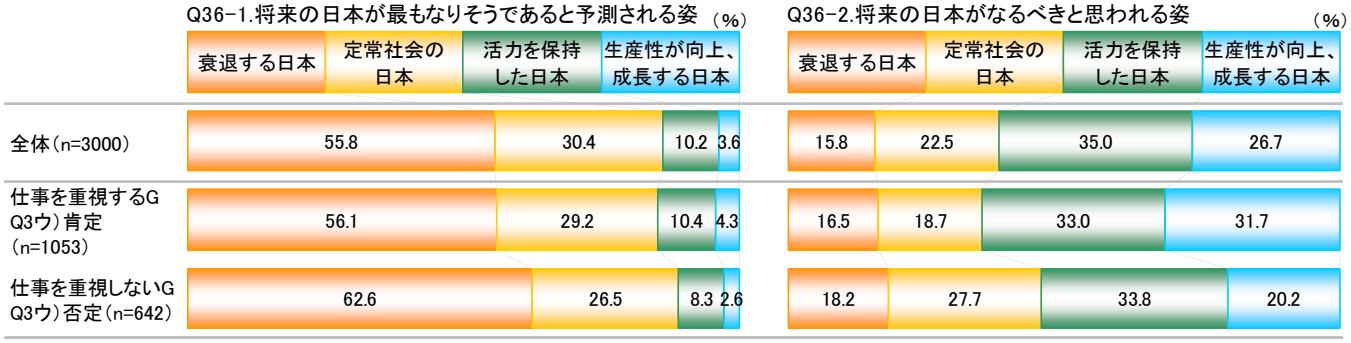


Q32.今後の公共事業の予算について



Q36-1.将来の日本が最もなりそうであると予測される姿

Q36-2.将来の日本がなるべきと思われる姿



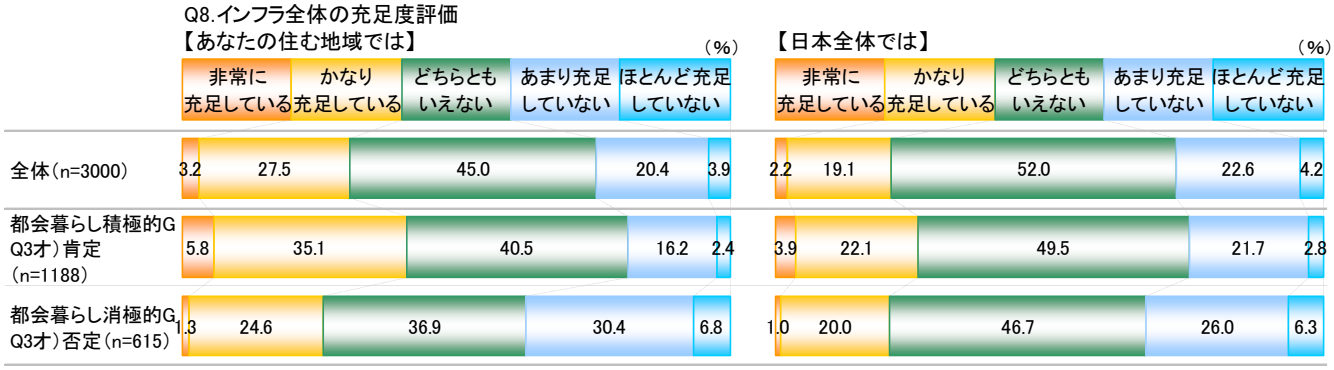
■社会生活における考え方と社会資本の充足度評価・将来予測等に関する相関分析＜都会暮らしに積極的なグループ ⇔ 都会暮らしに消極的なグループ＞

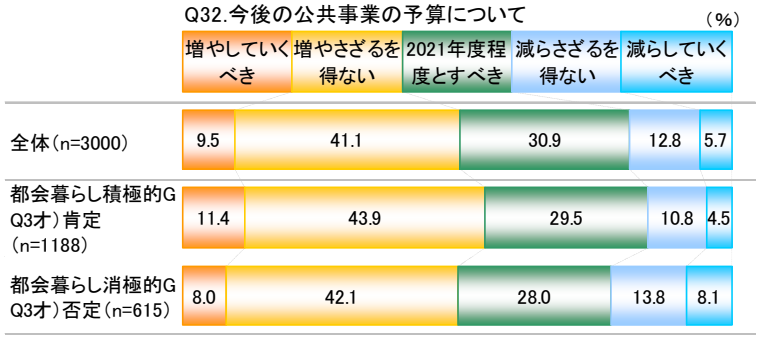
- 都会暮らしに積極的なグループはサンプル数 1188（39.6%）、都会暮らしに消極的なグループはサンプル数615（20.5%）である。
- 都会暮らしに積極的なグループは全国平均と比較して、「全体的な社会資本の評価（居住地）」（充足度評価）が高い。一方で都会暮らしに消極的なグループは低い。
- 都会暮らしに積極的なグループは全国平均と比較して、「公共事業費の増加」に肯定的。
- 将来の日本のなるべきと思われる姿について、「都会暮らしに積極的なグループ」、「都会暮らしに消極的なグループ」とも「活力を保持した日本」、「生産性が向上し、成長する日本」を選択した割合が 5 割を超えている。

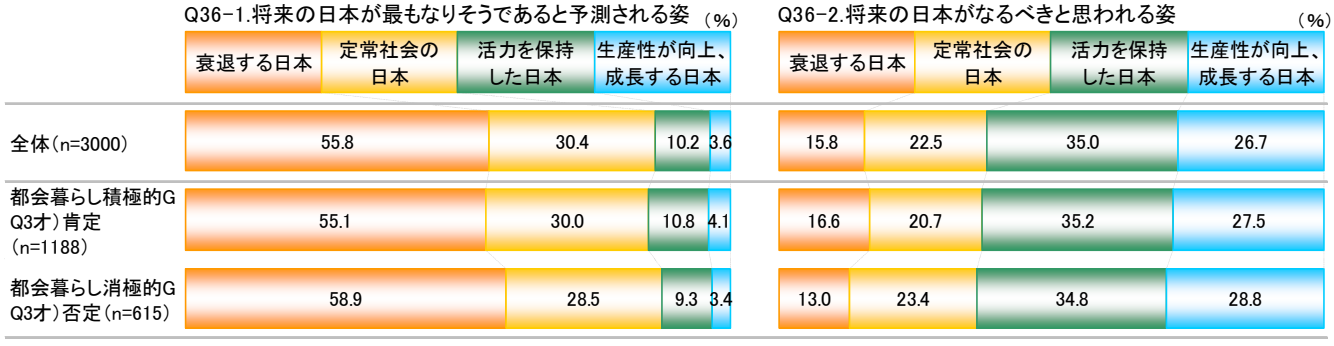
Q3. あなたご自身は、社会・生活において、どのような考えをお持ちですか。

オ）都市部、都市中心部で暮らしたい

〔**都会暮らしに積極的なグループ**（＝「非常にそう思う」＋「そう思う」）、**都会暮らしに消極的なグループ**（＝「そう思わない」＋「全くそう思わない」）〕







■社会生活における考え方と社会資本の充足度評価・将来予測等に関する相関分析＜社会参加に積極的なグループ ⇔ 社会参加に消極的なグループ＞

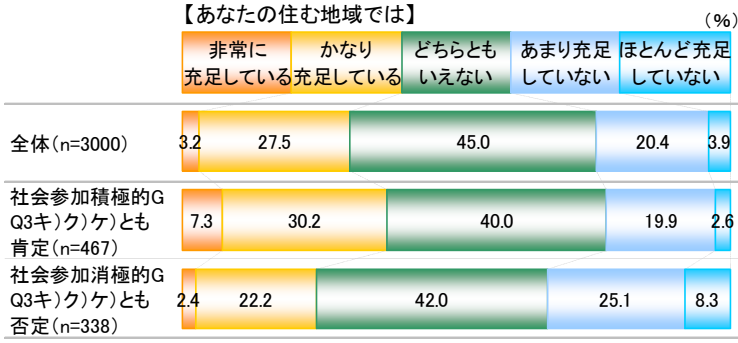
- 社会参加に積極的なグループはサンプル数 467（15.6%）、社会参加に消極的なグループはサンプル数 338（11.2%）である。
- 社会参加に積極的なグループは全体平均と比較して、「全体的な社会資本の評価」（充足度評価）が高く、「公共事業費の増加」に肯定的。
- 社会参加に消極的なグループは社会参加に積極的なグループと逆の傾向。
- 将来の日本のなるべきと思われる姿について、「社会参加に積極的なグループ」、「社会参加に消極的なグループ」とも「活力を保持した日本」、「生産性が向上し、成長する日本」を選択した割合が 5 割を超えている。

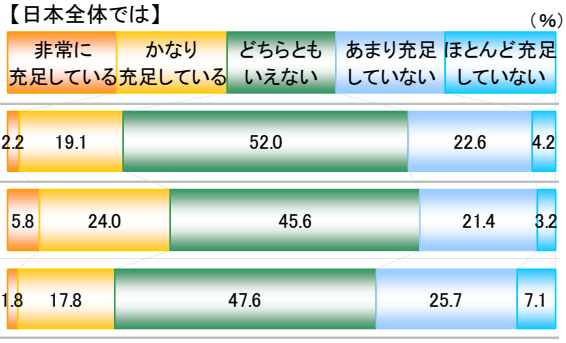
Q3. あなたご自身は、社会・生活において、どのような考えをお持ちですか。

キ）地域の活動には積極的に参加したい
ク）政治、社会の動向に関心が高い
ケ）社会に貢献する活動に取り組みたい

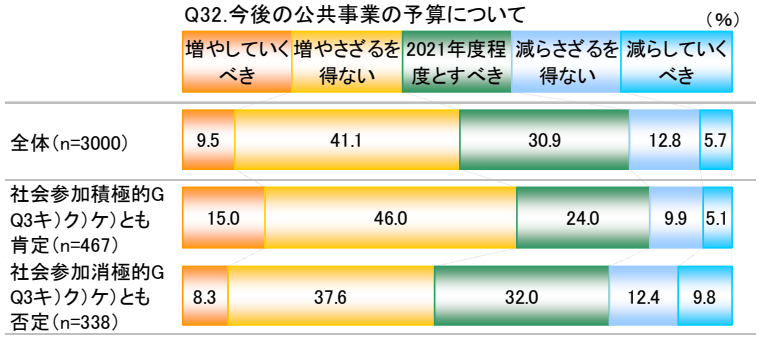
〔**社会参加に積極的なグループ**（＝「非常にそう思う」＋「そう思う」）〕
〔**社会参加に消極的なグループ**（＝「そう思わない」＋「全くそう思わない」）〕

Q8.インフラ全体の充足度評価

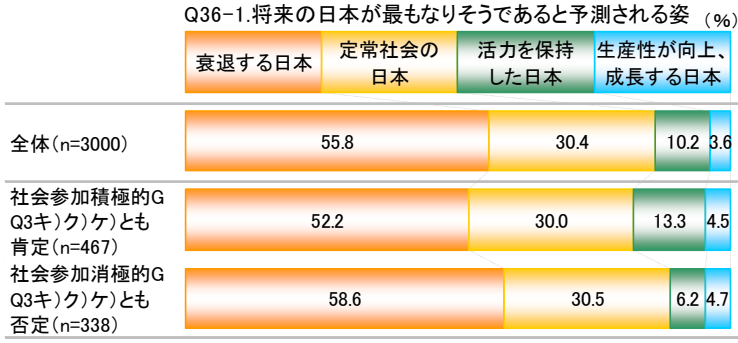




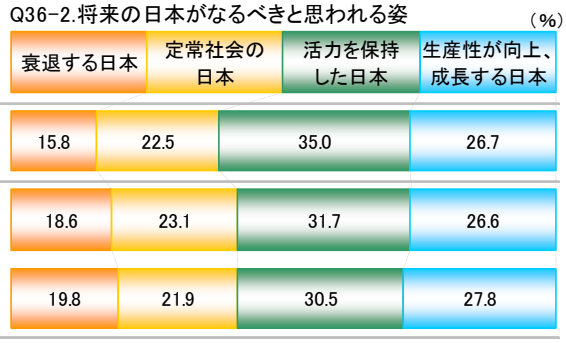
Q32.今後の公共事業の予算について



Q36-1.将来の日本が最もなりそうであると予測される姿



Q36-2.将来の日本がなるべきと思われる姿



■社会生活における考え方と社会資本の充足度評価・将来予測等に関する相関分析＜負担に積極的なグループ ⇔ 負担に消極的なグループ＞

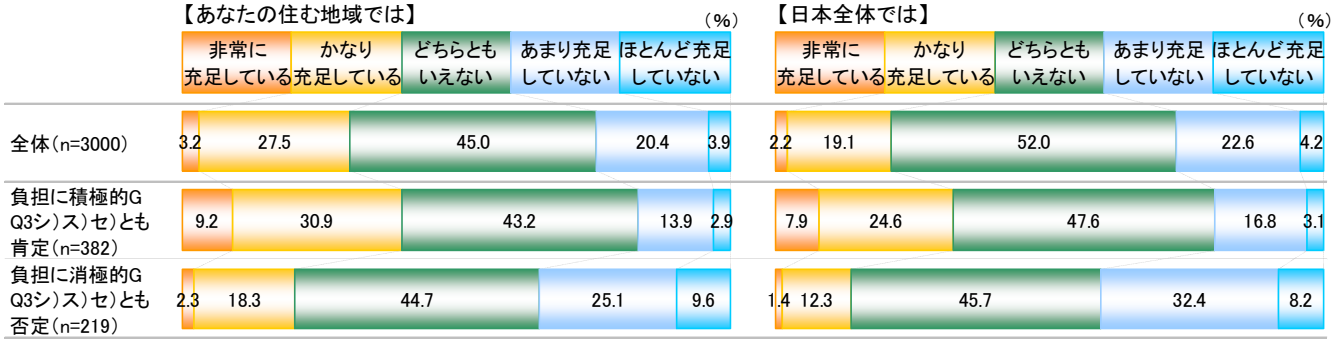
- 負担に積極的なグループはサンプル数 382（12.7%）、負担に消極的なグループはサンプル数 219（7.3%）である。
- 負担に積極的なグループは全体平均と比較して、地域、日本とも「全体的な社会資本の評価」（充足度評価）が高く、「公共事業費の増加」に肯定的。
- 負担に消極的なグループは負担に積極的なグループと逆の傾向。
- 将来の日本のなるべきと思われる姿について、「負担に積極的なグループ」、「負担に消極的なグループ」とも「活力を保持した日本」、「生産性が向上し、成長する日本」を選択した割合が 5 割を超えている。

Q3. あなたご自身は、社会・生活において、どのような考えをお持ちですか。

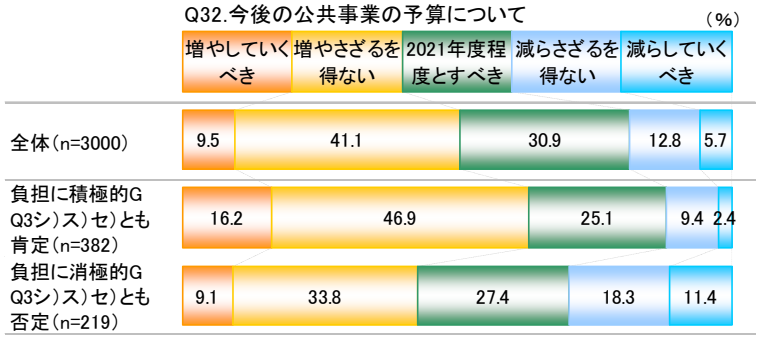
シ）公的サービスをより充実させるため、税金・料金などの負担を増やしてもよい
ス）年金・医療制度のため、必要であればもっと負担をしてもよい
セ）自分の生活は個々が守るべき、「公」は介入すべきでない

〔**負担に積極的なグループ**（＝「非常にそう思う」＋「そう思う」）〕
〔**負担に消極的なグループ**（＝「そう思わない」＋「全くそう思わない」）〕

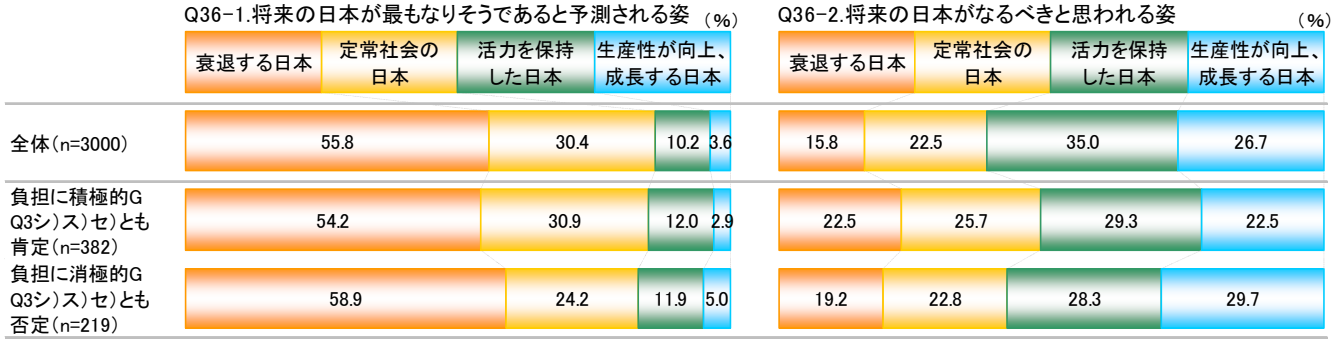
Q8.インフラ全体の充足度評価



Q32.今後の公共事業の予算について



Q36-1.将来の日本が最もなりそうであると予測される姿　Q36-2.将来の日本がなるべきと思われる姿

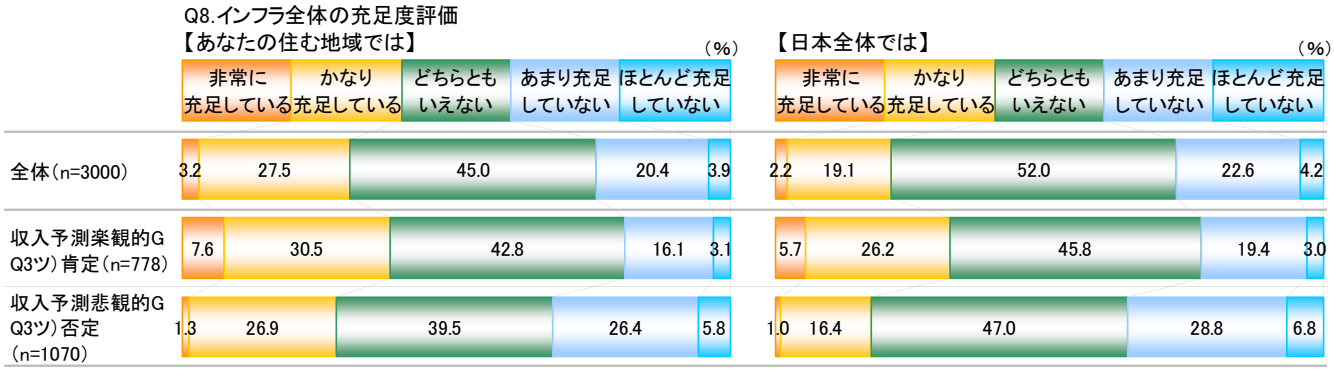


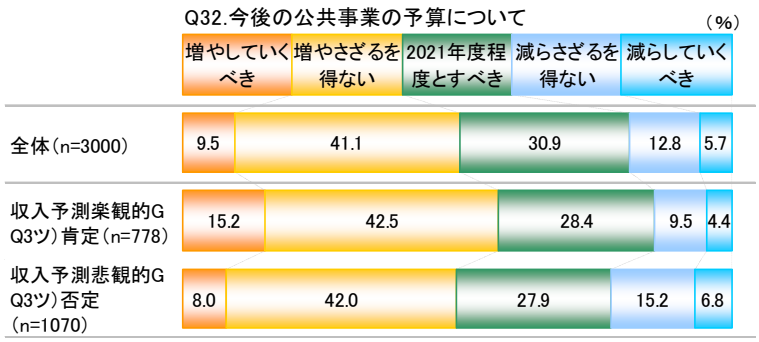
■社会生活における考え方と社会資本の充足度評価・将来予測等に関する相関分析＜収入予測が楽観的なグループ ⇔ 収入予測が悲観的なグループ＞

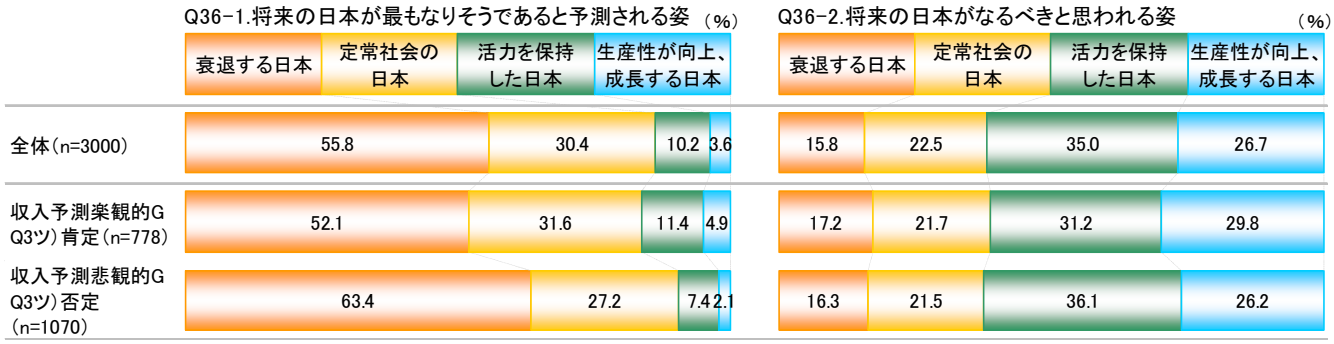
- 収入予測が楽観的なグループはサンプル数 778（25.9%）、収入予測が悲観的なグループはサンプル数 1070（35.7%）である。
- 収入予測が楽観的なグループは全体平均と比較して、「全体的な社会資本の評価」（充足度評価）が高く、「公共事業費の増加」に肯定的。
- 収入予測が悲観的なグループは全体平均と比較して、「日本の将来予測」が悲観的。
- 将来の日本のなるべきと思われる姿について、「収入予測が楽観的なグループ」、「収入予測が悲観的なグループ」とも「活力を保持した日本」、「生産性が向上し、成長する日本」を選択した割合が 5 割を超えている。

Q3. あなたご自身は、社会・生活において、どのような考えをお持ちですか。

ツ）今後、自分や家族の収入は増えていく 〔**収入予測が楽観的なグループ**（＝「非常にそう思う」＋「そう思う」）、**収入予測が悲観的なグループ**（＝「そう思わない」＋「全くそう思わない」）〕







将来に関する自由記述設問の分析

■将来に関する自由記述設問の分析

＜分析の主旨＞

- 国民が望む国の将来像，それに必要となる「インフラ」のニーズを探る。
- 自由な記述により，期待する“要素”や印象を探っていく。

＜頻出単語の抽出＞

- 居住地域及び日本の将来に関する自由記述設問、以下4問への回答について、頻出単語を抽出した。

  - Q35.あなたの住む地域が将来（2050 年前後を想定）どのような社会になって欲しいですか。（ご自由にお書きください）
  - Q35-1.そのためには、どのような社会基盤（例えば、防災施設や交通機関、情報通信施設など）の整備が重要だと思われますか。（ご自由にお書きください）
  - Q38.日本が将来（2050 年前後を想定）どのような社会になって欲しいですか。（ご自由にお書きください）
  - Q38-1.そのためには、どのような社会基盤（例えば、防災施設や交通機関、情報通信施設など）の整備が重要だと思われますか。（ご自由にお書きください）

＜結果＞

- 「なって欲しい日本の将来」については、「安全」、「安心」、「災害」などの安全・安心にかかる単語と「経済」、「活力」などの活力・交流に関する単語の出現頻度が比較的高い。
- 「そのために重要な社会基盤」としては、「防災」、「交通機関」の他、「教育」、「情報」、「環境」などの単語の出現頻度が比較的高い。
- 「なって欲しい日本の将来」、「そのために重要な社会基盤」どちらについても、「成長」や「発展」などの単語は見受けられず、「その頃には生きていない」、「もう手遅れ」、「衰退、人口減少、財政破綻」、「政治離れによる混沌の世界」、「どうあがいたって結局、少子高齢化と衰退は避けられない。あるがままに受け入れたほうがいい。」などの諦めを感じさせる回答も一定数あった【P264 参照】。

Q35(なって欲しい居住地域の将来)への回答での頻出単語

順位	単語	出現頻度	出現率
1	社会	944	31%
2	地域	684	23%
3	欲しい	477	16%
4	無い	424	14%
5	安心	349	12%
6	なる	340	11%
7	安全	321	11%
8	住み	245	8%
9	暮らす	221	7%
10	生活	211	7%
11	街:名詞	205	7%
12	特に	153	5%
13	人:名詞	151	5%
14	子供	139	5%
15	する	136	5%
16	自然	125	4%
17	思う	124	4%
18	便利	121	4%
19	災害	120	4%
20	良い	112	4%
21	充実	109	4%
22	出来る	106	4%
23	豊か	103	3%
24	環境	103	3%
25	人口	98	3%
26	増える	98	3%
27	住民	91	3%
28	高齢者	89	3%
29	住む	89	3%
30	子育て	85	3%
31	維持	85	3%
32	分かる	81	3%
33	町	81	3%
34	快適	77	3%
35	暮らし	76	3%
36	整備	76	3%
37	活気	69	2%
38	多い	65	2%
39	ある:動詞	60	2%
40	インフラ	57	2%
41	若い	56	2%
42	優しい	55	2%
43	医療	53	2%
44	強いる	51	2%
45	よく	51	2%
46	世代	51	2%
47	平和	50	2%
48	高齢化	50	2%
49	子ども	48	2%
50	治安	46	2%

Q38(なって欲しい日本の将来)への回答での頻出単語

順位	単語	出現頻度	出現率
1	社会	1338	45%
2	無い	425	14%
3	欲しい	323	11%
4	安心	271	9%
5	国	256	9%
6	なる	230	8%
7	日本	198	7%
8	安全	193	6%
9	暮らす	166	6%
10	ある:連体詞	165	6%
11	生活	161	5%
12	国民	139	5%
13	する	120	4%
14	人:名詞	110	4%
15	出来る	107	3%
16	分かる	102	3%
17	格差	100	3%
18	平和	92	3%
19	世界	90	3%
20	豊か	89	3%
21	思う	86	3%
22	住み	80	3%
23	地域	78	3%
24	子供	78	3%
25	活力	75	2%
26	災害	74	2%
27	人口	70	2%
28	持つ	67	2%
29	政治	61	2%
30	良い	60	2%
31	ある:動詞	60	2%
32	維持	60	2%
33	経済	59	2%
34	安定	58	2%
35	暮らし	58	2%
36	環境	58	2%
37	充実	56	2%
38	高齢者	49	2%
39	強いる	46	2%
40	生きる	46	2%
41	増える	46	2%
42	自由	45	2%
43	少ない	45	2%
44	子育て	45	2%
45	かんがえる	44	1%
46	行政	43	1%
47	活気	42	1%
48	世の中	42	1%
49	自分	41	1%
50	世代	40	1%

Q35-1(そのために重要な社会基盤)への回答での頻出単語

順位	単語	出現頻度	出現率
1	整備	586	20%
2	無い	363	12%
3	施設	347	12%
4	充実	277	9%
5	防災	272	9%
6	交通機関	265	9%
7	必要	222	7%
8	思う	202	7%
9	情報	201	7%
10	する	186	6%
11	地域	173	6%
12	欲しい	171	6%
13	分かる	168	6%
14	社会	148	5%
15	道路	147	5%
16	インフラ	127	4%
17	災害	118	4%
18	公共	111	4%
19	なる	106	4%
20	設備	105	4%
21	環境	97	3%
22	通信	95	3%
23	重要	92	3%
24	人:名詞	92	3%
25	交通	89	3%
26	ある:動詞	89	3%
27	住民	86	3%
28	基盤	85	3%
29	対策	81	3%
30	教育	80	3%
31	増やす	77	3%
32	バス	74	2%
33	子育て	70	2%
34	高齢者	67	2%
35	維持	66	2%
36	出来る	65	2%
37	安全	61	2%
38	確保	60	2%
39	医療	59	2%
40	生活	56	2%
41	強化	52	2%
42	利用	52	2%
43	支援	50	2%
44	ある:連体詞	49	2%
45	交通網	46	2%
46	行政	46	2%
47	良い	45	2%
48	安心	44	1%
49	住む	44	1%
50	地震	43	1%

Q38-1(そのために重要な社会基盤)への回答での頻出単語

順位	単語	出現頻度	出現率
1	整備	410	14%
2	無い	366	12%
3	施設	272	9%
4	充実	236	8%
5	防災	234	8%
6	社会	224	7%
7	情報	216	7%
8	分かる	210	7%
9	する	180	6%
10	必要	149	5%
11	教育	136	5%
12	思う	132	4%
13	インフラ	119	4%
14	通信	114	4%
15	欲しい	108	4%
16	人:名詞	102	3%
17	交通機関	100	3%
18	地域	99	3%
19	基盤	97	3%
20	なる	87	3%
21	災害	85	3%
22	設備	84	3%
23	政治家	81	3%
24	環境	78	3%
25	重要	76	3%
26	国民	69	2%
27	対策	66	2%
28	ある:動詞	65	2%
29	子育て	62	2%
30	国	61	2%
31	税金	60	2%
32	かんがえる	53	2%
33	生活	52	2%
34	安全	51	2%
35	強化	51	2%
36	政治	51	2%
37	行政	51	2%
38	制度	49	2%
39	地方	49	2%
40	日本	49	2%
41	子供	47	2%
42	出来る	46	2%
43	交通	44	1%
44	医療	44	1%
45	増やす	44	1%
46	作る	44	1%
47	支援	42	1%
48	ある:連体詞	41	1%
49	公共	40	1%
50	維持	40	1%

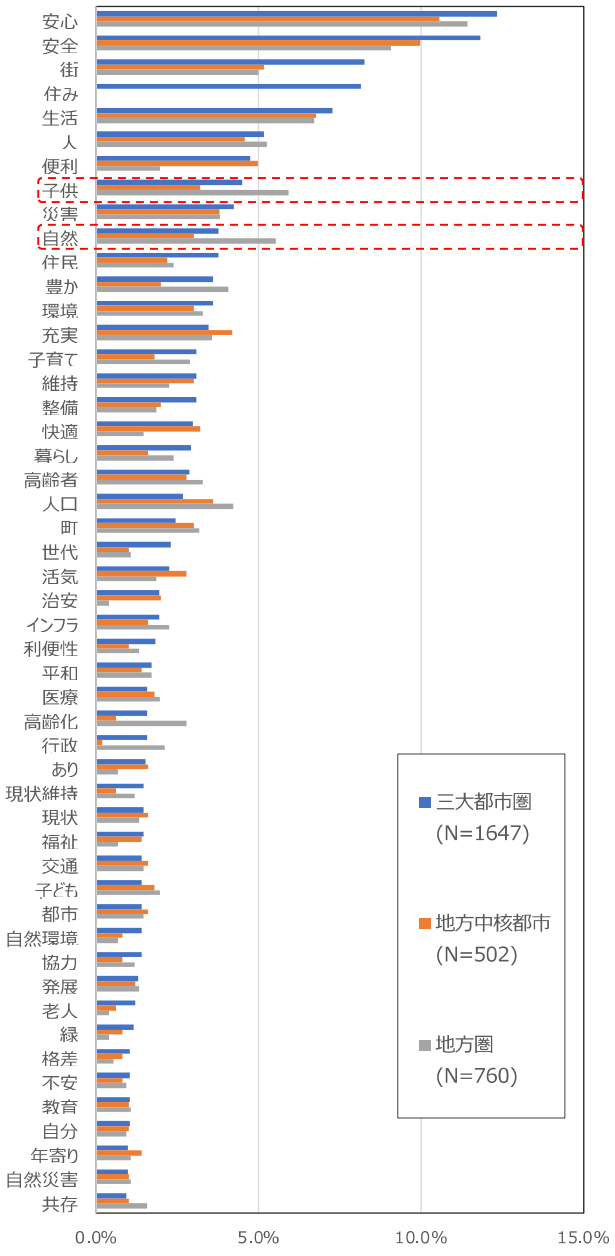
■将来に関する自由記述設問に関する属性分析

(1) 都市規模(三大都市圏・地方中核都市・地方圏)

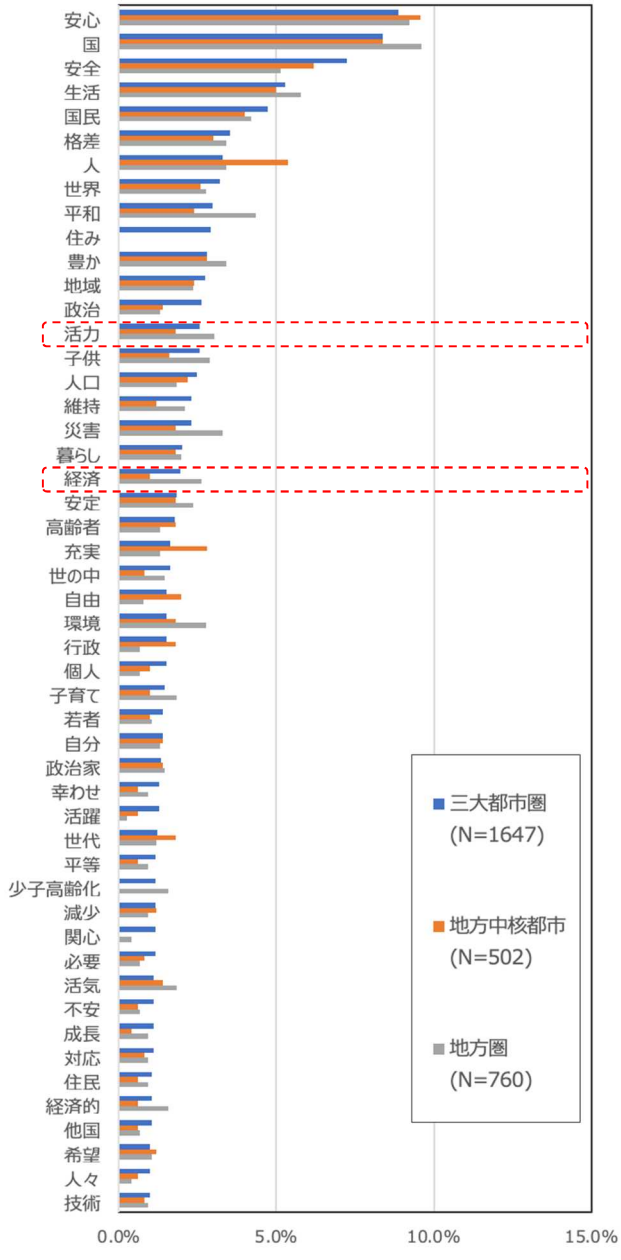
1) 将来(2050 年前後を想定)どのような社会になって欲しいか？

- 「住む地域」では,「子供」や「自然」が上位に,「日本全体」では,「活力」が上位に出現しており,「地域」では身近な住みやすさ,「日本全体」では, 経済や活力などのマクロ的な要素に関する記述が多い.
- 特に, 大都市よりも地方圏で,「子供」や「自然」が上位にくる傾向.

■あなたの住む地域



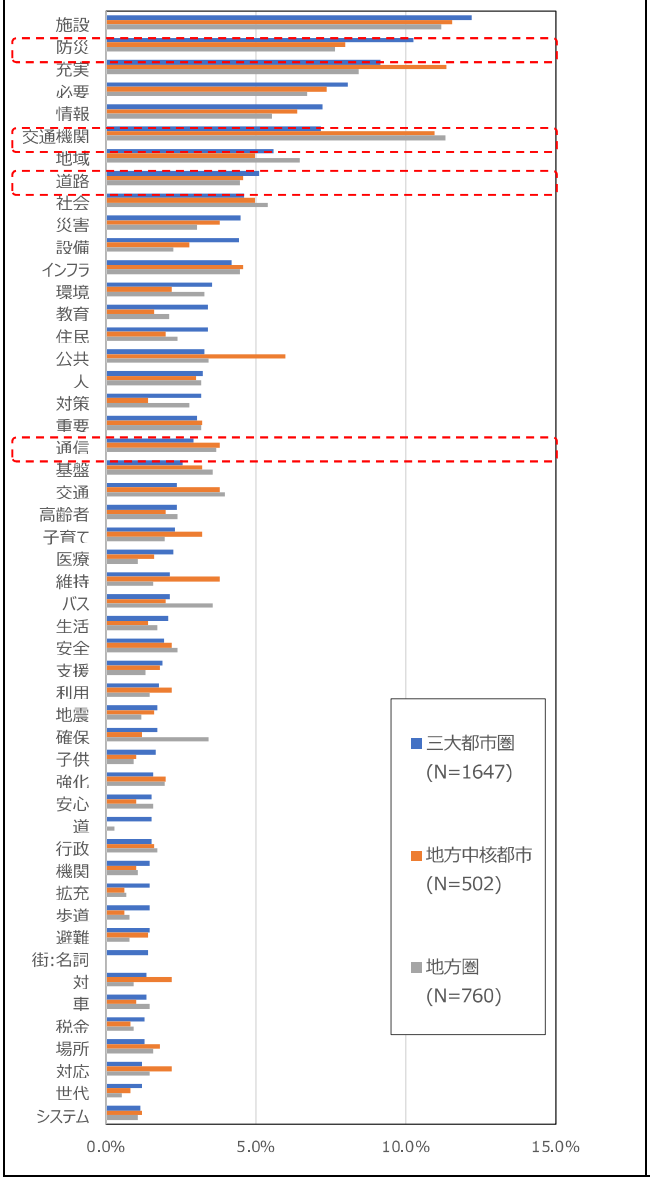
■日本



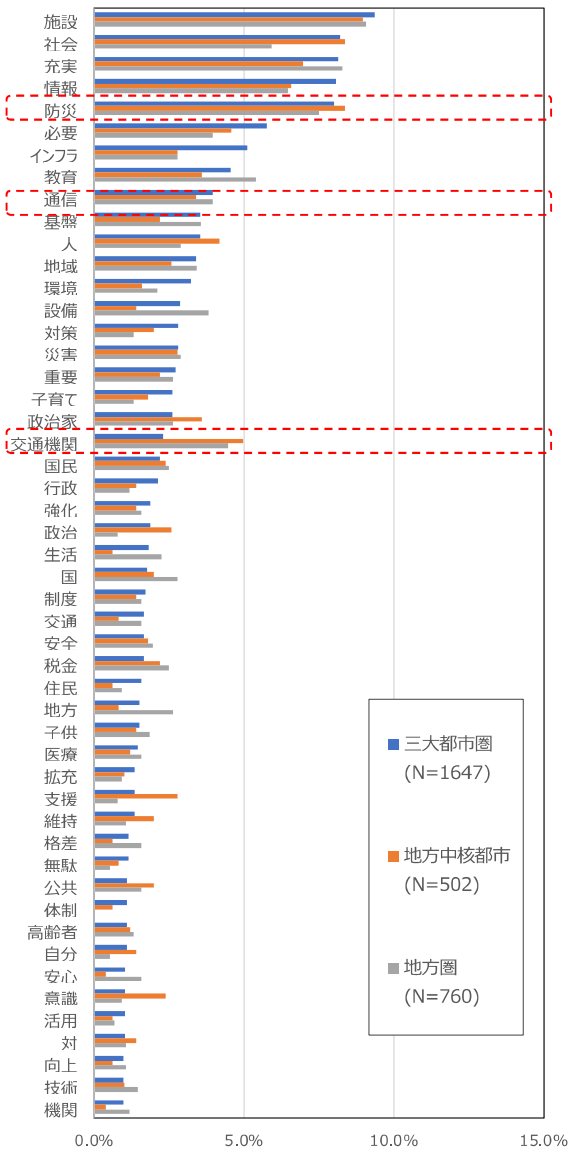
2) どのような社会基盤（例えば、防災施設や交通機関、情報通信施設など）の整備が重要か？

- 「防災」に関するキーワードが相対的に高い．
- 「あなたの住む地域」では，「交通機関」や「道路」などの交通インフラに関するキーワードが上位に出現
- 「交通機関」は，「地方中核都市」や「地方圏」など，大都市以外で発現割合が高い．

■あなたの住む地域



■日本

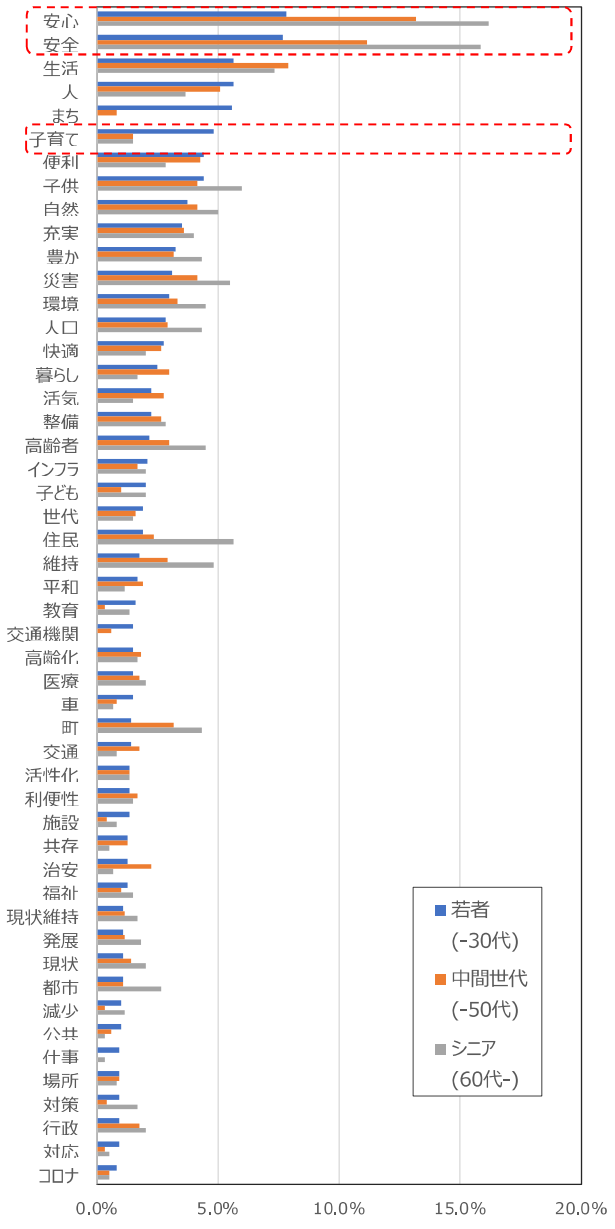


(2) 年代

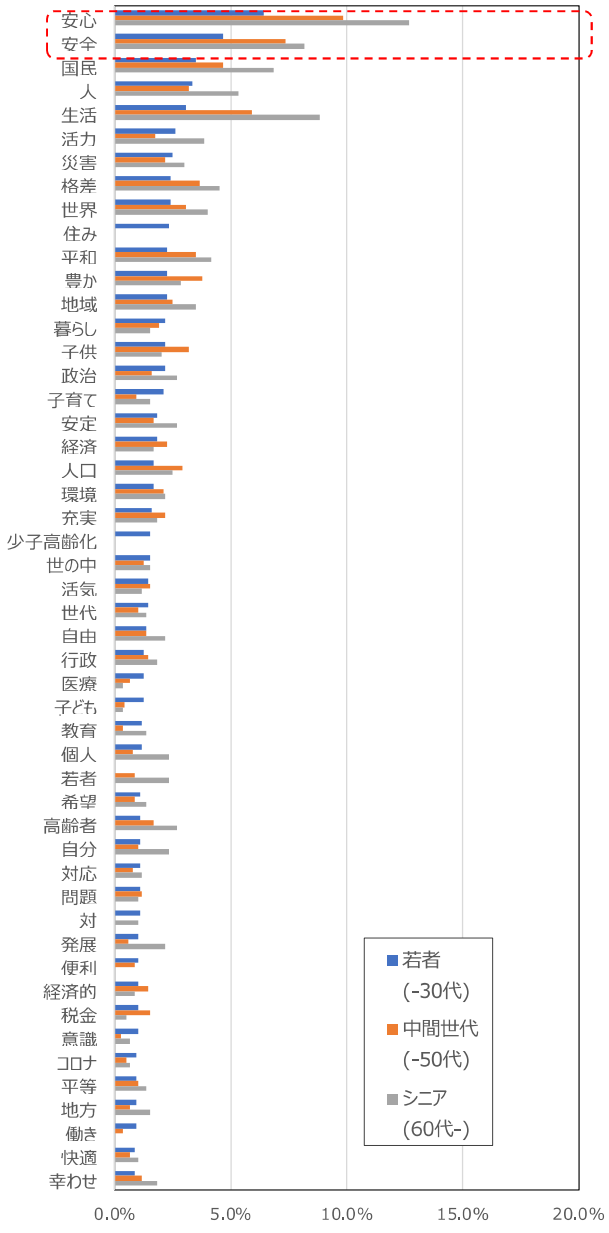
1) 将来(2050 年前後を想定)どのような社会になって欲しいか？

- 「安全」・「安心」の単語は，年齢層が上昇するに連れて，出現比率も上昇する．
- 「若者」が多いのは，「子育て」であった．(他の項目で突出して多いものはない．)

■あなたの住む地域



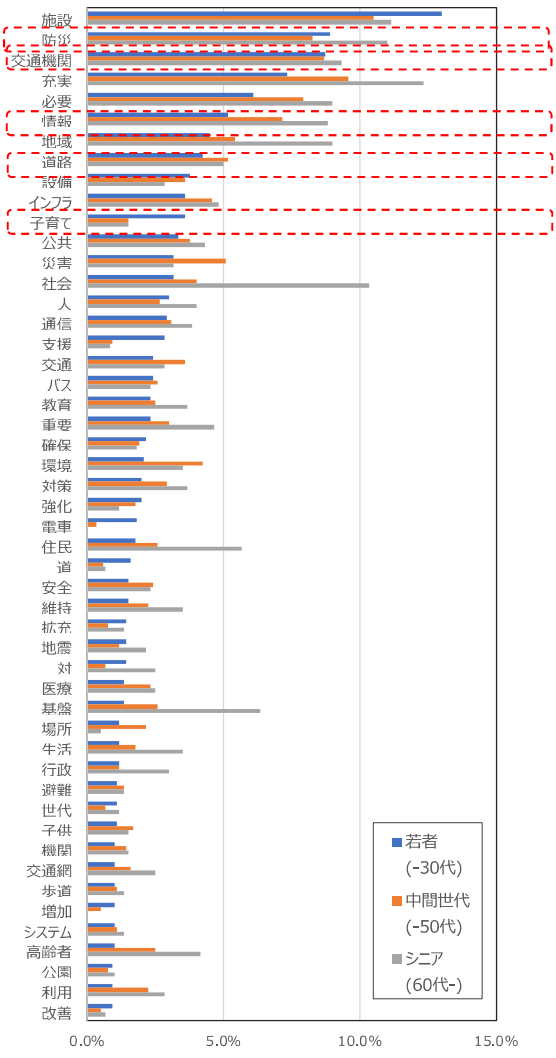
■日本



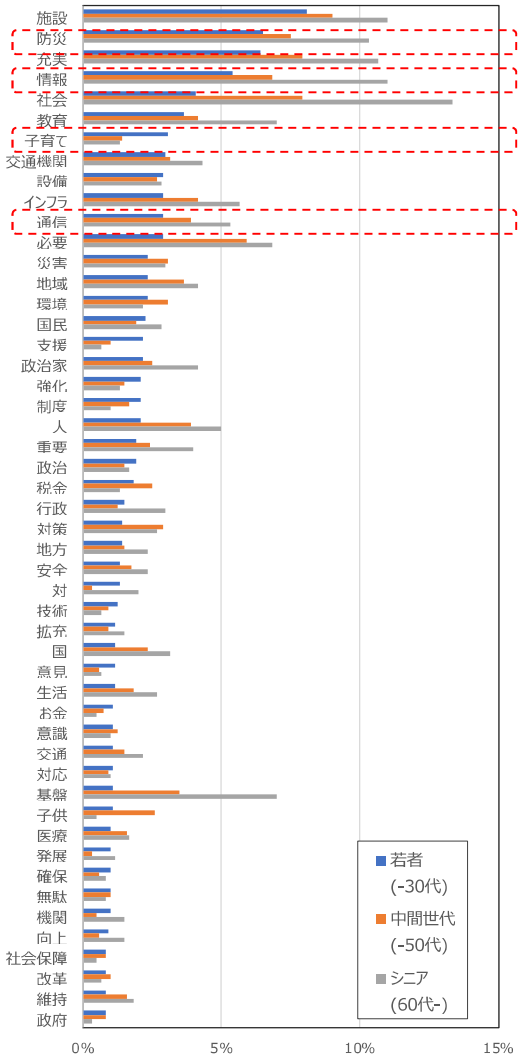
2) どのような社会基盤（例えば、防災施設や交通機関、情報通信施設など）の整備が重要か？

- 「防災」に関するキーワードが相対的に高い．
- 「あなたの住む地域」では，「交通機関」が上位に出現し，世代間の差はほとんど見られない．
- 「情報」や「通信」は，年齢層が高まるにつれて，出現比率も増加

■あなたの住む地域



■日本

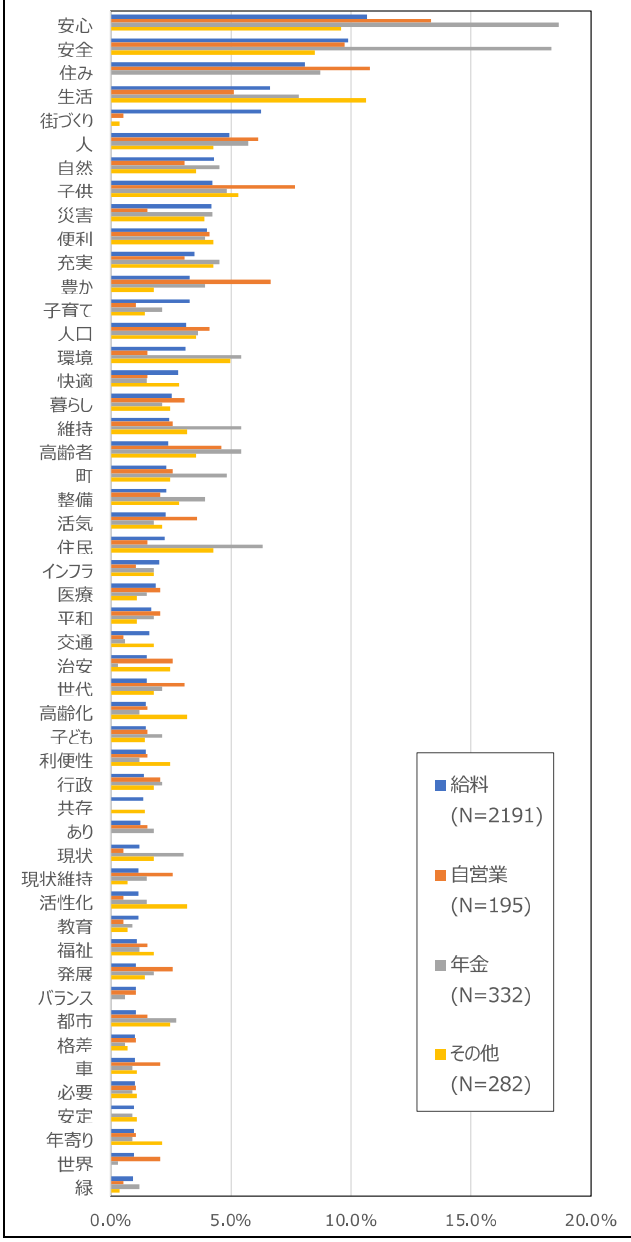


(3) 収入源(給料・自営業・年金・その他)

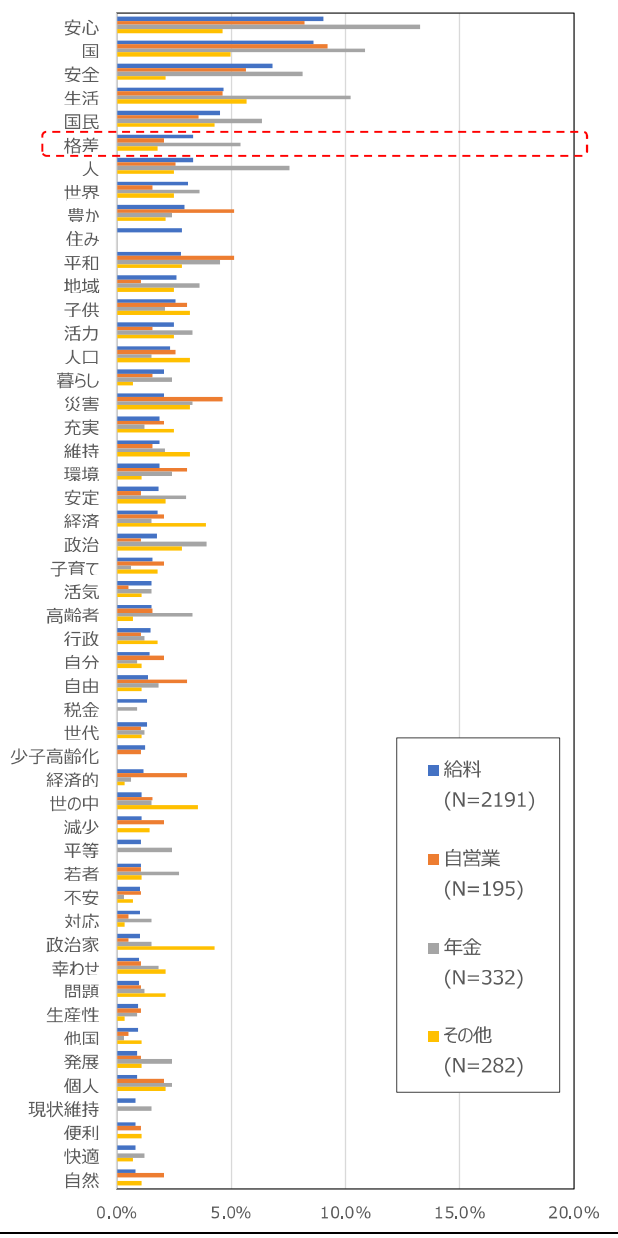
1) 将来(2050 年前後を想定)どのような社会になって欲しいか？

・「日本」について，「格差」というキーワードが出現

■あなたの住む地域



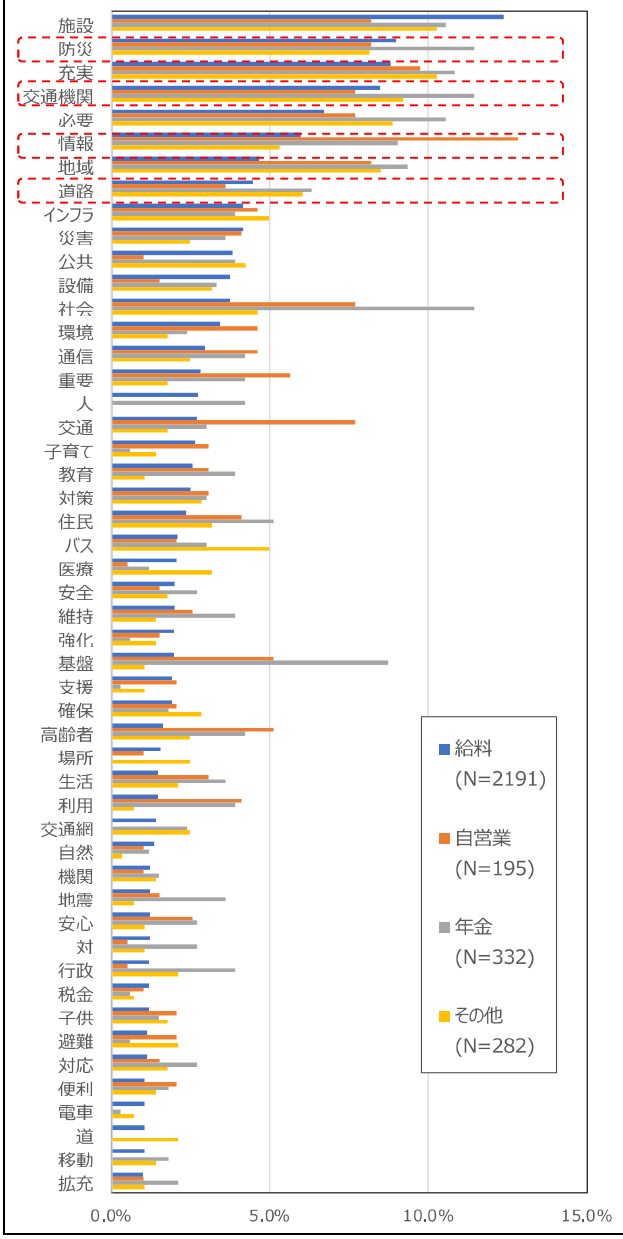
■日本



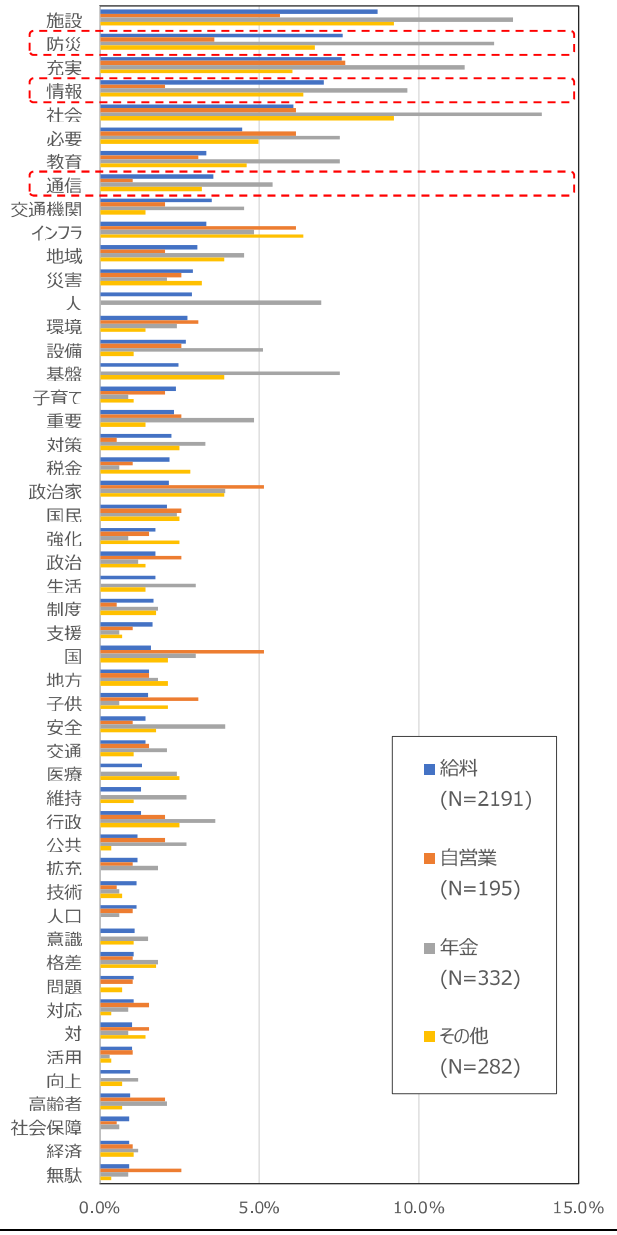
2) どのような社会基盤（例えば、防災施設や交通機関、情報通信施設など）の整備が重要か？

- 「防災」に関するキーワードが相対的に高い．特に「年金」を収入源とする人にその傾向が顕著
- 「あなたの住む地域」では，「交通機関」や「道路」などの交通インフラに関するキーワードが上位に出現

■あなたの住む地域



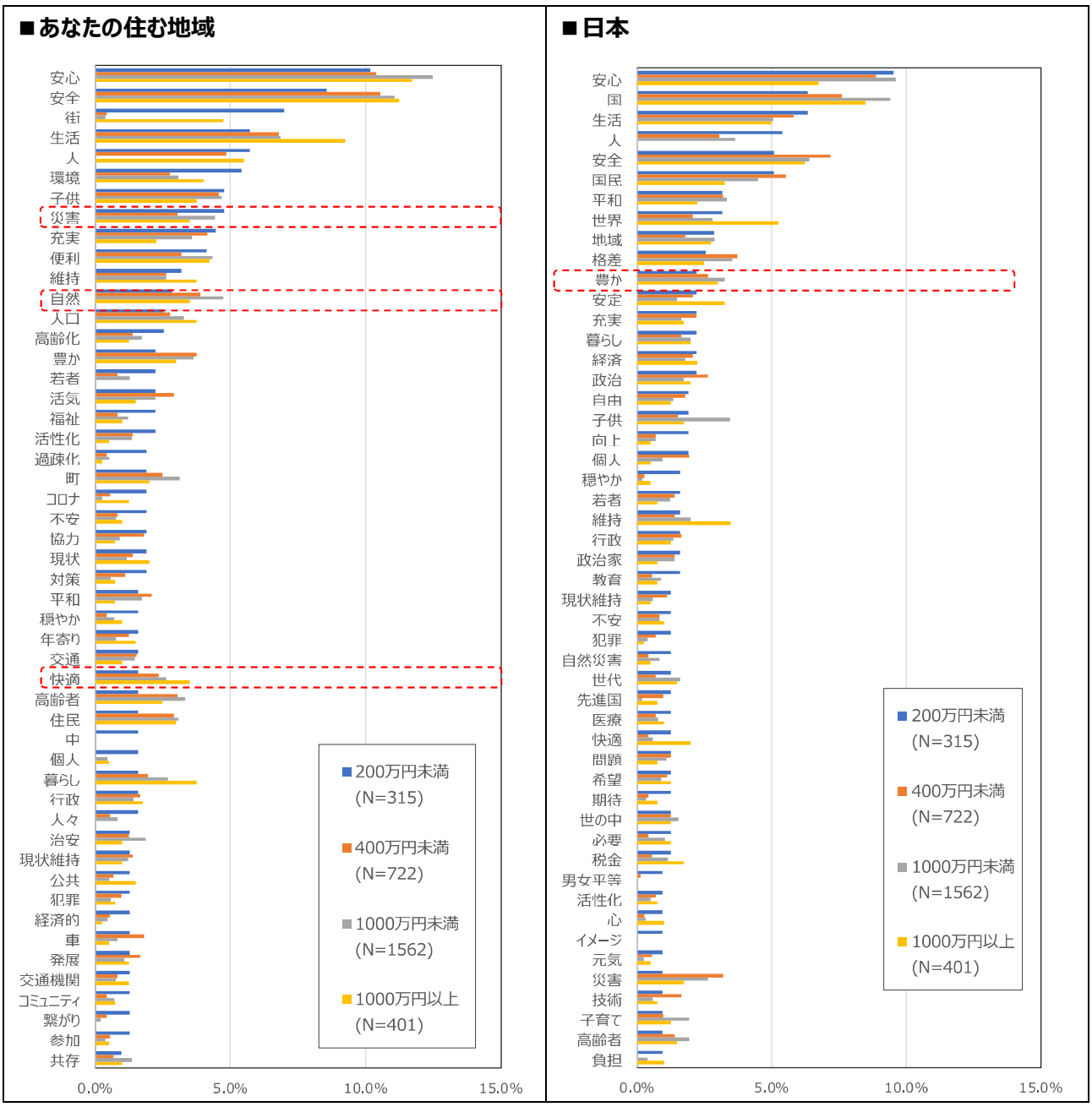
■日本



(4) 収入額

1) 将来(2050 年前後を想定)どのような社会になって欲しいか？

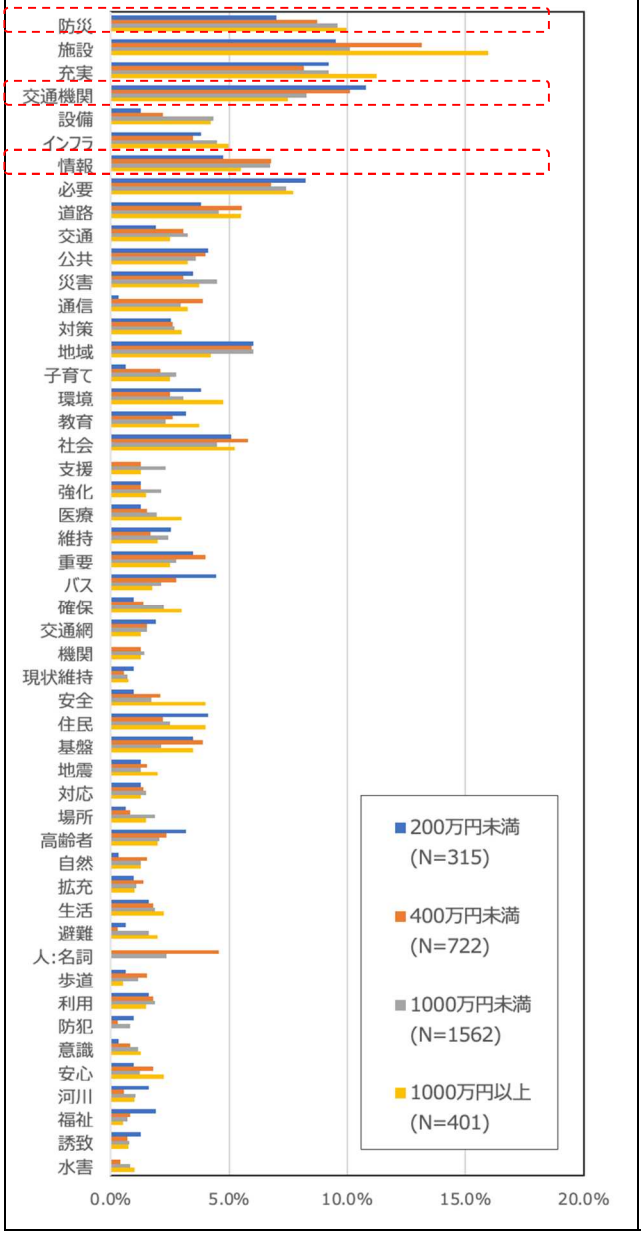
- 「あなたの住む地域」では,「自然」は収入額が増加すれば出現比率が上昇し,「災害」は収入額が増加すれば出現比率が下がる傾向.
- 「日本全体」で見ると「豊か」は, 収入額が増加すれば出現比率が上昇



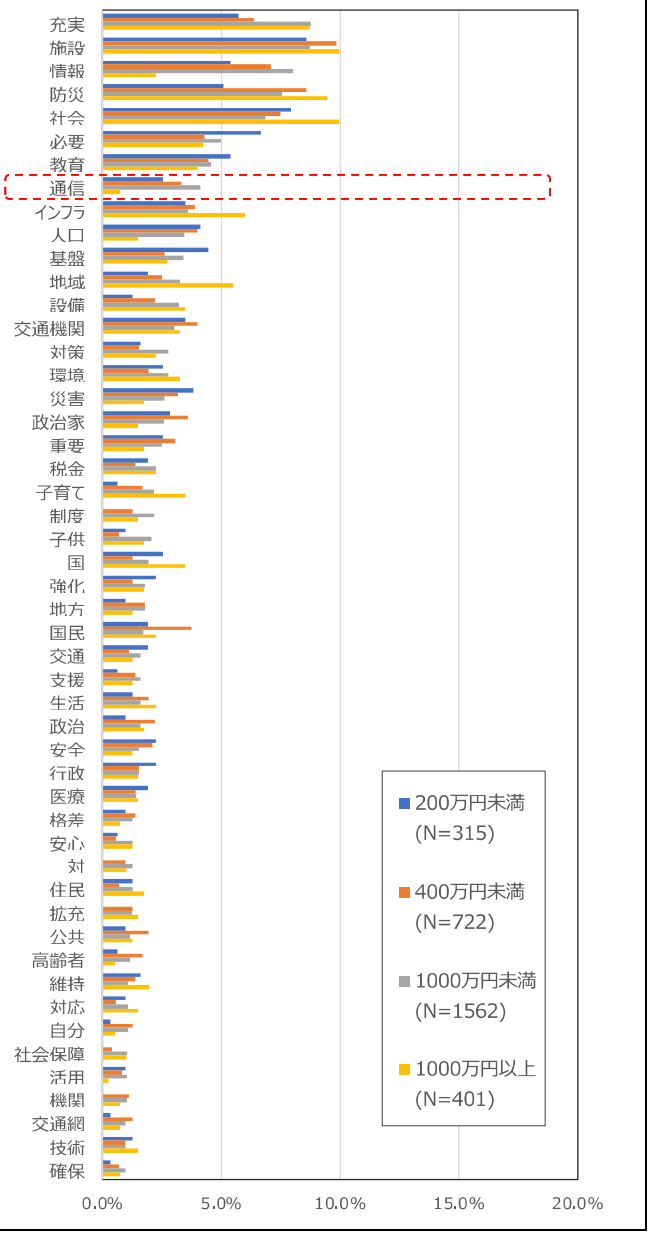
2) どのような社会基盤（例えば、防災施設や交通機関、情報通信施設など）の整備が重要か？

- 「防災」に関するキーワードが相対的に高い.
- 「あなたの住む地域」では,「交通機関」は, 収入額が増加すると出現比率が低下.
- 日本全体では,「通信」は収入額が増加すると出現比率が増加.

■あなたの住む地域



■日本

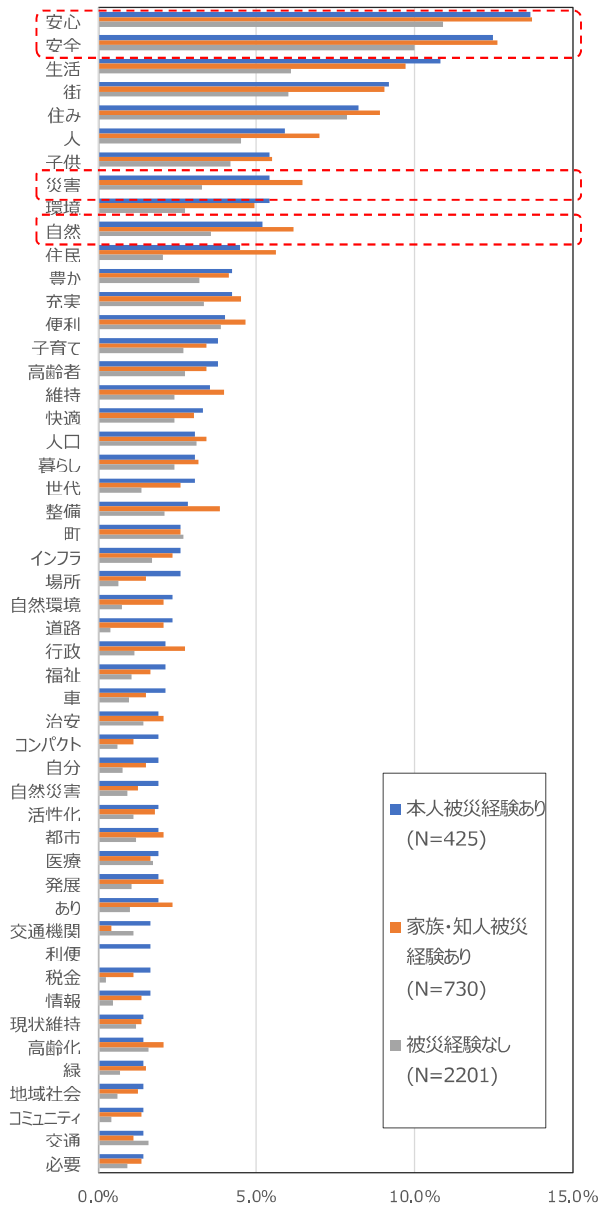


(5) 自然災害の被災の経験

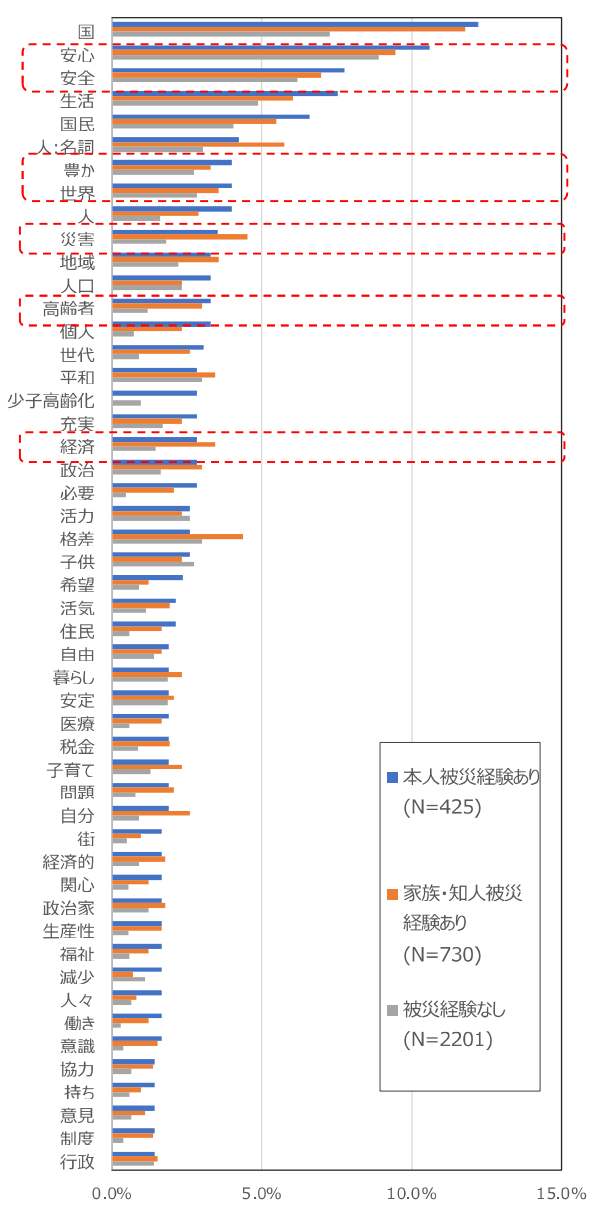
1) 将来(2050 年前後を想定)どのような社会になって欲しいか？

- 自身または家族・知人に被災のある経験の方は，「安全」・「安心」・「災害」などの災害に関連するキーワードや，「自然」などのキーワードの出現比率が高い．(住む地域，日本とも)
- 「日本全体」では，「経済」，「高齢者」も同様の傾向

■あなたの住む地域



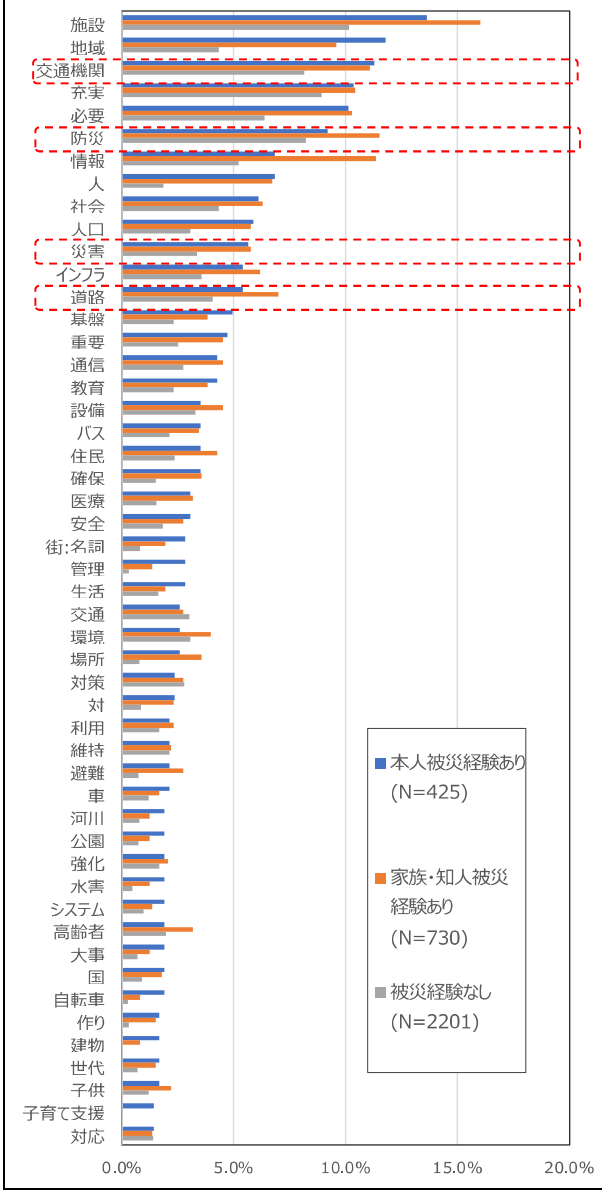
■日本



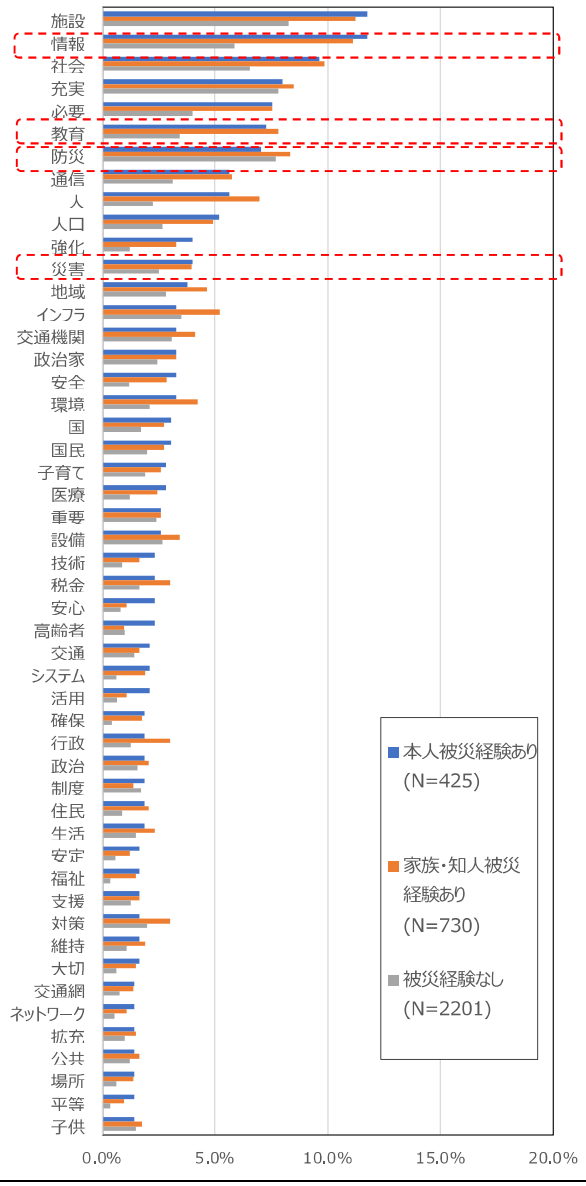
2) どのような社会基盤（例えば、防災施設や交通機関、情報通信施設など）の整備が重要か？

- 災害に遭遇した経験のある方は，「防災」や「災害」など，災害に関係するキーワードの他に，「あなたの住む地域」では，「交通機関」や「道路」などのキーワードの出現頻度が高い．
- 「日本全体」では，「教育」というキーワードも相対的に上位に出現している．

■あなたの住む地域



■日本



【参考】 日本のなるべき姿として「衰退した日本」を選択した者の自由記述回答に関する考察

＜主旨＞

日本のなるべき姿を「衰退した日本」を選択することは、通常では考えにくい。どのような理由からそのような選択となったかを分析するため、日本のなるべき姿として「衰退した日本」を選択した者の自由記述回答を確認した。

＜自由記述回答の類型化＞

- 日本のなるべき姿に関する設問(Q36-2)で「衰退する日本」を選んだ者は 474 名(15.8%)であった。
- 上記 474 名の Q38「日本が将来(2050 年前後を想定)どのような社会になって欲しいですか？【自由記述】」に対する回答を大別すると以下の5つとなる。

1) 「わからない」などの回答 【15%程度】
「わからない」、「特になし」 など

2) ネガティブで諦めのにじむ回答 【10%程度】
「その頃には生きていない」、「もう手遅れ」、「衰退、人口減少、財政破綻」、「政治離れによる混沌の世界」、「どうあがいたって結局、少子高齢化と衰退は避けられない。あるがままに受け入れたほうがいい。」 など

3) ポジティブだが、衰退-成長以外の価値観をより重視していると思われる回答 【60%程度】
「格差縮小の社会」、「安心、安全な自由な国」、「福祉厚生に不安のない社会」、「幸せな日本」、「若い人も高齢の方も住みやすい社会」、「平和な社会」、「都会田舎関わらず地域格差なく暮らせる、柔軟性のある社会」、「明るい社会」、「地元住民通しで助け合える社会」、「自然と共存」 など

4) 日本のなるべき姿に関する設問(Q36-2)と方向性が逆の回答 【5%程度】
「経済大国」、「成長する国」、「経済が上向きになってほしい」、「かつての経済力が強かった日本」 など

5) その他 【10%程度】
「充実した社会」、「豊かな国に」、「活気ある日本」、「強い日本」、「現状維持」 など

＜まとめ＞

- 諦めの感情から Q36-2 で「衰退する日本」を選択したものとの推測もあったが、その割合は 1 割程度であり、諦めが支配的な要因であるとは言い難い。
- 上記類型のなかで最も割合が多いのは、「3)ポジティブだが、衰退-成長以外の価値観をより重視していると思われる回答」である。Q36-2 で「衰退する日本」を選択した者の中には、経済的成長以外の価値観を重視している者が多いと推測される。
- 4)については、Q36-2「将来の日本がなるべきと思われる姿はどれですか」と Q38「日本が将来(2050 年前後を想定)どのような社会になって欲しいですか？」では設問の言い回しが僅かに異なり、「なるべき日本」と「なって欲しい日本」で別の考えを持っている可能性がある。
- 本考察では、日本の将来に対し、「強い諦めの感情を持つ者」や「経済的成長より他の価値観(格差の是正、安全・安心、福祉の充実など)を重視していると思われる者」が一定数いることは明らかとなったが、Q36-2 で「衰退する日本」を選択した理由を特定するには至らなかった。

属性（フェイスシート）

Q39.性別

（%）

	n	男性	女性
今回	3000	50.0	50.0
前回	3000	50.0	50.0

Q40.年齢

（%）

	n	18～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上
今回	3000	0.8	6.0	13.2	8.9	11.1	9.4	10.6	11.1	8.9	8.8	6.2	4.0	0.9
前回	3000	0.4	5.7	13.9	8.6	11.4	9.6	10.4	11.4	8.6	8.7	7.4	3.9	

Q41.職業

（%）

	n	会社員・会社役員	公務員・団体職員	自営業	自由業	専業主婦（夫）	学生	パート・アルバイト	その他	無職
今回	3000	44.5	7.7	5.4	1.9	12.9	3.2	13.8	1.3	9.4
前回	3000	41.0	6.8	6.1	2.8	15.7	2.3	13.9	1.1	10.2

Q42.世帯構成

（%）

	n	1人世帯	1世代世帯（夫婦のみ）	2世代世帯（親と子）	3世代世帯（親と子と孫）	その他	わからない
今回	3000	21.4	24.6	47.1	5.2	0.8	0.9
前回	3000	21.0	22.4	47.9	6.7	0.8	1.1

Q43.居住地域の種別

（%）

	n	三大都市圏の政令指定都市（さいたま市・千葉市・横浜市・川崎市・相模原市・名古屋市・京都市・大阪市・堺市・神戸市）及び東京23区	三大都市圏の県庁所在地及び人口30万人以上の都市（所沢市・四日市市・大津市など）	三大都市圏の上記以外の地域	地方中枢都市（札幌市・仙台市・広島市・福岡市・北九州市）	地方中核都市人口30万人以上の都市及び県庁所在地（旭川市・いわき市・浜松市・福山市など）	地方圏のその他の市	地方圏の町村	その他	わからない
今回	3000	28.2	10.1	16.6	8.5	8.3	18.6	6.7	0.6	2.5
前回	3000	26.1	6.5	15.1	9.1	9.0	24.4	6.8	0.2	2.9

Q44.居住年数

（%）

	n	1年未満	1年～2年未満	2年～5年未満	5年～10年未満	10年～15年未満	15年～20年未満	20年～30年未満	30年以上
今回	3000	6.2	6.6	15.3	13.4	10.3	10.6	17.3	20.3
前回	3000	5.8	6.3	12.2	14.1	12.0	10.3	17.2	22.1

Q45.住宅の状況

（%）

	n	持ち家（一戸建て）	持ち家（マンションなど）	公営（都道府県市町村営）住宅	公団（公社）住宅	給与住宅（社宅・公務員住宅）	民間の賃貸住宅（アパート・マンションなど）	借間	その他
今回	3000	50.8	15.9	1.0	1.0	3.0	26.9	0.9	0.4
前回	3000	51.9	14.8	1.5	2.4	2.3	25.8	1.0	0.4

Q46.日常生活での主な移動手段

（%）

	n	電車	バス	自家用車	バイク	自転車	徒歩	その他
今回	3000	23.1	3.6	49.4	1.7	11.8	9.9	0.6
前回	3000	22.0	3.5	50.0	1.8	13.4	9.2	0.2

Q47.自動車の運転頻度

(%)

	n	ほぼ毎日運転する	休日のみ運転する(週に1～2回程度)	あまり運転しない(年に数回程度)	全く運転しない(免許をもっていないなど)	[運転する計]	[運転しない計]
今回	3000	42.6	22.3	14.2	20.9	64.9	35.1
前回	3000	44.7	20.4	12.2	22.7	65.1	34.9

Q48.主な収入源

(%)

	n	給料	自営での収入	年金	その他
今回	3000	73.0	6.5	11.1	9.4
前回	3000	68.9	7.8	12.2	11.1

Q49.世帯年収(税込)

(%)

	n	～99万円	100万～199万円	200万～299万円	300万～399万円	400万～499万円	500万～599万円	600万～699万円	700万～799万円	800万～899万円	900万～999万円	1000万～1199万円	1200万～1399万円	1400万～1599万円	1600万～1799万円	1800万～1999万円	2000万円以上
今回	3000	4.2	6.3	10.1	14.0	13.4	11.8	8.9	7.6	5.9	4.5	5.7	2.8	2.1	1.0	0.4	1.5
前回	3000	5.4	5.9	11.2	15.5	13.7	11.5	7.8	7.8	5.6	4.3	4.8	2.4	1.3	0.7	0.5	1.6

Q50-1.主な情報入手先(利用するもの)

(%)

	n	新聞	テレビ	インターネットニュース	インターネットWebサイト	SNS	ラジオ	雑誌	その他
今回	3000	39.9	84.0	88.5	63.9	50.1	21.6	20.3	0.7
前回	3000	53.4	88.0	86.9	61.2	聴取なし	25.4	25.5	0.5

Q50-2.主な情報入手先(最もよく利用)

(%)

	n	新聞	テレビ	インターネットニュース	インターネットWebサイト	SNS	ラジオ	雑誌	その他
今回	3000	7.3	34.3	31.8	13.1	11.9	1.2	0.2	0.3
前回	3000	10.3	39.1	33.9	14.7	聴取なし	1.4	0.3	0.4

Q51.災害体験

今回 (%)

	n	災害に遭ったことがある	災害に遭ったことはない
自分自身	3000	14.2	85.8
家族	3000	14.7	85.3
親戚	3000	13.8	86.2
身近な友人	3000	14.2	85.8

前回 (%)

	n	災害に遭ったことがある	災害に遭ったことはない
自分自身	3000	15.1	84.9
家族	3000	15.5	84.5
親戚	3000	15.3	84.7
身近な友人	3000	15.0	85.0

Q51.災害に遭った時期

今回 (%)

	n	1年前	2～4年前	5～6年前(熊本含)	7～9年前	10～15年前(東北含)	16～19年前(新潟含)	20～22年前	23年～29年前(兵庫含)	30年～39年前	40年以上前
自分自身	423	2.4	23.4	9.2	0.9	33.1	2.4	5.4	12.8	2.8	7.6
家族	440	2.7	19.1	9.5	1.8	34.3	2.7	5.5	15.5	3.9	5.0
親戚	411	3.6	15.6	7.8	1.2	39.4	2.2	5.6	14.6	4.4	5.6
身近な友人	424	5.2	21.0	9.7	1.4	40.3	1.9	3.5	12.5	2.4	2.1

前回 (%)

	n	1年前(熊本含)	2～4年前	5～6年前(東北含)	7～9年前	10～15年前(新潟含)	16～19年前	20～22年前(兵庫含)	23年～29年前	30年～39年前	40年以上前
自分自身	452	9.1	4.9	29.0	2.9	13.7	2.4	19.5	6.0	4.4	8.2
家族	463	11.7	5.0	31.5	3.2	11.0	1.5	20.3	5.6	3.9	6.3
親戚	459	16.1	3.9	35.9	2.8	9.6	0.2	19.6	3.7	3.5	4.6
身近な友人	450	18.9	5.6	40.7	2.2	8.9	0.2	17.3	3.6	1.6	1.1